自己点検・評価報告書

令和２年１０月

苫小牧工業高等専門学校

は　じ　め　に

本校では、平成６、１２、１８及び２４年度に、工学教育に関するその折々の社会的動向を背景として、学校教育法第１０９条第１項に基づいた自己点検評価を、第三者による外部評価をも含めて実施し、その結果を公表して来ました。令和元年度には、これらの４回に引き続き５回目となる自己点検・評価を実施し、常設の運営諮問会議において外部評価委員からの意見及び提言を受け、それらに対する本校としての対応も含めて、この度『自己点検書（本文編）及び（資料編）』並びに『外部評価』を編纂しました。今回編纂した報告書は、令和３年度に受審予定の機関別認証評価に備えた位置づけとして実施した自己点検・評価に関するもので、本校のこの６年間の教育・研究、管理・運営、学生支援、地域貢献等々について機関別認証評価基準ごとの詳細な点検・評価が行われました。

本校では、平成２１年度に「苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則」を定めており、その中で実施すべき点検・評価を規定しております。具体的には、今回の自己点検及び評価、機関別認証評価受審のための点検及び評価、本校運営諮問会議開催のための点検及び評価等があります。これらの点検・評価を効率的に実施することにより、学校改善・改革のためのPDCAサイクルを運用しております。今回の自己点検・評価の結果を受けて、今年度は来年度に受審する機関別認証評価に向けての学校改善活動のための１年となります。

ただし、感染症の影響もあり外部委員への意見聴取に遅れが生じました。さらに、前期期間中は感染症対策へ多くの時間を要したことから、報告書の取り纏め作業、学校改善活動についても対応に遅れが生じている状況ではありますが、後期期間を中心として早急に取り組む所存でございます。

評価文化の醸成が謳われて久しくなりますが、本校のこれまでの取り組み状況を鑑みますと、すでに定着している状況ではないかと思います。このような各種の点検・評価の実施には、蓄積した膨大な資料の取り纏めの作業を始めとして、多くの労力そして時間を要する点検業務が伴うことから、より効率的な体制を構築することが望まれるところです。

今回の自己点検・評価及び報告書の編纂に関わった関係教職員の労苦に感謝を申し上げると共に、大部な報告書に目を通され貴重なご意見・ご提言をいただきました外部評価委員の皆様にも厚くお礼申し上げます。

本校教職員には、本校の全ての活動を活性化させるため、本報告書を最大限に活用してくれることを祈念するところです。

苫小牧工業高等専門学校

校長　小　林　幸　徳

目　　次

第１部『自己点検・評価』

１．自己点検書（本文編）

Ⅰ　苫小牧工業高等専門学校の現況及び特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　003

Ⅱ　目的・・　005

Ⅲ　基準毎の自己評価

基準１　教育の内部質保証システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　007

基準２　教育組織及び教員・教育支援者等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　023

基準３　学習環境及び学生支援等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　036

基準４　財務基盤及び管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　049

基準５　準学士課程の教育課程・教育方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　060

基準６　準学士課程の学生の受入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　070

基準７　準学士課程の学習・教育の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　073

基準８　専攻科課程の教育活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　076

基準９　国際交流活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　087

基準 10　研究活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　089

基準 11　地域貢献活動等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　094

２．自己点検書（資料編）

基準１　教育の内部質保証システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　099

基準２　教育組織及び教員・教育支援者等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　138

基準３　学習環境及び学生支援等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　157

基準４　財務基盤及び管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　201

基準５　準学士課程の教育課程・教育方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　231

基準６　準学士課程の学生の受入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　252

基準７　準学士課程の学習・教育の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　254

基準８　専攻科課程の教育活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　256

基準９　国際交流活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　264

基準 10　研究活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　270

基準 11　地域貢献活動等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　276

第２部『外部評価』

令和元年度苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議日程等・・・・・・・・・・・・　282
苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・　283
令和元年度運営諮問会議資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　284
運営諮問会議委員からの評価・提言等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　291
苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則・・・・・・・・・・・・・　295
苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・　297

※令和元年度運営諮問会議議事要旨，苫小牧工業高等専門学校出席者名簿については，
感染症の影響により，書面審議となったため，資料なし

第１部『自己点検・評価』

自己点検書（本文編）

自己点検書（資料編）

自　己　点　検　書
（本文編）

苫小牧工業高等専門学校

Ⅰ　苫小牧工業高等専門学校の現況及び特徴

(1)　現況	
1．　高等専門学校名	苫小牧工業高等専門学校
2．　所在地	北海道苫小牧市字錦岡 443 番地
3．　学科等の構成	準学士課程：創造工学科（2016 年度入学生から） 機械工学科、電気電子工学科、情報工学科、物質工学科、環境都市工学科 （2015 年度入学生まで） 専攻科課程：電子・生産システム工学専攻、環境システム工学専攻
4．　認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：電子・生産システム工学専攻、環境システム工学専攻） JABEE 認定プログラム（専攻名：「環境・生産システム工学」教育プログラム　） その他（なし）
5．　学生数及び教員数	学生数：1,025 人　教員数：専任教員　76 人　助手数：0 人

(2)　特徴

苫小牧工業高等専門学校（以下、苫小牧高専あるいは本校と略す）は、昭和 39 年 4 月に、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を目的とした国立工業高等専門学校の第 3 期校として設置された。

設立時は本科のみで、機械工学科、電気工学科、工業化学科の 3 学科（学生総定員 600 名）構成であったが、昭和 44 年 4 月に土木工学科、平成 2 年 4 月に情報工学科が設置され、専門学科 5 学科（学生総定員 1,000 名）構成となった。以後、時代の要請に応えるべく、平成 6 年 6 月には工業化学科から物質工学科への改組、平成 7 年 4 月には土木工学科から環境都市工学科への改組が行われ、平成 12 年 4 月には電気工学科から電気電子工学科への学科名称変更が行われた。

また、平成 15 年 4 月には、「より高度な専門知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成すること」を目的として、電子・生産システム工学専攻および環境システム工学専攻の 2 専攻からなる専攻科（学生総定員 40 名）が設置された。平成 27 年度からは、（独）大学評価・学位授与機構の認定を受けた特例適用専攻科となり、特例適用専攻科の修了見込み者に対する学士の学位の授与に係る審査が可能となった。

さらに、平成 28 年度からは、本科について、それまでの 5 学科体制（機械工学科、電気電子工学科、情報工学科、物質工学科、環境都市工学科）から、1 学科 5 系制への改組を行った。現在は、創造工学科（機械系、都市・環境系、応用化学・生物系、電気電子系、情報科学・工学系）の 1 学科 5 系体制（学生総定員 1,000 名）となり、第 4 学年まで学年進行している。

本校は、開校以来、「誠実な心情、友愛の精神、不屈の気力」という信条のもとに、一般科目と専門科目をくさび型に配置して互いに有機的に関連させた教育課程によって、専門基礎を重視した教育、実験・実習・演習等を重視した実践的・創造的教育を実施している。また、平成 16 年 4 月には、前年の専攻科開設を受けて、日本技術者教育認定機構（以下 JABEE と略す）の基準に準拠した「環境・生産システム工学」教育プログラムを設置した。この教育プログラムは、本科 5 学科の 4・5 年生および専攻科 2 専攻の教育課程から構成され、「「専門分野横断型」の教育を通して複数の領域の知識と技術を持ち合わせ、複合領域に関する問題に対して創造性を発揮し解決できる実践的技術者を育成すること」を目的としている。平成 18 年 5 月には工学（融合複合・新領域）関連分野の教育プログラムとして JABEE による認定を受け、平成 22 年度、平成 28 年度には継続認定を受けている。

さらに、平成 17 年度には「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代 GP）に採択された「学生参画型産学連携推進プログラム」を立ち上げるとともに、他高専と合同の現代 GP「創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発」、「高専間連携を活用した体験型環境教育の推進」に参画、平成 19 年度には「実践的テーマによる国際産学連携 CE の推進」プログラムが文部科学省の「国際化推進プログラム」に採択されるなど、さらなる教育改善に努めている。

近年では、平成 27 年度の「北海道における雇用創出・若者定着に係る協定」締結に伴う文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加や、平成 29 年度の北海道警察サイバーセキュリティ対策本部との「サイバーセキュリティの分野における人材の育成に関する協定」締結とそれに関連した各種事業、平成 30 年度の国立高等専門学校機構「KOSEN4.0 イニシアティブ」への「“とまなか”で実施するハイブリッド型イノベーション人材の育成」事業の採択など、新たな人材育成事業にも力を入れている。

地域社会・地域産業との交流・連携に関しては、地域共同研究センターを設置し、共同研究、技術開発相談、研究生・科目等履修生制度、公開講座、小中学校への出前授業等の活動を通じ、地元産業界による苫小牧高専協力会とも連携して、その促進を図っている。最近では、上記「KOSEN4.0 イニシアティブ」採択事業において、平成 30 年 10 月に、苫小牧高専サテライト「C-base」を苫小牧経済センタービル内に開設している。また、地域共同研究センターの活動は、その設備の利用と併せて、本科卒業研究・専攻科特別研究等、本校の教育面に対する直接・間接的な支援も行っている。

他教育機関との連携に関しては、国内については、北海道大学工学部・農学部、室蘭工業大学との単位互換協定、北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学等との学術交流協定、海外については、EIT ホークスベイ校（ニュージーランド)、THEi（香港)、モンゴル工業技術大学（モンゴル)、カセサート大学（タイ）との学術交流協定を結んでいる。

海外の教育機関との学術交流協定では、EIT ホークスベイ校、THEi での学生の語学研修制度、THEi、カセサート大学での短期インターンシップ（派遣および受け入れ）が設けられており、本科・専攻科の全学年を対象とした英語統一テストの実施と併せて、国際社会に対応できるコミュニケーション基礎能力育成の一助となっている。

また、学級担任によるクラス指導、定員総数 373 名（現状は男子学生 313 名、女子学生 60 名であるが、女子寮拡張に伴い、令和 2 年度より女子学生の定員が 79 名となる）の学生寮における各種指導・支援、全員顧問制による課外クラブ活動支援等、人間性涵養に関する教育活動も活発に行っている。

Ⅱ　目的

１．目的

準学士課程（本科）

本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（苫小牧工業高等専門学校学則第 1 条）

専攻科課程

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（苫小牧工業高等専門学校学則第 56 条）

２．学科等の目的

旧 5 学科の目的の教育上の目的

(1) 機械工学科

機械工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、機械、エネルギー、環境などの技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った人材を育成する。

(2) 電気電子工学科

電気電子工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報・通信などの技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った人材を育成する。

(3) 情報工学科

情報工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの情報技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った学生を育てる。

(4) 物質工学科

物質工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、物質の合成、物性および解析などの物質工学に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った専門技術者を育成する。

(5) 環境都市工学科

環境都市工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、自然と調和した社会基盤整備に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った人材を育成する。

（苫小牧工業高等専門学校学則第 7 条の 2 及び別表第 1（平成 26 年 4 月 1 日改定版））

創造工学科の教育上の目的

創造工学科は、工学分野共通の基礎を教育した上で、豊かで安全な未来を創造するための核となる専門分野とその周辺分野の知識と技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性及び広い視野をもった人材を育成する。

（苫小牧工業高等専門学校学則第 7 条の 2 及び別表第 1）

各専攻の教育上の目的

(1) 電子・生産システム工学専攻

準学士課程で修得した機械・電気電子・情報工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、「ものづくり」の基礎となる幅広い分野の実践的・複合的能力を育成する。

(2) 環境システム工学専攻

準学士課程で修得した物質工学・環境都市工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、素材・材料、生物機能、社会基盤に関する分野の実践的・複合的能力を育成する。

（苫小牧工業高等専門学校学則第 57 条の 2 及び別表第 4）

３．学習目標

準学士課程（本科）

1. 人間性：正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。
2. 実践性：創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。
3. 国際性：世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。

専攻科課程

1. 人間性：正課、校外活動等を通して、豊かな人間性と教養および広い視野を身につける。
2. 創造性：複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける。
3. 国際性：グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につける。

基準１　教育の内部質保証システム

評価の視点

【重点評価項目】

１－１　教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第 109 条第１項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。

【重点評価項目】

観点１－１－①　教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。

【留意点】

○　教育の活動を中心とした学校の教育研究活動の総合的な状況についての自己点検・評価の実施方針、実施体制、実施項目を分析するための観点であり、重点評価項目として位置付けている。（改善への取組については１－１－④で分析する。）

○　定期的に行うということは、７年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。

※　「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。

○　実施方針とは、趣旨、実施時期、実施方法、評価結果の外部検証等が定められている学校内の規定を想定している。

○　実施体制には、委員会や担当部署のほか、自己点検・評価における責任の所在を明記していること。なお、実施体制の「組織図」等があれば提示すること。

○　自己点検・評価の基準・項目には、機構の高等専門学校評価基準を活用することや、必要に応じて独自の評価の項目を設定している場合も想定される。

○　実施体制、評価の基準・項目等は、実施方針の中で一体的に策定している場合も想定される。

関係法令	(法)第 109 条　(施)第 166 条　(設)第 2 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1)　学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇実施の方針が明示されている規程等** 資料１－１－①－（１）－１(p.1) 「自己点検・評価を実施するための方針を明記した資料」 資料１－１－①－（１）－２(p.2) 「自己点検・評価を実施するための具体的な方針を明記した資料」 資料１－１－①－（１）－３(p.4) 「自己点検・評価を実施するための方針（実施時期）を明記した資料」
(2)　(1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇実施体制等がわかる資料（組織構成図、関連規程等）** （再掲）資料１－１－①－（１）－１(p.1) 「自己点検・評価を実施するための方針を明記した資料」 資料１－１－①－（２）－１(p.1) 「自己点検・評価の実施体制の組織図」 資料１－１－①－（２）－２(p.2)

	「自己点検・評価の実施体制関連規程（運営委員会）」 資料１－１－①－（２）－３(p.3) 「自己点検・評価の実施体制関連規程（運営委員会自己点検・評価対応部会）」 資料１－１－①－（２）－４(p.5) 「自己点検・評価の実施体制関連規程（総務委員会）」 資料１－１－①－（２）－５(p.6) 「自己点検・評価の実施体制関連規程（運営諮問会議）」 資料１－１－①－（２）－６(p.7) 「自己点検・評価の基準・項目と分担」
(3) (1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。 ■設定している □設定していない	**◇自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料（関連規程等）** （再掲）資料１－１－①－（２）－６(p.7) 「自己点検・評価の基準・項目と分担」

【重点評価項目】

観点１－１－②　内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。

【留意点】

○　根拠となるデータや資料等とは、教育の状況について自己点検・評価を行うに当たり必要な教育活動に関する基礎的な資料のことで、本評価書の右欄に明示された各種資料を想定している。自己点検・評価に活用できるように体系的に整理しているかを分析すること。より体系的に実施するため、データブック等の策定や、ＩＲ（インスティテューショナル・リサーチ）活動として実施している場合も考えられる。

○　定期的に行うということは、７年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。

※　「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。（１－１－①の留意点の再掲。）

○　設定した自己点検・評価の基準・項目に基づいて、点検（分析）・評価されていること。（１－１－①(3)と関連。）

関係法令	(法)第 109 条　(施)第 166 条　(設)第 2 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1)　根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。 ■収集・蓄積している □収集・蓄積していない	**◇収集・蓄積状況がわかる資料** 資料１－１－②－（１）－１(p.1) 「事務サーバーにおける自己点検・評価用基礎データ蓄積状況 H27」 資料１－１－②－（１）－２(p.2) 「事務サーバーにおける委員会資料蓄積状況(1)」 資料１－１－②－（１）－３(p.3) 「事務サーバーにおける委員会資料蓄積状況(2)-運営委員会の資料と議事録」 資料１－１－②－（１）－４(p.4)

	「事務サーバーにおける各種資料蓄積状況(1)」 資料１－１－②－（１）－５(p.5) 「事務サーバーにおける各種資料蓄積状況(2)-答案等保存資料」 本校の運営・教育・研究に関する資料・記録は文書管理規程に基づき、事務サーバーに適宜分類の上、集約されている。 **◇担当組織、責任体制がわかる資料** 資料１－１－②－（１）－６(p.6) 「自己点検・評価用基礎データ蓄積に関する要項」 資料１－１－②－（１）－７(p.8) 「自己点検・評価用基礎データ蓄積に関する担当組織等」 資料１－１－②－（１）－８(p.9) 「法人文書の管理に関する規程」 資料１－１－②－（１）－９(p.15) 「学業成績の根拠資料の作成に関する取り決め」 議事録、委員会資料等については、文書管理規程によって担当組織が定められている。また、答案等保存資料のような教育関係の資料については、教務委員会等の関係委員会が資料収集についての責任を負っている。
(2) 自己点検・評価を定期的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	**◇自己点検・評価報告書等、実施状況がわかる資料（何年ごとに実施しているかがわかる資料も含む。）** **◆何年ごとに実施しているかを明確にしつつ、現在の実施頻度が適切かどうか、データや資料を活用して行われているかについて、資料を基に記述する。** （再掲）資料１－１－①－（１）－３(p.4) 「自己点検・評価を実施するための方針（実施時期）を明記した資料」 資料１－１－②－（２）－１(p.1) 「学校教育法に基づく自己点検及び評価の実施状況が分かる資料」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2014/03/self_assessment_h24.pdf 資料１－１－②－（２）－２(p.5) 「機関別認証評価に基づく自己点検及び評価の実施状況が分かる資料（１）」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/steering/h19 資料１－１－②－（２）－３(p.6) 「機関別認証評価に基づく自己点検及び評価の実施状況

	が分かる資料（２）」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/steering/h26 本校では、資料１－１－①－（１）－１に示す、「点検・評価等に関する規則」を定めており、学校教育法に基づいた自己点検・評価を、運営諮問会議による外部評価を含めて、平成 6・12・18 及び 24 年度に実施している。 資料１－１－①－（１）－３に示す「自己点検関係スケジュール」からも分かるように、基本 6 年毎の自己点検・評価を定めているが、平成 31 年度の自己点検・評価については、機関別認証評価の基準変更を考慮して、実施を通常のサイクルから 1 年延期している。 自己点検・評価にあたっては、事務サーバーに蓄積されている委員会関係資料、教育関係資料等を活用し、各委員会等で分担して自己点検・評価報告書（第 1 版）を作成する。その後、運営委員会による総括、運営諮問会議による外部評価を経て、自己点検・評価報告書（最終版）を作成・公表している。 現状では、学校教育法に基づいた自己点検・評価の２年後に、機関別認証評価に基づく自己点検及び評価を行っている。さらに、専攻科の状況審査、特例適用審査、運営諮問会議による外部評価を自己点検関係スケジュールに組み込んでいることから（JABEE については、2022 年度の継続審査は受審しない）、自己点検・評価の頻度は適切であると判断する。
(3) (2)の結果を公表しているか。 ■公表している □公表していない	**◇公表状況がわかる資料（ウェブサイトのアドレスの明示でも可。）** 資料１－１－②－（３）－１(p.1) 「学校教育法に基づく自己点検及び評価の公表」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/assessment
【重点評価項目】 観点１－１－③　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	
【留意点】 ○　学校の構成員及び学外関係者の意見を聴取する方法、内容、実施状況等についての分析を含め、聴取した意見がどのような形で教育の状況に関する自己点検・評価に反映されているか分析すること。 ○　特に学外関係者からの意見聴取は、準備等に時間がかかることが想定されるため、計画的な実施が望まれる。 ○　「第三者評価」とは、評価対象機関とは独立した第三者組織によって選定された評価者・評価項目等によって行われる評価を指す。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■教員 ■職員 ■在学生 ■卒業（修了）時の学生 ■卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生 ■保護者 ■就職･進学先関係者	**◇各意見聴取の実施状況がわかる資料（実施方法、回数、意見内容の例、アンケート結果集計表等。）** 資料１－１－③－（１）－１(p. 1) 「アンケート調査による各者の意見聴取の要項」 **■教職員アンケート** 資料１－１－③－（１）－２(p. 3) 「教職員アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」 資料１－１－③－（１）－３(p. 4) 「教職員アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 **■在学生アンケート** 資料１－１－③－（１）－４(p. 7) 「学生アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」 資料１－１－③－（１）－５(p. 11) 「学生アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 **■卒業・修了時の学生アンケート** 資料１－１－③－（１）－６(p. 15) 「学習・教育到達目標の到達度アンケート実施要項」 資料１－１－③－（１）－７(p. 16) 「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果（本科)」 資料１－１－③－（１）－８(p. 17) 「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果（専攻科)」 **■卒業生・修了生アンケート** 資料１－１－③－（１）－９(p. 18) 「卒業生・修了生アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」 資料１－１－③－（１）－１０(p. 22) 「卒業生・修了生アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 **■進路先アンケート** 資料１－１－③－（１）－１１(p. 29) 「進路先アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」

	資料１－１－③－（１）－１２(p.33) 「進路先アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 **■保護者アンケート** 資料１－１－③－（１）－１３(p.38) 「アンケート調査による保護者からの意見聴取（１）－アンケート項目」 資料１－１－③－（１）－１４(p.40) 「アンケート調査による保護者からの意見聴取（２）－アンケート項目」 資料１－１－③－（１）－１５(p.42) 「アンケート調査による保護者からの意見聴取（２）－アンケート集計結果」 **■授業アンケート** 資料１－１－③－（１）－１６(p.43) 「授業アンケート実施要項」 なお、各アンケート結果については、データとしては古くなっており、再度アンケートを実施する必要がある。 **◇自己点検・評価結果報告書等の該当箇所** 資料１－１－③－（１）－１７(p.47) 「自己点検・評価への聴取意見の反映箇所」
(2) 自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価 ■学生による授業評価 ■学生による教育・学習の達成度に関する評価 （進級時等、卒業（修了）前の評価） □学生による満足度評価 （進級時等、卒業（修了）前の評価） □その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 ■卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価 □卒業（修了）時の学生による満足度評価 □その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 ■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価 ■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効	**◇各評価結果等を踏まえて自己点検・評価が行われていることを示す報告書等の該当箇所** （再掲）資料１－１－③－（１）－１７(p.47) 「自己点検・評価への聴取意見の反映箇所」 資料１－１－③－（２）－１(p.1) 「教職員アンケート分析による自己点検」 **【在学生の意見聴取】** 資料１－１－③－（２）－２(p.3) 「学生アンケート分析による自己点検」 資料１－１－③－（２）－３(p.6) 「学生による授業評価に基づく授業改善（１）」 資料１－１－③－（２）－４(p.7) 「学生による授業評価に基づく授業改善（２）」 なお、在学生による満足度評価は、今後、実施する必要がある。 **【卒業（修了）時の意見聴取】**

果に関する評価 □その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証 ■教育活動に関する第三者評価 （機関別認証評価、JABEE 等。） ■設置計画履行状況調査 □その他	資料１－１－③－（２）－５(p. 8) 「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果の報告（本科)」 資料１－１－③－（２）－６(p. 9) 「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果の報告（専攻科)」 なお、卒業（修了）時の学生による満足度評価は、今後、実施する必要がある。 **【卒業（修了）後の意見聴取】** 資料１－１－③－（２）－７(p. 10) 「卒業生・修了生アンケート分析による自己点検」 資料１－１－③－（２）－８(p. 13) 「進路先アンケート分析による自己点検」 **【外部評価】** 資料１－１－③－（２）－９(p. 16) 「外部有識者の検証に関する資料（１)」 資料１－１－③－（２）－１０(p. 18) 「外部有識者の検証に関する資料（２)」 資料１－１－③－（２）－１１(p. 20) 「教育活動に関する第三者評価（１)」 資料１－１－③－（２）－１２(p. 21) 「教育活動に関する第三者評価（２)」 資料１－１－③－（２）－１３(p. 22) 「設置計画履行状況調査」 **◆その他の項目をチェックした場合は、当該評価の内容を記述するとともに、上記◇と同様に該当箇所を明示すること。**

【重点評価項目】

観点１－１－④　自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

○　改善・向上のための組織体制には、委員会や担当部署のほか、改善・向上の取組のための責任の所在が明確になっていること。組織図等があれば提示すること。

１－１－①－⑵と同じ組織体制を充てる場合であっても、自己点検・評価の実施と改善・向上の取組の両方の役割をそれぞれ明確に規程等で整理できているかを分析すること。

○　第三者評価等とは、機構が実施する機関別認証評価や、ＪＡＢＥＥ（日本技術者教育認定機構）によるＪＡＢＥＥ認定プログラムの認定、機構が実施する特例適用専攻科の認定等のほか、第三者評価ではない、自己点検・評価の外部有識者による検証を含み、外部者が検証・評価した結果等の全てを想定しており、そこで指摘された改善事項等への対応を事例として想定している。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	**◇実施体制がわかる資料（組織相互関連図、関連規程、議事要旨、活動記録等）** （再掲）資料１－１－①－（２）－１(p.1) 「自己点検・評価の実施体制の組織図」 （再掲）資料１－１－①－（２）－２(p.2) 「自己点検・評価の実施体制関連規程（運営委員会)」 資料１－１－④－（１）－１(p.1) 「教育の質の改善・向上に関連する組織の規程（運営委員会ＦＤ部会)」 資料１－１－④－（１）－２(p.3) 「運営委員会による自己点検・評価に基づいた改善活動（１)」 資料１－１－④－（１）－３(p.4) 「運営委員会による自己点検・評価に基づいた改善活動（２)」 資料１－１－④－（１）－４(p.5) 「運営委員会による自己点検・評価に基づいた改善活動（３)」 資料１－１－④－（１）－５(p.6) 「運営委員会ＦＤ部会による教育改善活動（１)」 資料１－１－④－（１）－６(p.7) 「運営委員会ＦＤ部会による教育改善活動（２)」 なお、令和２年度からは、新たな点検・改善システムを構築する予定である。
(2) 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	**◇対応状況がわかる資料** 資料１－１－④－（２）－１(p.1) 「前回の機関別認証評価における『改善を要する点』として指摘された事項」 資料１－１－④－（２）－２(p.4) 「「教職員に対する「学校の目的」「アドミッションポリシー」の周知状況の把握」「教員のシラバス活用状況の把握」「授業以外の自学自習状況の把握」に対する取組」 資料１－１－④－（２）－３(p.6) 「成績評価等の規定に対する学生の周知状況を把握する取組」 資料１－１－④－（２）－４(p.7) 「卒業生・修了生に対する学校の学習目標に関する意見聴取」 資料１－１－④－（２）－５(p.9)

	「進路先関係者に対する学校の学習目標に関する意見聴取」 資料１－１－④－（２）－６(p.11) 「試験における同一問題使用に対する取組」 なお、「一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携に関する学校としての機能的な取組」を始めとする未対応の「改善を要する点」については、対応および対応結果についての審議を行うべきである。
(3) (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	**◇自己点検・評価結果報告書や第三者評価等の該当箇所** 資料１－１－④－（３）－１(p.1) 「JABEE 審査結果【2016H28】」 資料１－１－④－（３）－２(p.4) 「平成２８年度運営諮問会議における提言と対応」 **◇評価結果を受けた改善の取組がわかる資料** 資料１－１－④－（３）－２(p.4) （再掲）「平成２８年度運営諮問会議における提言と対応」 JABEE 審査結果に対する対応および対応結果についての審議を行うべきである。

１－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

１－２　準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。

（準学士課程）

観点１－２－①　準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

○　ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成 28 年３月 31 日に決定されたガイドラインのことをいう。

○　「卒業の認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）については、ガイドラインの３ページ上段の基本的な考え方や、同５ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同６ページのディプロマ・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。

○　教育する立場からみた教えるべき内容ではなく、教育を受ける側（＝学習者＝学生）の立場に立って「何を身に付け、何ができるようになったか」という学習の成果が明確にわかる、具体的な内容となっていることを分析すること。

○　学校教育法施行規則第 172 条の２第１項第１号の規定により学校の目的を、高等専門学校設置基準第３条の規定により学科ごとの目的を、それぞれ定めることが義務付けられており（本評価書のⅡ目的に記載するもの。）、それぞれの目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、内容的に齟齬がないなど整合性を有していることを分析す

ること。

○　卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で一つのポリシーを定めることや、学科ごとに定めることが考えられるところであり、学校・学科の目的や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。

関係法令	(法)第 117 条　(施)第 165 条の 2　(設) 第 17 条第 3～6 項、第 17 条の 2、第 17 条の 3、第 18 条、第 19 条、第 20 条 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年３月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	**◇策定した卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）** 資料１－２－①－（１）(p.1) 「準学士課程ディプロマ・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/hondp
(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	**◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。**
(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	

観点１－２－②　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

○　ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成 28 年３月 31 日に決定されたガイドラインのことをいう。

○　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）については、ガイドラインの３ページ上段の基本的な考え方や、同５ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同６ページカリキュラム・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。

○　特に、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は学校教育法施行規則第 165 条の２第２項において、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有して定めることが求められていることから、両ポリシーの内容が整合的であることを分析すること。

○　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体又は学科ごとに定めることが想定されるところであり、学校・学科の目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。(卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシ

ー）と策定単位が一致していることが原則であると想定されるが、各高等専門学校の判断で策定単位を一致させていないことも想定されることから、整合性を分析する際には、形式的に留まらず内容的整合性を分析することが求められる。）

○　（３）の選択肢のうち、「その他」以外のものについては、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に必ず含むものとして想定している。

関係法令	(施)第 165 条の 2　(設)第 15 条、第 16 条、第 17 条（第 7 項)、第 17 条の 2 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年３月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	**◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）** 資料１－２－②－（１）(p.3) 「準学士課程カリキュラム・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/honcp
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	**◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。**
(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■学習成果をどのように評価するかを示している □その他	**◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**

観点１－２－③　準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

○　ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成 28 年３月 31 日に決定されたガイドラインのことをいう。

○　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）については、ガイドラインの３ページ上段の基本的な考え方や、同５ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同６ページのアドミッション・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。

○　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で１つのポリシーを定めることが考えられるが、学科ごとに定めることも可能である。

○　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」と「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。)」の両方を定めているかを分析すること。なお、受け入れる学生に求める学習成果として、「学力の３要素」に沿った成果の内容が明示されていることを分析すること。

○　「学力の３要素」とは、１知識・技能、２思考力・判断力・表現力等の能力、３主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度のことである。

関係法令	(法)第 57 条、第 118 条（施)第 165 条の 2 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年３月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	**◇策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）** 資料１－２－③－（１）(p.7) 「準学士課程アドミッション・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/honap
(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。)、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	**◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。**
(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	
(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。)」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	
(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の３要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	

（専攻科課程）

観点１－２－④　専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

○　観点１－２－①の留意点に準ずるものとする。

関係法令	(法)第 119 条第 2 項　(施)第 165 条の 2　(設）第 17 条第 3～6 項、第 17 条の 2、第 17 条の 3、第 18 条、第 19 条、第 20 条

	「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年３月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている □専攻ごとに定めている □その他	**◇策定した修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）がわかる資料** 資料１－２－④－（１）(p.9) 「専攻科課程ディプロマ・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sendp **◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。**
(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	
(3) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	

観点１－２－⑤　専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

○　観点１－２－②の留意点に準ずるものとする。

関係法令	（施）第 165 条の 2　（設）第 15 条、第 16 条、第 17 条（第 7 項）、第 17 条の 2 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年３月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている □専攻ごとに定めている □その他	**◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）がわかる資料** 資料１－２－⑤－（１）(p.10) 「専攻科課程カリキュラム・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sencp

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	**◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。**
(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■学習成果をどのように評価するかを示している □その他	**◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**

観点１－２－⑥　専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

○　観点１－２－③の留意点に準ずるものとする。

関係法令	(法)第 119 条第 2 項(施)第 165 条の 2、第 177 条 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年３月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている □専攻ごとに定めている □その他	**◇策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）** 資料１－２－⑥－（１）(p.13) 「専攻科課程アドミッション・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/senap
(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	**◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。**
(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	
(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成	

果を含む。)」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	
(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の３要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	

１－２　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

１－３　学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。

観点１－３－①　学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。

【留意点】

○　(2)の点検の実施については、改組転換といった教育組織の見直しや教育課程の充実（外国語科目の充実や、実務教育科目の充実等。）により、三つの方針の全体若しくはいずれかの見直しを行っていることについて、分析すること。

関係法令	(法)第 109 条　(施)第 166 条　(設)第 2 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	**◇点検を行う体制がわかる資料（関連規定等、三つの方針の内容を点検し、必要に応じて見直すことについて定めているもの。）** （再掲）資料１－１－①－（２）－６(p.7) 「自己点検・評価の基準・項目と分担」 なお、アドミッション・ポリシーについては入学試験委員会、カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーについては教務委員会で点検と改正を行うことが、教務主事より明言されたため、体制は整ったと判断する。今後、その体制について規程等で明文化する必要がある。
(2) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	**◇点検の実情に関する資料（実績）** 資料１－３－①－（２）－１(p.1) 「三つの方針の設定（１)」 資料１－３－①－（２）－２(p.2) 「三つの方針の設定（２)」 資料１－３－①－（２）－３(p.7) 「アドミッション・ポリシーの点検と改定」

	なお、アドミッション・ポリシーについては入学試験委員会、カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーについては教務委員会で点検と改正を行うことが、教務主事より明言された。

１－３　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

基準１

基準に対する総括と評価

教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第 109 条第 1 項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組みが整備され、機能している。

準学士課程、専攻科課程それぞれについてディプロマ・ポリシー)、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーが学校の目的を踏まえて定められている。

上記の三つのポリシーについては、担当を決めて見直しを行うことが明言され、アドミッション・ポリシーについては、令和元年度に見直しを行っている。

以上の内容を総合して、「基準 1 を満たしている」と判断する。

優れた点

「点検・評価等に関する規則」を定め、学校教育法に基づいた自己点検・評価を、運営諮問会議による外部評価をも含めて、定期的に実施している。

自己点検・評価にあたっては、事務サーバーに蓄積されている委員会関係資料、教育関係資料等を活用し、各委員会等で分担して自己点検・評価報告書（第１版）を作成した後、運営委員会による総括、運営諮問会議による外部評価を経て、自己点検・評価報告書（最終版）を作成・公表している。

また、令和 2 年度からは、新たな点検・改善システムの構築を予定している。

改善を要する点

・学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取に関する各アンケート結果については、データとしては古くなっており、再度アンケートを実施する必要がある。また、在学生による満足度評価は、今後、実施する必要がある。
・前回の機関別認証評価、並びに JABEE 審査の審査結果に対する未対応事項への対応が望まれる。
・アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーの点検と改正の体制について、規程等で明文化する必要がある。

基準２　教育組織及び教員・教育支援者等

評価の視点

２－１　学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

観点２－１－①　学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。

【留意点】

○　準学士課程の目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての学科に関係する記述が明確になっていることを分析すること。

○　学科ごとの目的が、高等専門学校設置基準の規定に適合しているかどうかとともに、本評価書Ⅱに記載した学校の目的に適合しているかについて分析すること。

関係法令	(法)第 116 条　(設)第 4 条、第 4 条の 2、第 5 条、第 27 条の 3

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学科の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	**◆学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した学科の構成となっていることについて、資料を基に記述する。** 資料２－１－①－（１）－１(p.1) 「苫小牧工業高等専門学校の目的」 資料２－１－①－（１）－２(p.2) 「創造工学科の目的」 資料２－１－①－（１）－３(p.3) 「苫小牧工業高等専門学校の学科構成」 （再掲）資料１－２－①－（１）(p.1) 「準学士課程ディプロマ・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/hondp 本校では、学則第１条で「苫小牧工業高等専門学校の目的」を定め、それを受けて学則第７条の１で「学科構成」、第７条の２（学則別表第１）で学科の目的を定めている。学科構成は創造工学科の１学科の下に、機械系、都市・環境系、応用化学・生物系、電気電子系、情報科学・工学系の５系を置く構成となっており、ディプロマ・ポリシーは創造工学科としてのものと、各系のものを設定している。 よって、学科及び系の構成は学校の目的及び卒業の認定に関する方針と整合性がとれている。

観点２－１－②　専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。

【留意点】

○　専攻科課程の目的と修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての専攻に関係する記述が明確になっていることを分析すること。

○　専攻ごとの目的が、学校教育法の規定に適合しているかどうかについて分析すること。

関係法令　（法）第 119 条第２項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	**◇本評価書Ⅱに記載したもの以外に専攻科規程等があれば、それがわかる資料** 資料２－１－②－（１）－１(p. 4) 「苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程」 資料２－１－②－（１）－２(p. 5) 「苫小牧工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修に関する規程」 **◆学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した専攻の構成となっていることについて、資料を基に記述する。** （再掲）資料２－１－①－（１）－１(p. 1) 「苫小牧工業高等専門学校の目的」 資料２－１－②－（１）－３(p. 6) 「専攻科の目的」 資料２－１－①－（１）－４(p. 7) 「苫小牧工業高等専門学校専攻科の専攻構成」 資料２－１－①－（１）－５(p. 8) 「各専攻の目的」 （再掲）資料１－２－④－（１）(p. 9) 「専攻科課程ディプロマ・ポリシー」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sendp 本校では、学則第１条で「苫小牧工業高等専門学校の目的」、学則第 56 条で「専攻科の目的」を定め、それを受けて学則第 57 条の１で「専攻構成」、第 57 条の２（学則別表第４）で各専攻の目的を定めている。専攻構成は、電子・生産システム工学専攻、環境システム工学専攻の２専攻を置く構成となっており、ディプロマ・ポリシーは両専攻の目的を包含したものとなっている。 よって、専攻の構成は学校の目的及び修了の認定に関する方針と整合性がとれている。

観点２－１－③　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇教育活動を有効に展開するため必要と考えられる教務・学生支援・入試等の委員会の組織体制がわかる資料（当該事項を審議するための組織の構成図、運営規程等）** 資料２－１－③－（１）－１(p. 9) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（１）運営委員会」 資料２－１－③－（１）－２(p. 10) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（２）教務委員会」 資料２－１－③－（１）－３(p. 11) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（３）専攻科委員会」 資料２－１－③－（１）－４(p. 12) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（４）学生委員会」 資料２－１－③－（１）－５(p. 13) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（５）入学試験委員会」 資料２－１－③－（１）－６(p. 14) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（６）組織図」
(2) (1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇活動が行われている実績がわかる資料（当該事項の審議内容を記した会議の議事要旨等）** 資料２－１－③－（２）－１(p. 15) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（１）運営委員会」 資料２－１－③－（２）－２(p. 16) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（２）教務委員会」 資料２－１－③－（２）－３(p. 17) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（３）専攻科委員会」 資料２－１－③－（２）－４(p. 18) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（４）学生委員会」 資料２－１－③－（２）－５(p. 19) 「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（５）入学試験委員会」

２－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性

や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

２－２　教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。

観点２－２－①　学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

【留意点】

○　本評価書Ⅱに記載した学校の目的に沿って編成された教育課程を展開するために、必要な教員が配置されていることを分析すること。

（例１）目的に「国際的コミュニケーション能力を育成する」を掲げている場合、英語担当教員の配置の充実や、ネイティブスピーカーの配置の充実等。

（例２）目的に「実践的技術者を育成する」を掲げている場合、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。

○　(1)(2)に関し、専任教員数には助教の数も含めることができる（助手は除く。）。

○　(4)(5)については、非常勤講師についても分析すること。

関係法令	(法)第 120 条　(設)第 6 条、第 7 条、第 8 条、第 9 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
(1) 一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	**◇【別紙様式】高等専門学校現況表** 資料２－２－①－（１）－１ 「高等専門学校設置基準　第二章第六条２」 （再掲）資料２－１－①－（１）－１（p.1） 「苫小牧工業高等専門学校の目的」
(2) 専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	資料２－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」 資料２－２－①－（１）－３ 「苫小牧工業高等専門学校における教員の選考に関する取扱い（校長裁定）」
(3) 専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	資料２－２－①－（１）－４ 「専任教員の専門分野・学位・技術資格と担当科目一覧表」 資料２－２－①－（２） 「高等専門学校設置基準　第二章第六条３」 （再掲）資料２－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校教員選考規定」 （再掲）資料２－２－①－（１）－４ 「専任教員の専門分野・学位・技術資格と担当科目一覧表」 資料２－２－①－（３） 「高等専門学校設置基準　第二章　組織編成（抜粋）」 （再掲）資料２－２－①－（１）－４

	「専任教員の専門分野・学位・技術資格と担当科目一覧表」
(4) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	**◇【別紙様式】担当教員一覧表等** （再掲）資料２－２－①－（１）－４ 「専任教員の専門分野・学位・技術資格と担当科目一覧表」
(5) 適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■博士の学位 □ネイティブスピーカー（担当する言語を母国語とする） ■技術資格 ■実務経験（教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等） ■海外経験 □その他	**◆配慮事項として掲げる博士の学位、ネイティブスピーカー、技術資格、実務経験、海外経験、その他の具体的な内容について、資料を基に記述する。** （再掲）資料２－２－①－（１）－４ 「専任教員の専門分野・学位・技術資格と担当科目一覧表」 実践的・創造的技術者として工学専門分野の知識と技術を教授するために、専門系科目を担当する専任教員の53人中45人が博士の学位を有している。技術資格（技術士）を有する教員は3名おり、機械系科目担当教員に1名、都市・環境系科目担当教員に1名、電気電子系科目担当教員に1名いる。 また、国際性を有する人材を育成するために海外経験を有する専任教員17人を配置している。さらに、実践的技術者を育成するために民間企業等に開ける勤務経験を有する専任教員を29人配置している。 **◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な配慮事項を記述する。**

観点２－２－②　学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。

【留意点】

○　本評価書Ⅱに記載した目的や修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて編成された教育課程を展開するために必要な教員が配置されていることを分析すること。

（例）目的に「応用開発型技術者を育成する」を掲げている場合、博士取得者、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。

○　本評価書Ⅰ(1)４．において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

関係法令	(法)第119条第2項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科の認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について

分析すること。

専攻科の各科目に適合した専門分野の教員を配置している事及び研究実績・教育指導を行う能力を有する教員を専攻科担当教員として配置している事は、本校の専攻科が平成 27 年度に大学改革支援・学位授与機構から特例適用専攻科として認定された際に確認されている。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。 □適切に確保している □適切に確保していない	**◇【別紙様式】担当教員一覧表等** **◆左記について、資料を基に記述する。**
(2) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 □担当が適切である □担当が適切でない	
(3) 適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。 □担当が適切である □担当が適切でない	**◇適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当していることがわかる資料**

観点２－２－③　学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。

【留意点】なし。

関係法令　関係法令

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	**◇教員の年齢構成がわかる資料（観点４－３－①の、教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する根拠資料を流用してもよい。）** 資料２－２－③－（１）－１ 「教員公募要項」 資料２－２－③－（１）－２ 「教員の年齢構成」 **◆配慮の取組について、資料を基に記述する。** 教員の年齢構成を考慮して、新規採用職種（およその年代）を決定するように配慮している。その結果、年齢構成における著しい偏りは見られない。
(2) (1)以外に配慮している措置はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教育経歴 ■実務経験 ■男女比 □その他	**◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料** （再掲）資料２－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」 （再掲）資料２－２－③－（１） 「教員公募要項」

	教員の実務経験・海外経験の情報は、「別所様式、担当教員一覧表」を参照のこと。 **◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**
⑶ 在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置等はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） □学位取得に関する支援 □任期制の導入 ■公募制の導入 ■教員表彰制度の導入 □企業研修への参加支援 ■校長裁量経費等の予算配分 □ゆとりの時間確保策の導入 □サバティカル制度の導入 □他の教育機関との人事交流 □その他	**◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料** （再掲）資料２－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」 （再掲）資料２－２－①－（１）－３ 「苫小牧工業高等専門学校における教員の選考に関する取扱い（校長裁定）」 （再掲）資料２－２－③－（１） 「教員公募要項」 （再掲）資料２－２－③－（２） 「女性限定を記述した教員公募要項」 資料２－２－③－（３）－１ 「苫小牧工業高等専門学校教職員表彰規程」 資料２－２－③－（３）－２ 「教育能力等評価基準（校長裁定）」 資料２－２－３－（３）－３ 「在職教員に対して教育研究水準の維持向上および教育研究の活性化を図るために行っている校長裁量経費等の予算配分を決めた委員会の議事録」 資料２－２－③－（３）－４ 「在職教員に対して教育研究水準の維持向上および教育研究の活性化を図るために行っている校長裁量経費等の予算配分」 **◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**
２－２　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
評価の視点 **２－３　全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。**	
観点２－３－①　全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 全教員（非常勤教員を除く。）に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇教員評価に係る規程等がわかる資料** （再掲）資料２－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」 （再掲）資料２－２－①－（１）－３ 「苫小牧工業高等専門学校における教員の選考に関する取扱い（校長裁定)」 （再掲）資料２－２－③－（３）－２ 「教育能力等評価基準（校長裁定)」 （再掲）資料２－２－③－（３）－３ 「在職教員に対して教育研究水準の維持向上および教育研究の活性化を図るために行っている校長裁量経費等の予算配分を決めた委員会の議事録」 （再掲）資料２－２－③－（３）－４ 「在職教員に対して教育研究水準の維持向上および教育研究の活性化を図るために行っている校長裁量経費等の予算配分」 資料２－３－①－（１）－１ 「教員自己評価シート提出依頼メール」 **◇給与や研究費配分に活用することとしているか、教員組織の見直し等に活用することとしているかがわかる資料** 資料２－３－①－（２） 「教員活動実績確認表」
(2) (1)の体制の下、教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	
(3) 把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■給与における措置 □研究費配分における措置 ■教員組織の見直し ■表彰 □その他	**◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。** **◆評価結果を具体的にどのように活用しているのか、資料を基に記述する。** 本校の全教員の活動実績に関する評価は、国立高等専門学校機構の教員顕彰の時期に合わせて教員の作成する教員自己評価シート、教員による総合評価、学生による教員評価および校長手持ち資料（非公開資料）に基づいて校長が行っている。それらの結果をもとに優秀教員の勤勉手当や昇級の判定に反映している。
(4) 非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。 □実施している ■実施していない	**◇教員評価に係る規程等を定めた資料** 本校では、非常勤講師に対する教育能力等評価基準は定められていない。そのため、規則等の作成及び非常勤講師の評価の実施については検討中である。

	◇実施していることがわかる資料
観点２－３－②　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	
【留意点】 ○　(3)の◆の自己評価において、採用や昇格等に関する規程が高等専門学校設置基準に適合することについて、採用や昇格に関して教育上の能力を考慮していることについても言及すること。	
関係法令	関係法令
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇定めている規程がわかる資料（採用・昇格に関する体制、方法、教員の資格、能力や業績に関する基準等が明記されているもの。）** （再掲）資料２－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」 資料２－３－②－（１）－１ 「教員選考（内部昇格）に関する評価の基準（校長裁定）」
(2) (1)で定められている基準等では、教育上の能力等を確認する仕組みとなっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■模擬授業の実施 ■教育歴の確認 ■実務経験の確認 ■海外経験の確認 □国際的な活動実績の確認 □その他	**◇実施・確認していることがわかる資料** （再掲）資料２－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」 資料２－３－②－（２） 「教員選考委員会議事録の抜粋」 **◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**
(3) (1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◆左記について、採用・昇格の実績を踏まえ、資料を基に記述する。** （再掲）資料２－３－②－（２） 「教員選考委員会議事録の抜粋」 校長が専任教員の選考を必要と認めた場合にはその都度選考委員会を設置して、ホームページ等で教員の公募について情報を公開している（資料２－２－③－（１）および資料２－２－③－（２）参照）。応募者には所定の書類の提出を求め、それに基づいて選考委員会で一次審査（書類選考）を実施する。一次審査合格者については、二次審査（面接審査）を実施する。 なお、面接では（２）の基準等に基づいた内容の質疑（資料２-３－②－（２）－１参照）を行っている。面接後、選考委員会で採択・昇格の可否を協議している。
(4) 非常勤教員の採用基準等を定めているか。 ■定めている	**◇非常勤教員の採用基準等の規程がわかる資料** 資料２－３－②－（４）

□定めていない	「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」(抜粋)

２－３　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

２－４　教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

観点２－４－①　授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。

【留意点】なし。

関係法令	(設)第 17 条の 4

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「ＦＤ」という。）を実施する体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇関係する委員会等の組織関係図、役割と責任が把握できる資料、関連規程** 資料２－４－①－（１）－１ 「苫小牧工業高等専門学校運営委員会部会要項」 資料２－４－①－（１）－２ 「組織図」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/organization **◇実施体制・実施方針・内容・方法がわかる資料** 資料２－４－①－（１）－３ 「FD 活動の流れ」 資料２－４－①－（１）－４ 「授業アンケートに関して」 資料２－４－①－（１）－５ 「授業アンケート結果」 資料２－４－①－（１）－６ 「校内研究授業について」 資料２－４－①－（１）－７ 「授業見学報告書」 資料２－４－①－（１）－８ 「第 3 回　FD 部会」
(2) 定期的にＦＤを実施しているか。 ■実施している □実施していない	**◇実施状況（参加状況等。）がわかる資料** 資料２－４－①－（２）－１ 「第一回校内研究授業の実施結果について」 資料２－４－①－（２）－２ 「第１回教員連絡ネットワークの実施結果について」

	◇ＦＤに関する報告書等の該当箇所等 （再掲）資料２－４－①－（１）－５ 「授業アンケート結果」 （再掲）資料２－４－①－（１）－７ 「授業見学報告書」
(3) (2)のＦＤを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	**◆ＦＤの結果、改善に結びついた事例で組織として把握している取組について、資料を基に記述する。** 資料２－４－①－（３）－１ 「授業アンケート結果報告書」 授業アンケート、校内研究授業、教員間連絡ネットワークや FD 講演会の 3 つを柱として PDCA サイクルを回すように FD 活動を続けてきた結果、例えば資料２－４－①－（１）－７の校内研究授業報告書においては、授業の進め方・教材等に多くの工夫が見られるようになっていることが報告されている。 また、授業アンケート結果については、資料２－４－①－（１）－５のように集計し教員間で結果を共有し、結果の改善を図ってきた。この結果として、資料２－４－①－（３）－１に示される様に、多くの授業において授業法について学生から高い評価を得られるようになっている。
観点２－４－②　学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	
【留意点】 ○　助手を配置している場合には、組織、人数、支援内容等の配置状況がわかる資料を提示すること。	
関係法令	(法)第 120 第 1 項第 1 号、2 号、7 号　(設)第 7 条、第 10 条、第 25 条第 2 項
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない	**◇【別紙様式】高等専門学校現況表、教育支援者に関する事務組織図、役割分担がわかる資料** 資料２－４－②－（１）－１ 「事務組織図」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/organization 資料２－４－②－（１）－２ 「事務組織の配置を示す規程」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2014/03/kitei/ks2360.pdf 資料２－４－②－（１）－３ 「事務組織の所掌事務を示す規程」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-

	content/uploads/2014/03/kitei/ks2370.pdf 事務部は事務部長の下、総務課及び学生課の２課を置き、各課には課長の下に複数の係を配置している。 主に学生課が教育活動の大部分を担っており、教育支援を行うべく、適切に職員を配置している。 資料２－４－②－（１）－４ 「技術教育支援センターの組織を示す規程」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2014/03/kitei/ks7130.pdf 資料２－４－②－（１）－５ 「技術教育支援センターの所掌業務を示す規程」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2014/03/kitei/ks2340.pdf 技術教育支援センターは全３グループに組織され、技術職員はいずれかのグループに所属し、主に実験・実習、演習、情報処理等各学科において円滑な教育が行われるための支援を行っている。 資料２－４－②－（１）－６ 「教育支援者等の配置を示す組織図」
(2) 図書館に司書等の専門的職員を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない	（再掲）資料２－４－②－（１）－６ 「教育支援者等の配置を示す組織図」 図書館において、司書は配置していないが、専門的知識を有している職員を配置している。
観点２－４－③　教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	
【留意点】 ○　スタッフ・ディベロップメント（管理運営等の研修）への取組は観点４－２－⑤で分析するため、ここでは、ＦＤに関連した教育の質の向上や授業の改善に関する教育支援者に対する取組を分析すること。ＦＤへの取組の中で教員と教育支援者双方を対象とするものも想定される。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇研修等の実施状況（参加状況等。）の取組がわかる資料** 資料２－４－③―（１）－１ 「技術教育支援センターのFD活動の実施状況一覧」 資料２－４－③－（１）－２ 「事務職員の研修等の参加状況一覧」 資料２－４－③－（１）－３ 「教育支援者等の科研費申請状況一覧」
２－４　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準２

基準に対する総括と評価
学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切である。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能している。 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されている。 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われている。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされている。 教員の教育能力の向上を図る取り組みが適切に行われている。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質向上を図るための取り組みが適切に行われている。 以上の内容を総合して、「基準２を満たしている」と判断する。
優れた点
各教員が抱えている業務量の「見える化」を図るために、令和元年度から「教員活動実績確認表」を毎年作成・提出することとした。これにより、各教員が活動をまとめ、振り返ることで個人の活動改善に繋がる事が期待できる。また、各教員が互いの業務を理解する事で学内のサポート体制を構築し易くなる事が期待できる。その結果、学内の活性化に繋がるとともに適切な教員評価への参考となる。
改善を要する点
・非常勤講師に対する教育能力等評価基準は定められていないため、早急に規則等の作成および非常勤講師の評価体制を整備する必要がある。

基準３　学習環境及び学生支援等

評価の視点

３－１　学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ＩＣＴ環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。

観点３－１－①　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。

【留意点】

○　(4)の専用の施設とは、高等専門学校設置基準第 23 条に規定する施設のことである。

関係法令	(設)第 22 条、第 23 条、第 24 条、第 26 条、第 27 条、第 27 条の 2、(施)第 172 条の 2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 校地面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■確保している □確保していない	**◇【別紙様式】高等専門学校現況表**
(2) 校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■確保している □確保していない	**◇【別紙様式】高等専門学校現況表**
(3) 運動場を設けているか。 ■校舎と同一の敷地内又はその隣接地に設けている □その他の適当な位置に設けている □設けていない	**◇設置状況がわかる資料** 資料３－１－①－（３）「運動場の設置状況」 **◆その他の適当な位置に設けているをチェックした場合は、その設置場所を具体的に記述する。**
(4) 高等専門学校の校舎に専用の施設を法令に従い適切に備えているか。 ■備えている □備えていない	**◇設置状況がわかる資料** 資料３－１－①－（４）「専用の施設の配置状況」
(5) 学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■実験・実習工場 □練習船 □その他	**◇設置状況がわかる資料** 資料３－１－①－（５）「付属施設の設置状況」 **◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体的に記述する。**
(6) 自主的学習スペースを設けているか。 ■設けている □設けていない	**◇設置状況がわかる資料** 資料３－１－①－（６）「自主的学習スペース」
(7) 教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■厚生施設 ■コミュニケーションスペース ■その他	**◇設置状況がわかる資料** 資料３－１－①－（７）－１ 「厚生施設(鵬翔会館)、コミュニケーションスペース(図書館ロビー・コミュニケーションスペース)」 **◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体**

	的に記述する。 資料３－１－①－（７）－２ 「ICT 環境の充実」 アクティブラーニングの必要性が認識され、学生が利用可能なデスクトップパソコンを学術情報センターCAI 室に 50 台、視聴覚室に 47 台、演習室に 25 台、端末室に 22 台、CAD 室にパソコン 46 台、および授業で使用するタブレット 44 台、ChromeBook 84 台を設置している。また、CAD 室にはパソコン 43 台が設置されている。 各ホームルームにキャンパス Wifi が利用可能な設備を設置した。これにより、BlackBoard や Office365 を活用した授業資料の配付や閲覧が容易に出来るようになり、自学自習の利便性を向上させることが出来ている。
(8) 施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇安全衛生管理体制がわかる資料** 資料３－１－①－（８）－１ 「苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程」 資料３－１－①－（８）－２ 「苫小牧工業高等専門学校安全衛生委員会規則」 **◇設備使用に関する規定、設備利用の手引き等** 資料３－１－①－（８）－３ 「安全管理マニュアル等、実験実習工場での安全管理」 資料３－１－①－（８）－４ 「各実験実習工場の緊急連絡先」
(9) (8)の体制が有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	**◆安全(指導)管理に係る講習会等が行われている実例に関する資料を基に記述する。** 学校医あるいは苫小牧緑が丘病院医院長等による健康哉メンタルヘルスに関する講演会を教職員対象に２年に１回実施している。また、定期的に職場巡視を実施して作業環境の安全管理を図るとともに、改善点があれば改善策を立案･実行し、改善報告を義務づけている。 資料３－１－①－（９）－１ 「安全衛生委員会活動計画および活動報告（抜粋)」 資料３－１－①－（９）－２ 「作業場巡視」 資料３－１－①－（９）－３ 「安全衛生に関する講演会」 資料３－１－①－（９）－４ 「定期的に職場巡視を行って安全管理に関する注意喚起」
(10) 施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇施設・設備の整備状況・整備計画等のバリアフリー化への取組を示す資料** 資料３－１－①－（１０）－１ 「障害者への支援（バリアフリー）を示す資料（玄関のスロープ、トイレ、エレベーターの設置など)」

	資料３－１－①－（１０）－２ 「苫小牧工業高等専門学校キャンパスマスタープラン新旧対照表」 本校では、施設・設備等のバリアフリー化に取り組んでいるが、十分とは言えない状況である。今後もキャンパスマスタープランに則って継続して整備する必要があると認識している。
(11) 整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇体制に関する規程等の資料** 資料３－１－①－（１１）－１ 「教育･生活環境の利用状況や満足度が分かる資料（図書館･保健室･相談室・相談室等の利用人数)」 資料３－１－①－（１１）－２ 「学生の満足把度握する体制を示す資料」 学校長と学生会役員との懇談会の前には評議委員会を通して全学生の学校への改善要望を収集している。また、学生寮においては、寮務寮生会懇談会や階長会議を通して全寮生の改善要望を収集している。
(12) (11)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇教育・生活環境の利用状況や満足度等が把握できる資料** （再掲）資料３－１－①－（１１）－２ 「学生の満足把度握する体制を示す資料」 **◆左記について、改善を行った事例があれば、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。** 学生の教育･生活環境の改善事例の一例として、次の例が挙げられる。 「寮内清掃を依頼している業者の人手が減った事により清掃に要する時間が長くなるようになった。その結果、女子寮の昼食時間帯に食事を摂っている多目的ホールの清掃がなされるようになり､女子寮生から改善して欲しい旨の意見が出た。そこで清掃業者と検討し、昼食時の清掃箇所を変更することで対応した。」

観点３－１－②　教育内容、方法や学生のニーズに対応したＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

【留意点】

○　この観点のＩＣＴ環境とは、無線・有線ＬＡＮやパソコン等の活用環境等のネットワークシステムの整備状況（利用可能なエリアの状況も含む。）の概要を想定しており、ネットワークシステムの具体的な方式等については資料として求めていない。

○　この観点では、ハードウェアの側面から捉えたＩＣＴ環境について分析するものとし、ソフトウェアの側面から構築された成績確認や学習相談等に関するシステムの整備については、観点３－２－②で分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育内容、方法や学生のニーズに対応したＩＣＴ環境を適切に整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇ＩＣＴ環境の整備状況がわかる資料（学校内ネットワーク環境の整備状況、授業内外で学生が利用可能なパソコンの台数、情報処理センターの組織規程等。）** 資料３－１－②－（１）－１ 「情報処理施設利用案内」 資料３－１－②－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校学術情報センター規程」 資料３－１－②－（１）－３ 「eduroamAP 設置個所一覧」
(2) ＩＣＴ環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇セキュリティ管理に関する規程等、セキュリティポリシー、セキュリティシステムの概要、ＩＣＴ環境の管理体制及び業務内容、講習会等がわかる資料** 資料３－１－②－（２）－１ 「苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ組織体制に関する規程」 資料３－１－②－（２）－２ 「苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程」 資料３－１－②－（２）－３ 「苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程」 資料３－１－②―（２）－４ 「ネットワーク利用の手引き」
(3) ＩＣＴ環境は有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	**◇ＩＣＴ環境の利用状況がわかる資料** 資料３－１－②－（３）－１ 「平成３０年度情報処理施設利用実績」 資料３－１－②－（３）－２ 「iPad 貸出簿」 令和元年度で、延べ約 100 回の稼働実績。 資料３－１－②－（３）－３ 「学生用 365 掲示板使用例」 資料３－１－②－（３）－４ 「blackboard の活用例」
(4) (3)について学生や教職員のＩＣＴ環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 □整備している ■整備していない	**◇体制に関する規定等の資料** 現状は整備されていないため、今後に向けて満足度を把握し、改善を行う体制を整備することを検討している。
(5) (4)の体制が機能しているか。 □機能している ■機能していない	**◆左記について、改善を行った事例がある場合は、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。** 上述の(4)の説明のとおり。

観点３－１－③　図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有

効に活用されているか。

【留意点】

○　教育課程、学科の種類、学年区分に応じて、教育研究上必要となる図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の資料が系統的（学科構成に対応した系統性、学習内容に対応した分野やレベル等の系統性。）に収集、整理されているかについて分析すること。また、活用面について、これらの資料の教職員や学生による利用状況等について分析すること。

○　図書等の整備方針、整備状況及び図書館等の開館時間がわかる資料を提示すること。

関係法令	(設)第 25 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 図書館の設備を法令に従い備えているか。 ■備えている □備えていない	**◇整備状況がわかる資料** 資料３－１－③－（１）－１ 「苫小牧工業高等専門学校学生便覧(p. 82)」 資料３－１－③－（１）－２ 「高専設置基準第 25 条」
(2) 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。 ■系統的に収集、整理している □系統的に収集、整理していない	**◇整備方針、整備状況（内訳、冊子等のデータ）がわかる資料** 資料３－１－③－（２）－１ 「蔵書内訳　分類等」 資料３－１－③－（２）－２ 「図書選定結果（一部抜粋)」 資料３－１－③－（２）－３ 「図書選定結果（議事録)」
(3) (2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	**◇図書館等の教職員や学生による利用状況（図書等貸出数、図書館入館者数）がわかる資料** 資料３－１－③－（３）－１ 「貸出統計１、貸出統計１、貸出統計１」 資料３－１－③－（３）－２ 「入館統計１、入館統計２」
(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇図書館等の利用サービスに係る取組（開館時間への配慮、職員等によるガイダンス等）がわかる資料** 資料３－１－③－（４）－１ 「図書館の公開、開館時間等」 資料３－１－③－（４）－２ 「図書館利用案内」 資料３－１－③－（４）－３ 「新入生向けガイダンス資料」

３－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

３－２　教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。

観点３－２－①　履修等に関するガイダンスを実施しているか。

【留意点】

○　入学時や授業登録時等において実施しているガイダンスについて、学校全体に対するものか、学年全体に対するものか、学科・専攻ごとに実施するものか、それぞれの内容が適切なものかについて分析すること。

○　図書館、実験・実習工場等の利用に関するガイダンスの実施について分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学科生 ■専攻科生 ■編入学生 ■留学生 □障害のある学生 □社会人学生 □その他	**◇実施状況がわかる資料** 資料３－２－①－（１）－１ 「新入生入学式当日の時間配当表」 資料３－２－①－（１）－２ 「新入生（専攻科）入学式当日の時間配当表」 資料３－２－①－（１）－３ 「新入生（留学生）入学式当日の時間配当表」 資料３－２－①－（１）－４ 「2019 年度第１学年オリエンテーション実施要領」 資料３－２－①－（１）－５ 「2019 年度第１学年オリエンテーションアンケート結果」 資料３－２－①－（１）－６ 「2019 年度第２学年オリエンテーション実施要項」 資料３－２－①－（１）－７ 「専攻科ガイダンス（１年生）日程表」 資料３－２－①－（１）－８ 「専攻科ガイダンス（２年生）日程表」 資料３－２－①－（１）－９ 「2019 年度インターンシップ事前研修会実施要項」 **◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**

観点３－２－②　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

○　(1)の相談・助言体制については、学生への周知状況（刊行物、プリント、ウェブサイト等の該当箇所。）につい

ても分析すること。 ○　相談・助言体制やニーズ把握の仕組みが機能しているかを確認するため、それぞれの体制の利用状況や、ニーズを把握するための仕組みについて分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 ■対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 ■ＩＣＴを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 □外国への留学に関する支援体制の整備 □その他	**◇チェックした選択肢に関する状況がわかる資料** 資料３－２－②－（１）－１ 「平成 31 年度校務分担表（抜粋）」 資料３－２－②－（１）－２ 「平成 31 年度前期授業時間割（抜粋）」 資料３－２－②－（１）－３ 「第 1 学年学修強化時間帯と「高専での学習のヒケツ」について」 資料３－２－②－（１）－４ 「学生相談室案内」 （再掲）資料３－１－②－（３）－４ 「blackboard の活用例」 資料３－２－②－（１）－５ 「平成 30 年度英語学力テスト実施要項」 **◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**
(2) (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	**◇各種相談助言体制の利用状況（実績・相談対応例等）がわかる資料** 資料３－２－②－（２）－１ 「学生相談室の利用状況について」 資料３－２－②－（２）－２ 「平成 31 年度学習強化時間帯出欠簿」
(3) 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の導入 ■学生との懇談会 ■意見投書箱 □その他	**◇制度がわかる資料** （再掲）資料３－２－②－（１）－１ 「平成 31 年度校務分担表（抜粋）」 （再掲）資料３－２－②－（１）－２ 「平成 31 年度前期授業時間割（抜粋）」 資料３－２－②－（３）－１ 「学生の要望に関する手続き」 資料３－２－②－（３）－２ 「学生との懇談会について」 資料３－２－②－（３）－３ 「意見投書箱について」 **◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記**

	し、その状況がわかる資料を提示する。
(4) (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	**◇制度の機能状況がわかる資料** 資料３－２－②－（３）－２ （再掲）「学生との懇談会について」
観点３－２－③　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	
【留意点】 ○　障害者差別解消法への対応については、学校独自の取組のほか、設置法人が当該学校を対象として対応しているものについても、資料として提示すること。 ○　(10)については、必須入力欄ではないことに留意し、該当する取組が行われている場合のみ、「行っている」にチェック■し、右欄にそれに関して記述すること。	
関係法令	教育基本法第４条第２項（教育の機会均等）　障害者差別解消法第５条（社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮に関する環境の整備）及び第７条（行政機関等における障害を理由とする差別の禁止）又は第８条（事業者における障害を理由とする差別の禁止）第９条～11 条 ※障害者差別解消法とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成二十五年法律第六十五号）」の略称のこと。
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇整備状況がわかる資料** 資料３－２－③－（１）「外国人留学生規則」
(2) (1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇留学生を支援する取組（留学生指導教員の配置、留学生チューターの配置等）がわかる資料** **◇支援の実施状況がわかる資料** 資料３－２－③－（２）－１ 「入学式当日の時間配当〔留学生〕」 資料３－２－③－（２）－２「留学生科目シラバス」 資料３－２－③－（２）－３「外国人留学生一覧」 資料３－２－③－（２）－４「留学生懇談会」
(3) 編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇整備状況がわかる資料** 資料３－２－③－（３）「教員組織等規程」 学級担任及び副担任の配置により、編入学生に対する支援体制が整備されている。
(4) (3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇編入学生を支援する取組がわかる資料** **◇入学前の指導を行っている場合には、指導スケジュール、指導内容等が記載された資料** **◇入学後に補習授業や学習相談等を行っている場合には、実施状況及びその内容（担当教員、実施科目、対象者別実施回数、使用教材等。）** **◇支援の実施状況がわかる資料**

	資料３－２－③－（４）－１ 「編入学生入学前送付文書」 　入学前に編入学生に対して、資料を送付することで事前学習、準備が可能となるよう支援を行っている。 資料３－２－③－（４）－２ 「入学式当日の時間配当〔編入生〕」 　入学式当日は編入学生用の時間配当を行うことで、編入学生及び保護者との懇談時間を確保している。 資料３－２－③－（４）－３「オフィスアワーについて」 　各科目においてオフィスアワーを設定し、編入学生の修学支援を行っている。
(5) 社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇整備状況がわかる資料** （再掲）資料３－２－③－（３）「教員組織等規程」 　学級担任および副担任の配置により、社会人学生に対する支援体制が整備されている。
(6) (5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇社会人学生を支援する取組（情報提供（電子メール、ウェブサイト等。））がわかる資料** **◇社会人学生に対する学習相談の制度が把握できる資料（オフィスアワー一覧表、配付プリントの該当箇所等。）** **◇支援の実施状況がわかる資料** （再掲）資料３－２－③－（３）－２ 「オフィスアワーについて」 　各科目においてオフィスアワーを設定し、社会人学生の就学支援を行っている。
(7) 障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇整備状況がわかる資料** 資料３－２－③－（７）－１ 「学生の就学支援に関する要項」 資料３－２－③－（７）－２ 「発達障害等就学支援委員会規程」
(8) (7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇障害のある学生を支援する取組（ノートテーカー、チューターの配置）がわかる資料** **◇支援の実施状況がわかる資料** 資料３－２－③－（８） 「支援サポートチームメンバー一覧」
(9) 障害者差別解消法第５条及び第７条又は第８条（第９条、第 10 条、第 11 条の関係条項も含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	**◇対応状況がわかる資料** 資料３－２－③－（９） 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」
(10) 上記以外の特別な支援を行っているか。 □行っている ■行っていない	**◆左記について、該当する取組があれば、資料を基に記述する。**
観点３－２－④　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	

【留意点】なし。

関係法令 | (法)第 12 条　学校保健安全法第 8 条、第 13 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学生相談室 ■保健センター ■相談員やカウンセラーの配置 ■ハラスメント等の相談体制 ■学生に対する相談の案内等 ■奨学金 ■授業料減免 □特待生 ■緊急時の貸与等の制度 □その他	**◇それぞれの体制の整備状況がわかる資料（生活指導の体制、指導内容、組織図、関連規程、委員会等。）** **◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。** 資料３－２－④－（１）－１「学生委員会規程」 資料３－２－④－（１）－２「専攻科委員会規程」 資料３－２－④－（１）－３「学生相談室規程」 資料３－２－④－（１）－４「学生相談室ポスター」 資料３－２－④－（１）－５ 「ハラスメントの防止等に関する要項」 資料３－２－④－（１）－６ 「奨学金、災害給付、授業料免除等の支援」 資料３－２－④－（１）－７「臨時採用の周知」
(2) 健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	**◇各取組の実施状況がわかる資料** 資料３－２－④－（２）－１「健康診断の実施について」 資料３－２－④－（２）－２「保健室だより」
(3) (2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の活動が実際に学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	**◇相談実績（相談・対応例）、各体制に係る委員会等の実施状況がわかる資料** **◇奨学金等の利用状況がわかる資料** 資料３－２－④－（３）－１ 「学生相談室について 平成３０年度総括」 資料３－２－④－（３）－２ 「授業料免除及び奨学金について」

観点３－２－⑤　就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

○　資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談を行っている場合には、担当教員、受講者数、実施科目、対象者別実施回数、使用教材、配布プリント等、概要がわかる資料を根拠資料として提示すること。また、資格試験・検定試験の受験者数、合格者数等の実績から機能しているかを分析すること。

○　資格取得による単位修得の認定を行っている場合には、関連規程、単位認定実績等を根拠資料として提示すること。

○　外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等を行っている場合には、内容が把握できる資料や関連規程、留学実績等を根拠資料として提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇体制の整備状況がわかる資料** 資料３－２－⑤－（１） 「苫小牧工業高等専門学校キャリア教育センター規程」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/kitei
(2) (1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校としてどのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 □進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 ■進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ■資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	**◇左記でチェック■した取組状況がわかる資料** 資料３－２－⑤－（２）－１ 「2019 年度キャリア教育実施計画」 資料３－２－⑤－（２）－２ 「平成 31 年度「創造工学Ⅰ」における「キャリアパス講話」実施要領」 資料３－２－⑤－（２）－３ 「2019 年度インターンシップ事前研修会実施要項」 （再掲）資料３－２－⑤－（１） 「苫小牧工業高等専門学校キャリア教育センター規程」 資料３－２－⑤－（２）－５ 「COC+企業説明会」について 資料３－２－⑤－（２）－６ 「2019 年度企業訪問スケジュール表（抜粋)」 資料３－２－⑤－（２）－７ 「2019 年度進学ガイダンス実施要項」 資料３－２－⑤－（２）－８ 「2019 年度就職ガイダンス実施要項(案)」 **◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**
(3) (2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	**◇それぞれの取組の（活用）実態がわかる資料** 資料３－２－⑤－（３） 「平成 30 年度卒業者進路状況」

観点３－２－⑥　学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■満たしていると判断する
□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇課外活動に関する規程、組織図、施設の整備状況がわかる資料** 資料３－２－⑥－（１）－１「学生委員会規程」 資料３－２－⑥－（１）－２ 「〔１〕課外活動指導に対する申し合わせ」 資料３－２－⑥－（１）－３ 「〔２〕クラブ顧問の受諾について」

	資料３－２－⑥－（１）－４ 「課外活動に係る活動方針」 資料３－２－⑥－（１）－５ 「課外活動施設配置図」
(2) (1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	**◇(1)の体制において、責任の所在がわかる資料** 資料３－２－⑥－（２） 「2019 年度　クラブ・同好会顧問一覧表」
(3) 学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	**◇課外活動に対する支援活動の内容がわかる資料** 資料３－２－⑥－（３）－１「年間活動表（抜粋)」 資料３－２－⑥－（３）－２ 「全道・全国大会及びこれらにつながる大会への出場について」

観点３－２－⑦　学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

□学生寮を整備していないので、該当しない（→この場合は、(1)以下の記入は不要）

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生寮を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇整備状況がわかる資料** 資料３－２－⑦－（１）－１ 「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋） 資料３－２－⑦－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校ホームページ　学生生活＞学生寮＞施設案内」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/campus_life/dorm/annai
(2) 生活の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇生活支援の内容がわかる資料（談話室、補食室等の整備状況等。）** 資料３－２－⑦－（２）「学生寮平面図」
(3) 勉学の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇学習支援の内容がわかる資料（自習室の整備状況、自習時間の設定状況等の整備面での工夫等。）** 資料３－２－⑦－（３）－１「日課表」 （再掲）資料３－２－⑦－（２）「学生寮平面図」
(4) (2)(3)について、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	**◇入寮状況がわかる資料** 資料３－２－⑦－（４）－１「寮生数一覧表」 資料３－２－⑦－（４）－２ 「入寮者選考に関する申合せ」 **◇勉学の場としての活用実績がわかる資料** ○男子寮 （再掲）資料３－２－⑦－（３）－１「日課表」 資料３－２－⑦－（４）－３「自習時間」 資料３－２－⑦－（４）－４「自習室」

	資料３－２－⑦－（４）－５「鍵貸出簿」 ○女子寮 資料３－２－⑦－（４）－６「自習時間」 資料３－２－⑦－（４）－７「多目的ホール」
(5) 管理・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇学生寮の管理規程等の資料** 資料３－２－⑦－（５） 「苫小牧工業高等専門学校寄宿舎規則」
３－２　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準３

基準に対する総括と評価

学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されている。また、ICT 環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されている。

教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能している。また、学生の課外活動に対する支援体制が整備され、機能している。

以上の内容を総合して、「基準 3 を満たしている」と判断する。

優れた点

低学年からキャリア教育を推進するために、キャリア教育センターが中心となって「ジョブトーク」、「地元企業人によるキャリア講演」、「進路指導ガイダンス」、「進学・就職ガイダンス」、「企業説明会」等を実施している。

改善を要する点

・ICT 環境に対する教職員の要望を把握する体制が整っていないため、早急に改善する必要がある。
・校舎内のバリアフリー化への取り組みを行っているが、十分な状況ではない。今後も継続してキャンパスマスタープランに則り、推進する必要がある。

基準４　財務基盤及び管理運営

評価の視点

４－１　学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。

観点４－１－①　学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。

【留意点】

○　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できるよう校地、校舎等の資産を保有しているか、経常的な収入が確保できているか、債務超過や支出超過の状態がある場合、運営上問題とならないものか等の状況について分析すること。

関係法令	(設)第 27 条の 2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 過去５年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。 ■なっている □なっていない	**◇過去５年間の貸借対照表等の財務諸表** 資料４－１－①－（１）－１ 「平成２６年度から平成３０年度貸借対照表」 資料４－１－①－（１）－２ 「平成２６年度から平成３０年度損益計算書」 **◇長期未払金、長期借入金がある場合は、その内容を確認できる資料** 資料４－１－①－（１）－３ 「長期未払金等の内容を確認できる資料」 **◇臨時利益又は臨時損失が計上されている場合は、その内容が確認できる資料** 資料４－１－①－（１）－４ 「平成２６年度から平成３０年度臨時損失・臨時利益内訳」
(2) 校地、校舎等の資産を保有しているか。 ■保有している □保有していない	**◇その内容を確認できる資料** 資料４－１－①－（２） 「令和元年度本校の所有地及び施設・設備」
(3) 過去５年間において運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。 ■確保している □確保できない年があった	**◇過去５年間の運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の収入状況** 資料４－１－①－（３） 「平成２６年度から平成３０年度収入状況一覧表」 **◆確保できない年があった場合は、実状を踏まえて、資料を基に記述する。**
(4) 過去５年間の収支状況において支出超過となっていないか。	**◇過去５年間の資金収支計算書及び消費収支計算書** **「利益分析」**

■支出超過となっていない □支出超過となった年があった	資料４－１－①－（４） 「平成２６年度から平成３０年度決算報告書」 **◆支出超過となった年があった場合は、実状を踏まえて、資料を基に記述する。**

観点４－１－②　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 収支に係る方針、計画等を策定しているか。 ■策定している □策定していない	**◇収支に係る方針や計画策定に関する予算関連規程等** 資料４－１－②－（１）－１ 「収支に係る方針や計画策定に関する予算関連が示された規程」 **◇予算配分や収支に係る方針、計画等がわかる資料** 資料４－１－②－（１）－２ 「予算配分方針」
(2) (1)を関係者（教職員等）へ明示しているか。 ■明示している □明示していない	**◇予算の関係者（教職員等）への明示状況を把握できる資料** 資料４－１－②－（２） 「収支に係る方針、計画について関係者に明示していることがわかる資料」

観点４－１－③　学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。

【留意点】

○　予算配分の方針が定められ、その方針に則り実際の予算配分が行われているか、プロセス（手続きの流れ）の適切性も含めて分析すること。

○　予算の配分状況と、その実績（執行状況）を対比させて分析すること。

○　校長裁量経費等の重点配分経費の配分基準等の策定状況（手続き、経路、決定機関等。）についても併せて分析すること。

関係法令　(設)第 27 条の 2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇予算配分実績(教育経費、研究経費、施設設備費の配分実績)** 資料４－１－③－（１）－１ 「予算配分実績がわかる資料」

	◇校長裁量経費等の重点配分経費を設定している場合は、その資源配分が把握できる資料 資料４－１－③－（１）－２ 「校長裁量経費の配分について」 **◇予算関連規程等** 資料４－１－③－（１）－３ 「予算配分が審議・決定する機関が示されている規程」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2014/03/kitei/ks2040.pdf **◇予算配分に係る審議状況がわかる資料（議事録等）** （再掲）資料４－１－②－（２） 「収支に係る方針、計画について関係者に明示していることがわかる資料」 **◇施設・設備の整備計画の全体像がわかる資料（学内全体のマスタープラン等。）** 資料４－１－③－（１）－４ 「令和２年度施設整備に係る概算要求状況」 資料４－１－③－（１）－５ 「施設の整備計画」 資料４－１－③－（１）－６ 「設備の整備計画」
(2) 資源配分が、４－１－②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。 ■整合性がある □整合性がない	**◆資源配分と収支に係る方針、計画との整合性、執行状況との対応について、資料を基に記述する。その際、資源配分の決定プロセスの整合性についても言及する。** （再掲）資料４－１－②－（１）－２ 「予算配分方針」 （再掲）資料４－１－③－（１）－１ 「予算配分実績がわかる資料」 本校の予算配分方針は、教育研究活動の目標達成のための事項を考慮してスタッフ会議で検討し、運営委員会で審議決定している。この方針に基づき、予算配分が審議され、適切な予算配分が行われ、適切に執行されている。 資料４－１－③－（２） 「予算の執行状況」 （再掲）資料４－１－③－（１）－２ 「校長裁量経費の配分について」 また、重点的・弾力的な予算執行を図るため、校長裁量経費を設定し、教育研究活動の活性化のため各科・教員から教育・研究プロジェクトを募り、予算配分をしている。
(3) 資源配分の内容について、関係者（教職員等）に明	**◇予算の関係者（教職員等）への明示状況を把握できる**

示しているか。 ■明示している □明示していない	**資料** （再掲）資料４－１－②－（２） 「収支に係る方針、計画について関係者に明示していることがわかる資料」

観点４－１－④　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。

【留意点】

○　設置者の説明責任を果たすという観点から、財務書類の公表状況について分析すること。

○　会計監査の実施状況についても分析すること。

関係法令	独立行政法人通則法第 38 条、第 39 条　私立学校法第 47 条　私立学校振興助成法第 14 条　その他財務諸表に関する各種法令等　独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令第 12 条　その他情報公開に関する法令等、それぞれの設置形態別に定められた法令　私立学校法第 37 条第 3 項　私立学校振興助成法第 14 条第 3 項　地方自治法第 199 条　その他会計監査等に関する各種法令等

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公表しているか。 ■作成・公表している □作成・公表していない	**◇作成・公表状況がわかる資料** 資料４－１－④－（１） 「財務諸表等の作成」 https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#zaimu_shohyo
(2) 財務に係る監査等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	**◇学内会計監査規程（科学研究費助成事業等の外部資金に関する監査規程も含む。）** 資料４－１－④－（２）－１ 「財務に係る監査を実施していることがわかる資料」 資料４－１－④－（２）－２ 「財務に係る学内監査を実施していることがわかる資料」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2018/04/ks4170.pdf **◇外部監査、学内監査の監査報告書、国立高等専門学校の場合は、国立高等専門学校間の相互監査報告書** 資料４－１－④－（２）－３ 「学内監査を実施していることがわかる資料」 資料４－１－④－（２）－４ 「高専間の相互監査を実施していることがわかる資料」 補足：資料中に記載の【確認】については、要改善には至らないが会計処理について助言・アドバイスがあった項目である。

４－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

４－２　学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。

観点４－２－①　管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

【留意点】

○　観点２－１－③の教育に係る組織等を除き、管理運営に係る体制について、分析すること。

○　組織図については、観点２－１－③の教育に係る組織等を含む、学校全体の教育研究及び管理運営全体がわかるものの提示が望ましい。

○　議事録又は議事要旨等については、過去１年分提示すること。

○　役割分担が適切であるとは、各種委員会及び事務組織等がそれぞれの役割分担において責任を有しつつ協力して円滑な管理運営の実現に資する状況にあることを想定している。

関係法令	(法)第 120 条第 3 項　(施)第 175 条　(設)第 10 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 管理運営体制に関する規程等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇管理運営に関する諸規程、整備状況がわかる資料** 資料４－２－①－（１）－１ 「苫小牧工業高等専門学校の諸規程の整備」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/kitei 資料４－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校の各種委員会の役割」
(2) 委員会等の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇諸規程、整備状況がわかる資料（組織図等）** 資料４－２－①－（２） 「委員会等の体制を示す組織図」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/organization
(3) 校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	**◇役割分担がわかる資料** 資料４－２－①－（３）－１ 「役割分担」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2020/01/kitei/ks1010.pdf http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2014/03/kitei/ks2010.pdf 主事の役割 学則第 9 条及び教員組織等規程第 5 条及び第 6 条で規定 副校長の役割 教員組織等規程第 4 条で規定 センター長の役割 教員組織等規程第 10 条及び第 11 条で規定 主事補、副センター長の役割

	教員組織等規程第８条、第９条及び第 12 条、第 13 条で規定
(4) 事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇規程等、整備状況がわかる資料** （再掲）資料２－４－②－（１）－２ 「事務組織の配置を示す規程」 （再掲）資料２－４－②－（１）－３ 「事務組織の役割を示す規程」
(5) 教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連携体制を確保しているか。 ■確保している □確保していない	**◇規定等、教員と事務職員が構成員として構成されている会議体がわかる資料** （再掲）資料４－２－①－（１）－２ 「苫小牧工業高等専門学校の各種委員会の役割」
(6) (1)～(5)の体制の下、効果的な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇活動状況がわかる資料（会議の開催回数、議事要旨等。）** 資料４－２－①－（６）－１ 「各委員会の活動状況」 ファイルサーバに各委員会資料及び議事要旨をフォルダ毎に保存し、教職員が閲覧できるようにしている。 資料４－２－①－（６）－２ 「各委員会の開催状況」
観点４－２－②　危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇規程等、整備状況がわかる資料** 資料４－２－②－（１）－１ 「危機管理等の規程」 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2018/04/ks2530-1.pdf http://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2019/08/kitei/ks8010.pdf リスク管理及び情報セキュリティ管理について、本校 HP 上で公表している。 資料４－２－②－（１）－２ 「危機管理体制」
(2) 危機管理マニュアル等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇危機管理マニュアル等の資料** 資料４－２－②－（２） 「危機管理マニュアル等」 ファイルサーバにマニュアル等を保存し、閲覧可能としている。
(3) (1)(2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。	**◇訓練や講習会等の実施状況がわかる資料** 資料４－２－②－（３）－１

■行っている □行っていない	「防災訓練」 資料４－２－②－（３）－２ 「標的型メール対応訓練」 資料４－２－②－（３）－３ 「危機管理テーブル訓練」

観点４－２－③　外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。

【留意点】

○　過去５年間の外部資金について、明確な獲得方策（獲得のための取組。）を有するか、十分な獲得実績があるか等について、分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 外部の財務資源（科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等）を積極的に受入れる取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇過去５年間の科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等、外部の財務資源の受入れへの取組及び受入実績に関する資料** 資料４－２－③－（１）－１「科学研究費補助金一覧」 資料４－２－③－（１）－２「共同研究等一覧」 資料４－２－③－（１）－３ 「科学研究費助成事業に関する説明会」 資料４－２－③－（１）－４ 「科研申請インセンティブ配分」 資料４－２－③－（１）－５「2018 年度活動報告表」 資料４－２－③－（１）－６「CD 活動報告」 **資料４－２－③－（１）－７「協議会運営体制」**
(2) 公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	**◇管理体制がわかる資料（規程等）** 資料４－２－③－（２）－１「管理体制等」

観点４－２－④　外部の教育資源を積極的に活用しているか。

【留意点】

○　高等専門学校の教育研究の基盤としての、地域や同窓会等を中心とする外部教育資源、又は退職技術者を含む企業人等の教育研究的資源の活用について分析すること。

○　「社会とともに次世代の技術者を育成する」協働教育の理念を実践する活動例について分析すること。

○　財務的資源については、観点４－２－③で分析し、ここでは教育資源、研究的資源について分析すること。

○　提示する資料の例としては、次のものを想定している。（全ての取組を求めているものではない。）

・　高等教育機関の間で締結している学生・教員交流等、外部の機関の持つ教育力の活用例の資料（協定等を含む。）

・　産学連携関係の共同研究や共同教育の実施例の資料

・　地域や同窓会等の有識者や経験者による授業、実習、課外活動等の指導支援に関する資料

・　地域にある教育設備（図書館、博物館等。）、体育施設の利用及び支援がわかる資料

・　地域の催事等を含む地域社会との交流体験実施例の資料

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない	**◇活用状況がわかる資料** 資料４－２－④－（１）－１(p.1) 「苫小牧高専協力会」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/collaborate/cooperative 資料４－２－④－（１）－２(p.2) 「苫小牧高専協力会によるイベント」 資料４－２－④－（１）－３(p.3) 「“とまなか”で実施するハイブリッド型イノベーション人材の育成」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/wp01/wp-content/uploads/2018/09/initiative2018.pdf 資料４－２－④－（１）－４(p.4) 「ＣＯＣ＋北海道」 http://cocplus.hokkaido.jp/%e5%8c%97%e6%b5%b7%e9%81%93coc%e3%82%b3%e3%83%b3%e3%82%bd%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%82%a2%e3%83%a0%e3%81%a8%e3%81%af/%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e5%ae%9f%e6%96%bd%e4%bd%93%e5%88%b6/ 資料４－２－④－（１）－５(p.5) 「専攻科における共同教育」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/date/2017/12 資料４－２－④－（１）－６(p.6) 「創造工学Ⅰにおけるジョブトーク」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/date/2018/12 資料４－２－④－（１）－７(p.7) 「北海道警察サイバーセキュリティ対策本部とのサイバーセキュリティの分野における人材の育成に関する協定」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/date/2018/03 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/date/2019/02 資料４－２－④－（１）－８(p.9) 「Ｋ－ＳＥＣ事業」 https://www.seccon.jp/2019/beginners/about-seccon-beginners.html 資料４－２－④－（１）－９(p.10) 「産学官等との連携協定」 資料４－２－④－（１）－１０(p.11) 「連携協定による事業の一例」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/news/13300.html https://www.tomakomai-ct.ac.jp/date/2019/02

観点４－２－⑤　管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。

【留意点】

○　ファカルティ・ディベロップメントに関連した教育の質の向上や授業の改善に関する教育支援者に対する取組は観点２－４－③で分析するため、ここでは、スタッフ・ディベロップメント（以下「ＳＤ」という。）への取組を分析すること。

○　ＳＤとは、事務職員等のほか、教授等の教員や校長等の執行部に対し、教育研究活動等の効果的な運営を図るため、必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるための研修（管理運営等の研修）のことをいう。

関係法令	(設)第 10 条の 2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ＳＤ等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	**◇規程等の資料** 資料４－２－⑤－（１）－１ 「独立高等専門学校機構教職員就業規則および独立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則」 **◇実施状況（参加状況等）がわかる資料** 資料４－２－⑤－（１）－２ 「平成３０年度男女共同参画推進意識啓発講演会の開催案内および講演会参加報告」 資料４－２－⑤－（１）－３ 「平成３０年度ハラスメントに関する講演会の開催案内および講演会参加者出欠表」 資料４－２－⑤－（１）－４ 「平成３０年度苫小牧高専 SD 研修会の開催通知および講演会参加者出欠表」

４－２　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

４－３　学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。

観点４－３－①　学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第 172 条の２に規定される事項を含む。）が公表されているか。

【留意点】

○　高等専門学校の教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報を、わかりやすい表現やアクセスしやすい手段を用いて、社会に発信しているか分析すること。

関係法令	(施)第 172 条の 2、(施)第 165 条の 2、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について（通

	知）22 文科高第 236 号平成 22 年 6 月 16 日

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第 165 条の２第１項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	**◇刊行物の該当箇所がわかる資料** 資料４－３－①－（１）－１(p.1) 「学生便覧目次」 資料４－３－①－（１）－２(p.4) 「学生便覧奥付（学校の目的)」 資料４－３－①－（１）－３(p.5) 「学生便覧（専攻科）目次」 資料４－３－①－（１）－４(p.6) 「学校要覧目次」 資料４－３－①－（１）－５(p.7) 「学校要覧（教員一覧)」 資料４－３－①－（１）－６(p.8) 「researchmap による教員業績の公表」 https://researchmap.jp/researchers 資料４－３－①－（１）－７(p.9) 「Web シラバスによる授業方法、授業計画の公表」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=02&lang=ja なお、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマポリシーについては、令和２年度からは、学校要覧にも掲載予定である。 また、授業料等については、本校ホームページにも掲載されている。 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/exam/tuition **◇【別紙様式】ウェブサイト掲載項目チェック表**
(2) 特に、高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第 165 条の２第１項の規定により定める方針について、学校内の構成員への周知を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇周知状況がわかる資料** （再掲）資料１－１－③－（１）－３(p.4) 「教職員アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 （再掲）資料１－１－③－（１）－５(p.11) 「学生アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 資料４－３－①－（２）－１(p.10) 「教員会議における目的・三つの方針の周知」 資料４－３－①－（２）－２(p.11)

	「ホームルーム掲示による学習目標の周知」 なお、令和2年度からは、常勤職員、非常勤教職員への当該方針の周知も行う予定である。 また、令和2年度からは、本校の目的、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマポリシーについて、学生便覧にも掲載する予定である。
4－3　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準4

基準に対する総括と評価
学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されている。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されている。 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能している。また、外部の資源を積極的に活用している。 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供している。 以上の内容を総合して、「基準4を満たしている」と判断する。
優れた点
本校の目的を達成するために予算配分方針を策定し、適正かつ計画的な執行に対する努力を行っている。 また、2019年度以降の教育経費の配分方法の見直しを行い、運営費交付金の算定ルール（業務費△1%、一般管理費▲3%）が今後も引き続き適用される場合でも、教育経費の予算確保が柔軟に対応できる体制を整備した。 さらに、地域の自治体等と協働で積極的に各種取組を実施し、有効に活用している。
改善を要する点
・教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項で定められている方針について本校HP上で公表しているが、学校内の構成員への周知という点において工夫が必要である。

基準５　準学士課程の教育課程・教育方法

評価の視点

５－１　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。

観点５－１－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

【留意点】

○　観点１－２－②の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。

関係法令	(設)第 15 条、第 16 条、第 17 条、第 17 条の 2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	**◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料** 資料５－１－①－（１）－１ 「カリキュラム一覧表」 資料５－１－①－（１）－２ 「科目系統図」
(2) 一般教育の充実に配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	**◇配慮していることがわかる資料** 資料５－１－①－（２） 「一般選択希望調査について」
(3) 進級に関する規定を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇進級に関する規定の整備状況がわかる資料** 資料５－１－①－（３） 「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程（抜粋)」
(4) １年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35 週確保しているか。 ■確保している □確保していない	**◇35 週が確保されている状況が確認できる資料（学年暦等。）** 資料５－１－①－（４） 「平成３１年度行事予定表」
(5) 特別活動を 90 単位時間以上実施しているか。 ■実施している □実施していない	**◇特別活動の実施状況がわかる資料（学年暦等。）** （再掲）資料５－１－①－（４） 「平成３１年度行事予定表」 資料５－１－①－（５） 「平成 31 年度前期授業時間割（抜粋)」

観点５－１－②　教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。

【留意点】

○　例えば、国際的に活躍できる技術者の養成が目的に含まれる場合には、外国語の伝達と読解の基礎能力育成について分析するなど、目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして授業科目の内容の工夫を行っているか分析すること。

○　この観点では教育課程の編成について分析するものであり、正規の教育課程とは別に実施しているもの（例え

ば、補習や補講等。）は、この観点の対象ではないことに留意すること。	
関係法令	(設)第 19 条、第 20 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) □他学科の授業科目の履修を認定 ■インターンシップによる単位認定 ■正規の教育課程に関わる補充教育の実施 □専攻科課程教育との連携 ■外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成 ■資格取得に関する教育 ■他の高等教育機関との単位互換制度 ■個別の授業科目内での工夫 ■最先端の技術に関する教育 ■その他	**◇チェックした配慮項目に関して、実施状況がわかる資料** 資料５－１－②－（１）－１ 「インターンシップ（学外研修）シラバス」 資料５－１－②－（１）－２ 「数学補習について」 資料５－１－②－（１）－３ 「英語特論 A シラバス」 資料５－１－②－（１）－４ 「室蘭工業大学との単位互換に関する協定」 資料５－１－②－（１）－５ 「令和元年度第一回校内研究授業の実施結果について」 資料５－１－②－（１）－６ 「平成３１年度第４学年総合研修旅行予定一覧」 **◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。** 創造工学Ⅰでは、資料５－１－②－（１）－７「創造工学Ⅰガイダンス資料」のとおり、1 年生全員に対して、工学基礎教育(ダイソンの掃除機分解や固体燃料ロケットの打ち上げ等)、情報教育（北大 1 年生と同等の Python プログラミング、北海道警察と共同での情報セキュリティ教育等)、2 年生からの専門系を選ぶためのキャリア教育等を実施している。また、毎回ランダムで編成されるグループでの活動を通じて、コミュニケーションやプレゼン能力も育成している。 創造工学Ⅱでは、資料５－１－②－（１）－８「創造工学Ⅱ前期ガイダンス資料」、資料５－１－②－（１）－９「創造工学Ⅱ後期ガイダンス資料」のとおり、各専門分野における技術教育に加えて、2 年生全員に対して情報教育（Arduino を用いたプログラム教育、情報セキュリティ教育)、ワークシートや講演会を通したキャリア教育、幅広い工学的視野を涵養するための他専門分野の実験・演習、地域産業に対する理解を深めるための工場見学を実施ししている。また、まとめとして実施する系混合グループで実施する PBL 型授業において、ディスカッション能力やプレゼンテーション能力、課題発見能力を育成している。

	創造工学Ⅲでは、資料５－１－②－（１）－１０「創造工学Ⅲ前期ガイダンス資料」、資料５－１－②－（１）－１１「創造工学Ⅲ後期ガイダンス資料」のとおり、さらに幅広く工学的視野を育成するために他専門分野の実験・演習に取り組ませるほか、卒業生による講演会や地域企業の社会人との座談会によるキャリア教育、3 年生全員に対して共通の情報教育を実施している。また、半年を通して行う PBL 型授業では、系混合グループにおいて地域の課題発見／解決に取り組ませることで、地域理解の向上を図るほか、協働能力、プレゼンテーション能力、体系的思考能力、情報活用能力、ニーズ発見能力の育成をしている。
(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。 ■適切に取り扱っている □適切に取り扱っていない □単位互換制度を設けていないので、該当しない	**◇単位互換制度の内容がわかる資料** 資料５－１－②－（２） 「室蘭工業大学との単位互換に関する協定実施要項」

観点５－１－③　創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。

【留意点】

○　創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、ＰＢＬ型の授業や創造型の演習等においての具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。

○　創造力を育む教育方法の工夫については、学校としてどう捉え、どう展開しているかを踏まえて分析すること。

○　実践力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、インターンシップの活用等の具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。

（注）ＰＢＬとは、プロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法のこと。Problem - based Learning 又は Project - based Learning の略。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（ＰＢＬ型の授業や創造型の演習の実施等）** 資料５－１－③－（１）－１ 「創造工学Ⅰシラバス」 資料５－１－③－（１）－２ 「創造工学Ⅱシラバス」 資料５－１－③－（１）－３ 「創造工学Ⅲシラバス」 資料５－１－③－（１）－４ 「創造工学Ⅰ教材作成 PBL 概要」 資料５－１－③－（１）－５

	「創造工学Ⅱ5 系混合グループワークについて」 資料５－１－③－（１）－６ 「創造工学Ⅲ後期ガイダンス」 **◇実施状況がわかる資料** 資料５－１－③－（１）－７ 「2019 高専フォーラム OS 発表資料（抜粋)」 **◆工夫を行った結果、学生が創造力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。** 第１学年の創造工学Ⅰ、第２学年の創造工学Ⅱ、第３学年の創造工学Ⅲといった学年進行に応じた PBL 教育を体系的に整備し、目的を達成するためのプランニング、グループ内での役割分担、スケジュール管理を含め、課題に対する新たなアイデアを創出することが取り組める授業構成として取り組んでいる。 また、課題内容として SDGs 達成に対しての企画作りや、地域商店会の課題解決のための企画作りといった地域創生に関する内容を取り入れ、社会的なニーズデザイン能力の向上を図っている。加えて、より効果的に協働能力を向上させることを大きな狙いとして、分野横断型グループで上記のことを実施している。年度末に評価が決定するが、学生は活発に取り組んでいる。
(2) 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（インターンシップの実施等。）** （再掲）資料５－１－②－（１）－１ 「インターンシップ（学外研修）シラバス」 **◇実施状況がわかる資料** 資料５－１－③－（２）－１ 「平成３１年度学外実習実施状況」 資料５－１－③－（２）－２ 「フロンティアコースの具現化に関する第２次答申（抜粋)」 資料５－１－③－（２）－３ 「機械設計製図Ⅲ　シラバス」 **◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。**
５－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

評価の視点

５－２　準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点５－２－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。

【留意点】なし。

関係法令	(設)第 17 条の 2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1)　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■採用されている □採用されていない	**◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料** （再掲）資料５－１－①－（１）－１ 「カリキュラム一覧表」 （再掲）資料５－１－①－（１）－２ 「科目系統図」 資料５－２－①－（１） 「科目統括表」 **◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。** 一般科目と専門科目のバランスはいわゆるくさび形となっており、高学年には選択科目が配置されている。また、分野別に基礎から応用へ段階的に科目が配置され、専門性に照らした体系性をもった教育課程となっている。なお、全学科ともに、実験・実習・演習・製図・卒業研究などの実技系科目が、学年ごとに配置されている。
(2)　教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教材の工夫 □少人数教育 ■対話・討論型授業 ■フィールド型授業 ■情報機器の活用 ■基礎学力不足の学生に対する配慮 ■一般科目と専門科目との連携 □その他	◇チェックした項目の実施状況がわかる資料 （再掲）資料５－１－③－（１）－１ 「創造工学Ⅰシラバス」 （再掲）資料５－１－③－（１）－２ 「創造工学Ⅱシラバス」 （再掲）資料５－１－③－（１）－３ 「創造工学Ⅲシラバス」 （再掲）資料５－１－③－（１）－４ 「創造工学Ⅰ教材作成 PBL 概要」 （再掲）資料５－１－③－（１）－５ 「創造工学Ⅱ5 系混合グループワークについて」 （再掲）資料５－１－③－（１）－６ 「創造工学Ⅲ後期ガイダンス」 資料５－２－①－（２）－１ 「「フィールドワークⅠ」シラバス」

	資料５－２－①－（２）－２ 「iPad と Chromebook の利用について」 資料５－２－①－（２）－３ 「数学補習について」 資料５－２－①－（２）－４ 「令和元年度第１回教員連絡ネットワーク」 **◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**

観点５－２－②　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【留意点】なし。

関係法令　(設)第 17 条、第 17 条の 3

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

□満たしていると判断する

■満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■授業科目名 ■単位数 ■授業形態 ■対象学年 ■担当教員名 ■教育目標等との関係 ■達成目標 ■教育方法 ■教育内容（１授業時間ごとに記載） ■成績評価方法・基準 ■事前に行う準備学習 ■高等専門学校設置基準第 17 条第 3 項の規定に基づく授業科目か、4 項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 ■教科書・参考文献 □その他	**◇シラバスの作成要領や具体例等の左記内容がわかる資料** 資料５－２－②－（１）－１ 「シラバス作成手順」 （再掲）資料５－１－③－（１）－１ 「創造工学Ｉシラバス」 **◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容（項目）を記述する。**
(2) 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。 □改善を行っている ■改善を行っていない	**◇活用状況がわかる資料** **◆改善を行った事例があれば、改善内容について、資料を基に記述する。** 平成 31 年度後期に実施する授業アンケートに当該項目を盛り込み、状況の把握及び改善を実施する予定として

	いる。
(3) 設置基準第 17 条第 3 項の 30 単位時間授業では 1 単位当たり 30 時間を確保しているか。 ■確保している □確保していない	**◇状況が確認できる資料（学年暦、時間割等。）** （再掲）資料５－１－①－（４） 「平成３１年度行事予定表」
(4) (3)の 30 単位時間授業では、１単位時間を 50 分としているか。 □１単位時間＝50 分で規定・運用 ■１単位時間＝50 分で規定、45 分で運用	**◆１単位時間を 50 分以外で運用している場合は、標準 50 分に相当する教育内容を確保していることについて、学校の現状を踏まえ、資料を基に記述する。** 令和 2 年度から、90 分（45 分×2）の授業時間で運用する。これにより、出欠確認、教材や機器等の準備・後片付け作業が一度で済み、標準 50 分×2 に相当する教育内容を確保する。 資料５－２－②－（４） 「授業時間の変更について」
(5) １単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて 45 時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、１単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて 45 時間であることを明示しているか。 ■明示している □明示していない	**◇シラバス集、履修要項等の明示状況がわかる資料** 資料５－２－②－（５） 「「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋）」
(6) (5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■授業外学習の必要性の周知 □事前学習の徹底 □事後展開学習の徹底 □授業外学習の時間の把握 □その他	**◇チェックした方策の具体的な内容がわかる資料** 資料５－２－②－（６） 「生産工学　シラバス」 **◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。**
５－２　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
評価の視点 **５－３　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム･ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。**	
観点５－３－①　成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	
【留意点】なし。	
関係法令	(設)第 17 条の 3

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム･ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	**◇成績評価や単位認定に関する規程等の該当箇所** 資料５－３－①－（１） 「「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋)」
(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料** 資料５－３－①－（２） 「第１～４学年の進級認定について」
(3) １単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	**◇学校として把握していることがわかる資料** （再掲）資料５－２－②－（６） 「生産工学　シラバス」 資料５－３－①－（３）－１ 「生産工学課題採点一覧」 資料５－３－①－（３）－２ 「生産工学成績採点表」
(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	**◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料** 資料５－３－①－（４） 「「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋)」 Web シラバス https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=02&lang=ja
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 □把握している ■把握していない	**◇認知状況がわかる資料** 資料５－３－①－（５） 「2019年度　後期授業アンケートの実施に関して」 平成３１年度後期に実施する授業アンケートに当該項目を盛り込み、状況の把握及び改善を実施する。
(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料** （再掲）資料５－３－①－（４） 「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋)」
(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	**◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規程等がわかる資料** 資料５－３－①－(７)－１ 「平成３０年度後期答案返却日スケジュール」 定期試験において答案返却日を設定し、全ての科目の答案を確認する機会を設けている。

	資料５－３－①－(７)－２ 「前期成績の訂正について」
(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □ＧＰＡの進級判定への利用 □成績分布のガイドラインの設定 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	**◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。** 資料５－３－①－(３)「答案保存資料点検結果について」により、教員相互が各科目の成績評価の点検を行っている。 資料５－１－①－(４)「平成３１年度行事予定表」のとおり、答案返却日を設けて答案を返却している。 資料５－３－①－(８)「模範解答例について」のとおり、模範解答を学生に周知している。 資料５－３－①－(３)「答案保存資料点検結果について」により、各科目の成績評価の平均点、試験及びその評価方法は適切であるか等により、試験問題のレベルを確認している。 **◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。**
観点５－３－②　卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	
【留意点】なし。	
関係法令	(法)第 117 条　(設) 第 17 条第 3～6 項、第 17 条の 2、第 17 条の 3、第 18 条、第 19 条、第 20 条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学則等に、修業年限を５年（商船に関する学科は５年６月。）と定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇学則等の該当箇所がわかる資料** 資料５－３－②－（１） 「「苫小牧工業高等専門学校学則」(抜粋)」
(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇定めている該当規程や卒業認定基準** 資料５－３－②－（２） 「「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」(抜粋)」
(3) 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 ■認定している □認定していない	**◇関係する委員会等の会議資料** 資料５－３－②－（３） 「卒業認定について」
(4) 卒業認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	**◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料** （再掲）資料５－３－②－（２） 「「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の

	修了及び卒業の認定に関する規程」(抜粋)」
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 □把握している ■把握していない	**◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料** 現状、卒業認定基準の認知状況は学校として把握できていない。今後、学生へのアンケート調査を実施し認知状況の確認を行う。
５－３　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準５

基準に対する総括と評価
本校における教育課程は、カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な編成となっており、内容や水準についても学生のニーズや学術的・社会的動向を踏まえた適切なものとなっている。 また、この教育課程に合わせて授業形態や学習指導法についても様々な工夫がなされており、成績評価・単位認定および卒業認定についてもディプロマ・ポリシーに基づき適正になされている。 以上の内容を総合して、「基準 5 を満たしている」と判断する。
優れた点
1 年生～3 年生の全系共通科目である創造工学 I～Ⅲという講義において、ICT 教育、キャリア教育、分野横断型グループによる PBL 教育等を実施し、低学年時より分野横断型能力の育成と幅広い分野に対応できる工学基礎能力の育成を図っている。 また、個別の授業においてもグループワークなどの AL 型教育の導入の工夫がなされている。加えて、情報機器を活用した教育の充実化がなされており、授業内において Ofiice365 や Blackboard が積極的に活用されている。
改善を要する点
・現状では、学生のシラバス活用状況や単位認定等の基準の認識状況を学校として把握できていない。そのため、平成 31 年度後期より、アンケートにより学校としての状況把握を行い、これを改善に授業改善等に活かしていく予定である。

基準６　準学士課程の学生の受入れ

評価の視点

６－１　入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

観点６－１－①　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。

【留意点】

○　合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。

関係法令	(設)第 3 条の 2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等。）となっているか。 ■なっている □なっていない	**◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料** 資料６－１－①－（１）－１ 「入学試験委員会議事録」 資料６－１－①－（１）－２ 「令和２年度学生募集要項（抜粋）」

観点６－１－②　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇検証する体制に関する資料** **◇改善に役立てる体制に関する資料** 資料６－１－②－（１） 「入学試験委員会規程」
(2) (1)の体制の下、 実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇検証を行っていることがわかる資料** 資料６－１－②－（２） 「入学動機に関するアンケート調査
(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ■改善に役立てている □改善に役立てていない	**◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立てている状況について、資料を基に記述する。** アドミッション・ポリシーを入学者選抜に反映させる

	取組みは、平成 18 年度学生募集から始めている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入となっているかどうかの検証は入学生に対するアンケート結果（資料６－１－①－（２）「入学動機に関するアンケート調査」）を元に行われており、検証の結果、今のところ変更を要しないと判断している。

観点６－１－③　実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【留意点】

○　(2)の体制の整備は、必ずしもこの取組に特化した組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとしている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。

○　(3)の入学定員に対する入学者数は、大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準に照らして、分析すること。

関係法令	(設)第 4 条の 2、第 5 条第 2 項　大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成 15 年３月 31 日文部科学省告示第 45 号）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生定員を学科ごとに１学級当たり 40 人を標準として、学則で定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇学則の該当箇所** 資料６－１－③－（１） 「「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋)」
(2) 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇体制の整備に係る規程等がわかる資料** （再掲）資料６－１－①－（１）－１ 「入学試験委員会議事録」
(3) 過去５年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■適正である □超過又は不足がある	**◇【別紙様式】平均入学定員充足率計算表**
(4) 過去５年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 □行っている □行っていない ■過去５年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	**◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する学科について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。**

６－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

基準６

基準に対する総括と評価
本校における入学者選抜では、アドミッション・ポリシーに沿った適切な方法において実施されており、実入学者数と入学定員との関係は適正化がなされている。 以上の内容を総合して、「基準 6 を満たしている」と判断する。
優れた点
入学定員と実入学者数との関係が適正化されるように検討・改善を図る体制に優れている。そのため、過去 5 年間において実入学者数と入学定員の関係は常に適正に保たれており、安定した学校運営や教育が行われている。
改善を要する点
・現状、改善を要する点はないと判断する。

基準７　準学士課程の学習・教育の成果

評価の視点

７－１　卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。

観点７－１－①　成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。

【留意点】

○　学生の成績（卒業時のＧＰＡ値等。）や原級留置の状況、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇体制の整備状況がわかる資料** 資料７－１－①－（１）－１ 「「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋）」
(2) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	**◇成績評価・卒業認定等に関するデータ・資料** **◇把握・評価の実施状況がわかる資料** 資料７－１－①－（２）－１ 「教員会議卒業認定について」
(3) (2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。** 卒業認定資料および評価内訳表より十分な学習･教育の成果が認められる。

観点７－１－②　達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。

【留意点】

○　(1)の体制の整備が、観点７－１－①と同じ体制で実施されている場合には、観点７－１－①と同じ資料となる。

○　(2) (3) (4)は、観点１－１－③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が卒業時に身に付ける学力､資質･能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している	**◇体制の整備状況がわかる資料** （再掲）資料１－１－③－（１）－１ 「アンケート調査による各者の意見聴取の要項」 （再掲）資料１－１－③－（１）－６ 「学習・教育到達目標の到達度アンケート実施要項」

□整備していない	（再掲）資料１－１－③－（１）－９ 「卒業生･修了生アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」 （再掲）資料１－１－③－（１）－１１ 「進路先アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」 **◇意見聴取の結果に関するデータ・資料** 資料１－１－③－（１）－７ （再掲）「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果（本科)」 （再掲）資料１－１－③－（１）－１０ 「卒業生･修了生アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 （再掲）資料１－１－③－（１）－１２ 「進路先アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」 **◇把握・評価の実施状況がわかる資料** **◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。** 資料１－１－③－（１）－７「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果（本科)」、資料１－１－③－（１）－１０「卒業生・修了生アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」、資料１－１－③－（１）－１２「進路先アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」から、概ね卒業の認定に関する方針に沿った学習・教育の成果が認められると判断できる。
(2) 学生が卒業時に身に付けた学力､資質･能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習･教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	
(3) 学生が卒業時に身に付けた学力､資質･能力について、卒業生（卒業後５年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習･教育の成果の把握･評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	
(4) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	
(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	

観点７－１－③　就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。

【留意点】なし。

関係法令	(法)第 122 条　(施)第 178 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■満たしていると判断する
□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として把握している最近５年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◇【別紙様式】卒業者進路実績表** 資料７－１－③－（１） 「卒業者進路実績表」 **◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、**
(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各学科	

の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	**資料を基に記述する。** 卒業者進路実績表より、過去 5 年間の就職・進学については、ほぼ 100%である。卒業の認定に関する方針に沿った学習・教育の成果として、十分な結果が得られている。
7－1　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準 7

基準に対する総括と評価
成績評価・卒業認定の結果、学生からの意見聴取および卒業後の進路状況から、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められる。 以上の内容を総合して、「基準 7 を満たしている」と判断する。
優れた点
平成 31 年度の求人倍率は 28 倍以上と高く、企業から卒業生が高い評価を得ている。 また、30 年度卒業生の本校の教育目標に対する学生の自己達成度評価の結果において、全ての項目において 4 段階評価で平均 3 以上の値が得られている。
改善を要する点
・卒業生からの意見聴取や、進路関係者からの意見聴取を踏まえた学習・教育成果の見直しを定期的に実施する必要がある。

基準８　専攻科課程の教育活動の状況

評価の視点

８－１　専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。

観点８－１－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

【留意点】

○　観点１－２－⑤の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。

○　本評価書Ⅰ(1)４．において、特例適用専攻科又はＪＡＢＥＥ認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

本校が掲げる養成すべき人材像に対応すべく、専攻科修了時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らして、修了時の到達目標を具体的に定めた上で、各授業科目を各学年に適切に配置している。また、各専攻の専門を考慮しその目的を達成できるように授業科目の内容を決定している。

以上により、特例適用専攻科の認定及びJABEE認定プログラムの認定に係る結果を利用できると判断する。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 □配置している □配置していない	**◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料**

観点８－１－②　準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

【留意点】

○　本評価書Ⅰ(1)４．において、特例適用専攻科又はＪＡＢＥＥ認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

本校は準学士課程 4,5 年から専攻科 1,2 年の課程に対応した「環境・生産システム工学」教育プログラムを設定している。本プログラムは日本技術者教育認定機構により認定されており、専攻科課程の学習・教育目標は本プロ

グラムの学習・教育目標にすべて包含されている。よって、教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展などを考慮した教育課程となっているといえる。

以上により、特例適用専攻科の認定結果を利用できると判断する。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。 □考慮している □考慮していない	**◇連携及び発展等の考慮状況がわかる資料**

観点８－１－③　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。

【留意点】

○　本評価書Ⅰ(1)４．において、ＪＡＢＥＥ認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

JABEE 認定における自己点検書関連資料である「教育プログラムの科目流れ」に示されているように教育プログラムを設定している。この教育プログラムは、各専攻において、講義、演習、実験、実習等の授業形態がバランス良く配置されている。教育の目的を踏まえた上で、講義と実際の問題とが結びつくような工夫、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、情報機器の活用、フィールドワーク等を含む学習指導の工夫がなされている。

以上により、JABEE 認定プログラムの認定に係る結果を利用できると判断する。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 □採用されている □採用されていない	**◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料** **◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。**
(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） □教材の工夫 □少人数教育 □対話・討論型授業 □フィールド型授業 □情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 □一般科目と専門科目との連携 □その他	**◇チェックした項目の実施状況がわかる資料** **◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。**

観点８－１－④　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導

が適切に行われているか。

【留意点】

○　教養教育の実施状況や学生の研究指導が、学校教育法上の目的及び学校の教育の目的を達成する上で適切なものであるかどうかを分析すること。

○　本評価書Ⅰ(1)４．において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

関係法令	(法)第 119 条第 2 項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

教養教育は、地球的・国際的な視点から幅広い教養を有する技術者を育成するための教育が実施されている。

「特別研究」は複数教員体制を敷き、研究に関して学生との打ち合わせをした上で実施している。また、1 年次には「中間発表会を兼ねた学外発表会」、2 年次には「特別研究発表会」を通じて指導教員以外からも研究に対するアドバイスが得られるような機会を保証している。

以上により、特例適用専攻科の認定結果を利用できると判断する。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 □行っている □行っていない	**◇教養教育や研究指導の実施状況がわかる資料**

観点８－１－⑤　成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。

【留意点】

○　本評価書Ⅰ(1)４．において、ＪＡＢＥＥ認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

成績評価に関する規程が整備されており、これらの規程は「学生便覧・シラバス」に記載される等、学生に周知されている。また成績評価が正しく行われたことを確認するシステムもあり、成績評価、単位認定はこれらにより適切に実施されている。

以上により、JABEE 認定プログラムの認定に係る結果を利用できると判断する。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 □策定している	**◇成績評価や単位認定に関する規定等の該当箇所**

□策定していない	
(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 □行っている □行っていない	**◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料**
(3) １単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 □把握している □把握していない	**◇学校として把握していることがわかる資料**
(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 □周知している □周知していない	**◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料**
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 □把握している □把握していない	**◇認知状況がわかる資料**
(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。 □定めている □定めていない	**◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料**
(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 □ある □ない	**◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規定等がわかる資料**
(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □成績評価の妥当性の事後チェック □答案の返却 □模範解答や採点基準の提示 □ＧＰＡの進級判定への利用 □成績分布のガイドラインの設定 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック □試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	**◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。** **◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。**
観点８－１－⑥　修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	
【留意点】 ○　本評価書Ⅰ(1)４．において、ＪＡＢＥＥ認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。	

関係法令	(法)第 119 条第 2 項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

修了認定等に関する規程が整備されており、これらの規程は「学生便覧・シラバス」に記載される等、学生に周知されている。また、成績評価が正しく行われたことを確認するシステムもあり、修了認定はこれらにより適切に実施されている。

以上により、JABEE 認定プログラムの認定に係る結果を利用できると判断する。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学則等に、修業年限を１年以上と定めているか。 □定めている □定めていない	**◇学則等の該当箇所がわかる資料**
(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。 □定めている □定めていない	**◇定めている該当規程や修了認定基準**
(3) 修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 □認定している □認定していない	**◇関係する委員会等の会議資料**
(4) 修了認定基準を学生に周知しているか。 □周知している □周知していない	**◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料**
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 □把握している □把握していない	**◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料**

８－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

特に専攻科課程の教育課程及び教育方法に関して、準学士課程の５－１及び５－２の内容を参考に、特記すべき個性や特色等があれば、自由に記入すること。

評価の視点

８－２　専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。

観点８－２－①　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。

【留意点】

○　合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■満たしていると判断する
□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。 ■なっている □なっていない	**◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料** 資料８－２－①－（１） 「専攻科入学者選抜について」 面接試験において、アドミッションポリシーに沿って受験者の資質を評価・判断している。

観点８－２－②　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■満たしていると判断する
□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇検証の体制に関する資料** 資料８－２－②－（１）－１ 「苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程」 **◇改善に役立てる体制に関する資料** （再掲）資料８－２－②－（１）－１ 「苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程」 資料８－２－②－（１）－２ 「専攻科のアドミッション・ポリシーの改正について」
(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 □行っている ■行っていない	**◇検証を行っていることがわかる資料** アドミッション･ポリシーに沿った学生を受け入れているかどうかの検証及び改善に関する取り組みは、現在のところ必ずしも十分であるとは言えない。 そのため、令和２年度からはアンケート等による検証を行うとともに、その結果は入試委員会において改善に役立てる。
(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 □改善に役立てている ■改善に役立てていない	**◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立てている状況について、資料を基に記述する。** アドミッション･ポリシーに沿った学生を受け入れているかどうかの検証及び改善に関する取り組みは、現在のところ必ずしも十分であるとは言えない。 そのため、令和２年度からはアンケート等による検証を行うとともに、その結果は入試委員会において改善に役立てる。

観点８－２－③　実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【留意点】

○　⑵の体制の整備は、必ずしもこの取組のためだけの組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとなっている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
⑴ 学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇学則等の該当箇所** 資料８－２－③－（１） 「「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋）」
⑵ 専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇体制の整備に係る規程等がわかる資料** 資料８－２－③－（２） 「入学試験委員会規程」
⑶ 過去５年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■適正である □超過又は不足がある	**◇【別紙様式】平均入学定員充足率計算表** 過去５年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数については、５年間の平均としては妥当であるが、年度によっては入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあるため、改善の取り組みを行っていく必要がある。
⑷ 過去５年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 □行っている □行っていない ■過去５年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	**◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する専攻について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。**

８－２　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

８－３　修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。

観点８－３－①　成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

○　学生の成績（修了時のＧＰＡ値等。）や修業年限修了率、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の

率。）等、成果を総合的に分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇体制の整備状況がわかる資料** 資料８－３－①－１ 「教育プログラム履修のてびき」 資料８－３－①－２ 「専攻科委員会の審議事項」 資料８－３－①－３ 「専攻科特別研究の評価法及び基準」
(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	**◇成績評価・修了認定等に関するデータ・資料** 資料８－３－①－４ 「平成 29 年度専攻科入学者 環境･生産システム工学教育プログラム成績評価表」
(3) (2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◇把握・評価の実施状況がわかる資料** 資料８－３－①－５ 「専攻科課程修了時の目標達成状況の把握・評価」 資料８－３－①－６ 「教員会議での修了認定」 （再掲）資料８－３－①－３ 「専攻科特別研究の評価法及び基準」 資料８－３－①－７ 「地域連携シンポジウムにて行われた専攻科特別研究発表の関連資料」 **◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。** 専攻科課程では修了時に、専攻科委員会が専攻科 2 年生の教育プログラム達成度集計表を作成し、達成度の状況を確認の上、修了を認定することによって教育の成果を確認している（資料８－３－①－４）。 また、毎年地元企業人等を対象として開催される専攻科 1 年次の「中間発表会を兼ねた学外発表会」（資料８－３－①－７）において全員が発表し、その内容等は高い評価を得ている。

観点８－３－②　達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

○　(1)の体制の整備が、観点８－３－①同じ体制で実施されている場合には観点８－３－①と同じ資料となる。
○　(2)(3)(4)は、観点１－１－③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■満たしていると判断する
□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇体制の整備状況がわかる資料** 資料８－３－②－１ 「卒業生、企業へのアンケート実施要領」 資料８－３－②－２ 「卒業生、企業へのアンケートの依頼文」
(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇意見聴取の結果に関するデータ・資料** 資料８－３－②－３ 「達成度自己評価の実施についての委員会資料」 資料８－３－②－４ 「専攻科生への達成度自己評価の集計結果」 資料８－３－②－５ 「学修教育目標達成度点検記録簿」 資料８－３－②－６ 「専攻科生への達成度自己評価の実施」
(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	**◇把握・評価の実施状況がわかる資料** 資料８－３－②－７ 「修了生のアンケート集計結果」 資料８－３－②－８ 「企業のアンケート集計結果」
(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	
(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。** 在学生については、本科 4,5 年と専攻科 1,2 年次に達成度自己評価のアンケートを実施している。一方、2012 年以降は、卒業生・修了生や進路先関係者等に対しアンケートを実施していないため、卒業生・修了生と進路先関係者等に対する意見聴取の結果に基づく学習・教育・研究の成果が把握されていない。よって、卒業生・修了生と進路先関係者等を含めた範囲での学習・教育・研究の成果については評価できていない。

観点８－３－③　就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として把握している最近５年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◇【別紙様式】修了者進路実績表** 資料８－３－③－１ 「卒業生・修了生の就職状況」 資料８－３－③－２ 「修了生の進路状況」
(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	**◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。** 就職先の産業・職業分野については、各専攻ともほとんどが工業・技術系となっており、本校の養成すべき人材像及び各専攻の目的に沿ったものとなっている（資料８－３－③－１）。 また、進学先の教育機関・専門分野に関しても、本校の養成すべき人材像及び各専攻の目的に沿った理工系の大学学部・大学院研究科となっている（資料８－３－③－２）。

観点８－３－④　修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

○　学位の取得を目的としていない専攻科については、「□学位の取得を目的としていないので、該当しない」の欄をチェックすること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

□学位の取得を目的としていないので、該当しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1)過去５年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◇学位取得状況がわかる資料** 資料８－３－④－１ 「平成２５年度入学者　環境･生産システム工学教育プログラム達成度集計表」 資料８－３－④－２ 「平成２６年度入学者　環境･生産システム工学教育プログラム達成度集計表」 資料８－３－④－３ 「平成２７年度入学者　環境･生産システム工学教育プログラム達成度集計表」 資料８－３－④－４

	「平成２８年度入学者 「環境・生産システム工学」教育プログラム達成度集計表」 資料８－３－④－５ 「平成２９年度入学者 「環境・生産システム工学」教育プログラム達成度集計表」
８－３　特記事項　　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準８

基準に対する総括と評価

専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われている。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっている。

専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況である。

修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められる。

以上の内容を総合して、「基準８を満たしている」と判断する。

優れた点

地元の企業人等を招き、専攻科 1 年次の学外研修(共同教育)の成果報告会や特別研究の中間発表の場として毎年実施している「対外的な発表会」については、研究成果を学外に向けて発信し、学外の目で評価される貴重な場として、大きな教育効果を上げている。

改善を要する点

・2012 年以降、卒業・修了生や進路先関係者へ向けたアンケートを実施しておらず、意見聴取の結果による改善のため、定期的に実施する必要がある。

・アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかどうかの検証及び改善に関する取り組みは、現在のところ必ずしも十分であるとは言えない。

基準９（独自評価事項）　国際交流活動の状況

評価の視点

９－１　国際交流に関する体制が適切に整備され、目的に沿った活動の成果が挙げられていること。

観点９－１－①　国際交流に関する体制及び支援体制が適切に整備されているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 国際交流活動に関する目的、基本方針、実施体制を適切に定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇定めていることがわかる資料** 資料９－１－①－（１）－１ 「国際交流活動の目的」 令和 2 年度に国際交流活動の目的の明文化やホームページ等での公開が決定している。 資料９－１－①－（１）－２ 「平成 30 年度活動計画表」 資料９－１－①－（１）－３ 「国際交流を主導する委員会」 資料９－１－①－（１）－４ 「総務委員会設置の国際交流の実施母体」 資料９－１－①－（１）－５ 「学術交流協定一覧」

観点９－１－②　国際交流に関する目的に沿った活動の成果が上げられているか。

【留意点】

○　目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した国際交流活動の目的等に照らして、成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）** 資料９－１－②－（１）－１ 「国際交流事業の活動参加者数がわかる資料」 資料９－１－②－（１）－２ 「平成 30 年度国際交流事業の詳細がわかる資料」 資料９－１－②－（１）－３ 「海外インターンシップ派遣事前・事後における学生の自己評価の比較」 資料９－１－②－（１）－４ 「ニュージーランド・EIT 派遣後の学生アンケート」 資料９－１－②－（１）－５ 「海外学生の本校におけるインターンシップに関するアン

	ケート」 資料９－１－②－（１）－６ 「国立高等専門学校機構の国際交流プログラムへの参加実績」 資料９－１－②－（１）－７ 「タイ・カセサート大学との学生国際会議の開催実績」 資料９－１－②－（１）－８ 「モンゴルへの海外展開事業における協力支援」 資料９－１－②－（１）－９ 「モンゴル高専連盟と日本第１ブロック高専の包括協定書」 資料９－１－②－（１）－１０ 「モンゴル・高等専門学校３校への貢献実績」

９－１　特記事項　　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

アンケート集計を行っていない海外交流事業があるが、これらについては、報告会を開き、次回以降の改善に繋げている。

基準９

基準に対する総括と評価

本校では、国際的に活躍できる能力を持つ実践的な技術者を養成することを目的に、総務委員会主導の下、国際化教育推進部会を実施母体とした国際交流を展開している。4 ヶ国 5 校と学術交流協定を締結し、海外連携校との学生派遣・受入を積極的に行っている。モンゴルに設立された 3 つの高等専門学校への協力支援校としての活動やモンゴル高専連盟と日本第１ブロック高専の包括協定、JST 日本・アジア青少年サイエンス交流事業の「さくらサイエンスプラン」を通して、学生・教職員の活発な国際交流実績を残している。また、国立高等専門学校機構の国際交流プログラムや文部科学省が展開する「トビタテ！留学 JAPAN」にも参加している。

以上のことから、本校の国際交流活動は、海外教育機関と校内組織が連携した実施体制の下、その目的の実現に向けて着実な成果を上げているものと言える。

以上の内容を総合して、「基準９を満たしている」と判断する。

優れた点

特色ある国際交流事業として、タイ・カセサート大学と協力した学生国際会議やニュージーランド・イースタン工科大学（EIT）研修時に実施している現地小学校での「海外出前実験教室」などを実施し、成果を上げている。

国立高等専門学校機構のモンゴル国への海外展開事業の協力支援校として、主導的にモンゴル３高専における教育・技術水準の向上に貢献している。この取り組みが評価され、本校教員に対して、モンゴル国政府から勲章の授与やモンゴル工業技術大学での客員教授の称号の授与がなされている。

改善を要する点

・海外学生・教員受け入れ状況は他高専と比べても高い水準にあるが、本校の目的を達成するためには、学生・教員派遣の今後の更なる発展が必要である。

基準１０（選択的評価事項Ａ）　研究活動の状況

［概要］

本校における研究の目的は、学校教育法、高等専門学校設置基準、独立行政法人国立高等専門学校機構法、学則などに基づき定められている。

本校の研究・社会貢献の目的は、学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う。また、研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与することとなっている。

各教員が、各専門分野に関する研究テーマを掲げて、幅広い分野の研究に取り組んでいる。各教員の研究分野、テーマについては学校要覧、本校ウェブサイト等にまとめられている。

具体的な取組については、地域共同研究センターを置き、研究を推進する体制を作っている。運営組織としては、センター長、副センター長を置き、専門系教員及び総務課長が加わる地域共同研究センター委員会が組織され、センターの運営管理等に関する事項を審議している。施設・設備としては、技術相談室、多目的室、応用研究室等があり、低温風洞実験装置・多機能能動的載荷試験装置・蛍光X線分析装置等が設置されている。

また、更なる研究推進を図るため、2018年10月より、苫小牧高専サテライト「C-base」を開設し、苫小牧市や苫小牧商工会議所等の専門家とチームを組み、技術経営相談窓口の運用を行っており、地元企業との共同研究等のマッチングが行える体制が整備されている。

科研費獲得に関しては、校長補佐（研究主事）の協力の元、採択率アップに向けた説明会等を実施しているほか、科研申請者に対して一定のインセンティブ経費を配分している。また、より一層の採択率アップのため、審査結果のおおよその順位が「A」であった者等に対し、重点的な配分実施を検討しているところである。

評価の視点

１０－１　高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。

観点１０－１－①　研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。

関係法令	(設)第 2 条第 2 項

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇定めていることがわかる資料** 資料１０－１－①－（１） 「研究の目的・社会貢献の目的」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/purpose1

観点１０－１－②　研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

【留意点】

○　観点１０－１－①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。

○　実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。

○　研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。

関係法令	(設)第 2 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料** 目的「学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う」に関しては、各教員が研究テーマを掲げ幅広い分野の研究を行っている。 資料１０－１－②－（１）－１ 「各教員のテーマ一覧」 目的「研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与する」に関しては、本校に地域共同研究センターを置き、運営については地域共同研究センター委員会を組織し、実施体制が整備されている。 資料１０－１－②－（１）－２ 「地域共同研究センター規程」 資料１０－１－②－（１）－３ 「地域共同研究センター委員会規程」 資料１０－１－①－（１）－４ 「地域共同研究センターの業務内容等」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/collaborate
(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料** 目的「学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う」に関しては、各教員の研究テーマを研究シーズ集にまとめて公開している。 資料１０－１－②－（２）－１「研究シーズ集」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/collaborate/seeds 目的「研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与する」に関しては、地域共同研究センターを設置している。さらに、2018 年 10 月には苫小牧高専サテライト「C-base」を開設し、2019 年 4 月からは苫小牧市及び苫小牧商工会議所と連携した運営協議会を設置している。 資料１０－１－②－（２）－２ 「地域共同研究センター施設設備」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/facility/ccrc/facility 資料１０－１－②－（２）－３ 「苫小牧高専サテライト C-base」 資料１０－１－②－（２）－４「協議会運営体制」
(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 ■整備している	**◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料** 目的「学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研

□整備していない	究を行う」に関しては、年度当初に一定の研究経費を確保するとともに、校長裁量経費による研究助成や科研費の応募促進を行っている。 資料１０－１－②－（３）－１ 「2019 年度予算配分方針」 資料１０－１－②－（３）－２ 「2018 年度追加予算配当」 資料１０－１－②－（３）－３ 「科学研究費助成事業に関する説明会」 目的「研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与する」に関しては、地域共同研究センターの研究助成制度を整えている。 資料１０－１－②－（３）－４ 「地域共同研究センター研究助成制度」
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 ■行われている □行われていない	**◇研究活動の実施状況がわかる資料** 平成 30 年度は、17 件の共同研究、4 件の受託研究、15 件の科研費研究（代表者）も行われた。 資料１０－１－②－（４）－１ 「産学連携関連件数」 資料１０－１－②－（４）－２ 「科学研究費補助金一覧」

観点１０－１－③　研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。

【留意点】

○　研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。

○　目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 ■得られている ■得られていない	**◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料** 目的「学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う」に関して、研究成果は紀要ならびに reseachmap を通して公表しており、平成 28 年度は 8 件の著書、34 件の論文・解説があった。 資料１０－１－③－（１）－１ 「研究業績一覧」 資料１０－１－③－（１）－２ 「researchmap による研究業績の公開」 目的「研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・

	社会の発展に寄与する」に関しては、地域共同研究センターを中心に活動が行われている。 資料１０－１－③－（１）－３「2018 年度活動報告表」

観点１０－１－④　研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

○　組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。

○　具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。

○　研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点１０－１－③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇改善の体制がわかる資料** 校長のリーダーシップのもとに、改善のための組織が編成され「教員組織規定」）に基づいて、役職員が配置されている。地域連携に関する研究に関しては、地域共同研究センターが年度毎に実施状況を把握し、次年度の計画策定に反映させている。 資料１０－１－④－（１）－１「組織図」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/organization 資料１０－１－④－（１）－２「教員組織等規程」 資料１０－１－④－（１）－３「役職員」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/edu-info/staff （再掲）資料１０－１－③－（１）－３ 「2018 年度活動報告表」 **◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。** 資料１０－１－②－（４）－１～２に関連して、より一層の科学研究費採択率アップのため、2020 年度より審査結果のおおよその順位が「A」であった者等に対し、重点的な配分実施を予定している。 資料１０－１－③－（１）－４ 「研究経費の追加配分について」

１０－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

基準に対する総括と評価

地域共同研究センター主導の下に、教員の研究テーマ等を公開しており、共同研究・受託研究等の数は順調に増加している。なお、科研費採択数については横ばい傾向であるため、予算配分の見直し等を検討しているところである。

本校と地域との連携状況等については、地元紙でも度々取り上げられていることからも、研究活動の目的に沿った成果が得られていることが伺える。

以上のことから本校における研究活動と、それに必要となる研究体制および支援体制が整備され、機能しており、また、十分な研究活動の成果が得られている。

以上の内容を総合して、「基準 10 を満たしている」と判断する。

優れた点

2017 年度には、校長自ら舵を取り、科研費申請に向けた呼びかけ、科研費申請書の査読等に力を入れている。

また、2018 年度に新たに開設した苫小牧工業高等専門学校サテライト「C-base」は、地域企業の技術相談窓口の役割を果たしており、地域企業との共同研究や技術開発を通して、地域社会の発展に寄与するものと期待できる。

改善を要する点

・研究活動に時間を割けるように、課外活動や寮宿直業務等における負担軽減や、事務的な業務の効率化を図るため、研究活動を含めて、教職員の負担軽減のために見直すべき業務の洗い出しを行う必要がある。

基準１１（選択的評価事項Ｂ）　地域貢献活動等の状況

本校では、地域社会との連携・協力を行い、地域活性化の核となる地域と密着した開かれた高専を目指している。2018年10月より、苫小牧高専サテライト「C-base」を開設し、苫小牧市や苫小牧商工会議所等の専門家とチームを組み、技術経営相談窓口の運用を行っており、地元企業との共同研究等のマッチングが行える体制が整備されている。

特に協力会企業との連携を密にするため、協力会企業との共同研究等を前提とした研究費配分を行うことや、苫小牧高専地域連携シンポジウムを開催し、協力会企業を中心に本校の研究成果を広くPRしている。

生涯学習活動に関しては、地域共同研究センターの委員が中心となり、小中学生向けの公開講座及び出前授業について、年間計画を立てて実施している。出前授業の材料費は上限を決め補助しているが、人気テーマの場合は申込みが殺到する傾向があり、担当者の業務負荷となっている。これを踏まえ、業務平準化のため実施方法の見直しを検討しているところである。

また、地域住民のための実験教室の実施や、白老町や苫小牧市主催イベントについても年間計画に加えて計画的に実施している。

公開講座や出前授業等ではアンケートを取っており、高い満足度を得ていることから、目的に沿った活動成果があがっていると判断できる。アンケート結果は、地域共同研究センター委員会で取りまとめ、担当者及び各系に周知し、見直しの材料としている。

以上のことから、本校では地域貢献活動が適切に行われているとともに、地域特性を生かした十分な活動の成果が認められる。

評価の視点

１１－１　高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。

観点１１－１－①　地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。

関係法令	(法)第 107 条　(設)第 21 条

【留意点】

○　なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■定めている □定めていない	**◇定めていることがわかる資料** （再掲）資料１０－１－①－（１） 「研究の目的・社会貢献の目的」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/purpose1

観点１１－１－②　地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。

【留意点】

○　実施体制について分析することは必須ではない。

関係法令	(法)第 107 条　(設)第 21 条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。	**◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料** 地域貢献活動の具体的な方針は「苫小牧工業高等専門学

■策定している □策定していない	校地域共同研究センター規程」の第１条（目的）と第２条（業務）に示している。また、年間活動計画については地域共同研究センター委員会で審議し、ホームページ等で公開講座や出前授業等の様々なメニューをお知らせしている。 （再掲）資料１０－１－②－（１）－２ 「地域共同研究センター規程」 （再掲）資料１０－１－①－（１）－４ 「地域共同研究センターの業務内容等」 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/collaborate 資料１１－１－②－（１） 「2018 年度活動計画表」
(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	**◇実施状況がわかる資料** 資料１１－１－②－（２）－１ 「苫小牧市との企業見学会」 資料１１－１－②－（２）－２ 「苫小牧高専地域連携シンポジウム」 資料１１－１－②－（２）－３ 「地域共同研究センター研究助成制度」 資料１１－１－②－（２）－４「協議会運営体制」 資料１１－１－②－（２）－５「公開講座の実施概要」 資料１１－１－②－（２）－６「出前授業の実施概要」 資料１１－１－②－（２）－７「科学のとびらの実施」 資料１１－１－②－（２）－８「協力会定期総会開催」 資料１１－１－②－（２）－９ 「苫小牧高専サテライト開設記念講演会」 資料１１－１－②－（２）－１０ 「連携協定締結記念シンポジウム」 資料１１－１－②－（２）－１１ 「とましん子供ものづくり教室」 資料１１－１－②－（２）－１２「産学官金セミナー」 資料１１－１－②－（２）－１３ 「みんなの消費生活展」 資料１１－１－②－（２）－１４ 「胆振管内アウトメディアフォーラム」 （再掲）資料１０－１－③－（１）－３ 「2018 年度活動報告表」
観点１１－１－③　地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	
【留意点】 **○　目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。**	

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 ■認められる □認められない	**◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）** 資料１１－１－③－（１）－１ 「公開講座アンケート集計」 資料１１－１－③－（１）－２ 「出前授業アンケート集計」 資料１１－１－③－（１）－３ 「科学のとびらアンケート集計」

観点１１－１－④　地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

○　具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。

○　地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点１１－１－③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	**◇改善の体制がわかる資料** （再掲）資料１０－１－③－（１）－３ 「2018 年度活動報告表」 **◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。** 地域貢献活動等の結果については、地域共同研究センター委員会で審議し、改善点等を明確にして次年度に繋がるようにしている。 資料１１－１－④－（１）－１ 「イブニングセミナーの開催結果」 資料１１－１－④－（１）－２ 「科学のとびら開催結果」

１１－１　特記事項　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

観点１１－１－③（1）

アンケート集計を行っていない事業があるが、これらについては、専門委員会で実施結果等を報告し、次回以降の改善等に繋げている。

基準１１

基準に対する総括と評価
本校が設置されている苫小牧市には、大企業の工場やその子会社、下請け企業等が多く存在している。これまでは、大企業等の牽引もあり順調に地域経済も比較的順調に推移してきた。しかし、「Society 5.0」を迎えようとしている中で、これまでの地域経済の状況は継続できないことが予想される。 本校では、大企業依存体質からの脱却を目指し、地域から内発的な新規事業を創出することを目的に、苫小牧高専サテライト「C-base」を 2018 年 10 月に設置した。設置にあたり、苫小牧市や商工会議所と包括連携を締結し、設置後は他の中小企業等と連携しながら運営しているところであり、地域からも様々な期待をされている。 以上の内容を総合して、「基準 11 を満たしている」と判断する。
優れた点
地域の中小企業支援機関から C-base へ相談案件を持ち込んでいただけるなど、本格的に地域連携が機能しつつあり、C-base を起点とした共同研究も生まれ始めている。 また、キャリア教育センターと連携して、本校協力会の会員数を増強してきたが、2013 年度末で 84 社の会員数が、2018 年度末で 178 社と 5 年間で倍増している。今後は C-base を起点として、協力会企業との連携事業をさらに深めていく必要がある。
改善を要する点
・公開講座や出前授業などの生涯学習関連業務は、教職員の多大な業務負担になっている。地域貢献活動としての費用対効果を検証し、場合によっては業務の縮小や実施方法の見直しなど、計画を再構築していく必要がある。

自　己　点　検　書
（資料編）

苫小牧工業高等専門学校

資料１－１－①－（１）－１

「自己点検・評価を実施するための方針を明記した資料」

苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則

規則第75号
制　　定　平成21年４月１日
一部改正　平成28年３月16日

（趣旨）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究水準の向上を図り，かつ，本校の目的及び社会的使命を達成するため，本校における教育研究活動等の状況について行う点検・評価等について必要な事項を定める。

（定義）
第２条　この規定において「点検・評価等」とは，次の各号に掲げる事項をいう。
一　学校教育法第123条により準用される第109条第１項に定める自己点検及び評価
二　学校教育法第123条により準用される第109条第２項に定める機関別認証評価受審のための点検及び評価
三　本校が教育研究水準の向上のため自ら受審する認定審査等受審のための点検及び評価
四　本校運営諮問会議の開催のための点検及び評価
五　その他校長が必要と認めた事項に関する点検及び評価

（実施組織）
第３条　点検・評価等の総括は運営委員会が行う。
２　点検・評価等を行う組織は，次のとおりとする。
一　創造工学科及び専攻科
二　事務部及び技術教育支援センター
三　委員会等
四　その他運営委員会が指定する組織等

（実施事項等）
第４条　第２条第一号，第四号及び第五号における点検・評価等は，運営委員会が別に定める事項について実施する。
２　第２条第二号及び第三号における点検・評価等は，認証評価機関及び審査機関の定める事項について実施する。
３　点検・評価等の実施に必要な手順及び方法等は運営委員会が別に定める。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則）

資料１－１－①－（１）－２

「自己点検・評価を実施するための具体的な方針を明記した資料」

１．評価の目的

学校教育法第 109 条第１項および第 123 条の条文に従い，自己点検及び評価を行う。本校の教育研究活動等の状況を明らかにし，それを社会にわかりやすく示すことにより，公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて，広く国民の理解と支持が得られるように，定期的に自己点検及び評価を行うことを目的とする。本校では，平成６年度，平成 12 年度，平成 18 年度，平成 24 年度に自己点検・評価を行ってきており，それらに引き続き，平成 31 年度に実施する。

（略）

２．評価の体制および評価の内容

基本的には平成 24 年度の方式を踏襲し，平成 31 年度に実施する。

実施にあたっては，「苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則」に基づいて，点検・評価等の総括は運営委員会が行う。なお，今回の点検・評価業務において運営委員会を補佐するために，運営委員会の下に，「自己点検・評価対応部会」を設置する。

運営委員会で決定した点検項目に基づき，本校の活動全般について自己点検・評価を行う。自己点検および評価の項目は，「別表　自己点検・自己評価分担」に示す 11 基準，23 視点，78 観点で構成される。具体的な評価の基準・視点・観点は，機関別認証評価における評価の基準・視点・観点を使用するが，該当する基準・視点・観点がない事項については，独自に評価の基準・視点・観点を設定する。具体的には，「国際交流に関する事項」を独自の基準・視点・観点として設定する。

自己点検・評価における分担も，「別表　自己点検・自己評価分担」に従うものとする。

「別表　自己点検・自己評価分担」の主担当対応委員会は，その分担に従って，指定された書式に則り自己点検結果・自己評価をまとめる。

（以下略）

資料１－１－①－（１）－２（続き）

◎自己点検および評価の項目（基準）
基準１　教育の内部質保証システム
基準２　教育組織及び教員・教育支援者等
基準３　学習環境及び学生支援等
基準４　財務基盤及び管理運営
基準５　準学士課程の教育課程・教育方法
基準６　準学士課程の学生の受入れ
基準７　準学士課程の学習・教育の成果
基準８　専攻科課程の教育活動の状況
基準９　国際交流に関する事項
基準 10　研究活動の状況
基準 11　地域貢献活動等の状況

（略）

３．実施時期

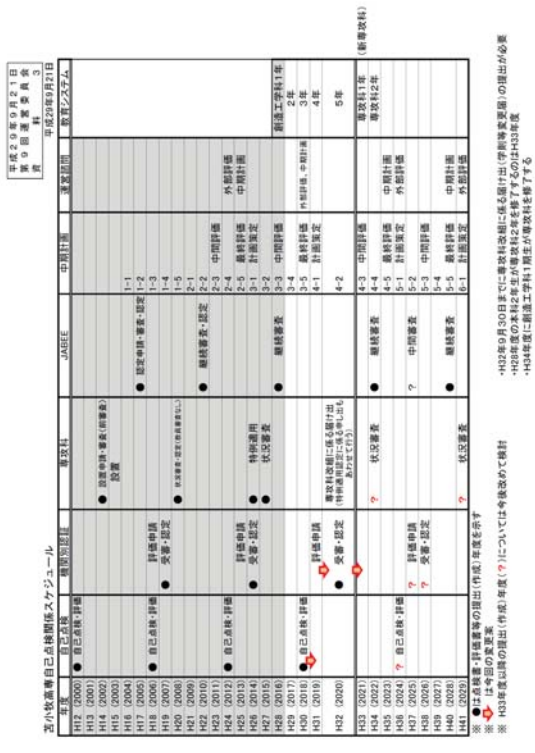
平成 31 年４月	運営委員会は，運営委員会を含む各委員会に，自己点検および評価に向けての実施要項，自己評価様式，関係資料を学内に提示する。
平成 31 年９月	運営委員会を含む各委員会は，「別表　自己点検・自己評価分担」に従って，指定された書式に則り自己点検結果・自己評価をまとめる。
平成 31 年 12 月	運営委員会は，各委員会の自己点検結果・自己評価を取りまとめ，総括としての評価を行い，自己点検・評価報告書を作成する。
平成 32 年１月	運営諮問会議において，外部評価を受ける。
平成 32 年３月	運営委員会は，外部評価報告書を含めた自己点検・評価報告書をまとめ公表する。
平成 32 年４月	運営委員会の責任において，平成 31 年度実施の自己点検結果および外部評価に対する改善計画を平成 32 年度に立案する。

（以下略）

（出典　平成 31 年度第１回運営委員会資料「学校教育法第 109 条の１に基づく自己点検及び評価の実施要項」より抜粋）

資料１－１－①－（１）－３

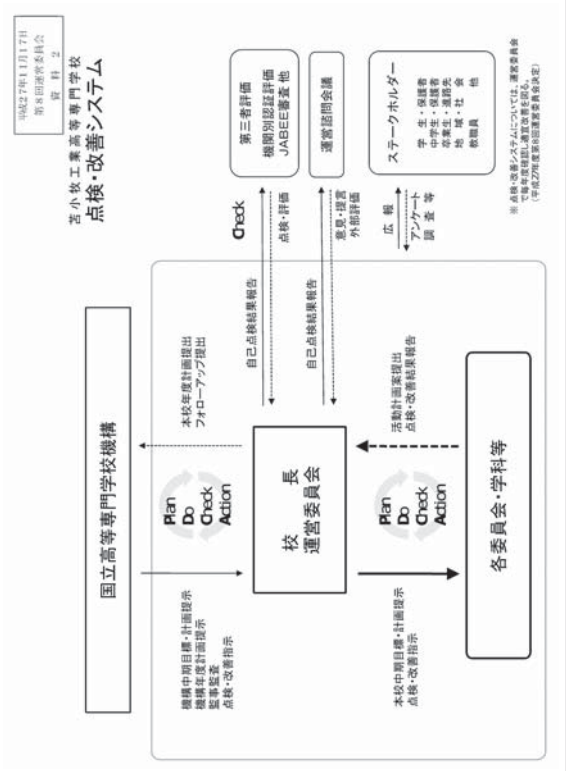
「自己点検・評価を実施するための方針（実施時期）を明記した資料」



（出典　平成 29 年度第 12 回運営委員会資料）

資料１－１－①－（２）－１

「自己点検・評価の実施体制の組織図」



（出典　平成 27 年度第 8 回運営委員会資料）

資料１－１－①－（２）－２

「自己点検・評価の実施体制関連規程（運営委員会）」

苫小牧工業高等専門学校運営委員会規程

規則第９号

制　　定　昭和43年４月１日
一部改正　昭和48年６月１日
一部改正　昭和50年６月30日
一部改正　昭和62年７月９日
一部改正　平成８年４月１日
一部改正　平成12年４月１日
一部改正　平成12年９月11日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成21年４月１日
一部改正　平成22年５月18日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の運営に関する事項を審議するため，運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　組織・運営及び施設に関する事項
二　教育効果の向上に関する事項
三　消防及び防災に関する事項
四　情報公開に関する事項
五　留学生の受入れに関する事項
六　中期目標・中期計画に関する事項
七　点検・改善に関する事項
八　その他校長が必要と認めた事項

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校運営委員会規程）

資料１－１－①－（２）－３

「自己点検・評価の実施体制関連規程（運営委員会自己点検・評価対応部会）」

苫小牧工業高等専門学校運営委員会部会要項

（平成23年６月14日校長裁定）
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日
一部改正　平成29年５月12日
一部改正　平成31年３月27日

（趣旨）
第１条　この要項は，苫小牧工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）規程第６条第１項の規定に基づき設置する部会（以下「部会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置及び審議事項）
第２条　委員会に別表第１に掲げる部会を置く。部会は，部会毎に同表に定める事項を審議する。

（組織）
第３条　部会は，委員会規程第６条第３項の規定に基づき部会毎に別表第２の構成欄に掲げる者をもって組織する。

（略）

別表第１（第２条関係）

名　称	審議事項
FD 部会	(1) 授業改善・教育業務改善に関すること (2) その他 FD に関すること
JABEE 対応部会	(1) 審査申請に関すること (2) 実地審査の対応に関すること (3) その他 JABEE に関すること
機関別認証評価対応部会	(1) 評価申請に関すること (2) 書面調査及び訪問調査に対応すること (3) その他機関別認証評価に関すること
自己点検・評価対応部会	(1) 自己点検・評価報告書作成に関すること (2) その他自己点検・評価に関すること

資料１－１－①－（２）－３（続き）

別表第２（第３条及び第５条及び第７条関係）

名　称	部会長	構　成	事務担当
FD部会	副校長（教務主事）	(1) 副校長（教務主事） (2) 副校長（専攻科長） (3) 校長が指名する教員 若干名	学生課
JABEE対応部会	副校長（専攻科長）	(1) 副校長（専攻科長） (2) 副校長（専攻科長）の推薦に基づき校長が指名する教員 若干名 (3) 副校長（専攻科長）の推薦に基づき校長が指名する事務職員 若干名	総務課
機関別認証評価対応部会	副校長（総務主事）	(1) 副校長（総務主事） (2) 総務主事補 (3) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する教員（若干名） (4) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する事務職員（若干名）	総務課
自己点検・評価対応部会	副校長（総務主事）	(1) 副校長（総務主事） (2) 総務主事補 (3) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する教員（若干名） (4) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する事務職員（若干名）	総務課

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校規程集
「苫小牧工業高等専門学校運営委員会部会要項」より抜粋）

資料１－１－①－（２）－４

「自己点検・評価の実施体制関連規程（総務委員会）」

苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程

規則第108号
制　　定　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の総務に関する事項を審議するため，総務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　将来計画に関する事項
二　広報活動に関する事項
三　ホームページの管理に関する事項
四　外国の機関との学術交流及び学生交流に関する事項
五　自己点検及び評価に関する事項
六　施設の整備計画及び環境整備に関すること
七　防災計画及び防災訓練の企画立案に関すること
八　その他総務に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（総務主事）
二　総務主事補
三　事務部長
四　総務課長
五　学生課長
六　その他校長が指名した者

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程）

資料１－１－①－（２）－５

「自己点検・評価の実施体制関連規程（運営諮問会議）」

苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議規則

規則第57号
制　　定　平成17年10月13日
一部改正　平成17年10月13日
一部改正　平成19年４月１日

（趣旨）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）の運営体制及び教育研究活動の充実・発展を図るために，広く学外者の意見を聴くための組織として，苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議（以下「運営諮問会議」という。）を置く。

（任務）
第２条　運営諮問会議は，次に掲げる事項について，校長の諮問に応じて審議し，及び校長に対して助言又は勧告を行うものとする。
一　本校の運営に関する重要事項
二　本校の教育研究活動に関すること
三　本校の学生生活に関すること
四　本校と地域社会及び産業界との連携に関すること
五　その他校長が必要と認めた事項

（組織）
第３条　運営諮問会議は，次の各号に掲げる者のうちから，校長が委嘱した委員をもって組織する。
一　大学等高等教育機関の関係者
二　本校の所在する地域の教育関係者
三　本校の所在する地方自治体の関係者
四　本校の所在する地域社会及び産業界の関係者
五　本校の卒業者又は修了者
六　その他校長が必要と認めた者

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議規則）

資料１－１－①－（２）－６

「自己点検・評価の基準・項目と分担」

2019自己点検・自己評価分担

平成31年4月23日
第1回　運営委員会
資料５－②

基準	評価の視点	評価の観点	主担当	備考
基準1	1-1 教育活動を中心とした学校の組織的な状況について，学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い，その結果に基づいて教育の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され，機能していること。	1-1-1) 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について，学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針，体制等が整備され，点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	運営委員会	9-1-①、②、11-2-①を修正のとて統合
		1-1-2) 内部質保証システムに基づき，根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ，その結果が公表されているか。	運営委員会	9-1-②、11-2-①を修正の上で統合
		1-1-3) 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	運営委員会	9-1-②を修正
		1-1-4) 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され，機能しているか。	運営委員会	9-1-③、11-2-③
	1-2 準学士課程，専攻科課程それぞれについて，卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー），入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。	1-2-1) 準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	運営委員会	新設
		1-2-2) 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が，卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち，学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	運営委員会	新設
		1-2-3) 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	運営委員会	4-1-①（ただし，周知・公表の部分を除く）
		1-2-4) 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	運営委員会	新設
		1-2-5) 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が，修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち，学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	運営委員会	新設
		1-2-6) 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	運営委員会	4-1-①（ただし，周知・公表の部分を除く）
	1-3 学校の目的及び三つの方針が，社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1-3-1) 学校の目的及び三つの方針が，社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	運営委員会	新設
基準2	2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が，学校の目的に照らして適切なものであること，また，教育活動を展開するとで必要な運営体制が適切に整備され，機能していること。	2-1-1) 学科の構成が，学校の目的に照らして，適切なものとなっているか。	運営委員会	2-1-①、2-1-②
		2-1-2) 専攻の構成が，学校の目的に照らして，適切なものとなっているか。	運営委員会	2-1-①、2-1-②
		2-1-3) 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	運営委員会	2-2-①
	2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	2-2-1) 学校の目的を達成するために，準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	校長	2-1-①&②
		2-2-2) 学校の目的を達成するために，専攻科課程に必要な各分野の教員研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	校長	2-1-③
		2-2-3) 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため，教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	校長	2-1-④
	2-3 全教員の教育研究活動に対して，学校による定期的な評価が行われていること，また，教員の採用及び昇格等に当たって，明確な基準や選定が定められ，それに従い適切な運用がなされていること。	2-3-1) 全教員の教育研究活動に対して，学校による定期的な評価が行われており，その結果が活用されているか。	校長	3-2-①
		2-3-2) 教員の採用や昇格等に関する基準や選定が明確に定められ，適切に運用されているか。	校長	3-2-②
	2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること，また，教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され，資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	2-4-1) 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	運営委員会	3-2-①
		2-4-2) 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	校長	3-3-①
		2-4-3) 教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	校長	3-2-②

資料１－１－①－（２）－６（続き）

基準				
基準3	3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され，適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また，ICT環境が適切に整備されるとともに，図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されていること。	3-1-1) 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され，適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	運営委員会	9-1-①
		3-1-2) 教育内容，方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。	学術情報委員会	9-1-②
		3-1-3) 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。	学術情報委員会	9-2-①
	3-2 教育を実施する上での履修指導，学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面及びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され，機能していること，また，学生の課外活動に対する支援体制等が整備され，機能していること。	3-2-1) 履修等に関するガイダンスを実施しているか。	専攻科委員会 教務委員会	7-1-①の前半部（後半部は新3-2-②へ）
		3-2-2) 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され，学生の自主的学習を進めるとの相談・助言等を行う体制が整備され，機能しているか。	専攻科委員会 教務委員会	7-1-③の前半部，7-1-①の後半部
		3-2-3) 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており，必要に応じて支援が行われているか。	就学支援委員会	7-1-④、7-1-②
		3-2-4) 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され，機能しているか。	学生委員会 専攻科委員会	7-2-①
		3-2-5) 就職や進学等の進路指導を含め，キャリア教育の体制が整備され，機能しているか。	キャリア教育センター	7-2-②
		3-2-6) 学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。	学生委員会	7-1-⑤
		3-2-7) 学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	寮務委員会	7-2-③
基準4	4-1 学校の目的を達成するために，教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること，また，学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されていること。また，学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	4-1-1) 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	校長 （事務部）	10-1-①、10-1-②、10-2-②
		4-1-2) 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。	校長 （事務部）	10-2-①
		4-1-3) 学校の目的を達成するため，教育研究活動に必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を，学校として適切に行う体制を整備し，行っているか。	校長 （事務部）	10-2-③
		4-1-4) 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか，また，財務に係る監査等が適正に行われているか。	校長 （事務部）	10-3-①、10-3-②
	4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され，機能していること，また，外部の資源を積極的に活用していること。	4-2-1) 管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。	校長 （事務部）	11-1-②
		4-2-2) 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	校長 （リスク管理委員会）	11-1-②
		4-2-3) 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	校長 （地域共同研究センター委員会）	10-1-③
		4-2-4) 外部の教育資源を積極的に活用しているか。	運営委員会	11-3-②
		4-2-5) 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう，研修等，管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。	校長	新設（H29.4.1施行の設置基準一部改正に対応）
	4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	4-3-1) 学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。	運営委員会	11-4-①

資料１－１－①－（２）－６（続き）

基準５	5－1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	5－1－1） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	教務委員会	5-1-①ただし、授業の内容の適切性は別指！
		5－1－2） 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	教務委員会	5-1-②
		5－1－3） 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	教務委員会	5-2-③
	5－2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	5－2－1） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に際して、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	教務委員会	5-2-①
		5－2－2） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	教務委員会	5-2-②
	5－3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	5－3－1） 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	教務委員会	5-4-①ただし、成績評価・単位認定は新基準5-3-①へ
		5－3－2） 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	教務委員会	5-4-①ただし、成績評価・単位認定は新基準5-3-①へ
基準６	6－1 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に従って適切な方法で実施され、機能していること。また、受入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	6－1－1） 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	入試委員会	4-2-①
		6－1－2） 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	入試委員会	4-2-②
		6－1－3） 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	入試委員会	4-3-①
基準７	7－1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。	横断7－1－1） 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務委員会	6-1-1＆2の準学士課程関連部分
		7－1－2） 進級状況（留年者及び退学者等の割合）の推移から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務委員会	6-1-4＆⑤
		7－1－3） 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	教務委員会	6-1-③

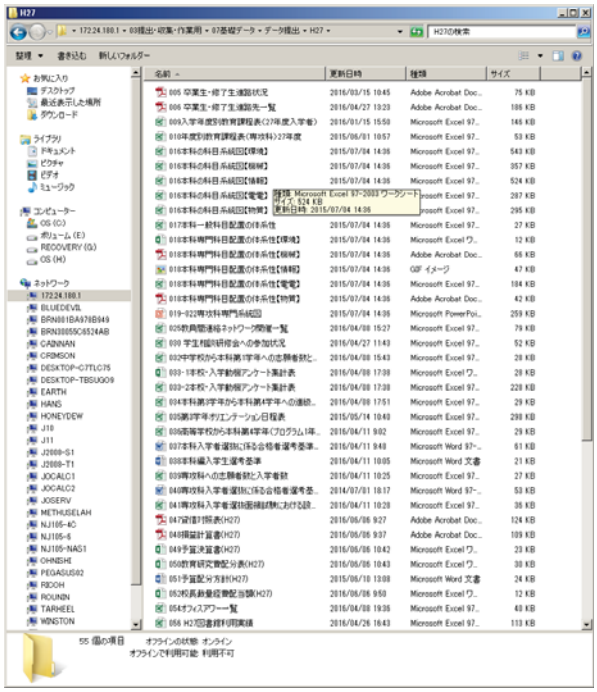
資料１－１－①－（２）－６（続き）

基準５	5－1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	5－1－1） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	専攻科委員会	5-5-②を一部修正
		5－1－2） 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの進展等を考慮した教育課程となっているか。	専攻科委員会	5-5-①
		5－1－3） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	専攻科委員会	5-6-①
	5－2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	5－1－4） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育教育や研究指導が適切に行われているか。	専攻科委員会	5-7-①
		5－1－5） 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	専攻科委員会	5-8-①の前半部
		5－1－6） 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	専攻科委員会	5-8-①の後半部
	5－3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	5－2－1） 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	入試委員会	4-2-①の専攻科関連部分
		5－2－2） 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	入試委員会	4-2-②の専攻科関連部分
		5－2－3） 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	入試委員会	4-3-①の専攻科関連部分
		5－3－1） 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められること。	専攻科委員会	6-1-5＆⑥の専攻科関連部分
		5－3－2） 進級状況に関する学生・修了生・退職を開始者等からの変化の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められること。	専攻科委員会	6-1-5＆⑥の専攻科関連部分
		5－3－3） 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	専攻科委員会	6-1-③の専攻科関連
		5－3－4） 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	専攻科委員会	新設
基準９	9－1 国際交流に関する体制が適切に整備され、目的に沿った活動の成果が挙げられていること。	9-1-①国際交流に関する体制及び支援体制が適切に整備されているか。	総務委員会	本校独自の自己点検基準12-1-①'
		9-1-②国際交流に関する目的に沿った活動の成果が上げられているか。	総務委員会	本校独自の自己点検基準12-1-②'
基準１０（新Ａ）	10－1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。	10-1-1）研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	校長（研究主事）	新設（注１選択的評価事項に係る目的）
		10-1-2）研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	校長（研究主事）	A-1-①
		10-1-3）研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	校長（研究主事）	A-1-②
		10-1-4）研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	校長（研究主事）	A-1-③
基準１１（新Ｂ）	11－1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	11-1-1）地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	運営委員会（地域共同研究センター委員会）	新設（注１選択的評価事項に係る目的）
		11-1-2）地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。	運営委員会（地域共同研究センター委員会）	B-1-①
		11-1-3）地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	運営委員会（地域共同研究センター委員会）	B-1-2および本校独自の自己点検基準13-1-②
		11-1-4）地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	運営委員会（地域共同研究センター委員会）	B-1-2および本校独自の自己点検基準13-1-①

（出典　平成 31 年度第 1 回運営委員会資料）

資料１－１－②－（１）－１

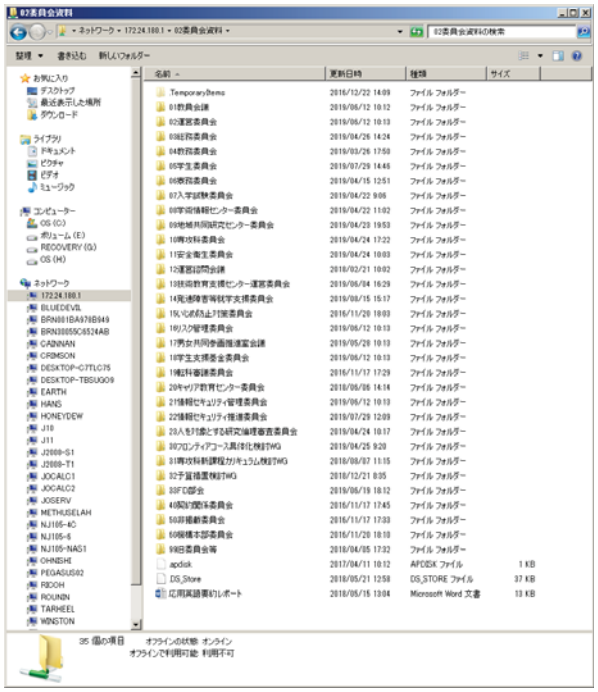
「事務サーバーにおける自己点検・評価用基礎データ蓄積状況 H27」



（出典　事務サーバー：¥¥172.24.180.1¥03 提出・収集・作業用¥07 基礎データ¥データ提出¥H27
平成３１年９月１７日現在）

資料１－１－②－（１）－２

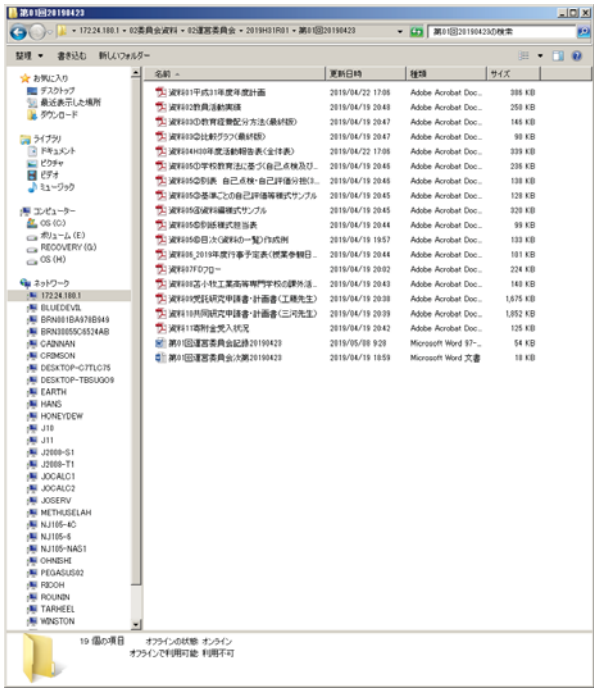
「事務サーバーにおける委員会資料蓄積状況(1)」



（出典　事務サーバー：¥¥172.24.180.1¥02 委員会資料　平成３１年９月１７日現在）

資料１－１－②－（１）－３

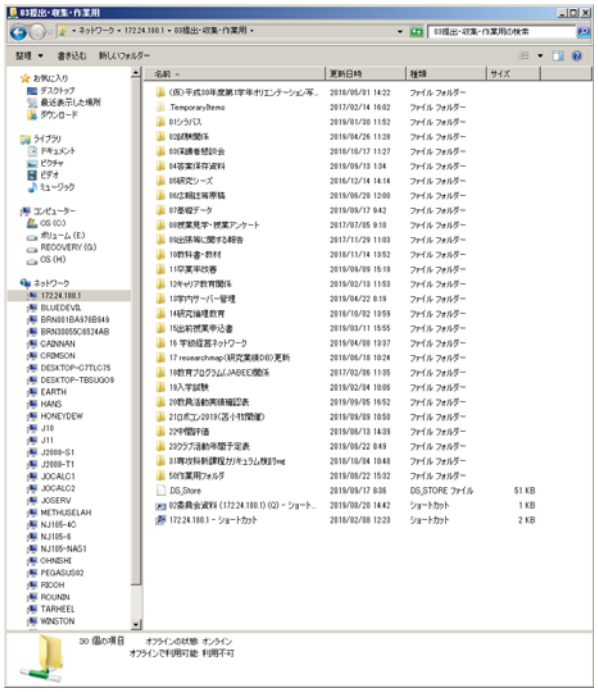
「事務サーバーにおける委員会資料蓄積状況(2)-運営委員会の資料と議事録」



（出典　事務サーバー：¥¥172.24.180.1¥02 委員会資料¥02 運営委員会¥2019H31R01¥第 01 回 20190423　平成３１年９月１７日現在）

資料１－１－②－（１）－４

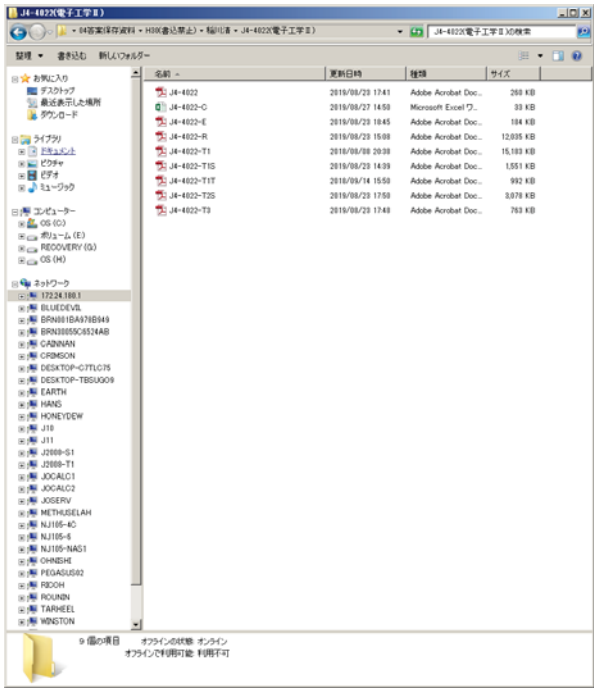
「事務サーバーにおける各種資料蓄積状況(1)」



（出典　事務サーバー：¥¥172.24.180.1¥03 提出・収集・作業用　平成３１年９月１７日現在）

資料１－１－②－（１）－５

「事務サーバーにおける各種資料蓄積状況(2)-答案等保存資料」



（出典　事務サーバー：¥¥172.24.180.1¥03 提出・収集・作業用¥04 答案保存資料¥H30(書込禁止)¥稲川清¥J4-4022(電子工学Ⅱ)　平成３１年９月１７日現在）

資料１－１－①－（２）－６

「自己点検・評価用基礎データ蓄積に関する要項」

苫小牧工業高等専門学校の外部評価受審に際しての
基礎データの蓄積に関する要項

制　　定　平成 21 年 4 月 1 日

（目的）

第１条　この要項は，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）の外部評価受審に際しての基礎データの蓄積に関して必要な事項を定め，基礎データの管理体制を整備し，円滑な管理・運用を図ることを目的とする。

（基礎データの種類）

第２条　基礎データの種類は，次に掲げるとおりとする。なお，基礎データ，担当委員会および提出責任者については，提出書類一覧表（別表１）（以下「一覧表」という。）に定めるとおりとする。

一　日本技術者教育認定機構受審に際しての根拠データ
二　機関別認証評価受審に際しての根拠データ
三　その他総括責任者が必要と認めるデータ

（基礎データ総括責任者）

第３条　基礎データ総括責任者（以下「総括責任者」という。）および基礎データ副総括責任者（以下「副総括責任者」という。）は次のとおりとする。

一　総括責任者　事務部長
二　副総括責任者　総務課長，学生課長

（基礎データ総括担当者）

第４条　基礎データ総括担当者（以下「総括担当者」という。）は次のとおりとし，基礎データの管理・運用，サーバ管理等を行う。

一　総務課課長補佐（総務担当）
二　総務課総務係長

（基礎データ管理場所）

第５条　基礎データ管理場所は，総括責任者が別に定める。

資料１－１－①－（２）－６（続き）

（作業手順等）

第６条　基礎データの作業手順等については次のとおりとする。

一　総括担当者が毎年３月上旬に担当委員会・提出責任者に対して基礎データの作成依頼を行う。

二　基礎データの追加・修正・削除が必要となる場合は，総括責任者との協議により決定し，必要に応じて一覧表を更新する。

三　基礎データの作成方法については，一覧表の更新基準日および備考に掲げるとおりとする。

四　提出責任者は，提出年度の４月末日までに提出する。なお，基礎データに変更等が生じない場合であっても同様とする。

五　提出期限までに提出できない場合は，総括責任者に理由・提出時期等を，理由書（任意様式）により報告する。

（基礎データの取り扱いについて）

第７条　一覧表に掲げる基礎データについては，独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律その他これに関連する規則等に基づき，慎重に取り扱わなければならない。

（雑則）

第８条　この要項によりがたい場合は，担当委員会・提出責任者と総括責任者との協議により行う。

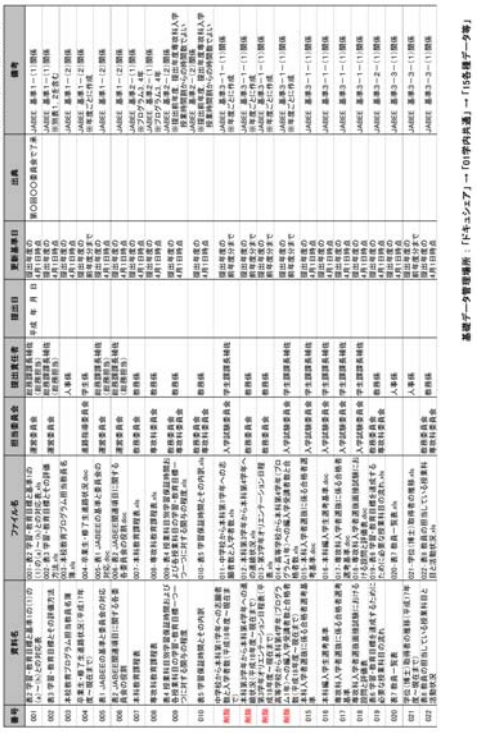
附　則

この要項は，平成21年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校の外部評価受審に際しての基礎データの蓄積に関する要項）

資料１－１－①－（２）－７

「自己点検・評価用基礎データ蓄積に関する担当組織等」



提出書類一覧表（例表１）　（平成21年4月1日時点のデータ）

番号	資料名	ファイル名	担当委員会	提出責任者	提出日	更新基準日	出典	備考
001	教育研究活動実施状況の自己点検・評価について	001:教育研究活動実施状況の自己点検・評価について.doc	運営委員会	総括評価委員長補佐（教務担当）	平成　年　月　日	提出後の4月1日時点	例BOOKの具体例で予定	JABEE 基準1－(1)関係
002	教育研究活動その他の諸活動の概要	002:教育研究活動その他の諸活動の概要.doc	運営委員会	総括評価委員長補佐（教務担当）		提出後の4月1日時点		JABEE 基準1－(1)関係
003	本校教育プログラム担当教員名簿	003:本校教育プログラム担当教員名簿.xls		総括評価委員長補佐（教務担当）		提出後の4月1日時点		JABEE 基準1－(1)関係
004	学生数・修了生進路状況（平成17年度～平成21年度）	004:学生数・修了生進路状況（平成17年度～平成21年度）.xls	入学者選抜委員会	学生課長補佐		提出後の4月1日時点		JABEE 基準1－(2)関係
005	教育目的、JABEEの基本と教育目的の対応	005:教育目的、JABEEの基本と教育目的の対応.doc	運営委員会	総括評価委員長補佐（教務担当）		提出後の4月1日時点		JABEE 基準1－(2)関係
006	教育目的、JABEE認定関連項目に関する参考資料の収集	006:教育目的、JABEE認定関連項目に関する参考資料の収集.doc	運営委員会	総括評価委員長補佐（教務担当）		提出後の4月1日時点		JABEE 基準1－(2)関係
007	本校教育課程表	007:本校教育課程表.xls	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準2－(1)関係
008	専門科目授業概要	008:専門科目授業概要.xls	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準2－(1)関係
009	教育研究活動等評価結果およびフォローアップに対する取り組み	009:教育研究活動等評価結果およびフォローアップに対する取り組み.doc	教務委員会 教育研究委員会	教務係長 教育研究係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準2－(1)関係
010	教育研究活動時間とその内訳	010:教育研究活動時間とその内訳.xls	教務委員会 教育研究委員会	教務係長 教育研究係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準2－(1)関係
011	中学校から本科及び学生への志願者数	011:中学校から本科及び学生への志願者数.xls	入学試験委員会	学生課長補佐		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
012	本科及び学生から本科及び学生への進学者数	012:本科及び学生から本科及び学生への進学者数.xls	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
013	本科及び学生から就職者への進路状況（平成18年度～現在まで）	013:本科及び学生から就職者への進路状況（平成18年度～現在まで）.xls	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
014	本科及び学生からインターンシップに対する取り組み	014:本科及び学生からインターンシップに対する取り組み.doc	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
015	本科及び学生からJABEE認定に係る自己点検書	015:本科及び学生からJABEE認定に係る自己点検書.doc	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
016	本科及び学生進路先一覧	016:本科及び学生進路先一覧.xls	入学試験委員会	学生課長補佐		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
017	専攻科入学者選抜試験に係る自己点検書	017:専攻科入学者選抜試験に係る自己点検書.doc	入学試験委員会	学生課長補佐		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
018	専攻科入学者選抜試験について	018:専攻科入学者選抜試験について.doc	入学試験委員会	学生課長補佐		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－1－(1)関係
019	専攻科教育課程表	019:専攻科教育課程表.xls	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－2－(1)関係
020	専攻科一覧表	020:専攻科一覧表.xls	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－3－(1)関係
021	学位（博士）取得者の推移（平成21年度～現在まで）	021:学位（博士）取得者の推移.xls	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－3－(1)関係
022	教育目的の明示、公表等の状況に関する資料	022:教育目的の明示、公表等の状況に関する資料.doc	教務委員会	教務係長		提出後の4月1日時点		JABEE 基準3－3－(1)関係

基礎データ管理場所：「ドキュシェア」→「01学内共通」→「15各種データ等」

（出典　事務サーバー：¥¥172.24.180.1¥03 提出・収集・作業用¥07 基礎データ¥提出書類一覧表(090414)抜粋）

資料１－１－①－（２）－８

「法人文書の管理に関する規程」

苫小牧工業高等専門学校法人文書管理規程

規則第39号

制　　定　平成13年４月１日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成15年10月23日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成19年２月23日
一部改正　平成19年４月１日
全部改正　平成25年１月10日
一部改正　平成28年２月23日

目次

第１章　総則（第１条－第２条）
第２章　管理体制（第３条－第６条）
第３章　法人文書の作成・整理（第７条－第12条）
第４章　法人文書ファイル管理簿（第13条－第15条）
第５章　移管，廃棄又は保存期間の延長（第16条－第18条）
第６章　点検及び管理状況の報告（第19条－第20条）
第７章　研修（第21条－第22条）
第８章　雑則（第23条）

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規程は，公文書等の管理に関する法律（平成21年法律第66号。以下「法」という。）及び独立行政法人国立高等専門学校機構法人文書管理規則（機構規則第107号。以下「機構規則」という。）に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における法人文書の適正な管理について，必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この規則における用語の定義は，次のとおりとする。

一　「法人文書」とは，法第２条第５項第一号から第三号を除き，本校の教職員が職務上作成し，又は取得した文書（図画及び電磁的記録（電子的方式，磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下同じ。）であって，本校の教職員が組織的に用いるものとして保有しているものをいう。

二　「法人文書ファイル等」とは，能率的な事務又は事業の処理及び法人文書の適切な保存に資するよう，相互に密接な関連を有する法人文書（保存期間を同じくすることが適当であるものに限る。）を一の集合物にまとめたもの（以下「法人文書ファイル」という。）及び単独で管理している法人文書をいう。ただし，法人文書が電磁的記録によって作成された場合，この規程においては，法人文書ファイルをコンピューター上の格納フォルダ等と読み替えるものとする。

三　「法人文書ファイル管理簿」とは，法人文書ファイル等の管理を適切に行うために，

資料１－１－①－（２）－８（続き）

法人文書ファイル等の分類，名称，保存期間，保存期間の満了する日，保存期間が満了したときの措置及び保存場所その他の必要な事項を記載した帳簿をいう。

四　この規程において「学科等」とは，創造工学科，学術情報センター，地域共同研究センター及び技術教育支援センターをいう。

第２章　管理体制

（主任文書管理者）

第３条　機構規則第５条に基づき，本校に主任文書管理者を置き，校長をもって充てる。

２　主任文書管理者は，次の事務を行うものとする。

一　法人文書ファイル管理簿及び移管・廃棄簿の調製
二　法人文書の管理に関する文部科学省及び機構との調整並びに必要な改善措置の実施
三　法人文書の管理に関する研修の実施
四　組織の新設・改正・廃止に伴う必要な措置
五　法人文書ファイル保存要領その他この規程の施行に関し必要な内規等の整備
六　その他法人文書の管理に関する事務の総括

（文書管理責任者）

第４条　本校に文書管理責任者を置き，事務部長をもって充てる。

２　文書管理責任者は，前条第２項各号に掲げる事務について主任文書管理者を補佐するものとする。

（文書管理者）

第５条　機構規則第６条に基づき，本校に文書管理者を置き，課にあっては課長を，学科等にあっては創造工学科長又はその長をもって充てる。

２　文書管理者は，その管理する法人文書について，次に掲げる事務を行うものとする。

一　保存
二　保存期間が満了したときの措置の設定
三　法人文書ファイル管理簿への記載
四　移管又は廃棄（移管・廃棄簿への記載を含む。）等
五　管理状況の点検等
六　法人文書の作成，標準文書保存期間基準の作成等による法人文書の整理その他法人文書の管理に関する教職員の指導

（職員の責務）

第６条　教職員は，法及び機構規則の趣旨にのっとり，関連する法令及び機構の規則等並びに主任文書管理者及び文書管理者の指示に従い，法人文書を適正に管理しなければならない。

第３章　法人文書の作成・整理

（作成）

第７条　教職員は，本校における経緯も含めた意志決定に至る過程並びに本校の事務及び

事業の実績を合理的に跡付け，又は検証することができるよう，処理に係る事案が軽微な場合を除き，次に掲げる事項その他の事項について文書を作成しなければならない。
一　学則等の制定又は改廃及びその経緯
二　重要な会議の決定又は了解及びその経緯
三　複数の機関による申合せ及びその経緯
四　個人又は本校の権利義務の得喪及びその経緯
五　教職員の人事に関する事項

（適切・効率的な文書作成）
第８条　文書の作成に当たって反復利用が可能な様式，資料等の情報については，文書管理システム，電子掲示板等を活用して教職員の効率的な利用に供するものとする。
２　文書の作成に当たっては，常用漢字表（平成２２年内閣告示第２号），現代仮名遣い（昭和６１年内閣告示第１号），送り仮名の付け方（昭和４８年内閣告示第２号）及び外来語の表記（平成３年内閣告示第２号）等により，解りやすい用字用語で的確かつ簡潔に記載しなければならない。

（整理）
第９条　教職員は，第10条及び第11条に従い，次に掲げる整理を行わなければならない。
一　作成又は取得した法人文書について分類し，名称を付するとともに，保存期間及び保存期間の満了する日を設定すること。
二　相互に密接な関連を有する法人文書を法人文書ファイルにまとめること。
三　前号の法人文書ファイルについて分類し，名称を付するとともに，保存期間及び保存期間の満了する日を設定すること。

（分類・名称）
第10条　法人文書ファイル等は，体系的な整理，迅速な検索及び適切な保存に活用するため，事務及び事業の性質，内容等に応じて標準文書保存期間基準（別表）の類型に基づき分類し，解りやすい名称を付さなければならない。

（保存期間）
第11条　保存期間は，標準文書保存期間基準（別表）に従い，設定するものとする。
２　保存期間の満了する日の設定に当たっては，法人文書ファイルを単位として設定するものとする。
３　保存期間の起算日については，法人文書を作成し，又は取得した日（以下「文書作成取得日」という。）の属する年度の翌年度の４月１日とする。
４　第９条第三号の保存期間は，法人文書ファイルにまとめられた法人文書の保存期間とする。
５　第９条第三号の保存期間の起算日は，法人文書を法人文書ファイルにまとめた日の最も早い日（以下「ファイル作成日」という。）の属する年度の翌年度の４月１日とする。
６　第３項及び第５項の起算日について，４月１日以外の日を起算日とすることが法人文書の適切な管理に資すると文書管理者が認める場合にあっては，その日とすることができる。

（保存）
第12条　主任文書管理者及び文書管理者は，別に定める苫小牧高等専門学校機構法人文書ファイル保存要領に従い，法人文書ファイル等について，当該法人文書ファイル等の保

存期間が満了するまでの間，適切に保存しなければならない。
２　電磁的記録によって作成された法人文書ファイル等を，職務遂行上必要として複製する場合は，主任文書管理者が認める場合を除き，本校外のコンピューター，モバイル端末及びUSB等の記録媒体に保存してはならない。
３　電磁的記録によって作成された法人文書ファイル等を，職務遂行上必要として複製することを主任文書管理者が認めた場合にあっては，暗号化，パスワードの設定等適切に管理し，必要がなくなった時点で，前条の保存期間に関わらず，即時破棄しなければならない。

第４章　法人文書ファイル管理簿

（法人文書ファイル管理簿の作成）
第13条　文書管理者は，法人文書の適切な管理を行うこと及び独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（以下「情報公開法」という。）による開示請求をしようとする者の利便を図るため，法人文書ファイル管理簿を作成しなければならない。
２　法人文書ファイル管理簿には，１年以上の保存期間を設定した法人文書ファイルを記載するものとする。
３　法人文書ファイル管理簿の記載事項について，記載すべき事項が情報公開法第５条各号に規定する不開示情報に該当するおそれがある場合その他合理的な理由がある場合には，記載を簡略化することができる。
４　管理簿は，年１回以上定期的に更新を行うものとする。

（法人文書ファイル管理簿の記載事項等）
第14条　公文書等の管理に関する施行令第15条に基づき，法人文書ファイル管理簿に記載しなければならない事項は，次に掲げる事項とする。
一　分類
二　名称
三　保存期間
四　保存期間の満了する日
五　保存期間が満了したときの措置
六　保存場所
七　法人文書を作成し，又は取得した日
八　前号の日における文書管理者
九　保存期間の起算日
十　媒体の種別
十一　法人文書ファイル等に係る文書管理者

（法人文書ファイル管理簿の公表）
第15条　機構規則第18条第２項に基づき，総務課（情報公開窓口）において一般の閲覧に供するものとし，法人文書公開システム等を用いて，インターネットで公表するものとする。

第５章　移管，廃棄又は保存期間の延長

（保存期間が満了したときの措置）
第16条　文書管理者は，法人文書ファイル等について，保存期間満了前のできる限り早い時期に，保存期間が満了したときの措置を定め，法人文書ファイル管理簿への記載によって明示するものとする。

（移管又は廃棄）
第17条　文書管理者は，前条の規定による定めに基づき，原則として独立行政法人国立公文書館に移管し，又は廃棄しなければならない。
２　前項の規定により，廃棄されるものとされている法人文書のうち，本校にとって歴史的，学術的に貴重な文書の取扱については，主任文書管理者が別に定めるものとする。
３　法人文書を廃棄するに当たっては，廃棄する法人文書の内容に応じた方法で行うものとし，当該法人文書に情報公開法第５条各号に規定する不開示情報が記録されているときは，当該不開示情報が漏えいしないようにしなければならない。

（保存期間の延長）
第18条　文書管理者は，次の各号に掲げる法人文書ファイル等について，当該法人文書ファイル等の区分に応じ，それぞれ当該各号に定める期間が経過する日までの間，当該法人文書ファイル等を保存しなければならない。この場合において，一の区分に該当する法人文書ファイル等が他の区分に該当するときは，それぞれの期間が経過する日のいずれか遅い日までの間，保存しなければならない。
一　現に監査，検査等の対象になっているもの　当該監査，検査等が終了するまでの間
二　現に係属している訴訟における手続上の行為をするために必要とされるもの　当該訴訟が終結するまでの間
三　現に係属している不服申立てにおける手続上の行為をするために必要とされるもの　当該不服申立てに対する裁決又は決定の日の翌日から起算して１年間
四　開示請求があったもの　情報公開法第９条各項の決定の日の翌日から起算して１年間
２　文書管理者は，保存期間が満了した法人文書ファイル等について，その職務の遂行上必要があると認めるときには，その必要な限度において，一定の期間を定めて法人文書ファイル等の保存期間を延長することができる。
３　前項の規定により，保存期間を延長するときは，延長する法人文書の名称及び年月日を記載した記録を，保存期間を延長した法人ファイル等（別紙様式）により主任文書管理者に報告しなければならない。

６章　点検及び管理状況の報告

（点検）
第19条　主任文書管理者は，管理する法人文書ファイル等（保存期間が１年以上のものに限る。）の現況について，法人文書ファイル管理簿を点検し，法人文書の管理状況について，毎年度，総括文書管理者に報告しなければならない。

（紛失等への対応）
第20条　文書管理者は，法人文書ファイル等の紛失及び誤廃棄が明らかになった場合は，主任文書管理者を経て，直ちに総括文書管理者に報告しなければならない。

第７章　研修

（研修の実施）
第22条　主任文書管理者は，教職員に対し，法人文書の管理を適正にかつ効果的に行うために必要な知識及び技能を習得させ，又は向上させるために必要な研修を行うものとする。

（研修への参加）
第21条　文書管理者は，総括文書管理者及び主任文書管理者並びに独立行政法人国立公文書館その他の機関が実施する研修に教職員を積極的に参加させなければならない。

第８章　雑則

（雑則）
第22条　この規程に定めるもののほか，法人文書の管理について必要な事項は，主任文書管理者が別に定める。

附　則
この規程は，平成13年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成14年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成15年10月23日から施行し，平成15年４月１日から適用する。
附　則
この規程は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成19年２月23日から施行し，平成16年４月１日から適用する。
附　則
この規程は，平成19年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成25年１月10日から施行し，平成25年４月１日から適用する。
附　則
この規程は，平成28年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校法人文書管理規程）

資料１－１－①－（２）－９

「学業成績の根拠資料の作成に関する取り決め」

平成３１年４月２５日
第３回教務委員会
議　題　８　資　料

平成 31 年度答案保存資料の作成について

次表の PDF ファイル等を作成し，事務サーバにアップロードしてください。

No	項目	ファイル名	備考
1	相互点検シート	科目コード-C.xlsx	拡張子「.xls」で保存しないで下さい
2	シラバス	科目コード.pdf	Web シラバスの pdf ファイル
3	成績評価	科目コード-E.pdf	
4	試験		実施した場合のみ
	前期定期試験	科目コード-T1.pdf	
	前期定期試験（追試）	科目コード-T1T.pdf	
	前期再試験	科目コード-T1S.pdf	
	後期定期試験	科目コード-T2.pdf	
	後期定期試験（追試）	科目コード-T2T.pdf	
	後期再試験	科目コード-T2S.pdf	
	追認試験	科目コード-T3.pdf	
5	レポート・小テスト等	科目コード-R.pdf	客観的説明に用いる代表的な物
6	その他保管物	科目コード-Z.zip	必要な場合のみ

保存先：事務サーバ　03 提出・収集・作業用 → 04 答案保存資料 → H31 →教員名（各自作成）
※　保存場所（教員名）は講義担当者と一致している必要はありません。

（アップロードについて）
- ファイル名はすべて半角，アルファベットは大文字としてください（ただし拡張子は小文字）．
- ファイル名がわからない場合は相互点検シートでファイル名を確認してください．相互点検シートに表示されないファイル名はすべて無効となります．
- 非常勤講師等の答案保存資料は，窓口となる常勤教員名のフォルダ等に入れてください．教員名の下に，科目名や非常勤教師名のサブフォルダを作っても構いません．
- 一般選択科目や全系共通専門選択科目など，複数学科・系の学生に対して同時に開講する科目の答案保存資料は，学科・系別に分けずに科目ごとにまとめて作成してください．科目コードは相互点検シートで確認してください（科目コードに学科名・クラス名が入りません）．
- 応用化学・生物系のフロンティアコースにおける「機能材料Ⅰ・Ⅱ」，「機能材料実験」の答案保存資料については，科目コードは別に存在していますが，機能材料コースにおける同科目の答案保存資料の中にまとめてください．

（相互点検シートについて）
- 相互点検シートは，Excel ファイルに必要事項を記入したものを相互点検者がアップロードしてください．保存場所は問いません（答案保存資料と同じ場所、相互点検者名のフォルダ等）。
- 自動集計しますので書式を変更しないでください（指定したセル以外に書き込んだ内容は無視されます）．また，シート名「変更禁止」も変更しないでください．
- 「組・学科」の部分について一般選択科目は「一選」を，全系共通専門選択科目については「専選」を選択してください．フロンティアコースの科目に関しては（具体的には「ビジネス１」など），組・学科の部分について「専選」を選択して下さい．

資料１－１－①－（２）－９（続き）

（シラバスについて）
- 年度途中にシラバスに変更があった場合，学生に周知するとともに，最終版をアップロードしてください．
- 一般選択科目等，複数学科・系に対して同時に開講する科目（科目コードに学科名・クラス名が入らない科目）で，どの学科・系もシラバスの内容が同じ場合は，１学科・系分のみアップロードしてください．

（成績評価について）
- 成績評価資料は，各項目の評価点，成績の計算式，度数分布表（またはヒストグラム）を含む資料をアップロードしてください．
- 追認試験受験者の成績評価資料は，受講年度の追認試験の資料に含めてください．

（試験について）
- 試験は，前期定期試験および追再試（T1），後期定期試験および追再試（T2），追認試験（T3）です。
- 各試験は，問題＋模範解答（採点基準を含む）＋答案（出席番号順）をスキャンしたものをアップロードしてください．
- 一般選択科目等，複数学科を同時に開講する科目の答案は，M→A→J→S→K の学科順で出席番号順に並べて １ つのファイルにまとめてください．また同様に，複数系の学生に対して同時に開講する科目の答案については，１～５のクラス順で出席番号順に並べて１つのファイルにまとめて下さい．
- 答案返却後に採点ミス等により答案が修正された場合は，当該答案を差し替えるか，当該答案にコメントを残すなどの方法で修正が分かるようにしてください．
- 前期終了科目で学年末に再評価を行った場合は，「後期再試験」（科目コード-T2S）としてアップロードしてください．
- 追認試験は，成績一覧表（追試実施者のみまたは全員）＋問題＋模範解答（採点基準）＋答案をスキャンしたものをアップロードしてください．

（レポート・小テスト等について）
- レポート・小テスト等は，外部評価等でご自身が客観的説明に用いる代表的な物を保存してください．
- レポート・小テスト等は，（問題 1＋模範解答 1＋レポート 1）＋（問題 2＋模範解答 2＋レポート 2）＋・・・をスキャンしたものをアップロードしてください．
- レポート・小テスト等を保存する際は，全員分を出席番号順でアップロードする．あるいは最高点とボーダー（または合格最低点）のみのアップロードでも構いません。なお，ボーダーとは 60 点台を指します（合格が 60 点の場合）．

※　レポート・小テスト等をPDFファイルにできない場合は，従来の方法（ガバットファイル，段ボール，CD-R）で整理してください．

（その他保管物について）
- 次に該当する場合にのみ使用してください．
  a)　演習科目等で答案の一部が電子ファイルであり，１つの PDF ファイルに変換するのが困難な場合
  b)　レポートが多数のため，１つの PDF ファイルにまとめるのが困難な場合
- すべてのファイルを ZIP 形式で圧縮してください（パスワードはかけないこと）．他の人が見たとき，ファイルの内容がわかるよう工夫して整理してください（フォルダ分け可）．
- 答案保存資料として不要なファイルを含めることはやめてください．

（出典　平成３１年度第３回教務委員会資料）

資料１－１－②－（２）－１

「学校教育法に基づく自己点検及び評価の実施状況が分かる資料」

はじめに

本校では，平成６、１２及び１８年度に、工学教育に関するその折々の社会的動向を背景として、学校教育法第１０９条第１項に基づいた自己点検評価を、第三者による外部評価をも含めて実施し、その結果を公表して来ました。平成２４年度には、これらの３回に引き続き４回目となる自己点検・評価を実施し、常設の運営諮問会議において外部評価委員からの意見及び提言を受け、それらに対する本校としての対応も含めて、この度『自己点検書（本文編）及び（資料編）』並びに『外部評価』を編纂しました。今回編纂した報告書は、平成２６年度に受審予定の機関別認証評価に備えた位置づけとして実施した自己点検・評価に関するもので、本校のこの６年間の教育・研究、管理・運営、学生支援、地域貢献等々について機関別認証評価基準ごとの詳細な点検・評価が行われました。

本校が実施すべき点検・評価については、今回の他、JABEE 基準による点検・評価、機関別認証評価基準による点検・評価、中期計画・年度計画に関する点検・評価そして運営諮問会議に向けた点検・評価の５つがあります。これらの点検・評価を学校改善・改革のための PDCA サイクルを運用しつつ効率的に実施するため、平成２１年度に、これらの点検・評価のサイクルを策定しました。今回の点検・評価はそのサイクルの初めての適用となります。今回の自己点検・評価の結果を受けて、今年は来年度に受審する機関別認証評価に向けての学校改善活動のための一年となります

評価文化の醸成が謳われて久しくなりますが、漸く定着しつつある状況ではないかと思います。このような各種の点検・評価の実施には、蓄積した膨大な資料の取り纏めの作業を始めとして、多くの労力そして時間を要する点検業務が伴うことから、より効率的な体制を構築することが望まれるところです。

資料１－１－②－（２）－１（続き）

今回の自己点検・評価及び報告書の編纂に関わった関係教職員の労苦に感謝を申し上げると共に、大部な報告書に目を通され貴重なご意見・ご提言を頂きました外部評価委員の皆様にも厚くお礼申し上げます。

本校教職員には、本校の全ての活動を活性化させるため、本報告書を最大限に活用してくれることを祈念するところです。

苫小牧工業高等専門学校

校長　　秋　山　俊　彦

資料１－１－②－（２）－１（続き）

目　次

１．自己点検・評価報告書の構成について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第１部「自己点検・評価」

２．自己点検書（本文編）
Ⅰ 高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅱ 目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅲ 基準ごとの自己評価
基準１ 高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
基準２ 教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
基準３ 教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
基準４ 学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
基準５ 教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
基準６ 教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
基準７ 学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
基準８ 施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
基準９ 教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・ 48
基準10 財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
基準11 管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
基準12 国際交流 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
基準13 社会との連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
基準14 研究活動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
基準15 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況 ・・・・・・・・・・・ 66

３．自己点検書（資料編）
基準１ 高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
基準２ 教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
基準３ 教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
基準４ 学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
基準５ 教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
基準６ 教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
基準７ 学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 240

資料１－１－②－（２）－１

基準８ 施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 281
基準９ 教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・ 297
基準10 財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 330
基準11 管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 338
基準12 国際交流 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 377
基準13 社会との連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 385
基準14 研究活動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 397
基準15 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況 ・・・・・・・・・・・ 409

第２部「外部評価」

４．平成２４年度運営諮問会議報告書
苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・ 423
平成２４年度運営諮問会議日程等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 424
平成２４年度運営諮問会議議事要旨 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 425
平成２４年度運営諮問会議資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 441
平成２４年度運営諮問会議
苫小牧工業高等専門学校出席者名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 501
運営諮問会議委員からの評価・提言等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 503
苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則 ・・・・・・・・・・・・ 509
苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 511

（出典　平成２４年度自己点検・評価報告書抜粋）

資料１－１－②－（２）－２

「機関別認証評価に基づく自己点検及び評価の実施状況が分かる資料（１）」

HOME ＞ 学校紹介 ＞ 機関別認証評価 ＞ 平成19年度

平成19年度

自己評価書（平成19年6月）



I. 高等専門学校の現状及び特徴
II. 目的
III.
IV. 基準ごとの自己評価
基準1　高等専門学校の目的
基準2　教員組織（実施体制）
基準3　教員及び教育支援者
基準4　学生の受入
基準5　教育内容及び方法
基準6　教育の成果
基準7　学生支援等
基準8　施設・設備
基準9　教育の質の向上及び改善のためのシステム
基準10　財務
基準11　管理運営

選択的評価事項

- 選択的評価事項A　研究活動の状況
- 選択的評価事項B　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

高等専門学校機関別認証評価

- 評価報告書（平成20年3月）

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ／学校紹介／機関別認証評価／自己評価書（平成１９年６月））

資料１－１－②－（２）－３

「機関別認証評価に基づく自己点検及び評価の実施状況が分かる資料（２）」

HOME ＞ 学校紹介 ＞ 機関別認証評価 ＞ 平成26年度

平成26年度

自己評価書（平成26年6月）



I. 高等専門学校の現況及び特徴
II. 目的
III. 基準ごとの自己評価
基準1　高等専門学校の目的　（本文／資料）
基準2　教員組織（実施体制）　（本文／資料）
基準3　教員及び教育支援者　（本文／資料）
基準4　学生の受入　（本文／資料）
基準5　教育内容及び方法　（本文／資料（準学士・専攻科））
基準6　教育の成果　（本文／資料）
基準7　学生支援等　（本文／資料）
基準8　施設・設備　（本文／資料）
基準9　教育の質の向上及び改善のためのシステム　（本文／資料）
基準10　財務　（本文／資料）
基準11　管理運営　（本文／資料）

選択的評価事項

- 選択的評価事項A　研究活動の状況　（本文／資料）
- 選択的評価事項B　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況　（本文／資料）

高等専門学校機関別認証評価

- 評価報告書（平成27年3月）

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ／学校紹介／機関別認証評価／自己評価書（平成２６年６月））

資料１－１－②－（３）－１

「学校教育法に基づく自己点検及び評価の公表」



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ／学校紹介／自己点検・評価報告書）

資料１－１－③－（１）－１

「アンケート調査による各者の意見聴取の要項」

各種アンケート調査について（案）

●実施目的

学生・教職員・企業・卒業生からの意見集約及び各種目的等の周知状況調査によって今後の教育改善を図るために，以下の各種アンケートを実施する．

●実施項目（対象）

1.学生

1)実施内容：平成 25 年度に実施したものと同様
　＋　成績評価，単位認定規定，進級・卒業・修了認定規定の学生の周知状況
2)実施方法：blackboard
　→　5/13 から開始（5/29 まで）

2.教職員（常勤以外も含む）

1)実施内容：機関別認証評価で，「改善を要する点」として指摘された内容
　①「入学者受入方針（アドミッションポリシー）」の周知状況
　②教員のシラバスの活用状況
　③学修単位の授業での自学自習が，シラバスの記載通りに実施されているかなど
2)実施方法：
　2-1)常勤　　：blackboard（学術情報センターと連携，コースの作製の必要）
　2-2)常勤以外：紙媒体（教務主事団，教務係に依頼）
　→　実施：決定（運営委員会），実施内容：総務主事団・関係事務，実施時期：要検討

3.企業（ただし，採用実績のある企業）

1)実施内容：機構が卒業生向けに実施したアンケートを修正して使用する
2)実施方法：紙媒体，電子ファイル（本校ホームページからファイルをダウンロード，提出先方法：総務課 FAX(0144-67-0814)，メール（pub_info@office.tomakomai-ct.ac.jp）

①キャリア教育センター：センターに寄った際に依頼する
　（キャリア教育センターに協力依頼し，内諾を得ている）
　・帰りに提出して貰う（直接受取，どこかにポストを設置して投函など）
　・ホームページから，ファイルをダウンロードできる旨の案内（提出は，FAX，メール）
②第 5 学年担任：話が終わったら，用紙を渡して記入のお願い
　・帰りに提出して貰う（直接受取，どこかにポストを設置して投函など）
　・ホームページから，ファイルをダウンロードできる旨の案内（提出は，FAX，メール）
③全教職員：共同研究など関わりのある企業に依頼ができるようであればお願いする
　・打合せ時などに依頼する
　・ホームページから，ファイルをダウンロードできる旨の案内（提出は，FAX，メール）
④同窓会，協力会：協力依頼
⑤ホームページにファイルの掲載（掲載方法などは，これから打ち合わせる）

資料１－１－③－（１）－１（続き）

4.卒業生・修了生

1)実施内容：機構が卒業生向けに実施したアンケートを修正して使用する
2)実施方法：紙媒体，電子ファイル（本校ホームページからファイルをダウンロード，提出先方法：総務課，FAX(0144-67-0814)，メール（pub_info@office.tomakomai-ct.ac.jp）

①全教職員：協力依頼
　・サイボウズなどに，アンケート用紙のファイルをアップロードしておいて，卒業生や修了生が来校した際に，プリントアウトして記入して貰う（依頼した教員が預かり，総務課企画調査係に提出）．
　・ホームページから，ファイルをダウンロードできる旨の案内（提出は，FAX，メール）
　→　ただし，年齢構成に偏りが出る可能性大
②同窓会，協力会：協力依頼
③ホームページにファイルの掲載（掲載方法などは，これから打ち合わせる）

（出典　平成２７年度第２回総務委員会資料）

資料１－１－③－（１）－２

「教職員アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」

苫小牧高専　教職員アンケート（平成 27 年度）　（案）

本校では，「アドミッション・ポリシー」に基づき入学者を受入れ，「教育の目的」に沿って教育を実施するために，教職員各位にその内容を周知しています．学校としてこれらの周知状況を調査し改善に繋げるためにアンケートを実施しますので，ご協力ください．
なお，本アンケートは常勤・非常勤の全教職員を対象としています．
※紙媒体での回答の場合は，各質問での該当する番号に○を付けて下さい．
（平成 27 年 6 月 30 日（火）までに回答して下さい）

Q1: あなたはどれに該当しますか？
①常勤教員　②非常勤教員　③常勤職員　④非常勤職員

Q2：本校の「学校の目的（教育理念・学科の目的・学習目標・プログラム学習教育到達目標など）」を知っていますか．
①よく知っている　②だいたい知っている　③見たことはある　④よく知らない　⑤知らない

Q3：本校の「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」を知っていますか．
①よく知っている　②だいたい知っている　③見たことはある　④よく知らない　⑤知らない

Q4：シラバスを活用していますか（本科）．
①活用している　②学生に読ませる程度　③活用していない　④授業を担当してない

Q5：シラバスを活用していますか（専攻科）．
①活用している　②学生に読ませる程度　③活用していない　④授業を担当してない

Q6：シラバスの記載通りに自学自習を実施させていますか（本科）．
①実施している　②ある程度実施している　③実施していない　④授業を担当してない

Q7：シラバスの記載通りに自学自習を実施させていますか（専攻科）．
①実施している　②ある程度実施している　③実施していない　④授業を担当してない

Q8：このアンケートに使っている「Blackboard」システムは，今後，授業や自学自習システムや課題提出などにも活用されます．このような ICT を活用した教育についてどう考えますか．
①意義がある　②ある程度意義がある　③あまり意義がない　④意義がない

Q9:教職員向けの校内での研修会・講演会についてどのようにお考えですか．
①積極的に参加したい　②ある程度参加したい　③参加したくない
（参加したくない方は理由をお聞かせください：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Q10:校内での研修会・講演会として希望するテーマや分野があればお書きください．
（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

アンケートは以上です．ご協力ありがとうございました．
※本アンケートにご入力・ご記入いただきました内容は，アンケートの集計のみに使用し，集計後の統計資料はアンケートの趣旨・目的以外の目的には使用いたしません．

（出典　平成２７年度第２回総務委員会資料）

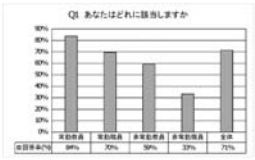
資料１－１－③－（１）－３

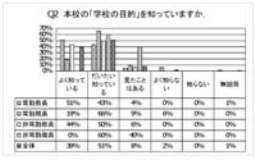
「教職員アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」

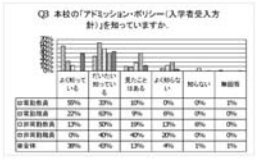
平成２７年８月７日
第５回運営委員会
資　料　８

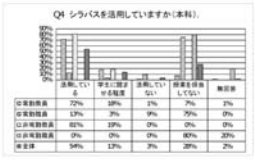
平成27年度実施教職員アンケートの結果について

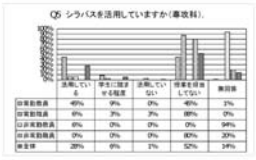
（分析等の詳細は総務委員会で報告予定）







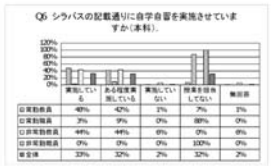


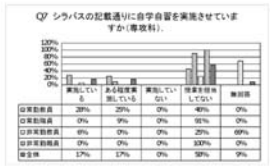




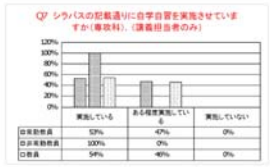


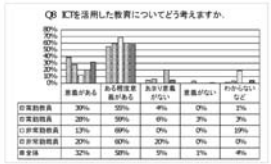
資料１－１－③－（１）－３（続き）

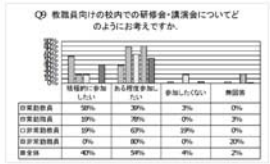












資料１－１－③－（１）－３（続き）

表-2（Q9記述）

常勤教員	様々な業務が多い中、研究時間がほとんど確保できていないから。10万円を切る研究教育経費の下では、研究活動の維持において時間が唯一の頼みの綱となっています。
	特になし
	講演会の必要性や計画性が明瞭でなく、講演会に参加しても既知の内容のものであれば時間を無駄に過ごすこととなる。最近「知財」の講演会があったが、遠隔授業の模擬実験として聴きに行ったが、会場のスクリーンは既知の資料を写すだけであり、スピーカーからの講演者の声は全く聞きとれなかった。もし、学生に対してこのような環境で遠隔授業を行うと無意味なものになるであろう。どのような講演会でも必要な時期と必要な内容は参加予定者に合わせるべきであり、単に全員の参加を求めても無駄な場合があり得ることに配慮してもらいたい。
常勤職員	印西は不便ですよね？
非常勤教員	非常勤講師だから

表-3（Q10記述）

常勤教員	今はまだ赴任したばかりなので、高専の違いを考慮するので手一杯です。これから考えていきたいです。
	特になし
	ICTを活用した講義テクニック等の技術的な内容を中心とした研修会を希望
	今後の高専のあり方についての講演
	文理融合、学際的な研究を実践している研究者の講演
	Blackboard、Office365などの利用講習会、アクティブラーニング等の教育改善研修会、若手教員向けの研修会（教員業務全般）、担任向け研修会
	外部資金導入に向けた研修会・講演会を行う予定
	授業改善に向けた研修会キャリア教育の充実に向けた研修会
	他高専、他高等教育機関での各種取組に関する情報共有、特に人事交流、在外研修から帰って来た人の報告。
	自分自身で操作して（慣れてから）、テーマを見つけたいと思います。
	学生の勉学に対する内的動機付けの方法について　～退学者数を減らすために～
	コーチングについて
	Blackboardを使用した授業の事例など、意見交換が出来れば参考になります。
	・先行して学科再編を行なった学校（教務担当者）・科研費公募書類作成のコツ
	ブラックボード関係の研修会・後援会ということであれば、ホームルームの連絡事項の伝達、資料の配信などの、具体的手続き・手順についての話しを希望します。
	学生の心理学やクラス経営などに関するもの
	アクティブラーニングやＢｌａｃｋｂｏａｒｄの実践例
	アクティブラーニングによる授業改善に関することなど。
	Office365のグループでの活用法について
	特になし
	ハラスメント
	本校の教員のみでなく、他の大学・高専から講師を招いての研究報告会があれば参加してみたい。特に、定期的に開催され事前に報告内容が周知されると参加・不参加の判断に有用である。
常勤職員	特に思いつきません。
	情報セキュリティに関するもの
	「他高専における授業アンケートの項目や活用方法」「自学自習をさせるための工夫」「他高専における前期科目の再評価や仮進級の仕組み」
	その時の自分のスキルアップにつながるものであれば、特に希望するものはありません。
	セクハラ・パワハラに関する研修会など。
非常勤教員	バイオミメティックの様な、生物からヒントを得る

（出典　平成２７年度第５回運営委員会資料）

資料１－１－③－（１）－４

「学生アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」

苫小牧高専　教育に関する学生アンケート（平成 25 年度）（案）

本校では過去に学生、卒業生、進路先を対象にしたアンケートを実施し、その結果を改善に反映してきました。このアンケートも、今後の学校改善のために行うものです。ご協力をお願いします。

【回答方法】マークシートになっています。該当するマーク欄を正しく塗りつぶしてください。

A 回答者について

質問1　所属をお答えください。

(1)所属学科・専攻

M　A　J　S　K　AP　AE

(2)学年　1年　2年　3年　4年　5年

B 本校の目標について

本校は、平成 25 年度から次の「教育理念」を掲げています。確認のうえ、質問にお答えください。

教 育 理 念

豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

質問2「教育理念」に基づいて定めた次の「学習目標」について、必要と考えますか。

本科学生の学習目標

Ⅰ　人間性：正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。　必要　必要でない

Ⅱ　実践性：創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。　必要　必要でない

Ⅲ　国際性：世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。　必要　必要でない

専攻科学生の学習目標

Ⅰ　人間性：正課、校外活動等を通して、豊かな人間性と教養および広い視野を身につける。　必要　必要でない

Ⅱ　創造性：複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける。　必要　必要でない

Ⅲ　国際性：グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につける。　必要　必要でない

C 教育内容について

質問3 本校の教育に満足しているかどうかお答えください。

(1) 本科：一般科目

満足　普通　不満足

(2) 本科：専門科目

(3) 専攻科：一般科目（専攻科生はご回答ください）

(4) 専攻科：専門科目（専攻科生はご回答ください）

質問4 本校の教育についてご意見・提案があれば記入してください（100文字以内）。

（　　）

D 施設等について

質問5 施設等について満足しているかどうかお答えください。

(1) 講義室

満足　普通　不満足

(2) 実験室・実習室

(3) 自学自習スペース

(4) 図書館

(5) 情報処理施設

(6) 体育施設など

(7) クラブ・同好会関係の施設

(8) 学生寮

(9) 学生食堂・売店

質問6 本校の施設についてご意見・提案があれば記入してください（100文字以内）。

（　　）

E 支援体制について

質問7 学生への各種支援体制について満足しているかどうかお答えください。

(1) 学習支援（オフィスアワー、補習体制、PCでの自学習環境など）

満足　普通　不満足

(2) 経済支援（奨学金制度、授業料免除制度など）

(3) 資格試験を単位認定するなどの支援

(4) 課外活動（クラブ・同好会等）の支援

(5) 海外語学研修・海外留学の支援

(6) 就職の支援

(7) 進学の支援

(8) 学生相談室・保健室による支援

(10) 高専通信、ホームページなどによる情報提供・支援

(11) 通学の支援

(12) 寮生への支援

(13) 事務部の各種支援

質問8 本校の支援体制についてご意見・提案があれば記入してください（100文字以内）。

（　　）

G 自学自習環境について

質問9 授業以外の学習時間は平均何時間くらいですか？（宿題・レポート作成などの時間を含む）

(1) 平日（1日平均）

3時間以上　2時間以上3時間未満　1時間以上2時間未満　1時間未満

(2) 土日・休日（1日平均）

3時間以上　2時間以上3時間未満　1時間以上2時間未満　1時間未満

質問10 自学自習のために次の環境を充実してほしいですか？

はい　いいえ

(1)自学自習室

(2)支援する教員

(3)放課後の補習授業

(4)土曜日の補習授業

(5)PCや携帯電話・スマートフォンでの自学習教材

その他（　　）

質問11 どのような科目の補習授業があるとよいですか？（複数選択可）

数学　英語　物理　化学　専門科目　その他

その他（　　）

質問12 携帯電話・スマートフォンについて

(1) 携帯電話・スマートフォンを利用する時間は1日平均約何時間くらいですか？

使わない　約30分　約1時間　約2時間　約3時間　約4時間以上

(2) 学習について、携帯電話・スマートフォンは悪影響がありませんか？

悪影響はない　悪影響がある

(3) 学習の支障になっている場合，どう改善したらよいと思いますか？（50文字以内）

（　　）

H 本校についてのご意見など

質問13 本校についてご意見・提案があれば記入してください（100文字以内）。

（　　）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

（出典　平成２５年度第７回運営委員会資料）

「学生アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」

平成２７年度　学生アンケート集計（回答者数）

（平成27年6月30日）

学　科		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計
機械工学科	回答者数	32	29	25	34	18	138
	在籍者数	40	41	40	45	27	193
	回答率	80.0%	70.7%	62.5%	75.6%	66.7%	71.5%
	未回答者数	8	12	15	11	9	55
電気電子工学科	回答者数	24	33	33	28	32	150
	在籍者数	40	40	39	40	36	195
	回答率	60.0%	82.5%	84.6%	70.0%	88.9%	76.9%
	未回答者数	16	7	6	12	4	45
情報工学科	回答者数	24	27	28	36	26	141
	在籍者数	40	41	40	36	28	185
	回答率	60.0%	65.9%	70.0%	100.0%	92.9%	76.2%
	未回答者数	16	14	12		2	44
物質工学科	回答者数	10	16	36	29	33	124
	在籍者数	41	41	47	44	36	209
	回答率	24.4%	39.0%	76.6%	65.9%	91.7%	59.3%
	未回答者数	31	25	11	15	3	85
環境都市工学科	回答者数	23	43	24	20	13	123
	在籍者数	40	44	44	39	37	204
	回答率	57.5%	97.7%	54.5%	51.3%	35.1%	60.3%
	未回答者数	17	1	20	19	24	81
合　計	回答者数	113	148	146	147	122	676
	在籍者数	201	207	210	204	164	986
	回答率	56.2%	71.5%	69.5%	72.1%	74.4%	68.6%
	未回答者数	88	59	64	57	42	310

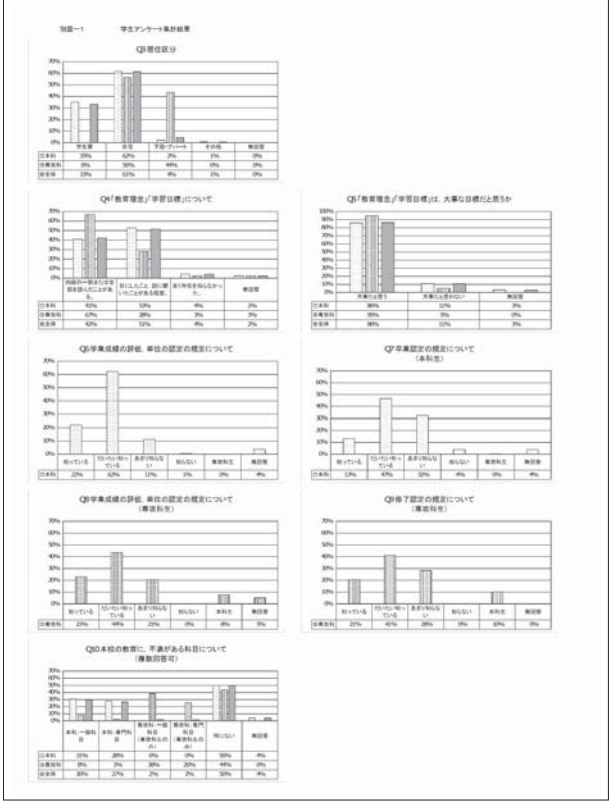
※物質工学科3年に、休学者1名

専　攻　科

専　攻		1学年	2学年	合計
電子・生産システム工学専攻	回答者数	12	7	19
	在籍者数	16	9	25
	回答率	75.0%	77.8%	76.0%
	未回答者数	4	2	6
環境システム工学専攻	回答者数	10	10	20
	在籍者数	13	12	25
	回答率	76.9%	83.3%	80.0%
	未回答者数	3	2	5
合　計	回答者数	22	17	39
	在籍者数	29	21	50
	回答率	75.9%	81.0%	78.0%
	未回答者数	7	4	11

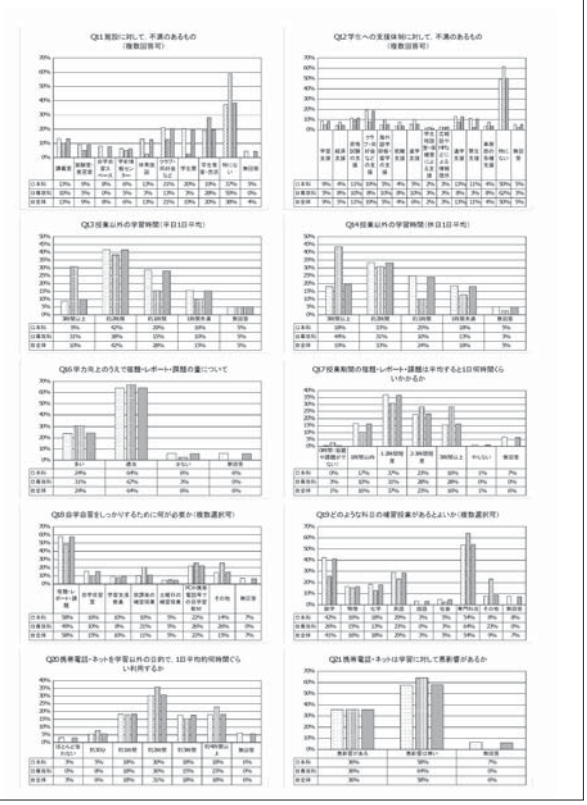
全体の結果	
回答者数	715
在籍者数	1036
回答率	69.0%
未回答者数	321

資料１－１－③－（１）－５（続き）



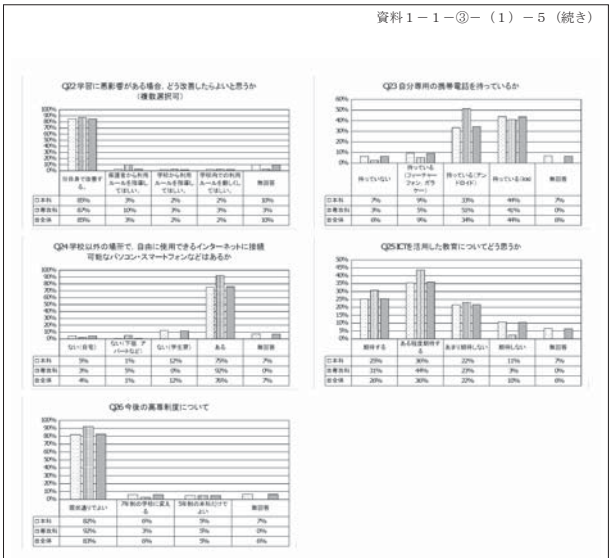
12

資料１－１－③－（１）－５（続き）



13

資料１－１－③－（１）－５（続き）



（出典　平成２５年度第７回運営委員会資料）

14

資料１－１－③－（１）－６

「学習・教育到達目標の到達度アンケート実施要項」

平成３０年２月９日
第２２回教務委員会
議　題　６　資　料

平成２９年度　学習・教育到達目標の到達度自己評価点検の実施について

１．実施日時

・第３～５学年：平成３０年２月１５日（木）答案返却日のＳＨＲ時に実施

２．実施内容

自己評価点検記録簿に直接記入する形式で実施する。なお自由意見については、参考として配付する資料に記入してもらう。

３．その他

・第４、５学年の自己評価点検記録簿（平成２８年度実施分）は、事前に担任へ返却する。

・第３学年については、自己評価点検実施前に、担任より趣旨説明を行う。

（出典　平成２９年度第２２回教務委員会資料）

15

資料１－１－③－（１）－７

「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果（本科）」

平成30年 7月20日
第11回教務委員会
報告事項２資　料

平成29年度　学習・教育目標到達度自己評価点検　集計結果

第３学年

目標 / 評価点	A:教養	B:倫理	C:コミュ	D:基礎	E:継続	F:専門	G:複合	H:社会	I:チーム
4	17	18	15	16	19	20	－	8	28
3	78	98	67	81	70	81	－	61	82
2	80	60	86	65	69	67	－	93	65
1	11	10	18	24	28	17	－	24	11
評価点平均	2.5	2.7	2.4	2.5	2.4	2.6	－	2.3	2.7

第４学年

目標 / 評価点	A:教養	B:倫理	C:コミュ	D:基礎	E:継続	F:専門	G:複合	H:社会	I:チーム
4	51	57	58	54	48	60	－	49	73
3	96	98	95	97	92	92	－	97	91
2	55	44	47	46	51	44	－	53	36
1	3	6	5	8	14	9	－	6	5
評価点平均	3.0	3.0	3.0	3.0	2.8	3.0	－	2.9	3.1

第５学年

目標 / 評価点	A:教養	B:倫理	C:コミュ	D:基礎	E:継続	F:専門	G:複合	H:社会	I:チーム
4	50	69	59	56	59	53	－	54	79
3	98	96	99	99	84	105	－	92	79
2	42	26	33	35	46	32	－	45	34
1	3	2	2	3	3	2	－	2	1
評価点平均	3.0	3.2	3.1	3.1	3.0	3.1	－	3.0	3.2

（出典　平成３０年度第１１回教務委員会資料）

資料１－１－③－（１）－８

「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果（専攻科）」

平成３０年６月１３日
第４回専攻科委員会
報告事項　２　資　料

平成２９年度専攻科 学習・教育目標自己達成度点検書 結果一覧

○1年

	A_教養	B_倫理	C_コミ	D_基礎	E_継続	F_専門	G_複合	H_社会	I_チーム
1	0	0	0	0	0	0		0	0
2	4	2	3	2	3	2		4	1
3	13	14	11	18	14	13		14	13
4	6	7	9	3	6	8		5	9
全平均	3.1	3.2	3.3	3.0	3.1	3.3		3.0	3.3

○2年

	A_教養	B_倫理	C_コミ	D_基礎	E_継続	F_専門	G_複合	H_社会	I_チーム
1	0	0	0	0	0	0		0	0
2	0	0	1	0	1	0		1	1
3	5	3	4	5	5	5		4	3
4	9	11	9	9	8	9		9	10
全平均	3.6	3.8	3.6	3.6	3.5	3.6		3.6	3.6

（出典　平成３０年度第４回専攻科委員会資料）

資料１－１－③－（１）－９

「卒業生・修了生アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」

苫小牧高専　教育に関する卒業生・修了生アンケート（平成 27 年度）

（案）

本校では，これまでにも学生，卒業生，進路先を対象にしたアンケートを実施し，教育の改善に生かしてきました．このアンケートも，今後の学校改善のために行うものです．ご協力いただきますようお願いいたします．

回答は，以下の様にお願いします．
1) 紙媒体の場合：各質問・各項目の該当項目の□にチェック（☑）を入れて下さい．
2) 電子ファイルの場合：各質問・各項目の該当項目の□をクリックして下さい．

質　問

A　回答者について

Q1：本社（官公庁その他の機関を含む全て）の所在地域をお答え下さい．
□ 苫小牧市，□ 北海道（苫小牧市以外），□ 東北，□ 関東，□ 甲信越，□ 東海，□ 近畿，□ 中国・四国，
□ 九州・沖縄，□ その他（外国など），□ 退職している

Q2：業種をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）．
□ 製造業，□ 建設業，□ 電気・ガス業，□ 運輸・情報通信業，□ サービス業，□ 商業，□ 金融・保険業，
□ 不動産業，□ 医療・福祉，□ 教育機関，□ 官公庁，□ その他

Q3：従業員数をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）．
□ 0~29 人，□ 30~99 人，□ 100~299 人，□ 300~999 人，□ 1,000~1,999 人，□ 2,000 人以上

Q4：年齢をお答え下さい
□ 20~29 歳，□ 30~39 歳，□ 40~49 歳，□ 50~59 歳，□ 60~69 歳，□ 70 歳以上

Q5：出身学科をお答え下さい（本科）．
□ 機械工学科，□ 電気電子工学科，□ 電気工学科，□ 情報工学科，□ 物質工学科，□ 工業化学科，
□ 環境都市工学科，□ 土木工学科

Q6：出身学科をお答え下さい（専攻科）．
□ 電子・生産システム工学専攻，□ 環境システム工学専攻

B　本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q7：本校では，平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています．以下の事項について，質問にお答え下さい．

Q7-1：本校の教育理念に関して，どのように思われますか．

資料１－１－③－（１）－９（続き）

教育理念：「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し，技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し，社会の発展のために活躍できる人材を育てる．」
□ 適切である，□ 適切ではない，□ わからない

Q7-2：本科学生および，専攻科学生の学習目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．

●本科学生の学習目標：
Ⅰ 人間性：正課，行事，課外活動等を通して，豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける．
①目標　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②卒業時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない
Ⅱ 実践性：創造力の基礎として，実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける．
①目標　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②卒業時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない
Ⅲ 国際性：世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける．
①目標　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②卒業時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない

●専攻科学生の学習目標：（専攻科修了生の方のみお答え下さい）
Ⅰ 人間性：正課，校外活動等を通して，豊かな人間性と教養および広い視野を身につける．
①目標　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②修了時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない
Ⅱ 創造性：複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける．
①目標　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②修了時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない
Ⅲ 国際性：グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につける．
①目標　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②修了時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない

Q7-3：「" 環境・生産システム工学" 教育プログラム」の学習・教育到達目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（プログラム対象者は，「本科第 4，5 学年~専攻科」です）．（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．

（A）教養：地球的視点で自然や環境を考え，歴史，文化，社会などについて広い視野を身につける．
①目標　　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない
（B）倫理と責任：技術者としての倫理観や責任感を身につける．
①目標　　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない
（C）コミュニケーション：日本語で記述，発表，討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける．
①目標　　：□ 適切である，　□ 適切ではない，　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた，□ やや身についていた，□ 身についていない，□ わからない

資料１－１－③－（１）－９（続き）

（D）工学基礎：数学、自然科学、情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける．
①目標　：□ 適切である、　□ 適切ではない、　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた、□ やや身についていた、□ 身についていない、□ わからない

（E）継続的学習：技術者としての自覚を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける．
①目標　：□ 適切である、　□ 適切ではない、　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた、□ やや身についていた、□ 身についていない、□ わからない

（F）専門の実践技術：ものづくりに関係する工学分野のうち、得意とする専門領域を持ち、その技術を実践できる能力を身につける．
①目標　：□ 適切である、　□ 適切ではない、　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた、□ やや身についていた、□ 身についていない、□ わからない

（G）複合領域の実践技術：他の専門領域も理解し、自身の専門領域と複合して考察し、境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける．
①目標　：□ 適切である、　□ 適切ではない、　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた、□ やや身についていた、□ 身についていない、□ わからない

（H）社会と時代が求める技術：社会や時代が要求する技術を認識し、それらを応用してシステム化や製
①目標　：□ 適切である、　□ 適切ではない、　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた、□ やや身についていた、□ 身についていない、□ わからない

（I）チームワーク：自身の専門領域の技術者とは別論のこと、他領域の技術者ともチームを組み、計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける．
①目標　：□ 適切である、　□ 適切ではない、　□ わからない
②卒業・修了時：□ 身についていた、□ やや身についていた、□ 身についていない、□ わからない

C　その他

Q8：本校の本科卒業・専攻科修了を振り返って、総合的な満足度をお答え下さい．
①卒業者　：□大変満足、□やや満足、□ふつう、□やや不満足、□非常に不満足、□判断できない
②専攻科修了者：□大変満足、□やや満足、□ふつう、□やや不満足、□非常に不満足、□判断できない

Q9：今後、本校の教育内容でとくに重視すべきプログラムを３つまでお選びください．
□専門科目の基礎力、□専門科目の応用力、□専門科目の基本技術、□人文社会系の一般教養、
□自然科学系の一般教養、□英語力、□論理的思考力、□問題認識力、□問題解決力、□対人交渉力、
□プレゼンテーション力、□コミュニケーション力、□創造力、□実践力、□協調性、□技術者倫理、
□その他

Q10：今後、本校の教育内容でとくに重視すべき内容をお選びください（複数回答可）．
□教員の質の向上、□教育内容・教育方法の充実、□厳格な成績評価・単位認定、□教育施設・設備の充実、
□学科の再編等、□専攻科の拡大・充実、□国際交流、□地域連携・産学官連携、□広報活動の充実、
□その他

Q11：今後、本校の専門科目で、追加すべき内容をお選びください（複数回答可）．
□特にない、□文学関係、□教育学・保育学関係、□法学関係、□経済学関係、□社会学・社会福祉学関係、
□理学関係、□農学関係、□家政関係、□美術関係、□音楽関係、□体育関係、□保健衛生学関係、
□獣医学関係、□医学関係、□歯学関係、□薬学関係、□その他

資料１－１－③－（１）－９（続き）

Q12：今後、本校の教育はどの方向に進むべきだと思われますか．１つお選びください．
□専門性を高める、□幅広い知識・技術を身につける、□一般教養を身につける、□その他

Q13：現在の高専制度「本科５年制・専攻科２年制」について、今後どのような形が相応しいと思いますか．
□現状通りでよい、□７年制の学校に変える、□５年制の本科だけでよい

Q14：本校は、来年度から本科が「１学科５系」への改組を予定しています．
趣旨：平成 28 年度入学者から新学科「創造工学科」として、現在の５学科の入学定員合計と同数の 200 名の入学者を受け入れる予定です（下図のように申請中です）。１学科制によって分野横断の次世代型教育を可能にし、国際性を持ちながら地方創生にも貢献できる新しい人材の育成を目指します．

平成28年度入学者から１学科５系構成に
変更予定（文部科学省と協議中）



※４年生以上は３コースに分かれます。
※上記の内容は予定であり、変更する場合があります。

Q14-1：改組についてどう思われますか．
□よい、□悪い、□わからない、□現状のままでよかった

Q14-2：改組について、ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

Q15：本校の「教育」について、ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

Q16：本校の「研究・社会貢献」について、ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

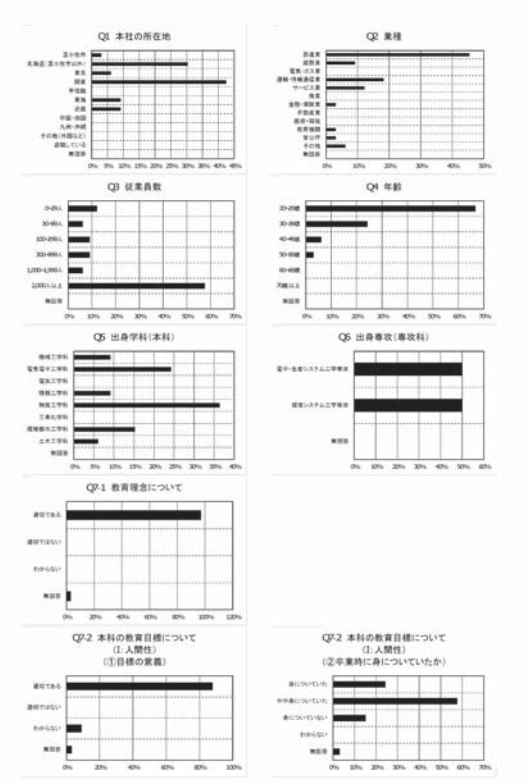
Q17：その他、本校について、ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
回答用紙は、依頼された教職員、またはキャリア教育センター前のポストに提出してください。
また、別途提出される方は、FAX の場合（総務課企画調査係、送り状は不要です、0144-67-0814）、メールの場合（pub_info@office.tomakomai-ct.ac.jp）までお願いします。

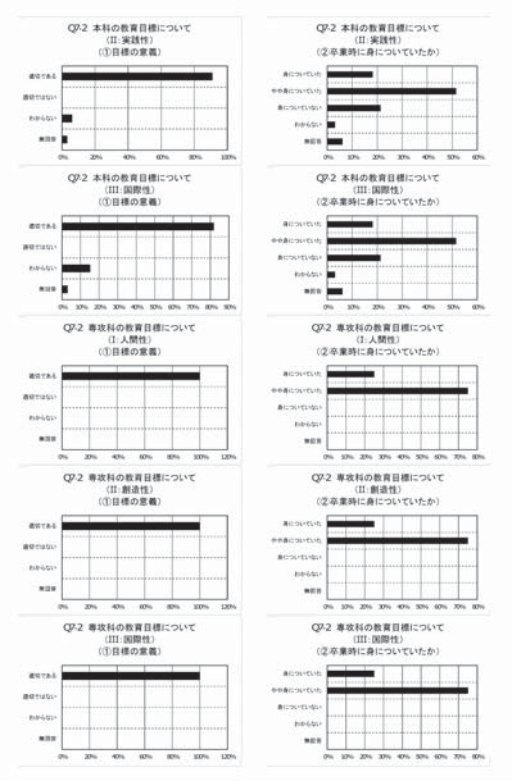
（出典　平成２７年度第２総務委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１０

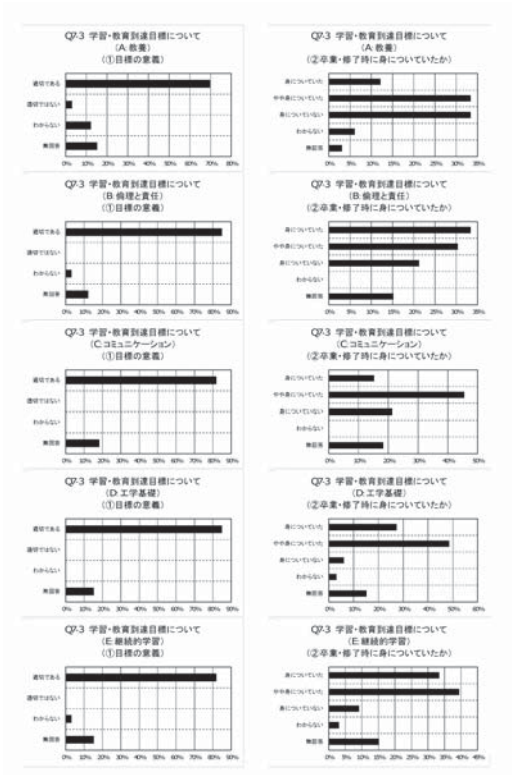
「卒業生・修了生アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」



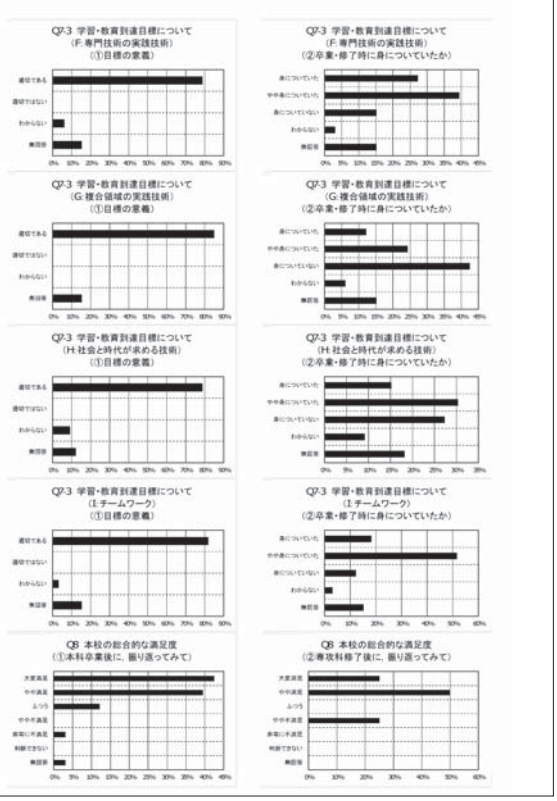
資料１－１－③－（１）－１０（続き）



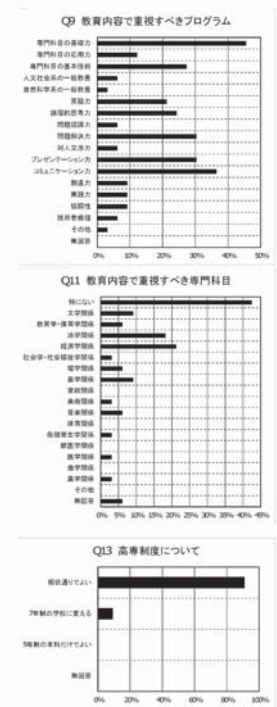
資料１－１－③－（１）－１０（続き）



資料１－１－③－（１）－１０（続き）



資料１－１－③－（１）－１０（続き）



資料１－１－③－（１）－１０（続き）

Q14-2：改組について、ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）.

- 「5科」をまとめただけの改組にならないような、創造的な分野で成果がでる活動につながることを期待します。
- 学科ごとに早期習得が求められる科目が異なるため（eg. 物質工学科であれば化学、情報工学科であれば数学）、5年間という限られた時間内で専門性をより高めるべきとの観点からは1年次から区別した教育が必要。
- 本州の高専みたいに、進学に力を入れているわけでは無いので、フロンティアコースの必要性を感じない。
- わかりにくいので、それで専門性が身につくと思えない
- 改組で良いと思います。1年時に先輩方と接する機会を積極的に持たせる施策を実現できれば、これまでより転科を望者が減ると考えます。
- 2年生進級時、混合学級から分離する際に、人数が偏る恐れ、またはそれに伴い調整が行われるなどにより、学生のやる気の低下が考えられる。
- 授業科目か、スタイルの変更にスタッフが対応できるのか
- 幅広い視野を持つことは、将来に向けて大切なことであるが、発散しないよう
- 4、5年次において、より自分の興味のある分野を選択することが可能となり、学習にも身が入ると考えます。
- 私の場合勉強量でパンクしてしまった印象なので、所定のカリキュラムを5年→7年かけて出来るのは良い。
- 中学生だと各専門分野の特徴が分かり難いと思うので、入ってから各学科を学べるのは良い。
- 改組自体はいつか試みるべき取り組みではあるが、初めの内は良いこと悪いことが見えてくると考えられます。
- どちらに せよ変わるのは良いことですが、戻るのは良くありません。やるからには全力で続けて頂きたいと考えます。
- フロンティアコースのシラバスを拝見しましたが、ビジネス分野の開設にともない専門分野の学習時間が大幅に削られている点に強く疑問を感じました。実践的技術者を養成する本来の目的を損なう改変だと感じます。
- 1年修了時点で、自分の進みたいコースへ進めるという形であれば大変いいと思います。特に、1年次での友達が、別コースに進み、他コースとの交流がしやすい点が知識の幅を広げる観点では、良いと思います。
- 上記のように改組するのであれば、1年の終わりに各学科の募集要員を決め、全クラスの成績優秀者から順に、希望する学科に進学できるようにすることで、学科間(先生同士)の競争意識が生じ、同時に各学科の教育の質向上につながると思います。
- コースの細分化されることにより、学生の専門分野へのこだわりが強くなると感じます。
- 企業に入ると自分の専門分野と全く関係ないことをすることも多いです。
- 1年だけ混合にしてもあまり身に付かないと思う。2～3年は必要
- もう少し他の分野（機械や電気）の技術や知識を身に付けないと就職後に化学だけ知識が有っても苦労する。
- 2年目に、学科の定員枠が設れたとしても、希望する学科に進学できるかが重要、卒業した後、就職、進学するにしてもどんな専門知識を身に着けているか、習得しているかは、進路を選択する上で重要な要素になってくる。
- 組織が変わったことで、カリキュラムがどう変わるのか、教育内容がどう変わるのかが重要であるので、まだ始まったばかりの物には、より良いものになればと成功を祈るばかりです。
- 2年時に希望の系に入れず、勉学のモチベーションが下がってしまうのではないか。
- 少なくとも一年次の混合学習になったのは良かったと思う。だが就職など重要な時期にフロンティアコースなどを選択する必要があるのは検証すべき事項だと思う。
- 1年の後期から、電気の専門授業を学んだ時に感じた、高専独自という雰囲気が、無くなるような気がする。

Q15：本校の「教育」について、ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）.

- アクティブラーニング（ロボコンや、プロコン等）の活動はとてもよかったです。今後も推進していただきたいです。
- 実験・報告書提出の徹底反復、工学での応用を前提とした置いた数学教育については特に社会に出てから役に立っている。一方、英語では苦労しているため、現状その点が改善されていることを望む。
- 基礎知識が重要であり、教育内容も準拠していると思うが、全般的に発想力や身の回りの「課題」に疑問を持ち、技術で解決する教育内容を付加して頂きたい。

資料１－１－③－（１）－１０（続き）

- バーチャルに偏りすぎないよう
- 手の感覚を大切に（メカ屋を目指すなら）
- 一般教養のうち、もっと英語力を高めるための工夫が必要と考えます。
- 全国の高専がそうですけど大学に比べて余裕が少なすぎる傾向があるので、余裕を持って勉強出来るカリキュラムにして欲しい。
- 上記に関連してですが、フロンティアコースを設けるのであれば、各学科ごとに開設するのではなく、新しく独立して学科を設けるべきではないでしょうか。
- グローバル化が進み、技術者だからこそ英語が出来ないと困る状況もあります。
- 上記アンケート回答内容の3点が一番重要だと思いますが、英語学習も拡充させる必要があると考えます。
- 高専はどのような人材を輩出することが目標であるか、明確にするべきだと感じます。
- 大学への人材供給なのか、企業への研究orオペレーター人材供給なのか。
- 将来、どのようにありたいか、どうなりたいかを学生のうちに考える機会を何度も設けたほうがいい。
- 社会にでて、高専卒と大卒では専門知識に差はないと感じます。ただ、大卒者とは英語力に大きな差があります。特に大きな企業になれば、英会話ができるかどうかで、扱いが変わる印象を受けます。

Q16：本校の「研究・社会貢献」について、ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）。

- 地域（苫小牧、胆振管区）と連携する研究活動や、社会貢献活動な取り組みがなされればよいと思います。
- 学んだことの延長という要素が強く、研究を通して学ぶということが少ないのでは思っております。研究内容を技術ベースではなく「課題」「問題解決」から選定する方針の方が良いかと思います。
- 産学官の連携による、新技術の開発に力を入れてください。
- 実験講座の実施等、積極的に社会にアプローチしている印象があります。
- 特許について教育項目として入れたらよいと思います。特許調査、請求項の書き方など。
- 現状、自分がやってこなかったことで、今になって困っていることなので・・・。
- 企業や国から予算をいただけることが重要だと思います。企業や国は同じ研究をしていると高専より大学を選びがちです。誰もやっていない、変わった研究が必要だと感じます。
- 卒業研究で、研究意義、特許性があるかデータベース検索するなど、研究開始前に時間を割いてテーマを考える機会を設けたほうがいい。

Q17：その他、本校について、ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）。

- 高専制度の在り方については、様々な意見があるが、高専を創設したときの考え方を踏襲していただきたい。さらに学生に意欲があれば、現在はその上の道（専攻）の選択肢が多くあるのだから。
- 高専とは独特なものがあり、卒業後も同窓生をの交流が重要である。こうした、交流が今後も継続できることを願ってます。
- 現在、化学とは異なる別の業界で勤めておりますが、在籍中に培った能力は卒業後も私の助けになりました。個々人は本来、学んだことを応用する能力を持っていると思いますが、専門的な教育は時間をかけて学ばなければ理解できません。専門性を損なわない教育を今後も期待しております。
- 私の場合、社会に出てから、問題解決能力が一番重要だと感じています。
- 問題解決には、原理原則をしっかりと知る必要がある事、原理原則を知る為の基礎知識、また、わからない事が有った場合は自ら学習する事を、これからも教育し続けて頂きたいです。
- ときどきこんなアンケートがあれば、OBとしては、学校を思い出すことにもつながって良いですね！
- 私は高専で学んできた化学に携わる仕事ができているから思うことです が、学生時代の勉強をもっとしておけば良かったと後悔があります。高専の教育がより良くなるよう、応援してます。
- 私が在籍していたころは、高専を卒業して入社し、研究をするような想定の教育をしていたと思います。
- 実際は座学無しで研究をしている人はごく少数で、ほとんどオペレーターだと思います。ギャップを感じます。
- 学生ができる限り有意義な学生生活を送り、社会で活躍できる人財になるよう、これまで通り、精一杯手助けをしてあげてください。

（出典　平成２８年度第８運営委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１１

「進路先アンケート調査による意見聴取－アンケート項目」

苫小牧高専　教育に関する企業アンケート（平成 27 年度）（案）

本校では、これまでにも学生、卒業生、進路先を対象にしたアンケートを実施し、教育の改善に生かしてきました。このアンケートも、今後の学校改善のために行うものです。ご協力いただきますようお願いいたします。

回答は、以下の様にお願いします。
1) 紙媒体の場合：各質問・各項目の該当項目の□にチェック（☑）を入れて下さい。
2) 電子ファイルの場合：各質問・各項目の該当項目の□をクリックして下さい。

質　問

A　回答者について

Q1：御社（官公庁その他の機関を含む全て）の本社の所在地域をお選び下さい。
□ 苫小牧市、□ 北海道（苫小牧市以外）、□ 東北、□ 関東、□ 甲信越、□ 東海、□ 近畿、□ 中国・四国、□ 九州・沖縄、□ その他（外国など）

Q2：業種をお選び下さい
□ 製造業、□ 建設業、□ 電気・ガス業、□ 運輸・情報通信業、□ サービス業、□ 商業、□ 金融・保険業、□ 不動産業、□ 医療・福祉、□ 教育機関、□ 官公庁、□ その他

Q3：従業員数をお選び下さい
□ 0~29 人、□ 30~99 人、□ 100~299 人、□ 300~999 人、□ 1,000~1,999 人、□ 2,000 人以上

B　本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q4：本校では、平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています。以下の事項について、お答え下さい。

Q4-1：本校の教育理念に関して、どのように思われますか。
教育理念：「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」
□ 適切である、□ 適切ではない、□ わからない

Q4-2：本科学生および、専攻科学生の学習目標に関して、最近５年間程度に、ご採用いただいた本校卒業生および、専攻科修了生の能力について、御社では、どのように評価しているかお答え下さい。

●本科学生の学習目標：（本科卒業生をご採用いただいている場合、お答え下さい）
Ⅰ人間性：正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。

資料１－１－③－（１）－１１（続き）

・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
Ⅱ実践性：創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
Ⅲ国際性：世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている

●専攻科学生の学習目標：（専攻科修了生をご採用いただいている場合、お答え下さい）
Ⅰ人間性：正課、校外活動等を通して、豊かな人間性と教養および広い視野を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
Ⅱ創造性：複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
Ⅲ国際性：グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている

Q4-3：「”環境・生産システム工学”教育プログラム」の学習・教育到達目標に関して、それぞれどのように思われますか（プログラム対象者は、「本科第４、５学年~専攻科」です）。また、最近５年間程度に、ご採用いただいた本校の卒業生の能力について、御社では、どのように評価しているかお答え下さい。

（A）教養：地球的視点で自然や環境を考え、歴史、文化、社会などについて広い視野を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
（B）倫理と責任：技術者としての倫理観や責任感を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
（C）コミュニケーション：日本語で記述、発表、討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
（D）工学基礎：数学、自然科学、情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
（E）継続的学習：技術者としての自覚を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
（F）専門の実践技術：ものづくりに関係する工学分野のうち、得意とする専門領域を持ち、その技術を実践できる能力を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている

（G）複合領域の実践技術：他の専門領域も理解し、自身の専門領域と複合して考察し、境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける。
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
（H）社会と時代が求める技術：社会や時代が要求する技術を認識し、それらを応用してシステム化や製
・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている
（I）チームワーク：自身の専門領域の技術者とは勿論のこと、他領域の技術者ともチームを組み、計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。

資料１－１－③－（１）－１１（続き）

・評価：□優れている、□やや優れている、□どちらともいえない、□やや劣っている、□劣っている

C　その他

Q5：本校の卒業者・専攻科修了者の能力・仕事ぶりに対する総合的な満足度をお選び下さい。
卒業者　　：□満足、□やや満足、□ふつう、□やや不満足、□不満足、□判断できない
専攻科修了者：□満足、□やや満足、□ふつう、□やや不満足、□不満足、□判断できない

Q6：本校の卒業者・専攻科修了者の質は以前と比較して変わりましたか。
卒業者　　：□良くなっている、□変わらない、□悪くなっている、□判断できない
専攻科修了者：□良くなっている、□変わらない、□悪くなっている、□判断できない

Q7：今後、本校の卒業者・専攻科修了者の採用についてどうお考えでしょうか。
卒業者　　：□採用を増やす、□採用を減らす、□本年度と同程度、□採用意向はない
専攻科修了者：□採用を増やす、□採用を減らす、□本年度と同程度、□採用意向はない

Q8：今後、本校の教育内容でとくに重視すべきプログラムを３つまでお選びください。
□専門科目の基礎力、□専門科目の応用力、□専門科目の基本技術、□人文社会系の一般教養、□自然科学系の一般教養、□英語力、□論理的思考力、□問題認識力、□問題解決力、□対人交渉力、□プレゼンテーション力、□コミュニケーション力、□創造力、□実践力、□協調性、□技術者倫理、□その他

Q9：今後、本校の教育内容でとくに重視すべき内容をお選びください（複数回答可）。
□教員の質の向上、□教育内容・教育方法の充実、□厳格な成績評価・単位認定、□教育施設・設備の充実、□学科の再編等、□専攻科の拡大・充実、□国際交流、□地域連携・産学官連携、□広報活動の充実、□その他

Q10：今後、本校の専門科目で、追加すべき内容をお選びください（複数回答可）。
□特にない、□文学関係、□教育学・保育学関係、□法学関係、□経済学関係、□社会学・社会福祉学関係、□理学関係、□農学関係、□家政関係、□美術関係、□音楽関係、□体育関係、□保健衛生学関係、□獣医学関係、□医学関係、□歯学関係、□薬学関係、□その他

Q11：今後、本校の教育はどの方向に進むべきだと思われますか。１つお選びください。
□専門性を高める、□幅広い知識・技術を身につける、□一般教養を身につける、□その他

Q12：現在の高専制度「本科５年制・専攻科２年制」について、今後どのような形が相応しいと思いますか。
□現状通りでよい、□7 年制の学校に変える、□5 年制の本科だけでよい

資料１－１－③－（１）－１１（続き）

Q13：本校は，来年度から本科が「1 学科 5 系」へと改組を予定しています．

趣旨：平成 28 年度入学者から新学科「創造工学科」として，現在の 5 学科の入学定員合計と同数の 200 名の入学者を受け入れる予定です（下図のように申請中です）．1 学科制によって分野横断の次世代型教育を可能にし，国際性を持ちながら地方創生にも貢献できる新しい人材の育成を目指します．

平成28年度入学者から**1学科5系**構成に
変更予定（文部科学省と協議中）



※４年生以上は７コースに分かれます。
※上記の内容は予定であり，変更する場合があります。

Q13-1：改組についてどう思われますか．

□よい，□悪い，□わからない，□現状のままでよかった

Q13-2：改組について，ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

Q14：本校の「教育」について，ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

Q15：本校の「研究・社会貢献」について，ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

Q16：その他，本校について，ご意見があればお書き下さい（100 字以内でお願いします）．

アンケートは以上です．ご協力ありがとうございました．

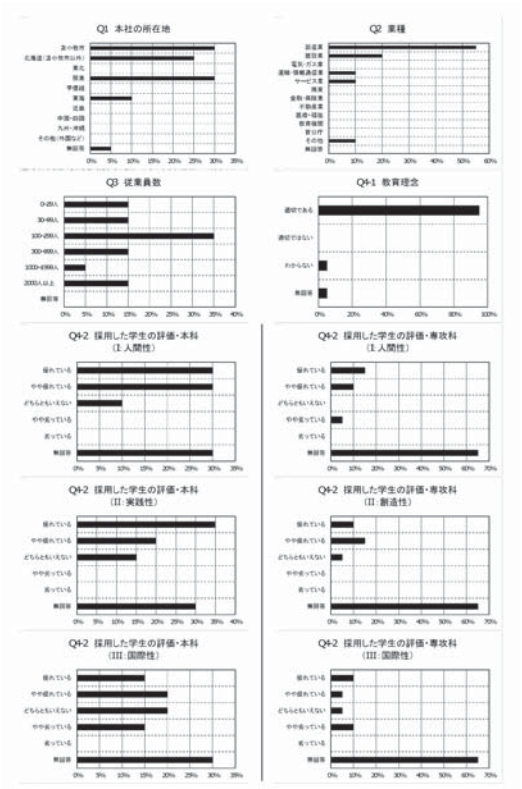
※回答用紙は，依頼された教職員，またはキャリア教育センター前のポストに提出してください．
また，別途提出される方は，FAX の場合（総務課，送り状は不要です，0144-67-0814），メールの場合（pub_info@office.tomakomai-ct.ac.jp）までお願いします．

※本アンケートは，9 月 30 日（水）を期限とさせていただきます．

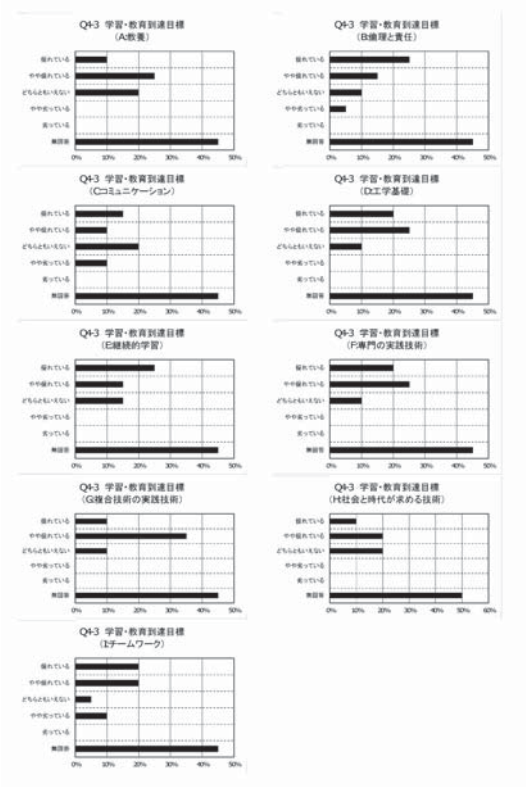
（出典　平成２７年度第２回総務委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１２

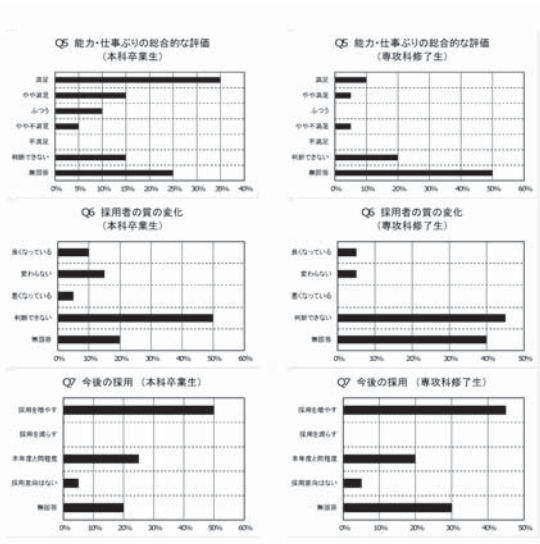
「進路先アンケート調査による意見聴取－アンケート集計結果」



資料１－１－③－（１）－１２（続き）



資料１－１－③－（１）－１２（続き）



資料１－１－③－（１）－１２（続き）



資料１－１－③－（１）－１２（続き）

Q13-2：改組について，ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）．

- コースにより人数の偏りがでたり，1年次には専門科目が無いことから学力の低下が進む可能性が高いと思う
- 退学者を減らすための施策でもあると伺っており，成果を期待しております．
- 当社も退職者を減らす取り組みを行っておりますので，興味深い取り組みと感じます．
- 1年の時に，工学全般を勉強するのはよいと思います．

Q14：本校の「教育」について，ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）．

- 近代的・前向きが感じられます．
- 高専卒は単独で能力を発揮する人材が多いように思う．仕事に限らず何事にも周囲と調和し協力することの大切さを知ってほしい　企業人として，大人として・・・　自分らしい取組み，自分らしい生き方

Q15：本校の「研究・社会貢献」について ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）．

Q16：その他，本校について，ご意見があればお書き下さい（100字以内でお願いします）．

- 当社への積極的な高専生の採用を実施していきたいのでPRよろしくお願いいたします。

（出典　平成２８年度第８回運営委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１３

「アンケート調査による保護者からの意見聴取（１）－アンケート項目」

平成２６年４月３０日
第２回運営委員会
議　題　３
校長　黒川一哉

苫小牧高専　教育に関する保護者アンケート（平成 26 年度）

本校では過去に学生，卒業生，進路先へのアンケートを実施し，改善に生かしてきました。このアンケートも今後の改善のために行います。保護者のみなさまのご協力をお願いいたします。

回　答　方　法

回答は別紙のマークシートにお願いします。黒鉛筆か黒ペンで該当する回答選択肢のマーク欄「○」内を塗りつぶしてください（例　●）。間違ったらきれいに消してください。該当するものがないときは未記入で結構です。記述意見は枠内に書いてください（枠からはみ出した記述は読み取れません）。

※　回答用紙は保護者懇談会当日（7月24日）に学級担任，総務課，学生課のいずれかにご提出ください。

質　問

A 回答者について

Q1: お子さんの所属学科をお答え下さい。

① 機械工学科　② 電気電子工学科　③ 情報工学科　④ 物質工学科　⑤ 環境都市工学科

Q2: お子さんの学年をお答えください。

①１　②２　③３　④４　⑤５

Q3: お子さんの居住区分を教えてください。

① 学生寮　② 自宅　③ 下宿・アパート　④ その他

B 本校の目標について　（以下の設問には保護者としてお答えください）

本校は平成 25 年度から次の新しい「教育理念」と「学習目標」を掲げています。ご確認のうえ，質問にお答えください。

教　育　理　念

豊かな人間性および自主自律の精神を育成し，技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し，社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

本科学生の学習目標

Ⅰ人間性：　正課，行事，課外活動等を通して，豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。
Ⅱ実践性：　創造力の基礎として，実践力および将来に向けて自ら生涯を学習する習慣を身につける。
Ⅲ国際性：　世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。

Q4: 上の「教育理念」「学習目標」について，当てはまるものを１つ選んでください。

①　読んだことがある　②目にしたこと，話に聞いたことがある程度　③今回初めて知った

Q5: この「教育理念」「学習目標」は，お子さんにとって大事な目標だと考えますか。

①　大事　　②　大事でない

C 教育内容について

Q6: 本校の教育に満足しているかどうかお答えください。

① 満足　② やや満足　③ 普通　④ やや不満足　⑤ 不満足

D 施設等について

Q7: 本校の施設等に満足しているかどうかお答えください。

① 満足　② やや満足　③ 普通　④ やや不満足　⑤ 不満足

資料１－１－③－（１）－１３（続き）

E 支援体制について

Q8: 学生への以下の各種支援体制について満足しているかどうかお答えください。

選択肢：① 満足　② やや満足　③ 普通　④ やや不満足　⑤ 不満足

（1）学習支援（補習体制，自学習環境など）　（2）経済支援（奨学金・授業料免除制度など）
（3）資格試験の支援（単位認定など）　（4）クラブ・同好会等の支援　（5）海外語学研修等の支援
（6）就職の支援　（7）進学の支援　（8）学生相談室等による支援　（9）広報誌やホームページによる情報提供
（10）通学の支援　（11）寮生への支援（寮生のみ回答）　（12）事務部の各種支援

F 進路について

Q9: 卒業後のお子さんの進路について現在の見込みをお答えください。

①進内就職　②進外就職　③就職（進内外を問わず）④本校専攻科　⑤他校専攻科　⑥大学編入　⑦その他・未定

G 本校教育についてのご意見など

Q10: 本校教育全般についてご意見・ご提案があれば記入してください（50文字以内）。

H 自学自習環境について　（本校では毎日2時間以上の自学自習をするよう指導しています）

Q11:お子さんの授業以外の学習時間は平均何時間くらいですか？（宿題・レポート作成などの時間を含む）

選択肢：① 3時間以上　② 約2時間　③ 約1時間　④1時間未満　⑤ わからない

（1）平日（1日平均）　（2）土日・休日（1日平均）

Q12: 自学自習についてご意見・ご提案があればお書き下さい（50文字以内）。

I 携帯電話（スマートフォンを含む）・ネットについて

Q13:　お子さんは携帯電話・ネットを，学習以外の目的で，1日平均約何時間ぐらい利用しますか？
① ほとんど使わない　② 約 30 分　③ 約1時間　④ 約2時間　⑤ 約3時間　⑥ 約4時間以上　⑦不明

Q14: 携帯電話・ネットは学習に対して悪影響がありませんか？
① 悪影響がある　② 悪影響は無い

Q15: 学習に悪影響がある場合，どう改善したらよいと思いますか？（複数選択可）
① 学生が自分自身で改善する　② 保護者から利用ルールを指導する
③ 学校から利用ルールを指導してほしい　④ 学校内での利用ルールを厳しくしてほしい

Q16: そのほか，携帯電話・ネットについてのご意見・ご提案があれば書いてください（50文字以内）。

J 保護者懇談会について

Q17: 早期に懇談の機会を設けるため，今年度から保護者懇談会の開催時期を，従来の 11 月から7月に早めました。寮生保護者も参加しやすい時期を選んでいます。開催時期についてのご意見を選んでください。
① もっと早い時期がよい　② 7月開催でよい　③ 11 月頃がよい　④ その他

Q18: 今回の懇談会で有意義だったと思うものをすべて選んでください。（複数選択可）
① 担任との個別懇談　②全体説明と講演　③ クラス全体懇談　④ 専門学科からの話　⑤ その他

Q19: 予約していた時間からの待ち時間はどれくらいでしたか。
① 予約どおり　② 30 分以内　③ 1時間くらい　④ 1時間 30 分くらい　⑤ 2時間以上

Q20: 個別懇談時間はどれくらいでしたか。
① 5 分以内　② 10 分くらい ③ 20 分くらい　④ 30 分くらい　⑤30 分以上

Q21: 懇談時間はどれくらいが適切だと思いますか。
① 5 分以内　② 10 分くらい ③ 20 分くらい　④ 30 分くらい　⑤30 分以上

Q22: 保護者懇談会についてご意見・ご提案があれば書いてください。来年度の講演テーマなども。（50文字以内）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
※　学級担任の先生は，7月29日（火）までに総務課総務係に提出してください。

（出典　平成２６年度第２回運営委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１４

「アンケート調査による保護者からの意見聴取（２）－アンケート項目」

平成２９年８月

保護者　各位

保護者アンケートの実施について

苫小牧工業高等専門学校
副校長（学生主事）中島　広基

保護者の皆さまにおかれましては、日頃より本校の教育にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
本校では、学生ひとりひとりがより安心して高専生活を送るために、保護者の皆さまと連携して学生を見守ることが必要であると感じています。そのための取組みのひとつとして、下記アンケートを実施いたします。お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

実施期間：平成２９年８月９日（水）～１１月１０日（金）
提出方法：・郵送
・学生もしくは保護者が学生課学生係に提出（保護者懇談会の際等）

１．お子さまのこと
学年　　年　性別　男・女
学生氏名
住まい　寮・自宅・下宿

以下は、保護者の皆さま自身にあてはまるものを○で囲んでください。

２．お子さまのスマートフォン、ＰＣ等の使用についてご家庭でルールを取り決めていますか？
は　い　・　いいえ

３．本校には、学生や保護者が悩んでいることを相談できる学生相談室があることを知っていますか？
は　い　・　いいえ

４．学生や保護者が、電話やWeb上で、２４時間匿名で心や体の健康について相談できる「ＫＯＳＥＮ健康相談室」を知っていますか？
は　い　・　いいえ

資料１－１－③－（１）－１４（続き）

５．その他、お子さまのことで気になる点、急激な変化等ありましたら教えてください。
（最近あまりご飯を食べなくなった、最近あまり話さなくなった、など・・・）

○お子さまのことで気になること、悩んでいることがあったら・・・

学級担任
または
苫小牧工業高等専門学校　学生相談室まで
TEL　0144-67-8908
MAIL　soudan@tomakomai-ct.ac.jp
対応時間　８：30～17：00

○こころとからだの健康相談、匿名でのご相談をご希望の方は・・・

KOSEN健康相談室
TEL　0120－50－24－12
24時間365日無料受付

（出典　平成２９年度第７回運営委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１５

「アンケート調査による保護者からの意見聴取（２）－アンケート集計結果」

平成２９年１０月３１日
第１０回運営委員会
資　　料　6

保護者アンケート実施結果（平成29年度）

平成29年10月3日現在

1. 回答者数及び回答率

	1年	2年	3年	4年	5年	計
在籍学生数（留学生除く）	200	207	192	205	194	998
回答数	157	150	123	133	111	674
回収率	78.5%	72.5%	64.1%	64.9%	57.2%	67.5%

2. お子さまのスマートフォン，PC等の使用についてご家庭でルールを取り決めていますか？

	1年	2年	3年	4年	5年	計
はい	93	61	39	53	20	266
いいえ	61	89	84	80	89	403

3. 本校には，学生や保護者が悩んでいることを相談できる学生相談室があることを知っていますか？

	1年	2年	3年	4年	5年	計
はい	79	60	59	67	52	317
いいえ	78	90	64	66	59	357

4. 学生や保護者が，電話やWeb上で，24時間匿名で心や体の健康について相談できる「KOSEN健康相談室」を知っていますか？

	1年	2年	3年	4年	5年	計
はい	26	15	10	14	6	71
いいえ	131	134	113	119	104	601

5. その他，お子さまのことで気になる点，急激な変化等ありましたら教えてください。（最近あまりご飯を食べなくなった，最近あまり話さなくなった，など・・・）

（出典　平成２９年度第１０回運営委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１６

「授業アンケート実施要項」

令和元年６月２６日
第７回教務委員会
議　題　７　資　料

授業アンケートに関して

平成17年度以降より，授業アンケートは次ページに示したアンケート項目において行われてきた．また，平成28年度からは業務負担の軽減という観点から，科目を3グループに分け年度ごとにグループを変えながら実施されてきた．しかしながら，授業アンケート結果が授業改善等に十分に活かされているとは言えず，また隔年実施となってからはアンケートの実施漏れも見られている．
そこで，実施方法および授業アンケート内容について今一度精査することを提案する．

■ 実施方法
アンケートは，毎年，全科目とることとし，定期試験前の時期に授業内で実施する（ただし，学外実習や卒業研究等は除く）．
Bb によるアンケート調査は，集計時の業務負担や操作ミスによるデータ消去の恐れがあるため，Office365 上にてアンケートを行う．

■ 授業アンケート項目
学生の理解度や主体性を把握し，今後の授業やカリキュラムの改善につなげることができる質問を精選し，学生の負担軽減を図る．

Q1. 教員の説明・指示は分かりやすかった．
※板書・スライド，配付資料などを含め総合的に評価して下さい．
⇒ 旧座学系アンケートの Q3，Q5，Q7 に相当（授業改善のためのアンケート）

Q2. 学生の理解度を高めるための工夫がなされていた．
※ 授業スピードや難易度の調整，質問対応，課題や演習の量を含め総合的に評価して下さい．
⇒旧座学系アンケートの Q8, Q9, Q10 に相当（授業改善のためにアンケート）

Q3. 授業の目的・意義が理解でき，新しい知識・技能を習得できた．
⇒ 新規項目（学生の達成度評価＋カリキュラム改善のためのアンケート）

Q4. この科目において自分は学習に主体的・能動的に取組めた．
※ 授業・課題・自宅学習において，単なる作業としてでなく，自ら考えや知識を整理しながら学習を進めることができたか評価してください．
⇒旧座学系アンケートの Q11，Q12 に相当（学生の主体性に関する自己評価）

Q5. この科目において良かった点，改善を希望する点などの感想を自由に記述してください．

資料１－１－③－（１）－１６（続き）

昨年度まで実施されていた授業アンケート項目，下記の表の通りとなっている．

＜実習・実験系科目の授業アンケート項目＞

Q1	シラバスは、目標、内容、評価法を適切に示していた。
Q2	授業はシラバスにもとづいて計画的に行なわれていた。
Q3	授業はよく準備された内容だった。
Q4	教員は授業時間を守っていた。
Q5	配布資料などは、内容を理解するのに役立った。
Q6	科目に必要な設備・器具等は十分に用意されていた。
Q7	質問・相談などがしやすい雰囲気であった。
Q8	提出物や発表等に対する指導は十分に行なわれていた。
Q10	室内等の安全に対する配慮は十分になされていた。
Q11	内容の理解に手助けとなる課題などの量は適切であった。
Q12	自分は質問や発言をして、授業に意欲的に取り組んだ。
Q13	自分は自学自習などにより、授業に意欲的に取り組んだ。

＜座学系科目の授業アンケート項目＞

Q1	シラバスの授業の目標・内容・評価方法は、わかりやすく書かれていた。
Q2	授業はシラバスにもとづいて計画的に行なわれていた。
Q3	授業はよく準備された内容だった。
Q4	教員は授業時間を守っていた。
Q5	教員の説明・話し方(声や言葉)はわかりやすかった。
Q6	教員の説明は、おおむね理解できた。
Q7	黒板の書き方、その他ビデオ、プロジェクター、OHP 等の使用が教員の説明を理解する上で効果的であった。
Q8	授業は、発言・質問などがしやすい雰囲気であった。
Q9	授業の進む速さは適当であった。
Q10	授業内容の理解に手助けとなる演習、課題などの量は適切であった。
Q11	自分は質問や発言をして、授業に意欲的に取り組んだ。
Q12	自分は自学自習などにより、授業に意欲的に取り組んだ。

資料１－１－③－（１）－１６（続き）

【PC からの回答画面】



【携帯電話・タブレットでの回答画面】



資料１－１－③－（１）－１６（続き）

授業アンケートに関して

このアンケートは，授業の改善を目的として実施します．あなたの評価・意見は，今後の授業の改善に活かされます．アンケートの回答によって，あなたが不利益を被ることはありませんので，率直な回答をお願いします．なお，設問は自由記述欄を含めて５問となっております．

URL 入力欄に下記 URL を入力する，もしくは QR コードを読み取ることでアンケート画面へ移動し，アンケートに回答してください．Office365 へのログインが必要ですが，アンケート結果のみを集計します．

https://bit.ly/2KIk5An

（出典　令和元年度第７回教務委員会資料）

資料１－１－③－（１）－１７

「自己点検・評価への聴取意見の反映箇所」

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）　本校では授業アンケートが年１回実施され，全科目について授業評価がなされている。このアンケートでは自由意見欄も設けられており（別添資料　Ｐ．９－12/資料９－１－②－１），科目担当教員は集計結果及び学生の自由意見を基に，授業に関して点検している（別添資料　Ｐ．９－13/資料９－１－②－２）。さらに，教員はこれらに基づいて，「授業アンケートに基づく改善」において自己の授業に対する評価を行っている（別添資料　Ｐ．９－14/資料９－１－②－３，４）。これらの授業アンケート結果は報告書の形でまとめられており，学生・教員に公開されている（別添資料　Ｐ．９－15～16/資料９－１－②－５）。

また，平成18年度には全在校生，卒業生，企業を対象にした総合的なアンケート調査「苫小牧高専の教育に関するアンケート」を実施した（別添資料　Ｐ．９－17～18/資料９－１－②－６）。各種アンケートの結果は「自己点検・評価報告書」にも掲載し，公表した（別添資料　Ｐ．９－19～20/資料９－１－②－７，８）。また，平成23年度には，学校改善を目的として非常勤教職員を含む全教職員を対象とした「教職員アンケート」を実施している（別添資料　Ｐ．９－21～23/資料９－１－②－９）。分析結果を参考にしながら，学校が定めた基準に基づいて自己点検・評価を行った結果は「自己点検・評価報告書」にまとめられ（別添資料　Ｐ．９－24～26/資料９－１－②－10），外部有識者からなる運営諮問会議による点検を受け改善へと繋げている（別添資料　Ｐ．９－27/資料９－１－②－11）。17年度からは３年間本校ウェブサイト上で卒業生，学生の保護者等も対象としたオンラインアンケートを行った（別添資料　Ｐ．９－28/資料９－１－②－12）。

また，今後の自己点検及び学校改善の資料とするため，平成25年度には「教育に関する学生アンケート」を実施し，新しい学習目標や教育内容についての意識調査を行った（別添資料　Ｐ．７－19/前出資料７－１－③－１），（別添資料Ｐ．９－29～30/資料９－１－②－13）。なお，平成26年度には「教育に関する保護者アンケート」を実施する予定である（別添資料　Ｐ．９－31/資料９－１－②－14）。

（分析結果とその根拠理由）　全科目について，授業アンケートによる学生の意見聴取が行われている。また，全在校生，卒業生，企業を対象にした総合的なアンケート調査や「教職員アンケート」も行われており，詳細に分析されている。これらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校が定めた基準に基づいて適切に行われている。

（出典　平成 26 年度機関別認証評価自己評価書基準９抜粋）

資料１－１－③－（２）－１

「教職員アンケート分析による自己点検」

平成２７年８月６日
第３回総務委員会
報告事項　２

平成 27 年度実施教職員アンケートの結果について

1. 実施目的

教職員からの意見集約及び各種目的等の周知状況調査によって，今後の教育改善を図る．

2. 実施項目

1)実施内容：機関別認証評価で，「改善を要する点」として指摘された内容
①「入学者受入方針（アドミッションポリシー）」の周知状況
②教員のシラバスの活用状況
③学修単位の授業での自学自習が，シラバスの記載通りに実施されているかなど
2)実施方法：
2-1)常勤教職員，非常勤職員　：blackboard による
2-2)非常勤教員　：紙媒体（教務係から依頼，配付および回収）
3)実施期間：6 月 26 日（金）から 7 月 31 日（金）まで

3. 実施結果

1)回答者（**詳細は，別表-1 参照**）
全教職員 168 名（常勤教員 80 名，常勤職員 46 名，非常勤教員 27 名，非常勤職員 15 名）に対し，回答者は，120 名（回答率 71%）であった．なお，個々の回答率は，別表内に示す．
2)結果のまとめ（詳細は，別図-1 および，別表-2 参照）
以下に，各設問について，それぞれの傾向などについて記述する．

●Q1　あなたはどれに該当しますか．
・（表-1，図-1 参照）
●Q2　本校の「学校の目的」を知っていますか．
・常勤教員では，「よく知っている」が 51%で最多回答となっている．その他の教職員についても「だいたい知っている」が，最多回答となっている．全体で，「よく知っている」と「だいたい知っている」を合計すると 90%となっており，周知されていると言える．
●Q3　本校の「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」を知っていますか．
・常勤教員では，「よく知っている」が 55%で最多回答となっている．その他の教職員についても「だいたい知っている」が，最多回答となっている．全体で，「よく知っている」と「だいたい知っている」を合計すると約 80%以上となっており，周知されていると言える．
●Q4　シラバスを活用していますか（本科）．
・講義を担当している教員のみで，集計を行った結果は，「活用している」が 79%で最多回答となっており，活用されているといえる．「学生に読ませる程度」が 19%であり，さらに，全科目で活用するための検討が必要である．

資料１－１－③－（２）－１（続き）

●Q5　シラバスを活用していますか（専攻科）．
・講義を担当している教員のみで，集計を行った結果は，「活用している」が 84%で最多回答となっており，活用されているといえる．「学生に読ませる程度」が 16%であり，さらに，全科目で活用するための検討が必要である．
●Q6　シラバスの記載通りに自学自習を実施させていますか（本科）．
・講義を担当している教員のみで，集計を行った結果は，「実施している」が 51%で最多回答となっている．しかし，「ある程度実施している」が 46%となっており，シラバスの記載通りに実施する方策などの検討が必要である．また，「実施していない」が 3%あり，単位の実質化や学修単位の運用などの点から問題があるため，早急な対応が必要である．
●Q7　シラバスの記載通りに自学自習を実施させていますか（専攻科）．
・講義を担当している教員のみで，集計を行った結果は，「実施している」が 54%で最多回答となっている．しかし，「ある程度実施している」が 46%となっており，シラバスの記載通りに実施する方策などの検討が必要である．
●Q8　ICT を活用した教育についてどう考えますか．
・「意義がある」，「ある程度意義がある」を合わせると 80%となっており，多くの教職員が，有効な活用への期待を持っていると思われる．しかし，非常勤教員や常勤・非常勤教員では，利用の仕方や講習会などに出席していないためよく分からないとの意見もあった．
●Q9　教職員向けの校内での研修会・講演会についてどのようにお考えですか．
・「積極的に参加したい」，「ある程度参加したい」を合わせると 94%となっており，参加への意識は高いと思われる．しかし，参加したくない理由をみると，内容や時間の設定に対する意見がある（**表-2 参照**）．
●Q10　校内での研修会・講演会として希望するテーマや分野があればお書きください．
・多くの意見が，記述されていることから，テーマの設定や実施時期の検討などを検討することによって，多くの教職員の参加を期待できると思われる（**表-3 参照**）．

（出典　平成２７年度第３回総務委員会資料）

資料１－１－③－（２）－２

「学生アンケート分析による自己点検」

平成２７年７月２１日
第４回運営委員会
資　料　７

平成 27 年度実施学生アンケートの結果について

1. 実施目的

学生からの意見集約及び各種目的等の周知状況調査によって今後の教育改善を図るために実施する．

2. 実施項目

1)実施内容：平成 25 年度に実施したものを基本にして，成績評価，単位認定規定，進級・卒業・修了認定規定の学生の周知状況を追加する．
2)実施方法：blackboard による
3)実施期間：5 月 13 日（水）から 6 月 30 日（火）まで

3. 実施結果

1)回答者（**詳細は，別表-1 参照**）
在籍学生数 1036 名（本科生 986 名（休学者 1 名），専攻科生 50 名）に対し，回答者は，715 名（回答率 69%）であった．なお，本科生は，676 名（回答率 69%），専攻科生 39 名（回答率 78%）であった．
2)結果のまとめ（**詳細は，別図-1 および，別表-2 参照**）
全部で 26 の設問について各設問に対しての全体の傾向とこれと異なる学科や学年がある場合などについては，相違点などを記述する．

●設問 1：所属学科・専攻をお答え下さい．
・（**別表-1，2 参照**）
●設問 2：学年をお答え下さい．
・（**別表-1，2 参照**）
●設問 3：居住区分を教えてください．
・本科の定員が 1000 名で，おおよそ通学生 600 名，学生寮生 400 名の割合である．回答者の分布は，通学生 62%，学生寮生 35%となっており，概ね同様の比率となっている．なお，専攻科生の学生寮生はいない．また，本アンケートでは，男女別の設問は設けていないため，男女比については分からない．
●設問 4：以下に示す，本校の「教育理念」「学習目標」について，あなたが当てはまるものを 1 つ選んでください．
・「内容の一部または全部を読んだことがある」，「目にしたこと，話に聞いたことがある程度」を合わせると 93%となっており，ほとんどの学生に対して周知されている．
●設問 5：上の質問中に示した，「教育理念」「学習目標」は，皆さんにとって大事な目標だと思いますか．
・「大事だと思う」が，86%となっており，内容とともにその重要性が認識されている．

資料１－１－③－（２）－２（続き）

●設問 6：学業成績の評価，単位の認定の規定について知っていますか．（本科生のみお答え下さい．）
・「知っている」，「だいたい知っている」を合わせると 80%となっており，ほとんどの学生に対して周知されている．
●設問 7：卒業認定の規定について知っていますか．（本科生のみお答え下さい．）
・「知っている」，「だいたい知っている」を合わせると 56%となっており，半数以上の学生に対して周知されている．しかし，「あまり知らない」が 32%，「知らない」が 4%となっており，この約 1/3 の学生に対しての周知方法などを検討・実施する必要がある．
●設問 8：学業成績の評価，単位の認定の規定について知っていますか．（専攻科生のみお答え下さい．）
・「知っている」，「だいたい知っている」を合わせると 67%となっており，約 2/3 学生に対して周知されている．しかし，「あまり知らない」と回答した 21%学生に対しての周知方法などを検討・実施する必要がある．
●設問 9：修了認定の規定について知っていますか．（専攻科生のみお答え下さい．）
・「知っている」，「だいたい知っている」を合わせると 63%となっており，約 2/3 学生に対して周知されている．しかし，「あまり知らない」と回答した 28%学生に対しての周知方法などを検討・実施する必要がある．
●設問 10：以下の本校の教育に，不満がある科目についてチェックを入れて下さい（複数回答可）．
・本科生，専攻科生ともに「特にない」が，最多回答となっている．不満がある科目については，本科 1，2 年生では，一般科目がやや多いのに対して，本科 3 年生になると，専門科目に不満を感じているようである．
●設問 11：以下の施設に対して，不満のあるものにチェックを入れて下さい（複数回答可）．
・本科生，専攻科生ともに「特にない」が，最多回答となっている．しかし，情報工学科の 2~5 年生のみが「講義室」に不満があるとの回答が最多回答となっている．また，「学生寮」に不満があるとの回答は，20%（回答者数は 137 名）である．設問 3 の居住区分においで学生寮生の回答者は 238 名となっていることから，57.6%（=137/238×100）の学生寮生が，学生寮に不満があると回答していることになる．
●設問 12：以下の学生への支援体制に対して，不満のあるものにチェックを入れて下さい（複数回答可）．
・本科生，専攻科生ともに「特にない」が，最多回答となっている．しかし，電気電子工学科の 4 年生，電子・生産システム工学専攻 2 年生が「資格支援」に不満があるとの回答が最多回答となっている．また，「寮生支援」に不満があるとの回答は，11%（回答者数は 76 名）である．設問 3 の居住区分において学生寮生の回答者が 238 名となっていることから，31.9%（=76/238×100）の学生寮生が，寮生支援に不満があると回答していることになる．
●設問 13：授業以外の学習時間は平均何時間くらいですか？（宿題・レポート作成などの時間を含む）．
平日（１日平均）
・「約 2 時間」が，最多回答となっている．約 50%の学生が，2 時間以上の授業以外の学習を実施している．
●設問 14：授業以外の学習時間は平均何時間くらいですか？（宿題・レポート作成などの時間を含む）．
土日祝祭休日（学校が休みの日の 1 日平均）
・「約 2 時間」が，最多回答となっている．約 50%の学生が，2 時間以上の授業以外の学習を実施している．しかし，「3 時間以上」の授業以外の学習を実施している学生の割合が増えている．

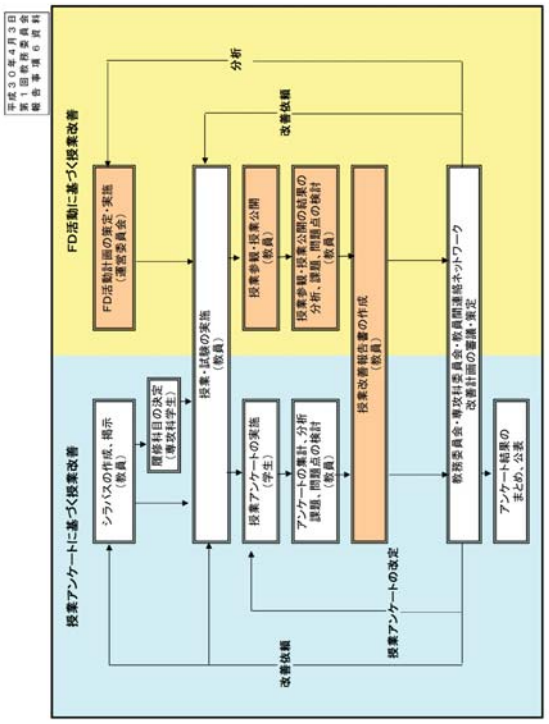
資料１－１－③－（２）－２（続き）

●設問 15：宿題・レポート・課題について、意見があれば簡潔に書いてください（100 文字以内）。
・記述式の回答のため集計は難しいが，レポートの量，頻度，教員の書き方の指導を望む意見，教員の対応など，レポートに関する意見要望が多かった（**別表-3 参照**）。
●設問 16：学力向上のうえで宿題・レポート・課題の量は適切ですか。
・本科 1，2 年生では，「適当」が多いが，3，4 年生になると「多い」が増加している．しかし，5 年生になると「多い」が少なくなっている．
●設問 17：授業期間の宿題・レポート・課題は平均すると 1 日何時間くらいかかりますか。
・おおよそ，1~3 時間程度の範囲となっている．
●設問 18：自学自習をしっかりするために何が必要ですか？（複数選択可）
・「宿題・レポート・課題」が，最多回答となっており．次いで，「PC や携帯電話などでの自学習教材」となっており，設問 25 の ICT 教育への期待が見受けられる．
●設問 19：どのような科目の補習授業があるとよいですか？（複数選択可）
・本科 1 年生では，「専門科目」，「数学」が多いが，学年が上がるにつれ，「専門科目」が多くなっている．しかし，「数学」，「英語」の勉強の重要性を感じていると思われる．
●設問 20：携帯電話・ネットを，学習以外の目的で，１日平均約何時間ぐらい利用しますか？
・「約 2 時間」が 30%と最多回答となっているが，「約 3 時間」，「約 4 時間以上」が，それぞれ 18%，合わせて 36%となっている．また，5 クラスで「約 4 時間以上」が，最多回答となっているため注意が必要であると思われる．
●設問 21：携帯電話・ネットは学習に対して悪影響がありませんか？
・「影響が無い」との回答の方が多いが，実際には，影響があると思われる学生が見られるため，学生の意識と実態の乖離があると思われる．
●設問 22：学習に悪影響がある場合，どう改善したらよいと思いますか？（複数選択可）
・「自分で改善する」が，最多回答となっている．学生の自主自立のためには，もっともであるが，学校としても検討が必要であると思われる．
●設問 23：自分専用の携帯電話を持っていますか。
・ほとんどの学生が，「持っている」との回答となっている．
●設問 24：学校以外の場所で，自由に使用できるインターネットに接続可能なパソコン・スマートフォンなどはありますか。
・ほとんどの学生が，学校以外の場所で，利用可能との回答となっている．
●設問 25：このアンケートに使っている「Blackboard」システムは，今後，授業や自学自習システムや課題提出などにも活用されます．このような ICT を活用した教育についてどう思いますか。
・「期待する」，「ある程度期待する」が合わせて約 60%，「期待しない」，「あまり期待しない」が合わせて約 30%となっている．本科では，高学年生の方が，「期待しない」との回答が多くなる傾向となっている．しかし，専攻科生は，期待しているようである．
●設問 26：現在の高専制度「本科５年制・専攻科２年制」について，今後どのような形がふさわしいと思いますか。
・「現状通りでよい」が，約 80%と最多回答となっている．

（出典　平成２７年度第４回運営委員会資料）

資料１－１－③－（２）－３

「学生による授業評価に基づく授業改善（１）」



（出典　平成３０年度第１回教務委員会資料）

資料１－１－③－（２）－４

「学生による授業評価に基づく授業改善（２）」

令和元年８月２９日
第１１回教務委員会
報告事項２資料

平成 31 年度前期授業アンケートについて

第 7 回教務委員会で審議された内容に基づき，平成 31 年度前期修了科目について授業アンケートを実施しました．この，授業アンケートの集計結果を下記フォルダにまとめましたので，まずは授業アンケート結果の確認をお願いします．

¥¥172.24.180.1¥03 提出・収集・作業用¥08 授業見学・授業アンケート¥01 授業アンケート¥令和元年

今後の予定として，

・学生自由記述意見の選択・記述

・担当教員よりコメント（反省と今後の授業改善のための取組み計画）の記述

を行って貰う予定となっております（専攻科科目についても同様）．記入方法につきましては，下記の通りとなっております．9 月より事務ファイルサーバーの office365 への移行が始まる関係より，コメントの記入の開始および期日については，後ほど連絡させていただきます．ただし，予定としては

前期修了科目アンケート結果 ⇒ 2019 年 9 月末

通年・後期修了科目アンケート結果 ⇒ 2020 年 3 月末

までにコメント記入をお願いする事を考えておりますので，御承知おき下さい．なお，科目担当教員のコメント記入後，学生へ Office365 上で結果の公開を行う予定となっております．



ページ外の部分に，学生からの自由記述がまとめてあります．この中から“主な”自由記述意見を選択して，自由記述意見欄に記載してください（全てを載せる必要はないということです．御自身で，記載する意見を判断して下さい）．もちろん，意見が少数しかない時などは，そのままコピーしても構いません．

もし，記載する学生コメントの中に，公開された場合に個人情報などの観点から不都合があるような箇所がありましたら，その点についてコメント内容を修正してください（個人名の削除など）．

（出典　平成３１年度第１１回教務委員会資料）

資料１－１－③－（２）－５

「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果の報告（本科）」

上２０名が絶対的な上限となっており，従来のコース選択では２０位が複数存在する場合は，１９位までを選択者としていたとの指摘があり，審議の結果，

・フロンティアコースは他系と同様５位までとする（５位が複数いる場合は５名を超過してもよい）。
・食品・バイオコースは上限を２０名とし，超過を認めない（２０位が複数いる場合は１９位まで）

以上のとおり原案を修正し，了承された。

議　　題７．学生異動について　　【議題７資料】

委員長から，資料に基づき経緯等の説明があった後，休学１件について審議願いたい旨提案があり，審議の結果，次のとおり了承された。

○休　学
氏　　名
学 科 ・ 学 年
休 学 理 由
休学許可年月日　　平成３０年７月２０日
休 学 期 間　　平成３０年７月２１日　から
　　平成３１年３月３１日　まで

議　　題８．その他

特になし

報告事項１．６月末までの欠席・欠課状況について　　【報告事項１資料】

大橋教務主事補から，資料に基づき報告があった。

報告事項２．平成２９年度学習・教育目標達成度自己評価集計結果について　　【報告事項２資料】

委員長から，資料に基づき報告があった。

報告事項３．その他

以上

（出典　平成３０年度第１１回教務委員会議事録）

資料１－１－③－（２）－６

「学習・教育到達目標の到達度アンケート集計結果の報告（専攻科）」

平成３０年度　第４回専攻科委員会議事概要

日　時：平成３０年６月１３日（水）　８時３５分～８時５０分
場　所：中会議室
出席者：別紙のとおり

議　　題１．ｅラーニング高等教育連携（eHELP）事業への参加について【議題１資料】
※了承されました。
議　　題２．専攻科学生の車両通学について【議題２資料】
※了承されました。
議　　題３．その他

報告事項１．特例適用専攻科の変更届について【資料なし】
報告事項２．学習・教育到達目標達成度自己評価結果について【報告事項２資料】
報告事項３．学位申請スケジュールについて【報告事項３資料】
報告事項４．自動車安全運転講習会の実施結果について【資料なし】
報告事項５．専攻科長会議の協議題・照合事項【資料なし】
報告事項６．その他

以上

（出典　平成３０年度第４回教務委員会議事録）

資料１－１－③－（２）－７

「卒業生・修了生アンケート分析による自己点検」

平成２８年１０月２７日
第８回　運営委員会
資　料　６　－　１

苫小牧工業高等専門学校

平成 27・28 年度実施「卒業生・修了生アンケート調査結果」

1. 実施目的

今後の教育改善を図るため，卒業生・修了生からの意見集約及び各種目的等の周知状況を調査する．

2. 実施項目

1)実施内容：高専機構平成 23 年度卒業生向けアンケートに準拠
2)実施方法：　①調査期間：平成 27 年 5 月 29 日～平成 28 年 5 月 31 日
②調査方法：配付依頼（紙媒体），本校 HP よりダウンロード（電子ファイル）

3. 実施結果

1)回答数（**添付資料参照**）
回答数は，33 名（内，専攻科修了生（本校本科卒業後，専攻科に進学）4 名）であった．
※専攻科修了生からの回答が，ほとんど得られていないため，今後も継続した活動が必要
2)結果のまとめ（**詳細は，添付資料参照**）
全部で 17 の設問について各設問に対しての全体の傾向などを記述する．

A　回答者について

Q1：本社（官公庁その他の機関を含む全て）の所在地域をお答え下さい．
Q2：業種をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）．
Q3：従業員数をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）．
Q4：年齢をお答え下さい．
Q5：出身学科をお答え下さい（本科）．
Q6：出身学科をお答え下さい（専攻科）．

・（Q1~6：**添付資料参照**）

B　本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q7：本校では，平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています．以下の事項について，質問にお答え下さい．

資料１－１－③－（２）－７（続き）

Q7-1：本校の教育理念に関して，どのように思われますか．

・「適切である」との回答が，100%となっており，認められている．

Q7-2：本科学生および，専攻科学生の学習目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．
●本科学生の学習目標：Ⅰ人間性，Ⅱ実践性，Ⅲ国際性
●専攻科学生の学習目標（専攻科修了生のみ）：Ⅰ人間性，Ⅱ創造性，Ⅲ国際性

・①目標の意義に関しては，「適切である」との結果となっており，認められている．
・②卒業・修了時に身についていたかに関しては，若干であるが，「身についていない」との回答があることから，教員側からの周知や指導内容，学生にこれらを意識した学習をする必要があると思われる．ただし，これらの学習目標を明文化して掲げたのは，平成 26 年度からであるため，回答者が，在学中に意識し学習していない場合が多い．よって，これからの取り組みが重要である．

Q7-3：「" 環境・生産システム工学" 教育プログラム」の学習・教育到達目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（プログラム対象者は，「本科第 4，5 学年~専攻科」です）．（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．
（A）教養，（B）倫理と責任，（C）コミュニケーション，（D）工学基礎，
（E）継続的学習，（F）専門の実践技術，（G）複合領域の実践技術，
（H）社会と時代が求める技術，（I）チームワーク

・①目標の意義に関しては，「適切である」との結果となっており，認められている．
・②卒業・修了時に身についていたかに関しては，(D) 工学基礎については，ほぼ「身についていた」，「やや身についていた」との回答がほとんどである．しかし，(D) 以外の項目では，「身についていない」との回答が，無回答以外の割合で 30%程度ある．このことから，今後はこれまで以上に，学習・教育到達目標に関して，学生が意識した学習をするための教員側からの周知や指導を実施する必要があると思われる．ただし，これらの学習目標を明文化して掲げたのは，平成 26 年度からであるため，回答者が，在学中に意識し学習していない場合が多い．よって，これからの取り組みが重要である．

C　その他

Q8: 本校の本科卒業・専攻科修了を振り返って，総合的な満足度をお答え下さい．

・ほぼ，「大変満足」，「ほとんど満足」という結果が得られている．

資料１－１－③－（２）－７（続き）

Q9：今後，本校の教育内容でとくに重視すべきプログラムを 3 つまでお選びください．

・専門科目に関する「基礎力」，「基礎技術」の重視が選ばれており，「応用力」はやや少ない．
・社会に出てから重要な能力である企画や対人関係のための「プレゼンテーション力」，「コミュニケーション力」や仕事の遂行のための「問題解決力」，「理論的思考力」が多く選択されている
・「英語力」が，必要との回答もみられる．

Q10：今後，本校の教育内容でとくに重視すべき内容をお選びください（複数回答可）．

・「教育内容・教育方法の充実」，「地域連携・産学官連携」の順番となっており，学生に対する教育活動の他に，対外的な地域との連携を重視する必要との回答がされている．

Q11：今後，本校の専門科目で，追加すべき内容をお選びください（複数回答可）．

・「特にない」が，最多回答になっている．
・ただし，就職後に経営などのために「法学関係」，「経済学関係」が，必要との回答も見られた．

Q12：今後，本校の教育はどの方向に進むべきだと思われますか．1 つお選びください．

・「幅広い知識・技術を身につける」，「専門性を高める」という回答に分かれており，両者を両立させるための取り組みを検討する必要がある．

Q13：現在の高専制度「本科 5 年制・専攻科 2 年制」について，今後どのような形が相応しいと思いますか．

・「現状通りでよい」が，最多回答となっている．

Q14：本校は，来年度から本科が「1 学科 5 系」へと改組しました．

Q14-1：改組についてどう思われますか．

・「よい」の回答が多いが，改組後の改組後の内容や実施状況が分からないため，「わからない」が，最多回答となっている．

（出典　平成２８年度第８回運営委員会資料）

資料１－１－③－（２）－８

「進路先アンケート分析による自己点検」

平成２８年１０月２７日
第８回 運営委員会
資 料 ６ － ２

苦小牧工業高等専門学校

平成 27・28 年度実施「企業アンケート調査結果」

1. 実施目的

今後の教育改善を図るため，企業からの意見集約及び各種目的等の周知状況を調査する．

2. 実施項目

1)実施内容： 高専機構平成 23 年度卒業生向けアンケートに準拠し，一部を企業用に修正
2)実施方法： ①調査期間：平成 27 年 5 月 29 日～平成 28 年 5 月 31 日
②調査方法：配付依頼（紙媒体），本校 HP よりダウンロード（電子ファイル）

3. 実施結果

1)回答数（**添付資料参照**）
回答数は，20 社であった．
2)結果のまとめ（**詳細は，添付資料参照**）
全部で 16 の設問について各設問に対しての全体の傾向などを記述する．

A 回答者について

Q1：御社（官公庁その他の機関を含む全て）の本社の所在地域をお選び下さい．
Q2：業種をお選び下さい．
Q3：従業員数をお選び下さい．

・（Q1~3：**添付資料参照**）

B 本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q4：本校では，平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています．以下の事項について，お答え下さい．

Q4-1：本校の教育理念に関して，どのように思われますか．

・ 「適切である」との回答が，ほぼ 100%となっており，認められている．

資料１－１－③－（２）－８（続き）

Q4-2：本科学生および，専攻科学生の学習目標に関して，最近 5 年間程度に，ご採用いただいた本校卒業生および，専攻科修了生の能力について，御社では，どのように評価しているかお答え下さい．
●本科学生の学習目標：（本科卒業生をご採用いただいている場合，お答え下さい）
Ⅰ人間性，Ⅱ実践性，Ⅲ国際性
●専攻科学生の学習目標：（専攻科修了生をご採用いただいている場合，お答え下さい）
Ⅰ人間性，Ⅱ創造性，Ⅲ国際性

・ 「Ⅰ人間性」と「Ⅱ実践性」については，「優れている，「やや優れている」が多く回答されているが，「Ⅲ国際性」については，感じられていない．本科，専攻科ともに企業に求められる「国際性」とは何かを含めて，検討する必要がある．

Q4-3：「" 環境・生産システム工学" 教育プログラム」の学習・教育到達目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（プログラム対象者は，「本科第 4，5 学年～専攻科」です）．（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．
（A）教養，（B）倫理と責任，（C）コミュニケーション，（D）工学基礎，
（E）継続的学習，（F）専門の実践技術，（G）複合領域の実践技術，
（H）社会と時代が求める技術，（I）チームワーク

・ 「わからない」，「無回答」を除くと，ほぼ，「優れている，「やや優れている」が多く回答されている．
・ しかし，（B）倫理と責任，（C）コミュニケーション，（I）チームワークについては，僅かであるが「劣っている」との回答があるため，企業から見ての劣っている理由を調査し，教育指導へ繋げる必要がある．

C その他

Q5: 本校の卒業者・専攻科修了者の能力・仕事ぶりに対する総合的な満足度をお選び下さい．

・ 僅かに「やや不満足」があるが，ほぼ「ふつう」以上の，満足度が得られているとの回答となっている．

Q6：本校の卒業者・専攻科修了者の質は以前と比較して変わりましたか．

・ 大きな変化は，見られないようである．

Q7：今後，本校の卒業者・専攻科修了者の採用についてどうお考えでしょうか．

・ 「採用を増やす」，もしくは「本年度と同様」の回答が多い．

資料１－１－③－（２）－８（続き）

Q8：今後，本校の教育内容でとくに重視すべきプログラムを 3 つまでお選びください．

・ 「専門科目の基礎力」と「専門科目の基本技術」の専門の基礎，基本が重要との回答が多い．
・ 入社してから重要となる要素である「プレゼンテーション力」，「コミュニケーション力」，「協調性」などが多く回答されている．

Q9：今後，本校の教育内容でとくに重視すべき内容をお選びください（複数回答可）．

・ 教員の質や教育内容・方法などの教育に関する項目と地域連携・産学官協力の地域性と研究に関する項目が重視すべきと回答されている．

Q10：今後，本校の専門科目で，追加すべき内容をお選びください（複数回答可）．

・ 「特にない」は，最多回答となっている．これにより，企業は，現状の専門性を評価していると考えられる．しかし，選択されている他の分野については，回答された企業の職種によるものと思われるため，明確な内容は分からない．

Q11：今後，本校の教育はどの方向に進むべきだと思われますか．1 つお選びください．

・ 「幅広い知識・技術を身につける」，「専門性を高める」という回答に分かれており，両者を両立させるための取り組みを検討する必要がある．

Q12：現在の高専制度「本科 5 年制・専攻科 2 年制」について，今後どのような形が相応しいと思いますか．

・ 「現状通りでよい」が，最多回答となっている．

Q13：本校は，来年度から本科が「1 学科 5 系」へと改組を予定しています．

Q13-1：改組についてどう思われますか．

・ 「よい」の回答が多いが，改組後の改組後の内容や実施状況が分からないため，「わからない」や「現状のままでよかった」との回答もされていると思われる．

（出典　平成２８年度第８回運営委員会資料）

資料１－１－③－（２）－９

「外部有識者の検証に関する資料（１）」

平成 29 年度苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議議事要旨

日　　時：平成 30 年 2 月 7 日（水）13 時 30 分～16 時 30 分
場　　所：苫小牧工業高等専門学校中会議室

出席者　運営諮問会議委員

苫小牧信用金庫理事付秘書役兼営業推進役	稲村　幸男
苫小牧市中学校長会事務局長・苫小牧市立沼ノ端中学校長	勝　　洋一
苫小牧市産業経済部長	木村　　淳
苫小牧市議会議員	小山　征三
苫小牧駒澤大学国際文化学部キャリア創造学科教授	佐藤　郁子
国立大学法人室蘭工業大学理事・副学長	濵口　光男
国立大学法人北海道大学大学院情報科学研究科長・教授	宮永　喜一

学校関係者

苫小牧工業高等専門学校　校長	黒川　一哉
〃　副校長（総務主事）	古崎　　毅
〃　副校長（教務主事）	八田　茂実
〃　副校長（学生主事）	中島　広基
〃　副校長（寮務主事）	見藤　　歩
〃　副校長（専攻科長・研究主事）	村本　　充
〃　キャリア教育センター長	須田　孝徳
〃　事務部長	伊藤　恒明
〃　総務課長	井上　義彦
〃　学生課長	内藤　真一
〃　総務課課長補佐（総務担当）	磯部　陽秀
〃　総務課総務係主任	齋藤　里奈

＜議　事＞
（1）平成 28 年度苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議に係る各委員からの御提言に対する改善計画・結果について
（2）専攻科の改組について
（3）苫小牧工業高等専門学校の近況について
（4）国際交流活動について
（5）その他

1．開　会
開会にあたり黒川校長から挨拶の後，井上総務課長から運営諮問会議委員及び本校出席者の紹介がなされ，続いて本日の日程及び配付資料の確認が行われた．
次に議長の選出について，宮永委員が推薦され，全委員の了承により，同委員が議長に選出された．議長の挨拶の後，議事に入った．

資料１－１－③－（２）－９（続き）

２．議　事

議事（１）

黒川校長から会議資料に基づき説明があった。

＜質疑応答＞

議事（１）について次の質疑応答等が行われた。

【宮永議長】

改組の状況というのは、今出来てから２年目が終わった段階ですよね。それで、校長先生が言われたように、評価をというのは、ちょっとまだ早すぎるというか、どちらかというと、改組した組織というのは、値があったとしても、一回全部、全体を見てみないとできないのではないでしょうか。

【黒川校長】

そうですね。ただある程度どういう人材を育成するかというイメージがありますけども、そのとおりになっているかというのは、先生のおっしゃるように２年目では難しいんですけど、ある程度のイメージ、基準みたいなものをつくれないかなと。御提言にも頂いていたんですけど、そういう基準をある程度設けないと育成できないのではないかと。実際にいかが思いかは社会に出て、そういう意味では10年20年かかります。ただ、やっぱりうちとして、こういう学生を出したいというようなことで、基準を開示することが必要。きちっとした基準ではなく、どういうふうにやってきたことを評価するのか、自分自身で評価するための、ある程度の基準というのがあった方がいいのではないかということで申し上げさせていただきました。

議事（２）

村本専攻科長から会議資料に基づき説明があった。

＜質疑応答＞

議事（２）について次の質疑応答等が行われた。

【宮永議長】

言葉なんですけど、「ビジネス」というふうにいわれたときの、大学というか学校が教えるべき科目は、コミュニケーション能力とか、プロジェクトマネジメント能力とか、そんな感じがするんですね。企業で例えばインターンシップに行くとか、企業の人が来て共同で何かものづくりをするというのは、どちらかというと実践力というかデザイン力っていうんですかね、そういう感じがします。ここでいう「ビジネス」というのは、そういうコミュニケーション能力とかそういうのを狙っているんですかね。

【村本専攻科長】

「起業できる人材」というのがキーワードになっておりますので、経営とかそういうのですね。

【宮永議長】

経営が入るんですか。じゃあ、まさしくビジネスそのものが入ってくるんですね。

【村本専攻科長】

それについては、後ほど須田キャリア教育センター長から説明いたします。

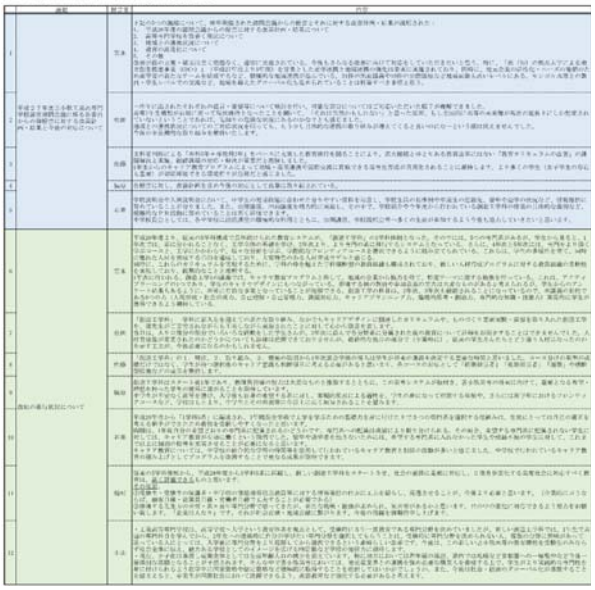
ただ、単位数がそんなに多くないので、さわりの部分しか出来ないとは思います。ある程度、大学というか高専でも、今までは お金に関しての話はあまり授業では出てきません。研究についても、ものが出来れば良い、それが売れるかどうかとか、お金を出来るだけかけずにという視点は、研究ではなかなか出てこないが、そういうところもきちんと頭の中に入れて研究できるような、そういう人材を育てたい。

（出典　平成２９年度苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議議事要旨抜粋）

資料１－１－③－（２）－１０

「外部有識者の検証に関する資料（２）」

平成29年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧



資料１－１－③－（２）－１０（続き）



（出典　平成２９年度苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議議事資料【1】提言と対応）

資料１－１－③－（２）－１１

「教育活動に関する第三者評価（１）」



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ／学校紹介／機関別認証評価）

資料１－１－③－（２）－１２

「教育活動に関する第三者評価（２）」



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ／ＪＡＢＥＥ認定）

資料１－１－③－（２）－１３

「設置計画履行状況調査」

注3 **高専番号：０２**

事前伺い

［平成28年度設置］
計画の区分：　学部の学科の設置
注1

苫小牧高専　創造工学科
注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

独立行政法人 国立高等専門学校機構
令和元年５月１日現在

作成担当者
担当部局（課）名　総務課
職名・氏名　総務課長・松橋　和哉
電話番号　0144-67-0734
（夜間）　0144-67-0213
ＦＡＸ　0144-67-0814
e-mail　soumu@tomakomai-ct.ac.jp

目次

＜創造工学科＞　ページ
1．調査対象高専等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
3．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
4．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
5．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
6．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・　44
7．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46

資料１－１－③－（２）－１３（続き）

1　調査対象高専等の概要等

（1）設 置 者

独立行政法人 国立高等専門学校機構

（2）高 専 名
苫小牧工業高等専門学校

（3）高専の位置

〒０５９－１２７５
北海道苫小牧市錦岡４４３番地

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4）管理運営組織

職　名	設　置　時	変 更 状 況	備　考
理 事 長	（タニグチ　イサオ） 谷口　功 （平成28年4月1日）		
校　長	（クロカワ　カズヤ） 黒川　一哉 （平成26年4月1日）		
学 科 長	（ハッタ　シゲミ） 八田　茂実 （平成28年4月1日）	（フルサキ　ツヨシ） 古崎　毅 （平成29年4月1日）	交代のため（29）
学科長等			

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。
（例）平成３０年度に報告済の内容　→（30）
令和元年度に報告する内容　→（元）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校創造工学科　設置に係る設置計画履行状況報告書（令和元年度））

資料１－１－④－（１）－１

「教育の質の改善・向上に関連する組織の規程（運営委員会ＦＤ部会」

平成31年3月27日
第12回運営委員会
資料　6

苫小牧工業高等専門学校運営委員会部会要項

（平成23年６月14日校長裁定）
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日
一部改正　平成29年５月12日
一部改正　平成31年　月　日

（趣旨）
第１条　この要項は，苫小牧工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）規程第６条第１項の規定に基づき設置する部会（以下「部会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置及び審議事項）
第２条　委員会に別表第１に掲げる部会を置く。部会は，部会毎に同表に定める事項を審議する。

（組織）
第３条　部会は，委員会規程第６条第３項の規定に基づき部会毎に別表第２の構成欄に掲げる者をもって組織する。

（略）

別表第１（第２条関係）

名　称	審　議　事　項
FD 部会	(1) 授業改善・教育業務改善に関すること (2) その他 FD に関すること
JABEE 対応部会	(1) 審査申請に関すること (2) 実地審査の対応に関すること (3) その他 JABEE に関すること
~~環境教育推進部会~~	~~(1) 環境教育に関すること~~ ~~(2) その他環境マネジメントに関すること~~
機関別認証評価対応部会	(1) 評価申請に関すること (2) 書面調査及び訪問調査に対応すること (3) その他機関別認証評価に関すること
自己点検・評価対応部会	(1) 自己点検・評価報告書作成に関すること (2) その他自己点検・評価に関すること

資料１－１－④－（１）－１（続き）

別表第２（第３条及び第５条及び第７条関係）

名　称	部会長	構　成	事務担当
FD部会	副校長（教務主事）	(1) 副校長（教務主事） (2) 副校長（専攻科長） (3) 校長が指名する教員 若干名	学生課
JABEE対応部会	副校長（専攻科長）	(1) 副校長（専攻科長） (2) 副校長（専攻科長）の推薦に基づき校長が指名する教員 若干名 (3) 副校長（専攻科長）の推薦に基づき校長が指名する事務職員 若干名	総務課
環境教育推進部会	校長が指名する運営委員会委員	(1) 校長が指名する運営委員会委員 (2) 校長が指名する教員 若干名 (3) 事務部長	学生課
機関別認証評価対応部会	副校長（総務主事）	(1) 副校長（総務主事） (2) 総務主事補 (3) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する教員（若干名） (4) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する事務職員（若干名）	総務課
自己点検・評価対応部会	副校長（総務主事）	(1) 副校長（総務主事） (2) 総務主事補 (3) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する教員（若干名） (4) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する事務職員（若干名）	総務課

（以下略）

（出典　平成 30 年度第 12 回運営委員会資料
「苫小牧工業高等専門学校運営委員会部会要項」
より抜粋）

資料１－１－④－（１）－２

「運営委員会による自己点検・評価に基づいた改善活動（１）」

平成２５年度　第１回 運営委員会記録

◆日　　時　　平成２５年４月１２日（金）１６時１５分～１９時００分
◆場　　所　　中会議室
◆出 席 者　　別紙のとおり
◆欠 席 者　　八田校長補佐，浅野機械工学科長（代理：見藤教員）

議　題　１．平成２４年度実施自己点検及び評価に対する外部評価について（資料あり）
校長から，運営諮問会議による外部評価を受けた旨説明の後，今年度中に改善計画を立て，来年度の認証評価の自己評価書に反映したい旨提案があり，平野校長補佐から補足説明の後，審議の結果，原案のとおり了承された。

議　題　２．卒業率等について（資料あり）
中野校長補佐から，資料議題２に基づき，全国の平均卒業率は約９０％である旨説明の後，各学科において卒業率改善に協力依頼があった。

議　題　３．教育システム等の見直しについて（資料あり）
校長から，教育システムの見直しに至る背景等の説明の後，中野校長補佐から，資料議題３－１に基づき各学科からの意見のまとめ及び資料議題３－３の高専機構の方針の補足説明があった。
次いで，校長から，資料議題３－２に基づき見直しについて提案があり，審議の結果，改善案を含め次回運営委員会までに各学科の意見を提出することが確認された。

議　題　４．中期計画担当組織の一部変更について（資料あり）
山際校長補佐から，資料議題４に基づき，キャリア教育センターが設置されたことによる変更の提案があり，審議の結果，了承された。

議　題　５．平成２５年度活動計画の作成について（資料あり）
山際校長補佐から，資料議題５に基づき平成２５年度活動計画作成の提案があり，審議の結果，５月７日までに提出することが確認され，了承された。

議　題　６．「環境・生産システム工学」教育プログラムの履修及び修了に関する規程の一部改正について（資料あり）
加島校長補佐から，資料議題６に基づき説明の後，審議の結果，原案のとおり了承された。

（以下略）

（出典　平成２５年度第１回運営委員会議事録」より抜粋）

資料１－１－④－（１）－３

「運営委員会による自己点検・評価に基づいた改善活動（２）」

平成２５年度　第３回 運営委員会記録

◆日　　時　　平成２５年６月１２日（水）１４時００分～１５時２０分
◆場　　所　　中会議室
◆出 席 者　　別紙のとおり
◆欠 席 者　　那須野地域共同研究センター長

議　題　１．教育システム等の見直しについて（資料あり）
校長から，混合学級導入等を含めた教育システムの高度化についての意義等の説明の後，配付資料１に基づき，各学科からの対案等を含めた再度の意見聴取を行った結果，混合学級導入については見送ることとし，他の検討項目については了承され，今後 WG を設置して具体策を検討することが確認された。
なお，混合学級導入を見送ることにより，高度化への対応を再度検討する必要が生じる旨発言があり，特に反対意見のあった４学科について，新たな高度化への対応提案を今後２，３か月で行うよう要請があった。

議　題　２．苫小牧工業高等専門学校委員部規程を廃止する規程について
校長から，平成１６年に日本育英会委員部規程が廃止されたことに伴い，本校委員部規程を廃止するべきであった旨経緯説明があり，本規程について本日付けで廃止したい旨提案があり，審議の結果了承された。

議　題　３．第２回スタディサポートの実施について
校長から，４月に１学年対象に実施されたスタディサポートの報告会が６月に開催された旨説明の後，学習傾向や学力変化の把握し，今後の学修指導に活かすため，今年秋に第２回目を実施したい旨提案があった。中野教務主事から，夏季休業中の課題と９月初旬の放課後等でのテスト実施が考えられる旨補足説明があり，審議の結果，受験科目等適正な形で実施することで了承された。
また，実施経費については，後援会等校費で補う旨確認された。

議　題　４．その他
なし

報告事項　１．平成２４年度自己点検及び評価並びに外部評価に対する改善計画について（資料あり）
平野校長補佐から，資料報告事項１に基づき，各委員会から提出された改善計画についてまとめ，認証評価の自己評価書に反映させる旨報告があった。

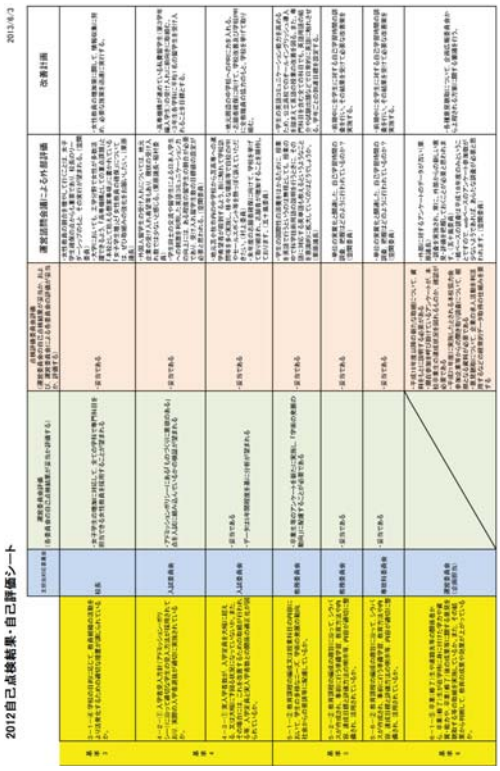
報告事項　２．外国人留学生の受入れについて
校長から，外国人留学生の受け入れ人数について，前回運営委員会で了承されたとおり，資料報告事項２に基づき受入れ可能人数について回答した旨報告があった。

（以下略）

（出典　平成２５年度第３回運営委員会議事録」より抜粋）

資料１－１－④－（１）－４

「運営委員会による自己点検・評価に基づいた改善活動（３）」



（出典　平成２５年度第３回運営委員会報告事項１資料より抜粋）

資料１－１－④－（１）－５

「運営委員会ＦＤ部会による教育改善活動（１）」

平成３１年度　第１回 FD 部会議事録

日　時：平成３１年４月２日（火）　１０時４５分～１１時４０分
場　所：中会議室
出席者：別紙のとおり

議　　題１．平成３１年度ＦＤ部会の活動について　　【議題１資料】

浅見部会員から，昨年度のＦＤ部会の活動について，資料に基づき説明があった後，村本部会長から，今年度のＦＤ部会の活動については，授業アンケートに基づく授業改善，授業参観に基づく授業改善，教育システム改善に基づく授業改善の３つを柱に活動計画を策定していきたい旨説明があった。

また，審議の結果，今後下記のとおり提案していき，詳細については，教務委員会で審議検討していくこととなる旨説明があり，了承された。

○授業アンケート
→現在３年間で全科目のアンケートを実施しているが，教学 IR の視点から，毎年全科目のアンケートを実施
→アンケート項目の内容を再検討（項目数も減らす）
→アンケートツールについては，blackboard から Forms への変更
○授業参観
→各系２科目程度の授業を対象とし，必ず１科目を参観することとする
○教員間連絡ネットワーク
→プレ卒研，創造工学等系横断科目について情報交換
○FD 講演会
→外部講師による講演会を年１回以上開催する

議　　題２．その他
なし

報告事項１．その他
なし

（出典　平成３１年度第１回運営委員会ＦＤ部会議事録）

資料１－１－④－（１）－６

「運営委員会ＦＤ部会による教育改善活動（２）」

平成31年4月2日
第１回　FD部会
議　題　１　資　料

授業改善に関わる活動の状況に関して

本校における授業改善は，少なくとも平成 20 年度以降より，添付資料１に示されるように“授業アンケート”と“FD 活動”を２本の柱として説明・実施されている．以下に，昨年度の取組み状況についてまとめる．

1. 平成 30 年度における授業アンケート実施および授業改善計画に関して

昨年度４月の計画においては，以下の様な流れにおいて授業アンケートに基づいた授業改善計画が予定されていた（なお，調べた限りにおいて H17 年度以降より，この授業アンケートに基づく授業改善計画の流れは，資料を含めて全く変わっていない．むしろ，分かり易くするため追記した）．しかし，教員の誤りにより Bb 内の授業アンケートファイルが消失してしまったことより，昨年度は計画が実施されていない．

⇒ 操作ミスの影響を狭めるため，今年度はアンケートをクラス毎に実施（H30 第８回教務委員会）

なお，H30 年度分の授業アンケート結果に関しては，前期分は事務用ファイルサーバーに提出が行われているが，後期分に関しては提出が行われていない（連絡・指示がされていないため）．

【アンケート集計結果の提出】（各教員，３月までに実施）
⇒ 担当科目教員が，Bb のアンケート集計ファイルを事務用ファイルサーバに提出
↓
【各教務委員へ各系のアンケート集計結果を配布】（教務係，４月下旬）参考資料２
↓
【授業アンケート集計結果へのコメント記入・提出】
【“授業アンケートに基づく改善と取組み”の作成・提出】（各教員，４月まで）※ 参考資料３
↓
【授業改善の審議】（教務委員会）
↓
【授業改善の依頼】，【授業アンケート内容の改定】→【前期末，年度末での実施】
【授業アンケートの結果まとめ，公表】
※ H30 年度は Bb により教員・学生への公表をする予定であったが実施されず．

2. 授業改善報告書に関して

平成 30 年度より，「今年度の授業改善の取り組み」と「今年度の授業改善の結果と来年度に向けての授業改善計画」についての報告書作成という活動が行われている（添付資料 4）．また，これにより授業アンケートに基づく系反省報告書が廃止された．

今年度も継続していく場合，「改善結果」と「今年度の取組み」の記述・提出に関しては指示されていないため，早目に指示の上，提出を行わせる必要があると思われる．

資料１－１－④－（１）－６（続き）

3. 学級経営（教員間）連絡ネットワークに関して

平成 30 年度より，従来の系ごとに行われる学級経営連絡ネットワーク（系反省会）および報告書ではなく，学生の動向（諸問題点，顕著な課外活動・学外活動）について教員全体で情報交換するものに変更された．また，名称としては教員間連絡ネットワークとされ，前期・後期に一度ずつ実施されている．

⇒ 教務委員は，前期と後期２回ずつ，系会議にて連絡された学生の動向について記録した報告書を提出する．　※ 添付資料 5

＜前期＞
実施日：平成 30 年９月 21 日（金）10:30～12:00
テーマ：学生の動向に関する情報交換会
「前期中に各系の会議等の場において話題になった学生やクラスの動向について，情報共有の場とする．」
発表者：各系教務委員（各 10 分程度）
全体の発表後，相談室長から今年度の学生の動向について講演

＜後期＞
実施日：平成 31 年３月 19 日（火）10:00～11:00
テーマ：学生の動向に関する情報交換会
「(1) 欠席・遅刻が多い学生，(2) 担任以外の声がけ，(3) 特に成績が低迷している学生へ，補習や面談のほか習熟度別の課題，(4) レポート提出が滞る学生 等に対してどのような対応をし，どのような変化がみられたか，具体的な情報を共有する場とする．」
発表者：各系教務委員（各 10 分程度）

4. FD 活動に関して

平成 30 年度は，下記の様に２回の FD 講演会が実施されている．

＜前期＞
実施日：平成 30 年９月 21 日（金）14:00～15:00
テーマ：機構本部および文科省の展望などの共有すべき情報の交換会
発表者：村本先生「未来の高専について」
佐藤（奈）先生「高専の国際展開の現状と課題について」
佐々木（幸）先生「高専教育の質保証について」

＜後期＞
実施日：平成 31 年３月 19 日（火）11:00～11:30
テーマ：単独クラスの授業と比較した合同授業の長所・短所
講演者：高橋先生，村本先生

資料１－１－④－（１）－６（続き）

5. 授業参観（研究授業）

FD 担当からの引き継ぎ資料はありませんでしたが，「研究授業」という名称にて以下の様に平成 30 年度は以下の様に実施された（7/4 サイボウズにて案内．これに関する教務委員会の議事録もない）．見学者は，見学後に講義担当者に授業見学報告書を渡し，それを元に意見交換会が行われた．※ 添付資料 6

実施日時：平成 30 年７月 12 日（木）
実施科目：① １～４時限目　創造工学Ⅰ（第２体育館）　担当：村本，須田，大橋 他
・１～２時限目　調査発表割作
・３～４時限目　調査発表
② １～２時限目　水理学Ⅱ（K４）　担当：八田
③ １～２時限目　論理回路Ⅱ（３年５組）　担当：大西
④ ３～４時限目　英語ⅣC（J4）　担当：佐藤（奈）
⑤ ３～４時限目　応用無機化学（S4）　担当：古崎
⑥ ６～７時限目　創造工学Ⅱ（D204）　担当：池田，小藪

意見交換会：同日 15:45～　大講義室

6. 昨年度からの申し送り事項に関して

＜授業アンケートに関して＞
① 授業アンケートを科目別に取る事を再度検討する必要がある．
⇒ 科目ごとではなく教員ごとにするなど．
② H28 年度から授業アンケートの実施科目が年度ごとに交代していたが，H30 年度にて実施グループが一回りした．H31 年度から，実施科目グループが最初に戻るので注意する．※ 添付資料 7
③ 授業アンケートの内容の見直し．（実施するか否かも含めて）

＜授業アンケート以外の授業改善について＞
① 研究授業の実施と改善について．
⇒ 参加する教員や授業の実施者が固定化されている．また，その後の意見交換会の参加者の少なさ．
⇒ 定期的に研究授業を実施すべき．
② 授業改善報告書など運用を失念しないようにする．
③ 教員間連絡ネットワークおよび FD 講演会の参加率向上の取組み
④ 教員間連絡ネットワークに関しては，学生の動向についての報告は月曜朝の定例会を利用できないか，長期休業中に行うものは，授業改善に関わるものにのみする．

7. 申し送り事項以外で考えられる問題点・改善点

① 授業アンケートを今後も実施していく場合においても，“授業アンケートに基づく授業改善計画の流れ”は余りにも実態とかけ離れているため（理想的な計画なのだとは思うが），資料を含めて計画は作り直した方が良いと思われる．

資料１－１－④－（１）－６（続き）

② “授業アンケートに基づく改善と取組み”の報告書と“授業改善報告書”の双方が存在している必要性があるのか？“授業改善報告書”は授業アンケートが割り当たっていない時の改善活動とも言えるが，授業アンケート担当の際は二度手間なだけでは？

② “系会議における学級経営連絡内容”の報告書は，授業改善を中心とした FD 活動としての内容になっていないのではないか？目的と位置づけが不明確に感じられる．FD 活動として行うのであれば，学習支援活動の活発化などもう少し意図を明確にした内容のものにした方が良いと思われる．

③ 研究授業を，１日ではなくもう少し広い期間内に，より多くの授業を配置して行った方が良いのではないか？（調整が難しいとは思われるが，１日での開催だと諸事情により参加できない教員も多くなってしまうため）また，この研究授業についての意見交換会を，長期休業中の FD 活動として取組めばもう少し有意になるのではないか？

（出典　平成３１年度第１回運営委員会ＦＤ部会資料）

資料１－１－④－（２）－１

「前回の機関別認証評価における『改善を要する点』として指摘された事項」

平成２７年４月１４日
第１回運営委員会
資　料　１１

機関別認証評価で指摘された【優れた点】と【改善を要する点】について

基準１　高等専門学校の目的
【改善を要する点】
１－２－①　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか．
○学校の目的について，様々な手段により学校構成員の周知を図る取組を行っているものの，教職員の実際の周知状況を把握する取組は十分とはいえない．

基準２　教育組織（実施体制）
【改善を要する点】
２－２－②　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか．
○一般科目担当教員と専門科目担当教員による関連授業科目の内容・進度の調整等の科目間連携に関する活動は個別に日常的に行われているものの，学校としての取組が機能的に行われているとはいえない．

基準３　教員及び教育支援者等
【優れた点】
３－１－②　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか．
○専攻科課程の学生のグローバル社会に向けた実践的能力及び英語力の向上のために４人の博士の学位を有する外国人非常勤講師を配置し，１年次の「ライフサイエンス」及び２年次の「電子・生産システム工学特別演習」「環境システム工学特別演習」の一部を英語で講義していることは，特色ある取組である．

基準４　学生の受入
【改善を要する点】
４－１－①　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか．また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか．
○入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に関する教職員への周知を図る取組を行っているものの，実際の周知状況を把握する取組は十分とはいえない．

基準５　教育内容及び方法
【優れた点】
５－２－①　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか．
○準学士課程において，平成 18 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）」として採択された「高専間連携を活用した体験型環境教育の推進－持続可能な環境社会を担うエンジニア育成のための体験型教育プロジェクト－」の成果を基礎として，平成 20 年度から「特別学修（環境産業体験プログラム）」の科目名で，野外セミナー，工場見学，ワークショップ，報告会などを通して持続可能な環境社会の在り方について様々な視点から考える姿勢を身に付けさせる取組を実施し，各専門学科で単位認定している．

資料１－１－④－（２）－１（続き）

５－２－③　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか．また，インターンシップの活用が図られているか．
○準学士課程において，全学科に実験又は実習科目を必修科目として設定し，創造性を育む教育を行っているが，特に，全学科共通の１年次「ものづくり基礎」では各学科で用意したテーマを与え，技術に関心を深めさせる一方で，実験・実習の方法や，共同作業の進め方など，創造性を育むための導入科目としている．また，学年進行とともに，創造性を育むための教育について各学科それぞれに工夫を行っている．例えば，機械工学科３年次の「生産加工実習Ⅲ」においては，最終的に製作するものを指定するが，使用材料の選択，完成物の大きさ，形状，作製方法などは学生の創意工夫に任せることで，創造性を育成するよう配慮している．
５－４－①　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか．また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか．
○準学士課程において，１単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて 45 時間である授業科目について，適切な量と内容の課題を課すことで授業時間外学修時間を確保することを考えており，その一つの試みとして，平成 26 年度から「課題カレンダー」を準学士課程の全クラスに掲示して記入させ，各クラスの課題出題状況を学校として把握するとともに，各教科担当教員が相互に確認できるようにし，最適な授業外学修が実施されるよう促していることは，特色ある取組である．
５－６－③　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか．また，インターンシップの活用が図られているか．
○専攻科課程１年次の「創造工学」，２年次の「エンジニアリングデザイン」「電子・生産システム工学特別演習」「環境システム工学特別演習」などにおいて創造性を育む工夫を行っている．これらの授業においては，創造的発想法や問題解決法について教授した上で，プロジェクトに取り組ませ，プロジェクトの途中経過や最終結果についてグループ単位や全体での発表や議論の機会を与えることを通じて創造的能力を高める工夫を行っている．
○実践的な技術者の養成のため，専攻科課程１年次に実質 10 日間以上のインターンシップ参加を義務付け，そのために全学科に毎年実習機関調査依頼を行い，研修先を確保していることは，特色ある取組である．

【改善を要する点】
５－２－②，５－６－②教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか．
○準学士課程及び専攻科課程における教員のシラバス活用状況を学校として把握する取組は十分とはいえない．
５－４－①，５－８－①成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか，また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか．
○準学士課程及び専攻科課程における成績評価等の規定に対する学生の周知状況を学校として把握する取組は十分とはいえない．
その他項目にない指摘事項
○準学士課程の一部の授業科目において，複数年度にわたり同一の試験問題が出題されてい

資料１－１－④－（２）－１（続き）

る．また，内試験・追試験において本試験と同一の試験問題が出題されている．
複数の項目に関わる指摘事項
○準学士課程及び専攻科課程において，１単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて 45 時間である授業科目の成績評価等に関しては，授業時間以外の学修の確認を行うことがシラバスに記載されているものの，その記載どおりに実施されていることを学校として把握する取組は十分とはいえない．

基準６　教育の成果
【優れた点】
６－１－③　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか．
○　就職について，準学士課程，専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く，就職先も建設業，製造業，情報通信業等の当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている．進学についても，準学士課程の進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く，専攻科課程の進学率も高く，進学先も学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系の学部や研究科となっている．

【改善を要する点】
６－１－⑤　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか．また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか．
○卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関して，「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育到達目標の項目に対応した意見聴取を進路先等の関係者から実施しているものの，学校の学習目標に対応した意見聴取は，卒業（修了）生及び進路先等関係者に対して実施していない．

基準７　学生支援等
【優れた点】
７－１－③　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか．また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか．
○ニュージーランドのＥＩＴ（Eastern Institute of Technology）との学術交流協定による学生の短期外国留学制度があり，経済的支援も実施しており，平成22～26 年度の５年間で準学士課程の学生63 人を派遣している．

基準８　施設・設備
○指摘無し

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム
【優れた点】
９－２－①　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか．
○ＦＤ部会の下，ティーチングポートフォリオに関する講演会やミニワークショップを平成

（以下略）

（出典　平成２７年度第１回運営委員会資料）

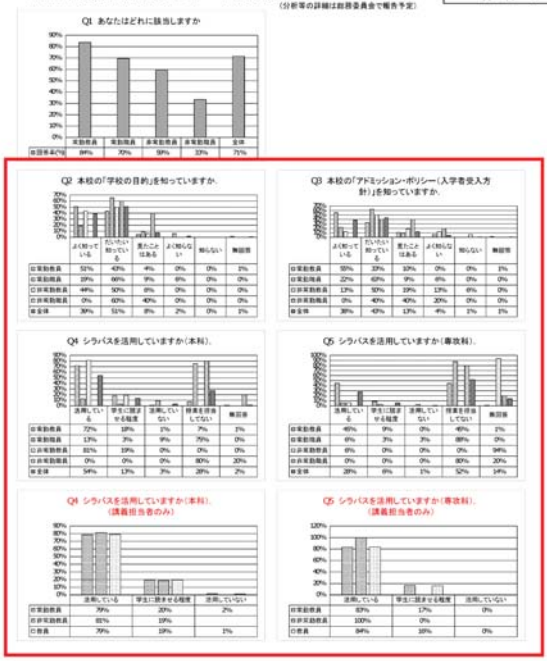
資料１－１－④－（２）－２

「「教職員に対する「学校の目的」「アドミッションポリシー」の周知状況の把握」「教員のシラバス活用状況の把握」「授業以外の自学自習状況の把握」に対する取組」

平成２７年８月７日
第５回運営委員会
資　料　８

平成27年度実施教職員アンケートの結果について

（分析等の詳細は総務委員会で報告予定）



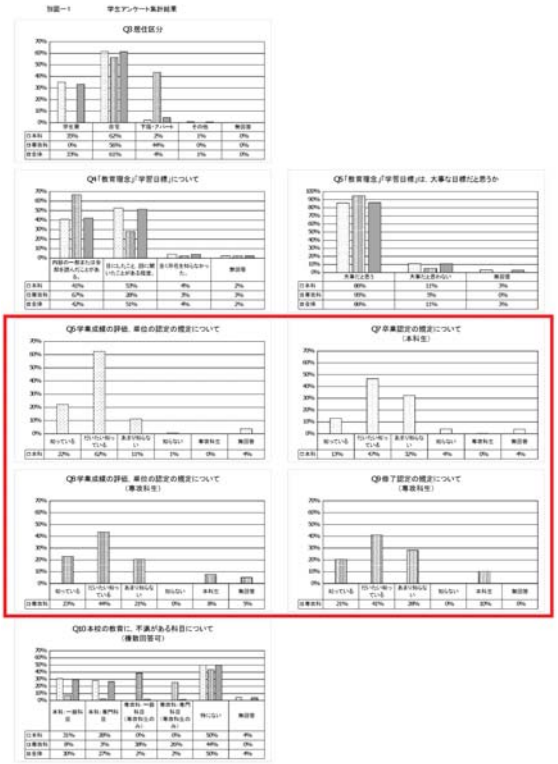
資料１－１－④－（２）－２（続き）



（出典　平成２７年度第５回運営委員会資料）

資料１－１－④－（２）－３

「成績評価等の規定に対する学生の周知状況を把握する取組」



（出典　平成２７年度第４回運営委員会資料）

資料１－１－④－（２）－４

「卒業生・修了生に対する学校の学習目標に関する意見聴取」

平成２８年１０月２７日
第８回　運営委員会
資　料　６　－　１

苫小牧工業高等専門学校

平成 27・28 年度実施「卒業生・修了生アンケート調査結果」

1. 実施目的

今後の教育改善を図るため，卒業生・修了生からの意見集約及び各種目的等の周知状況を調査する．

2. 実施項目

1)実施内容：高専機構平成 23 年度卒業生向けアンケートに準拠
2)実施方法：　①調査期間：平成 27 年 5 月 29 日～平成 28 年 5 月 31 日
　　②調査方法：配付依頼（紙媒体），本校 HP よりダウンロード（電子ファイル）

3. 実施結果

1)回答数（添付資料参照）
　回答数は，33 名（内，専攻科修了生（本校本科卒業後，専攻科に進学）4 名）であった．
　※専攻科修了生からの回答が，ほとんど得られていないため，今後も継続した活動が必要
2)結果のまとめ（詳細は，添付資料参照）
　全部で 17 の設問について各設問に対しての全体の傾向などを記述する．

A　回答者について

Q1：本社（官公庁その他の機関を含む全て）の所在地域をお答え下さい．
Q2：業種をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）．
Q3：従業員数をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）．
Q4：年齢をお答え下さい．
Q5：出身学科をお答え下さい（本科）．
Q6：出身学科をお答え下さい（専攻科）．

・（Q1~6：添付資料参照）

B　本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q7：本校では，平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています．以下の事項について，質問にお答え下さい．

資料１－１－④－（２）－４（続き）

Q7-1：本校の教育理念に関して，どのように思われますか．

・「適切である」との回答が，100%となっており，認められている．

Q7-2：本科学生および，専攻科学生の学習目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．

●本科学生の学習目標：Ⅰ人間性，Ⅱ実践性，Ⅲ国際性
●専攻科学生の学習目標（専攻科修了生のみ）：Ⅰ人間性，Ⅱ創造性，Ⅲ国際性

・①目標の意義に関しては，「適切である」との結果となっており，認められている．
・②卒業・修了時に身についていたかに関しては，若干であるが，「身についていない」との回答があることから，教員側からの周知や指導内容，学生にこれらを意識した学習をする必要があると思われる．ただし，これらの学習目標を明文化して掲げたのは，平成 26 年度からであるため，回答者が，在学中に意識し学習していない場合が多い．よって，これからの取り組みが重要である．

Q7-3：「" 環境・生産システム工学" 教育プログラム」の学習・教育到達目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（プログラム対象者は，「本科第 4，5 学年～専攻科」です），（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．

（A）教養，（B）倫理と責任，（C）コミュニケーション，（D）工学基礎，
（E）継続的学習，（F）専門の実践技術，（G）複合領域の実践技術，
（H）社会と時代が求める技術，（I）チームワーク

・①目標の意義に関しては，「適切である」との結果となっており，認められている．
・②卒業・修了時に身についていたかに関しては，（D）工学基礎については，ほぼ「身についていた」，「やや身についていた」との回答がほとんどである．しかし，（D）以外の項目では，「身についていない」との回答が，無回答以外の割合で 30%程度ある．このことから，今後はこれまで以上に，学習・教育到達目標に関して，学生が意識した学習をするための教員側からの周知や指導を実施する必要があると思われる．ただし，これらの学習目標を明文化して掲げたのは，平成 26 年度からであるため，回答者が，在学中に意識し学習していない場合が多い．よって，これからの取り組みが重要である．

C　その他

Q8: 本校の本科卒業・専攻科修了を振り返って，総合的な満足度をお答え下さい．

・ほぼ，「大変満足」，「ほとんど満足」という結果が得られている．

（出典　平成２８年度第８回運営委員会資料）

資料１－１－④－（２）－５

「進路先関係者に対する学校の学習目標に関する意見聴取」

平成２８年１０月２７日
第８回　運営委員会
資　料　６　－　２

苫小牧工業高等専門学校

平成 27・28 年度実施「企業アンケート調査結果」

1．実施目的

今後の教育改善を図るため，企業からの意見集約及び各種目的等の周知状況を調査する．

2．実施項目

1)実施内容：　高専機構平成 23 年度卒業生向けアンケートに準拠し，一部を企業用に修正
2)実施方法：　①調査期間：平成 27 年 5 月 29 日～平成 28 年 5 月 31 日
　　②調査方法：配付依頼（紙媒体），本校 HP よりダウンロード（電子ファイル）

3．実施結果

1)回答数（添付資料参照）
　回答数は，20 社であった．
2)結果のまとめ（詳細は，添付資料参照）
　全部で 16 の設問について各設問に対しての全体の傾向などを記述する．

A　回答者について

Q1：御社（官公庁その他の機関を含む全て）の本社の所在地域をお選び下さい．
Q2：業種をお選び下さい．
Q3：従業員数をお選び下さい．

・（Q1～3：添付資料参照）

B　本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q4：本校では，平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています．以下の事項について，お答え下さい．

Q4-1：本校の教育理念に関して，どのように思われますか．

・「適切である」との回答が，ほぼ 100%となっており，認められている．

資料１－１－④－（２）－５（続き）

Q4-2：本科学生および，専攻科学生の学習目標に関して，最近 5 年間程度に，ご採用いただいた本校卒業生および，専攻科修了生の能力について，御社では，どのように評価しているかお答え下さい．

●本科学生の学習目標：（本科卒業生をご採用いただいている場合，お答え下さい）
　Ⅰ人間性，Ⅱ実践性，Ⅲ国際性
●専攻科学生の学習目標：（専攻科修了生をご採用いただいている場合，お答え下さい）
　Ⅰ人間性，Ⅱ創造性，Ⅲ国際性

・「Ⅰ人間性」と「Ⅱ実践性」については，「優れている」，「やや優れている」が多く回答されているが，「Ⅲ国際性」については，感じられていない．本科，専攻科ともに企業に求められる「国際性」とは何かを含めて，検討する必要がある．

Q4-3：「" 環境・生産システム工学" 教育プログラム」の学習・教育到達目標に関して，就職あるいは進学された後に，振り返って考えてみて「①目標の意義について」，「②卒業生時に能力が身についていたか」についてお答え下さい（プログラム対象者は，「本科第 4，5 学年～専攻科」です），（「教育理念」と「学習目標」を掲げる前の卒業生・修了生の方も参考のためお答え下さい）．

（A）教養，（B）倫理と責任，（C）コミュニケーション，（D）工学基礎，
（E）継続的学習，（F）専門の実践技術，（G）複合領域の実践技術，
（H）社会と時代が求める技術，（I）チームワーク

・「わからない」，「無回答」を除くと，ほぼ，「優れている」，「やや優れている」が多く回答されている．
・しかし，（B）倫理と責任，（C）コミュニケーション，（I）チームワークについては，僅かであるが「劣っている」との回答があるため，企業から見ての劣っている理由を調査し，教育指導へ繋げる必要がある．

（出典　平成２８年度第８回運営委員会資料）

資料１－１－④－（２）－６

「試験における同一問題使用に対する取組」

平成２７年６月２３日
第７回教務委員会
議　題　３　資　料

平成 26 年度答案等保存資料の点検作業について

1．資料保存と点検作業の趣旨

平成 17 年度から JABEE に対応した教育点検・改善の一環として答案等保存資料の点検を実施している．これは，JABEE が求めるシラバス通りの授業の実施，シラバスに記載された評価法・評価基準の厳格な実施を受けてのことであるが，平成 26 年度に実施された機関別認証評価においても，厳格な成績評価が求められていた．機関別認証評価では，その評価対象が本科・専攻科の全学年を対象としているため，答案等保存資料の点検についても，本科・専攻科の全学年に対して実施する必要がある．

2．相互点検

答案等保存資料提出時に各学科内で相互に点検を行う．この段階で修正可能な不備が見つかった場合は，点検者は科目担当者に修正を依頼し，修正したものを再び点検すること．不備が改善された場合，点検結果は不備がなかったものとして取り扱うこと．
相互点検時は，※新サーバー から直接相互点検シートを開くとリンク機能が使えないため，※新サーバー から点検するファイルを一旦 PC にダウンロードし，点検終了後に削除すること．
※新サーバーについては，別途総務係より通知が行われます．

2-1) ファイル名の点検およびファイルの内容物に関する点検

各項目資料の有無は相互点検シートのファイル名をクリックして PDF ファイルが開くことを確認すること．ファイル名が間違っている場合はファイルが開かないのでファイル名を修正すること．
各項目資料の内容は，資料の整理方法や採点が正しく行われているか等を点検し，点検結果が妥当と判断される場合は「A」，懸念がある場合は「C」，弱点がある場合は「W」，欠陥がある場合は「D」と判定する．

2-2) 成績評価がシラバスに記載された通り実施されたかどうかの点検

シラバスに記載された評価方法・基準をもとに，成績評価資料を確認し，評価方法・基準・内容を点検し，点検結果が妥当と判断される場合は「A」，懸念がある場合は「C」，弱点がある場合は「W」，欠陥がある場合は「D」と判定する．

2-3) 試験の内容水準と採点基準が当該科目の分野で妥当なものか（社会が要求する水準，国際的に通用する水準）の点検（当該科目について点検を実施することが可能な教員）（対象は本科４・５年生科目および専攻科科目）

試験問題の内容水準に関する証明を行い，その内容水準と採点基準が当該科目の分野で妥当なものかどうか，関連分野の他の教員が点検し，点検結果が妥当と判断される場合は「A」，明らかに問題があると判断される場合は「D」と判定する．

2-4) 点検結果の報告

「A」以外の点検結果がある場合は，その内容を科目担当者，および，教務委員会または専攻科委員会に報告すること．

資料１－１－④－（２）－６（続き）

３．委員会点検

教務委員会・専攻科委員会で，資料の提出状況や相互点検結果を確認し，問題が認められた科目についての対策を検討する。

3-1)資料の提出状況に関する点検

全科目の答案等保存資料が提出されているかを点検する。

3-2)相互点検結果に関する点検

①前年度委員会点検でW･Dを有した科目(担当者)，②今年度相互点検でW･Dを有した科目，③無作為抽出された科目，④委員会で点検が必要と判断した科目について，相互点検が適切かどうかを点検する。相互点検に不備が見つかった場合は，当該相互点検者が点検したすべての科目について，再点検の実施を求める。

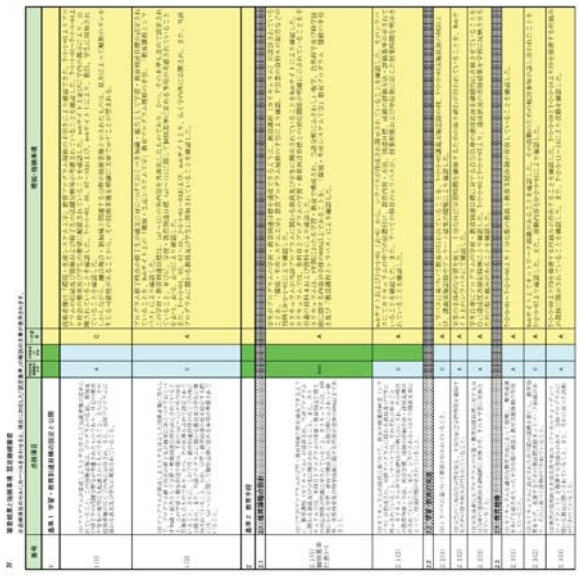
3-3)点検作業後の専攻科委員会・教務委員会の活動

W･Dを有する科目については，科目担当者と相互点検者に弱点･欠陥の指摘がある箇所を確認すると共に委員会で分析･再評価を行う。再評価による評価が「W･D」である場合は，委員会として科目担当者に改善依頼を行なう。次年度も同じ状況が継続している場合は，委員会として改善命令を行う。さらに改善が見られない場合は科目担当者の変更を検討すると共に運営委員会に当該教員の FD 活動を実施するよう依頼する。

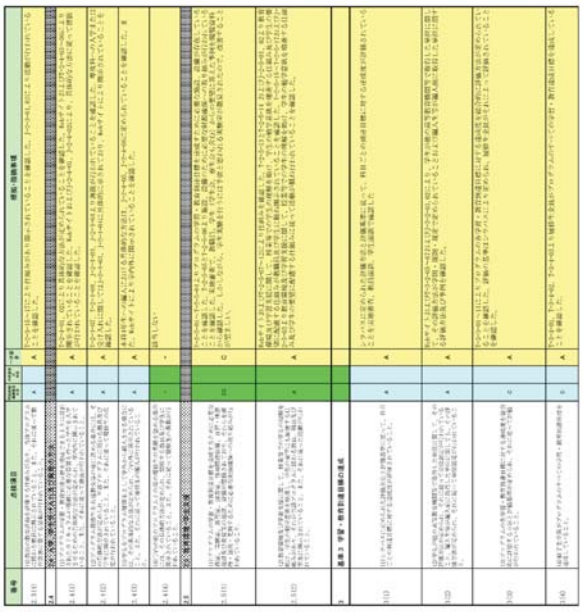
（出典　平成２７年度第７回教務委員会資料）

資料１－１－④－（３）－１

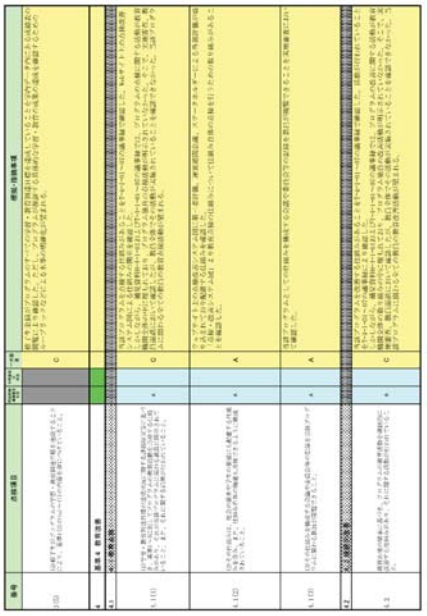
「JABEE 審査結果【2016H28】」



資料１－１－④－（３）－１（続き）



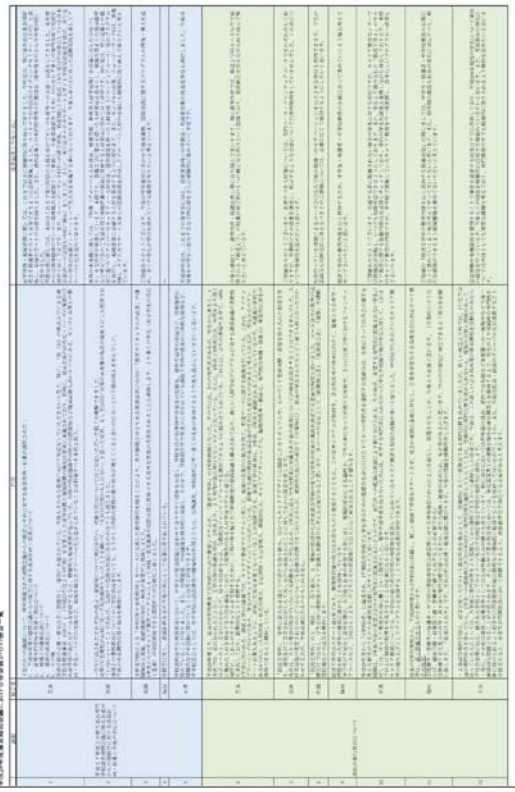
資料１－１－④－（３）－１（続き）



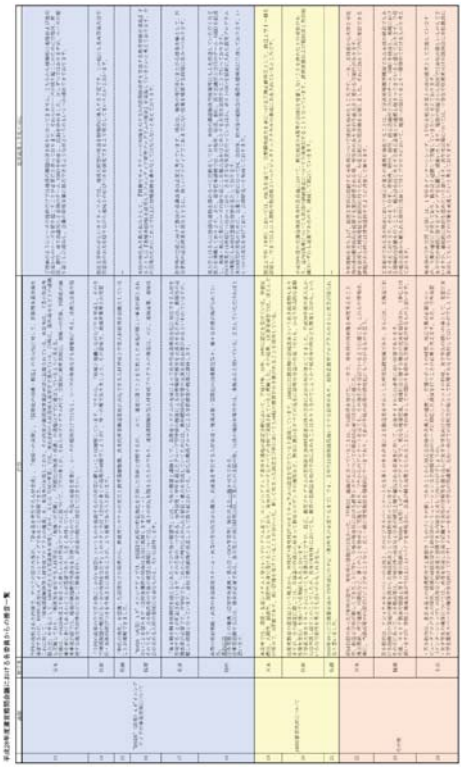
（出典　平成２８年度第８回運営委員会資料）

資料１－１－④－（３）－２

「平成２８年度運営諮問会議における提言と対応」



資料１－１－④－（３）－２（続き）



（出典　平成２９年度運営諮問会議資料）

資料１－２－①－（１）

「準学士課程ディプロマ・ポリシー」

DP：ディプロマ・ポリシー

≪創造工学科≫

創造工学科では，専門の基礎学力やコミュニケーション力を身につけるとともに，幅広い視点を持って自身のコアとなる専門分野を学ぶことのできる教育を進めます。こうした教育を通じて，自ら学び考え，課題を発見し解決することのできる創造性・探究心豊かな人材を育成します。また４学年では各専門系を専門コースとフロンティアコースに別け，専門コースでは工学分野の幅広い知識を持った人材，フロンティアコースでは，工学的知識と経営的知識を持った人材を育成します。こうした人材を育成するため，以下のような能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，卒業を認定します。

修得する能力

・下記に示す各系の専門工学分野をコアとした，幅広い知識と技術を活用する能力
・課題の本質を理解し，論理的に分析する能力
・他者と協働し課題に取り組む事のできる能力
・正しい倫理観のもとで責任を持って課題に取り組む能力

＜機械系＞

機械系においては，本校の学習目標に基づき，材料力学，流体力学，熱力学，機械力学，材料・加工学及び学際領域を含む機械工学の分野で，幅広い視野を持って活躍できる能力。

＜都市･環境系＞

都市･環境系においては，本校の学習目標に基づき，構造力学，水理学，地盤工学，都市計画学及び学際領域を含む都市･環境工学の分野で，幅広い視野を持って活躍できる能力。

＜応用化学･生物系＞

応用化学･生物系においては，本校の学習目標に基づき，材料工学，プロセス設計，生物工学，食品科学及び学際領域を含む応用化学・生物化学の分野で，幅広い視野を持って活躍できる能力。

＜電気電子系＞

電気電子系においては，本校の学習目標に基づき，エネルギー・制御，エレクトロニクス，情報通信及び学際領域を含む電気電子工学の分野で，幅広い視野を持って活躍できる能力。

資料１－２－①－（１）（続き）

＜情報科学・工学系＞

情報科学・工学系においては，本校の学習目標に基づき，計算機工学，ソフトウェア工学，情報通信，組込みシステム及び学際領域を含む情報科学・工学の分野で，幅広い視野を持って活躍できる能力。

（出典　平成２８年度第１５回運営委員会資料）

資料１－２－②－（１）

「準学士課程カリキュラム・ポリシー」

CP：カリキュラム・ポリシー

≪創造工学科≫

創造工学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を養成するため，次の基本方針に基づいて教育課程を編成し，実施します。

（１）基礎教育

進路選択を適切に行うため，入学試験時に専門を選択しない「大括り入試」を実施します。１学年は混合学級とし，多様な仲間とともに工学の基礎を学ぶとともに，コミュニケーション能力の向上をします。

（２）専門教育

２学年以降に行われる専門教育は，１学年で育んだ能力を基礎にして，各専門系のディプロマ・ポリシーを達成するために配置されています。

＜機械系＞

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，機械コース，フロンティアコースの２つのコースについて，以下のとおりカリキュラムを編成し，実施します。

（１）機械系共通科目

①機械工学の基礎科目：いわゆる力学・材料工学（工業力学，材料力学，機械材料学，加工学）を基盤とした基礎専門科目

②技術修得に関する科目：実践的な機械工学実験，機械工作実習，機械設計製図，情報処理などの実技科目

③課題解決能力育成科目：プロジェクト科目（創造工学Ⅱ，創造工学Ⅲ）などの，課題解決能力・応用力・プロジェクトマネージメント力・コミュニケーション能力・チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

（２）機械コース

①機械工学の応用科目：専門基礎科目を基盤とした応用的な科目

②異なる専門分野の俯瞰的な科目：専門にとらわれず，幅広い視野を持って学んでいくために必要な異なる専門分野を概観する科目

（３）フロンティアコース

①ビジネス系基礎科目:経営学の基礎となる科目（ビジネスⅠ，ビジネスⅡ，ビジネスⅢ）

②工学の周辺分野の俯瞰的な科目：工学以外の分野を概観し，自身の専門分野との接点を見つけるための基礎となる科目

＜都市･環境系＞

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，都市･環境コース，フロンティアコースの２つのコースについて，以下のとおりカリキュラムを編成し，実施します。

資料１－２－②－（１）（続き）

（１）都市･環境系共通科目

①都市･環境工学の基礎科目：構造力学，水理学，地盤工学，都市計画学を基盤とした基礎専門科目

②技術修得に関する科目：橋梁工学、道路工学等の応用科目、実践的な都市･環境工学実験，測量学実習，情報処理などの実技科目

③課題解決能力育成科目：プロジェクト科目（創造工学Ⅱ，創造工学Ⅲ）などの，課題解決能力・応用力・プロジェクトマネージメント力・コミュニケーション能力・チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

（２）都市･環境コース

①都市･環境工学の応用科目：専門基礎科目を基盤とした応用的な科目

②異なる専門分野の俯瞰的な科目：専門にとらわれず，幅広い視野を持って学んでいくために必要な異なる専門分野を概観する科目

（３）フロンティアコース

①ビジネス系基礎科目：経営学の基礎となる科目（ビジネスⅠ，ビジネスⅡ，ビジネスⅢ）

②工学の周辺分野の俯瞰的な科目：工学以外の分野を概観し，自身の専門分野との接点を見つけるための基礎となる科目

＜応用化学･生物系＞

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，機能材料コース，食品・バイオコース，フロンティアコースの３つのコースについて，以下のとおりカリキュラムを編成し，実施します。

（１）応用化学･生物系共通科目

①応用化学･生物の基礎科目：いわゆる化学（分析化学Ⅰ･Ⅱ，無機化学Ⅰ･Ⅱ，有機化学Ⅰ･Ⅱ，物理化学Ⅰ･Ⅱ）と生物化学（生化学Ⅰ･Ⅱ，生物学）を基盤とした基礎専門科目

②技術修得に関する科目：実践的な応用化学･生物実験Ⅰ･Ⅱ，機能材料実験，食品･生物化学実験，情報処理などの実技科目

③課題解決能力育成科目：プロジェクト科目（創造工学Ⅱ，創造工学Ⅲ）などの，課題解決能力・応用力・プロジェクトマネージメント力・コミュニケーション能力・チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

（２）機能材料コース

①機能材料の応用科目：専門基礎科目を基盤とした応用的な科目

②異なる専門分野の俯瞰的な科目：専門にとらわれず，幅広い視野を持って学んでいくために必要な異なる専門分野を概観する科目

資料１－２－②－（１）（続き）

（３）食品･バイオコース

①食品化学・生物工学の応用科目：専門基礎科目を基盤とした応用的な科目

②異なる専門分野の俯瞰的な科目：専門にとらわれず，幅広い視野を持って学んでいくために必要な異なる専門分野を概観する科目

（４）フロンティアコース

①ビジネス系基礎科目：経営学の基礎となる科目（ビジネスⅠ，ビジネスⅡ，ビジネスⅢ）

②工学の周辺分野の俯瞰的な科目：工学以外の分野を概観し，自身の専門分野との接点を見つけるための基礎となる科目

＜電気電子系＞

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，電気電子コース，フロンティアコースの２つのコースについて，以下のとおりカリキュラムを編成し，実施します。

（１）電気電子系共通科目

①電気電子工学の基礎科目：電気磁気学，電気回路論を基盤とした基礎専門科目

②技術修得に関する科目:実践的な電気電子工学実験，電気電子セミナー，情報処理などの実技科目

③課題解決能力育成科目：プロジェクト科目（創造工学Ⅱ，創造工学Ⅲ）などの，課題解決能力・応用力・プロジェクトマネージメント力・コミュニケーション能力・チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

（２）電気電子コース

①電気電子工学の応用科目：専門基礎科目を基盤とした応用的な科目

②異なる専門分野の俯瞰的な科目：専門にとらわれず，幅広い視野を持って学んでいくために必要な異なる専門分野を概観する科目

（３）フロンティアコース

①ビジネス系基礎科目：経営学の基礎となる科目（ビジネスⅠ，ビジネスⅡ，ビジネスⅢ）

②工学の周辺分野の俯瞰的な科目：工学以外の分野を概観し，自身の専門分野との接点を見つけるための基礎となる科目

資料１－２－②－（１）（続き）

＜情報科学・工学系＞

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，情報科学・工学コース，フロンティアコースの２つのコースについて，以下のとおりカリキュラムを編成し，実施します。

（１）情報科学・工学系共通科目

①情報科学・工学の基礎科目：いわゆる計算機科学・工学（ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク）を基盤とした基礎専門科目

②技術修得に関する科目：実践的な情報科学・工学実験，ソフトウェアデザイン演習，情報セキュリティ演習などの実技科目

③課題解決能力育成科目：プロジェクト科目（創造工学Ⅱ，創造工学Ⅲ）などの，課題解決能力・応用力・プロジェクトマネージメント力・コミュニケーション能力・チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

（２）情報科学・工学コース

①情報科学・工学の応用科目：専門基礎科目を基盤とした応用的な科目

②異なる専門分野の俯瞰的な科目：専門にとらわれず，幅広い視野を持って学んでいくために必要な異なる専門分野を概観する科目

（３）フロンティアコース

①ビジネス系基礎科目：経営学の基礎となる科目（ビジネスⅠ，ビジネスⅡ，ビジネスⅢ）

②工学の周辺分野の俯瞰的な科目：工学以外の分野を概観し，自身の専門分野との接点を見つけるための基礎となる科目

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが，科目等によっては，レポートや実技の評価結果により認定します。

授業科目の成績は，下記の基準により評価します。

講義・演習・実験・実習

- 平常評価と期末評価を総合して評価します。なお，演習・実験・実習では平常評価のみでも行うことができるものとします。
- 平常評価は，小テスト，ミニレポート(宿題)，平常の発表等で行います。
- 期末評価は，定期試験，レポート，期末発表等で行います。

優　(100～80 点)	修得した基礎的・専門的知識や技能を応用できる
良　(79～70 点)	基礎的・専門的知識や技能を修得している
可　(69～60 点)	最低限必要な基礎的知識や技能を修得している
不可(59～0　点)	最低限必要な基礎的知識や技能を修得していない

（出典　平成２８年度第１５回運営委員会資料）

資料１－２－③－（１）

「準学士課程アドミッション・ポリシー」

AP アドミッションポリシー

≪創造工学科≫

苫小牧高専本科は，基礎学力のある中学校卒業生等で，次のような人の入学を歓迎します。また，３年次・４年次編入学の場合は以下に準じます。

・豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい人
・「ものづくり」に興味があり，技術を活用して社会に貢献したい人
・知的探究心を持ち，新しいことに挑戦したい人

各専門系の望む人材像は以下のとおりです。

＜機械系＞

機械系では，エネルギーを自然界から引出し，活用するための仕組みと方法を学びます。さまざまな機械システムを作り，動かして，より豊かで安心できる未来を作りたいと思う人たちの入学を歓迎します。

・エネルギー・材料・情報などの開発や応用に興味があり，自らチャレンジしたい人
・「ものづくり」や，その「仕組み」などに興味があり，深く学びたい人
・向上心があり，人と自然の調和する豊かな生活へ貢献したい人

＜都市・環境系＞

都市・環境系では，人々の生活を安全で快適にするための施設や仕組みをつくるために，地域環境を活用したフィールドワークなど取り入れながら幅広く学習します。このため次のような人たちの入学を歓迎します。

・橋や道路などの設計や建設に興味がある人
・安全で安心な地域をつくる防災技術に興味のある人
・人々の暮らしを快適にする環境や景観の設計に興味のある人

＜応用化学・生物系＞

化学・生物化学を利用して，私たちの生活に役立ち，環境への影響も考えた物質をつくりだす「化学技術者」になりたい人を歓迎します。

・身の回りにある材料や生物の「なぜ？」に興味を持っている人
・理科や数学が得意で，実験が好きな人
・新しいことに仲間と協力しながら，努力を惜しまず積極的に取り組むことができる人

＜電気電子系＞

電気電子系では，自然エネルギー，ロボット，電気自動車，エレクトロニクス，情報・通信など，幅広い専門の勉強を活かして社会に役立つ仕事をしたい人の入学を歓迎します。

・太陽光や風力などの自然エネルギー，ロボットに興味がある人
・電気電子工作に興味がある人
・情報通信のしくみに興味がある人

資料１－２－③－（１）（続き）

＜情報科学・工学系＞

情報科学・工学系では，高度情報化社会を支えるソフトウェア，ハードウェア，情報システム，組込みシステムに関する知識・技術を持った人材を育成します。このため，次のような人たちの入学を歓迎します。

・コンピュータやネットワークに関心がある人
・コンピュータを使った情報処理，システムの設計や開発に興味がある人
・情報科学・工学に関する知識や技術を活用して社会に貢献したい人

（出典　平成２８年度第１５回運営委員会資料）

資料１－２－④－（１）

「専攻科課程ディプロマ・ポリシー」

DP:ディプロマ・ポリシー

≪専攻科≫

専攻科では，豊かな人間性と教養および広い視野を身につけるとともに，複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力，グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につけた人材を育成します。以下のような能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，修了を認定します。

修得する能力

(A)教養:地球的視点で自然や環境を考え，歴史，文化，社会などについて広い視野を身につける。

(B)倫理と責任:技術者としての倫理観や責任感を身につける。

(C)コミュニケーション:日本語で記述，発表，討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。

(D)工学基礎:数学，自然科学，情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。

(E)継続的学習:技術者としての自覚を持ち，自主的，継続的に学習できる能力を身につける。

(F)専門の実践技術:ものづくりに関係する工学分野のうち，得意とする専門領域を持ち，その技術を実践できる能力を身につける。

(G)複合領域の実践技術:他の専門領域も理解し，自身の専門領域と複合して考察し，境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける。

(H)社会と時代が求める技術:社会や時代が要求する技術を認識し，それらを応用してシステム化や製品化するデザイン能力，開発能力，とりまとめ能力を身につける。

(I)チームワーク:自身の専門領域の技術者とは勿論のこと，他領域の技術者ともチームを組み，計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。

（出典　平成２８年度第１５回運営委員会資料）

資料１－２－⑤－（１）

「専攻科課程カリキュラム・ポリシー」

CP:カリキュラム・ポリシー

≪専攻科≫

専攻科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた人材を養成するため，下表に掲げたカリキュラム設計方針に基づいて教育課程を編成し，実施します。専攻科は，機械工学科，電気電子工学科，情報工学科を基盤としている電子・生産システム工学専攻と物質工学科，環境都市工学科を基盤としている環境システム工学専攻からなる。両専攻の目的に照らして必要な科目群を選定し，これらの科目群を体系的に履修できるように配置します。

表　修得する能力に対するカリキュラム設計方針

修得する能力	カリキュラム設計方針
(A)教養:地球的視点で自然や環境を考え，歴史，文化，社会などについて広い視野を身につける。	社会科学および人文科学に関する知識，概念および方法論を身につけ，多様な観点から地球環境や社会について考える能力を養う。 「主要科目」:現代日本経済論，中国文化論，技術者論理
(B)倫理と責任:技術者としての倫理観や責任感を身につける。	技術者倫理，関係法規，安全管理，リスクマネージメント等の知識を身につけ，これらの知識に基づいて，技術が自然や社会に与える影響および現代社会における技術の問題を認識し，技術者としての社会的責任を考える能力を養う。 「主要科目」:技術者倫理，品質システム工学
(C)コミュニケーション:日本語で記述，発表，討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。	プレゼンテーションおよび討論に関する能力，日本語による論理的な文章の記述能力，英語の読解力およびコミュニケーション能力を養う。 「主要科目」:応用英語Ⅰ，応用英語Ⅱ，日本語表現法，現代日本経済論，中国文化論，異文化コミュニケーション，学外研修，特別演習，特別研究Ⅰ，特別研究Ⅱ
(D)工学基礎:数学，自然科学，情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。	数学，自然科学の基礎的な問題を解く能力，情報技術に関する知識を活用する能力およびそれらの基礎知識を応用して工学的問題を解決する能力を養う。 「主要科目」:応用数学特論Ⅰ，応用数学特論Ⅱ，統計熱力学，ライフサイエンス，量子論，マルチメディア工学，防災工学，寒地環境工学特論
(E)継続的学習:技術者としての自覚を持ち，自主的，継続的に学習できる能力を身につける。	主要科目を含む専攻科の全科目により，技術の変化に関心をもち，自主的に新たな知識や適切な情報を獲得し，工学知識，技術の修得を通して継続的に学習する能力を養う。 「主要科目」:特別研究Ⅰ，特別研究Ⅱ

資料１－２－⑤－（１）（続き）

(F)専門の実践技術:ものづくりに関係する工学分野のうち，得意とする専門領域を持ち，その技術を実践できる能力を身につける。	専門分野の基本的な問題を解く能力，与えられた課題に対して問題点を認識し，解決案を考え，そのための実施計画を立案，実行する能力および実施結果を分析し，期限内にまとめることができる能力を養う。 「主要科目」:学外研修，特別実験，特別演習，特別研究Ⅰ，特別研究Ⅱ 【電子・生産システム工学専攻】流体力学，材料システム工学，エネルギー変換工学特論，応用計測工学，ロボット工学，符号理論，情報ネットワーク工学，ハードウェアシステム設計，センサ工学 【環境システム工学専攻】有機材料工学，水理学特論，固体力学特論，流体力学，地盤工学特論，道路工学特論，セルロース工学，生物機能工学，プロセスエンジニアリング
(G)複合領域の実践技術:他の専門領域も理解し，自身の専門領域と複合して考察し，境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける。	複数の専門領域の基礎的な実験ができる能力，複数専門領域の知識と技術を複合し，創造性を発揮して解決を図る能力および境界領域を認識する能力を養う。さらに防災工学において，苫小牧の地域性を考慮した災害の特徴を理解し，自身の専門分野の知識を防災に関して活用する能力を養う。 「主要科目」:創造工学，防災工学，特別実験，特別演習
(H)社会と時代が求める技術:社会や時代が要求する技術を認識し，それらを応用してシステム化や製品化するデザイン能力，開発能力，とりまとめ能力を身につける。	社会が要求する技術課題を広い視野でとらえ，与えられた条件下でより良い設計や解決案を立てる能力を養う。また，寒冷地でのエネルギー・環境技術の現状と課題および将来動向について概説できるようにする。 「主要科目」:エンジニアリングデザイン，寒地環境工学特論，学外研修，特別演習
(I)チームワーク:自身の専門領域の技術者とは勿論のこと，他領域の技術者ともチームを組み，計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。	グループ内の複数の意見を集約して，実行へ移すための計画案を提案するリーダーとしての能力および共同作業において協調性を養う。 「主要科目」:創造工学

資料１－２－⑤－（１）（続き）

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが，科目等によっては，レポートや実技の評価結果により認定する。授業科目の成績は，下記の基準により評価します。

講義・演習・実験・実習

- 平常評価と期末評価を総合して評価します。なお，演習・実験・実習では平常評価のみでも行うことができるものとします。
- 平常評価は，小テスト，ミニレポート(宿題)，平常の発表等で行います。
- 期末評価は，定期試験，レポート，期末発表等で行います。

優　(100～80 点)	修得した基礎的・専門的知識や技能を応用できる
良　(79～70 点)	基礎的・専門的知識や技能を修得している
可　(69～60 点)	最低限必要な基礎的知識や技能を修得している
不可(59～0 点)	最低限必要な基礎的知識や技能を修得していない

（出典　平成２８年度第１５回運営委員会資料）

資料１－２－⑤－（１）（続き）

≪専攻科≫

苫小牧高専専攻科は，すでに工学の基礎を習得した高専卒業生等で，次のような人の入学を歓迎します。

・より高度でより幅広い「ものづくり」に意欲のある人

・専門分野のより高度な技術を学びたい人

・科学技術を通して国際社会に貢献したい人

・人間と自然との共生に取り組む意欲のある人

入学者選抜の基本方針は，苫小牧高専の教育理念に示された人材を育てるため，専攻科における入学者選抜では，工学の基礎を習得していることを重視します。また，学力と勉学意欲が高い多様な資質を持った入学者を選抜するため，学力選抜，推薦選抜及び社会人特別選抜を実施します。

（出典　平成２８年度第１５回運営委員会資料）

資料１－３－①－（２）－１

「三つの方針の設定（１）」

平成２８年度　第１３回　運営委員会記録

◆日　　時　　平成２９年１月１３日（金）１６時３０分～１７時１５分
◆場　　所　　中会議室
◆出 席 者　　別紙のとおり

議　　題　１．平成２８年度追加予算配当（案）について【資料１】

黒川校長から，資料１に基づき，追加予算配当について次のとおり説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり承認された。

・機構本部からの追加配分が340万円，国際交流経費で70万円，予備費の使用可能額402万円の計812万円を追加配当とする。
・配分先は，学生から要望のあった情報棟のトイレ改修に312万円，来年度更新期限を迎えるゲートウェイサーバに200万円，施設整備マスタープランで優先順位の高い都市・環境系の設備に300万円をそれぞれ配分したい。

議　　題　２．卒業式・修了式について【資料２】

黒川校長から，昨年度から変更点は無く，資料２のとおり実施したい旨説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり承認された。

議　　題　３．３つの方針について【資料３－１，３－２】

八田教務主事から資料３－１に基づき，平野専攻科長から資料３－２に基づき次のとおり説明及び提案があった。

・省令により，平成２９年３月までの策定及び公表が義務づけられた。
・形式については，機構本部からの例示に従い作成した。
・本科の内容については，既存の教育理念等を踏まえて作成した。
・承認された場合は，各系に関わる部分について作成いただくことになる。
・専攻科については，両専攻を合わせた形で作成した。
・専攻科の内容については，JABEE学習・教育到達目標を踏まえて作成した。

審議の結果，一部文言を修正及び共通科目の明記について検討することで承認された。

また，各系に関わる部分については，今月中に作成することとなった。

（出典　平成２８年度第１３回運営委員会議事録抜粋）

資料１－３－①－（２）－２

「三つの方針の設定（２）」

平成２９年１月１３日
第１３回運営委員会
資　料　３　－　１

【本科】

●教育理念
豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

●各学科の目的
○創造工学科
創造工学科は、工学分野共通の基礎を教育した上で、豊かで安全な未来を創造するための核となる専門分野とその周辺の知識と技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性及び広い視野をもった人材を育成する。
○機械工学科
機械工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、機械、エネルギー、環境などの技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った人材を育成する。
○電気電子工学科
電気電子工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報・通信などの技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った人材を育成する。
○情報工学科
情報工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの情報技術 に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った学生を育てる。
○物質工学科
物質工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、物質の合成、物性および解析などの物質工学に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った専門技術者を育成する。
○環境都市工学科
環境都市工学科は、豊かで安全な未来を創造するために必要な、自然と調和した社会基盤整備に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性および広い視野を持った人材を育成する。

●各専攻の目的
○電子・生産システム工学専攻
準学士課程で修得した機械・電気電子・情報工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、「ものづくり」 の基礎となる幅広い分野の実践的・複合的能力を育成する。
○環境システム工学専攻
準学士課程で修得した物質工学・環境都市工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、素材・材料、生物 機能、社会基盤に関する分野の実践的・複合的能力を育成する。

資料１－３－①－（２）－２（続き）

【本科】

３つの方針（案）

DP：ディプロマ・ポリシー

【創造工学科】（原案）
創造工学科では，専門の基礎学力やコミュニケーション力を身につけるとともに，幅広い視点を持って自身のコアとなる専門分野を学ぶことのできる教育を進めます．こうした教育を通じて，自ら学び考え，課題を発見し解決することのできる創造性・探究心豊かな人材を育成します．また４学年では各専門系を専門コースとフロンティアコースに別け，専門コースでは工学分野の幅広い知識を持った人材，フロンティアコースでは，工学的知識と経営的知識を持った人材を育成します．こうした人材を育成するため，以下のような能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，卒業を認定します。

修得する能力
・各専門工学分野をコアとした，幅広い知識と技術を活用する能力
・課題の本質を理解し，論理的に分析する能力
・他者と協働し課題に取り組む事のできる能力
・正しい倫理観のもとで責任を持って課題に取り組む能力

【○○系】
○○系では，本校の教育目標に基づき，○○工学，○○工学，○○工学などの学際領域を含む○○工学の分野で，幅広い視野を持って活躍できる人材の育成を目標としており，次の能力を持つと認められる者に対し，卒業を認めています。

CP：カリキュラム・ポリシー

【創造工学科】
創造工学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を養成するため，次の基本方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。
1) 基礎教育
　進路選択を適切に行うため、入学試験時に専門を選択しない「大括り入試」を実施します。１学年は混合学級とし，多様な仲間とともに工学の基礎を学ぶとともに，コミュニケーション能力の向上をします。
2) 専門教育
　２学年以降に行われる専門教育は，１学年で育んだ能力を基礎にして，各専門系のディプロマ・ポリシーを達成するために配置されています。
【○○系】
ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，○○コース・フロンティアコースの○つのコースについて，以下のとおりカリキュラムを編成し，実施します。
1) ○○系共通科目

資料１－３－①－（２）－２（続き）

【本科】

（ア）●●工学の基礎科目：いわゆる●●学(●●学，●●学，●●学)を基盤とした基礎専門科目
（イ）技術修得に関する科目：実践的な●●工学実験，●●実習，情報処理などの実技科目
（ウ）課題解決能力育成科目：プロジェクト科目（創造工学Ⅱ，創造工学Ⅲ）などの，課題解決能力・応用力・プロジェクトマネージメント力・コミュニケーション能力・チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目．

2) ○○コース
（ア）●●工学の応用科目：専門基礎科目を基盤とした応用的な科目
（イ）異なる専門分野の俯瞰的な科目：専門にとらわれず，幅広い視野を持って学んでいくために必要な異なる専門分野を概観する科目

3) フロンティアコース
（ア）ビジネス系基礎科目：経営学の基礎となる科目(●●学，●●学，●●学)
（イ）工学の周辺分野の俯瞰的な科目：工学以外の分野を概観し，自身の専門分野との接点を見つけるための基礎となる科目

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目等によっては，レポートや実技の評価結果により認定する。
授業科目の成績は，下記の基準により評価する。

講義・演習・実験・実習

- 平常評価と期末評価を総合して評価する。なお，演習・実験・実習では平常評価のみでも行うことができるものとする。
- 平常評価は，小テスト，ミニレポート(宿題)，平常の発表等で行う。
- 期末評価は，定期試験，レポート，期末発表等で行う。

優　(100～80 点)	修得した基礎的・専門的知識や技能を応用できる
良　(79～70 点)	基礎的・専門的知識や技能を修得している
可　(69～60 点)	最低限必要な基礎的知識や技能を修得している
不可(59～0　点)	最低限必要な基礎的知識や技能を修得していない

AP アドミッションポリシー(本科：赤文字部分のみ追加)

【創造工学科】
苫小牧高専本科は、基礎学力のある中学校卒業生等で、次のような人の入学を歓迎します。また，３年次・４年次編入学の場合は以下に準じます。
・豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい人
・「ものづくり」に興味があり、技術を活用して社会に貢献したい人
・知的探究心を持ち、新しいことに挑戦したい人

資料１－３－①－（２）－２（続き）

【本科】

各専門系の望む人材像は以下の通りです．

機械系
機械系では，エネルギーを自然界から引出し，活用するための仕組みと方法を学びます。さまざまな機械システムを作り，動かして，より豊かで安心できる未来を作りたいと思う人たちの入学を歓迎します。
・エネルギー・材料・情報などの開発や応用に興味があり、自らチャレンジしたい人
・「ものづくり」や，その「仕組み」などに興味があり，深く学びたい人
・向上心があり、人と自然の調和する豊かな生活へ貢献したい人

都市・環境系
都市・環境系では，人々の生活を安全で快適にするための施設や仕組みをつくるために，地域環境を活用したフィールドワークなど取り入れながら幅広く学習します。このため次のような人たちの入学を歓迎します。
・橋や道路などの設計や建設に興味がある人
・安全で安心な地域をつくる防災技術に興味のある人
・人々の暮らしを快適にする環境や景観の設計に興味のある人

応用化学・生物系
化学・生物化学を利用して，私たちの生活に役立ち，環境への影響も考えた物質をつくりだす「化学技術者」になりたい人を歓迎します。
・身の回りにある材料や生物の「なぜ？」に興味を持っている人
・理科や数学が得意で，実験が好きな人
・新しいことに仲間と協力しながら，努力を惜しまず積極的に取り組むことができる人

電気電子系
電気電子系では，自然エネルギー、ロボット、電気自動車、エレクトロニクス、情報・通信など、幅広い専門の勉強を活かして社会に役立つ仕事をしたい人の入学を歓迎します。
・太陽光や風力などの自然エネルギー、ロボットに興味がある人
・電気電子工作に興味がある人
・情報通信のしくみに興味がある人

情報科学・工学系
情報科学・工学系では，高度情報化社会を支えるソフトウェア、ハードウェア、情報システム、組込みシステムに関する知識・技術を持った人材を育成します。このため，次のような人たちの入学を歓迎します。
・コンピュータやネットワークに関心がある人
・コンピュータを使った情報処理，システムの設計や開発に興味がある人
・情報科学・工学に関する知識や技術を活用して社会に貢献したい人

資料１－３－①－（２）－２（続き）

【本科】

===以下は機構が示した例

DP：ディプロマ・ポリシー

【●●工学科】（例）
●●工学科は，理工系基礎学力と●●系の学力の習得に加え，人文社会系の素養も身につけ，自ら学び考え，課題を解決する創造性・探究心豊かな人 材を育成するため，本校に在籍し，以下のような能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，卒業を認定する。
修得する能力
・●●工学分野をコアとして，幅広い知識と技術を活用した課題解決能力
・課題の本質を理解，解析する論理的思考能力
・他者と協働し積極的に業務を遂行できる能力
・倫理観・責任感を持って業務にかかわる姿勢

CP：カリキュラム・ポリシー

【●●工学科】
ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を基本科目として用意している。
1）●●工学の基礎科目：いわゆる●●学(●●学，●●学，●●学)を基盤とした基礎専門科目
2）技術修得に関する科目：実践的な●●工学実験，●●実験，情報処理演習などの実技科目
3）課題解決能力育成科目：技術者倫理，プロジェクト科目，卒業研究などの，課題解決能力，理論，応用力，プロジェクトマネージメント力，チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目 これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目等によっては，レポート等の評価結果により認定する。
授業科目の成績は，下記の基準により評価する。

（出典　平成２８年度第１３回運営委員会資料）

資料１－３－①－（２）－３

「アドミッション・ポリシーの点検と改定」

令和２年１月１０日
第１４回入学試験委員会
議　題　３　資　料

アドミッション・ポリシーに関する検証について

（１）アドミッション・ポリシーの検証
本校のアドミッション・ポリシーを次のように改正したい。

○現在

入学者選抜の基本方針

苫小牧高専の教育理念に示された知・徳・体のバランスの取れた人材を育てるため、入学者選抜では、幅広い分野に関する基礎学力があることを重視します。また、学力と勉学意欲が高い多様な資質を持った入学者を選抜するため、学力選抜と推薦選抜を実施します。

○教育理念
豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。
○学生受け入れ方針（アドミッションポリシー）
苫小牧高専本科は、基礎学力のある中学校卒業生等で、次のような人の入学を歓迎します。
・豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい人
・「ものづくり」に興味があり、技術を活用して社会に貢献したい人
・知的探究心を持ち、新しいことに挑戦したい人

○修正案

苫小牧高専のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

苫小牧高専は、豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てるため、幅広い分野に関する基礎学力があり、勉学意欲が高い多様な資質を持った入学者を国内外から広く受け入れます。

＜本科入学者および編入学者に求める学生像＞
・豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい人
・「ものづくり」に興味があり、技術を活用して社会に貢献したい人
・知的探究心を持ち、新しいことに挑戦したい人

＜本科入学者選抜の基本方針＞
推薦による選抜においては、出身中学校長が責任を持って推薦した生徒に対して、本校の教育

資料１－３－①－（２）－３（続き）

を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書及び推薦書を評価するとともに、目的意識・意欲・適正等に関して、面接の結果および自己アピール文を総合的に評価します。
学力検査による選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した者を選抜するため、学力検査の結果（数学、理科、英語を重視）と調査書の内容を総合的に評価します。
帰国子女特別選抜においては、豊かな国際性を備え、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため、学力検査の結果と調査書の内容を評価するとともに、目的意識・意欲・適正等に関して面接を行い総合的に評価します。
編入学者の選抜においては、志望する系および学年の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため、学力検査の結果と調査書の内容を評価するとともに、目的意識・意欲・適正等に関して面接を行い総合的に評価します。

（２）アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れについての検証
入学者選抜の基本方針に従い、学力選抜と推薦選抜によって入学生を受け入れている。幅広い分野に関する基礎学力があることを確認するため、学力検査では５教科、内申書では９教科の成績を総合的に判断している。一方、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有することを重視し、学力選抜では数学、理科、英語を他の科目の２倍に傾斜配点している。また、推薦選抜では、本科入学生に求める学生像に合致しているかどうか面接において確認している。

（３）アドミッション・ポリシーに沿った学生を実際に受入れているかどうかの検証
入学生に対して実施している入学動機に関するアンケート結果等から、ものづくりに興味がある学生が入学していることが確認できる。

（４）実入学者数に関する検証
入学定員に対する入学者数は、過去５年間の平均が 1.01 倍であり、大幅に超過、又は大幅に不足している状況ではない。

（出典　令和元年度第１４回入学試験委員会資料）

資料２－１－①－（１）－１

「苫小牧工業高等専門学校の目的」

苫小牧工業高等専門学校学則

規則第1号

制　　定　昭和39年４月１日
一部改正　昭40～平15年省略
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成20年４月１日
一部改正　平成20年５月27日
一部改正　平成20年12月25日
一部改正　平成21年７月15日
一部改正　平成21年９月17日
一部改正　平成24年３月21日
一部改正　平成25年２月21日
一部改正　平成26年４月１日
一部改正　平成28年１月26日
一部改正　平成28年５月19日
一部改正　平成31年２月28日

第１章　目的

（目的）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第２章　修業年限，学年，学期，休業日及び授業終始の時刻

（修業年限）
第２条　修業年限は，５年とする。

（学年）
第３条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則第１条）

資料２－１－①－（１）－２

「創造工学科の目的」

別表第１（第７条の２関係）
（創造工学科の教育上の目的）

創造工学科は、工学分野共通の基礎を教育した上で、豊かで安全な未来を創造するための核となる専門分野とその周辺分野の知識と技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性及び広い視野をもった人材を育成する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則別表第１）

資料２－１－①－（１）－３

「苫小牧工業高等専門学校の学科構成」

らの休業日を授業日に振り替えることができる。
一　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
二　日曜日及び土曜日
三　開校記念日　４月20日
四　春季休業，夏季休業，冬季休業及び学年末休業
２　前項第四号に規定する休業日の終始及び臨時の休業日は，校長がその都度定める。

（授業終始の時刻）
第６条　授業終始の時刻は，校長が別に定める。

第３章　学科，学級数，入学定員及び職員組織

（学科，学級数及び入学定員）
第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	学　級　数	入　学　定　員
創造工学科	5	200　人

２　前項に規定する学科に，第２学年から次の系を設ける。
機械系
都市・環境系
応用化学・生物系
電気電子系
情報科学・工学系

（教育上の目的）
第７条の２　創造工学科の教育上の目的は，別表第１のとおりとする。

（教職員）
第８条　本校に，校長，教授，准教授，講師，助教，助手，事務職員及び技術職員を置く。
２　教職員の職務は，学校教育法その他法令の定めるところによる。

（主事）
第９条　本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２　教務主事は教授をもって，学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもって充てる。
３　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
４　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
５　寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則第７条）

資料２－１－②－（１）－１

「苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程

規則第42号

制　　定　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成19年５月８日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，専攻科に関する事項を審議するため，専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教育課程に関する事項
二　教育計画及び授業時間の編成に関する事項
三　学生の進学，転学，休学，復学及び修了に関する事項
四　試験及び学業成績に関する事項
五　学生の進学及び就職に関する事項
六　学生の厚生補導に関する事項
七　その他専攻科の教務及び学生指導に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（専攻科長）
二　各専攻主任
三　学生課長
四　その他校長が指名した者
２　前条第一号及び第二号に関する事項について審議する場合は，副校長（教務主事）を，前条第六号に関する事項について審議する場合は，副校長（学生主事）を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第四号の委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，副校長（専攻科長）をもって充てる。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程）

資料２－１－②－（１）－２

「苫小牧工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修に関する規程」

苫小牧工業高等専門学校専攻科の授業科目の
履修に関する規程

規則第43号

制　定　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成22年４月１日
一部改正　平成31年３月27日

（目的）
第１条　この規程は，苫小牧工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第63条第３項及び第65条の規定に基づき，苫小牧工業高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）における授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定等について定めることを目的とする。

（授業）
第２条　授業は，講義，演習，実験及び実習のいずれか，又はこれらの併用により行うものとする。
２　各授業科目の単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，次の基準により計算するものとする。
一　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。
二　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。
三　実験及び実習については，45時間の授業をもって１単位とする。

（履修方法）
第３条　授業科目の履修に当たっては，年度当初に，履修届（別紙第１号様式）を提出しなければならない。

（試験）
第４条　試験は，定期試験，追試験及びその他の試験とする。
２　定期試験は，各学期末に実施する。
３　追試験は，病気，忌引，その他やむを得ない理由により，定期試験を受験できなかった者に対し実施する。
４　その他の試験は，科目担当教員が必要と認めたときに実施することがある。

（成績の評価）
第５条　成績は授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して100点法で評価し，次の区分によって評定する。

評定	評語	優	良	可	不可
	評価	80点以上	79～70	69～60	59点以下

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修に関する規程）

資料２－１－②－（１）－３

「専攻科の目的」

第13章　専攻科

第55条　本校に，専攻科を置く。

（目的）
第56条　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則第 56 条）

資料２－１－②－（１）－４

「苫小牧工業高等専門学校専攻科の専攻構成」

（専攻及び入学定員）
第57条　専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専攻	入学定員
電子・生産システム工学専攻	12人
環境システム工学専攻	8人

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則第 57 条の 1）

資料２－１－②－（１）－５

「各専攻の目的」

別表第４（第 57 条の２関係）
（各専攻の教育上の目的）

(1) 電子・生産システム工学専攻
準学士課程で修得した機械・電気電子・情報工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、「ものづくり」の基礎となる幅広い分野の実践的・複合的能力を育成する。

(2) 環境システム工学専攻
準学士課程で修得した物質工学・環境都市工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、素材・材料、生物機能、社会基盤に関する分野の実践的・複合的能力を育成する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則別表第 4）

資料２－１－③－（１）－１

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（１）運営委員会」

苫小牧工業高等専門学校運営委員会規程

規則第９号
制　　定　昭和43年４月１日
一部改正　昭和48年６月１日
一部改正　昭和50年６月30日
一部改正　昭和62年７月９日
一部改正　平成８年４月１日
一部改正　平成12年４月１日
一部改正　平成12年９月11日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成21年４月１日
一部改正　平成22年５月18日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の運営に関する事項を審議するため，運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　組織・運営及び施設に関する事項
二　教育効果の向上に関する事項
三　消防及び防災に関する事項
四　情報公開に関する事項
五　留学生の受入れに関する事項
六　中期目標・中期計画に関する事項
七　点検・改善に関する事項
八　その他校長が必要と認めた事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　校長
二　各副校長
三　各センター長
四　各系長

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校運営委員会規程）

資料２－１－③－（１）－２

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（２）教務委員会」

苫小牧工業高等専門学校教務委員会規程

規則第5号
制　　定　昭和39年６月１日
全部改正　平成６年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成19年５月８日
一部改正　平成25年２月12日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校に，教務に関する事項を審議するため，教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教育課程に関する事項
二　授業及び試験に関する事項
三　特別活動に関する事項
四　進級及び卒業の認定等に関する事項
五　既修得単位の認定に関する事項
六　退学（懲戒処分による退学を除く。），休学，復学及び除籍に関する事項
七　研究生及び科目等履修生に関する事項
八　その他教務に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（教務主事）
二　教務主事補
三　学生課長
四　その他校長が指名した者

（任期）
第４条　前条第四号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，副校長（教務主事）をもって充てる。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校教務委員会規程）

資料２－１－③－（１）－３

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（３）専攻科委員会」

苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程

規則第42号
制　　定　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成19年５月８日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，専攻科に関する事項を審議するため，専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教育課程に関する事項
二　教育計画及び授業時間の編成に関する事項
三　学生の進学，転学，休学，復学及び修了に関する事項
四　試験及び学業成績に関する事項
五　学生の進学及び就職に関する事項
六　学生の厚生補導に関する事項
七　その他専攻科の教務及び学生指導に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（専攻科長）
二　各専攻主任
三　学生課長
四　その他校長が指名した者
２　前条第一号及び第二号に関する事項について審議する場合は，副校長（教務主事）を，前条第六号に関する事項について審議する場合は，副校長（学生主事）を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第四号の委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，副校長（専攻科長）をもって充てる。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程）

資料２－１－③－（１）－４

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（４）学生委員会」

苫小牧工業高等専門学校学生委員会規程

規則第30号
制　　定　平成６年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の学生の厚生補導及び福利施設の運営に関する事項を審議するため，学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学生の団体，学生会活動及び学生生活に関する事項
二　学生の福利厚生に関する事項
三　学生の表彰及び懲戒に関する事項
四　入学料，授業料及び寄宿料の免除等に関する事項
五　独立行政法人日本学生支援機構奨学生の選考等に関する事項
六　課外活動に関する事項
七　福利施設の運営に関する事項
八　外国人留学生の指導に関する事項
九　その他学生の厚生補導に関する重要な事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（学生主事）
二　学生主事補
三　学生課長
四　その他校長が指名した者
２　必要に応じて副校長（寮務主事），副校長（専攻科長），各学級担任，体育担当教員及び各クラブ（同好会を含む。）顧問１名を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第四号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校学生委員会規程）

資料２－１－③－（１）－５

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（５）入学試験委員会」

苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程

規則第10号

制　　定　昭和43年４月１日
一部改正　昭和52年４月１日
一部改正　平成12年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校に，入学試験の実施及び入学者の選考等に関する事項を審議するため，入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本科及び専攻科学生の募集に関する事項
二　本科及び専攻科入学者選抜試験の実施に関する事項
三　本科及び専攻科入学者の選考に関する事項
四　その他本科及び専攻科入学者選抜に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　校長
二　副校長（教務主事）
三　教務主事補
四　各系長
五　事務部長
六　学生課長
七　その他校長が指名した者
２　専攻科に関する事項について審議する場合は，副校長（専攻科長）を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第七号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

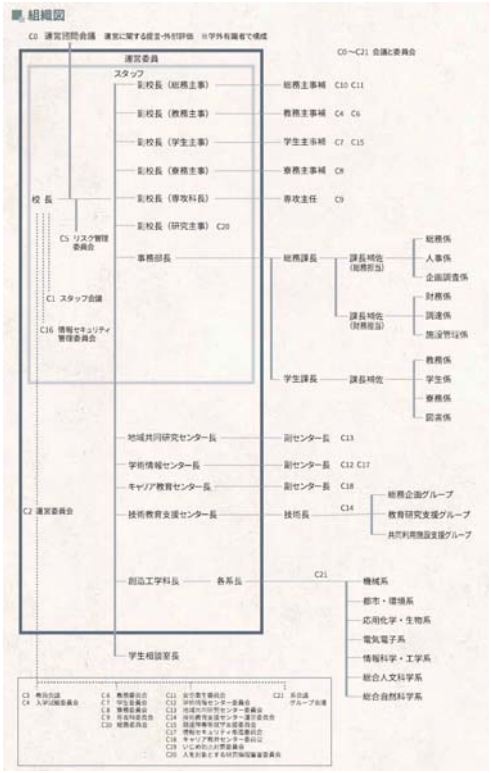
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程）

資料２－１－③－（１）－６

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の組織体制（６）組織図」



（出典　苫小牧工業高等専門学校運営組織図）

資料２－１－③－（２）－１

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（１）運営委員会」

平成３０年度　第１２回　運営委員会記録

◆日　　時　　平成３１年３月２７日（水）１５時００分～１６時１５分
◆場　　所　　中会議室
◆出 席 者　　別紙のとおり

議　　題１．事業への申請について【資料１】
黒川校長より，資料に基づき，次のとおり説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。
・平成31年度に向けて継続事業も含めて７件の事業に応募した。
・事後となったが，応募した７件の事業について了承いただきたい。
・この他，グローバルエンジニア育成事業にも応募するための準備を進めている。

議　　題２．フロンティアコースに関する申し合わせについて【資料２】
事務担当より，資料に基づき，次のとおり説明があった。
・平成29年度第13回の本委員会において，フロンティアコースの準備のため，暫定的にコース主任を配置することが了承されているが，平成31年度からフロンティアコースが始まることに備え，コース主任について明文化する必要がある。
・そのため，資料のとおり校長裁定による申し合わせを定めることとしたい。
・申し合わせの内容は，コース主任を校長が指名すること及びコース主任の業務について定めている。
説明後，黒川校長より，資料のとおり申し合わせを制定したい旨提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

議　　題３．ロボットコンテスト北海道地区大会実施謝金に関する申し合わせについて【資料３】
黒川校長より，平成31年度に本校がロボットコンテスト北海道地区大会の当番校となることに備え，審査員等の謝金について，資料のとおり校長裁定による申し合わせを定めることとしたい旨説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。
なお，関連して先日開催されたロボコンフォーラムにおいて，NHKから視聴率が３～４％であるため，上げていきたいとの発言があった旨報告があった。

議　　題４．平成31年度教員組織の運用について【資料４】
古崎総務主事より，資料に基づき，次のとおり説明及び提案があった。
・本来であれば本運用を先に定めたうえで，各委員の選出等を行う予定であったが，都合により遅れたため，事後ではあるが了承いただきたい。
・これまでとの変更点として，教員グループの役割について明確化するため加筆した。
・また，委員の選出方法について現行の選出方法に沿った形への修正とグルー

（以下略）

（出典　平成３０年度第１２回運営委員会議事録）

資料２－１－③－（２）－２

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（２）教務委員会」

平成３０年度　第２８回教務委員会議事概要

日　時　：　平成３１年２月２７日（水）　１４時００分　～　１４時２９分
場　所　：　中会議室
出席者　：　別紙のとおり

議　　題１．学生異動について　**【議題１資料】**
※　了承されました。
議　　題２．追認試験について　**【議題２資料】**
※　了承されました。
議　　題３．創造工学科第１学年クラス編成について　**【議題３資料】**
※　了承されました。
議　　題４．講義室について　**【議題４資料】**
※　了承されました。
議　　題５．Ｈ２９答案等保存資料点検結果の修正について　**【議題５資料】**
※　了承されました。
議　　題６．その他

報告事項１．学外実習・学外研修機関の決定について　**【報告事項１資料】**
報告事項２．退学状況について　**【報告事項２資料】**
報告事項３．その他
・４年留年生の単位読替科目について　**【資料なし】**

以上

（出典　平成３０年度第２８回教務委員会議事概要）

資料２－１－③－（２）－３

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（３）専攻科委員会」

平成３０年度　第１２回専攻科委員会議事概要

日　時：平成３１年３月２５日（月）　１１時００分～１１時１０分
場　所：中会議室
出席者：別紙のとおり

議　　題１．学生異動について【議題１資料】
※了承されました。
議　　題２．平成３１年度前期授業時間割について【議題２資料】
※了承されました。
議　　題３．専攻科学生の車両通学について【議題３資料】
※了承されました。
議　　題４．その他

報告事項１．その他

以上

（出典　平成３０年度第１２回専攻科委員会議事概要）

資料２－１－③－（２）－４

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（４）学生委員会」

第１６回学生委員会議事録

日　時　平成３１年３月８日（金）　１０時３０分～１１時１５分

場　所　大講義室

出席者　別紙出席者一覧

議　　題１．学生の表彰について
中島学生主事から、議題１資料に基づき推薦のあった特別功労賞４名について説明があり、審議の結果推薦された者全てを被表彰者とすることが承認された。また、中島学生主事から、特別功労賞受賞者のうち高専賞に該当する者として１名の推薦があり審議の結果推薦された者を被表彰者とすることが承認された。

議　　題２．平成３１年度食堂および売店の営業について
中島学生主事から、議題２資料に基づき説明があった。
来年度業者の選定については、昨年度に引き続き西部フード・コンパスグループと契約締結した旨説明があった。
また、平成３１年度の食堂及び売店の営業日程について、資料に基づき説明があり、審議の結果異議無く承認された。

議　　題３．平成３０年度活動報告について
中島学生主事から、議題３資料に基づき説明があり、審議の結果異議無く承認された。

議　　題４．予算検討 WG からの答申について
中島学生主事から、予算検討 WG からの答申について学生委員会に関する事項である、クラブ活動の教員負担軽減について、来年度部会を立ち上げ検討していく予定である旨説明があった。また、各教室の夕方以降の施錠について、種々検討のうえ実施予定である旨説明があり、審議の結果異議無く承認された。

報告事項１．平成３０年度検食及び立ち入り検査結果について
中島学生主事から、報告事項１資料に基づき、平成３０年度の検食結果及び立ち入り検査結果の報告があった。
検食結果については、各項目とも「良い」、「普通」が大半であり、その他所見についても、特に問題がなかった旨報告があった。
立ち入り検査についても、すべての検査結果が「適」であり、問題が無かった旨報告があった。

報告事項２．食堂等の利用状況について
中島学生主事から、報告事項２資料に基づき、平成３０年度の食堂利用状況については、平年並みであった旨報告があった。

報告事項３．平成３１年度以降の委員会資料ペーパーレス化について
中島学生主事から、来年度から学生委員会資料についてペーパーレス化するため、各委員はノート PC もしくはタブレット端末等に資料をダウンロードするかご自身でプリントアウトのうえ出席していただくよう報告があった。なお、回収資料についてはプロジェクター投影の予定であり、その他資料は事務サーバーに PDF 形式で事前にアップロードする旨報告があった。

（以下略）

（出典　平成３０年度第１６回学生委員会議事録）

資料２－１－③－（２）－５

「教育活動を有効に展開するため必要と考えられる委員会の議事録等（５）入学試験委員会」

平成２９年度第１５回入学試験委員会議事概要

日　時　　平成３０年３月２０日（火）　１５時００分～１５時４０分
場　所　　中会議室
出席者　　別紙のとおり

議　　題１．平成３０年度本科入学者選抜（学力）の追加合格等について　【議題１資料は非掲載】
※了承されました。
議　　題２．平成３１年度専攻科入学者選抜に係る合格者選考基準（案）について　【議題２資料は非掲載】
※了承されました。
議　　題３．平成３１年度専攻科学生募集要項（案）について　【議題３資料】
※了承されました。
議　　題４．平成３１年度研究生募集要項（案）について　【議題４資料】
※了承されました。
議　　題５．平成３１年度科目等履修生募集要項（案）について　【議題５資料】
※了承されました。
議　　題６．平成２９年度活動報告について　【議題６資料】
※了承されました。
議　　題７．その他　【議題７資料】
推薦による入学者選抜における募集人員の割合に関する運用の弾力化について
※了承されました。

報告事項１．平成３０年度入学者数について　【報告事項１資料】
報告事項２．入学動機アンケートについて　【資料なし】
報告事項３．その他　【資料なし】

以上

（出典　平成２９年度第１５回入学試験委員会議事録）

資料２－２－①－（１）－１

「高等専門学校設置基準　第二章第六条２」

昭和三十六年文部省令第二十三号
最終更新　平成三十年二月二十八日

第二章　組織編制

（学科）
第四条　高等専門学校の学科は、専攻分野を教育するために組織されるものであつて、その規模内容が学科として適当と認められるものとする。

（学生定員）
第四条の二　学生定員は、学科ごとに学則で定めるものとする。
2　学生定員は、教員組織、校地、校舎その他の教育上の諸条件を総合的に考慮して定めるものとする。
3　高等専門学校は、教育にふさわしい環境の確保のため、在学する学生の数を学生定員に基づき適正に管理するものとする。

（学級）
第五条　高等専門学校においては、同一の学科につき同一の学年の学生をもつて一又は数個の学級を編制するものとする。ただし、教育上有益と認めるときには、異なる学科の学生をもつて学級を編制することができる。
2　一学級の学生の数は、四十人を標準とする。

（教員組織）
第六条　高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。次項及び第三項において同じ。）を置かなければならない。
2　教員のうち、第十六条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、次の各号に掲げる数を下つてはならない。
一　入学定員に係る学生を一の学級に編制する場合は、十人
二　入学定員に係る学生を二の学級に編制する場合は、十二人
三　入学定員に係る学生を三の学級に編制する場合は、十四人
四　入学定員に係る学生を四の学級から六の学級までに編制する場合は、十四人に三学級を超えて一学級を増すごとに四人を加えた数
五　入学定員に係る学生を七以上の学級に編制する場合は、二十六人に六学級を超えて一学級を増すごとに三人を加えた数
3　教員のうち、工学に関する学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に一の学科を置くときは八人、二以上の学科を置くときは八人に一学科を超えて一学科を増すごとに七人を加えた数を下つてはならない。この場合において、一学科の入学定員に係る学生を二以上の学級に編制するときは、これらに一学級を超えて一学級を増すごとに五人を加えるものとする。
4　工学に関する学科以外の学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、別に定める。
5　高等専門学校は、教育の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編制するものとする。
6　高等専門学校は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。

（以下，省略）

（出典　高等専門学校設置基準（抜粋））

資料２－２－①－（１）－２

「苫小牧工業高等専門学校教員選考規程」

苫小牧工業高等専門学校教員選考規程

規則第69号
制　　定　平成19年４月１日
一部改正　平成23年６月14日
一部改正　平成23年11月８日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年２月23日

第１章　総則

（趣旨）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教授，准教授，講師，助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任等に係る選考（高専間教員交流制度等による人事交流，育児休業代替教員及び休職代替教員に係る選考を除く。以下「選考」という。）は，高等専門学校設置基準（昭和36年８月30日文部省令第23号。以下「設置基準」という。）によるもののほか，この規程の定めるところによる。

第２章　専任教員の選考

（選考の開始）
第２条　創造工学科長は，教員の選考を必要とするときは，校長に申し出るものとする。
２　校長は，前項の申し出がありこれを必要と認めたときは，その都度，教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し，教員の選考を開始する。

（選考方針）
第３条　教員の選考は，原則として公募により行うものとする。ただし，本校の運営，教育・研究の活性化，学生指導及び年齢構成等を考慮した上で，選考委員会が必要と認めた場合は，公募によらないことができるものとする。
２　前項本文により公募を行う場合の公募条件については，選考委員会が決定する。
３　第１項ただし書きを適用する場合に必要な事項については，校長が別に定める。

（選考委員会）
第４条　選考委員会は，次に掲げる者をもって組織する。
一　校長
二　各副校長
三　校長が指名する系長
四　採用予定専門分野の業績審査可能な教員
２　前項第四号の委員として，本校に審査可能な教員がいない場合は，校外の有識者の意見を　専門分野意見書（別紙様式第６号）により聴取しなければならない。
３　選考委員会は，次に掲げる業務を行う。
一　前条に規定する選考方針及び公募条件等の決定

資料２－２－①－（１）－２（続き）

二　選考審査
三　その他選考に関して必要な事項の審議
４　選考委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
５　委員長は，選考委員会を招集し，その議長となる。
６　選考委員会は，選考審査の終了をもって解散する。

（選考委員会専門委員会）
第５条　選考委員会は，教員の選考について，候補者の研究業績等を専門的な見地から詳細に調査，検討するため，選考委員会専門委員会を置くことができる。

（選考審査の手続き）
第６条　選考審査のため，候補者には次の各号に掲げる資料を提出させるものとする。ただし，第二号に規定する研究業績一覧（総表）（別紙様式第２－２号）については，提出を省略することができる。
一　履歴書（別紙様式第１号）
二　研究業績一覧（著書，論文等）（別紙様式第２－１号）及び研究業績一覧（総表）（別紙様式２－２号）
三　研究・開発等の履歴一覧及び研究・開発等の概要（別紙様式第３号）
四　教育業績一覧（学校等における教職歴等）（別紙様式第４号）
五　高専教育に対する抱負（2,000字以内）（別紙様式第５号）
六　本人について参考意見を求める場合の相手方（２名）（住所，氏名，職業，連絡先等）
七　主要な著書，論文等の原本又はその写し
八　その他（審査に役立つと思われるもの）
２　選考委員会は，前項により提出された資料に基づき審査を行うものとする。
３　選考委員会は，設置基準に定める教員の資格を持つ者から，本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者について，書面審査を行い，第１次候補者を決定する。
４　選考委員会は，第１次候補者について，面接による人物評価等を行い，総合評価を行うものとする。なお，第１次候補者が複数の場合は，総合評価に順位を附するものとする。

（採用等候補者の決定）
第７条　校長は，選考委員会の審査結果を基に採用候補者又は昇任等候補者を決定し，運営委員会に報告する。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校教員選考規程（抜粋））

資料２－２－①－（１）－３

「苫小牧工業高等専門学校における教員の選考に関する取扱い（校長裁定）」

苫小牧工業高等専門学校における教員の選考に関する取扱い

（平成24年１月17日校長裁定）
（一部改正　平成28年11月16日）

第１　この取扱いは，苫小牧工業高等専門学校教員選考規程（以下「規程」という。）第３条第３項の規定に基づき，公募によらず選考を行う場合の取扱いについて定めるものとする。

第２　公募によらない場合の選考は，教員選考委員会（以下「委員会」という。）が次のいずれかに該当すると認める場合に行うことができるものとする。

(1)　すでに欠員補充を行っているが，上位の職の標準人員枠を下位の職に流用している場合であって，当該流用を解消するために昇任人事（以下「内部昇格」という。）を行う場合

(2)　教員の年齢が特定の範囲の年齢に著しく偏る場合，又は本校の教育及び学生指導上，特に教員の年齢構成を考慮する必要がある場合

(3)　採用等候補者が得にくい特定の分野について，学外から特に優れた知識及び経験を有すると認められる者を招へいする場合

(4)　独立行政法人国立高等専門学校機構有期雇用教職員就業規則（機構規則第102号）第２条第２項第５号に規定する特命教授，特命准教授及び特命助教である者をその雇用期間満了に伴い教員として選考する場合

(5)　その他上記に準ずる事情があると委員会が認める場合

第３　内部昇格に際しては，この取扱い別表に掲げる最低基準を満たすことを要する。

第４　公募によらない場合の選考の発議は，校長が行うものとする。

第５　公募によらない場合の公募条件に相当する必要な事項については，公募による選考と同様に委員会が決定しておくものとする。

第６　公募によらない場合の規程第６条第１項に定める候補者については，委員会が個別に審議し選出するものとする。

第７　内部昇格を行う場合の規程第６条第４項に定める総合評価にあたっては，この取扱い別表に掲げる本校における活動実績等の評価の基準に基づいて評価を行うものとする。

（以下，省略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校における教員の選考に関する取扱（校長裁定）抜粋）

資料２－２－①－（１）－４

「専任教員の専門分野・学位・技術資格と担当科目一覧表」

職名学位	氏名	担当系	主な担当科目	主な研究テーマ
准教授 博士（工学）	赤塚　元気	電気電子系	電気回路Ⅱ、エネルギー変換工学、電力システム工学	再生可能エネルギーの電力系統に対する影響
准教授 博士（工学）	浅見　廣樹	機械系	工業力学Ⅰ、創造工学Ⅱ・Ⅲ、機械設計製図Ⅳ、材料システム工学	被覆セラミックス材料開発
教授 博士（工学）	阿部　司	情報科学・工学系	計算機システム、計算機システムⅡ、情報通信Ⅰ、情報通信Ⅱ、オペレーティングシステムⅡ	情報通信、組込みシステム
准教授 博士（工学）	有馬　隆光	総合自然科学系	数学、物理	非平衡熱力学、流体数理
准教授 博士（工学）	池田　慎一	機械系	加工学、機械設計製図Ⅱ、創造工学Ⅱ	チタン合金の切削加工
特命助教	石川　愛弓	総合人文科学系	英語、英会話、異文化コミュニケーション	アメリカ文学
准教授 博士（工学）	伊藤　芳浩	電気電子系	電子回路Ⅰ、電気電子計測、電気工学概論、電磁波工学、光エレクトロニクス	高速カメラに関する研究
教授 博士（工学）	堀川　清	情報科学・工学系	電子工学、電子工学Ⅱ、回路理論Ⅰ、創造工学Ⅱ、情報工学実験、情報科学・工学実験Ⅱ	ハードウェア設計、SAWデバイス設計
教授 博士（農学）	岩波　俊介	応用化学・生物系	微生物工学、発酵・醸造化学	生物機能の食品加工や環境浄化への応用研究
教授 博士（工学）	上田　茂太	電気電子系	電気回路Ⅰ、電気機器Ⅱ、システム工学	モータドライブ制御、風力発電、太陽光発電
准教授 博士（理工学）	宇津野国治	応用化学・生物系	生化学、分子生物学	DNA高次構造の研究
准教授	大島　和浩	応用化学・生物系	生化学Ⅰ、創造工学Ⅰ、機器分析、化学物質安全学	クリックケミストリーを用いた糖鎖多糖誘導体合成
准教授 博士（工学）	大西　孝臣	情報科学・工学系	論理回路Ⅰ、論理回路Ⅱ、信号処理Ⅰ、情報科学・工学実験Ⅰ、情報工学セミナー	統合型学習環境
准教授 博士（工学）	大橋　智志	情報科学・工学系	創造工学Ⅰ、システムソフトウェア、情報工学実験、情報科学・工学実験Ⅰ、情報科学・工学実験Ⅱ	医用画像処理、生体信号解析、福祉工学
嘱託教授	沖本　正憲	総合人文科学系	英語	身体性、身体模射、擬人化
准教授	奥田　浩生	応用化学・生物系	分析化学Ⅱ・Ⅲ	セメント・コンクリートの化学的キャラクタリゼーション
助教 博士（工学）	奥山　尚	電気電子系	電気磁気学Ⅰ、先端技術特論、医療・福祉	放電プラズマに関する研究
准教授 博士（工学）	櫻村　奈生	応用化学・生物系	分析化学、有機化学、物理化学	有機資源の改質プロセスの開発
准教授 博士（文学）	片山ふゆき	総合人文科学系	国語	古典文学研究
教授 博士（工学）	加藤　初儀	総合自然科学系	物理基礎、物理、科学史、熱統計力学	層状構造物中の波動現象
准教授 博士（工学）	菊田　和重	機械系	工業熱力学、伝熱工学、機械設計製図Ⅱ、機構運動、環境機械工学特論	熱エネルギー変換
准教授 博士（工学）	工藤　泰洋	電気電子系	電子回路Ⅱ、ディジタル回路	高階場感音響再生
教授 技術士	栗山　昌樹	都市・環境系	水理学Ⅰ、環境工学Ⅰ・Ⅱ、環境衛生工学、建設マネジメント	上下水道汚泥のリサイクル、減量化について
教授 博士（理学）	甲野　裕之	応用化学・生物系	物理化学、生物資源化学	機能性多糖の合成と応用に関する研究
准教授 博士（工学）	小泉栄太郎	機械系	流体工学Ⅰ、計算力学、電気工学、創造工学Ⅱ、機械設計製図Ⅳ	翼型上の流動解析による流体機械の高効率化
准教授 博士（工学）	近藤　崇	都市・環境系	建設材料学Ⅰ・Ⅱ、測量学実習Ⅱ、造語工学	積雪寒冷地の舗装に関する研究
准教授 博士（理学）	金野　幸吉	総合自然科学系	数学	重力理論および宇宙物理学

（以下，省略）

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構　苫小牧工業高等専門学校　学校要覧（抜粋））

資料２－２－①－（２）

「高等専門学校設置基準　第二章第六条３」

昭和三十六年文部省令第二十三号
最終更新　平成三十年二月二十八日

第二章　組織編制

（学科）

第四条　高等専門学校の学科は、専攻分野を教育するために組織されるものであつて、その規模内容が学科として適当と認められるものとする。

（学生定員）

第四条の二　学生定員は、学科ごとに学則で定めるものとする。

２　学生定員は、教員組織、校地、校舎その他の教育上の諸条件を総合的に考慮して定めるものとする。

３　高等専門学校は、教育にふさわしい環境の確保のため、在学する学生の数を学生定員に基づき適正に管理するものとする。

（学級）

第五条　高等専門学校においては、同一の学科につき同一の学年の学生をもつて一又は数個の学級を編制するものとする。ただし、教育上有益と認めるときには、異なる学科の学生をもつて学級を編制することができる。

２　一学級の学生の数は、四十人を標準とする。

（教員組織）

第六条　高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。次項及び第三項において同じ。）を置かなければならない。

２　教員のうち、第十六条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、次の各号に掲げる数を下つてはならない。

一　入学定員に係る学生を一の学級に編制する場合は、十人

二　入学定員に係る学生を二の学級に編制する場合は、十二人

三　入学定員に係る学生を三の学級に編制する場合は、十四人

四　入学定員に係る学生を四の学級から六の学級までに編制する場合は、十四人に三学級を超えて一学級を増すごとに四人を加えた数

五　入学定員に係る学生を七以上の学級に編制する場合は、二十六人に六学級を超えて一学級を増すごとに三人を加えた数

３　教員のうち、工学に関する学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に一の学科を置くときは八人、二以上の学科を置くときは八人に一学科を超えて一学科を増すごとに七人を加えた数を下つてはならない。この場合において、一学科の入学定員に係る学生を二以上の学級に編制するときは、これらに一学級を超えて一学級を増すごとに五人を加えるものとする。

４　工学に関する学科以外の学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、別に定める。

５　高等専門学校は、教育の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編制するものとする。

６　高等専門学校は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。

（以下，省略）

（出典　高等専門学校設置基準（抜粋））

資料２－２－①－（３）

「高等専門学校設置基準　第二章　組織編成（抜粋）」

昭和三十六年文部省令第二十三号
最終更新　平成三十年二月二十八日

（学科）

第四条　高等専門学校の学科は、専攻分野を教育するために組織されるものであつて、その規模内容が学科として適当と認められるものとする。

（学生定員）

第四条の二　学生定員は、学科ごとに学則で定めるものとする。

２　学生定員は、教員組織、校地、校舎その他の教育上の諸条件を総合的に考慮して定めるものとする。

３　高等専門学校は、教育にふさわしい環境の確保のため、在学する学生の数を学生定員に基づき適正に管理するものとする。

（学級）

第五条　高等専門学校においては、同一の学科につき同一の学年の学生をもつて一又は数個の学級を編制するものとする。ただし、教育上有益と認めるときには、異なる学科の学生をもつて学級を編制することができる。

２　一学級の学生の数は、四十人を標準とする。

（教員組織）

第六条　高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。次項及び第三項において同じ。）を置かなければならない。

２　教員のうち、第十六条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、次の各号に掲げる数を下つてはならない。

一　入学定員に係る学生を一の学級に編制する場合は、十人

二　入学定員に係る学生を二の学級に編制する場合は、十二人

三　入学定員に係る学生を三の学級に編制する場合は、十四人

四　入学定員に係る学生を四の学級から六の学級までに編制する場合は、十四人に三学級を超えて一学級を増すごとに四人を加えた数

五　入学定員に係る学生を七以上の学級に編制する場合は、二十六人に六学級を超えて一学級を増すごとに三人を加えた数

資料２－２－①－（３）（続き）

３　教員のうち、工学に関する学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に一の学科を置くときは八人、二以上の学科を置くときは八人に一学科を超えて一学科を増すごとに七人を加えた数を下つてはならない。この場合において、一学科の入学定員に係る学生を二以上の学級に編制するときは、これらに一学級を超えて一学級を増すごとに五人を加えるものとする。

４　工学に関する学科以外の学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、別に定める。

５　高等専門学校は、教育の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編制するものとする。

６　高等専門学校は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。

第七条　高等専門学校は、演習、実験、実習又は実技を伴う授業科目については、なるべく助手に補助させるものとする。

第八条　専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下つてはならない。

第九条　教員は、一の高等専門学校に限り、専任教員となるものとする。

２　専任教員は、専ら前項の高等専門学校における教育に従事するものとする。

３　前項の規定にかかわらず、高等専門学校は、教育上特に必要があり、かつ、当該高等専門学校における教育の遂行に支障がないと認められる場合には、当該高等専門学校における教育以外の業務に従事する者を、当該高等専門学校の専任教員とすることができる。

（事務職員等）

第十条　高等専門学校には、その運営のために必要な相当数の事務職員その他の職員を置かなければならない。

（研修の機会等）

第十条の二　高等専門学校は、当該高等専門学校の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（第十七条の四に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

（以下略）

（出典　高等専門学校設置基準）

資料２－２－③－（１）－１

「教員公募要項」

令和元年１２月　２日

各関係機関の長　殿

苫小牧工業高等専門学校長
小　林　幸　徳
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

謹啓　時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。
さて，このたび本校では下記のとおり教員の公募を行うことになりました。
つきましては，御多用中のところ恐縮ですが，関係各位へ周知していただきますとともに，適任者の推薦または応募について，よろしくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。
敬具

記

１．公募人員　　助教　１名

２．所　　属　　創造工学科

３．専門分野　　応用化学・生物系に関する分野

４．担当予定科目　本科　無機化学、分析化学、応用化学・生物系実験Ⅰ・Ⅱ、機能材料実験、その他の科目

５．応募資格　　下記の(1)～(3)の条件を満たす事
(1)博士の学位を有する方，もしくはすぐれた研究実績があり着任後３年以内に博士の学位取得が可能な方。
(2)高等専門学校の教育・研究と校務、学生指導（学級担任・クラブ活動・寮生活指導等）、地域協働や貢献に理解と熱意がある方。
(3) 採用時における年齢が 30 歳未満の方が望ましい（雇用対策法施行規則第１条の３第１項第３号のイの適用により，長期勤続によるキャリア形成を図るため）。

※独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校は男女共同参画を推進しており，業績（教育業績，研究業績，社会的貢献，人物を含む）の評価において同等と認められる場合には，女性を優先的に採用します。

６．採用予定日　令和２年４月１日

７．提出書類　(1) 履歴書（本校所定用紙，写真貼付）・・・・・・・・・・　別紙様式１
(2) 研究業績一覧（著書，論文等）・・・・・・・・・・・・・　別紙様式２
(3) 研究・開発等の履歴一覧及び研究・開発等の概要
(2,000字以内)・・・・・・・・・・・・・・・別紙様式３
(4) 教育業績一覧（学校等における教職員歴等）・・・・・・　別紙様式４

資料２－２－③－（１）－１（続き）

(5) 主要な著書，論文等の原本又はその写し（3編以内）
(6) 高専教育に対する抱負（2,000字以内）・・・・・・・・・ 別紙様式５
(7) 本人について参考意見を求める場合の相手方（2名）
（住所，氏名，連絡先，本人との関係）
(8) その他（審査に役立つと思われるもの）

11. 応募締切　令和２年１月31日(金)必着

12. 選考方法　第一次選考　書類審査（結果は文書にて通知）
第二次選考　第一次選考合格者に対して面接審査（面接を実施する方には直接お知らせします。なお，選考に係る諸費用・交通費は，応募者本人の負担となります。）

13. 書類送付先　〒059-1275　苫小牧市字緑岡 443 番地
苫小牧工業高等専門学校総務課人事係
応募書類は簡易書留とし，「創造工学科教員（無機化学担当）公募書類」と朱書きしてください。なお，応募書類は返却致しません。また，応募書類に含まれる個人情報は本選考のみに使用し，他の目的では一切使用しません。

14. 問合せ先　苫小牧工業高等専門学校　創造工学科（応用化学・生物系系長）平野　博人
E-mail: hirano@tomakomai-ct.ac.jp

15. その他　「苫小牧工業高等専門学校ホームページ」及び「研究者人材データベース（JREC-IN）」もご参照ください。なお,公募に必要な各様式については「苫小牧工業高等専門学校ホームページ」からダウンロードして利用願います。

※公立学校等に在職の方が採用された場合等，都道府県の条例等によって勤務年数が通算されない場合があります。

※苫小牧工業高等専門学校ホームページ：https://www.tomakomai-ct.ac.jp/
研究者人材データベース（JREC-IN）：https://jrecin.jst.go.jp/

（出典　令和２年４月１日付採用予定の教員（助教）公募要項）
（苫小牧工業高等専門学校ホームページにて掲載）

資料２－２－③－（１）－２

「教員の年齢構成」

苫小牧工業高等専門学校定員現員表内訳

令和元年度　令和1年10月1日現在
※年齢は年度末

全教員　現員74名（定員74名）
※特別専攻科、※令和元年度

校長	年齢	生年月日	現員 1名
[redacted]	62歳		

一般教育系（旧：一般教科）	年齢	生年月日	現員21名
総合人文科学系（旧：文系総合学科）			現員10名
教 授			現員 3名
	62歳	[redacted]	
	61歳	[redacted]	
	58歳	[redacted]	
准教授			現員 7名
	62歳	[redacted]	
	61歳	[redacted]	
	54歳	[redacted]	
	46歳	[redacted]	
	43歳	[redacted]	
	37歳	[redacted]	
	35歳	[redacted]	
講 師			現員 0名
助 教			現員 0名
総合自然科学系（旧：理系総合学科）			現員11名
教 授			現員 8名
	62歳	[redacted]	
	61歳	[redacted]	
	55歳	[redacted]	
	54歳	[redacted]	
	50歳	[redacted]	
	48歳	[redacted]	
	43歳	[redacted]	
准教授			現員 3名
	48歳	[redacted]	
	37歳	[redacted]	
	34歳	[redacted]	
講 師			現員 0名
助 教			現員 0名

機械系（旧：機械工学科）	年齢	生年月日	現員11名
教 授			現員 5名（人事交流者（鶴岡高専）※管理職）
	60歳	[redacted]	
	58歳	[redacted]	
	56歳	[redacted]	
	47歳	[redacted]	
准教授			現員 4名
	52歳	[redacted]	
	48歳	[redacted]	
	46歳	[redacted]	
	38歳	[redacted]	
講 師			現員 0名
助 教			現員 2名
	29歳	[redacted]	
	64歳	[redacted]（再雇用(1年目)・特任教授）	

電気電子系（旧：電気電子工学科）	年齢	生年月日	現員10名
教 授			現員 4名
	63歳	[redacted]	
	60歳	[redacted]	
	57歳	[redacted]	
	53歳	[redacted]	
准教授			現員 5名
	50歳	[redacted]	
	46歳	[redacted]	
	42歳	[redacted]	
	37歳	[redacted]	
	35歳	[redacted]	
講 師			現員 0名
助 教			現員 1名
	33歳	[redacted]	

情報科学・工学系（旧：情報工学科）	年齢	生年月日	現員 11名
教 授			現員 5名
	62歳	[redacted]	
	61歳	[redacted]	
	59歳	[redacted]	
	57歳	[redacted]	
	47歳	[redacted]	
准教授			現員 4名
	51歳	[redacted]	
	45歳	[redacted]	
	39歳	[redacted]	
	38歳	[redacted]	
助 教			現員 2名
	32歳	[redacted]	
	64歳	[redacted]（再雇用(1年目)・特任教授）	

応用化学・生物系（旧：物質工学科）	年齢	生年月日	現員12名
教 授			現員 5名
	61歳	[redacted]	
	60歳	[redacted]	
	57歳	[redacted]	
	56歳	[redacted]	
	49歳	[redacted]	
准教授			現員 5名
	57歳	[redacted]	
	51歳	[redacted]	
	49歳	[redacted]	
	47歳	[redacted]	
	44歳	[redacted]	
講 師			現員 0名
助 教			現員 2名
	31歳	[redacted]	
	65歳	[redacted]（再雇用(1年目)・特任教授）	

都市・環境系（旧：環境都市工学科）	年齢	生年月日	現員 8名
教 授			現員 4名
	63歳	[redacted]	
	54歳	[redacted]	
	53歳	[redacted]	
	50歳	[redacted]	
准教授			現員 3名
	45歳	[redacted]	
	42歳	[redacted]	
	41歳	[redacted]	
講 師			現員 0名
助 教			現員 1名
	27歳	[redacted]	

（出典　苫小牧工業高等専門学校総務課人事係資料）

資料２－２－③－（３）－１

「苫小牧工業高等専門学校教職員表彰規程」

規則第17号
制　　定　昭和53年12月25日
一部改正　平成18年４月１日

（趣旨）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員及び教職員以外の者（以下「教職員等」という。）に対する本校校長の行う表彰等（独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第４３条第一号に定める表彰を除く。）については，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則に定めるもののほか，この規程の定めるところによる。

（表彰状及び感謝状）
第２条　校長が，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則の実施について（平成１６年４月１日理事長裁定）第３項各号の一に該当すると認めた教職員等には，表彰状を授与する。
２　校長が，本校の発展のため顕著な功績があったと認めた教職員等には，感謝状を授与する。
第３条　前条の表彰状及び感謝状にあわせて記念品を贈呈することがある。

（審議）
第４条　被表彰者等については，本校運営委員会において審議し校長が表彰等の可否を決定する。

（雑則）
第５条　この規程に定めるもののほか，表彰の実施に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則
この規程は，昭和53年12月25日から施行する。
附　則
この規程は，平成18年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校教職員顕彰規程）

資料２－２－③－（３）－２

「教育能力等評価基準（校長裁定）」

教育能力等評価基準

苫小牧工業高等専門学校

１．　評価項目
（１）本校で実施した自己点検・評価、外部評価において受けた教育面での高い評価
（２）採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
（３）学生による授業評価、教員同士の相互評価等
（４）校長、本校教員組織等規程第４条に定める副校長（以下「副校長」という。）等が行う教育上の能力に関する評価（以下２．に掲げる要素をもとに客観的に評価されたもの）
（５）研究活動に関する評価
（６）学校運営への貢献に関する評価
（７）社会貢献に関する評価
（８）広報活動に関する評価

２．　教育上の能力に関する評価要素
（１）責　任　教育上、常に責任ある態度を示したか。
（２）知　識　教育上必要な知識を十分持っていたか。
（３）教　授　学生に対する教授を適切かつ効果的に行ったか。
（４）学習指導　学生に対する教科の指導を効果的に行ったか。
（５）生活指導　学生に対する日常生活の指導を効果的に行ったか。
（６）実習指導　学生に対する実験実習の指導を効果的に行ったか。
（７）研　究　常に研究に努め、研究の成果を教育に反映させたか。
（８）協　調　常に協調的に職務を遂行したか。
（９）整　備　実験・実習のために機材を整備したか。
（10）技　術　教育上必要な技術を十分持っていたか。
（11）技　能　教育上必要な技能に十分に熟知していたか。
（12）企　画　適切かつ効果的な企画立案をしたか。
（13）調　査　教育上必要な事項について適切かつ効果的に調査を行ったか。
（14）安　全　常に事故を起さぬよう注意したか。
（15）渉　外　他の機関等との渉外を効果的に行ったか。
（16）そ の 他　校長が、教育上必要な能力と判断したもの。

３．　評価細目
総合評価を行うにあたっては、次の細目を参考とする。
（１）本校で実施した自己点検・評価、外部評価において受けた教育面での高い評価に関して
・ 本校で実施する上記に関わる評価を参照

（２）採用決定の際等における教育上の能力に関して
・ 新規採用者に限定

（３）学生による授業評価、教員同士の相互評価等に関して
・ 本校で実施する上記に関わる評価を参照

（４）校長、副校長等が行う教育上の能力に関して
Ａ　学生の受入れ
・ 本科及び専攻科の入学者選抜方法等
Ｂ　教育活動
○ 授業における教育が十分であるか。
○ シラバスを有効に活用しているか。
○ 教育方法の工夫をしているか。
・ 優れた教育方法の実践
・ 双方向的な授業やグループ学習など新しい教育方法の展開
・ 学生の授業時間外の学習を促進する取組み
（予習・復習の促進）
（正規授業のほか、達成度の低い学生のため補習授業を行っているか。）
（進学、就職、資格取得希望者に対して個別指導を行っているか。）
（欠席の多い学生の対応）
（オフィスアワーの設定と活用）
・ マルチメディア機器を活用した授業方法の開発
・ 新規な科学的実験指導方法の開発
・ 適切な成績評価方法の開発
（成績評価基準：教育目標に対する達成度）
（定期試験や小テストの答案の採点結果や評価結果などを本人に返却・通知しているか。）
（授業の効果の確認：レポートや宿題のチェック、アンケート調

査、各種の実力試験、資格試験、コンテストの成績等により確かめている。）
・ 卒業論文及び専攻科特別研究指導
（指導学生数）
（テーマ（分野と設備を考慮））
（卒論・特別研究発表時の評価（学生の資質と指導効果を評価））
（卒業論文・学修成果報告書の評価（学生の資質と指導効果を評価））
・ 編入学生の指導
・ 留学生の指導等
（授業の方法等）
（課外授業）
（生活面の指導や相談）
○ 作成した教科書、教材
・ 作成した教科書
・ 授業で教材として使用している著書等
・ 授業のために開発した教材（配布用プリント教材、実験器具、ＯＨＰ教材、インターネット教材、一連の小テスト、問題集など）
○ ＦＤ活動
・ 教育、教員の資質向上に関する研究論文の発表（高専教育、工学教育、その他）
・ 研修への取り組み（教育研究集会への出席・発表・報告等、学外ＦＤ活動、授業視察）
Ｃ　学生指導
○ 学生生活指導と相談
（校内生活指導，校外生活指導）
○ 課外活動の指導
（課外活動指導）
（安全対策）
（学生会行事の指導）
○ 寮生活の指導
○ 進路指導
（進路指導）
（就職先の確保）
○ カウンセリングへの対応

（５）研究活動に関して
○ 学会活動
・ 学会賞等の受賞
・ 口頭発表（教員本人が発表）
・ 招待講演等
○ 共同研究
・ 民間機関等との共同研究
・ 大学の研究室との共同研究
○ 著作、特許等
○ 学位取得
○ 技術士（PE）取得
○ 外部資金の獲得

（６）学校運営に関して
○ 運営方針の理解
・ ハラスメント防止
・ 身分証明書の校内での着用（校報平成１６年１月号参照）
・ サイボウズ・スケジュールへの入力等校内電子システムの運用（IT 利用検討 WG の提言参照）
○ 教員会議、特別委員会を含む各種委員会、ワーキンググループ等での活動

（７）社会貢献に関して
○ 地域共同研究センターが行う事業への協力
○ 公開講座の企画立案、参加等
○ 地域審議会等への参加
○ 地域主催事業への参加
○ ボランティア活動の企画立案、参加等
○ 地域産業振興への貢献
○ 国際協力への貢献

（８）広報活動に関して
○ 入試説明会、中学校訪問等の広報活動
○ 刊行物発行の広報
○ ホームページの運用

（出典　教育能力等評価基準（校長裁定））

「在職教員に対して教育研究水準の維持向上および教育研究の活性化を図るために行っている校長裁量経費等の予算配分を決めた委員会の議事録」

平成３１年度　第３回　運営委員会記録

◆日　　時　　令和元年６月２７日（木）１５時４５分～１６時５０分
◆場　　所　　中会議室
◆出 席 者　　別紙のとおり

議　　題１．2018年度決算及び2019年度予算配当（案）について【資料１－１～３】
黒川校長及び松橋総務課長から，資料に基づき，次のとおり説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。
・2018年度決算については，収入額385,150千円に対し，支出額385,068千円となっている。
・2019年度の収入予算については，機構示達額269,096千円（前年比9,517千円減）と間接経費等の収入見込みとあわせて280,586千円となっている。
・支出予算については，資料１－１の配分方針に基づき，見込額で配分している。
・新規事項としてC-baseに係る費用を地域共同研究センター経費に計上している。
・教育経費については，第２回運営委員会で了承された資料１－３に基づき配分し，ほぼ前年度と同額の配分となっている。
・以上を2019年度予算として，了承いただきたい。

議　　題２．個人情報管理要項の改正について【資料２】
黒川校長及び事務担当から，機構規則の改正時にあわせて改正すべき箇所が改正されていなかったため，資料のとおり改正したい旨説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

議　　題３．間接経費の取扱いに関する申合せについて（案）【資料３】
黒川校長及び事務担当から次のとおり説明があり，審議の結果，原案のとおり了承された。
・機構の間接経費取扱規則が改正されたことに伴い，校長が定める適用率について，資料のとおり校長裁定の案を作成した。
・了承された場合は，決裁日をもって制定し，４月１日から適用としたい。

議　　題４．共同研究の受入について【資料４】
須田地域共同研究センター長から，資料のとおり厚真町地域特産品開発機構との共同研究について，受入れることとしたい旨提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

議　　題５．受託研究の受入について【資料５－１，２】
須田地域共同研究センター長から，資料のとおり沖縄高専及び株式会社クレエとの受託研究について，受入れることとしたい旨提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

（出典　令和元年度第３回運営委員会議事録より抜粋）

資料２－２－③－（３）－４

「在職教員に対して教育研究水準の維持向上および教育研究の活性化を図るために行っている校長裁量経費等の予算配分」

別紙3

校長裁量経費（各種プロジェクト等）

（単位：円）

部署	要旨	申請額	配分額	備考
機械系	GBS理論を活用したプロジェクト型実習の実践	282,000	253,000	H30機械系長　高澤　幸治（実務担当：池田　慎一）
機械系	3DCAD教育における自学自習環境の整備およびシステムの安定運用	242,000	217,000	H30機械系長　高澤　幸治
機械系	簡易ロボットコンテスト形式のPBL型授業の構築	267,000	240,000	H30機械系長　高澤　幸治（実務担当：浅見　廣樹）
機械系	データ溶接機更新	497,000	173,000	H30機械系長　高澤　幸治
応用化学・生物系	食品・生物系等ものづくり実験演習支援システム	1,402,000	1,121,000	応用化学・生物系長　平野　博人
電気電子系	創造工学科IoT教育プログラムの開発	1,200,000	1,080,000	電気電子系　奥山　由
情報科学系・工学系	情報科学・工学実験用 実験用端末導入	1,800,000	1,620,000	情報科学・工学系　准教授　大西孝臣
情報科学系・工学系	情報科学・工学実験/情報セキュリティ演習 実習支援システム	2,200,000	1,980,000	情報科学・工学系　土居 茂雄
情報科学系・工学系	情報科学・工学系 実習支援システム	1,800,000	1,620,000	情報科学・工学系　原田 恵雨
情報科学系・工学系	企業技術者講演会実施	220,000	220,000	情報科学・工学系長　中村 廣郎
都市・環境系	共鳴振動法非破壊試験器更新	972,000	972,000	都市・環境系　渡辺　暁央
総務委員会	国際交流	1,350,000	1,350,000	総務委員会　総務主事
入学試験委員会	どさんこナナエフェス（道新）登録費用等	450,000	450,000	副校長（教務主事）　村本　充
校長	校長裁量予備費		6,704,000	教育・研究推進のためのインセンティブ経費
	合計		18,000,000	

（出典　令和元年度第３回運営委員会資料１－３より抜粋）

資料２－３－①－（１）

「教員自己評価シート提出依頼メール」

Subject: 【人事係】平成30年度国立高等専門学校教員顕彰の実施について（通知）
From: 苫小牧高専人事係 <jinji@tomakomai-ct.ac.jp>
Date: 2019/12/05 17:14
To: 全教員 <allteachers@tomakomai-ct.ac.jp>
CC: 人事係 <jinji@tomakomai-ct.ac.jp>

※添付資料は，サイボウズ掲示板にアップロードしています。
（掲　載　日）令和元年１２月５日（木）
（タイトル）【通知】令和元年度国立高等専門学校教員顕彰の実施について

※今年度については，評価集計表をFormsでも作成しましたので，以下の
リンクより，入力をしていただき，ご提出していただいても構いません。
（不備や今後のアドバイス等ありましたら，人事係までご連絡ください。）

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=XYP-cpVeEkWK4Keziv3fyKMd5zanQ-1OuciysWg9awtUREJBRTlOUENBUjlHODM1SVVIUENDNUlPTi4u

※学生アンケートについては，今年度も用紙での提出となります。
第３～第５学年の担任の先生にはお手数をおかけしますが，後日，系長
より，用紙等を配付がありますので，ご協力の程よろしくお願いします。

資料２－３－①－（１）（続き）

令和元年１２月　５日

教　員　各位

校　　長

国立高等専門学校教員顕彰の実施について（通知）

このことについて，令和元年度国立高等専門学校教員顕彰への候補者推薦にあたり，国立高等専門学校教員顕彰実施要項等に基づき，「第１部　教員による自己評価」，「第２部 教員による相互評価」を実施しますので，評価集計表に必要事項を記入の上，令和元年１２月１８日（水）までに総務課人事係あて提出願います。

記

○配付資料　１．国立高等専門学校教員顕彰実施要項
　　２．教員の教育業績等評価
　　３．評価集計表

○そ の 他　過去の受賞者についても教員相互評価の対象とします。
　　教員の教育業績等評価に係る５年間の定義は，
　　平成２７年４月１日から現在までとします。

1 / 2　　2019/12/11 8:52

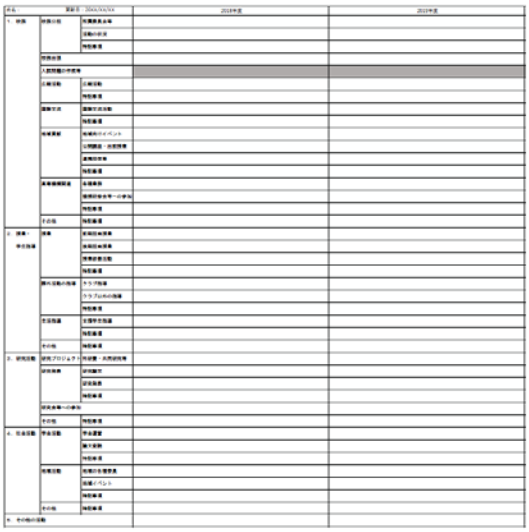
【人事係】平成30年度国立高等専門学校教員顕彰の実施...

--
****
〒059-1275　苫小牧市字錦岡443番地
苫小牧工業高等専門学校
　総務課人事係　　酒井　俊輔
　電話 0144-67-8066
　FAX　0144-67-8814
　E-mail（係）jinji@tomakomai-ct.ac.jp
　　（個人）sakai@tomakomai-ct.ac.jp
****

（出典　令和元年 12 月 11 日に苫小牧工業高等専門学校総務課人事係から全教員に対して送付された「教員自己評価シート提出依頼」のメール）

資料２－３－①－（２）

「教員活動実績確認表」


教員活動実績確認表

（出典　教員活動実績確認表）

資料２－３－②－（１）

「教員選考（内部昇格）に関する評価の基準（校長裁定）」

教員選考（内部昇格）に関する評価の基準（第３及び第７関係）

項目	評価の観点及び特記事項
教育活動	◎本校教員としての使命感を持ち、学生の能力を把握した内容で真摯に授業に取り組んでいること。 ○担任として学生の学力向上や生活指導等に熱心であり、綿密な学級運営を行っていること。 ○教科指導・教育方法改善・学生指導等に関する各種研修への参加と実践。 ○教科指導・教育方法改善・学生指導等に関する研究、またはこれらに関する取組実績がある。（学内への普及なども含む） △教科指導に関する努力。（大学編入学生及び本校への編入学生に対する指導等。） △補習、補講等による教科指導に関する努力。 △一般科目を担当する教員の卒業研究・特別研究指導の実績。 △授業科目の担当状況。
研究活動	（教授昇任） ◎過去５年以内に、２編以上の査読付論文を学協会誌等に発表していること。（うち１編以上は、第一著者であること。） （准教授昇任） ◎過去３年以内に、１編以上の査読付論文を学協会誌等に発表していること。 ※専門分野における教育・研究活動の努力が継続されていることが客観的に認められること。
	◎専門教育科目を担当する教員及び一般科目（理系科目）を担当する教員においては、学位（博士）あるいは技術士等の資格又はこれらに準ずる業績等を教授昇任の必要要件とする。 ◎上記以外の科目を担当する教員においては学位（修士）以上の資格又はこれに準ずる業績等を教授昇任の必要要件とする。
課外活動等の指導	○クラブ顧問あるいはそれに相当する課外活動指導を担当していること。 ○形式的な顧問ではなく、クラブの引率、練習指導、合宿指導等の実質的指導及び各種大会運営等の業務を積極的に努めていること。
校務分掌	◎教授昇任においては、主事補、副センター長、専攻主任等の校務分掌の担当実績があること。 ○各種学内委員会委員及び担任等の分掌を担当し、責務を果たしていること。 △プロジェクト委員及びWGメンバー等としての実績。
その他	次に掲げる活動実績等 ○学校・学科運営に係る各種業務の実績等。 △学外の公的委員会の構成員。 △学会等での活動。（学協会役員、学協会誌編集委員及び学会賞等の受賞等） △特許等の知的財産権の取得。（研究業績に準ずるものとする。） △企業、試験研究機関等との共同研究及び各種外部資金の受入実績等。 △ボランティア活動等。 ○公開講座を含む地域連携事業実績。 ※学内における貢献実績とのバランスを考慮する。

◎：必要とされる要件（最低限），　○：主な評価項目，　△：上記以外で評価できる項目

※本基準は平成２８年４月１日から適用する。
平成２８年２月１５日（月）開催スタッフ会議了承，平成２８年２月２３日（水）開催運営委員会報告

（出典　教員選考（内部昇格）に関する評価の基準）

資料２－３－②－（２）

「教員選考委員会議事録の抜粋」

第３回　教員採用に関わる選考委員会議事録

日時：平成 30 年 1 月 31 日　16 時 00 分～17 時 00 分
場所：中会議室
出席者：黒川校長、古崎総務主事、中島学生主事、見籐寮務主事、村本専攻科長、下夕村都市・環境系長

会議内容
1．面接に先立ち、資料の確認を行った。その他、確認事項がないことを確認し面接試験に入った。
2．面接試験内容
① 履歴書の内容を確認
② 「研究概要と高専教育に対する抱負」と題したプレゼンテーション
・現在の研究概要及び今後の展望
・高専教育に対する抱負
③ 高専での教育研究に対する抱負の確認
④ 課外活動に関する経験及び指導の可能性
⑤ 校務に対する抱負の確認
⑥ 学位取得の見込み、及びそれまでの予定
等について質疑された。
3．結果
面接終了後、採用の可否について協議した。
書類審査、面接内容において特に異論なく全員一致で採用が認められた。

(注)通常，教員採用の面接では，候補者に模擬授業を実施して貰っている。しかし，この面接での候補者は大学院博士課程に在籍しており，講義を実施した経験がないことから，選考委員間で模擬授業は実施しないことを予め確認していた。

（出典　教員採用に関わる選考委員会議事録）

資料２－３－②－（４）

「苦小牧工業高等専門学校教員選考規程」（抜粋）

規則第69号
制　　定　平成19年４月１日
一部改正　平成23年６月14日
一部改正　平成23年11月８日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年２月23日

（略）

第３章　非常勤講師の選考

（非常勤講師選考委員会）
第８条　校長は，非常勤講師の選考のため，必要の都度，非常勤講師選考委員会を置く。
２　非常勤講師の選考は，非常勤講師の採用計画に基づき行うものとする。
３　非常勤講師選考委員会は，次に掲げる者をもって組織する。
一　校長
二　副校長（総務主事）
三　副校長（教務主事）
四　副校長（学生主事）
五　副校長（寮務主事）
六　副校長（専攻科長）（専攻科を担当する非常勤講師を採用しようとする場合に限る。）
七　校長が指名する系長
４　非常勤講師選考委員会は，次に掲げる業務を行う。
一　選考審査
二　その他選考に関して必要な事項の審議
５　非常勤講師選考委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
６　委員長は，非常勤講師選考委員会を招集し，その議長となる。
７　非常勤講師選考委員会は，選考審査の終了をもって解散する。

（非常勤講師の選考の申請）
第９条　創造工学科長は，非常勤講師を採用しようとするときは，校長に第６条第１項第一号から第四号の資料を提出するものとする。
２　本校の教員として勤務していた者及び本校の運営上，特に採用する必要があり，校長が授業科目を担当するにふさわしいとする者については，前項に定める書類の一部を省略することができる。

資料２－３－②－（４）（続き）

（非常勤講師の選考の申請）
第９条　創造工学科長は，非常勤講師を採用しようとするときは，校長に第６条第１項第一号から第四号の資料を提出するものとする。
２　本校の教員として勤務していた者及び本校の運営上，特に採用する必要があり，校長が授業科目を担当するにふさわしいとする者については，前項に定める書類の一部を省略することができる。

（出典　苫小牧工業高等専門学校教員選考規程）

資料２－４－①－（１）－１

「苫小牧工業高等専門学校運営委員会部会要項」

苫小牧工業高等専門学校運営委員会部会要項

（平成23年６月14日校長裁定）
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日
一部改正　平成29年５月12日
一部改正　平成31年３月27日

（趣旨）
第１条　この要項は，苫小牧工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）規程第６条第１項の規定に基づき設置する部会（以下「部会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置及び審議事項）
第２条　委員会に別表第１に掲げる部会を置く。部会は，部会毎に同表に定める事項を審議する。

（組織）
第３条　部会は，委員会規程第６条第３項の規定に基づき部会毎に別表第２の構成欄に掲げる者をもって組織する。

（委員の任期）
第４条　前条の部会員の任期は，原則１年とする。ただし，これにより難い場合は，個別に任期を付すこともできるものとする。
２　部会員（職名指定の委員を除く。）に欠員が生じた場合の補充の有無は，校長が個別に判断するものとする。
３　前項により後任の部会員を補充した場合の当該後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（部会長）
第５条　部会長は，委員会規程第６条第２項の規定に基づき部会毎に別表第２の部会長欄に掲げる者をもって充てる。
２　部会長は会議を招集し，議長となる。
３　部会長が不在の場合は，部会長の指名で，他の部会員がその職務を代行する。

（部会員以外の者の出席）
第６条　部会は，必要に応じ部会員以外の者の出席を認め，意見を聴くことができる。

（事務）
第７条　部会の事務は，部会毎に別表第２の事務担当欄に定める事務部の課が行う。

（次ページへ続く）

資料２－４－①－（１）－１（続き）

別表第１（第２条関係）

名　称	審 議 事 項
FD 部会	(1) 授業改善・教育業務改善に関すること (2) その他 FD に関すること
JABEE 対応部会	(1) 審査申請に関すること (2) 実地審査の対応に関すること (3) その他 JABEE に関すること
機関別認証評価対応部会	(1) 評価申請に関すること (2) 書面調査及び訪問調査に対応すること (3) その他機関別認証評価に関すること
自己点検・評価対応部会	(1) 自己点検・評価報告書作成に関すること (2) その他自己点検・評価に関すること

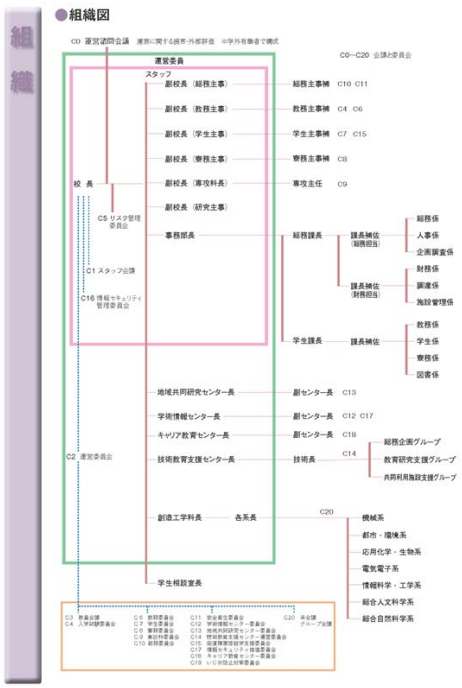
別表第２（第３条及び第５条及び第７条関係）

名　称	部会長	構　成	事務担当
FD部会	副校長（教務主事）	(1) 副校長（教務主事） (2) 副校長（専攻科長） (3) 校長が指名する教員 若干名	学生課
JABEE対応部会	副校長（専攻科長）	(1) 副校長（専攻科長） (2) 副校長（専攻科長）の推薦に基づき校長が指名する教員 若干名 (3) 副校長（専攻科長）の推薦に基づき校長が指名する事務職員 若干名	総務課
機関別認証評価対応部会	副校長（総務主事）	(1) 副校長（総務主事） (2) 総務主事補 (3) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する教員（若干名） (4) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する事務職員（若干名）	総務課
自己点検・評価対応部会	副校長（総務主事）	(1) 副校長（総務主事） (2) 総務主事補 (3) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する教員（若干名） (4) 副校長（総務主事）の推薦に基づき校長が指名する事務職員（若干名）	総務課

（出典　本校ウェブサイト規程集）

資料２－４－①－（１）－２

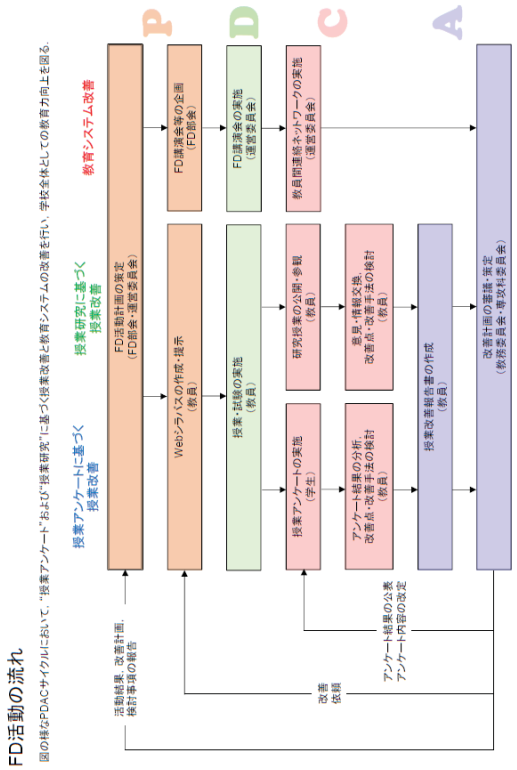
「組織図」



（出典　本校ウェブサイト　組織図）

資料２－４－①－（１）－３

「FD 活動の流れ」



（出典　平成 31 年度　第１回運営委員会）

資料２－４－①－（１）－４

「授業アンケートに関して」

令和元年６月２６日
第７回教務委員会
議　題　７　資　料

授業アンケートに関して

平成 17 年度以降より，授業アンケートは次ページに示したアンケート項目において行われてきた．また，平成 28 年度からは業務負担の軽減という観点から，科目を 3 グループに分け年度ごとにグループを変えながら実施されてきた．しかしながら，授業アンケート結果が授業改善等に十分に活かされているとは言えず，また隔年実施となってからはアンケートの実施漏れも見られている．

そこで，実施方法および授業アンケート内容について今一度精査することを提案する．

■ 実施方法

アンケートは，毎年，全科目とることとし，定期試験前の時期に授業内で実施する（ただし，学外実習や卒業研究等は除く）．

Bb によるアンケート調査は，集計時の業務負担や操作ミスによるデータ消去の恐れがあるため，Office365 上にてアンケートを行う．

■ 授業アンケート項目

学生の理解度や主体性を把握し，今後の授業やカリキュラムの改善につなげることができる質問を精選し，学生の負担軽減を図る．

Q1. 教員の説明・指示は分かりやすかった．
※板書・スライド，配付資料などを含め総合的に評価して下さい．
⇒ 旧座学系アンケートの Q3，Q5，Q7 に相当（授業改善のためのアンケート）

Q2. 学生の理解度を高めるための工夫がなされていた．
※ 授業スピードや難易度の調整，質問対応，課題や演習の量を含め総合的に評価して下さい．
⇒旧座学系アンケートの Q8, Q9, Q10 に相当（授業改善のためにアンケート）

Q3. 授業の目的・意義が理解でき，新しい知識・技能を習得できた．
⇒ 新規項目（学生の達成度評価＋カリキュラム改善のためのアンケート）

Q4. この科目において自分は学習に主体的・能動的に取組めた．
※ 授業・課題・自宅学習において，単なる作業としてでなく，自ら考えや知識を整理しながら学習を進めることができたか評価してください．
⇒旧座学系アンケートの Q11，Q12 に相当（学生の主体性に関する自己評価）

Q5. この科目において良かった点，改善を希望する点などの感想を自由に記述してください．

（出典　平成 31 年度　第７回教務委員会）

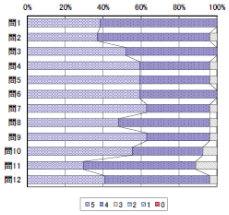
資料２－４－①－（１）－５

「授業アンケート結果」

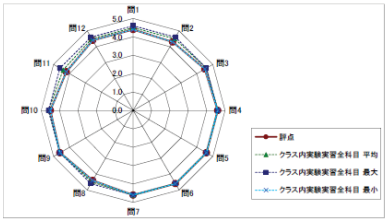
学　　科	機械工学科
科　目　名	機械設計製図Ⅳ
単　位　数	3単位
科 目 区 分	専門
教　員　名	浅見　廣樹
アンケート実施日	

学　　年	4年
開　講　学　期	通年
授　業　の　形　態	実験実習
必修・選択の別	必修

番号	設問	回答数(人)				
		5	4	3	2	1
問1	全体での授業の目標・内容・評価方法は，おおやすく量おたていた。	16	16	0	0	0
問2	授業はシラバスにもとづいて計画的に行なわれていた。	16	16	1	0	0
問3	授業はよく準備された内容だった。	14	12	0	0	0
問4	教員は授業時間を守っていた。	16	16	1	0	0
問5	教員の説明・話し方（声や言葉）はおおやすかった。	16	16	1	0	0
問6	教員の説明は，おおむね理解できた。	16	11	0	0	0
問7	黒板の書き方，その他ビデオ，プロジェクター，OHP等の使用が教員の説明を理解する上で効果的であった。	17	9	1	0	0
問8	授業は，発言・質問などが行いやすい雰囲気であった。	17	15	1	0	0
問9	授業の進み速さは適当であった。	17	9	1	0	0
問10	授業内容の理解に不可欠な演習，課題などの量は適当であった。	15	16	2	0	0
問11	自分は質問や発言をして，授業に意欲的に取り組んだ。	8	16	3	0	0
問12	自分は自学自習などにより，授業に意欲的に取り組んだ。	11	15	1	0	0



番号	評点	クラス内実験実習全科目		
		平均	最大	最小
問1	4.4	4.5	4.6	4.4
問2	4.3	4.5	4.6	4.3
問3	4.5	4.6	4.6	4.5
問4	4.6	4.6	4.6	4.6
問5	4.6	4.6	4.6	4.6
問6	4.6	4.6	4.6	4.6
問7	4.6	4.6	4.6	4.6
問8	4.4	4.5	4.6	4.4
問9	4.6	4.6	4.6	4.6
問10	4.5	4.6	4.6	4.5
問11	4.2	4.4	4.6	4.2
問12	4.4	4.5	4.6	4.4



<この授業で良かったと思う点>
課題がCADの様々な機能を使えるようになっていたので，知識が増えたという点で良いと思った．追加課題を用意してくれた点，雰囲気よく授業を行うことができた．グループワークが自分たちで考えるカがついて良かったと思う．デザインコンテストがとてもおもしろかった．グループワークが良かった．3DCADを用いてさらにレベルの高い製図について学ぶことが出来た．

<この授業をより良くするための改善提案>

<担当教員コメント>
全体的に高い評価を頂いて感謝しています．難易度も高いとは思うのですが，しっかりとした知識・技能を身に付けられる授業にしていきたいと思います．また，好評なコメントをいただいたグループワークについても，今後とも積極的に取り入れていきたいです．

（出典　平成 30 年度　授業アンケート結果報告書）

資料２－４－①－（１）－６

「校内研究授業について」

令和元年６月１７日 第２回ＦＤ部会 議　題　１　資　料	令和元年６月２６日 第７回教務委員会 報告事項３資料

令和元年度　校内研究授業について

■ 実施目的

学生の学力向上のためには，日々の授業がより「分かりやすい授業」になる様に，教員が力量を磨くとともに授業改善に努めることは必要不可欠である．この授業改善の推進のために，

・他系・他教員の取組みについて学ぶ（他教員から意見を貰う）
・学生の視点に立って授業を見なおす

ことを目的に研究授業を行う．また，新カリキュラムから開始された全系対象科目における取組み・内容ついて理解を深め，より良い授業とするための意見・情報交換を行うことを，今年度の校内研究授業の目的とする．

■ 実施時期

2019 年 7 月 8 日（月）~2019 年 7 月 12 日（金）
⇒ 期間を幅広く設けることで，研究授業の幅と参加教員数の増加を図る．

■ 実施方法

期間内において，専門・一般の各系から 1 つ以上研究授業を出してもらう（A 群）．
※ 専門系の研究・実験・実習は研究授業として指定できない．
また，上記に加えて創造工学Ⅰ~Ⅲ，専門共通選択科目を研究授業として指定する（B 群）．

各教員は，A 群の中から自系以外の授業を 1 つ以上，B 群の中から 1 つ以上の授業について見学を行い（見学する授業数に上限は定めない），簡単な授業見学報告書を提出する．
なお，期間中においては，上記科目とは別に専攻科科目についても自由に見学可能とする．
※ 授業見学報告書については，別途案内を出します．

後日，授業見学報告書を集約した報告書を作成しサイボウズ上で公開するとともに，教員間連絡ネットワーク等において集約結果を報告することで，各授業の優れた点・改善点等についての情報を教員間で共有できるようにする．これにより，研究授業担当教員のみならず全教員の授業の質改善につなげる．

（出典　平成 31 年度　第３回 FD 部会）

資料２－４－①－（１）－７

「授業見学報告書」

教科名	電気機器Ⅱ
教科担当者	上田先生
優れている点・参考になった点	
・パワーポイントの図等を用いて学生に分かりやすく説明されていた点． ・図で示した内容について，実物の機器を学生に触れさせて説明されていた点． ・座学を行いながら実際の装置を見せることで，学生はイメージがつきやすいと感じました． ・プリントを事前に配布し，授業内容に合わせて黒板と PPT を使い分けているところ． ・授業で学んだことを次年度の実験で，実体験出来るようになっているところ． ・原理を学び，実際の社会で用いられている機器に触れられるようになっていることろ． ・黒板，スライド，プリント，機器の実物をうまく組み合わせて説明しており，わかりやすかったです． ・板書，配布物，PC によるプレゼンのすべてを活用している授業で，大変参考になりました．	
改善可能と思われる点	
・もっと学生への問いかけがあるとよいと思いました． ・ほとんどの学生は授業に集中していましたが，一部，集中力が切れている学生がいたようですので，学生の能動的な活動が授業内に組み込まれると改善されるものと思われます．	
授業への集中度	4.4
発言・作業の活発度	3.7
その他追記事項	

（出典　令和元年度　第１回校内研究授業　授業見学報告書まとめ）

資料２－４－①－（１）－８

「第３回　FD 部会」

令和元年８月２８日
第３回ＦＤ部会
議題１資料

第３回　FD 部会

今年度は，本校の教育内容・手法の理解や向上につながる情報共有と意見交換を行う場として，下記の様に教員間連絡ネットワークを実施したいと考える．

令和元年度　第１回教員間連絡ネットワーク（案）

日時：2019 年 9 月 24 日（火）13:30～15:15
場所：中講義室

■ FD 部会長挨拶（5 分）

■ 苫小牧高専における分野横断 PBL と共同教育の実施状況と課題（仮）
時間：13:35～14:15（質疑応答込みで 40 分）
発表者：浅見
概要：高専フォーラムで開催した OS の内容をもとに，本校における分野横断 PBL と共同教育の実施状況と課題，また他高専における分野横断 PBL 等の実施例について報告を行う事で情報共有を行うとともに，質疑応答などを通して今後の展開について意見交換を行う．

■ 休憩（10 分）

■ CBT 活用授業の教育効果とカリキュラム改善（仮）
時間：14:25～15:05（質疑応答込みで 40 分）
発表者：高橋先生
概要：2，3 年生の数学や応用数学Ⅰ等の授業において合同授業や CBT を積極的に活用した授業を展開されている高橋先生に，合同授業および CBT 活用授業の実施状況や課題，今後の展開等についてお話いただき，双方に関する情報共有や意見交換を行う．

■ 全体質問・まとめ
時間：15:05～15:15
概要：上記に関連した内容，もしくはそれ以外の本校教育に関する意見交換を行う．

（出典　平成 31 年度　第３回 FD 部会）

資料２－４－①－（２）－１

「第一回校内研究授業の実施結果について」

令和元年８月６日
第１０回教務委員会
報告事項１資料

令和元年度 第一回校内研究授業の実施結果について

2019 年 7 月 8～12 日の期間にて令和元年度第一回校内研究授業を実施した．この研究授業について，見学者 50 名より 105 件の授業見学報告書が提出された．この集計結果については既にサイボウズにて公開済みであるが，今後，授業改善を進めていく上で重要と考えられる点について，以下にまとめた．

＜教員としての基礎スキル＞
以下の様に，板書，説明（声の抑揚や分かりやすさ），授業の雰囲気作りといった点についての評価が多く見られた．当たり前のことではあるが，授業改善においては，授業方法の工夫と同時に教員としての基礎スキルの向上が重要であると言える．

・声が聞き取りやすく，間も適切で非常に聞きやすかったです．（創造工学Ⅰ プレゼン技法）
・板書において，内容がすっきりとまとめられ，非常にわかりやすかった．（工業力学Ⅰ）
・語り口が親しみやすかった．（応用物理Ⅱ）

＜プリント・PPT・ICT機器等の活用＞
今回の方向書の中では，プリント・PPT・ICT機器などを積極的に活用し，授業の効率化，双方向授業化，学生の理解度向上がなされている点について評価する意見が最も多くなされていた．こういった授業の準備には非常に時間が掛かる側面はあるが，より学習効果の高い授業の構築のために，様々なツール・手法の導入・活用について積極的に検討していくべきであると考える．

・プリントを活用し，教員の話をヒアリングさせて，文を書かせる手法が良い．（国語Ⅰ）
・教科書の問題の答えをスマホに入力させ，教員のタブレットで解答状況をその場で把握，表示するというITをフルに活用した授業が大変参考になりました．（英語ⅠB）
・黒板の半分にスクリーンを貼り付け，手書きとプロジェクターを同時に活用しつつ，適宜学生から発言を引き出している．（水理学Ⅱ）
・黒板，スライド，プリント，機器の実物をうまく組み合わせて説明しており，わかりやすかったです．（電気機器Ⅱ）
・操作方法や課題について詳細な資料をBbに掲載しているため，自主的に取組みやすい．(創造工学Ⅱ 機械系)
・ブラックボード上の資料を参考に学生がパソコン，スマホを見ながら授業を受けていた．私にとっては，ちょっとしたカルチャーショックであった．問題の解説後，すぐに達成度試験を実施していたが，その場で学生の理解の定着を図るのには良いことかもしれない．（応用数学Ⅲ）

（出典　平成 31 年度　第 10 回教務委員会）

資料２－４－①－（２）－２

「第１回教員連絡ネットワークの実施結果について」

令和元年１０月２９日
第１３回教務委員会
報告事項１０資料

令和元年度 第１回教員間連絡ネットワークの実施結果について

本校の教育内容・手法の理解や向上につながる情報共有と意見交換を行う場として，下記の様に教員間連絡ネットワークを実施した．

日時：2019 年 9 月 24 日（火）13:30～15:15
場所：中講義室
参加教員数：49 名
内容：
■ 苫小牧高専における分野横断 PBL と共同教育の実施状況と課題
時間：13:35～14:15
発表者：浅見廣樹
概要：創造工学Ⅰ～Ⅲ，専攻科共同教育などにおける分野横断型 PBL や共同教育の実施状況と課題，また他高専における分野横断 PBL 等の実施例等について報告された．
■ CBT 活用授業の教育効果とカリキュラム改善
時間：14:25～15:05
発表者：高橋先生
概要：2，3 年生の数学や応用数学Ⅰ等における合同授業の実施状況や課題・改善事項，また CBT 活用授業の実施状況や効果，本校学生の数学能力の課題等について報告された．

参加教員数は 49 名ということで，比較的多くの教員に参加していただけたと考える．しかしながら，参加率が高いと言える状態ではないため，より多くの教員に参加していただくために，開催時期・通知時期について検討・改善していきたいと考える．
内容として，CBT 活用および合同授業の実施については，積極的な質疑応答・意見交換がなされ，参加された多くの教員の参考になったのではないかと感じる．また，分野横断 PBL や共同教育等については，少なくとも本校の取り組み状況や課題点について，認識を持っていただけたのではないかと感じる．今後とも，本校の教育内容・手法等の向上・改善につながるように，内容・テーマについて検討していきたいと考える．

（出典　平成 31 年度　第 13 回教務委員会）

資料２－４－①－（３）－１

「授業アンケート結果報告書」

表 2-2「教員の授業法」に関する設問 3～10 の全学年平均値をみると，設問 3「授業の準備」，設問 4「授業時間」の評価が他と比較して高く，前年同様に高い水準を維持している．
以下の設問については，過去と比較すると，設問 5「教員の話し方」は 4.1 (前年度 4.1)，設問 6「教員の説明」は 4.0(前年度 3.9)，設問 7「黒板等の使い方」は 4.0 (前年度 4.0)，設問 8「質問などのしやすさ」は 4.1 (前年度 4.1)，設問 9「授業の進む速さ」は 4.0 (前年度 4.0)，設問 10「課題などの量」は 4.1 (前年度 4.1)，と前年度とほぼ同程度の水準を維持しており，全学的に取り組んでいる教育改善が，確実に授業改善にも繋がってきていることがうかがえる．

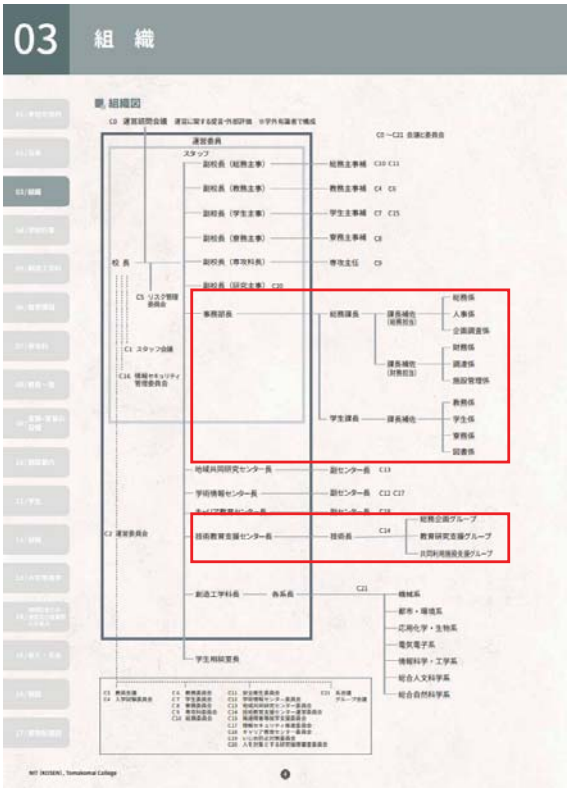
表 2-2「教員の授業法」に関する設問 3～10　（カッコ内前年度データ）

	全学年平均	1 年生平均	2 年生平均	3 年生平均	4 年生平均	5 年生平均
設問 3	4.3 (4.3)	4.5 (4.4)	4.3 (4.3)	4.1 (4.2)	4.2 (4.2)	4.3 (4.2)
設問 4	4.3 (4.3)	4.4 (4.4)	4.3 (4.3)	4.2 (4.3)	4.3 (4.3)	4.3 (4.2)
設問 5	4.1 (4.1)	4.3 (4.2)	4.1 (4.1)	3.9 (4.0)	4.0 (4.1)	4.1 (3.9)
設問 6	4.0 (3.9)	4.2 (4.1)	4.0 (4.0)	3.8 (3.9)	3.9 (3.9)	4.0 (3.8)
設問 7	4.0 (4.0)	4.3 (4.1)	4.0 (4.0)	3.8 (3.9)	3.9 (4.0)	4.0 (3.9)
設問 8	4.1 (4.1)	4.2 (4.1)	4.1 (4.0)	3.9 (4.0)	4.0 (4.1)	4.2 (4.0)
設問 9	4.0 (4.0)	4.2 (4.1)	4.1 (4.1)	3.9 (4.0)	4.0 (4.0)	4.0 (3.9)
設問 10	4.1 (4.1)	4.2 (4.1)	4.1 (4.1)	3.9 (4.0)	4.0 (4.1)	4.1 (4.0)

（出典　平成 27 年度　授業アンケート結果報告書）

資料２－４－②－（１）－１

「事務組織図」



（出典　苫小牧工業高等専門学校要覧２０１９より）

資料２－４－②－（１）－２

「事務組織の配置を示す規程」
苫小牧工業高等専門学校事務組織規程

規則第76号
制　　定　平成21年４月１日
一部改正　平成23年６月14日
一部改正　平成27年３月30日

（趣旨）

第１条　この規程は，苫小牧工業高等専門学校学則第11条に定める苫小牧工業高等専門学校事務部の組織について定めるものとする。

（事務部）

第２条　事務部に，次の課を置く。

総務課
学生課

（総務課）

第３条　総務課に，次の係を置く。

総務係
人事係
企画調査係
財務係
調達係
施設管理係

（学生課）

第４条　学生課に，次の係を置く。

教務係
学生係
寮務係
図書係

（事務部長）

第７条　事務部に，事務部長を置く。

２　事務部長は，校長の命を受け，事務部の事務を総括する。

（課長）

第８条　課に課長を置く。

３　課長は，上司の命を受け，課の事務を総括する。

（次ページに続く）

資料２－４－②－（１）－２（続き）

「事務組織の配置を示す規程」

（課長補佐）

第９条　課に，課長補佐を置く。

２　課長補佐は，上司の命を受け，課長を補佐し，次項から第５項までに定めるところにより課の事務を掌理する。

３　総務課課長補佐（総務担当）は，次の係の事務を調整する。

総務係
人事係
企画調査係

４　総務課課長補佐（財務担当）は，次の係の事務を調整する。

財務係
調達係
施設管理係

５　学生課課長補佐は，次の係の事務を調整する。

教務係
学生係
寮務係
図書係

（係長）

第10条　係に係長を置く。

２　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。

（専門職員及び主任）

第11条　課に専門職員を，係に主任を置くことができる。

２　専門職員は，上司の命を受け，専門的知識または経験を必要とする特定または一定範囲の事項の事務を処理する。

３　主任は，上司の命を受け，係長を補佐し，係の事務のうち特定の事項を処理する。

（雑則）

第12条　この規程の運用に関し必要な事項については，別に定める。

附　則

１　この規程は，平成21年４月１日から施行する。

２　苫小牧工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程（平成４年４月１日制定）は廃止する。

附　則

この規程は，平成23年６月14日から施行する。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校事務組織規程）

資料２－４－②－（１）－３

「事務組織の所掌事務を示す規程」
苫小牧工業高等専門学校事務分掌規程

規則第77号
制　　定　平成21年４月１日
一部改正　平成23年６月14日
一部改正　平成26年９月１日
一部改正　平成28年２月23日
一部改正　平成28年10月12日

（趣旨）

第１条　この規程は，苫小牧工業高等専門学校事務組織規程第 11 条に基づき，苫小牧工業高等専門学校事務部の所掌事務について定める。

（定義）

第２条　この規程において，学生課所属職員等とは，学生課所属職員，非常勤講師，学校医，学校歯科医，学校薬剤師及びカウンセラーをいう。

（総務課課長補佐）

第３条　総務課課長補佐（総務担当）は，次の事務を分掌する。

一　総務課の所掌事務のうち，総務に関する事務の総括及び連絡調整すること。
二　その他上司の命を受けた総務に関する専門的事項に係る事務を処理すること。

第４条　総務課課長補佐（財務担当）は，次の事務を分掌する。

一　総務課の所掌事務のうち，財務に関する事務の総括及び連絡調整すること。
二　会計機関の公印の管守に関すること。
三　会計経理の監査及び検査に関すること。
四　その他上司の命を受けた財務に関する専門的事項に係る事務を処理すること。

（総務係）

第５条　総務係は，次の事務を分掌する。

一　事務部所掌事務の連絡調整に関すること。
二　秘書事務に関すること。
三　儀式その他諸行事に関すること。
四　会議に関すること。
五　渉外に関すること。
六　学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
七　公印の管守に関すること（会計機関及び学生課所掌の公印を除く。）。
八　公文書類の接受，発送及び審査に関すること。
九　法人文書の維持管理に関すること。
十　組織の整備に関すること。
十一　危機管理に関すること。
十二　国際交流に関すること。

（次ページに続く）

十三　広報に関すること。
十四　情報公開に関すること（入学者選抜に係る入試成績の簡易開示に関するものを除く。）。
十五　個人情報の保護に関すること。
十六　教職員の出張に関すること。
十七　ホームページの管理に関すること。
十八　事務情報管理及び情報化推進に関すること。
十九　機構総合データベースの利用に関すること。
二十　校史編集のための資料収集及び保存に関すること。
二十一　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
二十二　その他他係等の所掌に属しない事務に関すること。

（人事係）

第６条　人事係は，次の事務を分掌する。
一　教職員の任免，分限，懲戒及び服務に関すること。
二　教職員の給与に関すること。
三　教職員の労働時間及び休暇に関すること。
四　教職員の研修及び勤務評定に関すること。
五　教職員の安全衛生及び福祉に関すること。
六　教職員の災害補償に関すること。
七　教職員の栄典，表彰及び顕彰に関すること。
八　教職員の人事記録に関すること。
九　教職員の共済組合に関すること。
十　教職員の退職手当に関すること。
十一　労働組合に関すること。
十二　教職員の倫理に関すること。
十三　ハラスメントの防止に関すること。
十四　男女共同参画に関すること。
十五　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十六　その他人事に関すること。

（企画調査係）

第７条　企画調査係は，次の事務を分掌する。
一　中期目標，中期計画及び年度計画に関すること。
二　自己点検・評価及び外部評価に関すること。
三　学術助成及び研究協力に関すること。
四　受託研究及び共同研究の受入の決定及び契約に関すること。
五　寄附金の受入の決定に関すること。

（次ページに続く）

六　科学研究費等の申請及び報告に関すること。
七　地域との連携に関すること。
八　知的財産（発明・特許）に関すること。
九　日本技術者教育認定に関すること。
十　機関別認証評価に関すること。
十一　将来構想に関すること。
十二　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十三　その他企画調査に関すること。

（財務係）

第８条　財務係は，次の事務を分掌する。
一　予算及び決算に関すること。
二　財務関係伝票等の監査及び照査に関すること。
三　旅費，諸謝金及び退職手当の経理及び支払に関すること。
四　入札の立会に関すること。
五　債権の管理に関すること。
六　収入及び支出に関すること。
七　現金及び預金通帳等の保管に関すること。
八　科学研究費等外部資金の経理に関すること。
九　金庫の管守に関すること。
十　預り金に関すること。
十一　会計に関する諸規程等に関すること。
十二　計算証明に関すること。
十三　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十四　その他他係等の所掌に属しない財務に係る事項に関すること。
十五　その他財務に関すること。

（調達係）

第９条　調達係は，次の事務を分掌する。
一　物品の管理に関すること。
二　物品の購入，修繕及び役務等の契約に関すること。
三　物品及び役務の検収に関すること。
四　物品の寄附採納に関すること（図書係の所掌に属するものを除く。）。
五　物品の管理換及び供用換並びに分類換に関すること。
六　物品の不用決定及び処分に関すること。
七　物品の管理関係諸帳簿記帳に関すること（薬品管理を含む。）。

（次ページに続く）

八　支出契約決議及び支払決議に関すること。
九　光熱水料及び電話料の経理に関すること。
十　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十一　その他財務に調達に関すること。

（施設管理係）

第１０条　施設管理係は，次の事務を分掌する。
一　施設整備費及び営繕関係費の要求に関すること。
二　施設の整備計画，環境整備及び保全に関すること。
三　営繕工事の企画及び設計に関すること。
四　営繕工事等の契約及び施工に関すること。
五　教職員の安全管理に関すること。
六　支出契約決議及び支払決議に関すること。
七　電気，水道，ガス，電話，暖房等付帯設備の維持管理，修繕及び役務等の契約に関すること。
八　不動産の維持管理に関すること。
九　土地及び建物の貸付並びに借入に関すること。
十　教職員宿舎に関すること。
十一　警備に関すること。
十二　防災に関すること。
十三　自動車の運行及び管理に関すること。
十四　構内外の清掃，衛生及びその他労務作業に関すること。
十五　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十六　その他施設管理に関すること。

（学生課課長補佐）

第１１条　学生課課長補佐は，次の事務を分掌する。
一　学生課の所掌事務の総括及び連絡調整すること。
二　その他上司の命を受けた専門的事項に係る事務を処理すること。

（教務係）

第１２条　教務係は，次の事務を分掌する。
一　入学者の選抜に関すること。
二　学生の異動に関すること。
三　学生の修学指導に関すること。
四　教育課程の編成及び授業に関すること。
五　学生の試験に関すること。

（次ページに続く）

六　学生の誓約書，学生調査書等の整理及び保管に関すること。
七　学生の学業成績の記録及び整理に関すること。
八　学生指導要録の記録，整理及び保管に関すること。
九　学生の諸証明に関すること。
十　学生の欠席，遅刻，早退，欠課及び忌引等に関すること。
十一　教科書及び教材に関すること。
十二　教室及び教具に関すること。
十三　学生の学外実習及び工場見学等に関すること。
十四　行事予定表に関すること。
十五　学生の進級，卒業及び修了に関すること。
十六　研究生，科目等履修生及び特別聴講学生に関すること。
十七　学生課に属する公印の管守に関すること。
十八　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十九　その他学生課の所掌事務のうち，他係等の所掌に属しない事務に関すること。

（学生係）

第１３条　学生係は，次の事務を分掌する。
一　学生の課外活動及びオリエンテーションに関すること。
二　課外活動施設，福利施設及び保健室の管理運営に関すること。
三　学生の保健管理に関すること。
四　学生の集会，行事及び施設・設備等の使用に関すること。
五　学生の文書等の配布及び掲示等に関すること。
六　学生に対する奨学金に関すること。
七　入学料，授業料の免除及び徴収猶予に関すること。
八　学生の傷害保険に関すること。
九　学生旅客運賃割引証及び通学証明に関すること。
十　キャリア教育センターの事務に関すること。
十一　学生の就職及び進学に関すること。
十二　学生の表彰及び懲戒に関すること。
十三　学生相談室の事務に関すること。
十四　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十五　その他学生に関すること。

（寮務係）

第１４条　寮務係は，次の事務を分掌する。
一　学生の入寮及び退寮に関すること。

（次ページに続く）

資料２－４－②－（１）－３（続き）

二　寮生の保健衛生及び防災安全に関すること。
三　寮生の給食及び栄養管理に関すること。
四　寄宿舎の施設，設備等の使用及び集会，行事等に関すること。
五　寄宿舎における郵便物等の収受，配布及び掲示等に関すること。
六　寄宿料の免除及び徴収猶予に関すること。
七　寮費の徴収及び予算決算に関すること。
八　寮費による物品の購入，検収，保管及び支払に関すること。
九　寄宿舎における教員の宿日直に関すること。
十　外国人留学生に関すること。
十一　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十二　その他寮務に関すること。

（図書係）

第15条　図書係は，次の事務を分掌する。
一　図書資料の受入れ，整理及び保存等に関すること。
二　図書資料の閲覧，貸出し等利用に関すること。
三　図書資料の分類及び目録作成に関すること。
四　図書資料の購入契約に関すること。
五　図書資料の寄附採納に関すること。
六　学術文献の収集及び提供に関すること。
七　紀要に関すること。
八　校内刊行物の保存に関すること。
九　図書館相互協力に関すること。
十　学術情報センター（情報処理施設に関することを除く。）に関すること。
十一　所掌事務に係る調査，統計及び報告に関すること。
十二　その他図書に関すること。

附　則

この規程は，平成26年９月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成28年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成28年10月12日から施行し，平成28年10月１日から適用する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校事務分掌規程）

資料２－４－②－（１）－４

「技術教育支援センターの組織を示す規程」
苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター規程

規則第74号
制　　定　平成21年２月　１日
一部改正　平成28年２月23日

（趣旨）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第12条第１項及び苫小牧工業高等専門学校学則第12条に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは，本校の教育研究活動等に対し，支援業務を組織的かつ効率的に行うとともにセンターに所属する職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究活動等の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

（組織）

第３条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。
一　センター長
二　技術長
三　副技術長
四　グループ長
五　技術専門職員
六　技術職員
２　センターに技術専門員を置くことができる。
３　センターに次のグループを置く。
一　総務企画グループ
二　教育研究支援グループ
三　共同利用施設支援グループ

（センター長）

第４条　センター長は，本校の専任教員の教授の中から校長が任命する。
２　センター長は，センターの業務を掌理する。

（技術長）

第５条　技術長は，上司の命を受け，技術専門員，技術専門職員及び技術職員の業務を統括する。

（副技術長）

第６条　副技術長は，技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

（次ページに続く）

資料２－４－②－（１）－４（続き）

２　副技術長は，上司の命を受け，グループの業務を総括するとともに，技術長の業務を補佐する。

（グループ長）

第７条　グループ長は，技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
２　グループ長は，上司の命を受け，各グループの業務を総括する。

（技術専門員）

第８条　技術専門員は，上司の命を受け，極めて高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の業務を処理する。

（技術専門職員）

第９条　技術専門職員は，上司の命を受け，高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の業務を処理する。

（技術職員）

第10条　技術職員は，上司の命を受け，センターの業務を処理する。

（グループ長連絡会）

第11条　センターに，グループ長連絡会（以下「連絡会」という。）を置き，必要に応じて開催するものとする。
２　連絡会は，技術長，副技術長及び各グループ長で組織する。ただし，必要に応じて，その他センターに所属する職員を出席させることができる。
３　連絡会は，次の事項について協議等を行う。
一　センターの業務予定及び計画等に関すること。
二　各グループ間における業務調整に関すること。
三　技術職員間の業務確認並びに情報の共有に関すること。
四　その他必要とされる事項
４　連絡会に議長を置き，技術長をもって充てる。

（研修）

第12条　センター長は，センターに所属する職員の研修に努めるものとする。
２　研修は，職務遂行に必要な知識及び技術等を修得させ，センターに所属する職員の能力及び資質等を向上させる内容のものとする。

（センター運営委員会）

第13条　センターの運営及び業務を円滑に行うため，苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は，別に定める。

（次ページに続く）

資料２－４－②－（１）－４（続き）

（その他）

第14条　その他センターに関し必要な事項は，別に定める。

附　則

１　この規程は，平成21年２月１日から施行する。
２　苫小牧工業高等専門学校技術室運用要項（平成10年４月１日施行）は廃止する。

附　則

この規程は，平成28年４月１日から施行する。

（出典：苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター規程）

資料２－４－②－（１）－５

「技術教育支援センターの所掌業務を示す規程」

苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター業務分掌規程

規則第73号

制　　定　平成21年２月１日

一部改正　平成28年２月23日

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規程は，苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター規程第 14 条に基づき，苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター（以下「センター」という。）の業務分掌について定める。

第２章　業務分掌

（センター及び職員の業務）

第２条　センター及びセンターに所属する職員は，次に掲げる業務を処理する。

一　学生の実験・実習に対する技術支援に関すること。

二　卒業研究・特別研究等に対する技術支援に関すること。

三　教育教材作成の技術支援に関すること。

四　教員の教育研究活動への技術支援に関すること。

五　実験室等の共通利用機器等の保守・管理等における技術支援に関すること。

六　情報処理施設における技術支援に関すること。

七　実習工場施設・設備における技術支援に関すること。

八　公開講座・出前授業・技術相談・地域貢献等における技術支援及び技術協力に関すること。

九　技術の継承及び保存，技術向上並びに技術教育支援のための技術研修に関すること。

十　その他センターの目的達成のために必要な事項に関すること。

（総務企画グループの業務）

第３条　総務企画グループは，前条各号に掲げる業務のほか，特に次に掲げる業務を処理する。

一　センター予算に関すること。

二　センター運営委員会及びグループ長連絡会の庶務に関すること。

三　センター所属職員の労働時間管理等に関すること。

四　技術の継承及び保存，技術向上並びに技術教育支援のための技術研修に関すること。

五　その他センターの運営に関すること。

（次ページに続く）

資料２－４－②－（１）－５（続き）

（教育研究支援グループの業務）

第４条　教育研究支援グループは，第２条各号に掲げる業務のほか，特に次に掲げる業務を処理する。

一　教育・研究に対する年間技術支援計画の策定に関すること。

二　学校行事・学生会行事・学生の課外活動への技術支援に関すること。

三　公開講座・出前授業・技術相談・地域貢献等における技術支援及び技術協力の計画に関すること。

四　その他教育研究支援の計画に関すること。

（共同利用施設支援グループの業務）

第５条　共同利用施設支援グループは，第２条各号に掲げる業務のほか，特に次に掲げる業務を処理する。

一　情報処理施設の管理運営等に関すること。

二　実習工場施設・設備の管理運営等に関すること。

三　その他共同利用施設支援の計画に関すること。

附　則

この規程は，平成21年２月１日から施行する。

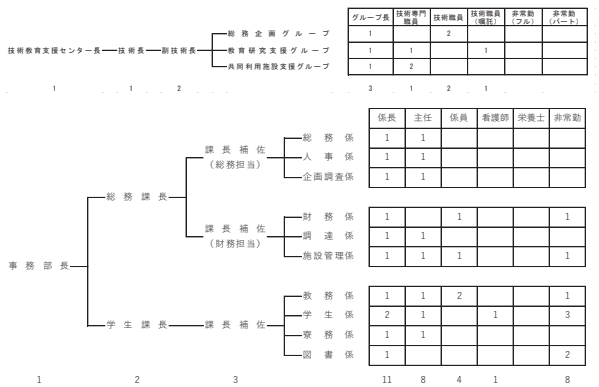
附　則

この規程は，平成 28 年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター業務分掌規程）

資料２－４－②－（１）－６

「教育支援者等の配置を示す組織図」



（出典　「苫小牧工業高等専門学校定員現員表事務部（事務部＋技術教育支援センター）」及び「苫小牧高専組織図」を基に作成）

資料２－４－③－（１）－１

「技術教育支援センターのFD活動の実施状況一覧」

平成 30 年度　技術職員研修・出張状況

月　日	研修・出張先	参　加　者		頁
5月22日(火) ～23日(水)	2018NEW 環境展 (東京)	岸本　亮太		9
7月5日(木) ～6日(金)	セルロース学会第25回年次大会 (京都大学)	岸本　亮太		10
7月5日(木) ～6日(金)	コンクリート工学年次大会 2018 (神戸)	土門　寛幸		11
8月20日(月) ～22日(水)	平成30年度全国高専フォーラム (名古屋大学)	佐藤　悦教		15
8月25日(土) ～9月8日(土)	平成30年度 三機関連携グローバル SD 研修(マレーシア・ペナン)	岸本　亮太		17
8月29日(水) ～30日(木)	土木学会年次学術講演会 (北海道大学)	土門　寛幸		19
8月29日(水) ～31日(金)	平成 30 年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(長岡技術科学大学)	菅原　啓太		20
9月5日(水) ～7日(金)	平成30年度 IT 人材育成研修会 (東京)	佐藤　悦教		21
9月14日(金)	第 50 回日本経営診断学会北海道部会研究発表会(小樽商科大学札幌サテライト)	菅原　啓太		22
9月19日(水) ～20日(木)	Solidworks　simulation 技術セミナー (苫小牧高専)	センター職員８名		23
9月21日(金)	平成30年度技術教育支援センター講演会 (苫小牧高専)	センター職員９名		24
10月5日(金) ～7日(日)	第 51 回日本経営診断学会全国大会 (中村学園大学)	菅原　啓太		25
10月8日(月)	科学のとびら－苫小牧高専実験教室－ (苫小牧)	栗山　研室 土門　寛幸	佐藤　悦教 岸本　亮太	26
10月26日(金) ～29日(月)	第 29 回プログラミングコンテスト視察 (鈴鹿)	佐藤　悦教		28
11月2日(金) ～3日(土)	平成 30 年度　日本セラミックス協会東北北海道支部研究発表会(日本大学)	照井　文哉		29
11月8日(木) ～9日(金)	第 27 回　プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム(愛媛)	土門　寛幸		30
11月9日(金)	ビジネス EXPO (札幌)	菅原　啓太		31
11月14日(水) ～16日(金)	平成 30 年度高等専門学校機構情報担当者研修会(東京)	佐藤　悦教		32
11月30日(金)	苫小牧高専地域連携シンポジウム 2018 (苫小牧)	センター職員５名		34
1月24日(木)	第 53 回（2018 年度）高分子学会北海道支部研究発表会(千歳科学技術大学)	岸本　亮太		35
2月1日(金)	5 軸加工機セミナ (札幌)	菅原　啓太		36

-終-

（次ページに続く）

資料２－４－③－（１）－１（続き）

「技術教育支援センターの FD 活動の実施状況一覧」

月　日	研修・出張先	参　加　者		頁
2 月 15 日(金) ～16 日(土)	英語コミュニケーション研修 (北海道大学)	郡　貴志	岸本　亮太	37
3 月 2 日(土)	日本機械学会北海道学生会　第 48 回学生員卒業研究発表講演会(北見工大)	藤武　栄治	菅原　啓太	39
3 月 4 日(月) ～5 日(火)	第 10 回高専技術教育研究発表会 in 木更津 (木更津高専)	菅原　啓太		40
3 月 12 日(火)	平成 30 年度 北海道地区 4 高専連携による技術職員 SD 研修会(釧路高専)	藤武　栄治 岸本　亮太	高橋　正一	41

（出典　技術教育支援センター報告集　第 11 版）

資料２－４－③－（１）－２

「事務職員の研修等の参加状況一覧」

No	開催日			実施機関	件　名	受講者等
1	H30.5.24			人事院	平成30年度北海道地区メンター養成研修の研修員推薦について	築田星子
2	H30.5.30	～	6.1	高専機構	平成30年度国立高等専門学校機構初任職員研修会の開催について	澤田恭成
3	H30.6.20			人事院	平成30年度北海道地区ハラスメント防止研修者指導養成コースの研修員推薦について	森博和
4	H30.11.20	～	11.22	旭川高専	平成30年度北海道地区国立高等専門学校事務職員合同研修の実施について	大西，本田，三國谷，小幡
5	H30.8.1	～	8.2	人事院	平成３０年度勤務時間・休暇制度説明会及び両立支援制度説明会の開催について	酒井俊輔、築田星子
6	H30.8.23	～	8.24	北海道地区大学学生指導協議会	平成３０年度北海道地区学生指導研修会の実施について	村田雅彦
7	H30.8.28	～	8.30	人事院	平成３０年度給与実務初任者等研修会の開催について	築田星子
8	H30.8.29	～	8.31	北大	平成３０年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修	三國谷理恵
9	H30.9.5			人事院	平成３０年度「服務・懲戒制度説明会」	築田星子
10	H30.11.26	～	11.27	北大	平成３０年度北海道地区大学ＳＤ研修「大学職員セミナー」	小田涼太
11	H30.12.13	～	12.14	北大	平成３０年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員ＳＤ研修	後藤悠介

（出典　総務課資料「研修一覧目次」を基に作成）

資料２－４－③－（１）－３

「教育支援者等の科研費申請状況一覧」

整理番	研究種	所属	研究代表者	研究者番	研究課題	申請	申請Ｒ	配分	配分Ｒ	備　考
1	奨励	技術教育支援センター	岩橋　優		３Ｄプリンタによる造型の消失模型を活用したフルモールド鋳造法の検討	970	970		0	
2	奨励	技術教育支援センター	菅原　啓太		５軸ＭＣを活用したカムシャフトの製作によるＣＡＤ実習の教育改善に関する研究	947	947		0	
3	奨励	学生課	津原　弘美		学校における感染予防：手洗い意識向上に向けた集団指導とその効果	800	800		0	
H27計	基盤Ａ0件, 基盤Ｂ1件, 基盤Ｃ7件, 萌芽2件, 若手A0件, 若手B1件, 若手C0件, 奨励3件　計42件					2,717	0	0	0	
1	奨励	技術教育支援センター	菅原　啓太		３Ｄスキャナと５軸ＭＣを活用したリバースエンジニアリング教育に関する研究	710	710		0	
2	奨励	技術教育支援センター	土門　寛幸		縮尺鉄筋を用いた模型製作における適切な研磨手法の開発	1,000	1,000	550	550	
3	奨励	技術教育支援センター	藤川　昇		スローアウェイ超鋼バイトホルダに対応した脱着用切削抵抗測定実験装置の改良	939	939		0	
H28計	基盤Ａ0件, 基盤Ｂ0件, 基盤Ｃ13件, 萌芽2件, 若手A0件, 若手B1件, 若手C0件, 奨励3件　計48件					2,649	2,649	550	550	
1	奨励	技術教育支援センター	菅原　啓太		５軸加工機を用いた実践的ＣＡＤ/ＣＡＭ教育マニュアルの作成	870	870		0	
2	奨励	技術教育支援センター	土門　寛幸		プレストレストコンクリートの模型はり作製を通した教育手法の開発	1,000	1,000		0	
3	奨励	技術教育支援センター	藤川　昇		生産加工実習における精密旋盤およびＣＮＣ旋盤を体得した工作機械等の比較について	986	986		0	
H29計	基盤Ａ1件, 基盤Ｂ0件, 基盤Ｃ16件, 開拓1件, 萌芽1件, 若手A0件, 若手B0件, 若手C0件, 奨励3件　計41件					2,856	0	0	0	
002006	奨励	技術教育支援センター	菅原　啓太		電動アシスト付小型車両の製作実習に関する研究	995	995	530	530	
002043	奨励	技術教育支援センター	土門　寛幸		プレストレストコンクリート模型製作を導入した授業方法の構築	1,000	1,000		0	
002102	奨励	技術教育支援センター	岸本　亮太		吸水性樹脂を担体とする土壌中重金属簡易検出剤の開発	910	910		0	
002400	奨励	技術教育支援センター	藤川　昇		スローアウェイ超鋼バイトホルダに対応した脱着用切削抵抗測定実験装置の改良	940	940		0	
H30計	基盤Ａ0件, 基盤Ｂ3件, 基盤Ｃ2件, 開拓0件, 萌芽0件, 若手A0件, 若手B0件, 若手C0件, 奨励4件, 研究活動スタート支援2件,　計58件					3,845	3,845	530	530	

（出典　総務資料「科研費応募・採択状況一覧」から抽出）

資料３－１－①－（３）

「運動場の設置状況」

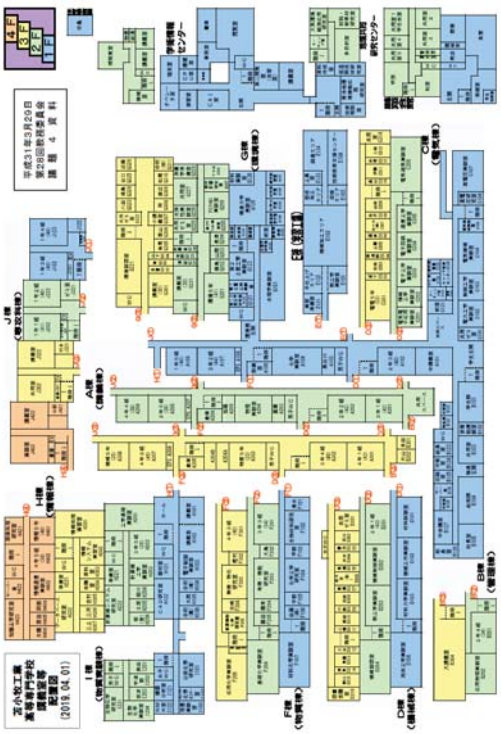


（出典　毎年度当初に高専機構本部に提出している苫混み赤穂標高等専門学校配置図）

1

資料３－１－①－（４）

「専用の施設の配置状況」

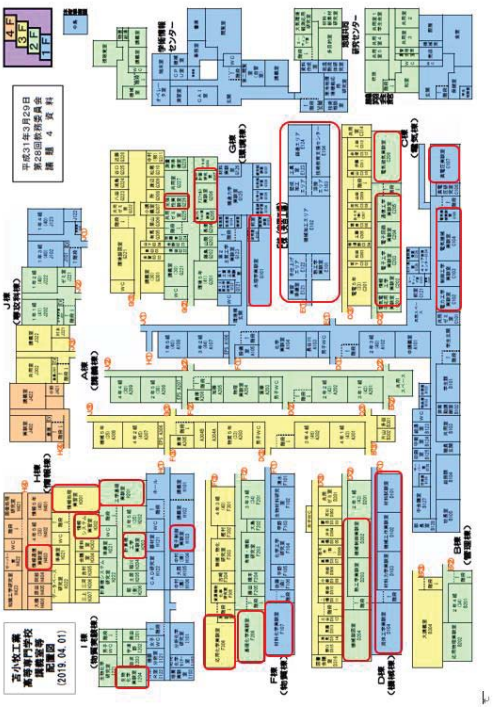


（出典　平成３０年度２８回教務委員会資料）

2

資料３－１－①－（５）

「付属施設の設置状況」



赤で囲った部分が実験室及び実習工場

（出典　平成３０年度第２８回教務委員会資料）

3

資料３－１－①－（５）（続き）



実習工場の風景

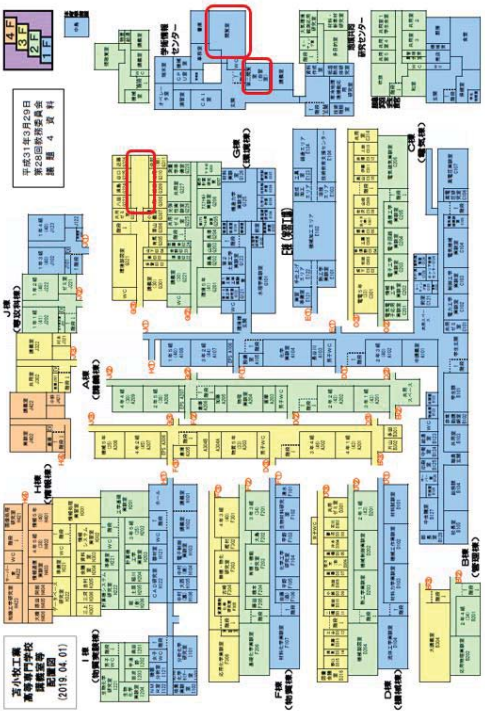


F棟３階実験室の風景

4

資料３－１－①－（６）

「自主的学習スペース」



配置図中の赤で囲んだエリアが自学的自習スペース

（出典　平成３０年度第２８回教務委員会資料）

資料３－１－①－（６）（続き）



図書館の自学自習スペース



図書館の閲覧室

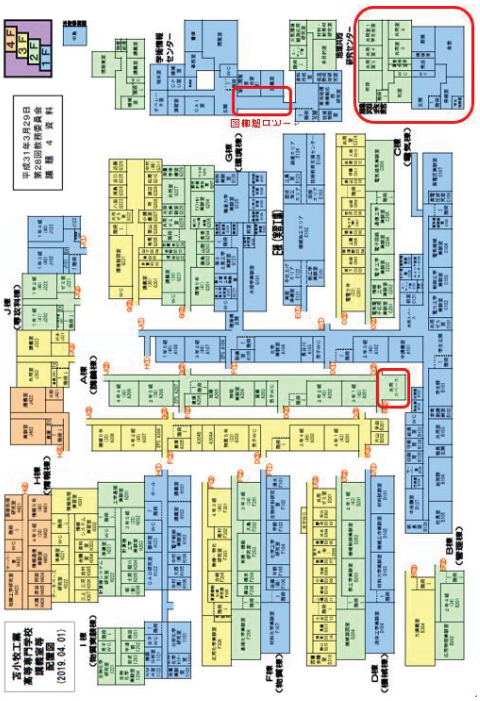
資料３－１－①－（６）（続き）



G棟３階の自学自習スペース

資料３－１－①－（７）－１

「厚生施設（鵬翔会館），コミュニケーションスペース（図書館ロビー・コミュニケーションスペース）」



配置図中の赤で囲んだエリアが厚生施設及びコミュニケーションスペース

（出典　平成３０年度第２８回教務委員会資料）

資料３－１－①－（７）－１（続き）



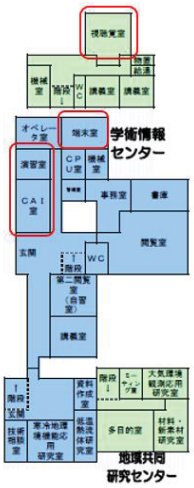
図書館ロビー



C棟２階共用スペース

資料３－１－①－（７）－２

「ICT 環境の充実」



配置図中の赤で囲んだエリアがICT環境の充実した施設

（出典　平成３０年度第２８回教務委員会資料抜粋）

資料３－１－①－（７）－２（続き）

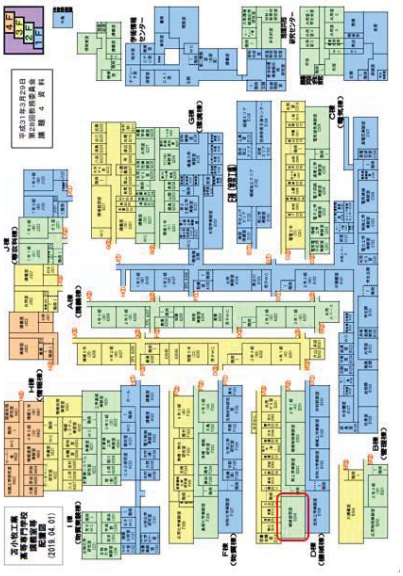


CAI 室の風景



演習室の風景

資料３－１－①－（７）－２（続き）



配置図中の赤で囲んだエリアがICT環境を充実した施設（CAD室）

（出典　平成３０年度第２８回教務委員会資料）

資料３－１－①－（７）－２（続き）



タブレットの保管状況（教務係が管理）

資料３－１－①－（７）－２（続き）



ChromeBookの保管状況（教務係が管理）

資料３－１－①－（８）－１

「苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程

規則第108号
制　　定　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月28日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の総務に関する事項を審議するため，総務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　将来計画に関する事項
二　広報活動に関する事項
三　ホームページの管理に関する事項
四　外国の機関との学術交流及び学生交流に関する事項
五　自己点検及び評価に関する事項
六　施設の整備計画及び環境整備に関すること
七　防災計画及び防災訓練の企画立案に関すること
八　その他総務に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（総務主事）
二　総務主事補
三　事務部長
四　総務課長
五　学生課長
六　その他校長が指名した者

（任期）
第４条　前条第六号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

資料３－１－①－（８）－１（続き）

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，副校長（総務主事）をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長が不在のときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（定足数）
第６条　委員会の開催は，委員の５分の３以上の出席を必要とする。

（委員以外の者の出席）
第７条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。

（部会）
第８条　委員長は，第２条に関する特定事項を検討するため，必要に応じ委員会に部会を置くことができる。
２　部会に部会長を置き，委員のうちから委員長が指名する。
３　部会は本校の教職員のうちから委員長が指名する者をもって組織する。
４　部会長は，検討結果を委員長に報告するものとする。
５　部会に関し，必要な事項は，委員長が別に定める。

（報告）
第９条　委員長は，委員会の審議の結果を校長に報告する。

（委員会の事務）
第10条　委員会の事務は，総務課において処理する。

（雑則）
第11条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
１　この規程は，平成27年４月１日から施行する。
２　苫小牧工業高等専門学校企画広報委員会規程（昭和44年11月25日施行）及び苫小牧工業高等専門学校点検評価委員会規程（平成13年４月１日施行）は廃止する。

附　則
この規程は，平成28年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程）

資料３－１－①－（８）－２

「苫小牧工業高等専門学校安全衛生委員会規則」

苫小牧工業高等専門学校安全衛生委員会規則

規則第46号
制　　定　平成18年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成27年３月10日

（趣旨）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則第13条の規定に基づき，苫小牧工業高等専門学校安全衛生委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　委員会は，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則第13条第２項各号及び第３項各号に掲げる事項を調査審議する。

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

一　副校長（総務主事）
二　総務課長
三　衛生管理者
四　安全管理者
五　衛生管理担当者
六　安全管理担当者
七　産業医
八　安全衛生に関し経験を有するもののうちから校長が指名した者

２　前項第一号の委員以外の委員の半数については，苫小牧工業高等専門学校の教職員の過半数で組織する労働組合があるときにおいてはその労働組合，教職員の過半数で組織する労働組合がないときにおいては教職員の過半数を代表する者の推薦に基づき，校長が指名する。

（略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校安全委衛生委員会規程）

資料３－１－①－（８）－３

「安全管理マニュアル等、実験実習工場での安全管理」

第１部　共通的注意事項

I.　一般的注意事項

- □ 規則を守り、指導者の注意に従う。
- □ 実験は心身ともに健康な状態で行う。
- □ 実験室では実験に適した服装、履物を着用する。
- □ 長髪者は帽子を着用し、頭髪がある程度以上長い場合は、束ねるなどして、危険のないようにする。
- □ 常に整理整頓をこころがける。
- □ 地震や火災に備えて避難経路、非常口、避難場所を確認しておく。
- □ 実験ノートなど重要な記録は実験室に放置せず夜は持ち帰る。
- □ 帰宅するときは、終夜運転機器以外の電源は切る。
- □ 廃棄物、廃薬品、廃液は規則に従い、適切に分類して排出する。
- □ 危険な「たこ足配線」をしない。
- □ 暖房器具は耐震性等問題のない器具を使用し、周囲に可燃物を置かない。
- □ 地震に備え棚や大型設備は丈夫な壁や床に固定する。
- □ 電気系統の配線には、使用電力量と配線やタップの耐電容量の大小をよく検討し、過熱、漏電が起きないように注意する。
- □ 消火器、火災報知器、消火栓、緊急シャワー等の設置場所、動作を確認しておくと共に付近に物を置かない。
- □ 避難通路は２方向を確保し、通路、階段を物品等でふさがない。

II.　緊急時の対応

II-1．対応の基本

以下の順序で対応する。事故が発生した場合でも、実験室内や廊下を走らない。

身の安全を確保する　→　通報する　→　消火、救助等の対処をする。

II-2．火災時の対応

- □ 火災を発見した場合は、自分だけで始末しようと考えず、まず大声で「火事だ」と周辺の人に知らせる。
- □ 衣服に火が着いたときは走ってはいけない。床に転がり周囲の者が消火器や水で消す。近くにシャワーがあれば浴びる。
- □ 瞬時に爆発の危険がないと判断される場合は、ガスの元栓を閉じ、使用機器

（以下，省略）

資料３－１－①－（８）－３（続き）

Ⅳ実験研究の注意事項

Ⅳ-1．安全管理の基本

- □ 関連法規及び作業資格を調査し、その規則に忠実に従う。
- □ 使用する物質や装置の危険性とその程度を知る。法規制についてもチェックする。この際、化学物質安全データシート（MSDS(Material Safety Data Sheets)）を活用する。MSDS は物質の製造元や販売業者等から入手できる。インターネットでは、例えば http://www.siyaku.com/ で入手可能。
- □ 毒性、可燃性、爆発性等の危険性が高い物質は、危険性の低い代替物の使用も検討する。
- □ 十分な安全対策を実行した上で実験・作業を実施する。
- □ 使用する装置、計器、工具等は、必要に応じて定期点検を行い、作業前後の点検を励行する。

Ⅳ-2．実験時の注意事項

- □ 実験に適した衣服及び低い踵の靴を着用する。
- □ 保護眼鏡などの保護具を実験の状況に応じて適切なものを使用する。
- □ 実験室内では飲食をしない。
- □ 真摯な態度で実験に臨む。
- □ 実験装置、計器などの正しい取扱い方法をよく理解して実験をする。
- □ わからないことは、小さいことでも尋ねる。
- □ 実験室内は常に整理整頓に努める。
- □ 関係以外の実験装置や器具などに触れない。
- □ 実験台の上に多数の薬品を放置しない。
- □ 床に薬品入り容器を放置しない。
- □ 実験室を離れるときにもう一度ふりかえり、実験室内に異常がないか確かめる。
- □ 危険・有害性の高い作業は、原則として、休日及び深夜に行わない。また、一人ではなく複数で行う。
- □ 万一の事故が起きたときに備えて、あらかじめ非常口の場所、消火器の置き場所、種類、使い方等事故対策の方法を知っておく。
- □ 不在時に無人運転機器がある場合は、漏水防止等の必要な安全措置をとり、緊急時の連絡先を部屋の入口等見やすい場所に掲示する。

Ⅳ-3．危険物質

＊　主要な危険性物質は、以下に挙げるものである。これらの物質の多くは、取扱いや貯蔵において法的な規制を受ける。法規に定められていなくても、これらと同程度

（以下，省略）

（出典　安全管理マニュアルー実験・実習を安全に行うためにーより抜粋）

資料３－１－①－（８）－４

「各実験実習工場に緊急連絡先」

緊急連絡先（応用化学・生物系）

平成28年11月29日

火災の場合	消防署	5＋119
事故・ケガの場合	保健室	8908
施設・設備に関する事	総務課 施設管理係	8904
その他，学生に関する事	学生課 学生係	2055

夜間・休日の時	警備員室	2013
警備員巡回時間	平日	土・日・祝日
	20:00～	10:00～
	22:00～	15:00～
	6:30～	20:00～
		6:30～

AED設置場所	鵬翔会館	保健室：8908
	体育館入口	体育館教員室：8051
	蒼翼寮玄関	蒼翼寮：2061
	学生玄関	学生係：2055

教員名	内線番号	備考
清水	8941	
橋本	8044	
古崎	8043	
平野	8037	
岩波	8942	
奥田	8039	
佐藤	8040	
大島	8041	
甲野	8036	
宇津野	8045	
櫻村	8054	
藤田	8038	
照井	8025	
岸本	8025	

（出典　緊急連絡先（応用化学・生物系））

資料３－１－①－（９）－１

「安全衛生委員会活動計画および活動報告（抜粋）」

平成30年３月20日
安全衛生委員会資料１

安全衛生委員会
活動計画および活動結果重点検討（平成26年度～平成30年度）

	平成29年度		
	活動計画	活動結果	申し送り事項
１　中期目標・中期計画に係る計画			
（関係する中期計画の文言が入る。ただし、すべては空欄の未定）			
２　定常的業務に係る計画			
・教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する事項	(1)北海道地区国立学校等安全管理協議会に委員を派遣し、得られた知見を教職員に周知し、教職員の安全確保に努める。 (2)本年度は外部講師による安全衛生教育等に関する講習会等を実施する。 (3)ストレスチェック制度を機構規則及び関係法令等に基づき適切に実施する。	(1)10月27日に開催した北海道地区国立学校等安全管理協議会に委員を派遣し、情報収集を行った。 (2)学校長を講師とした安全衛生教育に関する講演を11月29日に実施した。 (3)ストレスチェックを７月に実施した。	(1)引き続き安全管理にかかる会議等に委員を派遣し、情報収集に努める。
・教職員の危険の防止に関する事項	(1)巡視体制・巡視箇所等について、必要に応じて検討を行う。 (2)定期巡視、指導等を実施する。 (3)低濃度PCB廃棄物の保管状況自主点検に協力する。	(1)巡視箇所一覧を、実態に合わせて若干の見直しを行った。 (2)定期巡視等を実施し、改善事項がある場合には具体的な対応等の提出と実行を求めた。 (3)低濃度PCB廃棄物の保管状況自主点検に協力した。なお、平成30年2月11日にすべてのPCB廃棄物の処分が終了した。	(1)本校に保管していた低濃度PCB廃棄物は全て無くなったため、次年度以降点検協力をする必要はなくなった。

（以下，省略）

（出典　平成２９年度第７回安全衛生委員会資料）

資料３－１－①－（９）－２

「作業場巡視」

令和元年　５月２３日
第２回安全衛生委員会
【資料３】

平成３１年度　苫小牧工業高等専門学校作業場巡視箇所一覧

棟名等	巡視箇所等
Ａ棟（講義棟）	化学実験室，物理実験室，各教員室，各講義室
Ｂ棟（管理棟），学生寮，職員会館	校長室，事務部長室，総務課事務室，学生課事務室，非常勤講師室，共用室，印刷室，給湯室，応用物理実験室，大講義室，学生寮事務室，保健室
Ｃ棟（電気棟）	電力工学実験室，制御工学実験室，電気機械実験室，高電圧実験室(研究室)，電気電子応用実験室，情報工学実験室，電子工学実験室，電子回路実験室，通信工学実験室，電気磁気実験室，各教員室，各講義室
Ｄ棟（機械棟）	材料試験室，機械工作実験室，材料力学実験室，流体工学実験室，機械制御実験室，熱工学実験室，機械製図室，各教員室，各講義室
Ｅ棟（実習工場），技術教育支援センター	実習準備室，手仕上エリア，熱工学実験室，機械加工エリア，塑成加工エリア，溶接エリア，鋳造エリア，技術教育支援センター
Ｆ棟（物質棟） Ｉ棟（物質実験棟）	生物材料研究室，化学工学研究室，材料化学実験室，分析化学研究室，培養実験室，機器分析室，ＮＭＲ室，有機・機能研究室，基礎化学実験室，生物化学実験室，生物化学研究室，無機・物化研究室，資源機能化学研究室，応用化学実験室，各教員室，各講義室
Ｇ棟（環境棟）	第１土質工学実験室(研究室)，第２土質工学実験室，水理学実験室(研究室)，振動実験室，構造力学実験室，材料実験室，高温練混ぜ室，化学分析室，材料解析室，疲労試験室，アスファルト実験室，第２アスファルト実験室，都市計画研究室，測量学準備室，光弾性実験室，環境製図室，共通スペース，各教員室，各講義室
Ｈ棟（情報棟）	電子制御実験室，器材室，ＣＡＤ研究室，計算機工学実験室，工学基礎実験室，計算機システム研究室，情報システム実習室，情報処理実習室，データベース研究室，情報通信実験室，画像処理研究室，知識工学研究室，各教員室，各講義室
Ｊ棟（専攻科棟）	実験室，各教員室，各講義室
地域共同研究センター	寒冷地環境機能応用研究室，低温熱流体研究室，試料作成室，材料・新素材研究室，大気環境観測応用研究室
学術情報センター	オペレーター室，演習室，ＣＡＩ室，端末室，書庫，閲覧室，視聴覚室，事務室，各講義室
キャリア教育センター	センター事務室，センター長室，資料閲覧室
その他	第一体育館，第二体育館，武道場，グラウンド，エネルギー評価システム，構築物等

資料３－１－①－（９）－２（続き）

令和元年　５月２３日
第２回安全衛生委員会
【資料４】

職場巡視実施要項

平成２０年６月２７日
安全衛生委員会承認

１．目的
本校の安全衛生委員会（以下「委員会」という。）において決定された年間行事等計画に基づいて作業場巡視を実施することにより、就業上の危険防止及び安全教育等を徹底するためにこの実施要項を作成する。

２．巡視箇所
本校の委員会において決定された巡視箇所等

３．巡視形態
巡視形態は、以下のとおりとする。
① 委員会委員長による作業場巡視
② 委員会安全部会による作業場巡視

４．巡視実施要領
前記３　② の巡視を行う場合の実施要領は、以下のとおりとする。

（１）巡視を行う者（以下「巡視者」という。）は、『職場巡視チェックリスト』（別紙第１号様式。以下「チェックリスト」という。）に基づいて各作業場の巡視を行い、巡視終了後、本校安全衛生委員会規則第３条第１項第６号に規定する安全管理者にチェックリストを提出する。

（２）安全管理者は、提出されたチェックリストに基づいて『作業場巡視結果報告書』（別紙第２号様式。以下「結果報告書」という。）を作成し、直後に開催される委員会で巡視結果を報告する。

（３）委員会は，作業場等の長に対して委員長名で『作業場改善報告書』（別紙第３号様式。以下「改善報告書」という。）の提出を依頼し、委員長は事後に開催される委員会で改善状況を報告する。

（出典　令和元年度第２回安全衛生委員会資料）

資料３－１－①－（９）－３

「安全衛生に関する講演会」

教　職　員　各　位

校　　長

健康管理に関する講演会の開催について（お知らせ）

このことについて，本校産業医でもあられる王子総合病院長　大岩　均　先生を講師に招き，下記のとおり教職員を対象とした講演会を開催しますので，ご出席方よろしくお願いいたします。

記

１．日　　時　　平成２９年１１月２９日（水）　１５時３０分～１６時３０分
２．場　　所　　大講義室
３．講　　師　　王子総合病院院長　大　岩　　均　氏（本校産業医）
４．演　　題　　『生活習慣を見直し、健康寿命をのばそう！』

--
****
〒059-1275　苫小牧市字錦岡443番地
苫小牧工業高等専門学校
総務課人事係　　酒井　俊輔
電話 0144-67-8066
FAX　0144-67-0814
E-mail（係）jinji@tomakomai-ct.ac.jp
（個人）sakai@tomakomai-ct.ac.jp
****

（出典　健康管理に関する講演会の開催案内メール）

資料３－１－①－（９）－４

「定期的に職場巡視を行って安全管理に関する注意喚起」

令和元年　８月２９日
第５回安全衛生委員会
【資料３】

別紙第2号様式

委員長	衛生管理者	産業医

苫小牧工業高等専門学校作業場巡視結果報告書

実施年月日	令和元年7月22日(月)
実施時間	10時00分 ～ 10時50分
巡視者氏名	安全衛生委員会委員(佐藤)，安全管理者(伊藤)
巡視場所	機械棟・実習工場

点検項目	点検の結果
① 整理整頓の状況	□良好　□やや良好　■やや不良　□不良
【報告事項】 ・書棚の上に不安全に物が積み上げられている実験室がある。(熱工学実験室，流体工学実験室) ・備の転倒防止措置がなされていない実験室がある。(機械制御実験室)・・・事務部で別途対応 ・通路に未使用のPCが置かれている実験室がある。(熱工学実験室) ・出入口付近にテーブルが置かれている実験室がある。(機械制御実験室)	
② 保護具等の設置状況	■良好　□やや良好　□やや不良　□不良
【報告事項】	
③ 有害物質の保管状況	□良好　□やや良好　□やや不良　□不良
【報告事項】 該当なし	
④ 作業環境	□良好　□やや良好　■やや不良　□不良
【報告事項】 ・安全マニュアルの常備が確認できない実験室がある。(材料試験室)	
⑤ 衛生状態	■良好　□やや良好　□やや不良　□不良
【報告事項】	

（出典　令和元年度第５回安全衛生委員会資料（抜粋））

資料３－１－①－（９）－４（続き）

別紙2

別紙第3号様式

苫小牧工業高等専門学校作業場改善報告書

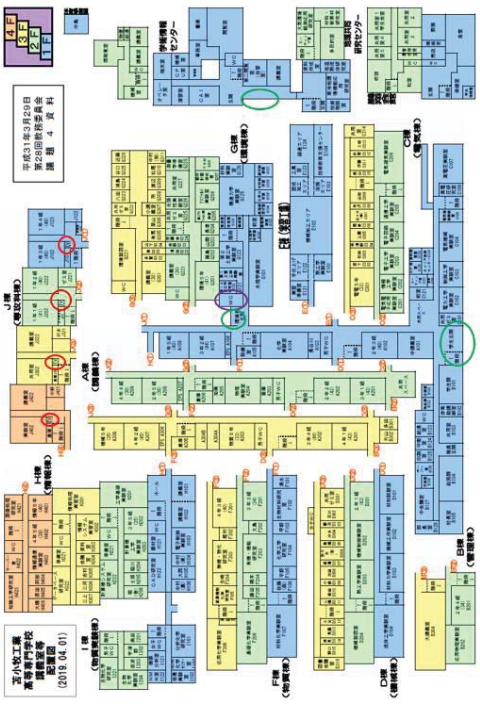
報告年月日	令和 元年　8月　8日（木）
報告者氏名	見藤 歩
要改善場所	機械棟・実習工場

改善項目	改善の結果
・書棚の上に不安全に物が積み上げられている実験室がある。(熱工学実験室，流体工学実験室)	書棚の上に積み上げていた物を撤去した。
・通路に未使用のPCが置かれている実験室がある。(熱工学実験室)	歩行の妨げにならないよう当該PCを移動した。
・出入口付近にテーブルが置かれている実験室がある。(機械制御実験室)	テーブルを移動し，部屋への入退室を容易に行えるようにした。
・安全マニュアルの常備が確認できない実験室がある。(材料試験室)	常備してあった安全マニュアルを視認しやすい位置(シャルピー衝撃試験機の安全柵)に設置した。

（出典　令和元年度第５回安全衛生委員会資料（抜粋））

資料３－１－①－（１０）－１

「障害者への支援（バリアフリー）を示す資料（玄関のスロープ，トイレ，エレベーターの設置など）」



緑で囲った部分：玄関のスロープ
赤で囲った部分：エレベーター
紫で囲った部分：トイレ

（出典　平成３０年度第２８回教務委員会資料）

資料３－１－①－（１０）－１（続き）



学生玄関に設置されたスロープ



G 棟（環境棟）玄関に設置されたスロープ



学術情報センター玄関に設置されたスロープ

資料３－１－①－（１０）－２

「苫小牧工業高等専門学校キャンパスマスタープラン新旧対照表」

令和元年12月19日
第5回 総務委員会
資 料 4 － 2

苫小牧工業高等専門学校キャンパス・マスタープラン新旧対照表

新（改訂案）	旧（現行）
Ⅰ　はじめに 全国の国立高等専門学校（以下「国立高専」という。）の施設は、建築後30年以上経過した老朽施設が全保有面積の4割を超えるとともに、雨漏り、給水管等の長幹設備（ライフライン）についても耐用年数の2倍を超える状況であり、劣悪の施設は老朽化の進行が深刻な状況である。このような状況を踏まえて、国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）では、「国立高等機構施設整備５か年計画（平成28～32年度）」（以下「５か年計画」という。）の更なる推進と政府における国土強靭化対策においても学校施設が重要インフラに位置付けられていることなどを踏まえ、中長期的な施設整備需要や事業実施の優先度などの検討を経て、2018年９月に「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（個別施設計画）2019」（以下「長寿命化計画」という。）を策定し、全国の国立高専にこの計画を踏まえた施設整備を呼び掛けている。 本校の施設は、校舎については2002年度のA棟（講義棟）改修から計画的に実施し、2015年度のD棟（機械棟）改修をもって完了した。これにより、老朽化改善のほか、教室の床張解消、設備の更新、バリアフリー化等が行われ、本校のベースである教育施設の再構築が図られた。また、2016年度には、福利厚生施設である購職会館の内部改修を実施し、充実した学生生活を送るための環境整備が着々と進められている。 しかしながら、学術情報センター、寄宿舎施設、実習工場などの老朽化対策のほか、耐用年数を超えている蒸気管、給水管等の更新は急務である。 今後の本校の施設整備は、機構の長寿命化計画を踏まえて進めることが必要であることから、本校における施設の課題を明らかにし、主に国からの施設整備費補助金、運営費交付金等を財源として中長期視点で計画的かつ戦略的に施設整備を行うため、このたび、キャンパス・マスタープランを改訂することとした。	**Ⅰ　はじめに** 学生の学び舎である校舎の長寿命化改修は、平成21年度のA棟（講義棟）改修から計画的に実施し、平成27年度のD棟（機械棟）改修をもって完了した。これにより、老朽化改善のほか、教室の床張解消、設備の更新及びバリアフリー化等が行われ、本校のベースである教育施設の再構築が図られた。 また、平成28年度には、福利厚生施設である購職会館の内部改修を実施し、充実した学生生活を送るための環境整備が着々と進められている。 しかしながら、図書館と学生寮の老朽化対策のほか、耐用年数を超えている蒸気管や給水管の更新は急務である。 このことから、本校における施設の課題を明らかにし、中長期視点で計画的及び戦略的に施設整備を行うため、このたび、キャンパス・マスタープランを策定することとした。 なお、キャンパス・マスタープランの策定にあたっては、「国立高等機構施設整備５か年計画（平成28～32年度）」（平成28年６月独立行政法人国立高等専門学校機構理事長決定）の重点整備項目に留意して進めることとする。
国立高等機構施設整備５か年計画（平成28～32年度） （抜粋省略）	国立高等機構施設整備５か年計画（平成28～32年度） （抜粋省略）
Ⅱ　キャンパスの現状及び課題 **1．キャンパスの面積** 敷地面積：133,251㎡、建物延床面積：33,284㎡ **2．建物** （1）校舎の長寿命化改修（11,488㎡）が計画的に進められ、2015年度で完了した。 （2）築25年以上の建物が約81%（26,925㎡）を占め、このうち約43%（11,488㎡）が改修済みである。 （3）耐震基準に適合しない1981年以前の建物の割合は全体の約49%（16,312㎡）である。 （削除） （削除）	**Ⅱ　キャンパスの現状及び課題** **1．キャンパスの面積** 敷地面積：133,251㎡、建物延床面積：32,709㎡ **2．建物** （1）校舎の長寿命化改修（11,488㎡）が計画的に進められ、平成27年度で完了した。 （2）築25年以上の建物が約77%（24,992㎡）を占め、このうち約43%（11,488㎡）が長寿命化改修済みである。 （新設） （3）学術情報センター（1,900㎡）及び学生寮（7,812㎡）については、老朽化対策のほか、自主学習を促すための仕組みや教育寮としての機能強化を図るための建物改修が必要である。 （4）上記以外の建物については、改善すべき事項を洗い出し、計画的に改修を進める必要がある。

資料３－１－①－（１０）－２（続き）

（略）

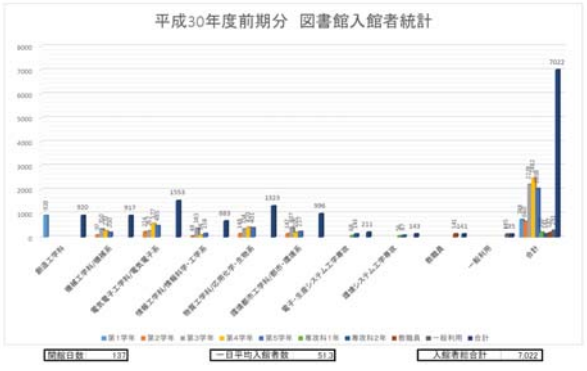
が、図書館機能と一体となった整備を検討する必要がある。 ○2階の視聴覚室及び共用室（2室）の利用頻度が低く、視聴覚室は本来の利用方法よりも第2CAI室として利用されている方が多いため、1階の情報処理施設の機能と併せて周辺の検討が必要である。 【改善計画】 －自主的学習を促すための学術情報基盤の環境整備－　（機能強化）（安全・安心確保） ○　学生の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習を行うためのラーニングコモンズ並や個別ブースを設けた閲覧室を整備する。 ○学術情報処理内にCAI室を集約（40名収容×2室）し、オープン利用できる体制を拡大する。 ○100名規模の講演会やセミナーのほか、複数クラスの合同授業やアクティブラーニングの授業に対応するため、視聴覚室及び共用室（2室）を見直し、セミナールームを整備する。 （写真、改修前・改修後図面省略） （ラーニング・コモンズ説明省略） 3．運動施設 【改善すべき事項】 （第1体育館） ○屋根の老朽化が著しい。また、トイレが狭く段差もあるため、車椅子利用者には対応していない。 （第2体育館） ○ステージ下にある物品庫は、水が染き出るため、物品を保管できない。 （第2体育館ステージ下改修前後の写真省略）	が、図書館機能と一体となった整備を検討する必要がある。 ○2階の視聴覚室及び共用室（2室）の利用頻度が低く、視聴覚室は本来の利用方法よりも第2CAI室として利用されている方が多いため、1階の情報処理施設の機能と併せて周辺の検討が必要である。 【改善計画】 －自主的学習を促すための学術情報基盤の環境整備－　（機能強化）（安全・安心確保） ○　学生の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習を行うためのラーニングコモンズ並や個別ブースを設けた閲覧室を整備する。 ○学術情報処理内にCAI室を集約（40名収容×2室）し、オープン利用できる体制を拡大する。 ○100名規模の講演会やセミナーのほか、複数クラスの合同授業やアクティブラーニングの授業に対応するため、視聴覚室及び共用室（2室）を見直し、セミナールームを整備する。 （写真、改修前・改修後図面省略） （ラーニング・コモンズ説明省略） 5．体育施設 【改善すべき事項】 （第1体育館） ○平成29年度には耐震改修、平成27年度には床構造部材耐震改修及び屋根改修を行っており、比較的整備が進んでいるが、屋根の老朽化が著しい。 （第2体育館） ○平成29年度には耐震改修、平成27年度には屋根改修及び床構造部材耐震改修、平成29年度には床及びトイレの改修を行っており、比較的整備

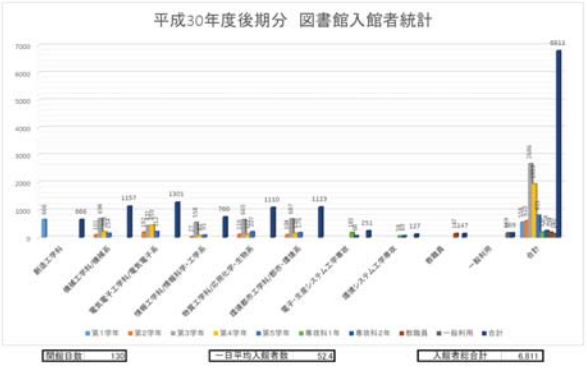
16

（出典　令和元年度第５回総務委員会資料（抜粋））

資料３－１－①－（１１）－１

「教育・生活環境の利用状況や満足度が分かる資料（図書館・保健室・相談室・相談室等の利用人数）」





（出典　令和元年度第3回学術情報センター委員会資料）

資料３－１－①－（１１）－１(続き)

第2図書室の利用状況について

各利用センター設置　平成30年6月25日

日付け	カウント	月の入室者数	累計	備　考
2018/7/1	213	213	213	2018/7/18 学術センター委員会報告：817
2018/8/1	1,518	1,305	1,518	
2018/9/3	2,275	757	2,275	
2018/10/1	233	233	2,508	9/6地震による停電でリセット　9/1～5は不明
2018/11/1	1,143	910	3,418	
2018/12/3	2,311	1,168	4,586	
2019/1/4	3,064	753	5,339	
2019/2/1	4,109	1,045	6,384	
2019/3/1	5,185	1,076	7,460	
2019/4/1	5,283	98	7,558	
2019/5/7	8,630	3,347	10,905	
2019/6/3	10,805	2,175	13,080	
2019/7/1	12,449	1,644	14,724	
2019/8/1				

（出典　令和元年度第3回学術情報センター委員会資料）

表Ⅳ－２　　平成 30 年度保健室利用状況

区分	内科的処置	外科的処置	休息	その他	合計
4 月	42	45	26	119	232
5 月	70	66	28	96	260
6 月	42	63	46	103	254
7 月	43	78	54	99	274
8 月	19	14	5	22	60
9 月	6	5	1	13	25
10 月	41	60	39	168	308
11 月	39	51	39	98	227
12 月	38	35	36	81	190
1 月	353	34	54	56	497
2 月	41	13	18	49	121
3 月	0	0	0	0	0
合計 （前年度）	734 （872）	464 （482）	346 （314）	904 （1060）	2448 （2728）

（出典　厚生補導研究会資料（抜粋））

資料３－１－①－（１１）－１(続き)

平成 30 年度学生相談室の相談内容・件数等

（１）相談内容・件数（単位：件数）

対応者	対応日時	修学面	進路	経済面	対人	精神面	健康面	その他	合 計	メール・電話
カウンセラー	週2回，各2時間	0	0	0	0	159	0	0	159	0
言語聴覚士	週1回，各2時間	90	0	0	0	0	0	0	90	0
教 員	週5回，各2時間	54	4	0	12	60	2	0	132	0
看護師	毎 日	166	4	0	13	243	13	0	439	12
合 計		310	8	0	25	462	15	0	820	12
(H29)		271	3	0	41	703	27	5	(1058)	(25)

※「こころと体の健康調査」関連面談含む.　　※※ その他：卒業生、中途退学者、保護者、教職員等.

（出典　厚生補導研究会資料(抜粋)）

資料３－１－①－（１１）－２

「学生の満足把握する体制を示す資料」

【学生委員会】

活動計画および活動結果点検表（平成30年度）

	平成30年度		
	活動計画	活動結果	申し送り事項等
Ⅰ 中期目標・中期計画に係る計画			
中期目標 (3)学生支援 「学生生活，進路選択，心身の健康等の面から学生を支援する。 中期計画(学生委員会関係分) ・学生の修学拡充，学生への経済的支援に関する施策について検討，実施する。	経済的理由により入学料，授業料の納付が困難な学生に対しては，適宜行うとともに，各種奨学金制度及び授業料免除制度，関係する学生会の各種委員会の指導を行う。 また，経済的理由により授学金貸与が必要な学生に対しては，適宜の手続き等を行う。 日本学生支援機構の奨学生に推薦する。	計画通り実施した。 なお，今年度は北海道胆振東部地震の発生に伴うJASSO支援金の支給実績があった。	
Ⅱ 定常的業務に係る計画			
(1)学生の団体，学生会活動及び学生生活に関する事項	各種学生会行事について，自主性，協調性，企画力，責任感を育成するとともに全般に渡り支援し，関係する学生会の各種委員会の指導を行う。	計画通り実施した。	
(2)学生の福利厚生に関する事項	寮生および学生相談室を中心として，教学，寄入関係，構成各種の学生を含む他の学生の平穏生活に努め，安心して学生生活が送れるように助言，指導を行う。	新寮アドバイザー及び学生指導支援担当において学生指導支援との併用を行い，各担当が協力しながら学生の指導支援にあたった。	
(3)学生の奨学及び厚生に関する事項	課外活動等で顕著な業績を挙げた学生を表彰する。	高専賞の授賞者が決定した。今年度は特別功労賞にはあの推薦があり，うち1名については高専賞に切り替えての授賞となった。	
	学生の本分に反した行為等を行った学生に対しては，懲戒処分を行って反省を促し，健全な学生生活を送るように指導する。	計画通り実施した。また，指導にも当たっては必要に応じて警察等外部機関との連携も行った。	
(4)課外活動に関する事項	複数顧問体制のもとに，自主性，協調性，責任感を育成するとともに全般に渡りながら，学生の課外活動の指導，支援を行う。	計画通り実施した。	千歳校内WiFiの許可で，顧問教員間連絡の観点から顧問及び後任指導等の負担軽減を早急に検討する必要性がある。
(5)福利施設の整備状況に関する事項	福利施設の整備状況について定期的に点検し，利便性の向上を図る。	定期点検等，計画通り実施した。	
(6)外国人留学生の指導に関する事項	寮と協力しながら留学生の生活，修学環境の改善を図る。特にチューター等の支援体制を活用して，学習，生活，精神面での不安等を早期に発見し，安心して修学できるような環境の整備に努める。	概ね計画通りに実施した。	留学生の受入れ変更に伴い，どの業務がどの教員の担当なのかがあいまいになることが多かった。留学生対応については早めに一元化する必要がある。
(7)その他学生の厚生補導に関する重要な事項	学生からの意見を取り入れるために，学生会を通じて広く意見や要望を集め，「学生会代表と校長との懇談会」を実施して，その検討，改善を図る。	計画通り実施した	
Ⅲ その他特記事項			
	自動車・特動車について，貸渡しに体験不良のない者を登録するとともに，学生からの要望等について検討を行う。	補助説明の上，特動車・自動車について平成30年度末をもって廃止となった。なお，平成30年度末において全ての学生である学年に応じた特動車・自動車を授与することとした。	

（出典　平成３０年度第１６回学生委員会資料）

資料３－１－①－（１１）－２（続き）

平成31年度　行事予定

月	日	曜	最寒寒	月	日	曜	福和寒
4	2	火	新入寮生入寮日、新留学生入寮ガイダンス、入寮式、新入寮生オリエンテーション	4	2	火	新入寮生入寮日、新留学生入寮ガイダンス、入寮式、新入寮生オリエンテーション
	3	水	2～5年生入寮日、学年別オリエンテーション、寮務寮生会顔合わせ		3	水	2～5年生入寮日、学年別オリエンテーション、寮務寮生会顔合わせ
	4	木	各種委員会正副委員長会議		4	木	各種委員会正副委員長会議
	9	火	新入寮生歓迎会	中旬			寮生集通（2年生）
	16	火	留学生歓迎会、第１回寮務寮生会歓迎会		9	火	留学生歓迎会、第１回寮務寮生会歓迎会
	18	木	第1回寮生総会、2年生オリエンテーション		16	火	第1回寮生総会、2年生オリエンテーション
	22	月	1年生オリエンテーション(～19日)		18	木	1年生オリエンテーション(～19日)
	27	土	学習強化週間(4/22-26)		22	月	学習強化週間(4/22-25)
5	6	月	開寮日		27	土	開寮日
	7	火	1年生自転車登録受付開始	5	6	月	開寮日
	13	月	シューター訓練、前期寮朝練開始日		7	火	1年生自転車登録受付開始
	14	火	前期寮朝練(予備日未定)		13	月	シューター訓練、前期寮朝練開始日
	中旬		1年生個人面談		14	火	前期寮朝練(予備日未定)
	20	月	学習強化週間(5/20-24)	中旬			1年生個人面談
6	上旬		寮費監査		20	月	学習強化週間(5/20-23)
	中旬		寮祭点検（特別時間割5/3(月)～6/7(金)）	6	上旬		寮費監査
	14	金	寮祭前夜祭		中旬		寮祭点検（特別時間割5/3(月)～6/7(金)）
	15	土	寮祭（寮学綱陸スポーツ大会と併せて実施）		14	金	寮祭前夜祭
	中旬		寮内清掃、点呼記録、寮祭点検（留学生補食寮も含む）		15	土	寮祭（寮学綱陸スポーツ大会と併せて実施）
	下旬		食事アンケート、寮室寮着との懇談		中旬		寮内清掃、点呼記録、寮祭点検（留学生補食寮も含む）
7	上旬		寮祭による振休、寮外清掃		下旬		食事アンケート、寮室寮着との懇談
	中旬		臨時点検	7	上旬		寮祭による振休、寮外清掃
	6	土	寮内清掃大会（～7日）		中旬		臨時点検
	16	火	1～3年生後期部屋割り抽選		6	土	寮内清掃大会（～7日）
			学習強化週間(7/16-19)		16	火	1～3年生後期部屋割り抽選
	8	木	団結集会日（団結日 各2日目～8/8(木)）				学習強化週間(7/17-19)
8	10	土	開寮日		8	木	団結集会日（団結日 各2日目～8/8(木)）
	16	金	点検	8	10	土	開寮日
	31	土	オープンキャンパス 寮内見学（～9/1）		16	金	点検
9			全寮清掃点検		31	土	オープンキャンパス 寮内見学（～9/1）
	29	日	開寮日、開寮オリエンテーション	9			全寮清掃点検
					29	日	開寮日、開寮オリエンテーション

資料３－１－①－（１１）－２（続き）



（出典　令和元年度第１回寮務委員会資料）

資料３－１－①－（１１）－２（続き）

「女子寮及び男子寮における階長会議記録」

2019.10.8(火) 階長会議　内容

女子　19：10～
・10月21日（月）高専祭後片付け、11月1日（金）保護者懇談会は朝点呼なし
・11月5日～8日4年生総合研修旅行の朝点呼担当者（朝点呼担当者変更届配布）
・高専祭の準備で補食コーナーや冷蔵庫は使えない
・高専祭準備（10/18）から後片付け（10/21）まで通学生立入禁止

男子　19：30～
・10月21日（月）高専祭後片付け、11月1日（金）保護者懇談会は朝点呼なし
・11月5日～8日4年生総合研修旅行の朝点呼担当者（朝点呼担当者変更届配布）
・高専祭の準備で補食室や冷蔵庫は使えない
・高専祭準備（10/18）から後片付け（10/21）まで通学生立入禁止

自習時間　8:30～10:30（1～3年生）

・ゴミ箱のテブラ，生ゴミのフタが壊れている
・ご飯を食べて相手の確認
お風呂掃除

（出典　寮務係資料）

資料３－１－②－（１）－１

「情報処理施設利用案内」

HOME ＞ 施設紹介 ＞ 学術情報センター ＞ 情報処理施設概要 ＞ 情報処理施設利用案内

情報処理施設利用案内

情報処理施設概要　情報処理施設利用案内　校内ネットワーク
教育用電子計算機システム

利用資格

以下に該当する方が、当センターの情報処理施設をご利用いただけます。

- 本校の教職員及び学生

利用時間

本センター情報処理施設をご利用いただける基本的時間帯は、次のとおりです。

開館時間

CAI室

平日	月曜日～金曜日	8:30～20:00
	土曜日	8:30～17:00
夏季・冬季・学年末休業期間	月曜日～金曜日	8:30～17:00
	土曜日	閉　館

専攻科棟実験室

平日	月曜日～金曜日	終　日
	土曜日	終　日
夏季・冬季・学年末休業期間	月曜日～金曜日	終　日
	土曜日	終　日

演習室及び端末室

平日	月曜日～金曜日	8:30～17:00
	土曜日	閉　館
夏季・冬季・学年末休業期間	月曜日～金曜日	閉　館

icility/ficenterInformationcenterInstruction

情報処理施設利用案内 - 苫小牧工業高等専門学校

土曜日	閉　館

なお、都合により臨時休館する場合があります。

休館日

- 日曜日及び祝祭の祝日
- 長期休業期間中の土曜日
- 年末年始

なお、都合により臨時休館させていただく場合があります。
臨時休館をさせていただく場合は、事前に掲示等でお知らせいたします。

（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料３－１－②－（１）－２

「苫小牧工業高等専門学校学術情報センター規程」

苫小牧工業高等専門学校学術情報センター規程

規則第44号
制　　定　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成27年４月14日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第12条の規定に基づき，本校学術情報センター（以下「センター」という。）を設置する。

（目的）
第２条　センターは，共同利用施設として本校の学生及び教職員並びに一般の利用者の教育及び研究等に資することを目的とする。

（施設）
第３条　センターの施設は，次のとおりとする。
一　図書館（閲覧室，書庫，事務室，視聴覚室，教材作製室，機械室及び談話ホール）
二　情報処理施設（ＣＰＵ室，ＣＡＩ室，演習室，端末室，ネットワーク管理室，オペレータ室及び機械室）
２　前項各号の施設の利用については，別に定める。

（業務）
第４条　センターは，次に掲げる業務を行う。
一　図書館資料の収集，管理及び利用に関する事項
二　紀要に関する事項
三　教育用電子計算機の運用に関する事項
四　ネットワークの構築及び運用に関する事項
五　情報処理に関する教育，研究，開発及び普及に関する事項
六　視聴覚及び語学訓練教育方法の改善に関する研究，開発及び普及に関する事項
七　その他センターの運営に関する事項
２　本校教員組織等規程第９条の規定に掲げる学術情報センター長は，前項に掲げる業務を統括する。

（委員会）
第５条　センターの円滑な運営を図るため，学術情報センター委員会を置く。
２　学術情報センター委員会に関する事項は，別に定める。

（事務）
第６条　センターに関する事務は，学生課において処理する。

資料３－１－②－（１）－２（続き）

（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか，センターの運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
１　この規程は，平成15年４月１日から施行する。
２　苫小牧工業高等専門学校メディアセンター規程（平成８年４月１日施行）及び苫小牧工業高等専門学校情報処理センター規程（平成８年４月１日施行）は，廃止する。

附　則
この規程は，平成16年４月１日から施行する。

附　則
この規程は，平成19年４月１日から施行する。

附　則
この規程は，平成27年４月14日から施行し，平成27年４月１日から適用する。

（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料３－１－②－（１）－３

AP設置場所一覧

設置場所	部屋番号	AP	スイッチの場所
1年1組講義室	A102	1	機械棟
1年2組講義室	A107	1	物質棟
1年3組講義室	H101	1	情報棟
1年4組講義室	J102	1	専攻科棟
1年5組講義室	J123	1	専攻科棟
専攻科1F廊下	－	1	専攻科棟
機械2年講義室	A201	1	機械棟
機械3年講義室	A307	1	物質棟
機械4年講義室	G221	1	物質棟
機械5年講義室	D201	1	機械棟
電気電子2年講義室	A202	1	機械棟
電気電子3年講義室	A301	1	機械棟
電気電子4年講義室	B201	1	電気棟
電気電子5年講義室	C301	1	電気棟
情報2年講義室	H102	1	情報棟
情報3年講義室	H202	1	情報棟
情報4年講義室	H402	1	情報棟
情報5年講義室	H401	1	情報棟
物質2年講義室	A208	1	物質棟
物質3年講義室	F201	1	物質棟
物質4年講義室	F301	1	物質棟
物質5年講義室	A303	1	機械棟
環境都市2年講義室	A209	1	物質棟
環境都市3年講義室	G201	1	物質棟
環境都市4年講義室	A302	1	機械棟
環境都市5年講義室	G301	1	物質棟
環境棟3F共用スペース	－	1	物質棟
環境システム1年講義室	J322	1	専攻科棟
電子生産システム1年講義室	J202	1	専攻科棟
環境システム2年講義室	J422	1	専攻科棟
1F共用講義室	A108	1	物質棟
3F共用講義室	A308	1	物質棟
中会議室	B127	1	電気棟
中講義室	A101	1	電気棟
大講義室	B304	2	電気棟
図書館ホール	－	1	情報処理施設
図書閲覧室	－	2	情報処理施設
情報処理施設	－	1	情報処理施設
食堂	105	1	福利厚生施設
学生寮宿直室	－	1	学生寮
学生寮談話室	－	1	学生寮
学生寮和室	－	1	学生寮
学生寮自習室	－	1	学生寮
学生寮食堂	－	2	学生寮
女子寮ホール	－	2	学生寮
体育館	－	2	体育館
ゼミ室	J221-2	1	
貸出しAP	教務係	1	―
		53	

（出典　情報処理施設資料）

資料３－１－②－（２）－１

「苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ組織体制に関する規程」

苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ
組織体制に関する規程

規則第95号
制　　定　平成22年５月18日
一部改正　平成29年３月16日
一部改正　令和元年８月１日

（趣旨）
第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（構規則第98号。以下「対策規則」という。）の規定に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ組織体制について定めるものとする。

（情報セキュリティに関する役職の設置）
第２条　対策規則第13条の規定に基づき，本校の情報セキュリティに責任を持つ役職として，本校に次の各号に掲げる職を置き，当該各号に定める職をもって充てる。
一　情報セキュリティ責任者　校長
二　区域情報セキュリティ責任者　校長
三　情報セキュリティ管理者　各系長
専攻科長
地域共同研究センター長
技術教育支援センター長
学術情報センター副センター長
総務課長
学生課長
四　情報セキュリティ推進責任者　学術情報センター長

（情報セキュリティ副責任者の設置）
第３条　対策規則第18条の規定に基づき，情報セキュリティ責任者を補佐し業務を代行させるため情報セキュリティ副責任者を置き，次の各号の職を持って充てる。
一　副校長（総務主事）
二　事務部長

（情報セキュリティ推進員の設置）
第４条　対策規則第19条の規定に基づき，本校の情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題への対応を行わせるため，本校に情報セキュリティ推進員を置き，次の各号に掲げる職をもって充てる。
一　学術情報センター委員会委員のうち，情報セキュリティ推進責任者が指名する者
二　情報セキュリティ推進責任者が指名する技術職員　１名
三　情報セキュリティ推進責任者が指名する事務職員　１名

資料３－１－②－（２）－１（続き）

四　その他情報セキュリティ推進責任者が必要と認める教職員

（情報セキュリティ管理委員会の設置及び業務）
第５条　対策規則第20条の規定に基づき，本校に情報セキュリティ管理委員会を置く。
２　情報セキュリティ管理委員会は，本校における次の各号に掲げる事項を審議する。ただし，専門的及び技術的問題の審議は情報セキュリティ推進委員会に委ねるものとする。
一　実施規程及び実施手順の制定並びに改廃
二　情報セキュリティポリシー基本方針，実施規則，実施規定及び実施手順に関し，当該規則等の実施，周知徹底，遵守及び励行の推進，違反に対する措置，並びに遵守状況の調査
三　情報セキュリティ教育
四　リスク管理及び非常時行動計画の策定並びに実施
五　情報セキュリティインシデント防止策の策定及び実施
六　例外措置の許可権限者の選任
七　情報セキュリティの強化に関する調査及び検討
八　情報セキュリティに関する情報の調査及び周知
九　実施規程及び実施手順の実施状況の評価及び見直し
十　その他情報セキュリティに関する事項

（情報セキュリティ管理委員会の構成員）
第６条　情報セキュリティ管理委員会は，情報セキュリティ責任者を委員長とし，次の各号に掲げる者を委員として組織する。
一　情報セキュリティ副責任者
二　情報セキュリティ管理者
三　情報セキュリティ推進責任者
２　前項の規定にかかわらず，情報セキュリティ責任者は必要に応じて情報セキュリティ管理委員会の委員を別に定めることができる。

（情報セキュリティ推進委員会の設置及び業務）
第７条　対策規則第22条の規定に基づき，本校に情報セキュリティ推進委員会を置く。
２　情報セキュリティ推進委員会は，次の各号に掲げる事項を行う。
一　情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題の審議
二　情報システムに関わる情報セキュリティインシデントの発生時の対応
三　情報セキュリティ責任者，情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ管理者への専門的及び技術的立場からの助言及び支援

（情報セキュリティ推進委員会の構成員）
第８条　情報セキュリティ推進委員会は，情報セキュリティ推進責任者を委員長とし，次の各号に掲げる者を委員として組織する。
一　情報セキュリティ推進員
二　その他，情報セキュリティ責任者が必要と認める者

資料３－１－②－（２）－１（続き）

（管理運営部署）
第９条　対策規則第24条の規定に基づき，本校に情報セキュリティに関する管理運営部署を設置し，総務課をもって充てる。
２　管理運営部署は，情報セキュリティ責任者又は情報セキュリティ副責任者の指示により，次の各号に掲げる業務を行う。
一　情報セキュリティ管理委員会の運営に関する業務
二　情報セキュリティ管理委員会の審議に関連する事項の取りまとめ
三　情報セキュリティに関する連絡と通報
四　情報セキュリティに関する文書の保管

附　則
この規程は，平成22年５月18日から施行する。
２　学術情報センター委員会規程（平成15年４月１日施行）第２条第２号から第４号までに掲げる事項については，同条の規定にかかわらず，当分の間，この規程第５条第１項に規定する情報セキュリティ管理委員会又は第７条第１項に規定する情報セキュリティ推進委員会において審議するものとする。
附　則
この規程は，平成28年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，令和元年８月１日から施行する。

（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料３－１－②－（２）－２

「苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程」

苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程

規則第 96 号
制　　定　平成22年９月22日
一部改正　平成28年３月16日
一部改正　平成28年５月19日
一部改正　平成28年12月20日
一部改正　令和元年８月１日

目次

第１章　総則（第１条－第７条）
第２章　情報システムの利用（第８条－第12条）
第３章　情報の取扱い（第13条－第16条）
第４章　物理的及び環境的セキュリティ対策（第17条－第23条）
第５章　教育（第24条・第25条）
第６章　情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画（第26条－第30条）
第７章　調達，ソフトウェア開発及び外部委託（第31条－第42条）
第８章　違反と例外措置（第43条・第44条）
第９章　評価，見直し及び監査協力（第45条－第51条）
第10章　その他（第52条－第54条）

第１章　総則

（目的）
第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項および管理的事項を定めることにより，情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。
２　情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については，別に定める情報セキュリティ推進規程による。

（定義）
第２条　この規程における用語の定義は，この規程で定めるものを除き，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

8

資料３－１－②－（２）－３

「苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程」

苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程

規則第 97 号
制　　定　平成22年９月22日
一部改正　令和元年８月１日

目次

第１章　総則（第１条・第２条）
第２章　情報システムのライフサイクル
　第１節　設置時（第３条－第１７条）
　第２節　運用時（第１８条－第３０条）
　第３節　運用終了時（第３１条・第３２条）
　第４節　PDCAサイクル（第３３条－第３６条）
第３章　要保護情報及びそれを取扱う情報システム（第３７条－第４１条）
第４章　アクセス制御（第４２条－第４４条）
第５章　アカウント管理（第４５条－第５５条）
第６章 証跡管理と通信の監視（第５６条－第５９条）

第１章　総則

（目的）
第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項について定めることにより，情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

（定義）
第２条　この規程における用語の定義及び範囲は，この規程に定めるものを除き，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号）別表，独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号）の定めるところによる。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

9

資料３－１－②－（２）－４

「ネットワーク利用の手引き」

ネットワーク利用の手引き
（学生用）

苫小牧工業高等専門学校

学術情報センター　2019 年 4 月 9 日版

10

資料３－１－②－（２）－４（続き）

目　次

1. 校内LANとインターネット … 1

2. オープン利用と基本操作について … 1
　2−1　利用できる時間帯及び施設 … 1
　2−2　入退室について … 1
　2−3　端末の使用方法について … 2
　2−4　端末と Windows の基本操作 … 2
　2−5　パスワードの変更方法 … 2

3. Web(WWW)とFTPの利用 … 3
　3−1　設定方法 … 3
　3−2　利用方法 … 3
　3−3　便利なボタンと検索ページ … 4
　3−4　FTP の利用 … 4

4. 学習教育システムの利用 … 5
　4−1　Office365(Office, メール等)の利用 … 5
　4−2　Blackboard(LMS:学習管理システム)の利用 … 9

5. キャンパス Wi-Fi の利用 … 12

6. 利用上の注意 … 13
　6−1　利用上の注意 … 13
　6−2　コンピュータウィルス対策 … 13
　6−3　ネットワーク利用マナー … 14

------------------------------------（以下略）------------------------------------

（出典　情報処理施設資料）

11

「平成３０年度情報処理施設利用実績」

平成30年度情報処理施設利用実績

1. 学年別利用人数

単位：人

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	専攻科	教職員	合　計
4月	572	426	416	453	315	49	54	2,285
5月	1,441	482	556	757	277	62	77	3,652
6月	1,383	319	386	733	250	29	73	3,173
7月	1,171	390	408	1,044	250	40	95	3,398
8月	22	3	33	61	39	8	26	192
9月	77	102	40	87	24	13	13	356
10月	1,095	414	399	1,050	102	37	78	3,175
11月	987	318	376	887	96	126	77	2,867
12月	1,125	391	340	953	82	100	75	3,066
1月	760	421	452	1,059	231	70	78	3,071
2月	110	350	64	408	328	11	24	1,295
合計	8,743	3,616	3,470	7,492	1,994	545	670	26,530

2. 曜日別利用人数

単位：人

	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	合　計
4月	0	509	394	511	484	344	43	2,285
5月	0	926	866	923	556	329	52	3,652
6月	0	553	723	769	614	462	52	3,173
7月	0	754	812	1,028	454	319	31	3,398
8月	0	24	11	86	24	31	16	192
9月	0	3	12	16	205	106	14	356
10月	0	416	617	988	583	541	30	3,175
11月	0	567	797	616	594	269	24	2,867
12月	0	533	824	653	499	523	34	3,066
1月	0	428	930	813	405	478	17	3,071
2月	0	237	331	237	184	273	33	1,295
合計	0	4,950	6,317	6,640	4,602	3,675	346	26,530

3. 時間別利用人数

単位：人

	8:30～10:40	10:40～12:15	12:15～13:00	13:00～14:35	14:35～17:00	17:00～18:30	18:30～20:00	20:00以降	合　計
4月	650	407	189	339	523	109	66	2	2,285
5月	1,042	663	226	513	887	194	125	2	3,652
6月	929	588	223	618	543	168	100	4	3,173
7月	899	727	133	597	687	203	151	1	3,398
8月	40	12	9	34	74	10	13	0	192
9月	178	56	5	55	54	6	2	0	356
10月	1,178	641	166	545	440	143	56	6	3,175
11月	921	440	198	446	585	197	75	5	2,867
12月	879	545	237	437	635	197	134	2	3,066
1月	839	705	184	394	617	203	111	18	3,071
2月	219	195	184	134	404	99	54	6	1,295
合計	7,774	4,979	1,754	4,112	5,449	1,529	887	46	26,530

4. 教室別利用人数

単位：人

	CAI室	演習室	端末室	視聴覚室	合　計
4月	1,805	186	21	273	2,285
5月	2,972	364	14	302	3,652
6月	2,451	297	11	414	3,173
7月	2,694	295	51	358	3,398
8月	168	23	0	1	192
9月	238	16	10	92	356
10月	2,320	154	16	685	3,175
11月	2,084	296	25	462	2,867
12月	2,198	277	56	535	3,066
1月	2,167	312	44	548	3,071
2月	985	215	7	88	1,295
合計	20,082	2,435	255	3,758	26,530

5. 学年別snts01利用延べ時間

単位：時間

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	教職員	合　計
4月	729:18	326:10	305:19	351:39	260:51	22:06	63:25	2058:48
5月	1509:12	437:33	429:34	555:33	332:09	48:44	51:59	3364:44
6月	1640:57	285:27	355:40	626:51	285:43	31:40	76:32	3302:50
7月	1412:32	328:05	309:53	978:47	285:25	33:45	59:52	3408:19
8月	15:58	1:37	19:06	61:15	51:02	3:46	3:05	155:49
9月	94:36	103:05	28:16	77:14	148:48	16:41	14:32	483:12
10月	1161:13	374:32	407:18	1180:28	79:55	65:50	66:57	3336:13
11月	1288:23	336:26	355:07	1024:19	76:54	166:45	82:01	3329:55
12月	1098:01	620:33	333:41	959:04	43:07	155:31	106:51	3316:48
1月	962:46	777:57	423:19	1180:51	281:41	120:58	72:22	3819:54
2月	128:30	445:37	46:29	417:44	525:04	4:50	31:21	1599:35
合計	10041:26	4037:02	3013:42	7413:45	2370:39	670:36	62857	28176:07

6. 学年別sserv利用延べ時間

単位：時間

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	教職員	合　計
4月	0:06	0:00	1:04	15:02	143:27	0:00	45:01	204:40
5月	0:53	0:00	0:00	22:04	227:35	0:27	19:45	270:44
6月	0:31	0:00	0:27	36:07	214:26	0:00	18:08	269:39
7月	0:29	0:00	0:00	0:00	200:25	0:00	42:44	243:38
8月	0:00	0:00	0:00	0:00	87:12	0:00	50:01	137:13
9月	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	9:19	9:19
10月	6:03	0:00	0:00	179:34	0:08	61:31	61:31	308:47
11月	8:19	0:00	0:00	175:09	0:00	0:00	23:44	207:12
12月	13:18	0:00	0:00	151:55	0:41	0:00	3:40	169:34
1月	6:25	0:00	0:00	151:08	0:03	0:00	43:03	200:39
2月	1:25	0:00	0:00	72:32	0:23	0:00	78:49	153:09
合計	37:29	0:00	1:31	803:31	874:20	61:58	395:45	2174:34

7. 学年別印刷枚数

単位：枚

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	教職員	合　計
4月	0	54	129	814	240	76	0	1,313
5月	9	56	486	1,502	248	55	39	2,395
6月	28	47	238	1,613	124	30	2	2,082
7月	1,272	34	130	1,692	107	127	79	3,441
8月	8	2	139	135	51	20	0	355
9月	59	10	0	18	14	0	1	102
10月	213	230	133	927	157	73	3	1,736
11月	17	9	438	1,344	77	3	2	1,890
12月	3,312	62	260	1,125	47	32	15	4,853
1月	189	53	764	1,279	375	21	1	2,682
2月	219	304	60	882	314	51	1	1,831
合計	5,326	861	2,777	11,331	1,754	488	143	22,680

（出典　情報処理施設資料）

資料３－１－②－（３）－２

「iPad 貸出し簿」

iPad貸出し簿

※返却時の操作について
・ブラウザを開き，開いているウィンドウをすべて閉じてください．
・ホームボタンを２度押しして，起動しているアプリをすべて閉じてください．

日　時	氏　名	利用台数
平成31年4月24日(水) 13:00 ～ 15:00	石川優弓	5
平成31年4月25日(木) 13:30 ～ 10:35	藤島	10
平成31年4月25日(木) 14:00 ～ 15:45	石川	3
平成31年4月25日(木) 09:00 ～ 12:00	有馬	4
平成31年4月26日(金) 8:30 ～ 15:00	石川	5
平成31年4月26日(　) 9:00 ～ 12:30	高橋	8
平成31年5月7日(火) 8:30 ～ 15:52	土俗	12
平成31年5月7日(火) 8:40 ～ 14:00	金野	3
平成31年5月7日(火) 12:20 ～ :	村本	5
平成31年5月8日(水) 12:30 ～ 15:00	高橋	8
平成31年5月10日(金) 8:30 ～ 10:40	藤島	10
平成元年5月10日(金) 9:00 ～ 9:45	金野	1
平成元年5月10日(金) 9:00 ～ 12:30	高橋	3
平成元年5月12日(日) 11:30 ～ 15:00	高橋	54
平成元年5月13日(日) 11:30 ～ 12:20	金野	1
平成元年5月14日(火) 8:30 ～ 11:10	土俗	12
平成元年5月13日(火) 10:30 ～ 15:00	有馬	4
平成元年5月13日(火) 11:00 ～ 14:50	村本	6
平成元年5月13日(火) 13:10 ～ 19:00	金野	2
平成元年5月15日(水) 13:10 ～ 15:35	石川	5
平成元年5月17日(金) 9:00 ～ 12:30	金野	3
平成元年5月17日(金) 10:45 ～ 12:30	高橋	5

（以下略）

（出典　学生課資料）

資料３－１－②－（３）－３

「学生用 365 掲示板使用例」

学生用３６５掲示板

人間性、実践性、国際性

※トップページに表示される情報は最新の１か月分のみです。過去の掲示を見るときはメニューから「全体掲示板」等を選択してください。
※Office365やBlackboard内の学内向けに限定した情報をTwitter等に安易に転載すると、名誉棄損や威嚇業務妨害で刑事罰に問われたり、損害賠償請求を受けることがあることに注意してください。

緊急連絡

✓	タイトル	連絡事項	更新日時
	定期試験の時刻変更について	... 教職員・学生　各位 教務主事 本日のＪＲおよび高速通学バスの遅延に伴い、定期試験は30分繰り下げて実施します。 1時限の試験開始時刻は9:30、以降の試験も同様に30分遅らせて実施します。 なお、学生寮の昼食時間については、遅延に伴う対応をします。 また、高速通学バスの下校便については、通常通り13:15と15:00を予定しています。 以上	2月10日

全体掲示板

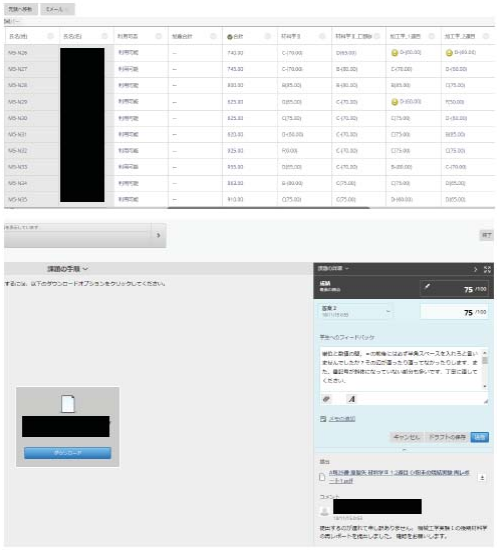
新しいお知らせまたはこのリストを編集

✓	タイトル		担当部署	更新日時
	【重要・本科３年生および４年生】共通専門選択科目の配属について	...	教員	2020/02/06 17:11
	新型コロナウイルス感染症への対応について	...	学生係	2020/02/06 16:40
	学校敷地内全面禁煙の実施について	...	施設管理係	2020/01/31 13:56
	【重要・全学生】状況調査アンケートの実施について	...	教員	2020/01/27 3:38
	【重要・全学生】授業アンケートの実施について	...	教員	2020/01/27 3:27
	令和２年度行事予定について	...		2020/01/20 12:58

（出典　本校文書管理サーバ）

資料３－１－②－（３）－４

「blackboard の活用例」



（出典　本校 blackboard）

資料３－１－③－（１）－１

「図書館について」

１．図　書　館

(1)　図書館の施設・設備

１．談話ホール
　新聞閲覧台、テレビ、ソファー等があり、学生の憩いの場として利用されています。
２．閲覧室
　個人用座席及び４人用座席（総計75席）、カウンター、雑誌閲覧コーナー、目録コーナー、開架書架等があります。
　また、DVD／ビデオ視聴用個人ブース（５台）があり、館内資料の視聴ができます。
３．第２閲覧室
　移動式机14台があり、利用目的に応じて配置を変更することができます。
４．書庫（積層２階）
　１階は主に一般図書・参考図書・未製本雑誌等があり、２階には製本雑誌・新聞等が収蔵されています。
５．事務室
６．機械室

(2)　図書館の利用について

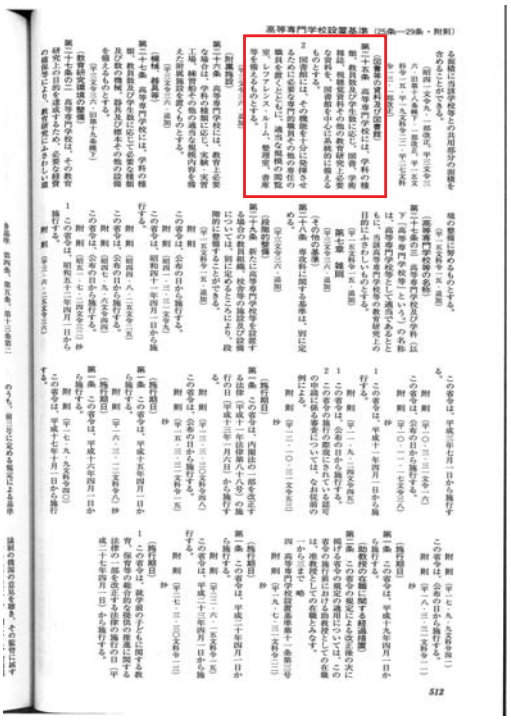
１．開館日及び開館時間
　次の各号に掲げる日を除き開館します。
　　１）日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日
　　２）年末年始
　　３）春季、夏季、冬季及び学年末休業期間の土曜日
　次の各号に掲げる時間に開館します。
　　１）月曜日から金曜日　　８時30分から20時まで
　　２）土曜日　　８時30分から17時まで
　　３）春季、夏季、冬季及び学年末休業期間の月曜日から金曜日
　　８時30分から17時まで
　なお、校長が必要と認めたときは、開館日及び開館時間を変更することがあります。
２．入館（閲覧室）について
　利用者カード（学生証）に付いているバーコードを入口右側の読取機に読ませ、入館ゲートから入ってください。

― 82 ―

（出典　苫小牧工業高等専門学校学生便覧(p. 82)）

資料３－１－③－（１）－２

「高専設置基準　第 25 条」



（出典　文部科学法令要覧））

資料３－１－③－（２）－１

「蔵書内訳　分類等」



（出典　苫小牧工業高等専門学校学校要覧 2019　p22）

資料３－１－③－（２）－２

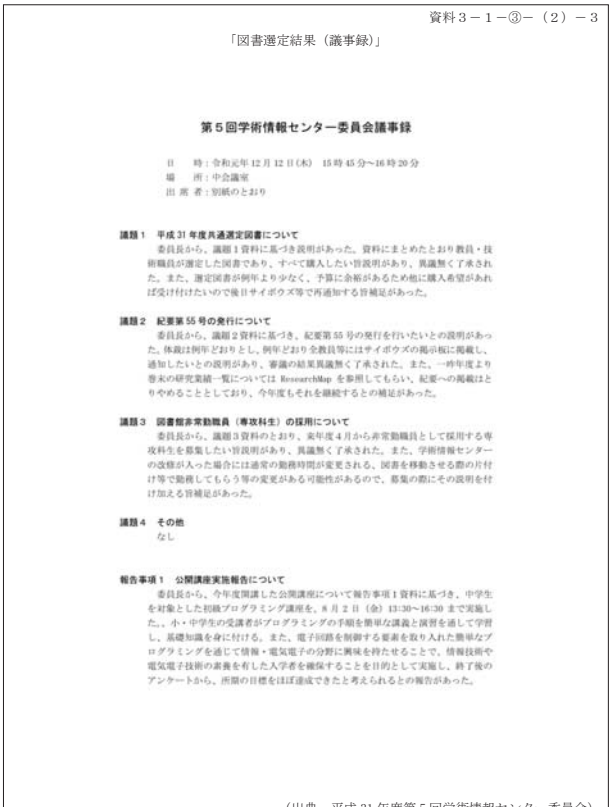
「図書選定結果（一部抜粋）」



（出典　平成 31 年度第 5 回学術情報センター委員会）

資料３－１－③－（２）－３

「図書選定結果（議事録）」



（出典　平成 31 年度第 5 回学術情報センター委員会）

資料３－１－③－（３）－１

「貸出統計１」

利用者区分別貸出統計

2019年11月29日　1頁

利用者区分/所属		000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	その他	貸出冊数計	貸出人数
教職員														
苫小牧工業高等専門学校	和	36	9	11	10	173	34	4	3	8	82	0	370	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	9	178
	計	36	9	11	10	173	34	4	3	17	82	0	379	
小計	和	36	9	11	10	173	34	4	3	8	82	0	370	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	9	178
	計	36	9	11	10	173	34	4	3	17	82	0	379	
学科1年														
創造工学科	和	59	6	2	6	65	46	7	11	14	427	0	653	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	328
	計	59	6	2	6	65	46	7	11	20	427	0	659	
小計	和	59	6	2	6	65	46	7	11	14	427	0	653	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	328
	計	59	6	2	6	65	46	7	11	20	427	0	659	
学科2年														
学科	和	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
創造工学科	和	15	8	4	4	48	58	0	4	1	79	0	197	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	111
	計	15	8	4	4	48	58	0	4	4	79	0	200	
小計	和	15	8	4	4	48	58	0	4	1	80	0	198	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	112
	計	15	8	4	4	48	58	0	4	4	80	0	201	
学科3年														
学科	和	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
創造工学科	和	91	22	8	6	67	133	3	6	29	116	0	481	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	244
	計	91	22	8	6	67	133	3	6	32	116	0	484	
小計	和	91	22	8	6	68	133	3	6	29	116	0	482	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	245
	計	91	22	8	6	68	133	3	6	32	116	0	485	

（次項に続く）

資料３－１－③－（３）－１（続き）

「貸出統計２」

利用者区分別貸出統計

2019年11月29日　2頁

利用者区分/所属		000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	その他	貸出冊数計	貸出人数
学科4年														
学科	和	41	4	2	13	167	411	2	12	102	121	0	815	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	477
	計	41	4	2	13	167	411	2	12	108	121	0	821	
小計	和	41	4	2	13	167	411	2	12	102	121	0	815	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	477
	計	41	4	2	13	167	411	2	12	108	121	0	821	
学科5年														
学科	和	100	14	7	58	282	332	4	18	67	186	0	968	
	洋	1	0	0	0	3	1	0	0	14	2	0	21	557
	計	101	14	7	58	285	333	4	18	81	188	0	1,001	
小計	和	100	14	7	58	282	332	4	18	67	186	0	968	
	洋	1	0	0	0	3	1	0	0	14	2	0	21	557
	計	101	14	7	58	285	333	4	18	81	188	0	1,001	
専攻科1年														
専攻科	和	8	7	4	15	38	48	2	1	65	72	0	260	
	洋	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	152
	計	8	8	4	15	38	48	2	1	65	72	0	261	
小計	和	8	7	4	15	38	48	2	1	65	72	0	260	
	洋	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	152
	計	8	8	4	15	38	48	2	1	65	72	0	261	
専攻科2年														
専攻科	和	32	1	0	9	29	57	0	7	16	27	0	177	
	洋	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	187
	計	32	1	0	9	29	57	0	7	16	27	0	178	
小計	和	32	1	0	9	29	57	0	7	16	27	0	177	
	洋	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	187
	計	32	1	0	9	29	57	0	7	16	27	0	178	

（次項に続く）

資料３－１－③－（３）－１（続き）

「貸出統計３」

利用者区分別貸出統計

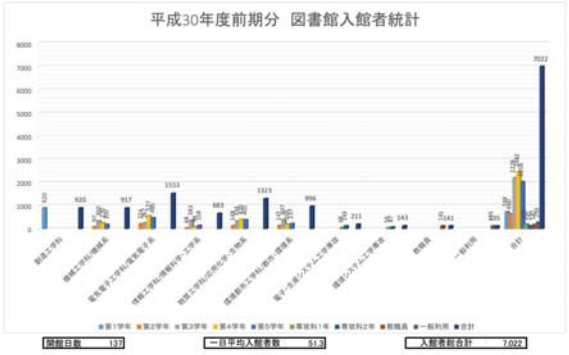
2019年11月29日　3頁

利用者区分/所属		000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	その他	貸出冊数計	貸出人数
学生等														
専攻科	和	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	
小計	和	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	
公開利用														
苫小牧工業高等専門学校	和	1	0	4	3	4	1	3	0	1	16	0	33	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	計	1	0	4	3	4	1	3	0	1	16	0	33	
その他	和	1	3	27	3	15	48	0	1	5	87	0	182	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	30	98
	計	1	3	27	3	15	48	0	1	35	87	0	212	
小計	和	2	3	31	6	19	41	3	1	6	183	0	215	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	30	185
	計	2	3	31	6	19	41	3	1	36	183	0	245	
	和	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
小計	和	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	和	385	66	69	119	828	1,153	25	63	389	1,144	0	4,153	
	洋	1	1	0	0	4	1	0	0	71	2	0	80	2,262
	計	386	67	69	119	824	1,154	25	63	388	1,146	0	4,233	

（出典　利用者区分別貸出統計　分類毎【10 進分類】 統合図書館システムより）

資料３－１－③－（３）－２

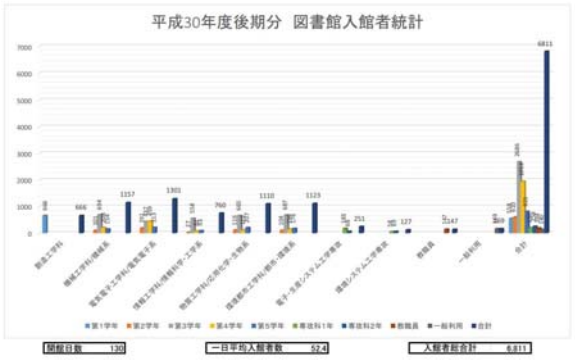
「入館統計１」



（次項に続く）

資料３－１－③－（３）－２

「入館統計２」



（出典　平成 31 年第 3 回学術情報センター委員会報告事項 2-1）

資料３－１－③－（４）－１

「図書館の公開、開館時間等」



（出典　苫小牧工業高等専門学校学校要覧 2019　p22）

資料３－１－③－（４）－２

「図書館利用案内」



資料３－１－③－（４）－２（続き）



（出典：苫小牧工業高等専門学校 2019 図書館利用案内）

資料３－１－③－（４）－３

「新入生向けガイダンス資料」



（出典　平成 31 年度図書館オリエンテーション資料）

資料３－２－①－（１）－１

「新入生入学式当日の時間配当表」

入学式当日の時間配当表

〔第１学年〕

４月３日（水）

	新入生		保護者		担任	
9:00	ホームルーム	各講義室	第二体育館へ移動		ホームルーム	各講義室
9:25	第一体育館へ移動				新入生引率（第一体育館）	
9:35	入学式 9:40~10:30	第二体育館	入学式 9:40~10:30	第二体育館	入学式 9:40~10:30	第二体育館
10:30	１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介	
10:40	第一体育館へ移動		校長の話		引率・移動	
10:50	入学記念写真撮影	第一体育館			入学記念写真撮影	第一体育館
11:00	移動				移動	
11:10	ホームルーム	各講義室	後援会総会		ホームルーム	各講義室
11:30			移動			
11:40	移動				移動	
11:50	合同ホームルーム	大講義室	学級保護者会	1組: A201 2組: A202 3組: B201 4組: A208 5組: D201	学級保護者会	1組: A201 2組: A202 3組: B201 4組: A208 5組: D201
12:50	※ホームルーム終了後は解散になります。 １２時５０分から１３時３０分は、 学術情報センター（図書館）ロビーで教材並びに高速通学バスの定期券の販売を行います。 通学対象いきめ下さい。 （通学バスは苫小牧駅ふれんどビル１Ｆで販売しています。）					

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　平成３１年度第１回教務委員会資料）

資料３－２－①－（１）－２

「新入生（専攻科）入学式当日の時間配当表」

専攻科入学式（H31 年度・専攻科１年生用）

４月３日（水）専攻科入学式

8:30~　控室集合（H101）
9:00　当日の説明等（主任）
・専攻科長，専攻主任自己紹介
・入学式の要領説明，出欠の確認，日程表の説明
・その他連絡事項
休憩（トイレなどを済ませる）
9:25　第一体育館へ移動（主任同行）
9:35　入学式（第二体育館）
（宣誓は電子・生産システム工学専攻　小林　晃大）
10:30　副校長，専攻科長などの紹介
10:40　第一体育館へ移動
10:50　入学式記念写真撮影
－撮影後休憩－
11:00　移動（中講義室）
11:10　学生証用写真撮影（中講義室）
－撮影後休憩－
11:30　ガイダンス（H101）
1）資料（専攻科便覧等）の説明（概略のみ）（主任）
※資料の配付は，翌日のガイダンスで行う

2）学生生活の規律（主任）
・学生準則から（飲酒喫煙，アルバイト，自転車登録，学生証，車両通学，学生相談室等）
※車両通学について，特別研究担当教員の押印、安全講習会（予定）の受講が必要な旨説明する

3）翌日からの予定（主任）
・健康診断日程等

12:30　解　散
定期券販売（図書館ホール前）

（出典　平成３１年度第１回専攻科委員会資料）

資料３－２－①－（１）－３

「新入生（留学生）入学式当日の時間配当表」

入学式当日の時間配当表

〔留学生〕

４月３日（水）

	留学生		チューター		担任	
9:00	当日の説明	教員室	当日の説明	教員室	当日の説明	教員室
9:25	第一体育館へ移動		第一体育館へ移動		留学生引率（第一体育館）	
9:35	入学式 9:40~10:30	第二体育館	入学式 9:40~10:30	第二体育館	入学式 9:40~10:30	第二体育館
10:30	１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介	
10:40	教員室へ移動		教員室へ移動		教員室へ移動	
10:50						
11:00						
11:10	担任の話	教員室	担任の話	教員室	担任の話	教員室
11:30	中講義室へ移動		中講義室へ移動		中講義室へ移動	
11:40						
11:50	学生証明写真撮影	中講義室				
	※学生証明写真撮影後は解散になります。					

（出典　平成３１年度第１回教務委員会資料）

資料３－２－①－（１）－４

「2019 年度第１学年オリエンテーション実施要領」

2019 年度　第１学年オリエンテーション実施要領

1. 実施日　2019 年 4 月 18 日(木)～19 日(金)　【 2 日間 】

2. 場　所　洞爺サンパレス　リゾート&スパ（洞爺湖温泉）　TEL(0142)75-1111

3. 参加者　総計 217 名（１年生 201 名、３～４年生 4 名、教職員 12 名）

4. 目　的　(1) 高専生活をスタートする上での生活や学習上の注意点を理解する。
(2) 学校生活の目標を定める。
(3) クラス・学年の親睦を図る。

5. 日　程

【 4 月 18 日（木）】

① 9:00～ 9:15　HR で出欠確認後，大講義室へ移動

② 9:15～10:40　専門系の紹介（15 分×5 系），諸注意

③ 10:40～11:00　HR で荷物回収後，バス乗車

④ 11:00～12:45　移動，昼食（原生林）

⑤ 12:45～13:00　開講式（原生林）　司会：学生課長
・校長挨拶
・副校長（学生主事）挨拶
・参加教職員、学生等の紹介
・諸注意

⑥ 13:00～14:30　コミュニケーションゲーム（原生林）　司会：学生課長
国立日高青少年自然の家企画指導専門職　中西一紫　氏

⑦ 14:30～15:10　SNS 等に関する講演会（原生林）　司会：学生課長
北海道警察サイバーセキュリティ対策本部　氏

⑧ 15:10～17:35　部屋に移動・自由時間（入浴、外出可：ただし 17:00 まで）

⑨ 17:35～20:00　夕食・休憩（1 階「バレシオ」）

⑩ 20:00～21:20　キャリア講演会（原生林）　進行：学生主事補
（先輩学生の講演後，グループで先輩への質問内容を決める）

⑪ 21:20～21:30　学生主事からの諸注意

⑫ 21:30～23:15　自由時間（入浴可、外出禁止）

⑬ 23:15　消灯・就寝

（次ページへ続く）

資料３－２－①－（１）－４（続き）

【 4 月 19 日（金）】

① 7:00～ 7:50　起床、洗顔等

② 7:50～ 9:20　朝食（1 階「バレシオ」）
後片付け（荷物、ルームキーは「原生林」に持って行く）

③ 9:30～ 10:00　保健室からの話（原生林）　進行：学生課長

④ 10:00～ 10:50　キャリア講演会（原生林）　進行：学生主事補
（３～４年生への質問の回答）

⑤ 10:50～ 11:50　学生生活ガイダンス（原生林）　進行：学生主事

⑥ 11:50～ 13:00　写真撮影，昼食（2 階「しんりん　ダイニング」）

⑦ 13:00～ 13:40　キャリア講演会（原生林）　進行：学生主事補
（学校生活の目標設定）

⑧ 13:40～ 13:50　閉講式（原生林）
司会：学生課長
・校長挨拶
・副校長（学生主事）講評
・連絡事項・諸注意

⑨ 13:50～ 15:30　点呼・バス乗車・移動
（ホテルから学校までは高速道路経由で直行）

（出典　２０１９年度第１学年オリエンテーションのしおり）

資料３－２－①－（１）－５

「2019 年度第１学年オリエンテーションアンケート結果」

2019 年度　第１学年オリエンテーション　１年生アンケート結果

（　）内は昨年度

日程について
・1 日目　余裕なし　8%（10%），ちょうどよい 85%（80%），余裕あり　7%（10%）
・2 日目　余裕なし 18%（17%），ちょうどよい 77%（77%），余裕あり　6%（6%）

食事について
・夕食　満足 86%（89%），普通 12%（10%），不満　2%（ 1%）
・朝食　満足 83%（86%），普通 14%（13%），不満　3%（ 1%）
・昼食　満足 51%（66%），普通 39%（38%），不満 10%（ 6%）

専門系の紹介について
・内容　役に立った 91%，　どちらでもない　8%，　つまらなかった　1%

コミュニケーションゲームについて
・内容　役に立った 67%（53%），どちらでもない 32%（43%），つまらなかった　1%（ 4%）
・時間　短い　5%（ 5%），適当　77%（66%），長い　18%（29%）

SNS等に関する講演会の内容について
・内容　役に立った 77%（67%），どちらでもない 19%（12%），つまらなかった　5%（ 1%）
・時間　短い　4%（ 7%），適当　76%（81%），長い　21%（12%）

キャリア講演会（二日間）の内容について
・内容　役に立った 83%（88%），どちらでもない 16%（10%），つまらなかった　1%（ 2%）
・時間　短い　5%（ 9%），適当　82%（75%），長い　13%（16%）

保健室からの話について
・内容　役に立った 67%，　どちらでもない 32%，　つまらなかった　1%
・時間　短い　5%，　適当　79%，　長い　16%

学生生活ガイダンスについて
・内容　役に立った 83%（78%），どちらでもない 17%（21%），つまらなかった　1%（ 1%）
・時間　短い　2%（ 2%），適当　88%（81%），長い　11%（17%）

ホテルの設備について
・大浴場　利用した 86%（91%），利用しなかった 14%（ 9%）
・プール　利用した 38%（34%），利用しなかった 63%（56%）
・部屋　満足　66%（71%），普通　26%（29%），不満　8%（ 0%）

生活・行動について
・自由時間（複数選択可）　外出した 30%（16%），ゲームをした 31%（30%），その他 40%（39%）
・お小遣いは幾らぐらい持っていきましたか
千円未満　10%（ 6%），2 千円未満 17%（13%），3 千円未満　22%（26%），4 千円未満 14%（11%），
5 千円未満 19%（18%），6 千円未満 11%（13%），7 千円未満　2%（ 3%），8 千円未満　2%（ 2%），
9 千円未満　1%（ 2%），1 万円未満　2%（ 2%），1 万円以上　3%（ 4%）

・お小遣いは幾らぐらい使いましたか（お土産は除く）
千円未満 82%（81%），2 千円未満 11%（11%），3 千円未満　4%（ 6%），4 千円未満　1%（ 1%），
5 千円未満　1%（ 1%），6 千円未満　0%（ 0%），7 千円未満　1%（ 0%），8 千円未満　0%（ 0%），
1 万円未満　0%（ 0%），1 万円以上　1%（ 1%）

（次ページへ続く）

資料３－２－①－（１）－５（続き）

・お土産はいくらくらい買いましたか
千円未満 78%（72%），2 千円未満 13%（16%），3 千円未満　7%（ 9%），4 千円未満　1%（ 2%），
5 千円未満　2%（ 1%）

・睡眠時間はどのくらいとりましたか
なし　2%（ 7%），約 1 時間　1%（ 4%），約 2 時間　1%（ 6%），約 3 時間　5%（ 6%），
約 4 時間　11%（10%），約 5 時間　17%（20%），約 6 時間　30%（21%），約 7 時間　28%（19%），
約 8 時間　6%（ 5%），約 9 時間　1%（ 2%）

食事について，不満であった理由
・夕食
好みもあると思うけどペペロンチーノ以外まずかった。
ジュースがなかった。
個人的にバイキング形式が苦手。
すしに初めからわさびが入っていた。
・朝食
シュークリームラスクがメニュー表にあったのに当日なかったこと。
好みもあると思うけど全体的においしくなかった。
個人的にバイキング形式が苦手。
デザートが少なかった。
マナーが悪い中国人が自分達のテーブルに食べ残した皿を置いてきてとても不愉快でした。
食事のレパートリーが少ない。中国人が多すぎて、並べなかった。あと、日本語が通じない。
・昼食（4/20）
辛かった（複数名）。
あまりおいしくなかった。
カレーライスだけでは物足りない（複数名）。
量が足りない（複数名）。
きのこが入ってたから。

専門系の紹介について，つまらなかった理由
ちょっと何言ってるか分からなかった。
もうある程度知ってるから。

コミュニケーションゲームについて，つまらなかった理由
興味深い内容もあったが，少し幼稚だと思ったため。
とても高校生のやるゲームとは思えなかった。

SNS等に関する講演会について，つまらなかった理由
既に聞いたことがあるから（複数名）。
SNSなどはあまり使わないからあまり内容がわからなかった。
みんなあんな風になってしまう可能性があることを言わなきゃダメ。その場のノリだけじゃあんなことしない。
今更ることでもなかったから。みんなそのくらいわかっているから。

キャリア講演会（二日間）について，つまらなかった理由
（1 件あったが，理由の記入なし）

保健室の話について，つまらなかった理由
出てくる人々が見てて腹立つから。
デートDVとかの話がはいってきたから。

学生生活ガイダンスについて，つまらなかった理由
プリントにまとめて、生徒に渡したほうが時間の無駄にならない。

（次ページへ続く）

資料３－２－①－（１）－５（続き）

ホテルの設備（部屋）について，不満であった理由

和室と洋室の違い（複数名）
コンセント（携帯の充電器をする環境）が少ない（複数名）。
部屋の壁に黒い汚れが付着していたおり、別の部屋とトイレ等の設備の清潔感が全く異なっていたから。
五人部屋のお風呂が汚れていて使えなかった。
タバコ臭かった。
冷房がうまく働かなかったため暑くてあまり眠れなかった。
清潔感がなかった。少し狭く感じた
スマートフォンを洗面所のコンセントで充電しようとしたら、洗面所の電気をつけっぱなしにしないと充電できなかった。
部屋が狭い、wifiがつながらない。

生活・行動について，自由時間に行ったこと（その他）

プール，会話，入浴，トランプ，テレビ，卓球，スマホ，ホテル内散策，読書，PC，売店，睡眠，
ゲームセンター，部屋で休憩

（出典　平成３１年度第２回学生委員会資料）

資料３－２－①－（１）－６

「2019 年度第２学年オリエンテーション実施要項」

２０１９年度　第２学年オリエンテーション実施要項

1. 目　　的
(1) 専門系のガイダンスを行い，専門系の特徴などを確認する．
(2) 専門系について学習上の注意点などの理解を深める．
(3) 級友，教職員と親睦を深める．

2. 実施時間
2019 年 4 月 16 日（火）5~7 時限目

3. 会　　場
第２学年各 HR
（体育館・グラウンドを使用する場合は体育教員，視聴覚室を使用する場合は図書係，共用室，中講義室および大講義室を使用する場合は教務係に連絡し調整すること）

4. 参 加 者
第２学年学生および教職員
（外部からの講師（卒業生）は依頼できないが，在学中の先輩は必要に応じて参加協力を依頼する）

5. 経　　費
なし

6. そ の 他
(1) オリエンテーションで使用する資料は担任および各系で準備する．資料は必ずしも「しおり」の形としなくてもよい．
(2) 担任はオリエンテーション終了後，2週間以内に実施結果報告書を教務係に提出する．
(3) 当日の第2学年の時間割はオリエンテーション（特別活動：1日あたり2時間）となり，振替措置はしない．

（出典　平成３１年度第１回教務委員会資料）

資料３－２－①－（１）－７

「専攻科ガイダンス（１年生）日程表」

ガイダンス日程表（H31 年度・専攻科１年生用）

4 月 4 日（木）　ガイダンス　　場　所：H101
担　当：専攻科長，両主任，（専攻科委員）

9:00　ガイダンス
1) 資料（専攻科便覧等）の配付及び説明（主任）
・専攻科行事予定表，健康診断日程，ネットワーク利用教育
・履修届用紙，時間割表

2) 専攻科長挨拶及び専攻科の概要（教育目標，組織，JABEE の説明）
（専攻科長）
教務関係（概要説明）（主任）
・専攻科教育課程，単位数と時間数，試験，単位認定，時間割
・履修に関する規則，修了要件，学位取得
・インターンシップ（学外研修）について（概略日程など）
・健康管理調査書の提出

3) JABEE の取組みについて（履修の手引きを使用）（専攻科長）

10:15　休　憩

10:30　4) 英語力向上への取り組みについて（専攻科長）
・英語コミュニケーション能力の目標について

5) 各科専攻科委員紹介と関係カリキュラム説明（主任）
a) 各科専攻科委員紹介
b) シラバスの概略説明，履修届について
c) 学位取得と特別研究について
d) 特別実験の内容，履修希望調査，日程について
（両専攻に分かれて行う）

解 散

（出典　平成３１年度第１回専攻科委員会資料）

資料３－２－①－（１）－８

「専攻科ガイダンス（２年生）日程表」

ガイダンス日程表（H31 年度・専攻科２年生用）

4 月 4 日（木）　ガイダンス　　場　所：H101
担　当：専攻科長，両主任，（専攻科委員）

13:10　ガイダンス（進行：主任）
1) 専攻科委員紹介
2) 年間行事予定等について（専攻科長）
・専攻科行事予定
・ＴＡ等について
3) 修了要件について（主任）
・１年取得単位と２年履修単位
・特別研究等
・学位取得
4) 健康管理調査書・提出（主任）

休 憩

5) 就職・進学について（主任）
・手続き等
・健康診断日程等

6) 学生生活の規律について（主任）
・各種登録手続き等
・生活規律等
・車両通学
※車両通学について，特別研究担当教員の押印，安全講習会（予定）の受講が必要な旨説明する

7) 英語力向上への取り組みについて（専攻科長）
・英語コミュニケーション能力の目標について

8) 特別演習の内容，履修希望調査，日程について
（両専攻に分かれて行う）

14:30　解 散

（出典　平成３１年度第１回専攻科委員会資料）

資料３－２－①－（１）－９

「2019 年度インターンシップ事前研修会実施要項」

2019 年度　インターンシップ事前研修会実施要項

１　趣　　旨
　インターンシップを有意義なものにするため、本研修会を通じて、学生が自己のキャリアプランニング能力を高めるとともに、社会人としての素養を身につけることの大切さを認識する。

２　対象及び日時
（１）４年３組（応用化学・生物系）、４組（電気電子系）、専攻科１年生
　　令和元年６月 21 日（金）14 時 55 分～16 時 15 分
（２）４年１組（機械系）、２組（都市・環境系）、５組（情報科学・工学系）
　　令和元年６月 24 日（月）14 時 55 分～16 時 15 分
　※対象の日時に参加できない学生は、この限りではありません。

３　場　　所
　６月 21 日（金）　苫小牧工業高等専門学校１階　講義室 H101・102
　６月 24 日（月）　苫小牧工業高等専門学校３階　大講義室

４　内　　容
（１）研修会の趣旨説明、地域志向人材育成プログラムについての説明、講師紹介（５分）
（２）講演「有意義なインターンシップにするために」（50 分）
　講師　株式会社マイナビ　就職情報事業本部
　　企画広報統括部 北海道キャリアサポート課
　　佐々木　理恵　氏
　　概要：インターンシップの目的、インターンシップの心構え
　　コミュニケーションや言葉遣いなどについて
（３）講演「インターンシップによる秘密保持義務について」（15 分）
　講師　情報系　土居　茂雄　先生
（４）質疑応答とまとめ（10 分）

５　申し込み
　参加する学生は、令和元年６月 18 日（火）までに各担任に申し出ること。

６　留意事項
（１）学外実習（インターンシップ）を行う学生は必ず申し込むようにしてください。
（２）研修会当日は、筆記用具、学生証（参加者把握のためバーコードを読み取ります。）を持ってきてください。対象以外の日に参加することもできるので、都合が悪い学生は担任またはキャリア教育センターに相談してください。
（３）参加する学生は、下記２項目を必ず実施してください。
　① 担任から事前に配布される２種類の「事前ワークシート」を記載し、研修当日、必ず持参してください。
　② 事前ワークシート A は、添付された資料を読み、回答するようにしてください。
　③ 事前ワークシート B は、BlackBoard に「インターンシップによる秘密保持義務について」の学習資料をアップロードしていますので、これで学習してから記載してください。

－以上－

（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－②－（１）－１

「平成 31 年度校務分担表（抜粋）」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　平成３０年度第１２回運営委員会資料）

資料３－２－②－（１）－２

「平成 31 年度前期授業時間割（抜粋）」



（出典　平成３０年度第２７回教務委員会資料）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

資料３－２－②－（１）－３

「第１学年学修強化時間帯と「高専での学習のヒケツ」について」

新入生用プリント

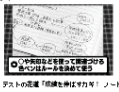
第１学年学習強化時間帯と「高専での学習のヒケツ」について

１　目的
・自学自習の習慣や勉強の仕方を身につけるきっかけにする。
・クラス内での教え合いを通して、学習面でのつながりを築く。

２　注意点
（１）学習強化時間帯は、月曜日の７時限目です。
（２）授業と同じように担当する先生が出欠を確認します。
（３）自習内容は授業科目の予習、復習、宿題、レポートなどです。
（４）学生同士の教え合いや移動は許可しますが、騒がないこと。

３　授業の受け方
（１）Web シラバスをしっかり読み確認すること。
（２）授業前日までにある程度予習し、疑問点をノートに書いておくこと。
（３）授業に集中すること。何か１つ質問しようと考えると集中できる。
（４）質問するときは丁寧な言葉遣いを心がけること（タメ口はダメ！）。
（５）わからないことや疑問があれば教員室まで訪問し質問すること。
（６）自分の手で問題を解くことが効率的。

４　ノートのとり方
（１）板書の全てを書かなくても良い。色も丸写しでなくて良い。
（２）ノートは安いので、けちけちせず余白をあけて書き込む。
（３）見開きで左ページに授業内容、右ページに復習やプリントを貼るという方法もある。
（４）後からノートを読み返したときに授業が再現できるノートが良い。
（５）口頭説明の大事なことも書き込む。
（６）自分の感想・感情（「わからん」「なぜ」「すごい」など）も書き込むことで脳のワーキングメモリーも働き、授業を思い出しやすくなる。
（７）関連する情報を調べ書き込む。
（８）「まとめ」を自分の言葉で書く。



（参考：NHK テストの花道「記憶を伸ばす力！　ノート術」）

５　スタディーサポートについて
（１）スタディーサポートは年に２回実施（４月 15 日（月）と 10 月８日（火））します。
（２）学習意識調査（50 分）、試験科目（各 60 分）「国語」、「数学」、「英語」に取組みます。
（３）第１回スタディーサポートの結果は、５月８日（月）の学習強化時間帯で返却します。試験結果と学習意識調査の結果を参考にして、勉強方法を見直す必要があります。
（４）試験結果から入学時点でのクラス順位がわかるため、今後の授業への取組み方や自学自習の方法の参考にしてください。現時点のクラス順位と高専での学業成績は異なるため、順位が高くても安心できません。毎日継続する学習がとても重要になります。
（５）試験結果のほかに、学習意識調査の結果（学習習慣の状況）も示されます。学習習慣がよいのに成績が悪かった人は、勉強の仕方に問題があるかもしれないので注意が必要です。学習習慣が身に付いていない人は、早目に勉強の習慣を身に付ける必要があります。
（６）試験結果より、ひとりひとり違う問題の問題集を配布します。各自の弱点を克服するための問題集ですので、しっかり復習してください。

（出典　学生課保存資料）

資料３－２－②－（１）－４

「学生相談室案内」

学生相談室
Student Counseling Room

お話をしませんか

勉強、進路、交友関係、クラブ活動、
自分の性格など悩み多い学生生活ですが、
誰かに聞いてもらうだけで気持ちが楽になるものですよ。
相談内容の秘密は厳重に守ります。
安心して相談に来て下さい。



場　　所：鵬翔会館１階　　保健室
開設日時：月曜日～金曜日　15:00～17:00

平成３１年度　前期　開室予定

	カウンセラー・言語聴覚士	学生相談室員
月	土田　和世(言語聴覚士)	松尾　優子　佐沢　政樹　原田　恵雨
火	永見　容子(カウンセラー)	中野　渉　見藤　歩　佐沢　政樹
水	髙橋　朋康(カウンセラー)	三河　佳紀　中野　渉　大扇　和浩
木	山根　忠(カウンセラー 月二回) 土田　和世(言語聴覚士　隔　週)	三河　佳紀　見藤　歩　大扇　和浩
金	永見　容子(カウンセラー 隔　週)	三河　佳紀　松尾　優子　原田　恵雨

※次の教職員は当番日以外でも各教員室で相談に応じます。
三河(H306)　見藤(D313)　大島（F202）　佐沢(C308)　松尾（G310）
原田(H405)　中野(J421)　漆原（保健室）

メール相談も受け付け中　下記アドレスまたは相談室ＨＰからどうぞ。
✉ soudan@tomakomai-ct.ac.jp
相談室ＨＰへは苫高専ＨＰから「学生生活」→「学生相談室」と進んでください。

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料３－２－②－（１）－５

「平成 30 年度英語学力テスト実施要項」

平成３０年度英語学力テスト実施要領（案）

平成 30 年 11 月 13 日
第 18 回　教務委員会
議　題　2　資　料

１．目　　的　グローバル化に対応できる国際的コミュニケーション能力を持つ技術者を育てるのに、実用的英語能力を高めることは必須条件であり、その方策の一つとして本校では、外部試験を平成１６年度から導入している。外部試験を定期的に受験することによって、出題範囲や受験者が狭く限定された校内での中間・定期試験とは異なり、年毎の各自の総合的な英語力の伸長度が、世間の客観的な評価基準に基づいて把握できる。従って、その後の英語学習への目標設定がしやすくなり、平常の英語学習への動機付けを高めることも可能となる。さらに、JABEE 目標や本校中期目標へ到達するための目安ともなる。

２．実施日時　１２月１０日(月)　１３時２５分～１５時５１分（最大）

３．実施時間帯
１～３年生：
１３時２５分～１４時３６分
事前準備＆データ記入２０分＋試験約４５分＋待機６分
（筆記２５分＋リスニング約２０分）

４，５年生、専攻科１，２年生：
１３時２５分～１５時５１分
事前準備＆データ記入２５分＋試験１２１分
（リスニング４６分＋筆記７５分）

※英語学力テストは学校行事の一環として実施するものであり、英語ⅣＣや英語ⅤＣの授業を単位認定により受講していない者も含めて、全学生が受験しなければならない。

４．使用テスト
１～３年生：
英検ＩＢＡ（テストＢ）＝ EIKEN Institution Based Assessment
実用英語検定の１次試験とほぼ同形式になっており、検定教科書を用いた本校低学年の英語授業の達成度評価にも使える。また試験結果から各自の英検相当級が表示されるので、学生にとっても馴染みやすい。テストＢでは、２級・準２級・３級の３レベルから出題される。

４，５年生、専攻科１，２年生：
ＴＯＥＩＣ－ＩＰ
TOEIC の過去問題を利用したもので、問題内容やスコア算出方法は TOEIC の本試験と全く同じである。安価で任意の時期に実施できるため、全国の多くの会社や学校で団体受験用に利用されている。

５．実施場所　各クラスの講義室（専攻科は大講義室）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　平成３０年度第１８回教務委員会）

資料３－２－②－（２）－１

「学生相談室の利用状況について」

Ⅲ　学生相談室について　　― 平成３０年度総括 ―

１．担当者・担当日

（１）担当者
学生相談室長　栗山　昌樹（都市・環境系）
学生相談室員　高澤　幸治（M系）、奥田　弥生（S系）、奥山　由（A系）
山口　和美（総合自然科学系）、原田　恵雨（J系）、漆原　弘美（学生課 看護師）、
非常勤カウンセラー等　山根　　忠（精神保健福祉士：苫小牧緑ヶ丘病院）
髙橋　朋康（臨床心理士：苫小牧緑ヶ丘病院）
土田　和世（言語聴覚士）
アドバイザー　片岡　昌敬（精神科医：苫小牧市植苗病院 理事長）

（２）担当日
＜前期相談体制　場所：学生相談室＞
月曜日：栗山・山口・*土田*　　火曜日：奥山・原田・*高橋*
水曜日：栗山・山口・*山根*　　木曜日：高澤・奥山・（*山根・高橋・土田*）
金曜日：奥田・奥山・原田
＜後期相談体制　場所：学生相談室＞
月曜日：奥田・山口・*土田*　　火曜日：奥田・原田・奥山・*山根*
水曜日：山口・高澤・*高橋*　　木曜日：高澤・奥山・（*山根・高橋・土田*）
金曜日：山口・栗山

※　開室時間：15 時～17 時、　カウンセラー来校時刻：14 時 30 分、　看護師は随時対応。
教員は相談室の他、教員室でも随時対応。
※　山根・高橋両カウンセラーは、通常当番日の他に隔週木曜日（各１回）に来校。
※　土田言語聴覚士は、前期は毎週月曜日、後期は月曜の他に、昨年から月１回木曜日にも来校。
※　カウンセラーには必要に応じて長期休業中にも対応を依頼。

２．学生相談室の現状

（１）相談内容・件数（単位：件数）

対応者	対応日時	修学面	進路	経済面	対人	精神面	健康面	その他	合　計	メール・電話
カウンセラー	週2回、各2時間	0	0	0	0	159	0	0	159	0
言語聴覚士	週1回、各2時間	90	0	0	0	0	0	0	90	0
教　員	週5回、各2時間	54	4	0	12	60	2	0	132	0
看護師	毎　日	166	4	0	13	243	13	0	439	12
合　計		310	8	0	25	462	15	0	820	12
(H29)		271	3	0	41	703	27	5	(1058)	(25)

※「こころと体の健康調査」関連面談含む。　　※※ その他：卒業生、中退退学者、保護者、教職員等。

（次ページへ続く）

資料３－２－②－（２）－１（続き）

（２）カウンセラー対応の相談者数（単位：人）

学　年		１年	２年	３年	４年	５年	専攻科	その他	合　計		(H29)
実人数	男	8	19	2	4	5	0	7	45	66	(67)
	女	2	6	3	6	0	0	4	21		
延人数	男	33	25	2	19	18	0	8	108	159	(179)
	女	6	18	15	8	0	0	4	51		

（３）カウンセラー対応の月別相談者延べ人数（単位：人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合 計
１年	2	5	5	5	0	0	8	5	4	5	0	0	39
２年	3	4	4	4	0	0	19	7	4	1	0	0	46
３年	1	0	0	2	0	0	3	5	3	1	2	0	17
４年	2	3	6	2	0	0	4	3	2	4	1	0	27
５年	1	2	2	5	0	0	0	3	2	2	1	0	18
専攻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	1	1	3	0	0	1	1	1	1	1	0	12
合 計	11	15	18	21	0	0	35	24	16	14	5	0	159

（４）言語聴覚士対応の訓練・相談者数（単位：人）

学　年		１年	２年	３年	４年	５年	専攻科	その他	合　計		(H29)
実人数	男	1	3	1	1	1	0	0	7	8	(11)
	女	0	0	0	0	0	1	0	1		
延人数	男	11	20	18	15	7	0	0	71	90	(100)
	女	0	0	0	0	0	19	0	19		

（５）看護師（相談室員）対応の相談者数（単位：人）

学　年		１年	２年	３年	４年	５年	専攻科	その他	合　計		(H29)
実人数	男	19	23	8	7	9	1	21	88	138	(117)
	女	4	17	5	7	4	0	13	50		
延人数	男	55	31	13	93	86	1	44	323	439	(632)
	女	28	31	12	14	4	0	27	116		

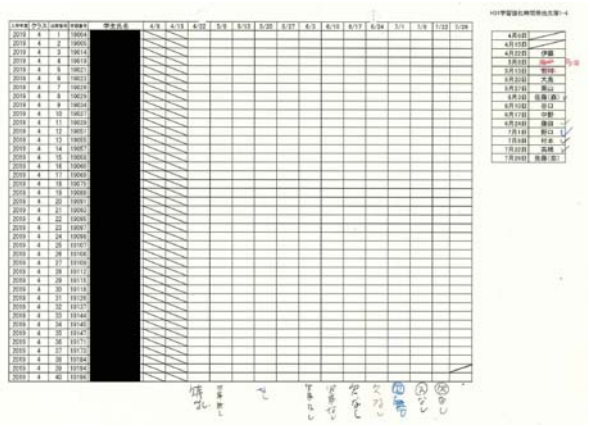
※ 談話：360 人（H29：279 人）、　診査：49 人（H29：37 人）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　平成３０年度厚生補導研究会資料）

資料３－２－②－（２）－２

「平成 31 年度学修強化時間帯出欠簿」



（出典　学生課保存資料）

資料３－２－②－（３）－１

「学生の要望に関する手続き」

13. 学生の要望に関する手続き

学生の皆さんからの要望は、以下のような手順で改善に努めます



(1) 受け付ける要望は、本校の施設や設備を含めた教育システムに関わるものです。

(2) 皆さんの要望を受け付ける窓口は基本的に以下のとおりです。
(ｱ) 授業などに関すること：担任・専攻科主任、科目担当者
(ｲ) 施設・設備などに関すること：学生会(学生主事)、専攻科長
(ｳ) 規則などに関すること：学生会(学生主事)、専攻科長
※そのほか、何かありましたら担任の先生などに相談してみてください。

(3) 要望を受けた教職員は、それがいつ、どこに伝えられ、その結果どうなったかを要望を出した本人に報告します。
(ｱ) 要望の内容によっては、その結果を全学生に周知することがあります。
(ｲ) 要望の内容によっては、検討や改善に時間がかかることがあります。その場合には要望者にその旨を伝えることになっています。
(ｳ) 要望として適切ではない場合には、要望として受け付けないこともあります。ただし、このような場合には要望として受け付けないことを要望者にはっきり説明します。

(4) 施設・設備や学校のルールなどに関することは、年２回程度、学生会が取りまとめて学生主事に要望を提出してもらいます。専攻科の皆さんは、専攻科主任に相談してください。

(5) 要望の受付・報告書は、学生課学生係にあります。要望のあるときは、この用紙に記載して関係窓口に提出してください。

（出典　学生便覧）

資料３－２－②－（３）－２

「学生との懇談会について」

平成３０年度　校長懇談会「学生からの要望」に対する回答案について

【交通】
・高速通学バスの本数を増やして欲しい（１８時ごろなど）**（学生課学生係）**
→運行本数を増やすことは不可能ではないと思いますが，当該時刻に運行する車両及び運転手（待機を含む）が増えることから，当然，バス料金の値上げが見込まれます。学生会で利用者アンケートを行うなど全体の意見集約をしたものを学生課に提出してください。
・学生臨時便 16:20 を早めて欲しい**（学生課学生係）**
→平成２７年度も同様の要望をいただきましたが，学校として運行時刻の変更をバス会社に提出することは可能ですので，学生会で利用者アンケートを行うなど全体の意見集約をしたものを学生課に提出してください。
・他のバス会社と契約して欲しい**（学生課学生係）**
→（高速通学バスであることを前提として）現在，高速通学バスを運行している「はな交通」は事業所が本校から近いので，復路便の利用学生の乗車状況に応じた運行車両の増便など臨機な対応が可能です。
一方，他のバス会社と契約した場合，復路便の運行車両の増便に対応するための車両及び運転手の待機に伴うバス料金も値上げも予想されますので，他のバス会社と契約して欲しい具体的な理由を示してください。

【テスト関係】
・中間テストを定期試験のような，テスト期間にして欲しい**（学生課教務係）**
→特別時間割期間に中間テストを実施するか否かは授業を担当する教員に任せられており，中間テストは実施の有無に関わらず授業時間数にカウントされます。一方，定期試験は授業時間数にはカウントされませんので，中間テストを定期試験期間として同様に取り扱うことはできません。
・テスト期間中に創造工学の時間を取るのを止めて欲しい**（学生課教務係）**
→前述のとおり，特別時間割期間は定期試験期間ではないため，中間テストを実施しない創造工学などの授業科目については通常どおり授業が実施されることがありますので，ご了解ください。
・家での学習があるので金曜の学習強化時間を削除して欲しい**（学生課教務係）**
→学習強化時間は本校が１年生のうちに身に付ける必要がある学習内容であり，「家での学習」より優先されるものですので，「家での学習」は学習強化時間以外の時間に行ってください。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生課資料）

資料３－２－②－（３）－３

「意見投書箱について」

教職員，学生及び保護者の皆様へ

本校における学校運営等に関する課題・問題点を早期に把握し，その改善に資することを目的として，『苫小牧高専意見箱』を開設しております。皆様からの率直なご意見，ご要望，ご指摘をお待ちしております。
なお，電話によるご意見はお受けできかねますので，あらかじめご了承ください。

電子メールによる提出の場合
ikenbako@tomakomai-ct.ac.jp までお寄せください。
メールの題名は「苫小牧高専意見箱について」としてください。
※　ご意見等につきましては，必ず下に示す様式に記入の上，ファイルを電子メールに添付して提出していただきますようお願いいたします。

郵送による提出の場合
〒059-1275
苫小牧市字錦岡４４３番地
苫小牧工業高等専門学校総務課「意見箱」に関する担当宛
※　郵送による場合も，ご意見につきましては必ず以下に示す様式に記入の上，提出していただきますようお願いいたします。

意見箱提出様式（PDF／Word）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料３－２－③－（１）

「外国人留学生規則」

苫小牧工業高等専門学校外国人留学生規則

規則第26号
制　　定　平成３年２月18日
一部改正　平成４年４月１日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成28年２月23日

（趣旨）
第１条　この規則は，苫小牧工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第53条第２項の規定に基づき，外国人留学生（以下「留学生」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（定義）
第２条　この規則において留学生とは，出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）別表第１の４の表の留学の在留資格をもって本邦に在留する外国の国籍を有する者で，本校に入学を許可された者をいう。

（区分）
第３条　留学生は，次の各号に区分する。
一　国費外国人留学生
二　外国政府派遣留学生
三　私費外国人留学生

（入学）
第４条　留学生は定員外とし，第３学年に入学を許可するものとする。
２　留学生の入学の時期は，学年の始めとする。

（検定料等の免除）
第５条　国費外国人留学生の検定料，入学料及び授業料は，国費外国人留学生留学生制度実施要項（昭和29年３月31日文部大臣裁定）第11条第１項の規定に基づき徴収しない。

（教育課程）
第６条　留学生の第３学年における教育課程は，一般科目，専門科目及び特別活動とし，一般科目及び専門科目については，学則第14条の規定にかかわらず，各留学生ごとに特別に編成することができるものとする。
２　留学生の第４学年及び第５学年における教育課程は，原則として学則第14条の規定するところによるものとする。

（外国人留学生指導教員）
第７条　留学生に対し学習及び生活面等における指導及び助言を行うため，留学生ごとに

（事項に続く）

資料３－２－③－（１）（続き）

外国人留学生指導教員（以下「指導教員」という。）１名を置くものとする。
２　指導教員は，留学生が所属する学科の教員の中から，当該学科長の推薦に基づき，校長が命ずる。

（外国人留学生相談員）
第８条　留学生の学習上の援助及び日常生活上の助言等を行うため，原則として，入学後２年以内の留学生に対して外国人留学生相談員（以下「チューター」という。）を置くものとする。
２　チューターは，原則として，留学生が所属する系の学生の中から，当該学科長の推薦に基づき，校長が委嘱する。
３　チューターは，適宜，留学生の相談に応ずるとともに，定期的に指導教員に連絡し，その指導を受けるものとする。

（住居）
第９条　留学生は，原則として学生寮に入寮するものとする。

（事務）
第10条　留学生に関する事務は，学生課で処理する。

（学則等の準用）
第11条　この規則に定めるもののほか，留学生に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則
この規則は，平成３年２月18日から施行する。
附　則
この規則は，平成４年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成14年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成28年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校外国人留学生規則）

資料３－２－③－（２）－１

「入学式当日の時間配当〔留学生〕」

入学式当日の時間配当表

〔留学生〕

4月3日（水）

	留学生		チューター		担任	
9:00	当日の説明	教員室	当日の説明	教員室	当日の説明	教員室
9:25	第一体育館へ移動		第一体育館へ移動		留学生等引率（第一体育館）	
9:35	入学式 9:40～10:30	第二体育館	入学式 9:40～10:30	第二体育館	入学式 9:40～10:30	第二体育館
10:30	１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		１年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介	
10:40	教員室へ移動		教員室へ移動		教員室へ移動	
10:50						
11:00	担任の話	教員室	担任の話	教員室	担任の話	教員室
11:10						
11:30	中講義室へ移動		中講義室へ移動		中講義室へ移動	
11:40	学生証明写真撮影	中講義室				
11:50	※学生証明写真撮影後は解散になります。					

（出典　平成 31 年度第１回教務委員会資料）

資料３－２－③－（２）－２

「留学生科目シラバス」


高専Webシラバス
ホーム ／ 苫小牧工業高等専門学校 ／ 創造工学科（情報科学・工学系） ／ 情報基礎Ⅱ
情報基礎Ⅱ
PDF表示
科目基礎情報
学校　苫小牧工業高等専門学校　開講年度　平成31年度 (2019年度)
授業科目　情報基礎Ⅱ
科目番号　0029　科目区分　専門 / 必修
授業形態　演習　単位の種別と単位数　履修単位: 1
開設学科　創造工学科（情報科学・工学系）　対象学年　3
開設期　後期　週時間数　2
教科書/教材　参考図書：誰かに出来「学習から学べる論理回路」（森北出版）、「C言語プログラミング（インフォテックサーブ）」、集団記号表「新・明解C言語によるアルゴリズムとデータ構造」（ソフトバンククリエイティブ）
担当教員　大西 幸宏
到達目標
1. 専門科目理解に必要なハードウェアに関する課題を解答できる。
2. 専門科目理解に必要なソフトウェアに関する課題を解答できる。
ルーブリック
理想的な到達レベルの目安 / 標準的な到達レベルの目安 / 未到達レベルの目安
1. 専門科目理解に必要なハードウェアに関する課題を解答できる。 / 専門科目理解に必要なハードウェアに関する達成目標を有し、その達成目標説明に活用できる。 / 専門科目理解に必要となる基本的なハードウェアに関する達成目標を有し、その達成目標説明に活用できる。 / 専門科目理解に必要となるハードウェアに関する達成目標を有しているが、その達成目標説明に活用できない。
2. 専門科目理解に必要なソフトウェアに関する課題を解答できる。 / 専門科目理解に必要なソフトウェアに関する達成目標を有し、その達成目標説明に活用できる。 / 専門科目理解に必要となる基本的なソフトウェアに関する達成目標を有し、その達成目標説明に活用できる。 / 専門科目理解に必要となるソフトウェアに関する達成目標を有しているが、その達成目標説明に活用できない。
学科の到達目標項目との関係
教育方法等
概要:
本講義は、第３学年に編入学した外国人留学生を対象とする。そのため、第３学年以降の専門科目理解に必要な基礎知識の教授を目的とし、必要に応じてコンピュータハードウェア・ソフトウェアに関する内容を取り上げる。
授業は、板書と資料・実習・実験を組み合わせて行う。
授業の進め方と授業内容・方法:
板書にて実施する。資料・実習・実験のいずれかによる課題を課し、課された課題に対して提出された内容を評価する。
公休の扱い:
注意点:
原則毎回の応じて、プログラミング、ソフトウェアデザイン演習、論理回路、計算機システム等の教科書・ノート等を携帯すること。また、下記の参考書等を用いて、演習・実習・実験に必要な事項に関する予習・復習に取り組むこと。
授業計画
週 / 授業内容・方法 / 週ごとの到達目標
1週 / 専門科目理解に必要なハードウェアあるいはソフトウェアに関する内容 / 専門科目理解に必要なハードウェアあるいはソフトウェアに関する課題を解答できる。

（以下略）

（出典　高専 Web シラバス）

資料３－２－③－（２）－３

「外国人留学生一覧」

平成31年度 外 国 人 留 学 生 一 覧

苫小牧工業高等専門学校
平成31年4月1日現在

学年	学科	氏名・フリガナ	性別	生年月日	年齢	国籍
第3学年	都市・環境系	ラオルー・チョジン(チョジン) LAOLUE CHEROJONG	[redacted]			
学生番号	担任	チューター 現住所				
		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第3学年	応用化学・生物系	ムハンマド ミラシャ ビン スルタン アラウディン(シャ) MUHAMMAD MIERASHAH BIN SULTAN ALAWDEEN				
学生番号	担任	チューター 現住所				
		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第3学年	情報科学・工学系	ガンズルフ ビルグーン(ベルギ) GANZURKH BILGUUN				
学生番号	担任	チューター 現住所				
		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第4学年	都市・環境系	タイ アン ミン(タイ) TAY THENG MIN				
学生番号	担任	チューター 現住所				
16209		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第4学年	応用化学・生物系	プレブドルジ ウーガンエルデネ(オーガ) PUREVDORJ UUGAN-ERDENE				
学生番号	担任	チューター 現住所				
16210		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第4学年	情報科学・工学系	ロブサンダグワ ビルグーン(ビルグーン) LUVSANDAGVA BILGUUN				
学生番号	担任	チューター 現住所				
16211		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第5学年	機械工学科	アルヴィン アラン アポイ(アラン) ALVIN ALLAN APOI				
学生番号	担任	チューター 現住所				
15141		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第5学年	情報工学科	ビャンバジャブ ムンフエルデネ(ムンフ) BYAMBAJAV MUNKH-ERDENE				
学生番号	担任	チューター 現住所				
15341		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第5学年	環境都市工学科	ジョン プジア ツー センジョン) JOHN PHUA TZE SENG				
学生番号	担任	チューター 現住所				
15541		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
学年	学科	氏名・フリガナ				
第5学年	環境都市工学科	トゥムルバータル バーサンドルジ(バース君) TUMURBAATAR BAASANDORJ				
学生番号	担任	チューター 現住所				
15542		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				
【参考】ASSO東京日本語教育センターにおいて予備教育中						
学年	学科	氏名・フリガナ				
第一学年	(都市・環境系)	バトチュルーン ムンフチメグ BATCHULUUN MUNKHCHIMEG				
学生番号	担任	チューター 現住所				
		059-1275 苫小牧市字錦岡443番地365 苫小牧高専学生寮				

（出典　学生課資料）

資料３－２－③－（２）－４

「留学生懇談会」

寮　務　主　事
各留学生在籍学級担任　殿
各　留　学　生

学生委員会委員長（学生主事）

留学生懇談会の開催について（通知）

標記懇談会を下記のとおり開催しますので，出席願います。

記

日　時　　平成３０年　７月２３日（月）１５時５０分から
場　所　　大講義室
内　容　　１．夏季休業期間における留学生の指導について
　　２．その他

（出典　学生課資料）

資料３－２－③－（３）

「苫小牧工業高等専門学校教員組織等規程」

第14章　学級担任・学級副担任・学年代表

第28条　本校の各学級に学級担任を置き，教員をもって充てる。
２　学級担任は，次の事項に関することを掌理する。
　一　当該学級の学生の教育指導，生活指導及び厚生補導に関する事項
　二　当該学級の教務に関する事項
　三　当該学級の学生の特別活動に関する事項
　四　その他当該学級の運営に関する事項
第29条　学級担任の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
第30条　学級担任を補佐するため，校長が必要と認めたときは，教員のうちから学級副担任を置くことができる。
第31条　学級副担任の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

第32条　本校に学年代表を置く。学年代表は，各学年の学級担任の互選による。
２　学年代表は，各副校長及び各系長と連絡調整のうえ，学年の運営に関することを掌理するとともに，担当する学年の学級担任及び他の学年代表との連絡調整にあたる。
第33条　学年代表の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（出典　苫小牧工業高等専門学校教員組織等規程第 28 条～第 33 条）

資料３－２－③－（４）－１

「編入学生入学前送付文書」

添□付□資□料□一□覧

資料□１．Guide-Book-2018
資料□２．平成２８年度□学校要覧
資料□３．平成２８年度□学生便覧
資料□４．平成２８年度□シラバス（電気電子工学科）
資料□５．平成２８年度前・後期授業時間割
資料□６．教務係からの連絡事項
資料□７．一般選択科目の希望調査について
資料‥８．数学の学習について
資料‥９．平成２９年度編入学生の皆さんへ（苫小牧高専□英語科）
資料１０．電気電子系長からの連絡

注１）資料３．４．５については参考資料として送付します。平成２９年度版については，入学後にお渡ししますので，参考程度にご覧ください。

（出典　教務係作成資料）

資料３－２－③－（４）－２

「入学式当日の時間配当〔編入生〕」

入学式当日の時間配当表

〔編入生・転入生〕

4月5日（水）

	新入生		保護者		担任	
830	受付	学生控室	受付	学生控室		
900	当日の説明	共用講義室（G221）	第二体育館へ移動		当日の説明	共用講義室（G221）
925	第一体育館へ移動				第一体育館へ移動	
935	入学式 940～1030	第二体育館	入学式 940～1030	第二体育館	入学式 940～1030	第二体育館
1030	1年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		1年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介		1年担任紹介 専攻主任紹介 副校長紹介 学生相談室紹介	
1040	共用講義室（G221）へ移動		校長の話		共用講義室（G221）へ移動	
1050						
1100	担任の話	共用講義室（G221）	保護者紹介		担任の話	共用講義室（G221）
1110						
1130			共用講義室１へ移動			
1140	申請昇室へ移動					
1150	学生証明書撮影	申請昇室	学務担任との懇談	共用講義室（G221）	学務担任との懇談	共用講義室（G221）
1200	ガイダンス（教科主事補担当）	申請昇室				
1235	※ガイダンス及び学務担任との懇談終了後は解散になります。 １２時３５分から 学術情報センター（図書館）ロビーで教材並びにJR高速通学パスの定期券の販売を行います。 確認下さい。 （通学パス売場は小牧駅ふれんどビル１Fで販売しています。）					

備考
1．編入生・転入生は受付終了後，自分の教室（共用講義室Ｇ２２１）で待機してください。
2．保護者の方は受付終了後，直接「第二体育館」へ移動してください。

（出典　平成 29 年度第１回教務委員会資料）

資料３－２－③－（４）－３

「オフィスアワーについて」

令和元年９月

学　生　各　位

教　務　主　事
専　攻　科　長

平成３１年度後期　オフィスアワーについて

本校では，学生の皆さんが授業の内容や学習上の問題等について，質問や相談ができるようオフィスアワーを設定しています（オフィスアワーの時間帯は，授業時間割に明記していますので，確認してください）。

学生の皆さんは，このオフィスアワーを大いに活用して，充実した学生生活を送るための一助としてください。

なお，非常勤の先生が担当する科目についても，以下のとおり本校の先生が代わりに対応します。

非常勤講師氏名	科目名	担当クラス	期間	本校対応教員氏名
秋野　志保	英語ⅡＢ	２年３～５組	通年	松田　泰保
アンドレア・畠山	第二外国語Ｂ	４～５年一般選択	後期	堀　登代彦
上木　政美	数学ⅠＡ	１年４組	通年	有馬　隆司
上木　政美	数学ⅡＡ	２年３組	通年	有馬　隆司
大内まり絵	物理Ⅱ	３年１組，３組，５組	通年	加藤　初儀
加藤　広貴	美術	全１年	後期	松田　泰保
加島　正	機械力学	４年１組	後期	菊田　和重
金澤　範雄	数学ⅠＢ	１年１～２組	通年	藤島　勝弘
小鹿　正夫	数学ⅡＢ	２年１組	通年	村本　充
小鹿　正夫	数学ⅡＢ	２年５組	後期	村本　充
千葉理恵子	音楽	全１年	後期	松田　泰保
長田　光司	化学Ⅱ	２年２組，５組	通年	大島　和浩
長田　光司	地球科学概論	５年一般選択	後期	長澤　智明
長谷川博一	電気電子計測	４年４組	後期	工藤　彰洋
原田直保美	国語Ⅲ	３年２組	通年	夢沼　正美
藤澤　俊文	数学ⅡＢ	２年２組，４組	通年	金野　幸吉
牧之内　友	歴史	２年１～２組	通年	坂下　俊彦
宮崎　晃行	保健	１年３組，５組	通年	多賀　健
村上　明子	経済学	４一般選択	後期	多田　光宏
村上　明子	現代日本経済論	専２	後期	多田　光宏
望月　直子	書道	全１年	後期	松田　泰保
山田　進	光エレクトロニクス	Ａ５	後期	工藤　彰洋

（出典　オフィスアワーについて）

資料３－２－③－（７）－１

「学生の修学支援に関する要項」

苫小牧工業高等専門学校における学生の就学支援に関する要項

制　　定　平成19年３月19日
一部改正　平成21年５月19日

（目的）
第１条　この要項は，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学生（研究生，科目等履修生，特別聴講学生，外国人留学生を含む。以下同じ。）の就学支援に係る基本的事項を定めることを目的とする。

（定義）
第２条　この要項において「支援」とは，本校の教育課程上必要な学校内での日常的活動に係る支援をいう。
２　この要項において「支援を必要とする学生」とは，次の各号のいずれかに該当する者をいう。
一　身体等に不自由があり障害者手帳を有する者，又はそれに準ずることを示す診断書を有する者で，本人が支援を受けることを希望し，かつその必要性が認められた者
二　疾病又は外傷等によって一時的に前号に準ずる状態になった者
三　発達障害又はそれに準ずる障害等によって就学上の困難を有する者で，本人が支援を受けることを希望し，発達障害等就学支援委員会（以下「就学支援委員会」という。）によりその必要性が認められた者
四　その他前三号に準ずる者

（入学者）
第３条　支援を必要とする学生の入学については，原則として入学試験委員会（外国人留学生にあっては運営委員会）がその状況を把握し，必要に応じて関係各委員会等に通知する。

（学科学生）
第４条　学科学生が支援を必要とするに至った場合には，当該学生の学級担任教員がその状況を把握し，必要に応じて関係各委員会等に通知する。
２　学科学生への支援に関しては，主として学生委員会がこれを掌理し，必要な措置を行う。ただし，発達障害等については，就学支援委員会がこれを掌理し，必要な措置を行う。

（専攻科学生）
第５条　専攻科学生が支援を必要とするに至った場合には，当該学生の所属する専攻の専攻主任教員がその状況を把握し，必要に応じて関係各委員会等に通知する。
２　専攻科学生への支援に関しては，主として専攻科委員会がこれを掌理し，必要な措置を行う。ただし，発達障害等については，就学支援委員会がこれを掌理し，必要な措置を行う。

（事項に続く）

資料３－２－③－（７）－１（続き）

（施設・設備等の措置）
第６条　学生への支援に係ることで，本校の施設・設備等に関する措置を要する場合には，運営委員会の議を経て必要な措置を行う。

（事務）
第７条　支援に関する事務は，学生課において処理する。

（自発的な支援）
第８条　この要項の定めるところは，本校の教職員または学生による，委員会等の議を経ないところの自発的な支援を妨げるものではない。

（雑則）
第９条　この要項に定めるもののほか，支援に関し必要な事項は，別に定める。

附　則
この要項は，平成 19 年３月 19 日から施行する。

附　則
この要項は，平成 21 年５月 19 日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校における学生の就学支援に関する要項）

資料３－２－③－（７）－２

「発達障害等就学支援委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校発達障害等就学支援委員会規程

規則第78号
制　　定　平成21年５月19日
一部改正　平成21年７月14日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校に，発達障害等の障害のある学生に対する支援を行う発達障害等就学支援委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）
第２条　委員会は，発達障害等の障害のある学生の就学支援について審議し，関係委員会及び関係教職員と連携し必要な支援を行うことを目的とする。

（業務）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議するほか，支援に必要な業務を行う。
一　支援対象学生の決定及び支援方針等に関すること。
二　サポートチームの設置及び構成員に関すること。
三　発達障害等のある学生の支援にかかる研修に関すること。
四　その他発達障害等のある学生の支援に関して必要と認められること。

（組織）
第４条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（教務主事）
二　副校長（学生主事）
三　学生相談室長
四　学生相談室員
五　学生課長
六　その他校長が指名した者

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，副校長（学生主事）をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長は，支援対象学生ごとにサポートチーム構成員を指名する。
４　委員長が不在のときは，あらかじめ委員長が指名した委員が職務を代行する。

（サポートチーム）
第６条　サポートチームは，次の各号に掲げる教職員等をもって構成する。
一　学生相談室関係者
二　当該学生のクラス担任（ただし，対象学生が専攻科生の場合は専攻主任）

（事項に続く）

資料３－２－③－（７）－２（続き）

三　その他委員長が特に必要と認めた者
第７条　サポートチームにリーダーを置き，サポートチーム構成員から委員長が指名する。
２　リーダーは，対象学生の障害等の状況を的確に把握し，サポートチームによる支援を統括する。
第８条　サポートチームは，次の各号に掲げる業務を行う。
一　教科担当者等関係教職員と連携・協力した支援計画の作成・実施及び記録等の作成
二　対象学生の保護者との連絡・調整及び協力体制の構築
三　必要に応じ外部の関係機関等との連携・協力体制を構築
四　所属クラスの学生への対応等，対象学生の就学環境の整備
五　その他対象学生の支援に必要と思われる業務

（アドバイザー）
第９条　委員会にアドバイザーを置き，学生相談室カウンセラーをもって充てる。
２　アドバイザーは，専門的な見地から，就学支援にかかる助言を行う。

（委員以外の出席）
第 10 条　委員長が必要と認めた時は，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。
２　委員長は，支援対象学生の決定，サポートチームの設置及び構成員に関することを審議するときは，当該学生のクラス担任及び関係学科長等を出席させる（ただし，対象学生が専攻科生の場合は専攻主任及び専攻科長とする。）。

（事務）
第11条　委員会の事務は，学生課において処理する。

（雑則）
第12条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
この規程は，平成 21 年５月 19 日から施行し，平成 21 年４月１日から適用する。
附　則
この規程は，平成 21 年７月 14 日から施行し，平成 21 年５月 19 日から適用する。
附　則
この規程は，平成 27 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 28 年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校発達障害等就学支援委員会規程）

資料３－２－③－（８）

「支援サポートチームメンバー一覧」

平成31年度　就学支援対象学生一覧

	学生氏名		担　任	寮務主事	学生相談室員	リーダー（系長）	備　考
1	[redacted]	寮	坂下　俊彦	山際明利	原田恵雨	中野　渉	
2			坂下　俊彦		松尾優子	中野　渉	
3			坂下　俊彦		三河佳紀	中野　渉	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ（CO）
4		寮	坂下　俊彦	山際明利	佐沢政樹	中野　渉	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ（CO）
5			藤島　誠弘		中野　渉	松田奏保	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ（CO）
6			東　俊文		中野　渉	松田奏保	
7		寮	金野　幸吉	山際明利	中野　渉	松田奏保	新規（2019.10.24）
8		寮	金野　幸吉	山際明利	中野　渉	松田奏保	
9		寮	池田　慎一	山際明利	大島和浩	見藤　歩	
10		寮	池田　慎一	山際明利	佐沢政樹	見藤　歩	
11			樫村　奈生		大島和浩	平野　博人	
12			樫村　奈生		大島和浩	平野　博人	
13			中村　嘉彦		三河佳紀	中村　廉郎	会話訓練（CO）
14		寮	中村　嘉彦	山際明利	三河佳紀	中村　廉郎	
15			中村　嘉彦		三河佳紀	中村　廉郎	言語訓練（ST）
16		寮	中村　嘉彦	山際明利	大島和浩	中村　廉郎	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ（CO）
17			夢沼　正美		原田恵雨	見藤　歩	言語訓練（ST）
18			堀　登代彦		松尾優子	八田　茂実	
19		寮	清水　祐一	山際明利	大島和浩	平野　博人	
20		寮	加藤　初儀	山際明利	佐沢政樹	奈須野　裕	
21			多田　光宏		原田恵雨	中村　廉郎	会話訓練（CO）
22		寮	多田　光宏	山際明利	原田恵雨	中村　廉郎	会話訓練（CO）
23			高澤　幸治		三河佳紀	見藤　歩	
24			渡辺　暁央		松尾優子	八田　茂実	新規（2019.8.15）
25		寮	渡辺　暁央	山際明利	松尾優子	八田　茂実	
26			渡辺　暁央		松尾優子	八田　茂実	
27			奥田　弥生		大島和浩	平野　博人	言語訓練（ST）
28			原田　恵雨		三河佳紀	中村　廉郎	言語訓練（ST）
29			雷摩　栄路		三河佳紀	見藤　歩	
30			上田　茂太		佐沢政樹	奈須野　裕	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ（CO）
31			三上　剛		三河佳紀	中村　廉郎	
32		寮	三上　剛	山際明利	三河佳紀	中村　廉郎	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ（CO）
33			三上　剛		三河佳紀	中村　廉郎	
34			三上　剛		三河佳紀	中村　廉郎	
35		寮	下タ村　光弘	山際明利	松尾優子	八田　茂実	

（出典　平成 31 年度第１回発達障害等就学支援委員会資料）

資料３－２－③－（９）

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」

苫小牧工業高等専門学校における
障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領

制　　定　平成29年１月25日
校　　長　　裁　　定

１．目的等
（１）目的
この対応要領は，障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号），障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針（平成 27 年２月 24 日閣議決定）及び独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消に関する対応要領（以下「機構対応要領」という。）等の関係法令に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における対応に必要な事項を定めるものである。
（２）監督者
① 本校における監督者は，機構対応要領第５条に定めるとおり，校長とする。
② 監督者は，本校における対応のすべてを総括する。
③ 監督者は，機構対応要領第８条第２項に定める研修等の実施を関係委員会・関係部署に指示する。
④ 監督者は，ウェブサイト等で本校の対応等について公表するとともに，学生及び学生の保護者に周知を行う。
（３）相談窓口
機構対応要領第７条第１項に定める相談窓口は次のとおりとする。
・学生用相談窓口：学生課
・学生の保護者用相談窓口：学生課
・学外者（一般）用相談窓口：総務課
・教職員用相談窓口：総務課

２．学生及び学生の保護者対応
（１）学生及び学生の保護者からの相談や「合理的配慮の提供」に係る申請について，学生課が相談窓口となり，相談や申請の内容に合わせて関係委員会・関係部署に連絡する。
なお，本校受験の際に受験上の配慮について障害に係る申出があった場合は，入学試験委員会より関係部署に連絡し，情報を共有する。
（２）連絡のあった関係委員会・関係部署において，配慮について申請のあった学生への「合理的配慮」についての情報を取り纏めた後，発達障害の学生については発達障害等就学支援委員会において「合理的配慮の提供」について審議し，発達障害の学生毎に定められたサポートチームにおいて対応する（発達障害等就学支援委員会規程による）。
身体障害の学生については学生委員会（専攻科生は専攻科委員会）において「合理的配慮の提供」について審議し，配慮義務及びその内容を関係者に通知し情報を共有する。
学習面での配慮が必要と考えられる場合については，教務委員会（専攻科生は専攻科委員会）において「合理的配慮の提供」について審議し，配慮義務及びその内容を関係者に通知し情報を共有する。

（事項に続く）

寮生活での配慮が必要と考えられる場合については，寮務委員会において「合理的配慮の提供」について審議し，配慮義務及びその内容を関係者に通知し情報を共有する。

また，障害の程度によっては身体的なサポートや設備的な対応などを関係各所で行い，その他配慮が必要な状況がある場合については，関係委員会・関係部署と協議し対応する（苫小牧工業高等専門学校における学生の就学支援に関する要項による）。

（３）発達障害の学生に対しては主としてサポートチームが，身体障害の学生に対しては主に担任が定期的に面談等を行い，学習や高専生活における状況を確認し，対応の必要性がある場合は関係委員会・関係部署等と協議し対応する。

（４）学校医・アドバイザー（カウンセラー）は，学生対応に係る諸問題について，関係委員会・関係部署に対し助言を行う。

（５）障害を持つ学生及び学生の保護者が，本校の対応に対して異議申し立てをする場合については，相談窓口を学生課とし，申立ての内容を関係委員会・関係部署に連絡する。連絡を受けた関係委員会・関係部署は早急に対応案を検討し，その責任者が申立者に結果を連絡する。

（６）前述の内容について，「合理的配慮」の提供に当たっては，学生及び学生の保護者と関係委員会・関係部署が，建設的対話による相互理解を通じて合意形成を図るよう努める。

３．学外者及び教職員対応

（１）学外者及び教職員からの相談や「合理的配慮の提供」に係る申請について，総務課が相談窓口となり，スタッフ会議において「合理的配慮の提供」について審議し，必要に応じて関係委員会・関係部署へ連絡する。

（２）スタッフ会議は「合理的配慮の提供」に関して，必要に応じて弁護士等の学外者からの意見聴取を行う。

（３）スタッフ会議及び関係委員会・関係部署は必要に応じて面談等を行い，状況を確認のうえ，対応の必要性がある場合は協議し対応する。

（４）学外者及び教職員が，本校の対応に対して異議申し立てをする場合については，相談窓口を総務課とし，スタッフ会議で早急に対応案を検討し，申立者に結果を連絡する。

（５）前述の内容について，「合理的配慮」の提供に当たっては，学外者及び教職員とスタッフ会議及び関係委員会・関係部署が，建設的対話による相互理解を通じて合意形成を図るよう努める。

４．その他

この対応要領により難い場合は，監督者の判断により対応する。

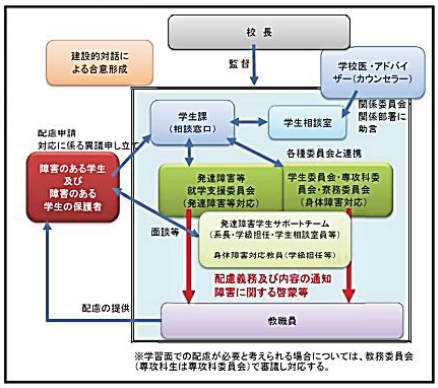
附　則

この対応要領は平成 29 年１月 25 日より施行し，平成 28 年４月１日から適用する。

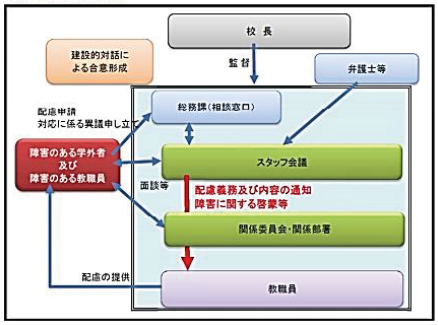
＊合理的配慮：障害者の権利に関する条約第二条においては，「合理的配慮」とは，「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し，又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって，特定の場合において必要とされるものであり，かつ，均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。

（事項に続く）

学生及び学生の保護者対応図



学外者及び教職員対応図



（出典　苫小牧工業高等専門学校における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領）

「学生委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校学生委員会規程

規則第30号
制　　定　平成６年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）

第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の学生の厚生補導及び福利施設の運営に関する事項を審議するため，学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　学生の団体，学生会活動及び学生生活に関する事項
二　学生の福利厚生に関する事項
三　学生の表彰及び懲戒に関する事項
四　入学料，授業料及び寄宿料の免除等に関する事項
五　独立行政法人日本学生支援機構奨学生の選考等に関する事項
六　課外活動に関する事項
七　福利施設の運営に関する事項
八　外国人留学生の指導に関する事項
九　その他学生の厚生補導に関する重要な事項

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　副校長（学生主事）
二　学生主事補
三　学生課長
四　その他校長が指名した者

２　必要に応じて副校長（寮務主事），副校長（専攻科長），各学級担任，体育担当教員及び各クラブ（同好会を含む。）顧問１名を委員として加える。

（任期）

第４条　前条第１項第四号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。

２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（次項に続く）

（定足数）

第６条　委員会の開催は，委員の５分の３以上の出席を必要とする。

（議事）

第７条　議事は，出席委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第８条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。

（部会）

第９条　委員長は，第２条に関する特定事項を検討するため，必要に応じ委員会に部会を置くことができる。

２　部会に部会長を置き，委員のうちから委員長が指名する。

３　部会は本校の教職員のうちから委員長が指名する者をもって組織する。

４　部会長は，検討結果を委員長に報告するものとする。

５　部会に関し，必要な事項は，委員長が別に定める。

（報告）

第10条　委員長は，委員会の審議の結果を校長に報告する。

（委員会の事務）

第11条　委員会の事務は，学生課において処理する。

（雑則）

第12条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則

この内規は，平成６年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成15年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成16年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は，平成18年４月１日から施行する。

２　苫小牧工業高等専門学校外国人留学生委員会内規（平成６年４月１日施行）は廃止す　。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校学生委員会規程）

資料３－２－④－（１）－２

「校専攻科委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程

規則第42号
制　　定　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成19年５月８日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，専攻科に関する事項を審議するため，専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教育課程に関する事項
二　教育計画及び授業時間の編成に関する事項
三　学生の退学，転学，休学，復学及び修了に関する事項
四　試験及び学業成績に関する事項
五　学生の進学及び就職に関する事項
六　学生の厚生補導に関する事項
七　その他専攻科の教務及び学生指導に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（専攻科長）
二　各専攻主任
三　学生課長
四　その他校長が指名した者
２　前条第一号及び第二号に関する事項について審議する場合は，副校長（教務主事）を，前条第六号に関する事項について審議する場合は，副校長（学生主事）を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第四号の委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，副校長（専攻科長）をもって充てる。

（次項に続く）

資料３－２－④－（１）－２（続き）

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長が不在のときは，専攻主任のうちあらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（定足数）
第６条　委員会の開催は，委員の５分の３以上の出席を必要とする。

（委員以外の者の出席）
第７条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。

（他委員会との連携）
第８条　本校の準学士課程と専攻科課程の教育課程等について，関連する事項を審議するため，必要に応じ，関係する委員会委員のうちから校長が指名した者をもって組織するワーキンググループを置くことができる。

（報告）
第９条　委員長は，委員会の審議の結果を校長に報告する。

（委員会の事務）
第10条　委員会の事務は，学生課において処理する。

（雑則）
第11条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
この内規は，平成15年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成16年４月１日から施行する。ただし，改正後の第３条第三号の規定は，平成17年度以後の委員について適用し，平成16年度の委員については，なお従前の例による。
附　則
この内規は，平成17年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成19年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成19年５月８日から施行する。
附　則
この規程は，平成27年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成28年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程）

資料３－２－④－（１）－３

「学生相談室規程」

苫小牧工業高等専門学校学生相談室規程

規則第22号
制　　定　昭和58年３月19日
全部改正　平成６年４月１日
一部改正　平成11年８月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成25年11月19日
一部改正　平成27年３月10日

（設置）
第１条　この規程は，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第12条の規定に基づき，本校に学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。

（目的）
第２条　相談室は，学生の個人的諸問題の相談に応じ，適切な助言及び援助を行うことを目的とする。

（業務）
第３条　相談室は，次の各号に掲げる業務を行う。
一　学生の修学に関する相談及び助言
二　学生の精神衛生上必要な相談，指導及び援助
三　学生のハラスメントに起因する苦情相談への対応
四　その他学生の個人的な相談に関する助言及び援助
五　学生相談の活動に必要な研究及び調査
六　前各号の業務に関する資料の保存
七　その他学生相談に必要な事項

（構成員）
第４条　相談室には，学生相談室長のほか，カウンセラー及び学生相談室員を置く。
２　カウンセラーは，学生相談に関する専門的知識，経験を有する者を，校長が委嘱する。
３　学生相談室員は，本校の教員及び看護師のうちから，校長が委嘱した者若干名をもって充てる。
４　学生相談室員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，補欠の学生相談室員の任期は，前任者の残任期間とする。

（業務の処理）
第５条　学生相談室長は，相談室を総括する。
２　カウンセラー及び学生相談室員は，第３条に掲げる業務を処理する。

（運営）

（次項に続く）

資料３－２－④－（１）－３（続き）

第６条　学生相談室長は，相談室の運営に当たっては，必要に応じ，各副校長と緊密な連携を図るものとする。

（秘密の保持）
第７条　相談室の構成員（以下「相談室構成員」という。）は，業務上知り得た個人的な事項については，その秘密を他に漏らしてはならない。

（相談室への連絡）
第８条　相談室構成員以外の教職員は，相談室の助言及び援助が必要と思われる学生を認めたときは，速やかに相談室構成員に連絡するものとする。

（相談室の事務）
第９条　相談室の事務は，学生課において処理する。

（雑則）
第10条　この規程に定めるもののほか，相談室の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
１　この規則は，平成６年４月１日から施行する。
２　この規則施行日において，相談室員の半数の任期は，第６条の規定にかかわらず，平成９年３月31日までとする。
附　則
この規則は，平成11年８月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成15年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成25年11月19日から施行する。
附　則
この規則は，平成27年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程）

資料３－２－④－（１）－４

「学生相談室ポスター」

学生相談室
Student Counseling Room

お話をしませんか

勉強、進路、交友関係、クラブ活動、
自分の性格など悩み多い学生生活ですが、
誰かに聞いてもらうだけで気持ちが楽に
なるものですよ。
相談内容の秘密は厳重に守ります。
安心して相談に来て下さい。



場　　所：鵬翔会館１階　　保健室
開設日時：月曜日～金曜日　15:00～17:00

令和元年度　後期　開室予定

	カウンセラー・言語聴覚士	学生相談室員
月	土田　和世(言語聴覚士)	大島　和浩　　漆原　弘美
火	永見　容子(カウンセラー)	佐沢　政樹　　三河　佳紀
水	高橋　朋康(カウンセラー)	松尾　優子　　三河　佳紀
木	山根　　忠(カウンセラー 月二回) 土田　和世(言語聴覚士　隔　週)	見藤　　歩　　三河　佳紀
金	永見　容子(カウンセラー 隔　週)	中野　　渉　　漆原　弘美

※次の教職員は当番日以外でも各教員室で相談に応じます。
三河(H306)　見藤(D313)　大島（F202）　佐沢(C308)　松尾（G310）
原田(H405)　中野(J421)　漆原（保健室）

メール相談も受け付け中　下記アドレスまたは相談室ＨＰからどうぞ。
✉ soudan@tomakomai-ct.ac.jp
相談室ＨＰへは苫高専ＨＰから「学生生活」→「学生相談室」と
進んでください。

（出典　学生相談室作成資料）

資料３－２－④－（１）－５

「ハラスメントの防止等に関する要項」

苫小牧工業高等専門学校におけるハラスメントの
防止等に関する要項

校長裁定　平成11年８月１日
一部改正　平成14年２月28日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成16年12月28日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成21年２月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年３月４日
一部改正　平成31年２月28日

（趣旨）
第１条　この要項は，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるハラスメントの防止及び排除のための措置並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下「ハラスメントの防止等」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。
２　ハラスメントの防止等に関しては，独立行政法人国立高等専門学校機構ハラスメントの防止等に関する規則（以下「規則」という。）並びにハラスメントを防止するために教職員等が認識すべき事項についての指針及びハラスメントに関する苦情相談への対応における留意すべき事項についての指針（以下「指針」という。）に定めるもののほか，この要項の定めるところによる。

（監督者）
第２条　規則第２条第九号に定める監督者は，教員の監督者は，校長，各副校長とし，職員の監督者は，事務部長，各課長，技術長とする。

（相談員）
第３条　規則第２条第十五号に定める相談員は，次の各号に掲げる者をもって充てる。
一　学生等からの苦情相談に対応する相談員
ア　本校学生相談室規則第４条に定める教職員
イ　校長が指名する教職員　若干名
二　教職員及び関係者からの苦情相談に対応する相談員
ア　総務課長
イ　校長が指名する教職員　若干名
２　校長は，前項に規定する者のほか，ハラスメントの防止等について識見を有する学外者を相談員に加えることができるものとし，また，必要に応じて外部機関を相談窓口とすることができる。
３　苦情・相談を受けた相談員は，規則第９条第２項及び第３項に基づき対応する。

（次項に続く）

資料３－２－④－（１）－５（続き）

４　前号の苦情・相談の内容を記録し，総務課長を経て校長に報告する。

（事実関係の調査）
第４条　校長は前条第４項の報告を受けた場合，必要に応じて事実関係調査のため，その事案ごとに特別調査チームを設置する。
２　特別調査チームの長（以下「リーダー」という。）は，校長が指名する副校長をもって充てる。
３　特別調査チームは，リーダーが推薦し，校長が了承した本校教職員をもって組織する。
４　リーダーは，特別調査チームを指揮，総括する。
５　リーダーが不在のときは，あらかじめリーダーが指名する者がその職務を代行する。
６　特別調査チームには，必要に応じてハラスメントについて識見を有する学外者を委員として加えることができる。
７　特別調査チームは，調査結果を速やかに校長に報告するものとする。

（事後措置等）
第５条　校長は，特別調査チームの調査結果報告に基づき，ハラスメント行為の事実関係があり，処分又は修学，就労若しくは研究環境の改善を行うことが必要であると認めた場合は，必要な措置を講ずるものとする。
２　前項の措置において，処分を行う場合は独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第47条又は第49条及び独立行政法人国立高等専門学校教職員懲戒規則第４条又は第17条により，必要な措置を講ずるものとする。
３　校長は，第１項の措置を講ずる際は，他の監督者等と協議のうえ行うものとする。
４　校長は，調査結果及び講じた措置等について，相談者に報告するものとする。
５　校長は，ハラスメント行為の事実関係があった場合，ハラスメントの再発防止等に必要な情報をリスク管理委員会へ報告するものとする。

（守秘義務）
第６条　ハラスメントに起因する問題に携わる者は，当事者のプライバシーの保護に配慮するとともに，任務遂行上知り得た秘密を漏らしてはならない。また，その任務を退いた後も，同様とする。

（不利益取扱いの禁止）
第７条　校長，監督者及びその他の教職員は，ハラスメントに対する苦情・相談及び当該苦情・相談に係る調査への協力その他ハラスメントに関して正当な対応をした者に対して，そのことをもって不利益な取扱いをしてはならない。

（ハラスメントの防止）
第８条　本校において，ハラスメントの防止に関する業務は，リスク管理委員会が行う。
２　リスク管理委員会は，教職員及び学生等に規則及び指針の周知徹底を図るとともに，次の各号に掲げる業務を行う。
一　ハラスメントの防止等に係る指導及び改善に関すること。
二　ハラスメントの防止等のための啓発活動に関すること。

（次項に続く）

資料３－２－④－（１）－５（続き）

三　その他ハラスメントの防止等に関すること。

（庶務）
第９条　ハラスメントの防止等に関する庶務は，総務課において処理する。

（雑則）
第10条　この要項に定めるもののほか，ハラスメントの防止等について必要な事項は，校長が別に定める。

附　則
この規則は，平成11年８月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成14年２月28日から施行し，平成13年１月６日から適用する。
附　則
この規則は，平成14年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成15年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成16年12月28日から施行する。
附　則
この要項は，平成19年４月１日から施行する。
附　則
この要項は，平成21年２月１日から施行する。
附　則
この要項は，平成27年４月１日から施行する。
附　則
この要項は，平成28年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成31年２月28日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校におけるハラスメントの防止等に関する要項）

「奨学金、災害給付、授業料免除等の支援」

(2) 旅行の方法

この研修旅行等を、工場見学旅行と総合研修旅行に分け、工場見学旅行は第３学年に、１泊２日の日程で実施します。また、総合研修旅行は第４学年に、３泊４日の日程で実施します。

なお、以上の見学旅行のほか、近郊における工場見学を適宜実施します。

(3) 旅行の経費

工場見学旅行の経費は約20,000円、総合研修旅行の経費は、約60,000円～100,000円程度の経費を予定しています。

旅行の時期が近くなりましたら、所要額、支払方法等についてお知らせしますが、学校では積立を実施していませんので、各自で積立を行うなど、入学当初から計画的に準備してください。

４．奨学金制度

(1) (独)日本学生支援機構奨学生

人物・学業ともに特に優れ、かつ健康であって、経済的理由により著しく修学に困難があり、(独)日本学生支援機構奨学生（以下「機構」という。）の奨学金の貸与・給付が必要であると認められる者に対し、選考のうえ奨学金が貸与・給付されます。

① 貸与・給付月額

奨学金の種類	通学区分	１～３年	４・５年	専攻科
第一種奨学金	自宅通学	21,000円	45,000円	45,000円
	自宅外通学	22,500円	51,000円	51,000円
	―	10,000円	30,000円	30,000円
第二種奨学金	―	―	３万、５万、８万、10万、12万から選択	
給付型奨学金	自宅通学	―	20,000円※	―
	自宅外通学	―	20,000円※	―

※給付型奨学生については、４・５年生の授業料が免除されます。また、給付型奨学生のうち自宅通学生については、奨学金からの充当により授業料免除となるため、直接本人への支給はありません。

（次項に続く）

② 奨学金の種類

奨学金の種類	採用の種類	募集時期	始期	終期
第一種奨学金（無利子）[全学年]	定期採用	４月下旬	４月	卒業予定年月
	緊急採用	随時	４月を限度に事由発生月以降	事由発生年度の３月まで
第二種奨学金（有利子）[４年以上]	定期採用	４月下旬	４月～９月の間で希望する月	卒業予定年月
	応急採用	随時	４月～３月の間で希望する月	卒業予定年月
給付型奨学金（給付）[４年以上]	予約採用	３年次４月	４年次４月	卒業予定年月

[ ] 内は対象学年

緊急採用および応急採用とは、家計支持者が失職・病気・風水害等による家計急変の場合に申し込むことが出来ます。

③ 採用までの手続き

４月に申込説明会を行います。その際に申込書等の書類を受け取り、期日までに学生係へ提出してください。

申込書提出後、選考委員会で機構への推薦者を決定し、機構が推薦者の審査を行い、採用を決定します。

④ 貸与・給付中の手続き

奨学金は原則として毎月１回、銀行・信用金庫の普通預金口座へ振り込まれます。

また、毎年度１月頃、奨学金継続願を提出し、奨学生適格認定を受けなければなりません。

なお、休学、退学、住所変更、連帯保証人変更等の異動があった場合は、速やかに異動届等を提出しなければなりません。

⑤ 貸与終了後の手続き

奨学金の貸与が終了した者は、返還に関する書類を提出しなければなりません。

返還金は後輩達に貸与される奨学金の資金なる重要なものですので、定められた期間内に必ず返還してください。

(2) その他の奨学生（地方公共団体等）

(独)日本学生支援機構の他にも地方公共団体、民間育英団体等の奨学生制度

（次項に続く）

がありますが、これらはその団体の所在地の出身学生を対象とするものが多く、出願・採用時期も異なり、その多くは本人が直接手続きをする必要があります。

なお、育英団体から学校に推薦依頼があった場合は、その都度掲示によりお知らせします。

奨学生に関する事務は学生係で取り扱っていますので、学校の推薦を必要とする学生並びに採用になった学生は、学生係へ申し出てください。

５．旅客運賃割引証（学割）

学生が、実習あるいは帰省等のため、JR線を利用しようとするときは、学校から学生生徒旅客運賃割引証（以下「学割証」という。）の交付を受けて利用することができます。その詳細は次のとおりです。

(1) JRの学割証は、学生、生徒の修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度です。

(2) 学割証の交付を受けられる旅行は、原則として、次の目的をもって旅行する必要があると認められる場合に限られます。

① 休暇・所用による帰省
② 実験・実習などの正課の教育活動
③ 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
④ 就職又は進学のための受験等
⑤ 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
⑥ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
⑦ 保護者の旅行への随行

(3) 学割証による割引普通乗車券は、片道の営業キロで100kmを超える時、運賃が２割引になります。学割証１枚につき、１人１回に限り購入利用できます。

(4) 学割証は、発行者（学校）が大部分必要事項を記入して使用者（学生）に交付しますが、乗車区間及び乗車券種類は使用者自身が記入してください。

(5) 学割証は、次の場合に無効です。

① 発行者の記入事項が無記入のとき
② 記入事項が不鮮明のとき
③ 記入事項をぬり消したり改変してあったとき
④ 訂正印のないとき
⑤ 有効期間（発行の日から３ケ月）を経過したとき
⑥ 記名人以外の者が使用したとき（その記名人に対し、倍額の追徴金がある

（次項に続く）

とともに学割証の交付が停止される。）

(6) 学割証で購入した割引乗車券は、学生証を携帯しないときは、使用できません。また、学生証は係員の請求があるときは提示してください。

(7) 学割証を必要とする学生は、３日前までに学生係に願い出ること。

６．災害共済制度

(独)日本スポーツ振興センター災害共済給付制度

学校安全の普及充実を図るとともに、学校管理下における負傷、疾病又は死亡に対して必要な給付を行うことを目的とした制度です。

掛金は、年額１人1,550円で、毎年４月に指定金融機関の預金口座から引き落とされます。

災害救済給付金の対象となる災害の範囲は次のとおりです。

災害の種類		災害の範囲	給付金額
負傷		学校の管理下の事由によるもので、療養に要した費用の額が5,000円以上のもの	医療費 医療保険並の療養に要する費用の額の4/10（そのうち1/10の分は、療養に伴って要する費用として加算される分） ただし、高額療養費の対象となる場合は、自己負担額（所得区分により限度額が定められている。）に、「療養に要する費用月額」の1/10を加算した額 入院時食事療養費の標準負担額がある場合はその額を加算
疾病		学校の管理下の事由によるもので、療養に要した費用の額が5,000円以上のもののうち文部科学省令で定めるもの。 1.学校給食等による中毒、2.ガス等による中毒、3.熱中症、4.溺水、5.異物の嚥下、6.漆等による皮膚炎、7.外部衝撃等による疾病、8.負傷による疾病	
障害		学校の管理下の負傷及び上欄の疾病がなおった後に残った障害で、その程度により１級から14級に区分される	障害見舞金 3,770万円～82万円 〔通学中の災害の場合 1,885万円～41万円〕
死亡		学校の管理下の事由による死亡及び上欄の疾病に直接起因する死亡	死亡見舞金2,800万円 〔通学中の場合1,400万円〕
	突然死	学校の管理下において運動などの行為と関連なしに発生したもの	死亡見舞金1,400万円 〔通学中の場合も同額〕
	突然死	学校の管理下において運動などの行為が起因あるいは誘因となって発生したもの	死亡見舞金2,800万円 〔通学中の場合1,400万円〕

災害発生の場合、速やかに学生係（保健室）に申出てください。

（次項に続く）

資料３－２－④－（１）－６（続き）

※　学校管理下とは、概ね次の場合をいいます。
1．学校が編成した教育課程に基づく授業を受けている場合。
2．学校の教育計画に基づく課外指導を受けている場合。
3．休憩時間に学校にある場合、その他校長の指示又は承認に基づいて学校にある場合。
4．通常の経路及び方法により通学する場合。
5．学校外で授業等が行われるとき、その場所、集合・解散場所と住居・寄宿舎との間の合理的な経路、方法による往復中。
6．学校の寄宿舎にあるとき。

7．授業料・寄宿料の免除制度

(1) **授業料の免除**
経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められた者は、本人の申請に基づいて全額又は半額の授業料が免除される制度です。
免除は、前期及び後期の２期に分けて行います。
なお、免除のほか徴収猶予の制度もあるので詳しいことについては、学生係に照会してください。

(2) **寄宿料の免除**
学生又は学資負担者が風水害等の災害を受け寄宿料の納付が困難であると認められる場合は、学生の申請に基づいて免除することがあります。
手続等詳しいことについては、寮務係に照会してください。
※　「独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料等の免除及び徴収猶予の取扱いに関する規則」を参照のこと。

8．保健衛生・福利施設

(1) **保健室（鵬翔会館１階）**
本校には、学生及び教職員の健康診断、健康相談、救急処置等を行うため保健室に専任の看護師１名と非常勤看護師１名がいます。
身体に異常をきたしたときは、速やかに保健室に申し出てください。
本校において実施している定期健康診断は、次のとおりです。

（出典　学生便覧）

資料３－２－④－（１）－７

「臨時採用の周知」

日本学生支援機構（JASSO）
二次採用募集

奨学金の二次採用を希望する学生は、期限までに学生課学生係まで申し出てください。

記

書類配付：令和元年　9月30日(月)～
　　令和元年１０月３１日(木)
書類提出：令和元年１１月　５日(火)

対象者：本科4年生以上・専攻科生

奨学金貸与始期
・第二種奨学金：令和元年１０月～
　　令和2年３月のうち、
　　本人の希望する月

※申込資格は今年４月に行なわれた定期採用と同じです。
※第一種奨学金の「二次採用」については、財源の関係から現時点では実施を予定していません。

不明な点は…
学生課学生係まで

（出典　学生係作成資料）

資料３－２－④－（２）－１

「健康診断の実施について」

平成３１年度健康診断の実施について

1、「健康管理調査書」（２年生以上の担任教員へ、専攻科１年のぞく）
始業日に担任教員に提出することになっています。内科検診の問診票でもあるため、4/12（金）までに集めてください。個人情報なので、直接保健室に提出する学生がいるかもしれません。

2、健康診断について
・５年と専攻科２年は診断書を発行するため、すべての検査をなるべく休まないようにお願いします。就職試験等で当日欠席する場合は、事前にお知らせください。
・毎年色覚異常で就職試験に支障がある学生がいます。気になる人は保健室で色覚検査ができます。
・4/4（木）午後に身体計測を行います。学生の身体計測票を学生課配布資料の中に入れておきますので、身体計測前に学生に配布願います。
・　尿検査の検査容器は、学生課配布資料等と同じ場所に置いておきます。
尿検査日は 4/5（金）ですので、その前日（４日）に学生に検査容器をお配り願います。
第二次尿検査は 4/24（水）に予定しています。第一次未提出の学生は第二次に提出します。

2019年度　健康診断日程表

実施日	内容		時間	対象者	場所
4月4日（木）	血圧		13:10~16:30	5年生 専攻科2年生	第一体育館
	身体計測	身長 体重 視力		全学生 （1~5年生と専攻科1,2年生）	第一体育館
		聴力		1・3・5年生 専攻科2年生	第一体育館　男子・女子更衣室
4月5日（金）	胸部レントゲン		9:05~15:15	1・5年生 3年留学生 編入学生 専攻科2年生 その他該当者	学術情報センター前　レントゲン車　1　台
	心電図			1年生 3年留学生 編入学生 専攻科１年生 その他該当者	学術情報センター内　第2問賞室 他
	尿検査		12:00までに提出 クラス単位で回収	全学生 （1~5年生と専攻科1,2年生）	学術情報センター内　共用講義室 （　容器は4/4配布　）
4月10日（水）	歯科		9:00~12:00	1・3・5年生	学術情報センター内　第2問賞室
4月25日（木）	内科		13:00~16:30	全学生 （1~5年生と専攻科1,2年生）	学術情報センター内　第2問賞室

※　第二次尿検査は4月24日（水）の予定です。第一次未提出の女子学生は第二次に提出してください。
※　専攻科の学生は、時間内に自主的に受診してください。

（次項に続く）

資料３－２－④－（２）－１（続き）

2019 年 度　健 康 診 断 実 施 予 定 表
（時間帯は、多少変わる場合がありますのでご了承願います。）

下記開始時間の5~10分前に呼び出しを行ないます。ご協力をお願いいたします。

1.　血圧測定（5年・専攻科2年）　・　身体計測（全学生）

月日	時間帯	学科・学年	
4月4日（木）	13:10 ~ 15:00	2~5年生	身体計測票を持ち自主的に受診
	14:30 ~ 16:30	1年生、専攻科生	

2.　X線（1年・5年・専攻科2年）・心電図（1年・専攻科1年）・尿検査（全学生）

月日	時間帯	学科・学年	検査	尿検査
4月5日（金）	9:05 ~ 10:05	1の2（英語）	X線・心電図	午前中に学術情報センターへ持参
	9:35 ~ 10:05	M5（卒研）	X線	
	10:05 ~ 11:05	1の4（国~物基）	X線・心電図	
	10:35 ~ 11:05	S5（機部~建：見学）	X線	
	11:05 ~ 12:05	1の3（数学）	X線・心電図	
	11:35 ~ 12:20	K5（卒研）	X線	
	休憩			
	13:15 ~ 14:15	1の1（地理）	X線・心電図	
	13:45 ~ 14:15	A5（英語）	X線	
	14:15 ~ 15:15	1の5（情技基）	X線・心電図	
	14:45 ~ 15:15	J5（コンピュ）	X線	

※　専攻科学生は、15時までに自主的に受診してください。

3.　歯科健診　（1年・3年・5年）

月日	時間帯	学科・学年	
4月10日（水）	9:00 ~ 9:30	1の1（化学）	3の5（体育）
	9:25 ~ 10:00	3の1（材力） 3の2（英語）	3の3（政経）
	10:00 ~ 10:30	3の4（電磁）	A5（ディジ）
	10:25 ~ 11:00	1の3（地~英） 1の4（数~体）	M5（英~材力）
	11:00 ~ 11:30	1の2（国語）	1の5（英語）
	11:25 ~ 12:00	J5（選：制御） S5（選：電気・創体）	K5（環境）

4.　内科健診　（全学生）

月日	時間帯	学科・学年	
4月25日（木）	13:00 ~ 13:35	女子学生全員（放送かける、自主的集合）	
	13:40 ~ 14:00	3の3（実験） 3の4（実験）	3の5（実験）
	13:55 ~ 14:15	2の1（物理） 2の3（英~創工）	S5（積分）
	14:15 ~ 14:35	4の1（応数） 4の2（ｱｰﾄﾞ）	A5（電磁波）
	14:30 ~ 14:50	2の4（地~英） 3の2（物~英）	M5（積力）
	14:50 ~ 15:10	2の2（国語） J5（放課後）	K5（放課後）
	15:05 ~ 15:25	4の3（実験） 4の4（実験）	4の5（実験）
	15:25 ~ 15:45	2の5（機社）	3の1（機材）
	15:40 ~ 16:30	1年生男子学生全員　←自主的集合	

※　専攻科学生は、１５時４０分までに自主的に受診してください。

（出典　平成 31 年度第１回学生委員会資料）

資料３－２－④－（２）－２

「保健室だより」

保健だより

保健室
2019.7.25

ゲーム・ネット依存にならないために

（YOUNG による診断ガイドライン案）下記設問にこたえてみましょう。

１：あなたは、ゲームやネットに夢中になっていると感じていますか？（たとえば前回にネットでしたことを考えたり、次回ネットをすることを待ち望んだり、など）

２：あなたは、満足を得るために、ゲームやネットを使う時間をだんだん長くしていかねばならないと感じていますか？

３：あなたは、ゲームやネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびありましたか？

４：あなたは、ゲームやネットの使用時間を短くしたり、完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じますか？

５：あなたは、ゲームやネットの使い始めに意図したよりも、長い時間オンラインの状態でいますか？

６：あなたは、ゲームやネットのために大切な人間関係、学校のことや、部活のことを台無しにしたり、あやうく台無しにするようなことがありましたか？

７：あなたは、ゲームやネットへの熱中のしすぎをかくすために、家族、学校の先生やその他の人たちにうそをついたことがありましたか？

８：あなたは、問題から逃げるために、または絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといった嫌な気持ちから逃げるために、ゲームやネットを使いますか？

評価方法：５項目以上該当すれば「ゲーム・ネット依存の疑い」です。

（出典　保健室作成資料）

資料３－２－④－（３）－１

「学生相談室について　平成３０年度総括」

Ⅲ　学生相談室について　　―　平成３０年度総括　―

１．担当者・担当日

（１）担当者

学生相談室長　栗山　昌樹（都市・環境系）
学生相談室員　高澤　幸治（M系），奥田　弥生（S系），奥山　由（A系）
山口　和美（総合自然科学系），原田　恵雨（J系），漆原　弘美（学生課 看護師），
非常勤カウンセラー等　山根　　忠（精神保健福祉士：苫小牧緑ヶ丘病院）
高橋　朋康（臨床心理士：苫小牧緑ヶ丘病院）
土田　和世（言語聴覚士）
アドバイザー　片岡　昌哉（精神科医：苫小牧市植苗病院 理事長）

（２）担当日

＜前期相談体制　場所：学生相談室＞
月曜日：栗山・山口・*土田*　　火曜日：奥山・原田・*高橋*
水曜日：栗山・山口・*山根*　　木曜日：高澤・奥田・（*山根・高橋・土田*）
金曜日：奥田・奥山・原田
＜後期相談体制　場所：学生相談室＞
月曜日：奥田・山口・*土田*　　火曜日：奥田・原田・奥山・*山根*
水曜日：山口・高澤・*高橋*　　木曜日：高澤・奥山・（*山根・高橋・土田*）
金曜日：山口・栗山

※　開室時間：15 時～17 時．　カウンセラー来校時刻：14 時 30 分．　看護師は随時対応．
教員は相談室の他、教員室でも随時対応．
※　山根・高橋両カウンセラーは、通常当番日の他に隔週木曜日（各１回）に来校．
※　土田言語聴覚士は、前期は毎週月曜日、後期は月曜の他に、昨年から月１回木曜日にも来校．
※　カウンセラーには必要に応じて長期休業中にも対応を依頼．

２．学生相談室の現状

（１）相談内容・件数（単位：件数）

対応者	対応日時	修学面	進路	経済面	対人	精神面	健康面	その他	合　計	メール・電話
カウンセラー	週2回，各2時間	0	0	0	0	159	0	0	159	0
言語聴覚士	週1回，各2時間	90	0	0	0	0	0	0	90	0
教　員	週5回，各2時間	54	4	0	12	60	2	0	132	0
看護師	毎　日	166	4	0	13	243	13	0	439	12
合　計		310	8	0	25	462	15	0	820	12
(H29)		271	3	0	41	703	27	5	(1058)	(25)

※「こころと体の健康調査」関連面談含む．　※※ その他：卒業生、中途退学者、保護者、教職員等．

（次項に続く）

資料３－２－④－（３）－１（続き）

（２）カウンセラー対応の相談者数（単位：人）

学　年		１年	２年	３年	４年	５年	専攻科	その他	合　計		(H29)
実人数	男	8	19	2	4	5	0	7	45	66	(67)
	女	2	6	3	6	0	0	4	21		
延人数	男	33	25	2	19	18	0	8	108	159	(179)
	女	6	18	15	8	0	0	4	51		

（３）カウンセラー対応の月別相談者延べ人数（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
１年	2	5	5	5	0	0	8	5	4	5	0	0	39
２年	3	4	4	4	0	0	19	7	4	1	0	0	46
３年	1	0	0	2	0	0	3	5	3	1	2	0	17
４年	2	3	6	2	0	0	4	3	2	4	1	0	27
５年	1	2	2	5	0	0	0	3	2	2	1	0	18
専攻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	1	1	3	0	0	1	1	1	1	1	0	12
合 計	11	15	18	21	0	0	35	24	16	14	5	0	159

（４）言語聴覚士対応の訓練・相談者数（単位：人）

学　年		１年	２年	３年	４年	５年	専攻科	その他	合　計		(H29)
実人数	男	1	3	1	1	1	0	0	7	8	(11)
	女	0	0	0	0	0	1	0	1		
延人数	男	11	20	18	15	7	0	0	71	90	(100)
	女	0	0	0	0	0	19	0	19		

（５）看護師（相談室員）対応の相談者数（単位：人）

学　年		１年	２年	３年	４年	５年	専攻科	その他	合　計		(H29)
実人数	男	19	23	8	7	9	1	21	88	138	(117)
	女	4	17	5	7	4	0	13	50		
延人数	男	55	31	13	93	86	1	44	323	439	(632)
	女	28	31	12	14	4	0	27	116		

※ 談話：360 人（H29：279 人），　昼食：49 人（H29：37 人）

（次項に続く）

資料３－２－④－（３）－１（続き）

（６）看護師（相談室員）対応の月別延べ人数（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	(H29)
１年	14	9	9	10	0	0	29	4	5	3	0	0	83	(71)
２年	6	3	11	5	0	1	16	2	11	2	5	0	62	(37)
３年	5	5	0	3	3	1	2	3	1	2	0	0	25	(150)
４年	12	16	15	11	3	5	13	16	7	5	4	0	107	(227)
５年	6	2	14	13	7	2	11	6	16	8	5	0	90	(13)
専攻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	(10)
その他	12	7	5	10	2	2	20	10	2	0	1	0	71	(124)
合　計	55	42	54	52	15	11	91	42	42	20	15	0	439	(632)

３．学生相談室の現状と課題

（１）学生相談室員の構成と年間活動状況

今年度の学生相談室は、前年度と同じく常勤教員６名と看護師１名の計７名の学内スタッフ、および学外カウンセラー２名、言語聴覚士１名の学外スタッフに協力いただき活動を行った。また、前年度に引き続き、精神科医との連携体制についても、苫小牧市植苗病院理事長の片岡昌哉先生にアドバイザーをお引き受けいただき、定期的に情報交換を行いご支援いただいた。昨年度、札幌学院大学斉藤准教授と協議していたスカイプ利用による遠隔カウンセリングを「相談室との共同研究」として試験的に実施した。当該カウンセリングの試行については、高専機構の監査に於いて高評価を得ている。なお、10 月以降、９名に対し 11 回の遠隔カウンセリングの試行を行い、好結果となっている。

今年度は、自殺予防に関するアンケート調査に基づく学生面談対応や就学支援対象学生へのサポート等といった、定常的な活動に対する学内意識の向上と、その具体的な取り組み方、流れの定着化を図るとともに、28 年度初めに施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、障害者差別解消法）」に関わる、学内対応体制構築への支援を目標に、学内への呼びかけや関係研修会等への積極的な参加、他高専、大学等教職員との情報交換を昨年度に続き行った。また、就学支援を希望する新規入学生及び保護者との入学前面談を担任・系長とともにヒアリングを実施した。これら定常的活動に加え、前期末に発生した２年生の死亡事故に対応すべく２年生全体（特に１年次同クラス及び寮生優先として）に対して緊急の面談対応を行った。なお、学生相談室内における日常の学生対応状況や各種研修会で得られた成果等については、毎週１回設定していた打ち合わせ会において情報共有を図った。本年度も、各専門系より相談室員が選出されたことにより、各系との連絡も密になったと感じている。なお、定期的に実施されている「道内４高専相談室の連絡協議会」は当日の胆振東部地震のため開催が中止となった。

成績の低迷する学生の保護者からの相談・苦情も寄せられるようになっている。教員の学生に対する教育姿勢など、保護者の誤解や認識不足に基づくものもあり、時代の変遷とともに教員と学生・保護者の関係、保護者が学校に求めることが多様化している。教育機関としてもこれらの変化に対応できるよう努めていく必要があるものと感じる。

（以下略）

（出典　平成 30 年度厚生補導研究会資料）

資料３－２－④－（３）－２

「授業料免除及び奨学金について」

Ⅴ　授業料免除および奨学金について

今年度の授業料免除者および奨学金の貸与者数は次表のとおりである。

授業料免除申請者数は、30 年度は在籍学生数の 15%程度で、前年度よりやや増加している。（前年度は在籍学生数の 14%程度が申請）。免除者数は高専機構から本校の枠が決められ、その上限での採用者数となり、毎年追加申請を行なっている。

日本学生支援機構奨学生申請者は、前年度に比べ本科生で６名減少し、中学での予約申請者は前年度から８名減少した。４年生以上を対象とした「第二種奨学金（有利子）」の申請者は、３名（専攻科生を含む）であった。定期採用（一次採用）の他に 12 月に行われた臨時採用（二次採用）の申請者はいなかった。

授業料免除は家計基準と学力基準の両方を満たすことが条件であり、前期免除者 53 名（申請者 67 名）、後期免除者 47 名（申請者 69 名）であった。全額・半額免除者数ともに前年度よりやや増加した。これは、学力及び家計基準を満たす者が増加したためである。

また、22 年度から始まった就学支援金制度については、1～3 年生まで全て新制度適用となっている。1～3 年生の 532 名に就学支援金が支給され、そのうち加算支給対象者は、前年度より６名多い 326 名であった。

表Ⅴ－１－１　平成 30 年度授業料免除状況

		前期分	後期分	合　計
申　請　者		67	69	136
免除者	全　額	39	36	75
	半　額	14	11	25
	計	53	47	100
否免除者	成　績	14（1）	22（1）	36（2）
	所　得	（1）	（1）	（2）
	欠格事項該当	0	0	0
	追加申請不許可	0	0	0
	計	14（1）	22（1）	36（2）
在籍学生数（４年生以上）（国費留学生・休学者を除く）		435	434	

※（）については成績及び所得の両方の基準で否免除となった者、成績内数。

表Ⅴ－１－２　平成 30 年度日本学生支援機構奨学金貸与状況

		予約	一次 第一種		一次 第二種		二次 第一種		二次 第二種		緊急		合　計	
申　請　者		2	9	(3)	3	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	14	(4)
貸与者	自宅	2	3	(0)	2	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	7	(1)
	自宅外	0	4	(2)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	5	(2)
不許可者	自宅	0	2	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	2	(1)
	自宅外	0	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)

※（）の数字は専攻科生内数

（出典　平成 30 年度厚生補導研究会資料）

資料３－２－⑤－（１）

「苫小牧工業高等専門学校キャリア教育センター規程」

苫小牧工業高等専門学校キャリア教育センター規程

規則第101号
制　　定　平成25年３月７日
一部改正　平成26年１月21日
一部改正　平成28年１月26日

（目的）
第１条　この規程は、苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第 12 条の規程に基づき、本校にキャリア教育センター（以下「センター」という。）を置き、低学年からの組織的・系統的なキャリア教育を推進することを目的とする。

（業務）
第２条　センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。
一　キャリア意識形成のための方策の検討及び実施に関すること。
二　キャリア教育プログラムの策定と実施に関すること。
三　就職及び進学等進路支援に関すること。
四　その他前条の目的を達成するために必要な事項

（構成員）
第３条　センターに、センター長及び副センター長のほか、センター員を置き、専攻主任各１名及び校長が指名する者をもって充てる。
２　センター員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員会）
第４条　センターの円滑な運営を図るため、キャリア教育センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第５条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　センターの運営方針及び業務の推進に関する事項
二　センターの事業計画に関する事項
三　センターの活動評価に関する事項
四　その他必要な事項

（組織）
第６条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
一　センター長
二　副センター長
三　センター員
四　学生課長

（次ページへ続く）

資料３－２－⑤－（１）（続き）

五　その他校長が必要と認める者

（委員長等）
第７条　委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第８条　委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（報告）
第９条　委員長は、必要に応じ、校長に業務の進捗状況及び結果等を報告するものとする。

（庶務）
第10条　センターの事務は、学生課において処理する。

（雑則）
第11条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は校長が別に定める。

附　則
１　この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。
２　苫小牧工業高等専門学校進路指導委員会内規（平成15年４月１日施行）は廃止する。
附　則
この規程は、平成 26 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成 28 年４月１日から施行する。

（出典　本校ウェブサイト規程集）

資料３－２－⑤－（２）－１

「2019 年度キャリア教育実施計画」

２０１９年度　キャリア教育実施計画

※　緑は実施済み、茶色はどうするか決まっていない、黒は実施予定。赤い背景はキャリアが主導。青色背景はキャリアが主導でかつ日程など決定。

１年生

実施日	学習項目	実施方法等	備考
4/25（木）	【創造工学Ⅰ】① キャリアガイダンス「キャリア学習を進めるために」	66 人+132 の２回 ※大講→中講	・キャリアとキャリアデザインの理解 ・高専で実施するキャリア教育の内容
5/16（木） 5/23（木）	【創造工学Ⅰ】② コミュニケーション演習	50 人×４回 ※大講	・「聞く」と「聴く」と「訊く」の違い ・ペアワークによる演習の実施 ・コミュニケーションの意義
6/13（木）	【創造工学Ⅰ】③ 将来の夢	100 人×２回	・あなたの今のキャリアアンカー ・あなたの今のキャリアデザインシート
7/18（木）	【創造工学Ⅰ】④ キャリアパス講演	100 人×２回	同窓会「樽前会」との共催（２名の OB による講演） 「地域で活躍する先輩からのメッセージ」 講師１　「下剋上的高専生活～39 番からの逆襲～」苫小牧市　市民生活部国保課　課長 吉田　陽輔　氏（土木 21 期　1994 年卒） 講師２　「エンジニアとしての誇りをもって　～生涯現役でいるために～」王子エンジニアリング株式会社　苫小牧事業部営業技術部 マネージャー・加藤 史広　氏（機械 29 期　1997 年卒）
10/3（木）	新規【創造工学Ⅰ】⑧ コミュニケーション演習	50 人×４回	・１分で話す（45 分間）
10/24（木）	【創造工学Ⅰ】 専門系の調査研究	100 人×２回	
10/31（木）	【創造工学Ⅰ】 専門系の調査研究資料作成	100 人×２回	
11/7（木）	【創造工学Ⅰ】 専門系の調査研究発表	100 人×２回	
11/14（木）	【創造工学Ⅰ】 コミュ演習２(敬語＋ケーススタディ)	100 人×２回	・ジョブカフェ　臼井(?)氏 ・ヤブシタ(株)佐藤氏
12/5（木）	【創造工学Ⅰ】⑨ 「ジョブトークⅠ」	100 人×２回	・苫高専協力会、同窓会「樽前会」との共催 ・25 名の外部講師とのトークセッション
1/30（木）	【創造工学Ⅰ】⑪ ポートフォリオ	100 人×２回	・複数の教員による面談が中心 ・作文作成

（次ページへ続く）

資料３－２－⑤－（２）－１（続き）

２年生

実施日	学習項目	実施方法等	備考
	【創造工学Ⅱ】 キャリアデザインシート作成		
11/27 （水） 希望 お願い済	【創造工学Ⅱ】 キャリアシンポジウム （全系共通）	3, 4 時限目／ 大講義室	講演 1）出光興産株式会社北海道製油所　機械課 係長　柳川　琢也　氏（1995 苫高専情報卒） 2）株式会社ＡＳＣｅ（アスク）代表取締役 後藤　亮太　氏（1988 年旭川高専機械卒）
1/29 （昨年） お願いはまだ	【キャリアデザイン講話】 「選挙」出前講義 （全系共通）	HR（７時限）／ 第２体育館 （火曜授業日）	昨年は下記の通り。講演と模擬投票 講演は苫小牧市選挙管理委員会の主任書記 山下　博子　氏

３年生

実施日	学習項目	実施方法等	備考
前期	【創造工学Ⅲ】 キャリアアンカー		
前期	【創造工学Ⅲ】 キャリアパス		
11/13	道内工場見学旅行	学校行事	各学科による対応
9/27(木), 10/2(火), 10/16(火) 10/30（火）	【創造工学Ⅲ】 地域学	1，2 時限	1）テーマ：地域について 2）講師は元副市長の中野裕規氏 3）学生によるグループ討論 4）学生による発表 M, K, S のみ
12/4（水）	【創造工学Ⅲ】 ジョブトークⅡ	3, 4 時限	・詳細計画中。全学科対象。 ・K, M, S は 1, 2 時限。A, J が 3, 4 時限。
？	【創造工学Ⅲ】	？	・A　那須野先生の企業経験
11/5(火)	【キャリアデザイン講話】 「将来について考える」 ～その必要性と方法～	HR（７時限）／ 大講義室	・北海道若年者就職支援センター ジョブカフェ北海道　瀬田　博之氏 ・進学か就職か？何がしたいのか？を考える。

４年生及び専攻科１年生

実施日	学習項目	実施方法等	備考
6/21（金）	インターンシップ事前研修会（M4, S4, APAE1）	正課外 14:55-16:15 大講義室	・講師は、㈱マイナビ佐田氏 ・セキュリティー関連は土居先生 参加人数：本科 63 名、専攻科 21 名
6/24（月）	インターンシップ事前研修会（M4, J4, K4）	正課外 14:55-16:15 大講義室	・講師は、㈱マイナビ佐田氏 ・セキュリティー関連は土居先生 参加人数：本科 109 名、専攻科 5 名
10/8（火）	キャリタスＵＣの使い方とデモ	7　時　限　目 H101	・㈱ディスコによるキャリタスUCのデモ（40 分）
10～11 月	インターンシップ報告会	科目	各学科による対応

（次ページへ続く）

資料３－２－⑤－（２）－１（続き）

11/6　－ 11/9	工場見学旅行	学校行事	各学科による対応
11/12	進学ガイダンス	正課外 15:00 ～16:00／中講	・専攻科長のプレゼン。（15 分） ・５学科５年生による助言。（５人×６分）
12/10	就職ガイダンス	正課外 7 - 8 時限／大講義室	・専攻科２年生、２学科５年生による体験談。（６人×10 分）
11/2（土）	キャリタス就活フォーラム（ディスコ）インターンシップ＆仕事研究	正課外／札幌コンベンションセンター	・ディスコが手配のバスで移動
12/21（土）	高専生のための業界研究（学研アソシエ）	正課外／札幌コンベンションセンター	・学研アソシエが手配のバスで移動 ・キャリアセンター長，学生課職員が参加
1/14（火）	履歴書、エントリーシートの書き方	正課外 7 - 8 時限／大講義室	・㈱ディスコキャリタス就活事業企画部 学生広報課　高山　実恵　氏
1/19（日）	高専生のための仕事研究セミナー（メディア総研）	正課外／札幌コンベンションセンター	・メディア総研が手配のバスで移動 ・キャリアセンター長，学生課職員が参加

全学共通

実施日	学習項目	実施方法等	備考
7/9（火）	【キャリアデザイン講話】 女子学生のためのキャリアデザイン講話①「メイクアップ教室」	正課外 中会議室？	ハーバー株式会社　品質管理室　石井美樹氏（本校 OB）と美容部担当と総務担当の方 参加人数：　名 ・男女共同参画推進室，同窓会「欅前会」と共催
12/13(金)	協力会企業合同研究会	学校行事 14:00～17:00 第１，第２体育館	・協力会との共催 ・参加企業 39 社 ・低学年、保護者も対象 ・前日の午後より会場設営，撤去は当日 21:00 まで（暖房注意）
12/17 HR お願い済	【キャリアデザイン講話】 女子学生のためのキャリアデザイン講話②	正課外 （８ 時限＋10 分）／中講義室	昨年は、 ・３名のＯＧが発表 ・男女共同参画推進室，同窓会「欅前会」と共催 参加人数：16 名

（出典　２０１９年度第２回キャリア教育センター委員会資料）

資料３－２－⑤－（２）－２

「2019 年度「創造工学Ⅰ」における「キャリアパス講話」実施要領」

平成 31 年度「創造工学Ⅰ」における「キャリアパス講話」実施要領

１　趣　旨
企業や自治体等で様々な道を歩んだ、あるいは歩んでいる高専卒業生の講話を通して、自己のこれからのキャリアやありたい姿を思い描き、今後の高専での学習への意欲を高めるとともに、自己の職業観・勤労観を考える一助とする。なお、本講話は苫小牧高専同窓会「欅前会」の協力の下、実施する。

２　実施対象
１学年全員（２グループに分けて行う。）

３　実施日時
７月 18 日（木）前半④～⑥グループ 9:00～10:35　後半①～③グループ 10:45～12:20

	前半グループ	後半グループ
趣旨説明	9:00～9:10	10:45～10:55
講師１　講話	9:10～9:40	10:55～11:25
質疑	9:40～9:45	11:25～11:30
休憩	9:45～9:50	11:30～11:35
講師２　講話	9:50～10:20	11:35～12:05
質疑応答	10:20～10:25	12:05～12:10
謝辞、まとめ	10:25～10:35	12:10～12:20

４　場　所
苫小牧工業高等専門学校　大講義室（３階）

５　講師及び講演内容
「地域で活躍する先輩からのメッセージ」
講師１　「下剋上的高専生活　～39 番からの逆襲～」
苫小牧市　健康こども部健康支援課　課長
吉田　陽輔　氏（土木 21 期　1994 年卒）
講師２　「エンジニアとしての誇りをもって　～生涯現役でいるために～」
王子エンジニアリング株式会社　苫小牧事業部　営業技術部 マネージャー
加藤 史広　氏（機械 29 期　1997 年卒）

６　予　算
講師の都合にもよるが、独立行政法人国立高等専門学校機構の規準単価表により、謝金と旅費を支給することができる。

７　留意事項
(1)「創造工学Ⅰ」の夏季休業中の課題「職業人インタビュー」で学習した内容と関連を図りながら実施する。
(2) 講話を聞いた後、グループワークにより講話の内容を振り返りながら質問事項をまとめるなどして、「質疑応答」を活発に行う。
(3) 講演内容の内容として、「学生時代のこと」「今の仕事に就いた経緯」「働いている中で感じるやりがい」「働いている中で苦労していること」「学校時代にやっておいて良かったこと」「学校時代にやっておくべきだったこと」「今後の夢や抱負」といった項目例がある。

－以上－

（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－⑤－（２）－３

「2019 年度インターンシップ事前研修会実施要項」

2019 年度　インターンシップ事前研修会実施要項

１　趣　旨
インターンシップを有意義なものにするため、本研修会を通じて、学生が自己のキャリアプランニング能力を高めるとともに、社会人としての素養を身につけることの大切さを認識する。

２　対象及び日時
（１）４年３組（応用化学・生物系），４組（電気電子系），専攻科１年生
令和元年６月 21 日（金）14 時 55 分～16 時 15 分
（２）４年１組（機械系），２組（都市・環境系），５組（情報科学・工学系）
令和元年６月 24 日（月）14 時 55 分～16 時 15 分
※対象の日時に参加できない学生は、この限りではありません。

３　場　所
６月 21 日（金）　苫小牧工業高等専門学校１階　講義室 H101・102
６月 24 日（月）　苫小牧工業高等専門学校３階　大講義室

４　内　容
（１）研修会の趣旨説明，地域志向人材育成プログラムについての説明，講師紹介（５分）
（２）講演「有意義なインターンシップにするために」（50 分）
講師　株式会社マイナビ　就職情報事業本部
企画広報統括部 北海道キャリアサポート課
佐々木　理恵　氏
概要：インターンシップの目的，インターンシップの心構え
コミュニケーションや言葉遣いなどについて
（３）講演「インターンシップによる秘密保持義務について」（15 分）
講師　情報系　土居　茂雄　先生
（４）質疑応答とまとめ（10 分）

５　申し込み
参加する学生は、令和元年６月 18 日（火）までに各担任に申し出ること。

６　留意事項
（１）学外実習（インターンシップ）を行う学生は必ず申し込むようにしてください。
（２）研修会当日は、筆記用具、学生証（参加者把握のためバーコードを読み取ります。）を持ってきてください。対象以外の日に参加することもできるので、都合が悪い学生は担任またはキャリア教育センターに相談してください。
（３）参加する学生は、下記２項目を必ず実施してください。
① 担任から事前に配布される２種類の「事前ワークシート」を記載し、研修当日、必ず持参してください。
② 事前ワークシート A は、添付された資料を読み、回答するようにしてください。
③ 事前ワークシート B は、BlackBoard に「インターンシップによる秘密保持義務について」の学習資料をアップロードしていますので、これで学習してから記載してください。

－以上－

（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－⑤－（２）－５

「COC+企業説明会について」

2019年９月吉日

関係各位

株式会社 北海道銀行
地域創生部

『COC+企業説明会』について

謹啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、『COC+企業説明会』の詳細について下記のとおりご案内いたします。お目通しいただき、ご不明な点がありましたらお問い合わせください。

また、別紙「ご出席者等回答書」につきましては、ご多忙の折、恐縮ですが、10月10日(木)までにご提出くださいますようお願い申し上げます。

敬白

記

1. 開催日時：2019年11月9日(土)　10:00～開会式(受付開始 9:30)
　　10:20～参加企業プレゼンタイム
　　16:20～参加学校プレゼンタイム
　　18:00～交流会
　　※詳細はタイムスケジュール参照
2. 会　　場：さっぽろテレビ塔 2階(札幌市中央区大通西１丁目　☎011-241-1131)
3. 案内文書：別添のとおり
　(1)「COC+企業説明会」参加学校の皆様へ
　(2)「COC+企業説明会」タイムスケジュール
　(3) 会場フロアのご案内
4. ご出席者報告
　【別紙】ご出席者回答書により、10月10日(木)までにご出席者をご報告ください。

【連絡・報告先】
株式会社北海道銀行　地域創生部
担当：安田
TEL：011－233－1096
E-mail：H21905-k@hokkaidobank.co.jp

（次ページへ続く）

資料３－２－⑤－（２）－５（続き）

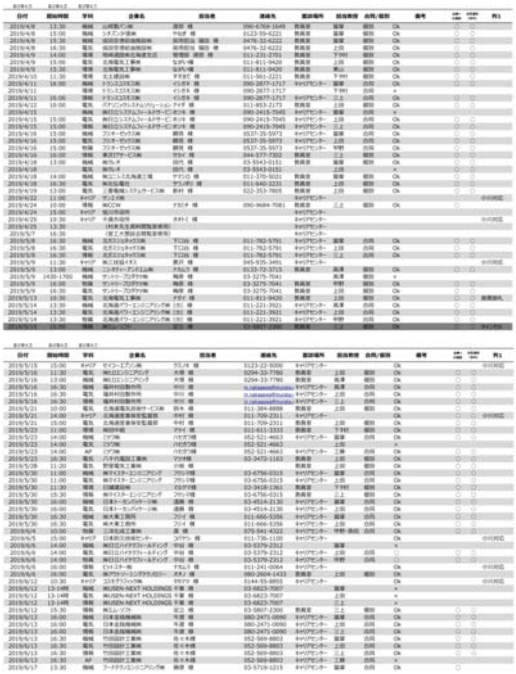
2019「COC+企業説明会タイムスケジュール」案



（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－⑤－（２）－６

「2019年度企業訪問スケジュール表（抜粋）」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－⑤－（２）－７

「２０１９年度進学ガイダンス実施要項」

２０１９年度進学ガイダンス実施要項

１　ね ら い
　進学希望者を対象にガイダンスを行うことにより、進学に関する情報を提供するとともに、進学に向け具体的に準備する意欲を高め、方法を理解する。

２　日　　時

　令和元年１１月１２日（火）１５時００分～１６時００分

３　場　　所
　本校１階　中講義室

４　対　　象
　第４学年及び専攻科１年の進学希望者

５　内　　容
（１）２０１９年度大学編入学及び高専専攻科進学状況の説明【５分】
（２）本校専攻科の案内【10分】二橋専攻科長
（３）受験体験談、勉強法等についての先輩からのアドバイス（本年度受験者）【35分】
　各系及び各専攻が推薦する候補者の中から、大学や受験方法等を調整して助言学生を決定し、次のことの報告とアドバイスをしてもらう。
　・その学校を選んだ経緯、理由（情報収集や整理の方法　等）
　・受験に向けての準備（受験勉強の具体的な方法や進め方　等）
　・後輩へのアドバイス（高専での学習や生活への意識、自律的取組　等）

［助言学生（進学予定先：受験方法）］
　Ｍ５　井内　　智（豊橋技術科学大：推薦）
　Ｊ５　鳥木　瑛司（苫小牧工業高等専門学校専攻科：推薦）
　Ｋ５　進藤　琉子（横浜国立大学：学力）
　Ｓ５　金澤　亜有菜（静岡大学農学部：学力）
　Ａ５　岩佐　百華（長岡技術科学大学：ＶＯＳ特待）

（４）質疑応答，アンケート記入，その他【１０分】
　※ガイダンス終了後、会場で助言学生との個別懇談も可能（１６時３０分まで）

６　留意事項
（１）参加希望の学生は11月　日（月）までに担任に申し出ること。
（２）当日、参加する学生は、学生証と筆記用具を持参すること。

（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－⑤－（２）－８

「２０１９年度就職ガイダンス実施要項（案）」

２０１９年度就職ガイダンス実施要項（案）

１　ねらい
４学年の工場見学などを踏まえ，就職希望者を対象にガイダンスを行うことにより，就職に関する情報を提供するとともに，就職活動に向けて具体的に準備を進める意欲を高め，方法を理解する。

２　日時及び対象
令和２年１月　日（火）１４時５０分～１６時００分
専攻科１年生，本科４年生の就職希望者

３　場　所
苫小牧工業高等専門学校３階大講義室

４　内　容
（１）挨拶・講師紹介　【14:50～14:55】
キャリア教育センター　センター長　　山下　徹
（２）就職試験体験談【各10分　計60分　15:00～16:00】
各学科及び専攻科が推薦する助言学生（計６名）から，次のことについて報告とアドバイスをしてもらう。
・その会社を選んだ経緯，理由（情報収集や整理の方法　等）
・受験に向けての準備（履歴書，エントリーシート，面接練習　等）
・後輩へのアドバイス（高専での学習や生活への意識，自律的取組　等）
【助言学生】
機械工学科５年　　屋川　悠　　（JAL エンジニアリング㈱　内定）
電気電子工学科５年　　中村　咲月　　（村田機械㈱　内定）
情報工学科５年　　阿部　裕斐　　（北海道ガス㈱　内定）
物質工学科５年　　加屋　由城　　（出光興産㈱北海道製油所　内定）
都市環境工学科５年　　吉村　介　　（北海道ガス㈱　内定）
環境システム工学専攻２年　　松浦　悌浩　　（第一三共バイオテック㈱　内定）

※体験談終了後，学生はアンケート提出して退室
（以降助言学生との個別懇談も可能）

５　留意事項
（１）参加希望の学生は１月　日（　）までに担任に申し出ること。
（２）当日，参加する学生は，学生証と筆記用具を持参すること。

（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－⑤－（３）

「平成 30 年度卒業者進路状況」

平成３０年度　卒業者進路状況（平成３１年３月卒業者）

平成３１年３月３１日現在

		卒業者数	進路希望					求人数	求人倍率	求人	就職						進学			就職内定率	進学内定率	進路未定	進学希望者の合格率
			民間等	公務員	就職計	進学	その他				民間等	公務員	内定者計	就職希望者内定率	進学	その他	内定者	その他	進学希望者内定率				
機械工学科	男	35	25	0	25	10	0	660	18.9	934	25	0	25	100.0%	10	0	10	0	100.0%	100.0%	100.0%	2	20.0%
	女	5	4	0	4	1	0		(35.4)		4	0	4	100.0%	1	0	1	0	100.0%			1	100.0%
	計	40	29	0	29	11	0				29	0	29	100.0%	11	0	11	0	100.0%			3	27.3%
電気電子工学科	男	37	21	0	21	16	0	720	38.5	886	21	0	21	100.0%	16	0	16	0	100.0%	100.0%	100.0%	0	0.0%
	女	2	2	0	2	0	0		(36.5)		2	0	2	100.0%	0	0	0	0				0	0
	計	39	23	0	23	16	0				23	0	23	100.0%	16	0	16	0	100.0%			0	0.0%
情報工学科	男	24	14	0	14	10	0	549	27.4	658	14	0	14	100.0%	9	0	9	0	90.0%	93.3%	95.4%	1	10.0%
	女	11	10	0	10	1	0		(27.4)		10	0	10	100.0%	1	0	1	0	100.0%			0	0
	計	35	24	0	24	11	0				24	0	24	100.0%	10	0	10	0	90.9%			1	9.1%
物質工学科	男	31	21	0	21	10	0	418	18.6	501	21	0	21	100.0%	10	0	10	0	100.0%	100.0%	100.0%	0	0.0%
	女	10	6	0	6	4	0		(16.8)		6	0	6	100.0%	3	0	3	0	75.0%			1	25.0%
	計	41	27	0	27	14	0				27	0	27	100.0%	13	0	13	0	92.9%			1	7.1%
都市環境工学科	男	40	20	0	20	20	0	483	27.6	579	19	0	19	95.0%	19	0	19	0	95.0%	95.0%	95.0%	1	5.0%
	女	2	1	0	1	2	0		(27.6)		1	0	1	100.0%	2	0	2	0	100.0%			0	0
	計	42	21	0	21	22	0				20	0	20	95.2%	21	0	21	0	95.5%			1	4.5%
合　計	男	167	101	0	101	66	0	2,864	27.9	3,558	100	0	100	99.0%	64	0	64	0	97.0%	98.5%	98.9%	24	26.7%
	女	31	23	0	23	8	0		(27.9)		23	0	23	100.0%	7	0	7	0	87.5%			2	20.0%
	計	198	124	0	124	74	0				123	99.2%	0	123	99.2%	71	0	95.9%	0	194	98.0%	26	26.0%

（注1）　民間等：民間，公的等　その他：専門学校等　（注3）求人倍率　求人数 / 就職希望者数　求人倍率（　）内　求人数 / 就職・公務員希望者数
（注2）　求人数には，官庁は含まれません。

（出典　キャリア教育センター資料）

資料３－２－⑥－（１）－１

「学生委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校学生委員会規程

規則第30号
制　　定　平成６年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の学生の厚生補導及び福利施設の運営に関する事項を審議するため，学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学生の団体，学生会活動及び学生生活に関する事項
二　学生の福利厚生に関する事項
三　学生の表彰及び懲戒に関する事項
四　入学料，授業料及び寄宿料の免除等に関する事項
五　独立行政法人日本学生支援機構奨学生の選考等に関する事項
六　課外活動に関する事項
七　福利施設の運営に関する事項
八　外国人留学生の指導に関する事項
九　その他学生の厚生補導に関する重要な事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（学生主事）
二　学生主事補
三　学生課長
四　その他校長が指名した者
２　必要に応じて副校長（寮務主事），副校長（専攻科長），各学級担任，体育担当教員及び各クラブ（同好会を含む。）顧問１名を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第四号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（次項に続く）

資料３－２－⑥－（１）－１（続き）

（定足数）
第６条　委員会の開催は，委員の５分の３以上の出席を必要とする。

（議事）
第７条　議事は，出席委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）
第８条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。

（部会）
第９条　委員長は，第２条に関する特定事項を検討するため，必要に応じ委員会に部会を置くことができる。
２　部会に部会長を置き，委員のうちから委員長が指名する。
３　部会は本校の教職員のうちから委員長が指名する者をもって組織する。
４　部会長は，検討結果を委員長に報告するものとする。
５　部会に関し，必要な事項は，委員長が別に定める。

（報告）
第10条　委員長は，委員会の審議の結果を校長に報告する。

（委員会の事務）
第11条　委員会の事務は，学生課において処理する。

（雑則）
第12条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
この内規は，平成６年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成15年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
１　この規程は，平成18年４月１日から施行する。
２　苫小牧工業高等専門学校外国人留学生委員会内規（平成６年４月１日施行）は廃止す　。

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校学生委員会規程）

資料３－２－⑥－（１）－２

「〔１〕課外活動指導に対する申し合わせ」

〔１〕課外活動指導に対する申し合わせ

Ⅰ　課外活動に対する基本的な考え方

課外活動は自己の人間形成、心身の鍛練、集団活動等の訓練の場として極めて重要な教育活動の一環であり、その活動は学校の指導援助のもとに、計画・実施が学生の自主的、自発的なものとして位置づけられるものである。

以上のことから、これは正課教育からだけでは求められない人間形成の場としてとらえ、全教員が等しく一致して目標達成のため、指導援助に当たらなければならない。

Ⅱ　クラブ・同好会顧問の指導体制

１　顧問の選出について

イ　学生の要望を含め、クラブは原則４名、同好会は原則２名を超えないものとする。

ロ　負担の軽減及び平均化を図るため交替で顧問を担当する。

ハ　任期は一年とし、校長発令とする。但し、クラブ・同好会員との結びつきや、外部団体との関連を考慮すると支障のない限り継続することが望ましい。

（学生の要請者以外は、希望を取り調整する。）

２　指導内容・範囲について

イ　クラブ・同好会活動のスケジュールの把握、事故防止等について一般的な指導助言をする。

ロ　随時の見回り。

ハ　対外試合・校外行事における引率指導。

ニ　合宿時の指導

３　危険防止対策

イ　施設・設備の安全確保についての指導助言。

ロ　救急の処置

ハ　予見・注意の励行

（平成４年　４月１９日クラブ顧問会議でⅡ－１－イ３名から４名に変更）

（平成１６年　５月１２日学生委員会）

（平成２１年　２月２５日学生委員会）

（平成２４年　１月１９日学生委員会）

（出典　〔１〕課外活動指導に対する申し合わせ）

資料３－２－⑥－（１）－３

「〔２〕クラブ顧問の受諾について」

〔２〕クラブ顧問の受諾について

１　教員は、いずれかのクラブ又は同好会の顧問教員とする。
２　教員は、一人１クラブを担当とするが、特別な場合はこの限りではない。
３　各クラブの顧問は、複数とする。同好会の顧問は、２名を上限とする。
４　顧問の任期は１年であるが、継続して同一クラブ又は同好会を担当することが望ましい。
５　顧問の変更を希望する場合は話合いで決定する。（学生主事が最終的に調整）

（平成１６年　５月１２日学生委員会にて一部改正）

（平成２１年　２月２５日学生委員会にて一部改正）

（出典　〔２〕クラブ顧問の受諾について）

資料３－２－⑥－（１）－４

「課外活動に係る活動方針」

苫小牧工業高等専門学校の課外活動に係る活動方針

１ 課外活動の基本的な考え

（１）課外活動は，学校教育の一環として実施する教育活動であり，学生にとって豊かな学校生活を経験する有意義な活動であるとともに，「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し，技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し，社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」という本校教育理念を達成する上でも極めて効果的な活動である。

（２）課外活動は学生の自主自律の精神を基本に，学生と教職員との合意形成により適切な活動日程や活動量を定め，双方にとって過度な活動にならないよう配慮するとともに，学生がボランティア活動など多様な学生生活を送る機会を持てるよう配慮することが必要である。

２ 課外活動の休養日の設定

（１）年間を通して各週，平日で１日以上，週休日等で１日以上を休養日とする。

（２）毎回の活動時間は，平日で２時間程度以内，週休日等では午前もしくは午後の何れかで３時間程度以内とする。

（３）夏・春の長期休業中に，少なくとも１週間程度以上の休養期間を設定する。

（４）大会参加等で休養日が取れない週がある場合，３か月以内の活動で振替日を設定し，必要月数分の計画書を校長に報告しなければならない。

（５）定期試験の１週間前以降試験終了までは課外活動を行わない。ただし，大会参加等，事前に校長の許可を得た場合は，必要最小限の活動についてのみ許可する。（特別時間割期間も基本的にはこれに準ずる）

（６）顧問は休日等の課外活動指導に対しては変形労働等により計画的に休日振替を行うとともに，他の顧問と連携し，振替休日に課外活動業務を行わないこと。

３ 課外活動の年間計画等の策定

（１）顧問は，「全道・全国大会及びこれらにつながる大会への出場について」等を勘案し，年間活動計画（参加を予定している大会やコンテスト等，長期の休養期間），並びに毎月の活動計画及び活動実績（活動日時・場所・内容，休養日）を作成し，校長に提出する。

（２）校長は提出された活動計画・実績について確認し，過度な活動をしていると判断される場合は，当該団体あるいは当該教職員に対し速やかな改善を求める。

４ 課外活動の運営について

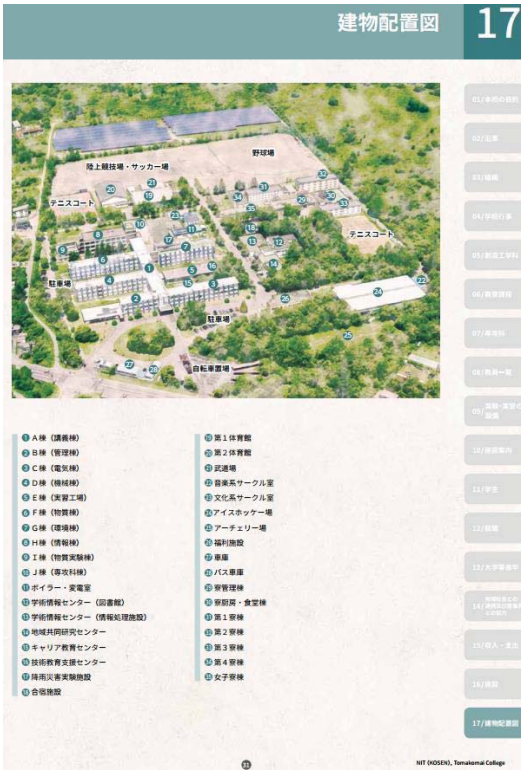
（１）体罰・活動の強要については，いかなる理由があっても決して許されるものではない。指導するに当たっては，集団・個人の希望や能力に応じた適切な指導に徹する。

（２）保護者の理解と協力は学校運営上欠かすことのできない重要なことである。顧問は毎年度，指導に関する基本方針，大会やコンテスト等の年間計画及び長期の休養期間，日常の活動時間・休養日を明確にし，保護者に示すこと。

（出典　〔２〕クラブ顧問の受諾について）

資料３－２－⑥－（１）－５

「課外活動施設配置図」



（出典　学校要覧）

資料３－２－⑥－（２）

「「2019 年度　クラブ・同好会顧問一覧表」

2019年度　クラブ・同好会顧問一覧表

顧問教員の左側が代表顧問

クラブ・同好会名				担当顧問教員名			
クラブ	体育会系	1	陸上競技部	長澤　智明	金野　幸吉	八田 茂実	
		2	硬式野球部	平野　博人	古崎　毅	佐々木彩	
		3	ソフトテニス部	渡辺　暁央	近藤　崇	佐藤奈々恵	
		4	硬式テニス部	松田要保	富樫栄路	下タ村光弘	
		5	卓球部	見藤　歩	石川　雅弓	山田 昭弥	堀　登代彦
		6	バレーボール部	藤田　彩華	石川　雅弓	藤島 勝弘	赤塚元軌
		7	バスケットボール部	中村嘉彦	谷口　陽子	野口　勉	
		8	サッカー部	大島　和浩	大橋　智志	佐藤　森	多賀健
		9	アーチェリー部	奥田弥生	阿部司	原田 恵南	
		10	バドミントン部	池田慎一	松尾　優子	三河佳紀	
		11	剣道部	栗山 昌樹	清水　祐一	高橋芳太	菅沼正美
		12	柔道部	多田 光宏	須田　孝徳	小薮栄太郎	
		13	少林寺拳法部	甲野 裕之	山下　徹	中野　渉	
		14	カーリング部	藤島 勝弘	池田慎一	東　俊文	
		15	水泳部	岩渕 俊介	菊田　知重	小薮栄太郎	
		16	フットサル部	大橋　智志	大島　和浩	中村芳	多賀健
		17	ハンドボール部	渡邊　廣樹	宇津野 国治	中島広蔦	
	文化系	18	吹奏楽部	工藤　彰洋	奥山　由	山際明利	稲川清
		19	ロボットテクノロジー部	大西　孝臣	上田　茂太	堀　勝博	土谷圭央
		20	ボビュラーソング部	佐々木 幸司	谷口　陽子		
		21	茶道部	奥田弥生	片山 ふゆき		
		22	ソフトウェアテクノロジー部	三上　剛	土居　茂雄	吉村　斎	中村　庸郎
		23	演劇部	片山 ふゆき	野口　勉	三河佳紀	中村 嘉彦
		24	将棋部	櫻村 奏生			
		25	サイエンス部	村本　充	須田　孝徳	土居　茂雄	
		26	書道部	佐々木彩	有馬陸司	加藤　初穂	高橋芳太
		27	構造デザイン部	高澤　幸治	松尾　優子	中村芳	
同好会	文化系	28	美術同好会	奥田 弥生	橋本　久博		
		29	ボランティア同好会	坂下　俊彦	松田要保		
		30	情報処理同好会	中村　庸郎	土居　茂雄		
		31	鉄道研究同好会	渡辺　暁央	三河佳紀		
		32	ダンス同好会	藤田　彩華			
		33	写真同好会	有馬陸司	二橋　創平		
		34	卓上ゲーム同好会	多田 光宏	奈須野　裕		
		35	アニメーション同好会	山際明利	工藤　彰洋		
		36	天文同好会	高橋芳太	加藤　初穂		
		37	アマチュア無線同好会	中村 嘉彦	二橋　創平		

外局	応援団・新聞局	小薮 栄太郎	坂下　俊彦		

期間：令和元年5月1日～令和2年4月30日

（出典　学生主事補作成資料）

資料３－２－⑥－（３）－１

「年間活動表（抜粋）」



（出典　クラブ顧問作成資料）

資料３－２－⑥－（３）－２

「全道・全国大会及びこれらにつながる大会への出場について」

〔7〕全道・全国大会及びこれらにつながる大会への出場について

1　対象となる大会等の種類
⑴　北海道地区国立工業高等専門学校体育協議会、全国高等専門学校体育協会、高等専門学校協議連合会等が主催又は共催する大会（協議会、コンテスト、交流会を含む。以下同じ）
⑵　各種協会・連盟が主催又は共催する全道・全国大会及びこれらにつながる大会
2　出場回数の制限
１の⑴に掲げる大会には、原則として出場できる。
１の⑵に掲げる大会には、原則として３回まで出場できる。ただし、全道・全国大会に２回出場した場合は、それ以降の１の⑴に掲げる大会には原則として出場できない。
3　費用負担
⑴　部の大会出場にかかる費用の負担割合は次のとおりとする。
①　大会参加料・負担金
１の⑴に掲げる大会については、全額後援会で負担する。
１の⑵に掲げる大会については、個人負担１／２、学生会負担１／２とする。
②　交通・宿泊費（苫小牧市外および白老町外で行われる大会に限る。）は個人負担１／２、学生会負担１／４、後援会負担１／４とする。
なお、交通費については、
・　借り上げバスを利用する場合は、実費算定額に対する補助を行う。
・　借り上げバスを利用しない場合は、JR 運賃（含、普通運賃、特急・急行料金、団体割引、学生割引）を基準に算定する。
また、宿泊費については、
・　宿泊費の補助については、課外活動における遠征に関する取り決めによる。
・　苫小牧市内を８時３０分以降に出発して、競技開始１時間３０分前または開会式等大会規定により参加が義務付けられている行事の集合時間までに会場に到着できない場合に限って、前泊を認める。
⑵　同好会の大会出場にかかる費用の負担割合は次のとおりとする。
①　大会参加料・負担金は全額個人負担とする。
②　交通・宿泊費（苫小牧市外および白老町外で行われる大会に限る。）は個人負担１／２、学生会負担及び後援会負担各１／４とする。
⑶　各種協会・連盟が主催又は共催する地方大会（全道・全国につながらない大会）の部の出場にかかる費用は全額個人負担とする。

（平成　２年　６月　　クラブ顧問会議）
（平成　３年　４月　８日クラブ顧問会議）
（平成　８年　４月３０日クラブ顧問会議）
（平成１２年　５月　９日クラブ顧問会議）
（平成１６年　５月１２日　　学生委員会）
（平成２１年　２月２５日　　学生委員会）
（平成２７年　１月２０日　　学生委員会）
（平成２９年　３月２１日　　学生委員会）

（出典　学生指導のしおり）

資料３－２－⑦－（１）－１

「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋）

第９章　寄宿舎

（寄宿舎）
第50条　本校に寄宿舎を設ける。
2　寄宿舎の運営その他必要な事項は別に定める。

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則　第９章　寄宿舎　第 50 条）

資料３－２－⑦－（１）－２

「施設案内」

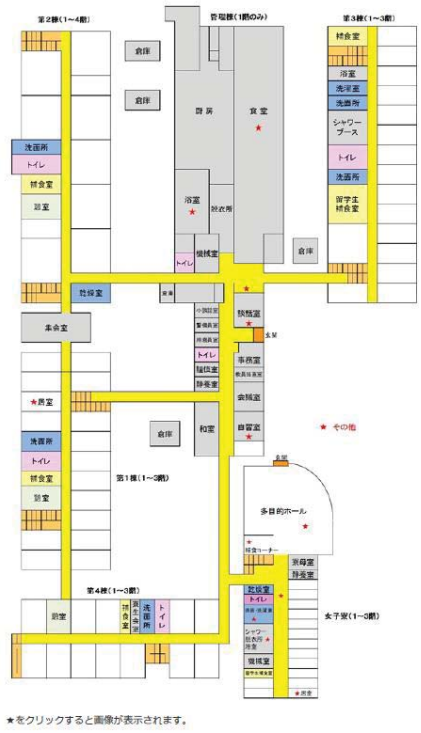


（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ　学生生活＞学生寮＞施設案内）

（次項に続く）

資料３－２－⑦－（１）－２（続き）

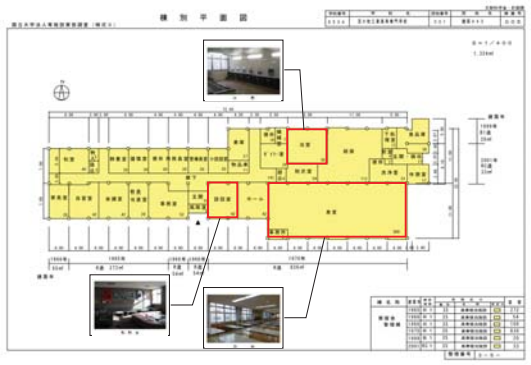
（前項からの続き）

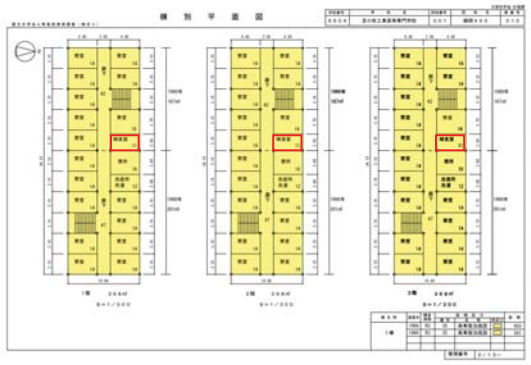


（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ　学生生活＞学生寮＞施設案内）

資料３－２－⑦－（２）

「学生寮平面図」

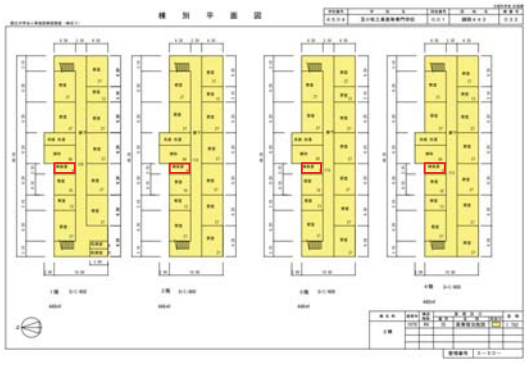


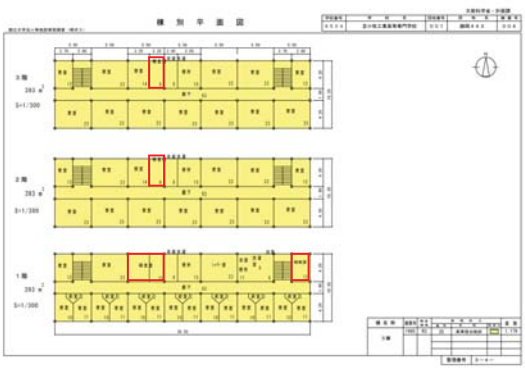


（次項に続く）

資料３－２－⑦－（２）（続き）

（前項からの続き）





（次項に続く）

資料３－２－⑦－（２）（続き）

（前項からの続き）





（出典　学生寮棟別平面図）

資料３－２－⑦－（３）－１

「日課表」

Ⅰ　生活と規律

寮には日課が定められています。これは寮が共同生活の場だからです。

就寝時間や消灯時間が定められているのは、勉強や睡眠をお互いに妨げないようにし、結局は個人の生活を最低限認め合おうというのがその趣旨です。また、食事や入浴の時間が決まっているのは、経済的な理由とともに、それに従事している職員との約束の結果です。寮生相互の間と同様、このような人たちとの間でも約束を守ることが大切なことです。お互いを認め合うことによって住み良い社会ができるわけです。

日課を定めている更に大切な理由は、それによって規則正しい生活の習慣を身に付けることです。私達の生活は安易に流されやすいものです。周りの人の影響もあります。それを自ら律するためにも、日課を守って下さい。

1.　日　課　表

		平　日	休　日
※	起　床	7：30	
※	点　呼	7：45	
	朝　食	7：45～8：45	8：00～9：00
※	登　校	8：45〈授業開始 9：00〉	
	昼　食	12：20～13：05	12：00～13：00
※	登　校	13：05〈授業開始 13：10〉	
	入　浴	16：30～20：00	
	夕　食	17：30～19：30	17：00～19：00
※	自　習	20：30～22：30	
	門　限	22：00【玄関施錠】	
※	点　呼	22：35	
	清　掃	22：40～23：15〈共同利用室等〉	
※	就　寝	23：15	
	消　灯	23：30	

※印はチャイムが鳴ります。

（出典　寮生活の手引き p1　Ⅰ生活と規律　１．日課表）

資料３－２－⑦－（４）－１

「寮生数一覧表」

寮　生　数　一　覧　表

≪ 令和元年８月31日 ≫

クラス 別

学年	機械 1組	環境 2組	物質 3組	電・電 4組	情報 5組	計
1	14 3 17	10 3 13	10 3 13	13 1 14	15 1 16	62 11 73
2	17 1 18	20 4 24	11 1 12	14 2 16	11 2 13	73 10 83
3	11 1 12	7 4 11 (1)	6 3 9 (1)	12 0 12	10 2 12 (1)	46 10 56 (3)
4	13 1 14	13 2 15 (1)	12 6 18 (1)	5 1 6	8 2 10 (1)	51 12 63 (3)
5	10 1 11 (1)	11 2 13 (1)	8 5 13	11 1 12	15 1 16 (1)	55 10 65 (3)
合計	65 7 72 (1)	61 15 76 (3)	47 18 65 (2)	55 5 60 0	59 8 67 (3)	287 53 340 (9)

※枠内の上段右の数字は女子学生　※（ ）の数字は留学生

女子棟（寮生数）

1階	2階	3階	合計
12 留学生1	21	20	53

日誌の「点呼状況」欄の総人数は、右表の「棟・階別」寮生数を記入してください。
寮生数には、階長・副階長等の指導寮生も含んでいます。
点呼なしの階は、外泊届により在寮生数を把握してください。
外泊届は全寮生に提出させています。

棟・階別

	棟・階		寮生数	備考
点呼状況	一棟	1	27	
		2	27	
		3	24	
	小計		78	
	二棟	1	22	
		2	29	
		3	29	
		4	30	
	小計		110	
	三棟	1	10	留学生8
		2	22	
		3	22	
	小計		54	
	四棟	1	21	
		2	23	
		3	0	
	小計		44	
管理棟			1	
合計			287	

（出典　学生寮棟別平面図　寄宿舎管理棟（自習室）及び女子寮多目的ホール）

資料３－２－⑦－（４）－２

「入寮者選考に関する申合せ」

①　学生寮関係申合せ事項

1. 入寮者選考に関する申合せ

(1) 苫小牧工業高等専門学校寄宿舎規則第８条第４項に基づき、入寮者の選考について申合せる。

(2) 男子寮の定員及び選考順序

① 入寮定員 298 名（留学生を除く）については、各学年毎に原則として次のとおり配分する。
1学年 70 名、2学年 70 名、3学年 70 名、4学年及び5学年 88 名
また、１～４学年では現員が次年度の入寮可能数を超える場合、中途での入寮募集はしない。

② 入寮者の選考は、年度当初に願い出のあった者について次の順序により行う。
a）新入生
b）継続入寮を希望する者及び新編入生
ただし、入寮選考開始時点で３ヶ月以上の寮費滞納がある者については、継続入寮を原則として認めない。
c）上記以外の者
なお、留学生については３棟１階の居室を充てることとし、最大 15 名を収容するものとする。
また、継続入寮を希望する者で、原級留置となった者の継続入寮は、原則として認めない。

(3) 女子寮の定員及び選考順序

① 入寮定員 76 名（留学生を除く）については、各学年毎に原則として次のとおり配分する。
1学年 16 名、2学年 16 名、3学年 16 名、4学年及び5学年 28 名
また、１～４学年では現員が次年度の入寮可能数を超える場合、中途での入寮募集はしない。

② 入寮者の選考は、年度当初に願い出のあった者について次の順序により行う。
a）新入生
b）継続入寮を希望する者及び新編入生
ただし、入寮選考開始時点で３ヶ月以上の寮費滞納がある者については、継続入寮を原則として認めない。
c）上記以外の者
なお、留学生については女子寮１階の居室を充てることとし、最大３名を収容するものとする。
また、継続入寮を希望する者で、原級留置となった者の継続入寮は、原則として認めない。

(4) 男子寮・女子寮ともに、４学年及び５学年は全員指導寮生とする。なお、１～３年生が定員に満たない場合は、指導寮生を順次居室に配置し指導強化を図る。

(5) 入寮者の選考に当たっては以下を考慮する。
① 次年度の入寮期間が５年を越えない者
② 上記②のａ）と③の②のａ）の選考について
自宅出発時刻の早い者から順に入寮者を選考する。
③ 上記②のｂ）と③の②のｂ）の選考について
下記に示すａ～ｅの条件によりポイントを算出し、ポイントの多い者から順に入寮者を選考する。また、入寮を希望する者の人数が定員を超える場合には、定員上限のポイントを境界にし、その前後から抽選により入寮候補者を選考する。

（次項に続く）

（前項からの続き）

a）寮生会役員
寮生会役員のうち、寮長 30 ポイント、副寮長 25 ポイント、書記長 20 ポイント、会計長 30 ポイント、会計監査 10 ポイント、各種委員長には 20 ポイントを加算する。また、男子寮において、階長、副階長の各候補者に対し 20 ポイント、１棟階長補および副階長補の候補者に対し 10 ポイントを加算する。女子寮において、階長の候補者に対し 25 ポイントを加算する。
複数の役職を兼務する者については、最もポイントの高い役職分のみを加算する。
b）通学状況
自宅出発時刻により下記表のようにポイントを加算する。但し、遠考に際し著しく不都合が生じる場合には下記表を見直すことができる。

自宅出発時刻とポイント

自宅出発時刻	ポイント
5：30 以前	50
5：30～5：39	45
5：40～5：49	40
5：50～5：59	35
6：00～6：09	30
6：10～6：19	25
6：20～6：29	20
6：30～6：39	15
6：40～6：49	10
6：50～6：59	5
7：00 以後	0

c）始末書
始末書については１枚目がマイナス５ポイント、２枚目マイナス 15 ポイント、３枚目以降は１枚につきマイナス 25 ポイントとして、累積加算する。
d）その他
その他、事情がある者で寮務主事によって入寮が必要と認められた者については、寮務委員会において審議する。

⑹ この申合せによる選考は寮務委員会において行うものとする。

⑺ 入寮選考の終了後に寮生の不始末等が発覚し、寮務委員会が選考結果は公平でないと判断した場合、入寮の再選考を行うことがある。

平成４年 12 月８日　第 10 回寮務委員会
平成８年１月 31 日　第９回寮務委員会改正
平成９年 11 月 11 日　第８回寮務委員会改正
平成 14 年３月 18 日　第 15 回寮務委員会改正
平成 15 年３月 19 日　第 23 回寮務委員会改正
平成 16 年３月 24 日　第 28 回寮務委員会改正
「苫小牧工業高等専門学校学寮入寮者選考に関する申合せ」から名称変更

（次項に続く）

（前項からの続き）

平成 16 年 10 月 19 日　第 14 回寮務委員会改正
平成 16 年 12 月 15 日　第 17 回寮務委員会改正
平成 18 年３月 23 日　第 21 回寮務委員会改正
平成 19 年３月 15 日　第 18 回寮務委員会改正
平成 19 年９月 14 日　第 11 回寮務委員会改正
平成 23 年３月 17 日　第 26 回寮務委員会改正
平成 23 年９月 20 日　第７回寮務委員会改正
平成 26 年３月 18 日　第 18 回寮務委員会改正
平成 27 年２月 26 日　第 14 回寮務委員会改正
平成 30 年 10 月 24 日　第６回寮務委員会改正

（出典　寮生指導の手引き　p19～21）

「自習時間」

⑶ 自習時間
自習時間は勉学に励む時間です。とりわけ、低学年の時には自習の習慣を身に付ける事が大切です。この時間帯は外出したり遊んだりする事は禁じられています。

（出典　寮生活の手引き p2　Ⅰ生活と規律　２．日課についての注意事項）

「自習室」

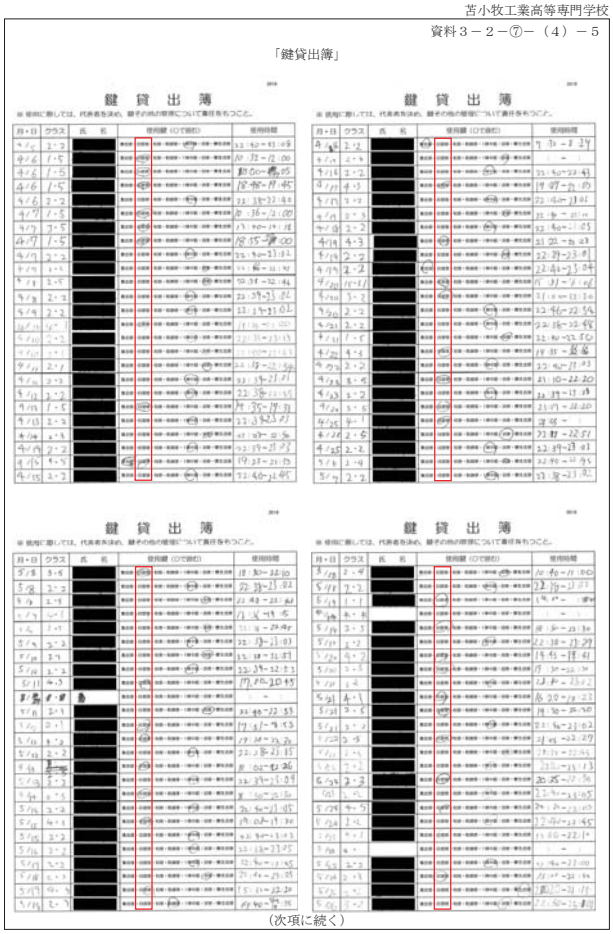
⑷ 自 習 室
管理棟の中央に自習室があります。ここは自習のために使用する部屋ですので、次のことを守ってください。使用状況が悪い場合には、使用を禁止することがあります。
① 使用時間は放課後（休日は10時）から22時30分までです。試験期間中（試験１週間前～）は翌３時まで使用が可能です。深夜まで部屋を使用した場合、鍵は翌朝に教員当直室又は寮務係まで返却して下さい。

② 室内では静かにし、他の自習中の寮生に迷惑をかける行為を慎んで下さい。
③ 室内での飲食及び飲食物の持ち込みはしないで下さい。ただし、以下のものは例外として認めます。
・飲み物：ペットボトル、水筒など
・軽　食：スナック菓子等（ラーメン等の食事は禁ずる）
④ 室内でのゲーム、学習に関係のないパソコン類、インターネット等の使用は禁止します。
⑤ 無断でテーブル、パーティションの配置は変えないで下さい。
⑥ 退室時には必ず、デスクライト・照明・オイルヒーターの電源を切って下さい。

（出典　寮生活の手引き p9～10　Ⅱ施設・設備・備品の使用について　２．共同施設・設備）

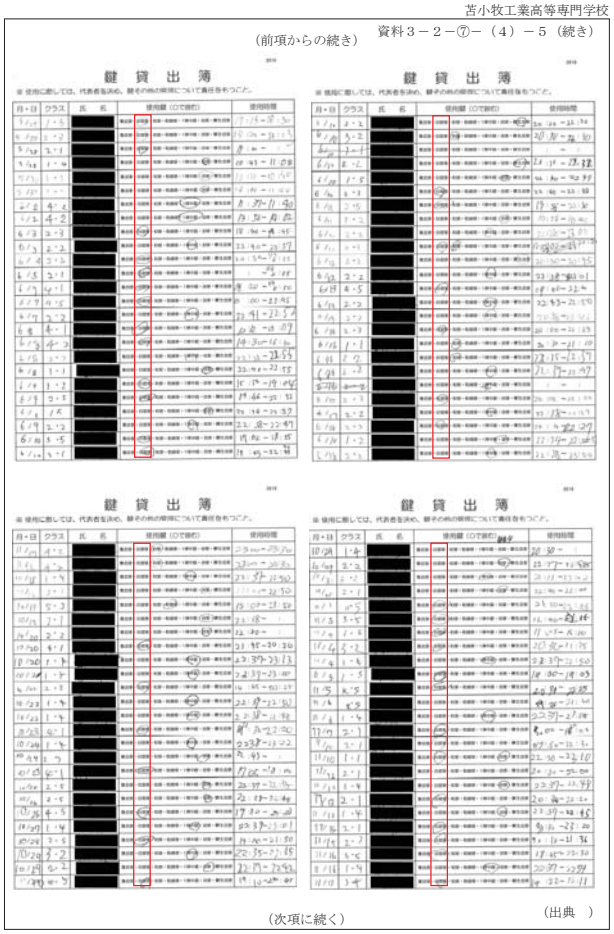
資料３－２－⑦－（４）－５

「鍵貸出簿」



（次項に続く）

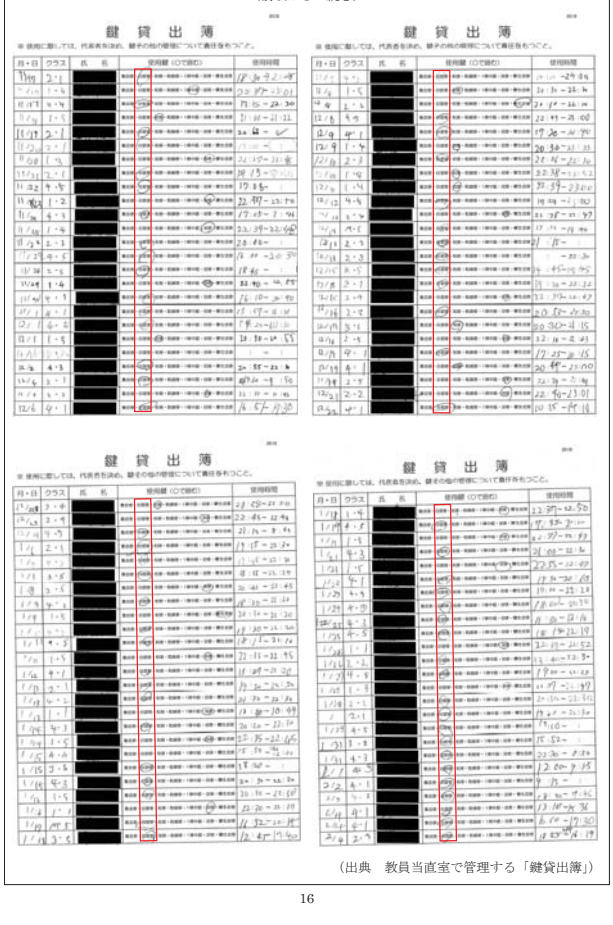
（前項からの続き）　資料３－２－⑦－（４）－５（続き）



（次項に続く）

（出典　　）

（前項からの続き）　資料３－２－⑦－（４）－５（続き）



（出典　教員当直室で管理する「鍵貸出簿」）

資料３－２－⑦－（４）－６

「自習時間」

(4) 自習時間

自習時間は勉学に励む時間です。とりわけ、低学年の時には自習の習慣を身に付ける事が大切です。この時間帯は外出したり遊んだりする事は禁じられており、不在にする場合には寮長に届け出ることになっています。

（出典　寮生活の手引き（女子寮）p3　Ⅰ生活と規律　２．日課についての注意事項）

資料３－２－⑦－（４）－７

「多目的ホール」

(1)　**多目的ホール**

多目的ホールは食事、集会、寮生会の活動、自習などに使用する場所となっています。また、ホール内には補食コーナーと談話コーナーが設けられており、快適な寮生活をおくれるよう配慮されています。女子寮生全員が使用する場所となっていますから、長時間占有することのないようにして下さい。なお、使用状況が悪い場合には、使用を制限することがあります。

① 多目的ホールの使用時間は、23時15分までです（自動販売機及び製氷機を除く）。ただし、自習時間（20時30分から22時30分）は学習目的以外の使用はできません。
② 多目的ホールに私物を持込んではいけません。
③ 食堂としても使用する場所ですから、整理整頓を心がけ、清潔に保つことが必要です。
④ 見苦しい服装(パジャマ姿など)で入ることは慎んで下さい。
⑤ 談話コーナーの新聞や雑誌はホールの外に持ち出さずに、大切に読んで下さい。
⑥ テレビは譲り合って使用して下さい。テレビゲームは禁止します。
⑦ 補食コーナーには、電磁調理器、電子レンジ、オーブンレンジ、電気ケトル、製氷機が設置されています。使用に当たっては、使用上の注意を良く読み、丁寧に扱って下さい。
また、食べ物を扱う場所ですから、清潔を保つように心がけて下さい。
⑧ 掃除は22時40分から23時15分の間に女子寮生全員の当番によって行います。掃除終了後、担当の指導寮生が確認します。

（出典　寮生活の手引き（女子寮）p9～10　Ⅱ施設・設備・備品の使用について　２．共同施設・設備）

資料３－２－⑦－（５）

「苫小牧工業高等専門学校寄宿舎規則」

1.　苫小牧工業高等専門学校寄宿舎規則

規則第3号
制　　定　昭和39年４月１日
一部改正　昭和40年４月１日
一部改正　昭和43年４月１日
一部改正　昭和44年４月１日
一部改正　昭和50年４月１日
一部改正　昭和51年７月20日
一部改正　昭和56年11月２日
一部改正　昭和59年４月１日
一部改正　昭和63年４月１日
一部改正　平成４年４月１日
一部改正　平成15年３月20日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成25年３月７日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年２月23日

（趣　旨）
第１条　この規則は，苫小牧工業高等専門学校学則第50条第２項の規定に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における寄宿舎の管理運営その他必要事項について定めるものとする。
（設置の目的）
第２条　寄宿舎は，学生の修学に便宜を供与し，かつ，規律ある共同生活を通して，その人間形成を助長し，本校の掲げる教育目的の達成に資することを目的とする。
（名　称）
第３条　寄宿舎の名称は，本校蒼冥寮及び楓和寮（以下「学生寮」と総称する。）とする。
（寮生活の基本）
第４条　学生寮に入寮している学生（以下「寮生」という。）は，本校学則，この規則及びその他本校の定める諸規則を守り，相互に敬愛啓発して自己及び共同生活の向上充実に努めなければならない。
（管理運営）
第５条　学生寮は，校長が管理運営する。
２　副校長（寮務主事）は，校長の命を受けて，学生寮の運営及び寮生の厚生補導に関することを掌理する。
３　寮務主事補は，副校長（寮務主事）の業務を補佐する。
４　学生寮に関する事務は，学生課において処理する。

（次項に続く）

資料３－２－⑦－（５）（続き）

（前項からの続き）

（宿日直）
第６条　校長が必要と認めたときは，教員が宿日直する。
２　宿日直に関する事項は，別に定める。
（寮務委員会）
第７条　学生寮の管理運営に関する事項及び寮生の厚生補導に関する事項を調査審議するため，寮務委員会を置く。
２　寮務委員会に関する事項は，別に定める。
（入　寮）
第８条　学生寮に入寮を希望する学生は，入寮願（別紙第１号様式）及びその他本校が指定する書類を添え，校長に願い出るものとする。
２　蒼冥寮には男子学生を，楓和寮には女子学生を入寮させる。
３　入寮を希望する学生の選考は，寮務委員会が行う。
４　入寮の選考に関する事項は，別に定める。
５　入寮の許可は，選考の結果に基づいて，校長が行う。
６　入寮の時期は，学年の始めとする。ただし，学年の途中においても入寮させることがある。
７　入寮の許可期間は，入寮した日の属する年度の末日までとする。
（退　寮）
第９条　退寮しようとする寮生は，退寮願（別紙第２号様式）を校長に提出し，許可を受けるものとする。
２　本校学則及びその他本校の定める諸規則に違反した寮生，寄宿料及び第11条第２項に規定する諸経費を納付しない寮生又は疾病その他の事由により共同生活に適さないと認めた寮生に対し，校長は退寮を命ずることがある。
（居室の決定）
第10条　寮生の居室の決定及び変更は，副校長（寮務主事）が行う。
（寄宿料及び諸経費）
第11条　寄宿料の額及び徴収方法は，独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号）及び本校債権管理及び歳入徴収事務取扱要項の定めるところによる。
２　寮生の入寮時に必要な経費及び生活上必要な経費で各人の負担すべきものの額及び徴収方法は，別に定める。
３　寮生又は寮生の学資を主として負担している者が，風水害等の災害を受け，納付が困難であると認められる場合は，別に定めるところにより寄宿料を免除することがある。
（組織設置の許可）
第12条　寮生がその総意により，自ら学生寮設置の目的に従って運営する組織を設けようとする場合，その組織の目的等が学校運営上，有意義であると認めるときは，校長はその組織の設置を許可するものとする。
２　校長は，前項の組織がその目的を逸脱した場合は，解散を命ずることがある。

（次項に続く）

資料３－２－⑦－（５）（続き）

（前項からの続き）

（防災安全）
第13条　校長は，寮生の災害時における安全の確保について，必要な措置を取らなければならない。
２　寮生は，火災その他の災害の防止について，常時注意するとともに，本校が行う防災避難訓練及びその他の措置について協力しなければならない。
（保健衛生）
第14条　校長は，寮生に関する健康の維持及び増進に留意しなければならない。
２　校長は，必要があると認める場合は，寮生に対し健康診断の受診又は療養を命ずることがある。
３　寮生は，各自の健康維持及び増進に留意するとともに，本校が行う健康診断等必要な措置に協力しなければならない。
４　本校教職員は，寮生から罹患又は怪我をした旨の申出があった場合，必要な措置を講じなければならない。
（施設，設備の使用）
第15条　学生寮の施設，設備の使用については，別に定める。
（閉寮期間等）
第16条　学生寮は，本校学則第５条第１項第四号に規定する休業日は閉寮するものとする。ただし，特別の必要があるときは，校長は，これらの休業日であっても開寮させることがある。
２　前項に規定する閉寮期間のほか，臨時に閉寮する場合は，校長がその都度定める。
３　校長は，寮生にやむを得ない事情があると認めたとき，前２項の閉寮期間中においても残寮を許可することがある。
（雑　則）
第17条　この規則の実施について必要な事項は，別に定める。

附　則　この規則は，昭和39年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，昭和40年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，昭和43年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，昭和44年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，昭和50年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，昭和51年７月20日から施行する。
附　則　この規則は，昭和56年11月２日から施行する。
附　則　この規則は，昭和59年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，昭和63年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，平成４年４月１日から施行する。
附　則　１　この規則は，平成15年３月20日から施行し，平成14年４月１日から適用する。
２　この規則以前に執行しているものについては，なお従前の例による。

附　則　この規則は，平成16年４月１日から施行する。
附　則　この規則は，平成25年３月７日から施行し，平成25年４月１日から適用する。
附　則　この規則は，平成27年４月１日から施行する。
附　則　１　この規則は，平成28年４月１日から施行する。
２　平成27年度以前に入学した学生については，改正後の規定にかかわらず，なお従前の例による。

（出典　苫小牧工業高等専門学校寄宿舎規則）

資料４－１－①－（１）－１

「平成２６年度から平成３０年度貸借対照表」

平成26年度（平成27年3月31日）

貸 借 対 照 表
（平成27年3月31日）

（単位：円）

資産の部				
Ⅰ 流動資産				
現金及び預金		15,449,173		
未収学生納付金収入	592,200			
徴収不能引当金	0	592,200		
棚卸資産		385,237		
未収入金	12,887,799			
貸倒引当金	0	12,887,799		
前渡金		0		
前払費用		81,875		
立替金		7,355,628		
流動資産合計			36,751,912	
Ⅱ 固定資産				
1 有形固定資産				
建物	2,923,077,722			
減価償却累計額	−829,426,942	2,093,650,780		
構築物	103,379,960			
減価償却累計額	−57,796,302	45,583,658		
船舶	0			
減価償却累計額	0	0		
車両運搬具	7,170,889			
減価償却累計額	−7,170,886	3		
工具器具備品	1,146,870,433			
減価償却累計額	−532,263,814	614,606,619		
土地		784,979,147		
美術品・収蔵品		0		
建設仮勘定		0		
その他の有形固定資産		1,100,000		
有形固定資産合計		3,539,920,207		
2 無形固定資産				
特許権		767,875		
ソフトウェア		0		
電話加入権		40,500		
その他		0		
特許権仮勘定		2,531,364		
無形固定資産合計		3,339,739		
3 投資その他の資産				
長期貸付金		0		
長期前払費用		37,897		
敷金・保証金		0		
その他		26,710		
投資その他の資産合計		64,607		
固定資産合計			3,543,324,553	
資産合計			3,580,076,465	
[本支店勘定]				
[本支店]弓削商船高専		0		
（以下、各高専は省略）		0		
[本支店]機構本部		−24,012,310		
[本支店]機構本部 管理課		72,840,041		
本支店勘定合計			48,827,731	

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－１（続き）

（単位：円）

[負債の部]				
Ⅰ 流動負債				
運営費交付金債務		0		
預り寄附金		31,839,876		
前受受託研究費等		1,074,488		
前受受託事業費等		0		
短期借入金		0		
1年以内返済予定長期借入金		0		
未払金		25,067,210		
未払消費税等		0		
未払費用		14,672,622		
前受金		233,344		
預り金		19,746,345		
前受収益		0		
引当金		0		
その他の流動負債		0		
			92,633,885	
Ⅱ 固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費交付金等	347,804,449			
資産見返補助金等	134,346,862			
資産見返寄附金	13,154,141			
資産見返物品受贈額	219,030			
建設仮勘定見返施設費	0			
特許権仮勘定見返運営費交付金等	2,531,364			
特許権仮勘定見返補助金等	0			
特許権仮勘定見返寄附金	0	498,055,846		
長期預り寄附金		6,860,367		
長期前受受託研究費等		0		
長期前受受託事業費等		0		
長期借入金		0		
長期未払金		19,261,657		
引当金		0		
固定負債			524,177,870	
負債合計				616,811,755
[純資産の部]				
Ⅰ 資本金				
政府出資金		2,217,598,380		
資本金合計			2,217,598,380	
Ⅱ 資本剰余金				
資本剰余金		1,852,631,885		
損益外減価償却累計額		−931,065,871		
損益外減損損失累計額		−16,177,353		
損益外固定資産除売却差額		−113,307,143		
資本剰余金合計			792,081,518	
Ⅲ 利益剰余金				
目的積立金		0		
積立金		0		
当期未処分利益		2,412,543		
利益剰余金合計			2,412,543	
資本合計				3,012,092,441
負債資本合計				3,628,904,196

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－１（続き）

平成27年度（平成28年3月31日）

貸 借 対 照 表
（平成28年3月31日）

（単位：円）

資産の部				
Ⅰ 流動資産				
現金及び預金		11,825,350		
未収学生納付金収入	253,800			
徴収不能引当金	0	253,800		
棚卸資産		1,396,380		
未収入金	8,107,387			
貸倒引当金	0	8,107,387		
前渡金		0		
前払費用		59,132		
立替金		3,034,767		
流動資産合計			24,676,816	
Ⅱ 固定資産				
1 有形固定資産				
建物	3,166,344,977			
減価償却累計額	−920,012,780	2,246,332,197		
構築物	122,509,667			
減価償却累計額	−60,816,401	61,693,266		
船舶	0			
減価償却累計額	0	0		
車両運搬具	7,170,889			
減価償却累計額	−7,170,886	3		
工具器具備品	1,159,235,979			
減価償却累計額	−672,775,594	486,460,385		
土地		773,094,407		
美術品・収蔵品		0		
建設仮勘定		0		
その他の有形固定資産		1,100,000		
有形固定資産合計		3,568,680,258		
2 無形固定資産				
特許権		659,469		
ソフトウェア		0		
電話加入権		40,500		
その他		0		
特許権仮勘定		2,341,194		
無形固定資産合計		3,041,163		
3 投資その他の資産				
長期貸付金		0		
長期前払費用		0		
敷金・保証金		0		
その他		26,710		
投資その他の資産合計		26,710		
固定資産合計			3,571,748,131	
資産合計			3,596,424,947	
[本支店勘定]				
[本支店]弓削商船高専		−1		
（以下、各高専は省略）		0		
[本支店]機構本部		−16,424,853		
[本支店]機構本部 管理課		333,926,370		
本支店勘定合計			317,501,516	

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－１（続き）

（単位：円）

[負債の部]				
Ⅰ 流動負債				
運営費交付金債務		0		
預り寄附金		34,693,666		
前受受託研究費等		2,201,600		
前受受託事業費等		0		
短期借入金		0		
1年以内返済予定長期借入金		0		
未払金		273,832,453		
未払消費税等		0		
未払費用		11,823,256		
前受金		480,631		
預り金		18,332,064		
前受収益		0		
引当金		0		
その他の流動負債		0		
			341,363,670	
Ⅱ 固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費交付金等	332,845,579			
資産見返補助金等	99,900,265			
資産見返寄附金	11,329,279			
資産見返物品受贈額	188,538			
建設仮勘定見返施設費	0			
特許権仮勘定見返運営費交付金等	2,341,194			
特許権仮勘定見返補助金等	0			
特許権仮勘定見返寄附金	0	446,604,855		
長期預り寄附金		7,296,839		
長期前受受託研究費等		0		
長期前受受託事業費等		0		
長期借入金		0		
長期未払金		10,687,002		
引当金		0		
固定負債			464,588,696	
負債合計				805,952,366
[純資産の部]				
Ⅰ 資本金				
政府出資金		2,217,598,380		
資本金合計			2,217,598,380	
Ⅱ 資本剰余金				
資本剰余金		2,119,733,033		
損益外減価償却累計額		−1,078,966,718		
損益外減損損失累計額		−28,062,093		
損益外固定資産除売却差額		−130,621,203		
資本剰余金合計			882,083,019	
Ⅲ 利益剰余金				
目的積立金		0		
積立金		0		
当期未処分利益		−1,707,302		
利益剰余金合計			−1,707,302	
資本合計				3,097,974,097
負債資本合計				3,903,926,463

（次ページに続く）

平成28年度（平成29年3月31日）

貸 借 対 照 表
（平成29年3月31日）

（単位：円）

資産の部			
Ⅰ 流動資産			
現金及び預金		15,010,856	
未収学生納付金収入	253,800		
徴収不能引当金	0	253,800	
棚卸資産		1,446,787	
未収入金	7,204,591		
貸倒引当金	0	7,204,591	
前渡金		0	
前払費用		85,475	
立替金		404,790	
流動資産合計			24,406,299
Ⅱ 固定資産			
１ 有形固定資産			
建物	3,200,261,682		
減価償却累計額	−1,034,874,288	2,165,387,394	
構築物	131,608,717		
減価償却累計額	−66,015,053	65,593,664	
船舶	0		
減価償却累計額	0	0	
車両運搬具	7,982,849		
減価償却累計額	−5,116,938	2,865,911	
工具器具備品	1,170,852,855		
減価償却累計額	−809,855,249	360,997,606	
土地		773,094,407	
美術品・収蔵品		0	
建設仮勘定		0	
その他の有形固定資産		1,100,000	
有形固定資産合計		3,369,038,982	
２ 無形固定資産			
特許権		1,833,589	
ソフトウェア		0	
電話加入権		40,500	
その他		0	
特許権仮勘定		1,175,074	
無形固定資産合計		3,049,163	
３ 投資その他の資産			
長期貸付金		0	
長期前払費用		49,707	
敷金・保証金		0	
その他		23,470	
投資その他の資産合計		73,177	
固定資産合計			3,372,161,322
資産合計			3,396,567,621
[本支店勘定]			
[本支店]弓削商船高専		−1	
（以下，各高専は省略）		0	
[本支店]機構本部		−24,717,551	
[本支店]機構本部 管理課		108,278,352	
本支店勘定合計			83,560,800

（次ページに続く）

（単位：円）

[負債の部]			
Ⅰ 流動負債			
運営費交付金債務		0	
預り寄附金		32,143,059	
前受受託研究費等		1,904,000	
前受受託事業費等		0	
短期借入金		0	
１年以内返済予定長期借入金		0	
未払金		46,027,621	
未払消費税等		0	
未払費用		11,729,414	
前受金		1,425,234	
預り金		22,971,238	
前受収益		0	
引当金		0	
その他の流動負債		0	
			116,200,566
Ⅱ 固定負債			
資産見返負債			
資産見返運営費交付金等	353,354,014		
資産見返補助金等	67,772,146		
資産見返寄附金	9,970,798		
資産見返物品受贈額	158,045		
建設仮勘定見返施設費	0		
特許権仮勘定見返運営費交付金等	1,175,074		
特許権仮勘定見返補助金等	0		
特許権仮勘定見返寄附金	0	432,430,077	
長期預り寄附金		6,930,549	
長期前受受託研究費等		0	
長期前受受託事業費等		0	
長期借入金		0	
長期未払金		1,897,403	
引当金		0	
固定負債			441,258,029
負債合計			557,458,595
[純資産の部]			
Ⅰ 資本金			
政府出資金		2,217,598,380	
資本金合計			2,217,598,380
Ⅱ 資本剰余金			
資本剰余金		2,119,733,033	
損益外減価償却累計額		−1,254,242,175	
損益外減損損失累計額		−28,062,093	
損益外固定資産除却差額		−131,090,953	
資本剰余金合計			706,337,812
Ⅲ 利益剰余金			
目的積立金		0	
積立金		0	
当期未処分利益		−1,266,366	
利益剰余金合計			−1,266,366
資本合計			2,922,669,826
負債資本合計			3,480,128,421

（次ページに続く）

平成29年度（平成30年3月31日）

貸 借 対 照 表
（平成30年3月31日）

（単位：円）

資産の部			
Ⅰ 流動資産			
現金及び預金		14,979,671	
未収学生納付金収入	573,000		
徴収不能引当金	0	573,000	
棚卸資産		419,327	
未収入金	1,297,403		
貸倒引当金	0	1,297,403	
前渡金		0	
前払費用		65,427	
立替金		717,356	
流動資産合計			18,052,184
Ⅱ 固定資産			
１ 有形固定資産			
建物	3,231,791,260		
減価償却累計額	−1,148,414,146	2,083,377,114	
構築物	132,375,517		
減価償却累計額	−72,586,283	59,789,234	
船舶	0		
減価償却累計額	0	0	
車両運搬具	9,388,706		
減価償却累計額	−5,688,371	3,700,335	
工具器具備品	1,145,179,663		
減価償却累計額	−901,985,313	243,194,350	
土地		397,276,225	
美術品・収蔵品		0	
建設仮勘定		864,000	
その他の有形固定資産		1,100,000	
有形固定資産合計		2,789,301,258	
２ 無形固定資産			
特許権		2,793,983	
ソフトウェア		0	
電話加入権		40,500	
その他		0	
特許権仮勘定		405,624	
無形固定資産合計		3,240,107	
３ 投資その他の資産			
長期貸付金		0	
長期前払費用		10,205	
敷金・保証金		0	
その他		29,460	
投資その他の資産合計		39,665	
固定資産合計			2,792,581,030
資産合計			2,810,633,214
[本支店勘定]			
[本支店]弓削商船高専		−1	
（以下，各高専は省略）		0	
[本支店]機構本部		−23,451,185	
[本支店]機構本部 管理課		97,312,176	
本支店勘定合計			73,860,990

（次ページに続く）

（単位：円）

[負債の部]			
Ⅰ 流動負債			
運営費交付金債務		0	
預り寄附金		25,396,943	
前受受託研究費等		2,750,000	
前受受託事業費等		0	
短期借入金		0	
１年以内返済予定長期借入金		0	
未払金		29,604,843	
未払消費税等		0	
未払費用		12,264,545	
前受金		1,000,000	
預り金		21,455,335	
前受収益		0	
引当金		0	
その他の流動負債		0	
			92,471,666
Ⅱ 固定負債			
資産見返負債			
資産見返運営費交付金等	333,963,359		
資産見返補助金等	35,980,595		
資産見返寄附金	13,954,767		
資産見返物品受贈額	127,553		
建設仮勘定見返施設費	864,000		
特許権仮勘定見返運営費交付金等	405,624		
特許権仮勘定見返補助金等	0		
特許権仮勘定見返寄附金	0	385,295,898	
長期預り寄附金		6,779,396	
長期前受受託研究費等		0	
長期前受受託事業費等		0	
長期借入金		0	
長期未払金		0	
引当金		0	
固定負債			392,075,294
負債合計			484,546,960
[純資産の部]			
Ⅰ 資本金			
政府出資金		2,217,598,380	
資本金合計			2,217,598,380
Ⅱ 資本剰余金			
資本剰余金		2,144,547,585	
損益外減価償却累計額		−1,426,249,513	
損益外減損損失累計額		−403,880,275	
損益外固定資産除売却差額		−131,090,953	
資本剰余金合計			183,326,844
Ⅲ 利益剰余金			
目的積立金		0	
積立金		0	
当期未処分利益		−977,980	
利益剰余金合計			−977,980
資本合計			2,399,947,244
負債資本合計			2,884,494,204

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－１（続き）

平成30年度(平成31年3月31日)

貸 借 対 照 表
(平成31年3月31日)

(単位:円)

資産の部			
Ⅰ 流動資産			
現金及び預金		16,330,804	
未収学生納付金収入	169,200		
徴収不能引当金	0	169,200	
棚卸資産		1,725,992	
未収入金	1,194,026		
貸倒引当金	0	1,194,026	
前渡金		0	
前払費用		73,631	
立替金		2,640,756	
流動資産合計			22,134,409
Ⅱ 固定資産			
1 有形固定資産			
建物	3,240,446,599		
減価償却累計額	−1,261,562,462	1,978,884,137	
構築物	132,375,517		
減価償却累計額	−78,338,348	54,037,169	
船舶	0		
減価償却累計額	0	0	
車両運搬具	7,605,165		
減価償却累計額	−2,665,068	4,940,097	
工具器具備品	1,157,392,765		
減価償却累計額	−983,494,218	173,898,547	
土地		397,276,225	
美術品・収蔵品		0	
建設仮勘定		4,860,000	
その他の有形固定資産		1,116,040	
有形固定資産合計		2,615,012,215	
2 無形固定資産			
特許権		2,960,174	
ソフトウェア		1,466,210	
電話加入権		40,500	
その他		0	
特許権仮勘定		0	
無形固定資産合計		4,466,884	
3 投資その他の資産			
長期貸付金		0	
長期前払費用		19,340	
敷金・保証金		0	
その他		24,910	
投資その他の資産合計		44,250	
固定資産合計			2,619,523,349
資産合計			2,641,657,758
[本支店勘定]			
[本支店]弓削商船高専		−1	
(以下、各高専は省略)		0	
[本支店]機構本部		−22,473,205	
[本支店]機構本部 管理課		145,950,479	
本支店勘定合計			123,477,273

(次ページに続く)

資料４－１－①－（１）－１（続き）

(単位:円)

[負債の部]			
Ⅰ 流動負債			
運営費交付金債務		0	
預り寄附金		21,043,159	
前受受託研究費等		4,641,817	
前受受託事業費等		0	
短期借入金		0	
1年以内返済予定長期借入金		0	
未払金		78,568,656	
未払消費税等		0	
未払費用		12,036,666	
前受金		2,210,000	
預り金		25,386,173	
前受収益		0	
引当金		0	
その他の流動負債		0	
		143,886,471	
Ⅱ 固定負債			
資産見返負債			
資産見返運営費交付金等	339,352,178		
資産見返補助金等	16,524,003		
資産見返寄附金	12,301,897		
資産見返物品受贈額	97,060		
建設仮勘定見返施設費	0		
特許権仮勘定見返運営費交付金等	4,860,000		
特許権仮勘定見返補助金等	0		
特許権仮勘定見返寄附金	0	373,135,138	
長期預り寄附金		6,428,121	
長期前受受託研究費等		0	
長期前受受託事業費等		0	
長期借入金		0	
長期未払金		0	
引当金		0	
固定負債			379,563,259
負債合計			523,449,730
[純資産の部]			
Ⅰ 資本金			
政府出資金		2,217,598,380	
資本金合計			2,217,598,380
Ⅱ 資本剰余金			
資本剰余金		2,144,563,625	
損益外減価償却累計額		−1,584,893,962	
損益外減損損失累計額		−403,880,275	
損益外固定資産除売却差額		−131,090,953	
資本剰余金合計			24,698,435
Ⅲ 利益剰余金			
目的積立金		0	
積立金		0	
当期未処分利益		−611,514	
利益剰余金合計			−611,514
資本合計			2,241,685,301
負債資本合計			2,765,135,031

(出典 「財務会計システム」から出力した貸借対照表を基に作成)

資料４－１－①－（１）－２

「平成２６年度から平成３０年度損益計算書」

平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

損 益 計 算 書
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位:円)

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	300,066,457		
教育研究支援経費	22,719,308		
受託研究費	4,916,976		
共同研究費	7,502,446		
受託事業費	4,953,200		
教員人件費	27,822,528		
職員人件費	21,512,913	389,493,828	
一般管理費		89,041,031	
財務費用			
支払利息		757,543	
雑損		0	
経常費用合計			479,292,402
経常収益			
運営費交付金収益		44,801,569	
授業料収益		241,687,670	
入学金収益		19,627,200	
検定料収益		6,567,000	
受託研究等収益			
国又は地方公共団体からの受託研究収益	0		
その他の受託研究収益	7,371,706	7,371,706	
共同研究等収益			
国又は地方公共団体からの共同研究収益	0		
その他の共同研究収益	9,715,946	9,715,946	
受託事業等収益			
国又は地方公共団体からの受託事業収益	0		
その他の受託事業収益	4,953,200	4,953,200	
補助金等収益		8,090,239	
寄附金収益		27,328,934	
施設費収益		6,446,035	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	45,378,705		
資産見返補助金等戻入	44,951,591		
資産見返寄附金戻入	3,579,278		
資産見返物品受贈額戻入	30,492		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	358,860	94,298,926	
財務収益			
受取利息	914		
その他の財務収益	0	914	
[経常収益]雑益			
財産貸付料収入	12,256,939		
間接経費収入	7,558,267		
不用物品売払代	0		
弁償及び違約金	0		
版権及び特許権等収入	0		
その他	29,912	19,845,118	
経常利益合計			490,734,457
経常利益			11,442,055
臨時損失			
固定資産除却損		9,292,358	
その他		907,455	10,199,813
臨時利益			
資産見返負債戻入		226,616	
その他		943,685	1,170,301
[臨時利益]合計			
[当期純利益(純損失)]			2,412,543
[目的積立金取崩額]			0
[当期総利益(総損失)]			2,412,543

(次ページに続く)

資料４－１－①－（１）－２（続き）

平成27年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

損 益 計 算 書
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位:円)

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	333,408,785		
教育研究支援経費	22,688,201		
受託研究費	1,119,512		
共同研究費	2,063,638		
受託事業費	0		
教員人件費	20,962,900		
職員人件費	23,066,879	403,309,915	
一般管理費		115,335,630	
財務費用			
支払利息		553,312	
雑損		0	
経常費用合計			519,198,857
経常収益			
運営費交付金収益		100,123,449	
授業料収益		236,114,933	
入学金収益		19,119,600	
検定料収益		6,072,000	
受託研究等収益			
国又は地方公共団体からの受託研究収益	0		
その他の受託研究収益	2,161,425	2,161,425	
共同研究等収益			
国又は地方公共団体からの共同研究収益	0		
その他の共同研究収益	2,333,400	2,333,400	
受託事業等収益			
国又は地方公共団体からの受託事業収益	0		
その他の受託事業収益	0	0	
補助金等収益		11,209,375	
寄附金収益		17,041,959	
施設費収益		27,940,052	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	39,954,880		
資産見返補助金等戻入	34,446,597		
資産見返寄附金戻入	3,578,779		
資産見返物品受贈額戻入	30,492		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	616,320	78,627,068	
財務収益			
受取利息	334		
その他の財務収益	0	334	
[経常収益]雑益			
財産貸付料収入	11,905,893		
間接経費収入	6,651,025		
不用物品売払代	0		
弁償及び違約金	0		
版権及び特許権等収入	0		
その他	185,720	18,742,638	
経常利益合計			519,486,233
経常利益			287,376
臨時損失			
固定資産除却損		2,474,966	
その他		0	2,474,966
臨時利益			
資産見返負債戻入		480,288	
その他		0	480,288
[臨時利益]合計			
[当期純利益(純損失)]			△ 1,707,302
[目的積立金取崩額]			0
[当期総利益(総損失)]			△ 1,707,302

(次ページに続く)

資料４－１－①－（１）－２（続き）

平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

損 益 計 算 書

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（単位：円）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	302,128,342		
教育研究支援経費	19,217,478		
受託研究費	1,090,996		
共同研究費	3,987,364		
受託事業費	2,338,410		
教員人件費	41,043,470		
職員人件費	19,059,124	388,865,184	
一般管理費		68,672,731	
財務費用			
支払利息		343,572	
雑損		0	
経常費用合計			457,881,487
経常収益			
運営費交付金収益		80,584,486	
授業料収益		226,193,469	
入学金収益		19,364,100	
検定料収益		6,103,200	
受託研究等収益			
国又は地方公共団体からの受託研究収益	0		
その他の受託研究収益	1,982,000	1,982,000	
共同研究等収益			
国又は地方公共団体からの共同研究収益	0		
その他の共同研究収益	4,373,400	4,373,400	
受託事業等収益			
国又は地方公共団体からの受託事業収益	0		
その他の受託事業収益	2,572,250	2,572,250	
補助金等収益		6,548,293	
寄附金収益		21,690,214	
施設費収益		0	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	39,155,680		
資産見返補助金等戻入	32,128,119		
資産見返寄附金戻入	2,748,440		
資産見返物品受贈額戻入	30,492	74,062,731	
財務収益			
受取利息	12		
その他の財務収益	0	12	
［経常収益］雑益			
財産貸付料収入	10,920,681		
間接経費収入	6,952,032		
不用物品売払代	0		
弁償及び違約金	0		
版権及び特許権等収入	50,000		
その他	316,384	18,239,097	
経常利益合計			461,713,252
経常利益			3,831,765
臨時損失			
固定資産除却損		5,119,734	
その他		0	5,119,734
臨時利益			
資産見返負債戻入		4	
その他		21,599	21,603
［臨時利益］合計			
［当期純利益（純損失）］			△ 1,266,366
［目的積立金取崩額］			0
［当期総利益（総損失）］			△ 1,266,366

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－２（続き）

平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

損 益 計 算 書

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（単位：円）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	255,211,697		
教育研究支援経費	19,253,113		
受託研究費	710,768		
共同研究費	5,762,924		
受託事業費	891,741		
教員人件費	42,587,455		
職員人件費	20,013,941	344,431,639	
一般管理費		74,614,454	
財務費用			
支払利息		128,149	
雑損		0	
経常費用合計			419,174,242
経常収益			
運営費交付金収益		44,519,611	
授業料収益		233,713,820	
入学金収益		19,373,400	
検定料収益		7,540,500	
受託研究等収益			
国又は地方公共団体からの受託研究収益	0		
その他の受託研究収益	1,074,000	1,074,000	
共同研究等収益			
国又は地方公共団体からの共同研究収益	0		
その他の共同研究収益	6,207,316	6,207,316	
受託事業等収益			
国又は地方公共団体からの受託事業収益	0		
その他の受託事業収益	1,199,263	1,199,263	
補助金等収益		2,075,189	
寄附金収益		22,066,420	
施設費収益		4,345,448	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	31,331,374		
資産見返補助金等戻入	31,791,551		
資産見返寄附金戻入	2,739,262		
資産見返物品受贈額戻入	30,492	65,892,679	
財務収益			
受取利息	13		
その他の財務収益	358	371	
［経常収益］雑益			
財産貸付料収入	10,532,435		
間接経費収入	4,822,500		
不用物品売払代	30,386		
弁償及び違約金	0		
版権及び特許権等収入	64,000		
その他	3,572,429	19,021,750	
経常利益合計			427,029,767
経常利益			7,855,525
臨時損失			
固定資産除却損		8,793,506	
その他		873,210	9,666,716
臨時利益			
資産見返負債戻入		1	
その他		833,210	833,211
［臨時利益］合計			
［当期純利益（純損失）］			△ 977,980
［目的積立金取崩額］			0
［当期総利益（総損失）］			△ 977,980

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－２（続き）

平成30年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

損 益 計 算 書

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（単位：円）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	277,646,333		
教育研究支援経費	16,268,333		
受託研究費	1,250,373		
共同研究費	4,861,496		
受託事業費	3,146,206		
教員人件費	42,151,273		
職員人件費	19,250,586	364,574,600	
一般管理費		82,370,741	
財務費用			
支払利息		4,146	
雑損		0	
経常費用合計			446,949,487
経常収益			
運営費交付金収益		79,550,718	
授業料収益		235,364,732	
入学金収益		19,373,400	
検定料収益		7,408,500	
受託研究等収益			
国又は地方公共団体からの受託研究収益	0		
その他の受託研究収益	1,991,000	1,991,000	
共同研究等収益			
国又は地方公共団体からの共同研究収益	0		
その他の共同研究収益	5,446,068	5,446,068	
受託事業等収益			
国又は地方公共団体からの受託事業収益	12,200		
その他の受託事業収益	3,627,527	3,639,727	
補助金等収益		805,432	
寄附金収益		21,307,696	
施設費収益		1,855,440	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	31,430,742		
資産見返補助金等戻入	19,456,592		
資産見返寄附金戻入	3,066,590		
資産見返物品受贈額戻入	30,492	53,984,416	
財務収益			
受取利息	8		
その他の財務収益	0	8	
［経常収益］雑益			
財産貸付料収入	9,457,479		
間接経費収入	3,277,604		
不用物品売払代	0		
弁償及び違約金	0		
版権及び特許権等収入	0		
その他	4,062,691	16,797,774	
経常利益合計			447,524,911
経常利益			575,424
臨時損失			
固定資産除却損		1,249,197	
その他		0	1,249,197
臨時利益			
資産見返負債戻入		54,520	
その他		7,739	62,259
［臨時利益］合計			
［当期純利益（純損失）］			△ 611,514
［目的積立金取崩額］			0
［当期総利益（総損失）］			△ 611,514

（出典　「財務会計システム」から出力した損益計算書を基に作成）

資料４－１－①－（１）－３

「長期未払金等の内容を確認できる資料」

苫小牧工業高等専門学校
（H30.3終了）

リース債務	（本体価格）	11,889,410	円
リース料	（支払額）		円
リース月数	（全期間）	72	月
リース月数	（残期間）	72	月
リース債務（残高照当額）			円
支払月額		178,710	円
支払利息率			%

株式会社 北海道ジェイ・アール商事

高速キャンバスソフトウェアシステム　（SSDSH24SD000001）

未経過月数	年月日	支払月額	支払利息	リース債務	リース債務（残高照当額）		
					11,889,410		
1	平成24年04月	178,710	22,817	125,793	11,763,617		
2	平成24年05月	178,710	23,946	152,764	11,590,853		
3	平成24年06月	178,710	25,803	153,107	11,437,746		
4	平成24年07月	178,710	23,260	153,450	11,284,296		
5	平成24年08月	178,710	24,815	153,795	11,130,501		
6	平成24年09月	178,710	24,570	154,140	10,976,361		
7	平成24年10月	178,710	24,225	154,485	10,821,876		
8	平成24年11月	178,710	23,878	154,832	10,667,044		
9	平成24年12月	178,710	23,530	155,180	10,511,864		
10	平成25年01月	178,710	23,182	155,528	10,356,336		
11	平成25年02月	178,710	22,833	155,877	10,200,459		
12	平成25年03月	178,710	22,484	156,226	10,044,233		
13	平成25年04月	178,710	22,133	156,577	9,887,656		
14	平成25年05月	178,710	21,782	156,928	9,730,728		
15	平成25年06月	178,710	21,429	157,281	9,573,447		
16	平成25年07月	178,710	21,072	157,638	9,415,814	リース債務支払（9/30現在）平成26年3カ月計上分～8月計上分まで	
17	平成25年08月	178,710	20,713	157,997	9,257,822		968,326
18	平成25年09月	178,710	20,369	158,341	9,099,486	リース債務残（9/30現在）平成26年10月計上分～平成27年2月計上分まで	
19	平成25年10月	178,710	20,013	158,697	8,940,789		818,774
20	平成25年11月	178,710	19,657	159,053	8,781,736	リース債務	平成26年10月計上分（11月以降支払）～平成27年8月計上分（9月支払）
21	平成25年12月	178,710	19,301	159,409	8,622,327		1,813,492
22	平成26年01月	178,710	18,943	159,767	8,462,560		
23	平成26年02月	178,710	18,585	160,125	8,302,435	長岡未払金	平成27年9月計上分（10月支払以降）
24	平成26年03月	178,710	18,225	160,485	8,141,950		5,357,960
25	平成26年04月	178,710	17,866	160,844	7,981,106		
26	平成26年05月	178,710	17,504	161,206	7,819,900		
27	平成26年06月	178,710	17,142	161,568	7,658,332		
28	平成26年07月	178,710	16,780	161,930	7,496,402		
29	平成26年08月	178,710	16,417	162,293	7,334,109		
30	平成26年09月	178,710	16,053	162,657	7,171,452	平成26年度中間決算時	長岡未払金ーリース債務振替　994,718
31	平成26年10月	178,710	15,688	163,022	7,008,430		
32	平成26年11月	178,710	15,322	163,387	6,845,043		
33	平成26年12月	178,710	14,956	163,754	6,681,289		
34	平成27年01月	178,710	14,589	164,121	6,517,168		
35	平成27年02月	178,710	14,220	164,490	6,352,678		
36	平成27年03月	178,710	13,850	164,859	6,187,820	26年度末決算時	長岡未払金ーリース債務振替　1,008,184
37	平成27年04月	178,710	13,481	165,229	6,022,591	平成26年度決算時未払金	1,838,044
38	平成27年05月	178,710	13,110	165,600	5,856,991		
39	平成27年06月	178,710	12,739	165,971	5,691,020		
40	平成27年07月	178,710	12,367	166,343	5,524,677		
41	平成27年08月	178,710	11,993	166,717	5,357,960		
42	平成27年09月	178,710	11,619	167,091	5,190,869	平成27年度中間決算時	長岡未払金ーリース債務振替　1,021,829
43	平成27年10月	178,710	11,244	167,466	5,023,403		
44	平成27年11月	178,710	10,868	167,842	4,855,561		
45	平成27年12月	178,710	10,493	168,217	4,687,344		
46	平成28年01月	178,710	10,115	168,595	4,518,749		
47	平成28年02月	178,710	9,737	168,973	4,349,776		
48	平成28年03月	178,710	9,358	169,352	4,180,424	27年度末決算時	長岡未払金ーリース債務振替　1,035,663
49	平成28年04月	178,710	8,978	169,732	4,010,692	平成27年度決算時未払金	1,888,140
50	平成28年05月	178,710	8,597	170,113	3,840,579	平成27年度月次決算時（3月末）支払額	2,002,902
51	平成28年06月	178,710	8,215	170,495	3,670,084		
52	平成28年07月	178,710	7,833	170,877	3,499,207		
53	平成28年08月	178,710	7,450	171,260	3,327,947		
54	平成28年09月	178,710	7,065	171,645	3,156,302	平成28年度中間決算時	長岡未払金ーリース債務振替　1,049,682
55	平成28年10月	178,710	6,680	172,030	2,984,272		
56	平成28年11月	178,710	6,294	172,416	2,811,856		
57	平成28年12月	178,710	5,907	172,803	2,639,053		
58	平成29年01月	178,710	5,520	173,190	2,465,863		
59	平成29年02月	178,710	5,131	173,579	2,292,284		
60	平成29年03月	178,710	4,742	173,968	2,118,316	28年度末決算時	長岡未払金ーリース債務振替　1,063,892
61	平成29年04月	178710	4,351	174,359	1943957	平成28年度決算時未払金	1,939,608
62	平成29年05月	178710	3961	174749	1769208	平成28年度月次決算時（3月末）支払額	2,057,492
63	平成29年06月	178710	3568	175142	1594066		
64	平成29年07月	178710	3173	175538	1418531		
65	平成29年08月	178710	2781	175929	1242602		
66	平成29年09月	178710	2387	176323	1066279	平成29年度中間決算時	長岡未払金ーリース債務振替　178,710
67	平成29年10月	178710	1991	176719	889560		
68	平成29年11月	178710	1595	177115	712445		
69	平成29年12月	178710	1197	177513	534932		
70	平成30年01月	178710	799	177911	357021		
71	平成30年02月	178710	399	178311	178710		
72	平成30年03月	178710		178710	0		
		12,867,120	977,710	11,889,410			

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－３（続き）

苫小牧②

リース残債務	（本体価格）	20,727,000 円
リース残額	（支払額）	円
リース月数	（全期間）	60 月
リース月数	（残期間）	60 月
リース残債務（残高相当額）		円
支払月額		372,750 円
支払利息率		／年

複合用量子計 業種ソフト1 SS02H24Q02000006 株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ北海道

未経過月数	年月日	支払月額	支払利息	リース債務	リース残債務（残高相当額）	
					20,727,000	
1	平成25年04月	372,750	52,404	320,346	20,406,654	
2	平成25年05月	372,750	51,595	321,155	20,085,499	
3	平成25年06月	372,750	50,782	321,968	19,763,531	
4	平成25年07月	372,750	49,969	322,782	19,440,749	
5	平成25年08月	372,750	49,153	323,597	19,117,152	
6	平成25年09月	372,750	48,335	324,415	18,792,737	
7	平成25年10月	372,750	47,515	325,235	18,467,502	
8	平成25年11月	372,750	46,691	326,059	18,141,443	リース債務支払（9/30現在）平成26年3月計上分～8月計上分まで
9	平成25年12月	372,750	45,867	326,883	17,814,560	1,958,742
10	平成26年01月	372,750	45,041	327,709	17,486,851	リース債務残（9/30現在）平成26年10月計上分～平成27年2月計上分まで
11	平成26年02月	372,750	44,212	328,538	17,158,313	1,684,707
12	平成26年03月	372,750	43,382	329,368	16,828,945	リース債務 平成26年10月計上分（11月以降支払）～平成27年8月計上分（9月支）
13	平成26年04月	372,750	42,549	330,201	16,498,744	3,734,635
14	平成26年05月	372,750	41,714	331,036	16,167,708	
15	平成26年06月	372,750	40,878	331,872	15,835,836	長期未払金 平成27年9月計上分（10月支以降）
16	平成26年07月	372,750	40,039	332,712	15,503,124	11,100,539
17	平成26年08月	372,750	39,197	333,553	15,169,571	
18	平成26年09月	372,750	38,353	334,397	14,835,174	26年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替
19	平成26年10月	372,750	37,508	335,242	14,499,932	2,049,928
20	平成26年11月	372,750	36,661	336,089	14,163,843	
21	平成26年12月	372,750	35,810	336,940	13,826,903	
22	平成27年01月	372,750	34,959	337,791	13,489,112	
23	平成27年02月	372,750	34,103	338,645	13,150,467	
24	平成27年03月	372,750	33,248	339,502	12,810,965	決算時 長期未払金ーリース債務振替 2,081,223
25	平成27年04月	372,750	32,391	340,359	12,470,606	平成26年度決算時未払金 3,791,649
26	平成27年05月	372,750	31,529	341,221	12,129,385	
27	平成27年06月	372,750	30,667	342,083	11,787,302	
28	平成27年07月	372,750	29,802	342,948	11,444,354	
29	平成27年08月	372,750	28,935	343,815	11,100,538	
30	平成27年09月	372,750	28,063	344,685	10,755,854	平成27年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替 2,112,996
31	平成27年10月	372,750	27,184	345,556	10,410,298	
32	平成27年11月	372,750	26,320	346,430	10,063,868	
33	平成27年12月	372,750	25,447	347,305	9,716,563	
34	平成28年01月	372,750	24,567	348,183	9,368,380	
35	平成28年02月	372,750	23,686	349,064	9,019,316	
36	平成28年03月	372,750	22,804	349,946	8,669,370	27年度末決算時 長期未払金 ー リース債務振替 2,145,252
37	平成28年04月	372,750	21,919	350,831	8,318,539	平成27年度決算時未払金 3,908,302
38	平成28年05月	372,750	21,033	351,718	7,966,820	平成27年度月次決算時（3月末）支払額 4,131,151
39	平成28年06月	372,750	20,142	352,608	7,614,212	
40	平成28年07月	372,750	19,251	353,499	7,260,713	
41	平成28年08月	372,750	18,357	354,393	6,906,320	
42	平成28年09月	372,750	17,462	355,288	6,551,032	平成28年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替 2,178,003
43	平成28年10月	372,750	16,563	356,187	6,194,845	
44	平成28年11月	372,750	15,662	357,088	5,837,757	
45	平成28年12月	372,750	14,760	357,990	5,479,767	
46	平成29年01月	372,750	13,858	358,892	5,120,875	
47	平成29年02月	372,750	12,948	359,804	4,761,068	
48	平成29年03月	372,750	12,037	360,713	4,400,355	28年度末決算時 長期未払金 ー リース債務振替 2,211,255
49	平成29年04月	372,750	11,125	361,625	4,038,730	平成28年度決算時未払金 4,028,545
50	平成29年05月	372,750	10,211	362,539	3,676,191	平成29年度月次決算時（3月末）支払額 4,258,248
51	平成29年06月	372,750	9,294	363,456	3,312,735	
52	平成29年07月	372,750	8,376	364,374	2,948,361	
53	平成29年08月	372,750	7,454	365,296	2,583,065	
54	平成29年09月	372,750	6,530	366,220	2,216,845	平成29年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替 371,810
55	平成29年10月	372,750	5,601	367,149	1,849,700	
56	平成29年11月	372,750	4,675	368,075	1,481,625	
57	平成29年12月	372,750	3,745	369,005	1,112,620	
58	平成30年01月	372,750	2,812	369,937	742,683	
59	平成30年02月	372,750	1,877	370,873	371,810	
60	平成30年03月	372,750	940	371,810	0	

（次ページに続く）

資料４－１－①－（１）－３（続き）

苫小牧④

リース残債務	（本体価格）	11,238,221 円
リース残額	（支払額）	円
リース月数	（全期間）	60 月
リース月数	（残期間）	月
リース残債務（残高相当額）		円
支払月額		193,200 円
支払利息率		／年

複合システム リース (SS02H25Q02000003) バリアントソフト株式会社

未経過月数	年月日	支払月額	支払利息	リース債務	リース残債務（残高相当額）	保守料
					11,238,221	
1	平成25年10月	193,200	11,508	181,691	11,056,530	54,600
2	平成25年11月	193,200	11,322	181,878	10,874,652	54,600
3	平成25年12月	193,200	11,134	182,066	10,692,586	54,600
4	平成26年01月	193,200	10,947	182,253	10,510,333	54,600
5	平成26年02月	193,200	10,759	182,441	10,327,892	リース債務残（9/30現在）平成26年10月計上分～平成27年2月計上分まで
6	平成26年03月	193,200	10,571	182,629	10,145,263	921,639
7	平成26年04月	193,200	10,383	182,817	9,962,446	リース債務 平成26年10月計上分（11月以降支払）～平成27年8月計
8	平成26年05月	193,200	10,194	183,006	9,779,440	2,033,872
9	平成26年06月	193,200	10,006	183,194	9,596,246	
10	平成26年07月	193,200	9,817	183,383	9,412,863	長期未払金 平成27年9月計上分（10月支以降）
11	平成26年08月	193,200	9,629	183,571	9,229,292	7,011,660
12	平成26年09月	193,200	9,440	183,760	9,045,532	リース債務支払（9/30現在）平成26年3月計上分～8月計上分まで
13	平成26年10月	193,200	9,251	183,949	8,861,583	1,098,600
14	平成26年11月	193,200	9,062	184,138	8,677,445	
15	平成26年12月	193,200	8,872	184,328	8,493,117	平成26年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替
16	平成27年01月	193,200	8,683	184,517	8,308,600	1,112,233
17	平成27年02月	193,200	8,493	184,707	8,123,893	
18	平成27年03月	193,200	8,303	184,897	7,938,996	決算時 長期未払金 ー リース債務振替 1,119,095
19	平成27年04月	193,200	8,113	185,087	7,753,909	平成26年度決算時未払金 2,046,431
20	平成27年05月	193,200	7,923	185,277	7,568,632	
21	平成27年06月	193,200	7,733	185,467	7,383,165	
22	平成27年07月	193,200	7,543	185,657	7,197,508	
23	平成27年08月	193,200	7,352	185,848	7,011,660	
24	平成27年09月	193,200	7,162	186,038	6,825,622	平成27年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替 1,125,992
25	平成27年10月	193,200	6,971	186,229	6,639,392	
26	平成27年11月	193,200	6,780	186,420	6,452,973	
27	平成27年12月	193,200	6,589	186,611	6,266,362	
28	平成28年01月	193,200	6,397	186,803	6,079,559	
29	平成28年02月	193,200	6,206	186,994	5,892,565	
30	平成28年03月	193,200	6,014	187,186	5,705,379	決算時 長期未払金 ー リース債務振替 1,132,923
31	平成28年04月	193,200	5,822	187,377	5,518,002	平成27年度決算時未払金 2,071,729
32	平成28年05月	193,200	5,631	187,569	5,330,433	平成27年度月次決算時（3月末）支払額 2,231,328
33	平成28年06月	193,200	5,438	187,761	5,142,672	
34	平成28年07月	193,200	5,247	187,952	4,954,719	
35	平成28年08月	193,200	5,054	188,146	4,766,573	
36	平成28年09月	193,200	4,862	188,338	4,578,235	平成28年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替 1,139,886
37	平成28年10月	193,200	4,669	188,531	4,389,704	
38	平成28年11月	193,200	4,476	188,724	4,200,980	
39	平成28年12月	193,200	4,283	188,917	4,012,063	
40	平成29年01月	193,200	4,090	189,110	3,822,953	
41	平成29年02月	193,200	3,897	189,303	3,633,650	
42	平成29年03月	193,200	3,704	189,496	3,444,154	決算時 長期未払金 ー リース債務振替 1,146,881
43	平成29年04月	193,200	3,510	189,690	3,254,464	平成28年度決算時未払金 2,097,271
44	平成29年05月	193,200	3,316	189,884	3,064,580	平成28年度月次決算時（3月末）支払額 2,258,915
45	平成29年06月	193,200	3,122	190,078	2,874,502	
46	平成29年07月	193,200	2,928	190,272	2,684,230	
47	平成29年08月	193,200	2,734	190,466	2,493,764	
48	平成29年09月	193,200	2,540	190,660	2,303,104	平成29年度中間決算時 長期未払金ーリース債務振替 1,153,910
49	平成29年10月	193,200	2,345	190,855	2,112,249	
50	平成29年11月	193,200	2,151	191,049	1,921,200	
51	平成29年12月	193,200	1,956	191,244	1,729,956	
52	平成30年01月	193,200	1,761	191,439	1,538,517	
53	平成30年02月	193,200	1,566	191,634	1,346,883	
54	平成30年03月	193,200	1,371	191,829	1,155,054	
55	平成30年04月	193,200	1,176	192,024	963,029	
56	平成30年05月	193,200	980	192,220	770,809	
57	平成30年06月	193,200	784	192,416	578,393	
58	平成30年07月	193,200	588	192,612	385,781	
59	平成30年08月	193,200	392	192,808	192,973	
60	平成30年09月	193,200	227	192,973	0	決算時 長期未払金ーリース債務振替 192,973

（出典　「各契約書」を基に作成）

資料４－１－①－（１）－４

「平成２６年度から平成３０年度臨時損失・臨時利益内訳」

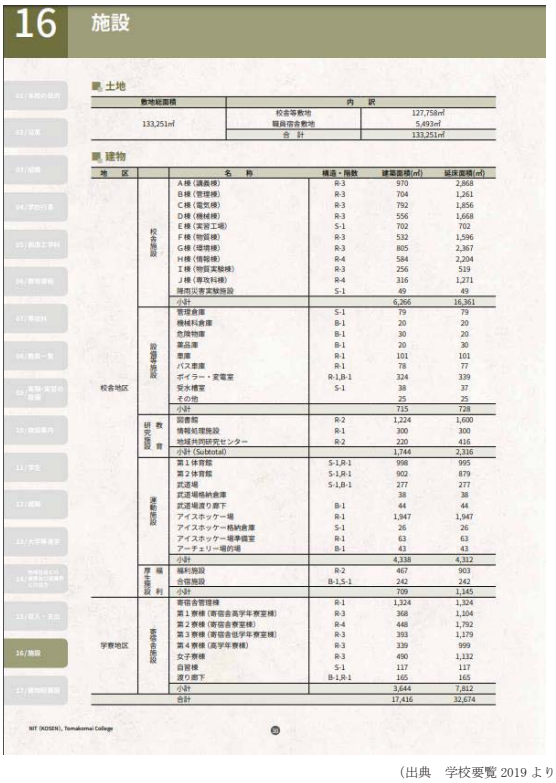
平成２６年度から平成３０年度
臨時損失・臨時利益内訳

年度	勘定科目	金額	内容
平成26年度	（臨時損失）固定資産除却損	720,116	固定資産除却
		4,052,850	固定資産解体撤去（第一体育館床改修）
		3,029,530	固定資産解体撤去（図書館空調設備更新）
		1,489,862	固定資産解体撤去（校舎等Ⅳ環境整備工事）
	（臨時損失）その他	884,205	耐用年数変更に伴う計上
		23,250	前年度繰越額の修正
	（臨時利益）資産見返負債戻入	226,616	固定資産除却
	（臨時利益）その他	59,480	過年度未払金の修正
		884,205	耐用年数変更に伴う計上
平成27年度	（臨時損失）固定資産除却損	480,288	固定資産除却
		1,994,678	固定資産解体撤去（第二体育館床改修）
	（臨時利益）資産見返負債戻入	480,288	固定資産除却
平成28年度	（臨時損失）固定資産除却損	3	固定資産除却
		4,908,901	固定資産解体撤去（複利棟改修）
		210,830	固定資産解体撤去（構内光ケーブル更新）
	（臨時利益）資産見返負債戻入	4	固定資産除却
	（臨時利益）その他	21,599	固定資産除却・売却
平成29年度	（臨時損失）固定資産除却損	3	固定資産除却
		7,711,046	固定資産解体撤去（第二体育館改修）
		866,714	固定資産解体撤去（学生寄宿舎管理棟共用部模様替）
		215,743	固定資産解体撤去（情報棟１階講義室改修）
	（臨時損失）その他	833,210	耐用年数変更に伴う計上
		40,000	過去の負債の費用計上（知的財産権譲渡保証金）
	（臨時利益）資産見返負債戻入	1	固定資産除却
	（臨時利益）その他	833,210	耐用年数変更に伴う計上
平成30年度	（臨時損失）固定資産除却損	54,519	固定資産除却
		43,666	固定資産解体撤去（福利１階保健室遮音化改修）
		1,151,012	固定資産解体撤去（ボイラー室屋根その他改修）
	（臨時利益）資産見返負債戻入	54,520	固定資産除却
	（臨時利益）その他	7,739	固定資産除却・売却

（出典　「財務会計システム」より出力した総勘定元帳を基に作成）

資料４－１－①－（２）

「令和元年度本校の所有地及び施設・設備」


16 施設

土地

敷地総面積	内訳	
133,251㎡	校舎等敷地	127,758㎡
	職員宿舎敷地	5,493㎡
	合計	133,251㎡

建物

地区		名称	構造・階数	建築面積(㎡)	延床面積(㎡)
苫小牧地区	校舎施設	A棟（講義棟）	R-3	970	2,868
		B棟（管理棟）	R-3	704	1,261
		C棟（電気棟）	R-3	792	1,856
		D棟（機械棟）	R-3	556	1,668
		E棟（実習工場）	S-1	702	702
		F棟（物質棟）	R-3	532	1,596
		G棟（環境棟）	R-3	805	2,367
		H棟（情報棟）	R-4	584	2,204
		I棟（物質実験棟）	R-3	256	519
		J棟（専攻科棟）	R-4	316	1,271
		降雨災害実験施設	S-1	49	49
		小計		6,266	16,361
	附属施設	管理倉庫	S-1	79	79
		機械科倉庫	B-1	20	20
		危険物庫	B-1	30	20
		薬品庫	B-1	20	30
		車庫	R-1	101	101
		バス車庫	R-1	78	77
		ボイラー・変電室	R-1,B-1	324	339
		受水槽室	S-1	38	37
		その他		25	25
		小計		715	728
	教育研究施設	図書館	R-2	1,224	1,600
		情報処理施設	R-1	300	300
		地域共同研究センター	R-2	220	416
		小計（Subtotal）		1,744	2,316
	運動施設	第１体育館	S-1,R-1	998	995
		第２体育館	S-1,R-1	902	879
		武道場	S-1,B-1	277	277
		武道場格納倉庫		38	38
		武道場渡り廊下	B-1	44	44
		アイスホッケー場	R-1	1,947	1,947
		アイスホッケー格納倉庫	S-1	26	26
		アイスホッケー場準備室	R-1	63	63
		アーチェリー場の場	B-1	43	43
		小計		4,338	4,312
	厚生施設	福利施設	R-2	467	903
		合宿施設	B-1,S-1	242	242
		小計		709	1,145
学寮地区	寄宿舎施設	寄宿舎管理棟	R-1	1,324	1,324
		第１寮棟（寄宿舎高学年寮室棟）	R-3	368	1,104
		第２寮棟（寄宿舎寮室棟）	R-4	448	1,792
		第３寮棟（寄宿舎低学年寮室棟）	R-3	393	1,179
		第４寮棟（高学年寮棟）	R-3	329	999
		女子寮棟	R-3	490	1,132
		自習棟	S-1	117	117
		渡り廊下	B-1,R-1	165	165
		小計		3,644	7,812
		合計		17,416	32,674

NIT (KOSEN), Tomakomai College

（出典　学校要覧 2019 より）

資料４－１－①－（３）

「平成２６年度から平成３０年度収入状況一覧表」

平成26年度から平成30年度収入状況一覧

単位：円

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
運営費交付金	45,870,769	120,620,127	120,822,752	46,150,411	111,747,806
授業料	235,683,650	231,315,600	233,837,550	235,098,300	233,016,450
入学料	19,288,800	19,373,400	19,279,500	19,288,800	19,542,600
検定料	6,567,000	6,072,000	6,086,700	7,540,500	7,276,500
雑収入	12,347,245	12,091,947	11,662,311	13,710,387	13,737,918
施設整備補助金	60,884,723	295,041,200	0	29,160,000	1,855,440
外部資金	65,013,703	39,830,545	37,643,730	30,801,097	30,721,105
小計	399,785,121	603,724,692	308,509,791	335,599,084	306,150,013
合計	445,655,890	724,344,819	429,332,543	381,749,495	417,897,819

（出典　「各年度決算資料」を基に作成）

資料４－１－①－（４）

「平成２６年度から平成３０年度決算報告書」

（平成26年度　決算報告書）	
収入	
1．運営費交付金	45,870,769
2．施設整備費補助金	60,884,723
3．施設整備資金貸付金償還時補助金	0
4．自己収入	273,886,695
①授業料及び入学検定料収入	261,539,450
②雑収入	12,347,245
5．産学連携等研究収入	23,059,089
6．寄附金収入	28,948,425
7．その他補助金	13,006,189
8．目的積立金取崩	0
収入計	445,655,890
支出	
1．業務費	327,256,578
2．施設整備費	60,884,723
3．産学連携等研究経費	17,297,411
4．寄附金事業費	25,565,587
5．長期借入金償還金	0
6．その他補助金事業費	10,033,051
7．国立大学・財務経営センター施設費納付金	0
支出計	441,037,350
決算報告書上の収支差額	4,618,540
1．運営費交付金債務・前期末残高	0
2．授業料債務・前期末残高	0
3．預り施設費・前期末残高	0
4．預り補助金・前期末残高	0
5．預り寄附金・前期末残高	35,317,405
6．前受受託研究費等・前期末残高	4,585,501
7．前受受託事業費等・前期末残高	0
8．前受金・前期末残高	289,223
9．長期預り補助金・前期末残高	0
10．長期預り寄附金・前期末残高	0
11．長期前受受託研究費等・前期末残高	0
12．長期前受受託事業費等・前期末残高	0
13．運営費交付金債務本部への振替額	0
予算執行上の利益の額	44,810,669
損益得力固定の対象額	1,895,781

区分	金額
収入支出決算上の収支差額	1,895,781
（損益得力固定の対象額）	
支出執行済・未費用化分　（例）前払費用	119,772
〃　（前期分）	-57,327
自己収入固定資産取得相当分　※除・減価償却費	674,421
固定資産売却損（政府出資財産分）	0
ファイナンスリースによる相違	-196,858
前期損益修正損益　※各種引当金戻入益含む	-23,258
会計上の利益の額	2,412,543

（次ページに続く）

資料４－１－①－（４）－１（続き）

（平成27年度　決算報告書）	
収入	
1．運営費交付金	120,620,127
2．施設整備費補助金	295,041,200
3．施設整備資金貸付金償還時補助金	0
4．自己収入	268,852,947
①授業料及び入学検定料収入	256,761,000
②雑収入	12,091,947
5．産学連携等研究収入	10,657,437
6．寄附金収入	16,100,921
7．その他補助金	13,072,187
8．目的積立金取崩	0
収入計	724,344,819
支出	
1．業務費	396,375,837
2．施設整備費	295,041,200
3．産学連携等研究経費	4,856,064
4．寄附金事業費	12,810,659
5．長期借入金償還金	0
6．その他補助金事業費	11,209,375
7．国立大学・財務経営センター施設費納付金	0
支出計	720,293,135
決算報告書上の収支差額	4,051,684
1．運営費交付金債務・前期末残高	0
2．授業料債務・前期末残高	0
3．預り施設費・前期末残高	0
4．預り補助金・前期末残高	0
5．預り寄附金・前期末残高	31,839,876
6．前受受託研究費等・前期末残高	1,074,488
7．前受受託事業費等・前期末残高	0
8．前受金・前期末残高	233,344
9．長期預り補助金・前期末残高	0
10．長期預り寄附金・前期末残高	6,860,367
11．長期前受受託研究費等・前期末残高	0
12．長期前受受託事業費等・前期末残高	0
13．運営費交付金債務本部への振替額	0
予算執行上の利益の額	44,059,759
損益得力固定の対象額	59,766

区分	金額
収入支出決算上の収支差額	59,766
（損益得力固定の対象額）	
支出執行済・未費用化分　（例）前払費用	59,132
〃　（前期分）	-119,772
自己収入固定資産取得相当分　※除・減価償却費	-1,713,801
固定資産売却損（政府出資財産分）	0
ファイナンスリースによる相違	7,373
前期損益修正損益　※各種引当金戻入益含む	0
会計上の利益の額	-1,707,302

（次ページに続く）

資料４－１－①－（４）－１（続き）

（平成28年度　決算報告書）	
収入	
1．運営費交付金	120,822,752
2．施設整備費補助金	0
3．施設整備資金貸付金償還時補助金	0
4．自己収入	270,866,061
①授業料及び入学検定料収入	259,203,750
②雑収入	11,662,311
5．産学連携等研究収入	14,496,564
6．寄附金収入	14,943,986
7．その他補助金	8,203,180
8．目的積立金取崩	0
収入計	429,332,543
支出	
1．業務費	399,434,924
2．施設整備費	0
3．産学連携等研究経費	8,040,657
4．寄附金事業費	17,860,883
5．長期借入金償還金	0
6．その他補助金事業費	6,548,293
7．国立大学・財務経営センター施設費納付金	0
支出計	431,884,757
決算報告書上の収支差額	-2,552,214
1．運営費交付金債務・前期末残高	0
2．授業料債務・前期末残高	0
3．預り施設費・前期末残高	0
4．預り補助金・前期末残高	0
5．預り寄附金・前期末残高	34,693,666
6．前受受託研究費等・前期末残高	2,201,600
7．前受受託事業費等・前期末残高	0
8．前受金・前期末残高	480,631
9．長期預り補助金・前期末残高	0
10．長期預り寄附金・前期末残高	7,296,839
11．長期前受受託研究費等・前期末残高	0
12．長期前受受託事業費等・前期末残高	0
13．運営費交付金債務本部への振替額	0
予算執行上の利益の額	42,120,522
損益得力固定の対象額	-231,913

区分	金額
収入支出決算上の収支差額	-231,913
（損益得力固定の対象額）	
支出執行済・未費用化分　（例）前払費用	145,622
〃　（前期分）	-59,132
自己収入固定資産取得相当分　※除・減価償却費	-1,338,056
固定資産売却損（政府出資財産分）	0
ファイナンスリースによる相違	217,113
前期損益修正損益　※各種引当金戻入益含む	0
会計上の利益の額	-1,266,368

※収支支出決算上の収支差額としてマイナス計上されているが、法人としては、機構本部において、全国の高等専門学校の収支差額を調整しているため、支障はない。

（次ページに続く）

資料４－１－①－（４）－１（続き）

（平成29年度　決算報告書）	
収入	
1．運営費交付金	46,150,411
2．施設整備費補助金	29,160,000
3．国立研究開発法人科学技術振興機構補助金	0
4．自己収入	275,637,981
①授業料及び入学検定料収入	261,927,600
②雑収入	13,710,381
5．産学連携等研究収入	14,213,079
6．寄附金収入	14,512,829
7．その他補助金	2,075,189
8．目的積立金取崩	0
収入計	381,749,491
支出	
1．業務費	328,219,816
2．施設整備費	29,160,000
3．産学連携等研究経費	6,748,593
4．寄附金事業費	21,410,098
5．長期借入金償還金	0
6．その他補助金事業費	2,075,189
7．国立大学・財務経営センター施設費納付金	0
支出計	387,613,696
決算報告書上の収支差額	-5,864,205
1．運営費交付金債務・前期末残高	0
2．授業料債務・前期末残高	0
3．預り施設費・前期末残高	0
4．預り補助金・前期末残高	0
5．預り寄附金・前期末残高	32,143,059
6．前受受託研究費等・前期末残高	1,904,000
7．前受受託事業費等・前期末残高	0
8．前受金・前期末残高	1,425,234
9．長期預り補助金・前期末残高	0
10．長期預り寄附金・前期末残高	6,930,549
11．長期前受受託研究費等・前期末残高	0
12．長期前受受託事業費等・前期末残高	0
13．運営費交付金債務本部への振替額	0
予算執行上の利益の額	36,538,643
損益等力調定の対象額	**80,068**

区分	金額
収入支出決算上の収支差額	80,062
（損益等力調定の対象額）	
支出執行済・未費用化分　（例）前払費用	81,622
〃　（前期分）	-135,182
自己収入固定資産取得相当分　来除・減価償却費	-1,460,754
固定資産売却損（政府出資財産分）	0
ファイナンスリースによる相違	456,272
前期損益修正損益　※各種引当金戻入益含む	0
会計上の利益の額	-977,980

（次ページに続く）

資料４－１－①－（４）－１（続き）

（平成30年度　決算報告書）	
収入	
1．運営費交付金	111,747,806
2．施設整備費補助金	1,855,440
3．施設整備資金貸付金償還時補助金	0
4．自己収入	273,573,468
①授業料及び入学検定料収入	259,835,550
②雑収入	13,737,918
5．産学連携等研究収入	17,246,216
6．寄附金収入	12,669,457
7．その他補助金	805,432
8．目的積立金取崩	0
収入計	417,897,819
支出	
1．業務費	389,558,728
2．施設整備費	1,855,440
3．産学連携等研究経費	10,550,670
4．寄附金事業費	17,374,516
5．長期借入金償還金	0
6．その他補助金事業費	805,432
7．国立大学・財務経営センター施設費納付金	0
支出計	420,144,786
決算報告書上の収支差額	-2,246,967
1．運営費交付金債務・前期末残高	0
2．授業料債務・前期末残高	0
3．預り施設費・前期末残高	0
4．預り補助金・前期末残高	0
5．預り寄附金・前期末残高	25,396,943
6．前受受託研究費等・前期末残高	2,750,000
7．前受受託事業費等・前期末残高	0
8．前受金・前期末残高	1,000,000
9．長期預り補助金・前期末残高	0
10．長期預り寄附金・前期末残高	6,779,396
11．長期前受受託研究費等・前期末残高	0
12．長期前受受託事業費等・前期末残高	0
13．運営費交付金債務本部への振替額	0
予算執行上の利益の額	33,679,372
損益等力調定の対象額	**88,120**

区分	金額
収入支出決算上の収支差額	83,120
（損益等力調定の対象額）	
支出執行済・未費用化分　（例）前払費用	88,421
〃　（前期分）	-75,632
自己収入固定資産取得相当分　来除・減価償却費	-738,654
固定資産売却損（政府出資財産分）	0
ファイナンスリースによる相違	31,231
前期損益修正損益　※各種引当金戻入益含む	0
会計上の利益の額	-611,514

（出典　「各年度決算報告書」より抜粋）

資料４－１－②－（１）－１

「収支に係る方針や計画策定に関する予算関連が示された規程」

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３４号
制定　平成１６年４月１日
一部改正　平成２０年１２月２４日
一部改正　平成２９年３月３１日

目次

第１章　総則（第１条－第１６条）
第２章　予算（第１７条－第１９条）
第３章　出納取引（第２０条－第３０条）
第４章　資産管理（第３１条）
第５章　契約（第３２条－第４２条）
第６章　決算（第４３条－第４４条）
第７章　内部監査及び責任（第４５条－第４６条）
附則

第１章　総則

（目的）
第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の財務及び会計に関する基準を定め，業務の適正かつ効率的な実施を図るとともに，財政状態及び運営状況を明らかにすることを目的とする。

----------　（略）　----------

第２章　予算

（予算実施計画の作成）
第１７条　理事長は，毎事業年度開始前に通則法第３１条第１項に定める年度計画に基づいて，予算実施計画を作成し，これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。
２　理事長は，機構の効率的，効果的な運営に常に配慮するものとする。

（予算実施計画の通知）
第１８条　理事長は，前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当役及び出納命令役に通知するものとする。

（予算の執行）
第１９条　機構は，年度計画に基づいて，効率的，効果的かつ適正な予算の執行を図るものとする。

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第２章）

資料４－１－②－（１）－２

「予算配分方針」

令和元年６月２７日
第３回運営委員会
資料１－１

2019 年度予算配分方針

１．収入予算（機構承認額）について

収入予算額 269,096 千円（対前年度増減額 9,517 千円 ）

【主な増減要因】

①学科等再編推進経費（＋5,081 千円），教職員の業務負担に向けた取組（－1,701 千円）
　→　前年度は一部追加配分であったが，今年度は当初で全額配当

②MCC の到達度評価による高専教育の質保証（＋950 千円）

③光熱水料・燃料費（＋4,840 千円），教育等施設基盤経費（＋1,865 千円），
　図書館経費（図書館維持費）（－551 千円）　→　算定ルール変更のため

④効率化係数に伴う予算減（－1,209 千円）

２．支出予算について

Ⅰ．管理運営費

水道光熱費については，「**過去５カ年実績値平均ー削減目標（教職員数及び施設面積×単価）**」での積算とされているため，より一層の節電節水等の経費節減にご協力いただくとともに，更なる電気料削減のため，年度末の残予算等については，優先的に LED 化の費用に充当する。

Ⅱ．学務管理運営費　Ⅲ．教育等施設基盤経費　Ⅳ．附属施設等経費

所要額に基づき積算。

なお，物品等の必要性や有効性について再検討し，一層のペーパレス化の推進及び各種報告書等の電子化を踏まえ，経費の削減に努める。

Ⅴ．教育研究経費

（１）研究経費

教員一人当たりの積算単価を 100 千円（前年度と同額）とする。ただし，再雇用（短時間）教員については勤務時間割合を考慮し，75 千円とする。

また，外部資金間接経費については，全額校長の一括管理とし，教員配当相当分（間接経費の 50%相当）を別途研究経費として追加配分を行う。

（２）教育経費

予算措置検討 WG での報告結果を踏まえ，予算総額を「**2019 年度当初予算配分について（機構通知）」で示されている本科・専攻科の「教育研究に必要な経費」の額（在籍見込者数×学生積算単価）**」とする。配分方法については，予算総額から先に優先充当経費を確保したうえで，残額を学生数に応じて各系に振り分ける方法とする。

（３）特殊装置維持費

特殊装置維持費については，経過年数が 15 年未満かつ，単体での購入金額が 500 万円以上のものを対象とする。配分に当たっては，前年度に実施したヒアリング調査等を基に，真に必要な経費のみの配分とする。

（次ページに続く）

Ⅵ. 校長裁量経費

教育改革推進及び研究推進のため一定額を確保する。配分に当たっては申請内容等を精査し，必要経費のみを配分する。

なお，系における採択プロジェクトについては，校長裁量経費成果報告書を 2020 年 2 月末までに，総務課財務係経由で校長に提出するものとする。（必要に応じて成果発表会等を実施）

【予算配分事項】

（１）教育改善プロジェクト助成　　（３）研究者推進のためのインセンティブ経費

（２）教育方法等の充実支援経費　　（４）予備費（校長が判断して配分）

Ⅶ. 特別教育研究経費

使途特定経費のため示達額を配分する。

Ⅷ. 特殊要因経費

収入欠損分（機構示達額と実収入見込み額の差額）として 5,278 千円を計上する。

（出典　平成 31 年度第 3 回運営委員会資料）

令和元年６月２７日
第３回運営委員会
資　料　１　－　２

2018年度決算及び2019年度予算（案）

独立行政法人国立高等専門学校機構
苫小牧工業高等専門学校

---------- 以　下　略 ----------

（次ページに続く）

令和元年６月２７日
第３回運営委員会
資　料　１　－　３

2019 年度以降の教育経費の配分方法について

校　長

機構本部から本校への予算配分については，2019 年度の運営費交付金の算定ルールにおいて，引き続き効率化係数△1%（一般管理費△3%）が適用され，今後もこのルールが適用されることが見込まれている。

しかし，本校の教育経費の配分方法は，予算状況によらず学生積算単価等を固定しているため，今後の更なる予算減を踏まえると，数年後には配分が困難となる恐れがある。

予算措置検討 WG での検討結果を受け，教育経費の配分方法の見直しをする必要がある旨の方向性が示されていることから，2019 年度以降は，**教育経費の予算総額を先に決定**し，予算確保できる体制としたい。また，**配分方法については優先充当経費を先に確保し，残額を各系へ，所属する学生数を基礎として振り分ける方法**とする。

【配分方法】別紙

１．予算総額

「2019 年度当初予算配分について」（機構通知）で示されている本科・専攻科の「教育研究に必要な経費」の額（在籍見込者数×学生積算単価）とする。

※学生積算単価については，効率化係数の関係で毎年度△1%となる見込みであるため，予算総額は逓減していくと予想される。

２．優先充当経費は，以下のとおりとする。

①教育用電算契約料，②創造工学共通経費，③フロンティア共通経費
④専攻科共通経費，⑤本科 5 年生加算額，⑥専攻科生加算額
⑦その他（予備費）

※優先充当経費が大きくなると系配分が減るため，「創造工学共通経費」，「専攻科共通経費」，「フロンティア共通経費」については，実績額に基づき，後日追加で配分することとする。

※教育用電算賃借料は 2023 年度まで年額約 510 万円である。これ以降の契約時には，教育経費配分額への影響を小さくするため，費用対効果を検証し，場合によっては台数縮小等についても検討する必要がある。（契約額が大きくなると配分教育経費が減る。）

※予算配分方法が大幅に変更となるため，不測の事態に応じた予備費を計上し，必要に応じて校長に相談の上，追加で配分する。

---------- 以　下　略 ----------

（出典　平成 31 年度第 3 回運営委員会資料）

「収支に係る方針、計画について関係者に明示していることがわかる資料」

平成３１年度　第３回　運営委員会記録

◆日　　時　　令和元年６月２７日（木）１５時４５分～１６時５０分
◆場　　所　　中会議室
◆出 席 者　　別紙のとおり

議　　題１．2018年度決算及び2019年度予算配当（案）について【資料１－１～３】

黒川校長及び松橋総務課長から，資料に基づき，次のとおり説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

・2018年度決算については，収入額385,150千円に対し，支出額385,068千円となっている。
・2019年度の収入予算については，機構示達額269,096千円（前年比9,517千円減）と間接経費等の収入見込みとあわせて280,586千円となっている。
・支出予算については，資料１－１の配分方針に基づき，見込額で配分している。
・新規事項としてC-baseに係る費用を地域共同研究センター経費に計上している。
・教育経費については，第２回運営委員会で了承された資料１－３に基づき配分し，ほぼ前年度と同額の配分となっている。
・以上を2019年度予算として，了承いただきたい。

---------- 以　下　略 ----------

（出典　平成 31 年度第３回運営委員会より抜粋）

資料４－１－③－（１）－１

「予算配分実績がわかる資料」

苫小牧工業高等専門学校
（単位：千円）

予　算　事　項	予算配分額（当初配分） 平成30年度	平成29年度	差引増△減額	備　考
1．管理運営費	89,113	86,740	2,429	
非常勤職員（人件費）	18,836	18,727	109	教員増にて配分　別途【審議・意識枠】で500百当（意識会関連事務作業分）
事務用図書費（一般）	526	532	△ 6	教員増にて配分
物品費（一般）	2,710	2,380	330	研究等機器に上る400便都220増　別途【審議・管理経費】で500百当
水道光熱費（教育研究、支援、一般）	48,306	47,406	900	教員増にて配分　別途【外部資金間接経費】で5,000百当（内経費分1,000）
通信運搬費（教育研究、支援、一般）	4,050	4,400	△ 350	教員増にて配分
保守・清掃料（一般）	1,980	1,968	12	教員増にて配分
自動車関係経費	2,745	1,620	1,125	70%更新費用1,500増
教員旅費全経費	1,152	1,040	152	教員増にて配分　競費節約更年増加経費
式典経費	1,774	1,770	4	教員増にて配分
会費・協議費・負担金（一般）	820	874	△ 54	教員増にて配分
郵便・電話・手数料（一般）	115	290	△ 175	教員増にて配分　テレビ会議増加に伴い競争関係等が減少傾向
共通消費（一般）	3,400	3,348	52	教員増にて配分
車両燃費（一般）	2,770	2,468	302	教員増にて配分　人事異動に伴う新任研修増加
2．学務管理運営費	54,587	57,778	△ 3,213	
教育研究費	5,537	7,643	△ 2,106	教員増にて配分　教育システム高度時共補填
入学試験経費	4,909	4,443	457	教員増にて配分　前年度応募経費で支出分を一部繰入
学生経費	3,033	3,366	△ 333	教員増にて配分
高専祭等大会経費	797	785	12	地区連合行事（地区体育大会）開催時予算額基準額及び各地区開催変更あるため
ロボコン支援等経費（ロボコン）	1,155	1,181	△ 26	教員増にて配分
ロボコン支援等経費（プロコン）	237	233	4	教員増にて配分
ロボコン支援等経費（デザコン）	788	284	484	教員増にて配分　全国高専デザインコンペティション第100増
旅費経費	2,332	2,249	83	教員増にて配分
留学生経費	947	1,017	△ 70	教員増にて配分
広報関係経費（教育研究、支援、一般）	1,625	3,940	△ 2,315	機材回動に係る集積運営費並びにホスト機関委託減　一部入学試験経費に繰入
非常勤教員（人件費）	19,533	19,452	81	教員増にて配分　非常勤講師にかかる人件費
非常勤講師等交通費	2,348	2,764	△ 416	教員増にて配分　非常勤講師にかかる交通費
国立機関設備充実費（学生課）	5,896	5,950	△ 53	教員増にて配分
国立機関設備充実費（寮務）	5,446	5,470	△ 24	教員増にて配分
3．教育施設基盤経費	50,467	45,217	5,249	
施設整備等（教育研究、支援、一般）	22,550	19,547	3,003	教員増にて配分　省エネ設備改修計画4,000増
施設維持管理費（教育研究、支援、一般）	15,000	14,000	1,000	教員増にて配分　高度施設多寒化に伴う機械設備を考慮し1,000増
校地維持・整備費（教育研究、支援、一般）	11,942	11,418	532	教員増にて配分 施設整備費200増（前年度計上漏れ） 原価改定金額差額332増
4．附属施設維持費	14,776	22,762	△ 7,892	
【学術情報センター】				
図書館運営費	3,800	3,960	△ 160	教員増にて配分
情報処理施設運営費	6,697	13,726	△ 7,029	教員増にて配分 減額：ネットワーク利用サービス（1,177 → 0）　※R03より機構一括契約 減額：高速LAN（39,015→31,253、12,166 → 0）　※R03より機構一括契約 増額：教育用電子計算機運営費（5,481 → 11,458） 増額：学術情報ネットワーク運用費（3,623）

【地域共同研究センター】				
地域共同研究センター運営費	2,306	3,026	△ 720	教員増にて配分　コーディネート活動費500減
【キャリア教育支援センター】				
キャリア教育支援センター運営費	1,023	1,184	△ 153	教員増にて配分
【技術教育支援センター】				
技術教育支援センター運営費	940	860	80	教員増にて配分
5．教育研究経費	36,043	34,823	1,220	
研究経費	8,000	8,000	0	職業単価　1人当たり105
研究経費（外部資金間接経費等当分）	2,900	2,500	400	研究経費収分予定額（機器使用料収入、共同資金間接経費等当分） ※奨励寄附金含み　設定経費（集際費）に配当
教育経費	21,510	20,376	1,134	職業単価等の減額なし
教育経費（創造工学科共通分）	300	600	△ 300	教員増にて配分
教育経費（専攻科共通分）	300	550	△ 250	教員増にて配分
特殊経費増措置	2,033	2,796	238	別途当該分調査結果を基に配分
6．校長裁量経費	8,896	9,756	△ 860	
教育研究経費（校長）	156	156	0	教員増にて配分　研究関連奨励賞費等
校長裁量経費（校長教育）	640	600	40	教員増にて配分　校長に係る教育活動費
校長裁量経費（各種プロジェクト等）	8,100	9,000	△ 900	調整により校長が必要と認めた経費及び校長裁量予備費
7．特別教育研究経費	6,230	22,738	△ 16,508	
学科等再編整備経費（教員新今）	5,500	21,500	△ 16,000	緊急特定経費のため作業経費を配分　特命教員人件費
障害学生学習支援等経費（学生課）	730	1,438	△ 708	緊急特定経費のため作業経費を配分　障害学生に係る設備等更新
8．特殊要因経費	△ 579	2,902	△ 1,998	
予備費（教育研究）不測の事態に備えた留保	904	2,902	△ 1,998	
予備費（教育研究）収入超過分	△ 1,483			
合　　計	259,579	282,744	△ 21,682	

（出典　平成 30 年度予算額調書）

資料４－１－③－（１）－２

「校長裁量経費の配分について」

校長裁量経費（各種プロジェクト等）

（単位：円）

部署	費目	申請額	配分額	備考
総合人文科学系	低学年向け平成30年度文部科学省検定済教科書「教師用指導書」導入事業	311,000	0	総合人文科学系　系長(H29)　東　俊文
機械系	創成型実習	282,000	200,000	機械系　系長　高澤　幸治
機械系	3DCAD教育システム(SOLIDWORKS)サブスクリプションサポートサービス	225,000	225,000	機械系　系長　高澤　幸治
電気電子系	マイコンを用いた電気電子創造教育プログラムの開発	875,000	1,200,000	電気電子系　系長　堀 勝博 ※ヒアリングの結果，配分額を増額
情報科学系・工学系	企業技術者講演会実施	220,000	220,000	情報科学・工学系　系長(H30)　土居　茂雄
情報科学系・工学系	ソフトウェア実験・演習用ワークステーション	577,000	800,000	情報科学・工学系　准教授　大橋智志 ※ヒアリングの結果，配分額を増額
情報科学系・工学系	実験用SoC FPGA開発キット	492,000	492,000	情報科学・工学系　准教授　三上　剛
国際化教育推進部会	国際交流	950,000	950,000	総務委員会　総務主事 ※【寄附金50周年基金申請分 410,000円】を除く
環境教育推進部会	環境産業体験プログラム	300,000	300,000	部会長
地域共同研究センター委員会	地域共同研究センター　CD人件費	1,700,000	1,700,000	地域共同研究センター長　菊田　和重
入学試験委員会	どさんこみらいフェス（STV）	1,260,000	660,000	副校長（教務主事）　八田　茂実
校長	国際学会参加費補助		300,000	
校長	論文投稿補助		800,000	
校長	新任教員スタートアップ助成		200,000	助教採用2名
校長	校長裁量予備費		53,000	
	合計	7,192,000	8,100,000	

（出典　「平成 30 年度予算」を基に作成）

資料４－１－③－（１）－３

「予算配分が審議・決定する機関が示されている規程」

苫小牧工業高等専門学校運営委員会規程

規則第９号

制　　定　昭和43年４月１日
一部改正　昭和48年６月１日
一部改正　昭和50年６月30日
一部改正　昭和62年７月９日
一部改正　平成８年４月１日
一部改正　平成12年４月１日
一部改正　平成12年９月11日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成21年４月１日
一部改正　平成22年５月18日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）

第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の運営に関する事項を審議するため，運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　組織・運営及び施設に関する事項
二　教育効果の向上に関する事項
三　消防及び防災に関する事項
四　情報公開に関する事項
五　留学生の受入れに関する事項
六　中期目標・中期計画に関する事項
七　点検・改善に関する事項
八　その他校長が必要と認めた事項

----------　（以下略）　----------

（出典　「苫小牧工業高等専門学校運営委員会規程」より抜粋）

資料４－１－③－（１）－４

「令和２年度 施設整備に係る概算要求状況」

単位：千円

事業種別	事　業　名	要求金額	備考
施設整備事業	図書館・電子計算機室改修	264,000	

（出典　「令和２年度概算要求書」より抜粋）

資料４－１－③－（１）－５

「施設の整備計画」

Ⅵ　今後の概算要求及び営繕要求計画

本校における緊急性及び重要性を踏まえ、概算要求及び営繕要求の年次計画を次のとおりとする。

	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度以降
概算要求 施設整備費補助金	屋外整備(道路・給水設備)	図書館・学術情報センター改修	E棟(実習工場)改修 男子寮第1別棟改修	男子寮第2別棟改修	男子寮第3別棟改修 男子寮第4別棟改修 H棟(情報棟)改修 I 棟(物質実験棟)改修
営繕要求(※) 運営費交付金	女子寮改修 共同溝拡張	男子寮第2別棟屋内運改修 男子寮第1棟北側外泥改修 男子寮第1棟南側屋内運改修	男子寮第3棟屋内運改修 男子寮第2棟北側外泥改修 男子寮第2棟南側外泥改修	男子寮第4棟屋内運改修 男子寮第3棟北側外泥改修	男子寮第4棟北側外泥改修 男子寮第4棟南側外泥改修 I 棟(物質実験棟)屋上防水改修 F棟(管理棟)非常用設置工事 第1体育館屋根改修 第2体育館物品庫改修 アイスホッケー整備 環境整備（外灯、正門拡張等） 硬式テニスコート整備

※営繕要求の対象は、3,000 万円以下の建物の部分的改修・機械設備、小規模な新増改築・改修及び小規模な工作物の整備又は設備の設置並びに部分的なライフライン及び屋外環境の整備であり、各年度に要求できる事業件数は３件までである。

National Institute of Technology, Tomakomai College

（出典　「ｷｬﾝﾊﾟｽﾏｽﾀｰﾌﾟﾗﾝ(平成 31 年１月改定)」から抜粋）

資料４－１－③－（１）－６

「設備の整備計画」

2019年度　設備整備年次計画表

整備番号	優先順位	設備名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度以降	合計	内訳 設備費	内訳 資材調達費	内訳 改修工事費	合計
更新(1)	1	次世代人材育成教育用実験・実習システム		48,105				48,105	43,838	800	3,470	48,108
更新(2)	2	生物機能所用実験実習支援システム	39,880					39,880	39,880	0	0	39,880
更新(3)	3	クラウドアプト・サーバ及びネットワーク情報工学実験システム		4,000				4,000	4,000	0	0	4,000
更新(4)	4	SDGs教育および地域企業との共同教育・研究を推進するための材料評価技術設備	14,000					14,000	14,000	0	0	14,000
更新(5)	5	内二色性分析計	19,360					19,360	18,360	500	500	19,360
新規(1)	1	原子間力顕微鏡	30,000					30,000	30,000	0	0	30,000
新規(2)	2	高度ものづくり教育用実験・実習システム		28,965				28,965	28,265	200	500	28,965
新規(3)	3	SDGs教育のための高速動的解析システム	21,026					21,026	21,026	0	0	21,026
新規(4)	4	プリント回路基板加工機	5,000					5,000	4,900	100	0	5,000
新規(5)	5	化学工学系学生実験・実習教育システム	5,320					5,320	5,320	0	0	5,320
新規(6)	6	3D CAD/CAMシステム	8,000					8,000	8,000	0	0	8,000
新規(7)	7	実践教育実験装置群	25,000					25,000	25,000	0	0	25,000
新規(8)	8	複合光学測定装置	6,000					6,000	6,000	0	0	6,000
新規(9)	9	デジタルマイクロスコープ	6,000					6,000	6,000	0	0	6,000
新規(10)	10	SDGs教育および地域企業との共同教育・研究を推進するための材料分析装置	16,500					16,500	16,500	0	0	16,500
			194,086	81,071	0	0	0	275,157	269,091	1,600	4,470	275,157

（出典　「2019 年度　設備整備年次計画表」を基に作成）

資料４－１－③－（２）

「予算の執行状況」

2018年度決算

１．収入予算額　　（単位：千円）

予　算　事　項	当初配分額	追加配分額	合計
入学料収入	19,115	0	19,115
授業料収入	239,917	0	239,917
検定料収入	6,611	0	6,611
雑収入	15,528	0	15,528
運営費交付金活金額	△ 21,992	122,709	101,117
収入超過額		2,862	2,862
合　　計	259,579	125,571	385,150

２．支出予算額及び執行額等　　（単位：千円）

予　算　事　項	予算額 当初配分額	予算額 追加配分額	予算額 予算振替額	予算額 合計	執行額	残額	備　考
Ⅰ．管理運営費	89,172	4,131	0	93,303	89,937	3,366	
非常勤職員（人件費）	18,836	0	△ 1,000	17,836	15,440	2,396	人事係担当非常勤職員不補充による残額
事務図書費（一般）	520	0	0	520	463	57	
物品費（一般）	2,710	0	0	2,710	2,132	578	
水道光熱費（教育研究、支援、一般）	48,300	0	2,000	50,300	49,819	481	費用計　54,275（49,819＋4,456※） 【内訳】　電気料　24,529 ガス料　25,676 水道料　4,070 ※４,456は外部資金間接経費での充当分
通信運搬費（教育研究、支援、一般）	4,050	0	0	4,050	3,898	152	
保守・賃借料（一般）	1,985	0	0	1,985	2,069	△ 84	
自動車関係経費	2,745	0	0	2,745	3,273	△ 528	
職員厚生経費	1,192	0	0	1,192	1,199	△ 7	
式典経費	1,714	0	0	1,714	1,527	187	
会費・会議費・負担金（一般）	835	0	0	835	1,011	△ 176	
報酬・委託・手数料（一般）	115	0	0	115	324	△ 209	
共通旅費（一般）	3,400	0	△ 1,000	2,400	2,259	141	
事務旅費（一般）	2,770	200	0	2,970	2,592	378	
赴任旅費	0	1,343	0	1,343	1,343	0	
固定資産税	0	2,588	0	2,588	2,588	0	
Ⅱ．学務管理運営費	54,557	753	1,422	56,732	56,740	△ 8	
教務経費　※教務システム賃借料含む	5,537	0	446	5,983	5,959	24	
入学試験経費	4,900	537	△ 455	4,983	4,331	656	
学生経費	3,033	0	1,400	4,433	4,553	△ 120	
高専体育大会運営費	791	303	0	1,094	1,365	△ 271	
ロボコン支援等経費	2,174	0	△ 500	1,674	1,652	22	
寮務経費	2,332	0	4,440	6,772	6,757	15	
留学生経費	947	△ 87	0	860	869	△ 9	
広報関係経費（一般）	1,625	0	0	1,625	1,206	419	
非常勤教員（人件費）	19,531	0	△ 4,782	14,749	15,926	△ 1,177	
非常勤講師旅費	2,348	0	868	3,216	2,783	433	
厚生補導担当実業費（学生課）	5,890	0	0	5,890	5,890	0	
厚生補導担当実業費（寮務）	5,449	0	0	5,449	5,449	0	
Ⅲ．教育等施設基盤経費	50,497	0	2,526	53,023	57,209	△ 4,186	
業務委託費及び保守等経費（教育研究、支援、一般）	23,555	0	0	23,555	19,527		
施設維持管理費（教育研究、支援、一般）	15,000	0	2,526	17,526	24,721	△ 4,186	開振業部地震、漏水、ボイラ蒸気漏れ等による予算超過
校地維持・整備費（教育研究、一般）	11,942	0	0	11,942	12,961		
Ⅳ．附属施設等経費	13,312	699	1,501	15,512	15,055	457	
図書館運営費	3,800	0	0	3,800	3,752	48	
情報処理施設運営費　※学術情報ネットワーク(SINETS)含む	5,239	△ 31	1,000	6,208	6,196	12	
地域共同研究センター運営費	2,300	112	△ 61	2,351	2,438	△ 87	
知的財産権関連経費	0	618	0	618	311	307	
キャリア教育支援センター運営費	1,033	0	0	1,033	848	185	
技術教育支援センター運営費	940	0	562	1,502	1,510	△ 8	
Ⅴ．教育研究経費	37,497	0	4,252	41,749	41,029	720	
教育研究経費	34,465	0	4,252	38,717	38,126	591	
特殊装置維持管理費（教育研究）	3,032	0	0	3,032	2,903	129	
Ⅵ．校長裁量経費	8,890	17,903	△ 9,550	17,243	17,654	△ 411	
教育研究経費（校長）	150	0	0	150	150	0	
校長裁量経費（校長旅費）	640	41	0	681	576	105	
校長裁量経費（各種プロジェクト等）	8,100	17,862	△ 9,550	16,412	16,928	△ 516	

（次ページに続く）

資料４－１－③－（２）（続き）

「予算の執行状況」

Ⅶ．特別教育研究経費	6,230	94,781	0	101,011	100,956	55	
障害学生学習支援等経費	730	0	0	730	730	0	衝周ﾏｲﾀ購入、関連説明会参加旅費等
高専からのイノベーション挑戦	0	7,776	0	7,776	7,776	0	20人作費、ﾌﾛｼｰﾏｲﾀ関係物品購入、出展関係経費、関係旅費等
国費留学生経費	0	105	0	105	105	0	
社会ニーズを踏まえた新分野・領域教育の推進	0	8,463	0	8,463	8,463	0	IOTｾｷｭﾘﾃｨ教材購入、ﾄﾞﾛｰﾝ購入、関係旅費等
グローバルエンジニア育成経費	0	709	0	709	709	0	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ学生ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ関係旅費等
学科等再編推進経費	5,500	15,116	0	20,616	20,616	0	特命教員人件費
モデル・コアカリキュラムの到達度評価による高専教育の質保証	0	2,825	0	2,825	2,825	0	CBT用PC購入、教育補助に係る人件費、会議出席旅費等
高等専門学校制度の海外展開促進に向けた体制整備	0	5,382	0	5,382	5,382	0	ﾓﾝｺﾞﾙ高専関係旅費、ﾓﾝｺﾞﾙ高専への提供物品購入等
高専における学生支援体制の再整備	0	4,125	0	4,125	4,125	0	ｶｳﾝｾﾗｰ等人件費
高専教育の基盤設備整備	0	40,000	0	40,000	40,000	0	i-Construction（測量機器、ﾄﾞﾛｰﾝ等）導入
高等学校等就学支援金事務経費	0	100	0	100	100	0	就学支援金事務処理用PC購入
臨時経費（教育研究）	0	329	0	329	329	0	高等研究ﾈｯﾄﾜｰｸ形成支援事業に係るﾌﾞﾛｼｰﾄ経費
委員会等旅費（一般）	0	995	0	995	940	55	機構本部負担旅費全般、機構本部長に係る旅費
営繕事業費（女子寮改修）	0	0	0	0	0	0	工事は次年度に持ち越し
営繕事業費（H29台風21号災害復旧事業）	0	8,856	0	8,856	8,856	0	ｲﾀﾞｰ整標改修工事
Ⅷ．特殊要因経費	△ 576	7,304	△ 151	6,577	6,488	89	
予備費（教育研究）	△ 576	△ 484	△ 151	△ 1,211	1,562	△ 2,773	期間会館ﾃｰﾌﾞﾙ更新、特命教員人件費不足分等
予備費（災害等予備費）	0	4,926	0	4,926	4,926	0	開振業部地震での破損物品購入費用
収入超過額	0	2,862	0	2,862	0	2,862	機構示達額 ＜ 実収入
合　　計	259,579	125,571	0	385,150	385,068	82	

（出典　「2018 年度決算」を基に作成）

資料４－１－④－（１）

「財務諸表等の作成」

財　務　諸　表

第14期事業年度

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

独立行政法人　国立高等専門学校機構

（出典　「第１４期事業年度　財務諸表」より抜粋）

資料４－１－④－（２）－１

「財務に係る監査を実施していることがわかる資料」

第７章　内部監査及び責任

（内部監査）

第４５条　理事長は，予算の執行及び会計処理の適正を期するため，必要と認めるときは，特に命じた教職員に内部監査を行わせるものとする。

２　内部監査について必要な事項は，別に定めるものとする。

（会計機関の義務及び責任）

第４６条　会計機関は，機構の財務及び会計に関し，適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し，かつ，予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって，その職務を行わなければならない。

２　会計機関は，故意又は重大な過失により前項の規定に違反して，機構に損害を与えた場合は，その損害を弁償する責を負わなければならない。

（出典　「独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 34 号」から第 45 条・第 46 条を抜粋）

資料４－１－④－（２）－２

「財務に係る学内監査を実施していることがわかる資料」

苫小牧工業高等専門学校内部監査実施規程

規則第29号

制　　定　平成４年８月13日

一部改正　平成14年２月28日

一部改正　平成21年４月１日

一部改正　平成30年２月22日

（趣旨）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号）第45条の規定に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における財務会計に関する内部監査（以下「監査」という。）の実施について，必要な事項を定めるものとする。

（監査の実施責任者）

第２条　監査の実施責任者は，事務部長とする。

（監査員及び補助員）

第３条　校長は，監査を実施するため，本校の総務課職員のうちから監査員を命ずるものとする。

２　実施責任者は，監査員を補助する必要があると認めたときは，本校の事務部所属職員のうちから補助員を命ずることができる。

（監査事項及び方法）

第４条　監査は，次の各号に掲げる事項について実地に行うものとする。

一　財務会計に関する法令等の適用に関する事項

二　予算決算に関する事項

三　収入支出に関する事項

四　債権に関する事項

五　物品に関する事項

六　不動産に関する事項

七　契約に関する事項

八　旅費に関する事項

九　委任経理金に関する事項

十　科学研究費補助金に関する事項

十一　帳簿及び証拠書類に関する事項

十二　その他校長が必要と認める事項

２　監査の実施細目は，事務部長が定める。

（次ページに続く）

資料４－１－④－（２）－２（続き）

３　実施責任者は，監査を実施する前に監査事項及び実施細目を監査員に指示するものとする。

（監査の区分及び実施時期）

第５条　監査は，定期監査及び臨時監査とする。

２　前項の監査の実施時期は，次の各号に掲げるとおりとする。

一　定期監査　　毎年11月

二　臨時監査　　校長が必要と認めたとき

（監査の通知）

第６条　実施責任者は，監査を実施しようとするときは，あらかじめ，関係職員に対し，その期日及び監査員の職名，氏名その他必要な事項を通知するものとする。

（監査の立会い）

第７条　前条の通知を受けた関係職員は，あらかじめ，帳簿及び書類等を整理し，監査に立会い協力しなければならない。

（監査員の権限）

第８条　監査員は，監査上必要な書類及び物品等の提示を求め，また，関係職員からの説明又は調書の提出を求めることができる。

（監査報告）

第９条　監査員は，監査を終了したときは，速やかに監査結果を監査報告書（別紙様式）により，実施責任者を経由して校長に報告しなければならない。

２　実施責任者は，必要があると認めたときは，監査結果に対する意見を付し，校長に報告するものとする。

（是正改善の措置）

第10条　校長は，監査の結果，是正改善の措置を取る必要があると認めた事項を，当該関係職員に通知するものとする。

２　前項の措置を命ぜられた当該関係職員は，直ちに当該事項に関する必要な措置をとり，校長にその結果について報告しなければならない。

附　則

この規程は，平成４年８月13日から施行する。

附　則

この規程は，平成14年２月28日から施行し，平成13年１月６日から適用する。

附　則

この規程は，平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成30年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校内部監査実施規程）

資料４－１－④－（２）－３

「学内監査を実施していることがわかる資料」

公的研究費監査報告書

平成30年10月19日

職　名　総務課課長補佐（財務担当）
氏　名　伊藤光春　㊞

職　名　総務課財務係長
氏　名　鈴木 良　㊞

公的研究費内部監査結果について下記のとおり報告します。

記

1. 監査実施日　平成30年9月25日～平成30年9月28日
2. 監査部局　〔通常監査〕総務課 ，〔特別監査〕創造工学科機械系
3. 監査結果　適正であった。

（指摘事項等があれば、その概要・要約等を記載する。）

（出典　平成 30 年度公的研究費監査報告書）

資料４－１－④－（２）－４

「高専間の相互監査を実施していることがわかる資料」



（出典　「平成 30 年度高専相互会計内部監査　指摘事項及び措置内容一覧【確認】」から抜粋）

資料４－２－①－（１）－１

「苫小牧工業高等専門学校の諸規程の整備」



本校規程集

第1章 学則
苫小牧工業高等専門学校学則

第2章 組織・運営
苫小牧工業高等専門学校教員組織等規程
苫小牧工業高等専門学校教員会議規程
苫小牧工業高等専門学校運営委員会規程
苫小牧工業高等専門学校専攻委員会規程
苫小牧工業高等専門学校教務委員会規程
苫小牧工業高等専門学校学生委員会規程
苫小牧工業高等専門学校寮務委員会規程
苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程
苫小牧工業高等専門学校学術情報センター委員会規程
苫小牧工業高等専門学校地域共同研究センター委員会規程
苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程
苫小牧工業高等専門学校安全衛生委員会規程
苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議規則
苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則
苫小牧工業高等専門学校後援等教材学生研修委員会規程
苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター運営委員会規程
苫小牧工業高等専門学校技術教育支援センター施設分掌規程
苫小牧工業高等専門学校事務組織規程
苫小牧工業高等専門学校いじめ防止対策委員会規程
苫小牧工業高等専門学校スタッフ会議要項
苫小牧工業高等専門学校リスク管理規程
苫小牧工業高等専門学校における人を対象とする研究倫理審査委員会規程
苫小牧工業高等専門学校サテライト規程

（出典　苫小牧工業高等専門学校 HP より）

資料４－２－①－（１）－２

「苫小牧工業高等専門学校の各種委員会の役割」

委員会名	委員長	構成員	主な所管事項
運営委員会	校長	（1）校長 （2）各副校長 （3）各センター長 （4）各系長 （5）事務部長	（1）組織・運営及び施設に関する事項 （2）教育効果の向上に関する事項 （3）消防及び防災に関する事項 （4）情報公開に関する事項 （5）留学生の受入れに関する事項 （6）中期目標・中期計画に関する事項 （7）点検・改善に関する事項 （8）その他校長が必要と認めた事項
入学試験委員会	校長	（1）校長 （2）副校長（教務主事） （3）教務主事補 （4）各系長 （5）事務部長 （6）学生課長 （7）その他校長が指名した者	（1）本科及び専攻科学生の募集に関する事項 （2）本科及び専攻科入学者選抜試験の実施に関する事項 （3）本科及び専攻科入学者の考査に関する事項 （4）その他本科及び専攻科入学者選抜に関する事項
総務委員会	副校長 （総務主事）	（1）副校長（総務主事） （2）総務主事補 （3）事務部長 （4）総務課長 （5）学生課長 （6）その他校長が指名した者	（1）将来計画に関する事項 （2）広報活動に関する事項 （3）ホームページの管理に関する事項 （4）外国の機関との学術交流及び学生交流に関する事項 （5）自己点検及び評価に関する事項 （6）施設の整備計画及び環境整備に関すること （7）防災計画及び防災訓練の企画立案に関すること （8）その他総務に関する事項
教務委員会	副校長 （教務主事）	（1）副校長（教務主事） （2）教務主事補 （3）学生課長 （4）その他校長が指名した者	（1）教育課程に関する事項 （2）授業及び試験に関する事項 （3）特別活動に関する事項 （4）進級及び卒業の認定等に関する事項 （5）既修得単位の認定に関する事項 （6）退学（懲戒処分による退学を除く。），休学、復学及び除籍に関する事項 （7）研究生及び科目等履修生に関する事項 （8）その他教務に関する事項
学生委員会	副校長（学生主事）	（1）副校長（学生主事） （2）学生主事補 （3）学生課長 （4）その他校長が指名した者 必要に応じて副校長（寮務主事），副校長（専攻科長），各学級担任、体育担当教員 及び各クラブ（同好会を含む。）顧問１名を委員として加える。	（1）学生の団体、学生活動及び学生生活に関する事項 （2）学生の福利厚生に関する事項 （3）学生の表彰及び懲戒に関する事項 （4）入学料、授業料及び寄宿料の免除等に関する事項 （5）独立行政法人日本学生支援機構奨学生の選考等に関する事項 （6）課外活動に関する事項 （7）福利施設の運営に関する事項 （8）外国人留学生の指導に関する事項 （9）その他学生の厚生補導に関する重要な事項
寮務委員会	副校長 （寮務主事）	（1）副校長（寮務主事） （2）寮務主事補 （3）学生課長 （4）その他校長が指名した者 必要に応じて副校長（学生主事）を委員として加える。	（1）寮生の入退寮に関する事項 （2）寮生の厚生補導に関する事項 （3）寮生の福利厚生に関する事項 （4）寮内における寮生の懲戒に関する事項 （5）寮生会活動の指導に関する事項 （6）学生寮の施設・設備に関する事項 （7）その他学生寮の管理運営に関する事項
専攻科委員会	副校長 （専攻科長）	（1）副校長（専攻科長） （2）各専攻主任 （3）学生課長 （4）その他校長が指名した者 審議事項によっては副校長（教務主事）または副校長（学生主事）を委員として加える。	（1）教育課程に関する事項 （2）教育計画及び授業時間の編成に関する事項 （3）学生の退学、転学、休学、復学及び修了に関する事項 （4）試験及び学業成績に関する事項 （5）学生の進学及び就職に関する事項 （6）学生の厚生補導に関する事項 （7）その他専攻科の教務及び学生指導に関する事項

（次ページへ続く）

資料４－２－①－（１）－２（続き）

委員会名	委員長	構成員	主な所管事項
学術情報センター委員会	センター長	（1）センター長 （2）副センター長 （3）総務課長 （4）学生課長 （5）その他校長が指名した者	（1）センターの運営管理に関する事項 （2）情報セキュリティに関する啓発及び教育計画の実施に関する事項 （3）情報セキュリティ監査の実施に関する事項 （4）情報セキュリティ対策及び情報セキュリティポリシーの運用状況等の評価に関する事項 （5）その他センター運営に関する必要な事項
地域共同研究センター委員会	センター長	（1）センター長 （2）副センター長 （3）総務課長 （4）技術長 （5）その他校長が指名した者	（1）センターの運営管理に関する事項 （2）民間企業等との技術開発相談、技術協力及び学術情報の提供等に関する事項 （3）公開講座の実施及び計画に関する事項 （4）その他生涯学習に関する事項 （5）知的財産権に関する事項 （6）遺伝子組換え生物等の使用等に関する事項
技術教育支援センター運営委員会	技術教育支援センター長	（1）副校長（教務主事） （2）副校長（専攻科長） （3）学術情報センター長 （4）地域共同研究センター長 （5）技術教育支援センター長 （6）事務部長 （7）技術長及び副技術長 （8）その他校長が指名した者	（1）センターの組織運営に係る全般的事項 （2）センター職員の研修及び採用計画に関する事項 （3）その他センターに関する重要事項
安全衛生委員会	副校長（総務主事）	（1）副校長（総務主事） （2）総務課長 （3）衛生管理者 （4）安全管理者 （5）衛生管理担当者 （6）安全管理担当者 （7）産業医 （8）学生寄宿に関し総務主事又は副校長のいずれかを指名した者	独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則 第13条第２項各号及び第３項各号に掲げる事項
発達障害等就学支援委員会	副校長（学生主事）	（1）副校長（教務主事） （2）副校長（学生主事） （3）学生相談室長 （4）事務部長 （5）学生課長 （6）その他校長が指名した者	（1）支援対象学生の決定及び支援方針等に関すること。 （2）サポートチームの設置及び構成員に関すること。 （3）発達障害等のある学生の支援にかかる研修に関すること。 （4）その他発達障害等のある学生の支援に関して必要と認められること。
いじめ防止対策委員会	校長	（1）校長 （2）副校長（学生主事） （3）学生相談室長 （4）事務部長 （5）学生課長 （6）その他校長が指名した者	ポリシーに掲げるいじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため、必要な事項
人を対象とする研究倫理審査委員会	副校長（研究主事）	（1）副校長（研究主事） （2）地域共同研究センター長 （3）地域共同研究センター長 （4）倫理及び法律を含む人文・社会科学の有識者 （5）医学・医療の専門家等、自然科学の有識者 （6）一般の立場の者 （7）その他校長が指名した者	（1）研究計画の審査に関すること。 （2）研究の倫理的問題に関すること。 （3）研究の安全性に関すること。 （4）その他社会の理解を得た適正な研究の実施の確保に関すること。
リスク管理委員会	リスク管理責任者	（1）リスク管理責任者 （2）各副校長 （3）事務部長 （4）各課長 （5）その他校長が必要と認めた者	（1）本校のリスク管理体制に関する事項 （2）リスク管理に関する規程及びマニュアル等の整備に関する事項 （3）リスク管理教育に関する事項 （4）リスクの顕在化防止に関する事項 （5）リスクの再発防止に関する事項 （6）その他リスク管理に関する事項

（次ページへ続く）

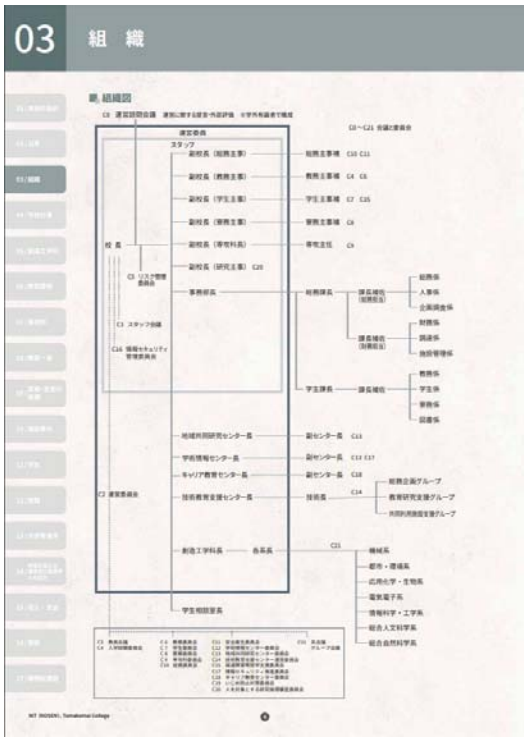
資料４－２－①－（１）－２（続き）

委員会名	委員長	構成員	主な所管事項
情報セキュリティ管理委員会	情報セキュリティ責任者	（1）情報セキュリティ責任者 （2）情報セキュリティ副責任者 （3）情報セキュリティ管理者 （4）情報セキュリティ推進責任者	（1）実施規程及び実施手順の制定並びに改廃 （2）情報セキュリティポリシー、実施規則、実施規定及び実施手順に関し、当該規則等の実施、啓発徹底、遵守及び助行の厳進、違反に対する措置、並びに遵守状況の調査 （3）情報セキュリティ教育 （4）リスク管理及び非常時行動計画の策定並びに実施 （5）情報セキュリティインシデント防止策の策定及び実施 （6）例外措置の許可権限者の選任 （7）情報セキュリティの強化に関する調査及び検討 （8）情報セキュリティに関する情報の調査及び周知 （9）実施規程及び実施手順の実施状況の評価及び見直し （10）その他情報セキュリティに関する事項
情報セキュリティ推進委員会	情報セキュリティ推進責任者	（1）情報セキュリティ推進責任者 （2）情報セキュリティ推進員	（1）情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題の審議 （2）情報システムに関わる情報セキュリティインシデントの発生時の対応 （3）情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ管理者への専門的及び技術的立場からの助言及び支援
運営諮問会議	委員の互選により選出	（1）大学等高等教育機関の関係者 （2）本校の所在する地域の教育関係者 （3）本校の所在する地方自治体の関係者 （4）本校の所在する地域社会及び産業界との連携者 （5）本校の卒業者又は修了者 （6）その他校長が必要と認めた者	（1）本校の運営に関する重要事項 （2）本校の教育研究活動に関すること （3）本校の学生生活に関すること （4）本校と地域社会及び産業界との連携に関すること （5）その他校長が必要と認めた事項
スタッフ会議	校長	（1）校長 （2）各副校長 （3）事務部長	本校運営上の諸課題について意見交換を行う

（出典　苫小牧工業高等専門学校各規程より抜粋し作成）

資料４－２－①－（２）

「委員会等の体制等を示す組織図」



（出典　苫小牧工業高等専門学校要覧 2019 より）

資料４－２－①－（３）－１

「役割分担」

苫小牧工業高等専門学校学則（抜粋）

（主事）

第９条　本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。

２　教務主事は教授をもって，学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもって充てる。

３　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

４　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

５　寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

苫小牧工業高等専門学校教員組織等規程（抜粋）

第３章　副校長

第４条　本校に副校長を置く。

２　副校長は，本規程第５条第１項に掲げる総務主事，第６条第１項に掲げる研究主事，学則第９条第１項に掲げる教務主事，学生主事及び寮務主事並びに本規程第24条第１項に掲げる専攻科長をもって充てる。

３　副校長は，本規程第５条第３項各号，第６条第３号各号，学則第９条第３項から第５項まで及び本規程第24条第２項各号に掲げる職務のほか，校長の命により校長の職務を補佐するとともにその一部を処理する。

４　副校長（総務主事）は，校長が不在のときはその職務を代行する。

第４章　総務主事及び研究主事

第５条　本校に総務主事を置く。

２　総務主事は，本校の教授のうちから校長が指名する。

３　総務主事は，次の事項に関することを掌理する。

一　将来構想に関する事項

二　広報に関する事項

三　国際交流に関する事項

四　中期目標・中期計画・年度計画に関する事項

五　自己点検及び評価に関する事項

六　機関別認証評価に関する事項

七　その他校長が必要と認める事項

（次ページへ続く）

資料４－２－①－（３）－１（続き）

第６条　本校に研究主事を置く。

２　研究主事は，本校の教授のうちから校長が指名する。

３　研究主事は，次の事項に関することを掌理する。

一　研究の推進に関する事項

二　社会連携の統括に関する事項

三　外部資金獲得の促進に関する事項

四　知的財産創出等に関する事項

五　その他校長が必要と認める事項

第７条　総務主事及び研究主事の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

第５章　総務主事補，教務主事補，学生主事補及び寮務主事補

第８条　本校に，総務主事補，教務主事補，学生主事補及び寮務主事補（以下「主事補」と総称する。）を置き，教員をもって充てる。

２　前項に定める総務主事補は２名，教務主事補及び学生主事補は各３名，寮務主事補は４名とする。

３　主事補は，当該主事の職務を補佐する。

第９条　主事補の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，原則として前任者の残任期間とする。

第６章　学術情報センター長及び地域共同研究センター長

第10条　本校に，学術情報センター長及び地域共同研究センター長（以下「センター長」と総称する。）を置き，教授又は准教授をもって充てる。

２　学術情報センター長は，校長の命を受け，学術情報センターの運営及び業務に関することを掌理する。

３　地域共同研究センター長は，校長の命を受け，地域共同研究センターの運営及び業務に関することを掌理する。

第11条　センター長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

第７章　キャリア教育センター長

第 12 条　本校に，キャリア教育センター長を置き，教員をもって充てる。

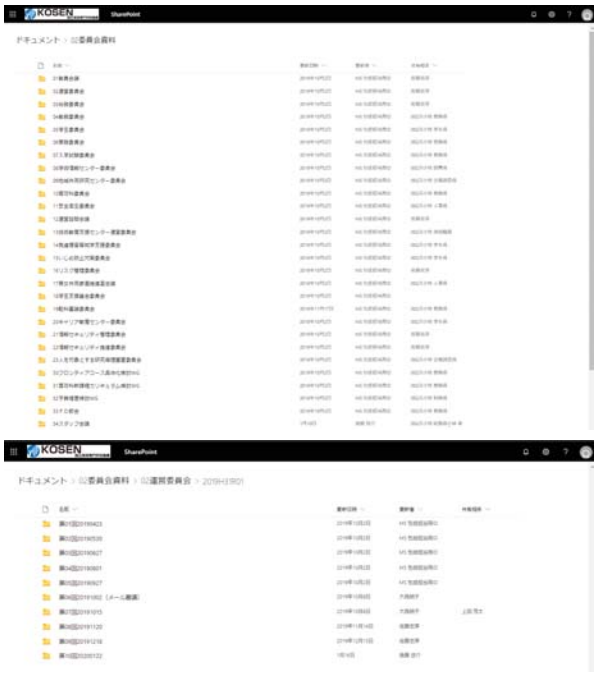
２　キャリア教育センター長は，校長の命を受け，キャリア教育センターの運営及び業務　に関することを掌理する。

第 13 条　キャリア教育センター長の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（出典　苫小牧工業高等専門学校学則及び苫小牧工業高等専門学校教員組織等規程より抜粋）

資料４－２－①－（６）－１

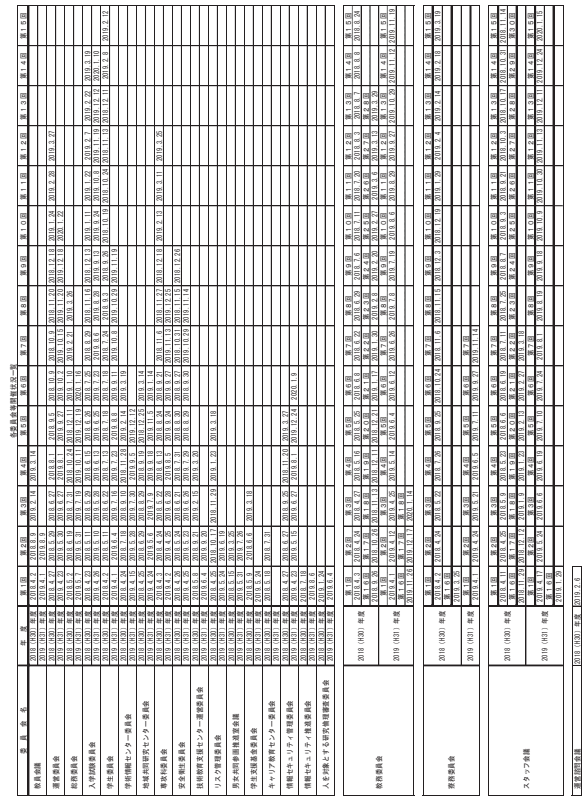
「各委員会の活動状況」



（出典　「苫小牧工業高等専門学校ファイルサーバー」より抜粋し作成）

資料４－２－①－（６）－２

「各委員会の開催状況」



（出典　「苫小牧工業高等専門学校ファイルサーバー02 委員会資料フォルダ」より抜粋し作成）

資料４－２－②－（１）－１

「危機管理等の規程」



（次ページに続く）



（次ページに続く）

苫小牧工業高等専門学校リスク管理規程

規則第109号

制　　定　平成30年４月１日

（目的）

第１条　この規則は，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）のリスク管理体制を整備し，リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の回避，軽減及び移転等のリスク対応を図り，もって本校の業務の円滑な運営に資することを目的とする。

（定義）

第２条　この規則において，次の各号に掲げる用語の定義は，それぞれ当該各号の定めるところによる。

一　教職員　教員（特命教授，特命講師等を含む），職員（技術専門員，技術専門職員等を含む），非常勤職員，非常勤講師，学校医，カウンセラー，再雇用職員及び労働者派遣に関する基本契約に基づき本校に派遣され業務を行う者をいう。

二　学生　本科生，専攻科生，科目等履修生，研究生，特別聴講学生等，本校で修学するすべての者をいう。

三　リスク　本校の使命及び目標の達成を阻害する要因をいう。

四　リスク管理　リスクの顕在化の防止又はリスクが顕在化した場合の損失の回避，軽減及び移転等のリスク対応を図ることをいう。

（リスク管理責任者）

第３条　独立行政法人国立高等専門学校機構リスク管理規則第５条に基づき，本校にリスク管理責任者を置き，校長をもって充てる。

２　リスク管理責任者は，本校におけるリスク管理を総括する。

（リスク管理委員会）

第４条　本校におけるリスク管理のため，リスク管理委員会を置く。

２　リスク管理委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　本校のリスク管理体制に関する事項

二　リスク管理に関する規程及びマニュアル等の整備に関する事項

三　リスク管理教育に関する事項

四　リスクの顕在化防止に関する事項

五　リスクの再発防止に関する事項

六　その他リスク管理に関する事項

（次ページに続く）

（リスク管理委員会の構成員）

第５条　リスク管理委員会は，次の各号に掲げる者を委員として組織する。

一　リスク管理責任者

二　各副校長

三　事務部長

四　各課長

五　その他校長が必要と認めた者

（委員以外の者の出席）

第６条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者を会議に出席させ，意見を聴くことができる。

（委員長）

第７条　リスク管理委員会に委員長を置き，リスク管理責任者をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長が不在のときは，副校長（総務主事）がその職務を代行する。

（リスクの顕在化時の対応）

第８条　教職員はリスクが顕在化した場合又は顕在化したと想定される場合（以下「危機事象」という。），速やかにリスク管理責任者に報告しなければならない。

２　リスク管理責任者は前項の報告を受け，組織的・集中的な対応が必要と判断した場合，対策本部を設置する。

３　リスク管理責任者が，第１項の報告を受け，組織的・集中的な対応に及ばないと判断した場合，事象の主務組織等の責任者へ対応を依頼する。依頼された責任者は対応結果をリスク管理責任者へ報告する。

（対策本部）

第９条　対策本部は，危機事象に伴う次の事項に関して，迅速かつ適切に対処する。

一　危機事象に関する情報収集

二　学生，教職員，地域住民等の安全確保

三　損失の回避，軽減及び移転防止等の措置

四　関係機関への対応

五　顕在化した要因の分析

六　その他危機事象の発生に伴い必要となる措置

２　危機事象の収束後，対策本部はリスク管理委員会に危機事象の発生から収束までの経緯及び発生要因の分析結果を報告しなければならない。

（次ページに続く）

（対策本部の構成員）

第10条　対策本部は，次の各号に掲げる者を本部員として組織する。

一　リスク管理委員会委員

二　その他校長が必要と認めた者

（本部長及び副本部長）

第11条　対策本部に本部長を置き，リスク管理責任者をもって充てる。

２　対策本部に副本部長を置き，本部長が指名する副校長をもって充てる。

（学外有識者の参画）

第12条　本部長が必要と認めた場合は，対策本部に学外有識者を参画させることができる。

（秘密保持義務）

第13条　教職員は，この規則に基づく本校のリスク管理に関する措置などを立案・実施する過程において知り得た秘密を漏洩してはならない。

（リスク管理業務に関する事務）

第14条　リスク管理業務に関する事務は，総務課において処理する。ただし，危機事象の発生時等，緊急時においては，この限りでない。

（雑則）

第15条　この規程に定めるもののほか，本校のリスク管理に関して必要な事項は，別に定める。

附　則

１　この規程は，平成30年４月１日から施行する。

２　この規程の施行により，苫小牧工業高等専門学校危機管理対策室規程（平成19年４月１日制定）は，廃止する。

（次ページに続く）

資料４－２－②－（１）－１（続き）

苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ組織体制に関する規程

規則第95号

制　　定　平成22年５月18日
一部改正　平成28年３月16日
一部改正　令和元年８月１日

（趣旨）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（構規則第98号。以下「対策規則」という。）の規定に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ組織体制について定めるものとする。

（情報セキュリティに関する役職の設置）

第２条　対策規則第13条の規定に基づき，本校の情報セキュリティに責任を持つ役職として，本校に次の各号に掲げる職を置き，当該各号に定める職をもって充てる。

一　情報セキュリティ責任者　校長
二　区域情報セキュリティ責任者　校長
三　情報セキュリティ管理者　各系長
　　専攻科長
　　地域共同研究センター長
　　技術教育支援センター長
　　学術情報センター副センター長
　　総務課長
　　学生課長
四　情報セキュリティ推進責任者　学術情報センター長

（情報セキュリティ副責任者の設置）

第３条　対策規則第18条の規定に基づき，情報セキュリティ責任者を補佐し業務を代行させるため情報セキュリティ副責任者を置き，次の各号の職を持って充てる。

一　副校長（総務主事）
二　事務部長

（情報セキュリティ推進員の設置）

第４条　対策規則第19条の規定に基づき，本校の情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題への対応を行わせるため，本校に情報セキュリティ推進員を置き，次の各号に掲げる職をもって充てる。

（次ページに続く）

資料４－２－②－（１）－１（続き）

一　学術情報センター委員会委員のうち，情報セキュリティ推進責任者が指名する者
二　情報セキュリティ推進責任者が指名する技術職員　１名
三　情報セキュリティ推進責任者が指名する事務職員　１名
四　その他情報セキュリティ推進責任者が必要と認める教職員

（情報セキュリティ管理委員会の設置及び業務）

第５条　対策規則第20条の規定に基づき，本校に情報セキュリティ管理委員会を置く。

２　情報セキュリティ管理委員会は，本校における次の各号に掲げる事項を審議する。ただし，専門的及び技術的問題の審議は情報セキュリティ推進委員会に委ねるものとする。

一　実施規程及び実施手順の制定並びに改廃
二　情報セキュリティポリシー基本方針，実施規則，実施規定及び実施手順に関し，当該規則等の実施，周知徹底，遵守及び励行の推進，違反に対する措置，並びに遵守状況の調査
三　情報セキュリティ教育
四　リスク管理及び非常時行動計画の策定並びに実施
五　情報セキュリティインシデント防止策の策定及び実施
六　例外措置の許可権限者の選任
七　情報セキュリティの強化に関する調査及び検討
八　情報セキュリティに関する情報の調査及び周知
九　実施規程及び実施手順の実施状況の評価及び見直し
十　その他情報セキュリティに関する事項

（情報セキュリティ管理委員会の構成員）

第６条　情報セキュリティ管理委員会は，情報セキュリティ責任者を委員長とし，次の各号に掲げる者を委員として組織する。

一　情報セキュリティ副責任者
二　情報セキュリティ管理者
三　情報セキュリティ推進責任者

２　前項の規定にかかわらず，情報セキュリティ責任者は必要に応じて情報セキュリティ管理委員会の委員を別に定めることができる。

（次ページに続く）

資料４－２－②－（１）－１（続き）

（情報セキュリティ推進委員会の設置及び業務）

第７条　対策規則第22条の規定に基づき，本校に情報セキュリティ推進委員会を置く。

２　情報セキュリティ推進委員会は，次の各号に掲げる事項を行う。

一　情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題の審議
二　情報システムに関わる情報セキュリティインシデントの発生時の対応
三　情報セキュリティ責任者，情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ管理者への専門的及び技術的立場からの助言及び支援

（情報セキュリティ推進委員会の構成員）

第８条　情報セキュリティ推進委員会は，情報セキュリティ推進責任者を委員長とし，次の各号に掲げる者を委員として組織する。

一　情報セキュリティ推進員
二　その他，情報セキュリティ責任者が必要と認める者

（管理運営部署）

第９条　対策規則第24条の規定に基づき，本校に情報セキュリティに関する管理運営部署を設置し，総務課をもって充てる。

２　管理運営部署は，情報セキュリティ責任者又は情報セキュリティ副責任者の指示により，次の各号に掲げる業務を行う。

一　情報セキュリティ管理委員会の運営に関する業務
二　情報セキュリティ管理委員会の審議に関連する事項の取りまとめ
三　情報セキュリティに関する連絡と通報
四　情報セキュリティに関する文書の保管

附　則

この規程は，平成22年５月18日から施行する。

２　学術情報センター委員会規程（平成15年４月１日施行）第２条第２号から第４号までに掲げる事項については，同条の規定にかかわらず，当分の間，この規程第５条第１項に規定する情報セキュリティ管理委員会又は第７条第１項に規定する情報セキュリティ推進委員会において審議するものとする。

附　則

この規程は，平成 28 年４月１日から施行する。

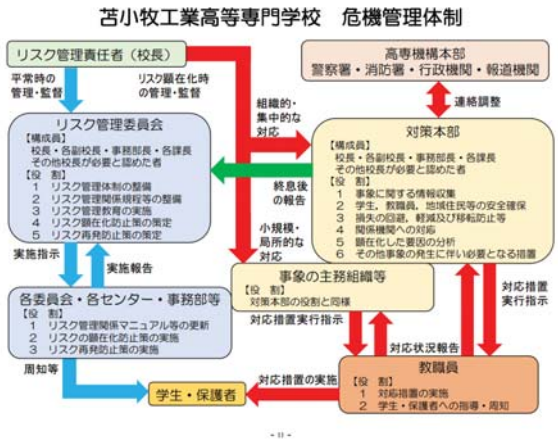
附　則

この規程は，令和元年８月１日から施行する。

（出典：苫小牧工業高等専門学校 HP，苫小牧工業高等専門学校リスク管理規程及び苫小牧工業高等専門学校情報セキュリティ組織体制に関する規程より）

資料４－２－②－（１）－２

「危機管理体制」



（出典　苫小牧工業高等専門学校危機管理マニュアルより抜粋）

資料４－２－②－（２）

「危機管理マニュアル等」



（次ページに続く）

資料４－２－②－（２）（続き）

「危機管理マニュアル等」

危機管理マニュアル

2019年5月24日改訂

独立行政法人国立高等専門学校機構
苫小牧工業高等専門学校

（次ページに続く）

資料４－２－②－（２）（続き）

危機管理マニュアル　目次

Ⅰ　基本事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1．危機管理マニュアルの目的
2．定義
Ⅱ　危機管理に対する基本姿勢 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
1．概要
2．平常時の基本姿勢
3．緊急時の基本姿勢
Ⅲ　管理体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1．概要
2．平常時の体制
3．緊急時の体制
Ⅳ　平常時の対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
1．リスクの把握・対策の検討・実施
2．連絡体制の整備
3．リスク管理，危機対応に関する規則・規程・マニュアル等の整備
4．訓練・研修・安全教育
Ⅴ　緊急時の対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
1．教職員の初期対応
2．対策本部の対応
3．主務委員会等の対応
4．学生の心のケア
5．教職員の心のケア
6．緊急時の広報
Ⅵ　収束時の対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
1．収束後の報告
2．要因や背景の分析
3．対応の評価及び再発防止策
4．学生及び教職員の心のケア

（次ページに続く）

資料４－２－②－（２）（続き）

Ⅰ　基本事項

1．危機管理マニュアルの目的

この危機管理マニュアル（以下「マニュアル」という。）は，独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生又は発生することが予想される様々な事象に伴う危機に，迅速かつ的確に対処し，本校の学生，教職員及び近隣住民等の安全確保を図るとともに，本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

2．定義

（1）危機管理

危機事象の要因と状況を把握・予知・分析し，その危機事象によってもたらされる課題を想定することにより，被害や影響を回避・軽減し，最小限に抑制するための適切な対応を行うこと。

（2）リスク

損失や事故が発生する可能性のことであり，まだ具体的な損失や事故は起きておらず，起こる可能性にある状態のもの。

（3）危機事象

（2）のリスクが顕在化し，具体的な事象となったもの。または予告なしに突然に発生し，その結果が予想外でかつ悪い状況をもたらす可能性があり，組織的に対応することが必要な事象。

危機事象の例

事象	リスク・要因	具体例
自然災害	・地理的要因 ・防災対策の不備 ・防災意識の欠如	・震災，津波等による人的，物的被害 ・風水害（台風）による人的，物的被害 ・自然災害に伴うライフラインへの被害
健康被害	・致死率又は感染力が高い重篤な感染症の存在と対策の不備 ・衛生管理体制の問題 ・毒劇物，有害物質，放射線等による被害	・感染症集団感染 ・集団食中毒 ・毒劇物による健康被害
重大事故	・設備安全管理上の問題 ・危険物，毒劇物管理体制の問題 ・教職員及び学生の活動に潜む様々な危険性	・火災等による人的，物的被害 ・毒劇物流失，環境汚染 ・危険作業による事故
重大事件	・教職員・学生の遵法意識の欠如 ・会計上の体制不備 ・研究倫理の問題 ・事故対策，防犯対策，不審者対策の不備 ・社会情勢，国際情勢の調査不足	・教職員・学生の法令違反（薬物乱用等） ・不正経理 ・研究成果の改ざん・知的財産権の侵害 ・不正アクセス，ウィルス攻撃 ・ハラスメント事案の発生 ・テロ行為
その他	・その他学校運営に重大な問題を起こす危険性	

（次ページに続く）

資料４－２－②－（２）（続き）

Ⅱ　危機管理に対する基本姿勢

１．概要

危機を未然に防止し，あるいは危機が発生した場合にその被害を最小限にとどめるためには，緊急時はもとより，平常時においても組織及び教職員が危機管理意識を持ち，積極的に対応することが不可欠である。

２．平常時の基本姿勢

（１）重大な事故が発生するまでには，軽微な事故等の前兆があり，これらの前兆を見逃さないことが重要である。教職員は，日頃からどこかに問題があるのではないかという危機意識を持ち，危機の前兆を見逃さず的確にとらえる心構えをもつこと。

（２）教職員は，危機の前兆を見抜く能力を高めるために，日頃から身の回りで発生した事故・事件等の危機情報に目を配ること。

（３）教職員は，高齢者や障害者，子供その他特に配慮すべき者の立場を踏まえ，常に相手の身になって危機の未然防止に資する行動をとること。

（４）教職員は，気になること，気が付いたことについて，日頃から情報共有（ただし個人情報等については細心の注意を払い，学内で不要な噂がでることのないよう行動すること）を行い，必要に応じて担当部署等へ報告すること。

３．緊急時の基本姿勢

（１）危機が発生した場合は，人命の安全確保を最優先にした具体的かつ適切な対応をとること。

（２）教職員は，素早く「危機」を「危機」と認識し，緊急対応すべきか否かの判断を行い，危機と判断した場合は，危機の詳細が分からなくても，躊躇することなく所定の緊急連絡を行うこと。

（３）緊急時には混乱が予想されるが，受け身的な対応を取ることなく状況変化を先読みし，主体的に困難を切り開いていく心構えを持つこと（臨機応変な対応を求められることを理解しておくこと）。

（４）マスコミからの問い合わせに対しては，対策本部が窓口となって対応するので，問い合わせがあった場合は，速やかに対策本部へ連絡し，不用意な回答は行わないこと。

（５）教職員は，大規模な危機や社会的反響が大きいと思われる危機に際しては，全学的な問題としてとらえ，社会の誤解や批判を招くような行動は厳に慎むこと。

― 以 下 略 ―

（次ページに続く）

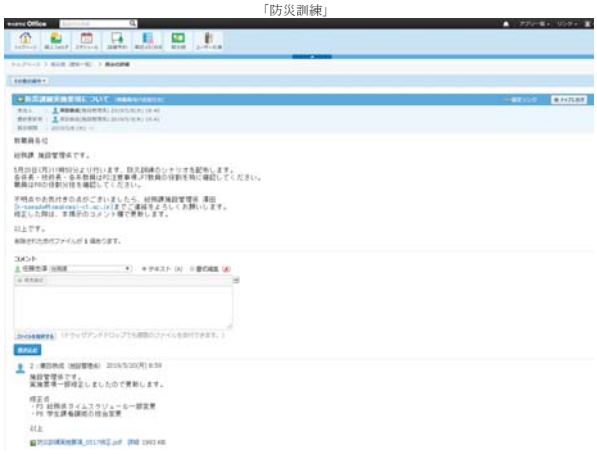
資料４－２－②－（２）（続き）



（出典　苫小牧工業高等専門学校危機管理マニュアル及び
「苫小牧工業高等専門学校ファイルサーバ」情報セキュリティ関係マニュアルより）

資料４－２－②－（３）－１

「防災訓練」



（次ページに続く）

資料４－２－②－（３）－１（続き）

○平成３１年度　防災訓練実施要項

１．訓練目的
本校消防計画第２９条に基づき，不時の火災発生（震災による火災含む。）における避難及び初期消火等，一連の消防行動の確率・統制的推進並びに防火思想の普及を図る。

２．実施日時
２０１９年５月２０日（月）１１時５０分２９行う。（雨天時は１０時３０分までにサイボウズに記載し，５月２７日（月）に延期する。）

３．実施場所
学生寮を除く構内全域

４．訓練種目
総合訓練（通報訓練，避難訓練，消火訓練，救助・救護訓練，搬出訓練，警備訓練）

５．訓練対象者
全教職員及び学生を対象とする。

６．想定
苫河沖を震源とする地震（震度６強）が発生し，その３分後，Ｆ棟（物質棟）３階無機・物化研究室２９出火し，危険物に引火の恐れあり，学生・教職員は陸上競技場へ避難する。

７．避難場所
陸上競技場　【本部】校長，副校長（総務主事），事務部長，総務課長，学生課長，記録者（佐藤(定)，岡本）。

８．その他
訓練の記録を残すため，訓練風景を撮影する。（書記（管）・吉田（国））

-1-

○防災訓練種目及びその概要

１．通報訓練
・消防署等への通報・非常放送訓練

２．避難訓練
・全教職員，学生の避難訓練
・避難時の自動扉・非常出口開放訓練
・シェーカーによる避難訓練
　―大隊３期物質工学科５年講義室前の廊下のシェーカー
　（株）日本防災技術センターが操作立ち会いを行う

３．消火訓練
・屋内消火栓，消火器を用いた消火訓練
・電気設備，水道設備の防護措置訓練
　（教職員及び１年生対象の消火器操作訓練は行わない）

４．救助・救護訓練
・担架による救出訓練。
・負傷者等の応急救護訓練。

５．搬出訓練
・非常持ち出し物件等の搬出訓練。

６．警備訓練
・搬出物件の水損，盗難等防止訓練

７．注意事項

・各部長・技術長・各系教員（非常勤講師を含む）は，実施本部への報告者（点呼担当者）を事前に決めておくこと。

・各部長・技術長・各系教員の点呼担当者は，訓練参加人数を１０時００分までに伊藤総務課課長補佐（財務担当）（内線 602）に事前に報告する。

・各部長・技術長・各系教員の点呼担当者は，訓練後の点呼結果を本部の危機総務課長に直接報告する。

・総務課長は記録係に伝達する。記録係：佐藤総務課長補佐（総務担当）
　※報告様式：「○○課 ○○係 避難者○○名 欠勤者○○名」
　※報告様式：「○○系 避難者○○名 欠勤者○○名」

・授業担当教員は，点呼結果を本部の担当学生課長まで直接報告する。学生課長は記録係に伝達する。記録係：岡本学生課長補佐
　※報告様式：「○年○○科(組) 教員○○ 学籍○○名 避難者○○名 欠者○○名」

・物質工学科５年の担任はシェーカー訓練に参加する学生３名を，１年５組の担任は救助訓練に参加する学生２人を指定し，事前に施設管理課まで連絡すること。
（詳細はオイムスケジュール参照。）

-2-

---------- 以 下 略 ----------

（出典　防災訓練周知文書　本校サイボウズより）

資料４－２－②－（３）－２

「標的型メール訓練」

高 機 情 第 ２ ２ 号
令和元年１０月１７日

各情報セキュリティ責任者　殿
（各国立高等専門学校長
本部事務局長）

最高情報セキュリティ責任者
高専機構理事　安　藤　　真

標的型メール対応訓練の実施について（通知）

日頃から情報セキュリティについて、ご尽力いただきありがとうございます。
さて、昨今のインシデントが多発していることを受け，国立高専への信用・信頼を大きく損なわないためにも，各学校における情報セキュリティ管理について，その体制の大幅な強化・見直しも含めた対策をお願いしているところです。
つきては，情報セキュリティ対策の一助として，下記のとおり標的型メール対応訓練を実施しますので，学内に周知いただきますようお願いいたします。

記

【実施時期】　令和元年 10 月～令和２年１月頃（予定）
【対 象 者】　公用の個人アドレスを持つ常勤教職員及び非常勤教職員
【実施概要】　別紙「標的型メール対応訓練実施要項」を参照
※訓練効果を上げるために，訓練の詳細については事前連絡いたしません。

（次ページに続く）

資料４－２－②－（３）－２（続き）

令和元年１０月２４日

教職員　各位
（非常勤職員含む）

情報セキュリティ責任者（校長）

標的型メール対応訓練の実施について（通知）

このことについて、機構本部から下記のとおり実施する旨の通知がありました。
今回の訓練は、情報セキュリティインシデントが発生した時に適切な行動がとれることを確認するために実施するものです。

記

［実施時期］令和元年１０月中
※訓練効果を上げるために、訓練の詳細については事前連絡いたしません。

［実施手順］
１）訓練メールは、教職員全員が必ず開封し、『ウイルスに感染！？と思ったら【すぐやる三箇条】』を実施してください。

２）学内の情報セキュリティインシデント担当者に連絡してください。

［連絡先］総務課総務係：soumu@tomakomai-ct.ac.jp

※１　今回の訓練では、総務係のみで連絡（メール）を受け付けます。
訓練メール受信後、「すぐやる三箇条」を実施し、ネットワークを切断することになりますが、総務係へ連絡の際は、再度、接続してメールにて連絡願います。
実際に感染の疑いがある場合は、絶対に再接続を行わず電話で連絡してください。

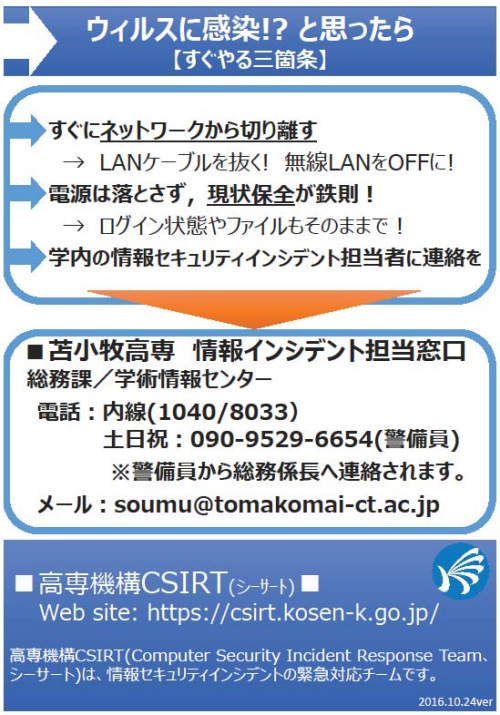
※２　訓練日当日に出張・休暇等で不在の方は、出勤日に訓練メールを確認し、総務係へ連絡願います。

※３　実際に情報セキュリティインシデントが発生した場合は下記に連絡してください。
・苫小牧高専情報インシデント担当窓口
・　総務課／学術情報センター
・　電話：内線（１０４０／８０３３）
・　　土日祝（０９０－９５２９－６６５４（警備員））
・　メール：soumu@tomakomai-ct.ac.jp

※ 添付書類
・[別添１]すぐやる三箇条

（次ページに続く）

資料４－２－②－（３）－２（続き）



（出典　機構本部通知文書及び本校通知文書）

資料４－２－②－（３）－３

「危機管理テーブル訓練」

平成２９年度　第４回　教員会議記録

◆日　　時　　平成３０年３月８日（木）１３時３０分～１４時０５分
◆場　　所　　図書館閲覧室
◆出 席 者　　別紙のとおり（６２名）
◆欠 席 者　　別紙のとおり（２０名）

始めに校長から，本日の記録確認者に小薮教員，佐々木（彩）教員を指名した。

――――― 以下略 ―――――

報告事項３．その他

①テーブル訓練ついて（資料無）

見藤寮務主事から，テーブル訓練の実施について次のとおり報告があった。

・管理職研修において，学内でテーブル訓練の実施するよう指導があったため，スタッフ会議で提案し，実施が決定した。
・参加対象は，各副校長，平成３０年度担任予定者，各系長，事務職員とした。
・日時は３月１４日（水）１３時１０分から行う。

②ＦＤ講習会ついて（資料無）

八田教務主事から，３月２０日（火）モデルコアカリキュラムでの評価方法等についてのＦＤ講習会を開催する旨報告があった。

以　上

（次ページへ続く）

資料４－２－②－（３）－３（続き）

--------- Forwarded Message ---------
Subject:危機管理訓練の実施について
Date:Sun,11Mar2018 10:58:47+0900

平成三十年度担任予定の先生、系長

寮務主事　見藤です。
教員会議で連絡したとおり。学校危機管理訓練を開催しますので出席をお願いします。

日時：３月１４日（水）１３：１０～
場所：中講義室

なお、欠席の場合はご一報くださるようお願いします。
よろしくお願いします。

（出典　平成２９年度第４回教員会議記録より抜粋及びメールによる周知文書）

資料４－２－③－（１）－１

「科学研究費補助金一覧」

科学研究費補助金の明細（平成31年4月1日現在）

受入件数及び受入額　（単位：円）

年度	研究代表者（件数）	研究分担者（件数）	直接経費受入額（研究代表者分）	直接経費受入額（研究分担者分）	直接経費受入額（合計）	間接経費	合計
平成２６年度	14	4	14,246,000	1,940,000	16,186,000	4,818,473	21,004,473
平成２７年度	15	9	16,925,000	2,860,000	19,785,000	5,268,844	25,053,844
平成２８年度	17	13	15,368,380	5,280,000	20,648,380	6,297,145	26,945,525
平成２９年度	13	13	12,210,000	3,865,000	16,075,000	5,822,500	21,897,500
平成３０年度	15	9	13,133,680	2,935,000	16,068,680	5,277,554	21,346,234

（出典　総務課資料）

資料４－２－③－（１）－２

「共同研究等一覧」

共同研究等一覧（平成31年4月1日現在）

平成31年4月24日
第1回地域共同研究センター委員会
報告２　資料６

表１　共同研究件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	12	5,280,000
平成２５年度	11	7,884,500
平成２６年度	9	7,941,400
平成２７年度	10	2,765,000
平成２８年度	12	4,075,800
平成２９年度	20	6,553,316
平成３０年度	17	8,707,885

表２　受託研究件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	6	8,191,000
平成２５年度	9	13,739,899
平成２６年度	4	4,107,670
平成２７年度	2	522,937
平成２８年度	3	1,952,000
平成２９年度	4	2,733,263
平成３０年度	4	1,876,995

表３　受託試験件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	49	6,177,600
平成２５年度	51	7,497,600
平成２６年度	34	4,769,400
平成２７年度	0	0
平成２８年度	0	0
平成２９年度	0	0
平成３０年度	0	0

表４　寄附金受入件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	15	10,239,981
平成２５年度	20	15,084,814
平成２６年度	18	14,552,004
平成２７年度	18	15,864,367
平成２８年度	21	14,743,986
平成２９年度	20	14,512,829
平成３０年度	20	12,668,457

表５　特許件数等

年度	出願	権利化	実施許諾	譲渡	収入額（円）
平成２４年度	1	0	0	0	0
平成２５年度	1	0	0	0	0
平成２６年度	2	0	0	0	0
平成２７年度	0	0	0	0	0
平成２８年度	0	0	0	0	0
平成２９年度	0	0	0	0	0
平成３０年度	0	1	0	0	0

表６　技術相談件数

年度	件数
平成２４年度	9
平成２５年度	10
平成２６年度	9
平成２７年度	25
平成２８年度	28
平成２９年度	32
平成３０年度	51

表７　大学改革等補助金

年度	件数	受入額（円）	備考
平成２４年度	0	0	
平成２５年度	0	0	
平成２６年度	0	0	
平成２７年度	1	5,000,000	地（知）の拠点大学による方創生推進事業（COC+）主幹校：豊橋工業大学
平成２８年度	1	1,032,000	地（知）の拠点大学による方創生推進事業（COC+）主幹校：豊橋工業大学
平成２９年度	1	696,000	地（知）の拠点大学による方創生推進事業（COC+）主幹校：豊橋工業大学
平成３０年度	1	450,270	地（知）の拠点大学による方創生推進事業（COC+）主幹校：豊橋工業大学

表１～４　合計額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	82	29,888,581
平成２５年度	91	44,206,813
平成２６年度	65	31,370,474
平成２７年度	30	19,152,304
平成２８年度	36	20,801,786
平成２９年度	44	23,799,408
平成３０年度	41	23,255,337

表１～７（６除く）　合計額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	82	29,888,581
平成２５年度	91	44,206,813
平成２６年度	65	31,370,474
平成２７年度	31	24,152,304
平成２８年度	37	21,833,786
平成２９年度	45	24,495,408
平成３０年度	42	23,705,607

（出典　2019 年度第１回地域共同研究センター委員会資料）

資料４－２－③－（１）－３

「2018 年度追加予算配当」

平成31年度科学研究費助成事業
に関する説明会
平成30年10月2日(火)16:30～

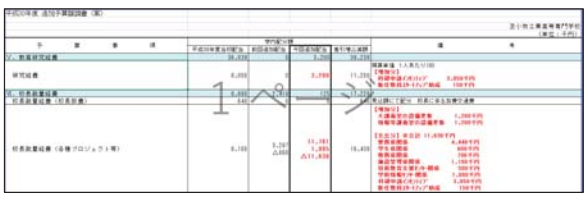
【次　第】
1. 公募内容の変更点等や申請書提出等のスケジュールについて(企画調査係)
2. 科研費の申請にあたって(地域共同研究センター長)
3. 昨年度科研費採択者からの申請書作成のポイント(二橋先生)
【配布資料】
資料1：平成31年度公募における主な変更点等
資料2：平成31年度科研費応募書類・事務用チェックポイント

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料４－２－③－（１）－４

「科研申請インセンティブ配分」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2018 年度第９回運営委員会資料）

資料４－２－③－（１）－５

「2018 年度活動報告表」

地域共同研究センター委員会
活動計画および活動結果 点検表（平成30年度）

平成３１年３月１４日
第６回地域共同研究センター委員会
議 題 1　　資 料 1

平成30年度

	活動計画	活動結果	申し送り事項等
1 中期目標・中期計画に係る計画			
1.（4）教育の質の向上			
教育面での学外・地域社会との連携に関する施策について検討、実施する。	・多くの学生に地元企業への理解を深めてもらうべく、授業の中の地域教育の一環として、自治体と連携した企業見学会を実施する。 ・専攻科及びキャリア教育センターと連携し、教育の質の向上を図るための施策について検討する。	・創造工学Ⅱの中で、苫小牧市と連携した企業見学会を実施した（1/20 機械系、応用化学・生物系、都市・環境系の3つの系に分かれて3社を見学、参加学生数123名）。 ・専攻科1年生による、苫小牧高専地域連携シンポジウム(11/30 グランドホテルニュー王子)における研究発表及び苫小牧高専・苫小牧市・苫小牧商工会議所 連携協定締結記念シンポジウム「地域で取組む課題解決型共同教育」(6/5 苫小牧高専)における成果発表を行った。	
2. 研究および社会連携に関する目標			
教職員の研究促進、外部資金獲得に関する施策について検討、実施する。	科研費等外部資金の獲得、共同研究、受託研究等に繋がる研究活動を支援する。	・10/2に本校内で開催した科学研究費助成事業に関する説明会において、地域共同研究センター長から申請にあたっての心構えや申請書作成方法等に係る説明を行った他、科研費には採択されている様々教員から申請書作成に係るポイントについての説明を行った。	
地域企業等との連携に関する施策について検討、実施する。	苫小牧高専協力会と連携し、本校教員が地元企業への理解を深めるための事業を実施する。	・苫小牧高専協力会からの寄付金を原資とし、地元企業との共同研究に結びつけることを目的とした研究助成を行った（寄付金額：70万円、採択テーマ：2つ）。 ・10/12に苫小牧高専サテライト（C-base）を開設し、苫小牧市や苫小牧商工会議所等の専門家とチームを組み、技術経営相談窓口の運用を行った。	
公開講座、出前授業等の地域連携事業を実施する。	公開講座や出前授業等の地域連携事業を引き続き実施する。	・7～8月及び1月に計12回の公開講座を開催し、延べ90名の参加があった。 ・5～7月に計45回（延べ約1,200名）の出前授業を実施した。 ・このほか、イブニングセミナー（7/23-27・コクヨマ）や科学のとびら（10/8・イオン苫小牧）等の地域連携事業を実施した。	

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2018 年度第 6 回地域共同研究センター委員会資料）

資料４－２－③－（１）－６

「CD 活動報告」

コーディネータ活動計画・報告（平成２９年９月～平成３０年３月）

活動項目
① 教員の研究や外部資金獲得支援
② 技術ニーズ・シーズの把握・掘り起こし・マッチング
③ 高専の成果紹介・広報・ＰＲ活動

赤字：実績報等
青字：本部負担

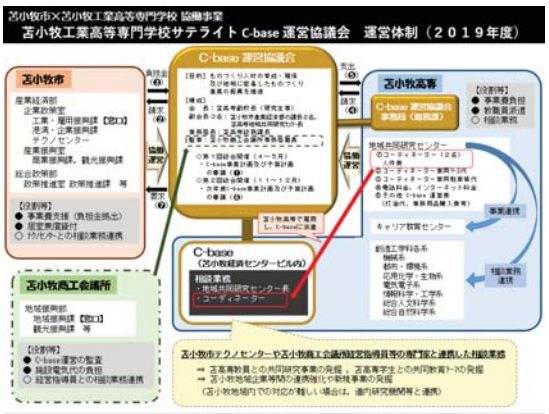
時期	項目番号	活動内容	支出見込額（円）
９月	①	・科研費等外部資金獲得支援のための教員との面談実施（釧路高専、旭川高専）（9/3-9/6）	68,040円（3泊4日、日当：2,200×4、宿泊：10,300×3、交通費：28,360） 63,120円
	①	・科研費等外部資金獲得支援のための教員との面談実施（仙台高専、秋田高専、鶴岡高専）（9/10-9/14）	118,620円（3泊4日、日当：2,200×4、宿泊：10,300×3、交通費：78,320） 75,300円
	①	・科研費等外部資金獲得支援のための教員との面談実施（富山高専、小山高専、宇部高専）（9/20-9/23）	189,780円（3泊4日、日当：2,200×4、宿泊：10,300×3、交通費：160,080） 117,390円
	①②	・企業等との共同研究・受託研究の支援（コーディネート） ※勤務地を拠点とした道内4高専産学官連携活動	（９月末まで機構本部雇用）
	①②	・学官金連携による企業の開発と高専との共同研究支援 ※勤務地を拠点とした道内4高専産学官連携活動	
	②	・高専の広報・PR活動 ※勤務地を拠点とした道内4高専産学官連携活動	
１０月	②	・アグリビジネス創出フェアへの出展（東京ビッグサイト）（10/3-10/5）⇒「地域産食材を利用した食品への冷凍耐性付与の検証とロングライフ化」：苫小牧高専 岩室先生の展示、説明支援	97,200円（2泊3日、日当：2,200×3、宿泊：10,300×2、交通費：60,000） 54,060円
	③	・道内4高専サポートネットワーク会議への参加（函館）（10/6-10/7）⇒各機関取組みの情報収集と交流	31,320円（1泊2日、日当：2,200×2、宿泊：10,300×1、交通費：16,820） 27,110円

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2017 年度第 5 回北海道地区地域共同テクノセンター長会議資料）

資料４－２－③－（１）－７

「協議会運営体制」



（出典　総務課資料）

資料４－２－③－（２）－１

「管理体制等」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料４－２－④－（１）－１

「苫小牧高専協力会」



HOME ＞ 地域連携 ＞ 苫小牧高専協力会

苫小牧高専協力会

苫小牧工業高等専門学校協力会（以下「協力会」）は，地元産業界と本校の緊密な協力関係を形成し，本校の教育研究の一層の充実と振興を図り，併せて，地元産業のための技術開発支援及び技術者再教育などの事業を通して地域社会の発展に寄与することを目的として創設されたものです。
平成５年４月に発足し，主に苫小牧市及び近隣地域の企業が会員として加入しています。

本会の活動

１．教育研究の充実に関する事業
２．地域産業の発展に関する事業
３．産学官の調整に関する事業

※　ご入会についてのお問い合わせは，次の事務局までご連絡願います。

事務局：　苫小牧商工会議所　地域振興部
住所：　〒053-0022
苫小牧市表町1-1-13
TEL：　(0144)33-5454
協力会のホームページはこちら

Iターンuターンシステム

本システムは，北海道へのIUターンを希望する道内４高専の卒業生を対象とした求職及び高専卒を中途採用したい協力会企業のための求人検索システムです。
道内４高専の協力会（※各高専によって会の呼称が違います。）の会員企業の求人情報を本システムに入力することにより，登録した卒業生がその情報にアクセスし自分にあった求人を取得することができます。

協力会企業の方においては，本システムを利用される場合は，新規登録をお願いいたします。

新規登録

（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－④－（１）－２

「苫小牧高専協力会によるイベント」

苫小牧高専地域連携シンポジウム 2018

～開催のご案内～

このたび，苫小牧高専と地域企業等との連携強化を目的として「苫小牧高専地域連携シンポジウム」を開催いたします。
このシンポジウムでは，地域の活性化について考えるパネルディスカッションのほか，高専の教員が取り組んでいる研究成果の発表，専攻科の学生が高専で身につけた知識や教養を活かして取り組んでいる研究発表を実施いたします。
このシンポジウムは初めての試みになりますが，広く一般市民の皆様方から幅ひろいご意見・ご要望等をお聞きすることで，今後の運営につなげていきたいと考えておりますので，多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

≪ 開　催　日　程 ≫

○日　程：平成３０年１１月３０日（金）
○場　所：グランドホテルニュー王子　３階「グランドホール」
（苫小牧市表町４－３－１　℡：０１４４－３６－２３２３）

【プログラム】
◆地域連携シンポジウム
１７：００～　主催者挨拶
１７：１０～　パネルディスカッション(45 分)
テーマ『地域の活性化と苫小牧高専が果たす役割』
地域活性化のための課題認識を共有し，まず何から取り組むべきか，苫小牧高専に何を求めるか等について，それぞれの立場から意見を伺い，会場の皆様とともに討論を進めてまいります。
【パネリスト】
石森　亮　氏（苫小牧港開発株式会社　代表取締役社長）
東　乙比古　氏（一般社団法人北海道化学事業創造センター　代表理事）
古川　真衣　氏（株式会社ダイナックス生産技術本部技術開発部設備設計ム）
大橋　智志　氏（苫小牧高専創造工学科 情報科学・工学系 准教授）
松尾　優子　氏（苫小牧高専創造工学科 都市・環境系　准教授）
苫小牧高専専攻科生２名（予定）
【コーディネーター】
菊田　和重　氏（苫小牧高専地域共同研究センター長）
１７：５５～　教員研究成果発表（協力会助成事業に係る報告）(15 分)
「（仮題）ＡＩによる地域活性化」
苫小牧高専創造工学科 情報科学・工学系　助教　原田　恵雨
１８：１０～　専攻科研究発表(45 分)
※専攻科１年生２６名による発表（ポスターセッション形式で実施）

※　参加無料　※

【申込先】
苫小牧工業高等専門学校総務課企画調査係
E-mail：kikaku@tomakomai-ct.ac.jp
TEL：0144-67-8901/ FAX：0144-67-0814
※１１月１６日（金）までに電話・メールまたはＦＡＸでお名前をご連絡ください。

主催　苫小牧工業高等専門学校・(公財)道央産業振興財団・苫小牧工業高等専門学校協力会
後援　苫小牧市・(一社)北海道機械工業会苫小牧支部・苫小牧工業高等専門学校同窓会櫻前会・苫小牧地域産学官金連携実行委員会

（出典　苫小牧高専地域連携シンポジウム２０１８PRちらし）

資料４－２－④－（１）－３

「“とまなか”で実施するハイブリッド型イノベーション人材の育成」



（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－④－（１）－４

「ＣＯＣ＋北海道」



（出典　ＣＯＣ＋北海道ホームページ）

資料４－２－④－（１）－５

「専攻科における共同教育」

「苫小牧高専 教育・研究フォーラム２０１７」を開催しました

2017年12月07日（木）

１２月５日（火）に、グランドホテルニュー王子にて「苫小牧高専 教育・研究フォーラム２０１７」を開催いたしました。

本フォーラムは本校協力会会員企業を中心とした地域・社会に向けて、本校が取り組む諸活動の発表や報告等を行い、今後の教育研究活動及び産学連携活動の発展につなげるとともに、本校と地域企業の連携強化を図ることを目的として平成１９年度より毎年開催されているものです。

今年度は、基調講演として（株）光合金製作所取締役会長　井上一郎氏をお招きし、「人づくり・ものづくり」と題して、人材育成からものづくりをとりまく経営環境や２１世紀に生き残れる企業づくりと地域づくりについてご講演いただきました。

つづいて、協力会助成事業報告として、本校岩波教授及び研究協力学生より、「バスカップビネガーを使用した教育実践」と題して、協力会助成金を受けながら安平町とも共同研究しているバスカップビネガーの進捗状況についての報告がありました。バスカップビネガーは、フォーラム終了後の交流会にて、実際にアイスクリームとフルーツポンチにかけて試食することもでき、「甘酸っぱくて美味しい」「フルーツポンチに特に合う」と、大変好評を博しました。

事業報告後、パネルセッションとして、専攻科１年生の特別研究発表、八田教授主事・村本専攻科長・須田キャリア教育支援センター長からの創造工学科紹介、岩波教授らからのバスカップビネガーの紹介がありました。

また、同時開催として、今年度のロボコン地区大会での本校出場ロボットの特別展示と資料映像の放映もあり、参加者の目を楽しませていました。

地域社会に対し、普段あまり研究内容を知ってもらう機会のない学生達が、今回このような形で発表することができ、日頃の研究成果を理解していただく大変良い機会になりました。

【(株)光合金製作所　井上氏による基調講演】



【ロボコン地区大会出場ロボット】



【専攻科生によるパネルセッション】



【バスカップビネガーの研究報告】



（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－④－（１）－６

「創造工学Ⅰにおけるジョブトーク」

創造工学の授業で「ジョブトーク」が行われました

2018年12月18日（火）

１１月２９日（木）の「創造工学Ⅰ（１年生）」および１１月２７日（火）の「創造工学Ⅲ（３年生）」において，学生と社会人との座談会「ジョブトーク」が行われました。

本校協力会の企業から３０名ほどの講師にご参加いただき，学生２～５名と座談会形式で仕事の意義ややりがい，将来について学生が熱心にインタビューしていました。

１年生はコミュニケーションの大切さや今後の学生生活の参考になった，３年生はこれから考えなくてはならない進路選択の参考になったという意見が多く聞かれました。

また，講師からは将来の参考になったら嬉しい，真剣に話を聞いてくれていた，そして３年生との座談会では成長を感じたなどの声もありました。













（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－④－（１）－７

「北海道警察サイバーセキュリティ対策本部とのサイバーセキュリティの分野における人材の育成に関する協定」

北海道警察サイバーセキュリティ対策本部と協定を締結しました

2018年03月05日（月）

３月２日（金）に，苫小牧工業高等専門学校は北海道警察サイバーセキュリティ対策本部とのサイバーセキュリティの分野における人材の育成に関する協定」を締結いたしました。

この協定は、サイバーセキュリティの重要性についての理解と新しい脅威に対する適応力を持った社会におけるセキュリティリーダーの育成を目指して結ばれたものです。

今後はサイバーセキュリティ対策本部員の方による教養講義の実施、情報工学の利点を取り入れたサイバーセキュリティに関する実態調査・分析を進めていく予定です。

調印式では、黒川校長から「サイバーセキュリティの分野で活躍できる卒業生を送り出したい」、永嶋本部長からは「苫小牧高専の持つ技術的ノウハウと北海道警察が取り組むサイバー空間での脅威への対策を融合させ、双方の強みを生かした実り多い取り組みとしたい」との抱負が述べられました。



（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－④－（１）－７（続き）

北海道警察サイバーセキュリティ対策本部がサイバーセキュリティに関する講演を行いました

2019年02月20日（水）

１月２５日(金)に情報工学科４年生を対象として，北海道警察サイバーセキュリティ対策本部より「サイバー空間に潜む危険とセキュリティ対策」というテーマで講演会が開催されました。本講演は北海道警察サイバーセキュリティ対策本部との連携協定の一環，および国立高等専門学校情報セキュリティ人材育成事業(K-SEC)の一環として行われたものです。

今後サイバーセキュリティの重要性が高まると見込まれる中，コンピュータウイルスの脅威と犯罪手口，ダークウェブをはじめとした最近のサイバー攻撃の現状やその犯罪捜査について，事例紹介を交えた講演を受けました。

サイバー犯罪の現場に携わる警察官からの臨場感あふれるお話や，サイバー捜査はどのように行うかなどのお話を伺うことができ，学生も非常に興味深く聞き入っていました。また，ネットワークでの攻撃手法とその対策方法などについて理解を深めることが出来ました。



（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－④－（１）－８

「K-SEC 事業」



（出典　SECURITY CONTEST ホームページ）

資料４－２－④－（１）－９

「産学官等との連携協定」

地域連携協定等一覧

No	協定種別	名称等	連携機関等		協定	締結日	終了日	状況
1	地域連携協定	苫小牧高専と苫小牧信用金庫との産学連携基本協定書	苫小牧信用金庫	苫小牧高専	包括	H17.11.1		継続中
2	地域連携協定	苫小牧地域産学官金連携協定（旧名称：苫小牧地域ものづくり産業振興のための産学官金連携協定）	胆振地域の10機関	苫小牧高専	コンソーシアム	H29.11.28 (H19.7.10)		継続中
3	地域連携協定	道内４高専と北海道銀行との産学連携協力に関する協定書	㈱北海道銀行、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H19.12.14		継続中
4	地域連携協定	道内４高専と北洋銀行との産学連携協力に関する協定書	㈱北洋銀行、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H20.9.12		継続中
6	地域連携協定	苫小牧高専と財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）との業務提携契約書	財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）	苫小牧高専	包括	H21.3.16		継続中
8	地域連携協定	苫小牧市テクノセンターと苫小牧高専との相互連携に関する覚書	苫小牧市テクノセンター	苫小牧高専	包括	H21.11.24		継続中
9	地域連携協定	苫小牧高専と北海道立総合研究機構との連携・協力に関する協定書	地方独立行政法人北海道立総合研究機構	苫小牧高専	包括	H23.1.29		継続中
10	地域連携協定	苫小牧高専と独立行政法人科学技術振興機構との特許相談業務に係る確認書	独立行政法人科学技術振興機構知的財産戦略センター、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H23.6.16		継続中
11	地域連携協定	道内４高専と日本技術士会との連携・協力に関する協定書	公益社団法人日本技術士会北海道本部、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H23.11.25		継続中
12	地域連携協定	独立行政法人国立高等専門学校機構と北海道、道内４高専との連携と協力に関する協定書	北海道、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H27.2.24		継続中
13	地域連携協定	北海道における雇用創出・若者定着に係る協定書	17機関（備考欄参照）	道内４高専	コンソーシアム	H27.12.18	R2.3.31	継続中
14	地域連携協定	独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校と苫小牧市との連携及び協力に関する協定書	苫小牧市	苫小牧高専	包括	H30.10.11		継続中
15	地域連携協定	独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校及び苫小牧商工会議所の包括連携協力に関する協定書	苫小牧商工会議所	苫小牧高専	包括	H30.11.28		継続中
26	学術協定	苫小牧工業高等専門学校と室蘭工業大学との間における単位互換に関する協定	室蘭工業大学	苫小牧高専	個別	H16.1.28		継続中
27	学術協定	北海道大学工学部と苫小牧工業高等専門学校と間における相互履修に関する協定	北海道大学工学部	苫小牧高専	個別	H16.3.29		継続中
28	学術協定	北海道大学農学部と苫小牧工業高等専門学校と間における相互履修に関する協定	北海道大学農学部	苫小牧高専	個別	H17.1.31		継続中
29	学術協定	北海道大学と道内４高専との学術交流に関する協定書	北海道大学、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H21.12.15		継続中
30	学術協定	室蘭工業大学と道内４高専との学術交流に関する協定書	室蘭工業大学、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H22.3.29		継続中

資料４－２－④－（１）－９（続き）

地域連携協定等一覧

No	協定種別	名称等	連携機関等		協定	締結日	終了日	状況
31	学術協定	公立はこだて未来大学と道内４高専との学術交流に関する協定書	公立はこだて未来大学、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H22.4.23		継続中
32	学術協定	北見工業大学と道内４高専との学術交流に関する協定書	北見工業大学、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H22.5.25		継続中
33	学術協定	帯広畜産大学と道内４高専との学術交流に関する協定書	帯広畜産大学、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H22.11.29		継続中
34	学術協定	苫小牧工業高等専門学校とEITホークスベイ（ニュージーランド）の間における学術交流協定書	EITホークスベイ（EASTERN INSTITUTE OF TECHNOLOGY, HAWKE BAY）、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H18.8.18		継続中
36	学術協定	苫小牧工業高等専門学校とTHEI（香港）の間における学術交流覚書	THEI（Technological and Higher Education Institute of Hong Kong）	苫小牧高専	包括	H25.12.18		継続中
37	学術協定	苫小牧工業高等専門学校とモンゴル工業技術大学の間における学術交流覚書	モンゴル工業技術大学（Institute of Engineering and Technology）	苫小牧高専	包括	H27.8.31		継続中
38	学術協定	道内４高専と北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部との教育・研究等に関する包括連携協定書	北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H28.8.31		継続中
39	学術協定	カセサート大学（タイ）と北海道地区高専（苫小牧、旭川）との学術交流覚書	カセサート大学（KASETSART UNIVERSITY）、苫小牧高専、旭川高専	苫小牧高専	コンソーシアム	H29.12.14		継続中
40	その他協定	ウェルネット株式会社と北海道内４国立工業高等専門学校並びに北海道新聞社会福祉振興基金との間のウェルネット基金に関する協定書	ウェルネット（株）、（公財）北海道新聞社会福祉振興基金、道内４高専	道内４高専	コンソーシアム	H27.6.24		継続中
41	その他協定	大規模災害等発生時における北海道地区国立大学等間の連携・協力に関する協定書	道内7国立大学、道内4高専、2国立青少年施設	道内４高専	コンソーシアム	H30.2.23		継続中
42	その他協定	苫小牧工業高等専門学校と北海道警察サイバーセキュリティ対策本部とのサイバーセキュリティの分野における人材の育成に関する協定書	北海道警察サイバーセキュリティ対策本部	苫小牧高専	個別	H30.3.2		継続中
43	学術協定	モンゴル高専連盟・第一ブロックとの学術交流覚書	モンゴル高専連盟（MONGOLIAN NATIONAL ASSOCIATION OF COLLEGES OF TECHNOLOGY）、第一ブロック高専	第一ブロック	コンソーシアム	R1.10.7		継続中

（出典　本校総務課資料）

資料４－２－④－（１）－１０

「連携協定による事業の一例」

北洋銀行ものづくりテクノフェアに出展しました

2019年07月31日（水）

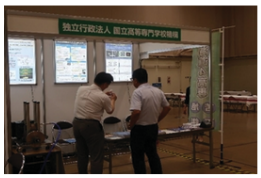
７月２５日（木）に札幌市のアクセスサッポロで「北洋銀行ものづくりテクノフェア２０１９」が開催され，道内４高専（函館高専，苫小牧高専，釧路高専，旭川高専）として出展し，パネル展示等を行いました。

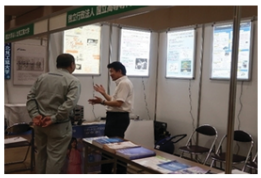
本校からは，菊田教授（機械系）が参加し，「CAES用の高効率酸張機・IoTを活用した連携型CAES」（函館高専川合助教作成）に関するポスター等の展示を行いました。

道内４高専の出展ブースには，道内企業の方など約１００名が訪れ，各種ポスターの具体的な研究紹介や，産学連携活動状況等についての説明を行いました。

複数の企業様から「共同研究等実施に向けて具体的な相談をしたい。」，「協力会企業に申込をしたい。」，「今後技術相談を利用したい。」などの話があり，研究シーズ及び産学連携活動のPRするよい機会になりました。

【道内４高専出展ブースの様子等】







（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－④－（１）－１０（続き）

苫小牧高専・苫小牧市・苫小牧商工会議所　連携協定締結記念シンポジウム「地域で取組む課題解決型共同教育」を開催しました

2019年02月08日（金）

２月５日（火）本校において，「苫小牧高専・苫小牧市・苫小牧商工会議所 連携協定締結記念シンポジウム」を開催いたしました。

このシンポジウムは，本校が昨年１０月に苫小牧市，昨年１１月に苫小牧商工会議所と締結した連携協定を記念して開催したもので，地域企業の方や本校教職員など，約１００名の参加がありました。

第一部では，本校専攻科１年生２６名が，地域の課題解決をテーマに昨年９月から地域企業の協力を得て行ってきた共同教育の成果を発表しました。発表テーマと協力企業は以下のとおりです。

・「地理空間情報の利活用とその普及」（協力企業：（株）タナカコンサルタント）
・「この街をProduce」（協力企業：（株）トートー事務機）
・「レーザーパンチ複合機監視システムの構築」（協力企業：日軽北海道（株））
・「分離マンションにおける外断熱工法の普及検討」（協力企業：上原子建装工業（株））
・「銅合金を用いたB to C商品の開発」（協力企業：（株）光合金製作所）
・「苫小牧高専生が思う，苫小牧の街づくりビジョン」（協力企業：苫小牧商工会議所）

発表後には，苫小牧商工会議所副会頭 石森 亮 氏，苫小牧高専協力会会長 松本 昌昌 氏，苫小牧市産業経済部長 木村 淳 氏，苫小牧高専同窓会楠前会会長 吉田 誠一 氏から講評をいただきました。

企業技術者等のサポートを受けながらグループで課題解決のプロセスを実践できたことは，今後社会に出ていく学生にとって非常に有意義なものとなりました。

第二部では，『「地域で取組む課題解決型共同教育」～教育の有効性と課題～』をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。本校の村本 充 副校長・専攻科長の進行のもと，北海道大学産学協創マネージャー 杉村 逸郎 氏，小樽商科大学地域連携教育担当コーディネーター 小山田 健 氏，室蘭工業大学 副学長/COC+教育改革チームリーダー 永野 宏治 氏，苫小牧市商業振興課長 武田 淳一 氏の４名のパネリストの方々から，各機関で取組んでいる共同教育の現状や課題等について説明があった後，学生への指導方法や本校で実施している共同教育に係る意見等，活発な議論が行われました。

【第一部 学生発表の様子】




【第二部 パネルディスカッションの様子】




（出典　苫小牧高専ホームページ）

資料４－２－⑤－（１）－１

「独立高等専門学校機構教職員就業規則および独立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則」

独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第６号
制定　平成１６年４月１日
一部改正　平成１７年４月２０日
一部改正　平成１８年４月　４日
一部改正　平成１９年３月３０日
一部改正　平成２０年３月２８日
一部改正　平成２３年３月３０日
一部改正　平成２４年９月２７日
一部改正　平成２５年７月２９日
一部改正　平成２７年３月２６日
一部改正　平成３０年３月２９日

（以下，省略）

第６章　研修

（研修）

第４２条　理事長は，教職員に業務に関する必要な知識及び技能を向上させるため，研修に参加することを命ずることができる。
２　理事長は，教職員の研修機会の提供に努めるものとする。
３　教員は，業務に支障のない限り，理事長の承認を受けて，勤務場所を離れて研修を行うことができる。
４　前３項に定めるほか，教職員の研修については，独立行政法人国立高等専門学校機構

教職員の研修に関する規則（機構規則第２８号）の定めるところによる。

（以下，省略）

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則規則（抜粋））

資料４－２－⑤－（１）－１(続き)

独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第２８号
制定　平成１６年４月１日
一部改正　平成２１年３月２４日

（目的）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（以下「教職員就業規則」という。）第４２条第１項，第２項及び第４項並びに独立行政法人国立高等専門学校機構船員就業規則（以下「船員就業規則」という。）第４６条第１項，第２項及び第４項の規定に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の教職員の研修に関し，必要な事項を定めることを目的とする。

（研修の目的）

第２条　研修は，教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識，技能等を修得させ，その他その遂行に必要な教職員の能力，資質等を向上させることを目的とする。

（理事長の責務）

第３条　理事長は，研修計画を立て，実施するに当たっては，研修の効果を高めるために教職員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮しなければならない。
２　理事長は，必要と認められるときは，機構外の研修機関，学校その他の機関に委託して研修を行うことができる。

（執務を通じての研修）

第４条　理事長は，執務を離れての研修を命ずる場合のほか，教職員の監督者をして，教職員に対し，日常の執務を通じて必要な研修を行わせるものとする。
２　理事長は，前項に規定する執務を通じての研修が適切に行われることを確保するため，教職員の監督者に対し，指導その他の措置を講ずるものとする。

（執務を離れての研修）

第５条　理事長は，必要と認めるときは，教職員に日常の執務を離れて専ら研修を受けることを命ずることができる。
２　前項の規定に基づく研修の課業時間（講義，演習，自習等の課業のための時間をいう。以下同じ。）は，次に掲げるところに従い定めるものとする。
一　研修の効果的実施，研修の目的・内容等のため特に必要があると認められる場合，講師又は施設確保のためやむを得ないと認められる場合等を除き，労働時間内に置くものとし，かつ，１日につき７時間４５分以内とする。
二　教職員が１日の執務の全部を離れて研修を受ける場合における当該研修の課業時間

（以下，省略）

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則（抜粋））

資料４－２－⑤－（１）－２

「平成３０年度男女共同参画推進意識啓発講演会の開催案内および講演会参加報告」

【案内】平成３０年度男女共同参画推進意識啓発講演会...

Subject:　【案内】平成３０年度男女共同参画推進意識啓発講演会の実施について
From: 苫小牧高専人事係 <jinji@tomakomai-ct.ac.jp>
Date: 2018/12/27 11:34

平成３０年１２月２６日

該当教職員　各位
（副校長，系長，専攻主任，事務部長，課長，課長補佐，係長，専門職員，
技術長，副技術長，グループ長，男女共同参画推進室長）

校　長

平成３０年度男女共同参画推進意識啓発講演会の実施について

このことについて，高専機構男女共同参画推進担当理事から別添のとおり講演会を実施する旨の通知がありました。
本校においては下記のとおり実施しますので，該当教職員の方はご参加くださいますようお願いいたします。
また，該当教職員の方以外についても，聴講可能ですので，ご興味のある方は当日会場までお越しください。

なお，都合により当日聴講ができない該当教職員の方については，録画データにて聴講いただくこととなりますので，ご了承願います。

記

１．参加対象　副校長，系長，専攻主任，事務部長，課長，課長補佐，係長，専門職員，
技術長，副技術長，グループ長，男女共同参画推進室長，聴講希望者

２．日　時　平成３１年１月１１日（金）１５：２０～１６：３０

３．会　場　中講義室
（ＴＶ会議システムにより全国高専に配信）

４．そ の 他　・聴講後，アンケートにご回答いただきます。
（アンケートフォームによる回答，後日ＵＲＬを配付します。）
・参加対象以外の教職員に対しては後日録画データでの聴講を
案内します。

--
****
〒859-1275　苫小牧市字錦岡443番地
苫小牧工業高等専門学校
総務課人事係　　酒井　俊輔
電話 0144-67-8066
FAX　0144-67-0814
E-mail（係）jinji@tomakomai-ct.ac.jp
（個人）sakai@tomakomai-ct.ac.jp
****

（出典　平成３０年度男女参画推進意識啓発講演会実施の案内メール）

以下のとおり提出します
係内 [澤井] [藤原]

調査票2

平成30年度男女共同参画推進意識啓発講演会　参加結果

3/2 10:15ﾏﾃﾞ

▼提出期日：平成31年3月15日(金)
▼提出先：男女共同参画推進室
▼提出先チケット
https://koala.kosen-k.go.jp/xythoswfs/webui/_xy=e14581954.1=t.HzEaFBAT

項目1. 校長、主事、学科長等の人数をご記入ください。

高専名
苫小牧工業高等専門学校

ドロップダウン(51校)

	総数	内女性数
校長、主事、学科長、専攻科長、専攻長(相当職含)	15	0
部長、課長、課長補佐及び係長(相当職含)	21	0
その他の教職員	1	1

(人力)

項目2. 1月11日の聴講者数をご記入ください。

	総数	内女性数
校長、主事、学科長、専攻科長、専攻長(相当職含)	7	0
部長、課長、課長補佐及び係長(相当職含)	14	0
その他の教職員	3	2

(人力)

項目3. 録画を視聴された方の数をご記入ください。

	総数	内女性数
校長、主事、学科長、専攻科長、専攻長(相当職含)	8	0
部長、課長、課長補佐及び係長(相当職含)	7	0
その他の教職員	0	0

(人力)

<記入に当たっての注意事項>
- ○ 本シートの色つき太枠のセル内に入力をお願いします。
- ○ この調査票は集計の上、聴講者数等を、資料として使用いたします。
- ○ 提出ファイル名を「00(高専No.)【○○高専】」としてください。
- ○ 統合高専(4高専)は2キャンパスの合計、キャンパス毎どちらのかたちでも結構です。
- ○ 技術職員は「部長、課長・・・」の欄に含めてください。
- ○ 学科長は校務分掌において、学科の教員をとりまとめる立場の者を指しています。
  1学科制を置く場合等で、学科長とは別に、分野や系の取りまとめを担当される方
  (従前の学科長に相当される方)を置かれる場合は、その方の人数をカウントください。
- ○ 併任されている方は、1名としてカウントしてください。

(出典　平成３０年度男女参画推進意識啓発講演会の高専機構本部への参加結果報告)

「平成３０年度ハラスメントに関する講演会の開催案内および講演会参加者出欠表」

平成31年2月22日

教職員　各位

校　長

ハラスメント関する講演会の開催について(通知)

本校教職員が学生の対応方法等について，正しい知識を持ち，ハラスメントのない環境を醸成するため，青年期のメンタルヘルスがご専門であり，アカデミックハラスメントに係るご講演も多数行っている札幌学院大学心理学部臨床心理学科准教授 斉藤美香氏を講師に招き講演会を下記のとおり開催することとしましたので，出席方よろしくお願いいたします。
なお，本講演については全教職員が対象となりますので，出席できない場合につきましては，事前に理由(出張:研究発表のため等)を添えて3月8日(金)までに総務課人事係へご連絡願います。

記

日　時　平成31年3月13日(水)14時00分から16時00分
場　所　苫小牧工業高等専門学校大会議室
講　師　斉藤美香氏(札幌学院大学心理学部臨床心理学科准教授)
演　題　「ハラスメント防止について～被害者も加害者も出さないために～」

--
****
〒059-1275 苫小牧市字錦岡443番地
苫小牧工業高等専門学校
総務課人事係　酒井 信輔
電話 0144-67-8066
FAX 0144-67-8814
E-mail(係) jinji@tomakomai-ct.ac.jp
(個人) sakai@tomakomai-ct.ac.jp
****

(出典　平成３０年度ハラスメントに関する講演会の開催案内メール)

教員一覧(30.11.1)　※P:教授　AP:准教授　L:講師　A:助教　52

No	職	氏名	カナ	出欠	備考	No	職	氏名	カナ	出欠	備考
1	[redacted]			○		46				○	
2				×		47				×	
3				○		48				○	
4				○		49				×	
5				×		50				○	
6				×		51				○	
7				○	有期雇用	52				○	
8				○		53				○	
9				○		54				○	
10				×		55				○	
11				○		56				×	
12				×		57				×	
13				○		58				○	
14				×	再雇用(ア)	59				×	
15				○		60				○	有期雇用
16				○		61				○	
17				×		62				○	
18				○		63				○	
19				○		64				○	
20				×		65				○	
21				×		66				×	
22				○		67				×	
23				○		68				○	
24				×		69				×	
25				○		70				×	
26				○		71				○	
27				×		72				×	
28				○		73				○	
29				○		74				○	
30				×		75				×	
31				○		76				○	
32				○		77				○	再雇用(ア)
33				○		78				○	
34				×		79				○	
35				○		80				×	
36				○		81				×	
37				○		82					
38				×	再雇用(ア)	83					
39				×	有期雇用	84					
40				○		85					
41				○		86					
42				○		87					
43				○		88					
44				○		89					
45				×		90					

職員一覧(30.10.1)　25　3

No	氏名	カナ	出欠	備考	No	氏名	カナ	出欠	備考
1	[redacted]		×		1	[redacted]		×	
2			○		2			×	
3			○		3			×	
4			×		4			×	
5			×		5			×	有期雇用
6			×		6			○	
7			×		7			○	
8			○		8			×	
9			×		9			○	
10			○		10			×	
11			×		11			×	
12			○		12			×	
13			○		13			×	
14			○		14			×	
15			○		15			×	
16			○		16			×	
17			○		17			×	
18			○		18				
19			○		19				
20			○		20				
21			×		21				
22			○		22				
23			×		23		教員	52	
24			×		24		事務・技術	25	
25			×		25		事務補佐員	3	
26			×		26		計	80	
27			○		27				
28			×		28				
29			×		29				
30			×		30				
31			○		31				
32			○		32				
33			○		33				
34			○		34				
35			○		35				
36			×		36				
37			○		37				
38			○		38				
39			○		39				
40			○		40				
41			○		41				
42			○		42				
43			×		43				
44					44				
45					45				

(出典　総務課資料)

資料４－２－⑤－（１）－４

「平成３０年度苫小牧高専SD研修会の開催通知および講演会参加者出欠表」

平成３０年８月１０日

教　職　員　各　位

校　　長

「平成３０年度苫小牧高専ＳＤ研修」の実施について（通知）

標記の件について，「自分・他者を動かすコミュニケーション～ものの見方・考え方を知る～（案）」と題したＳＤ研修（講義形式）を実施することといたしました。

本研修は，仕事や他者に向かうあり方について，気づき考えていくことを目的とし，全教員を対象としておりますのが，技術職員・事務職員についても，特段の事情がない限り，ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

なお，ＳＤ研修として実施するため，当日は出席確認をさせていただきますので，出席できない場合につきましては、事前に理由（出張：高専フォーラム出席のため等）を添えて８月１７日（金）までに総務課人事係までご連絡願います。

記

開催日時：平成３０年８月２２日（水）１４：００～１６：３０

開催場所：大講義室

講　　師：株式会社リンククリエイト　山崎　敏文　氏

※当日は出席確認をさせていただきます。

（出典　総務課資料）

資料４－２－⑤－（１）－４（続き）

職員一覧(30.4.1)　※P:教授　AP:准教授　L:講師　A:助教　81

No	職	氏　名	カ　ナ	出欠	理由	備　考	No	職	氏　名	カ　ナ	出欠	理由	備　考
1		[redacted]		×	高専フォーラム参加のため		46		[redacted]		×	高専フォーラム参加のため	
2				○			47				×	[redacted]	
3				×	出張のため		48				○		
4				○			49				○		
5				○			50				○		
6				○		有期雇用	51				×	高専フォーラム参加のため	
7				○			52				○		
8				○			53				×	高専フォーラム参加のため	
9				×	高専フォーラム参加のため		54				○		
10				○			55				○		
11				○			56				○		
12				○			57				×	要入院経費を賄うため	
13				×	休暇のため	共雇用(プ)	58				○		
14				○			59				○		
15				○			60				○		有期雇用
16				×	連絡調整会参加のため		61				×	高専フォーラム参加のため	
17				○			62				×	夏季休暇のため	
18				×			63				○		
19				×	[redacted]		64				○		
20				×	休暇のため		65				○		
21				×			66				○		
22				×	（振替）出張のため		67				○		
23				○			68				○		
24				×	高専フォーラム参加のため		69				×	休暇のため	
25				○			70				○		
26				×	高専フォーラム参加のため		71				×	高専フォーラム参加のため	
27				○			72				×	高専フォーラム参加のため	
28				○			73				○		
29				○			74				○		
30				○			75				×	高専フォーラム参加のため	
31				○			76				○		
32				×	高専フォーラム参加のため		77				○		共雇用(プ)
33				○			78				○		
34							79				○		
35				×	出張のため		80				×	体調不良のため	
36				×	高専フォーラム参加のため		81				×	休暇のため	
37				×	休日のため		82						
38				×	[redacted]	共雇用(プ)	83						
39				×	高専フォーラム参加のため	有期雇用	84						
40				○	[redacted]		85						
41				○			86						
42				○			87						
43				○			88						
44				○			89						
45				○	高専フォーラム参加のため		90						

資料４－２－⑤－（１）－４（続き）

職員一覧(30.4.1)　46

No	氏　名	カ　ナ	出欠	理由	備　考	No	氏　名	カ　ナ	出欠	理由	備　考
1	[redacted]		○			1	[redacted]				
2			×	夏季休暇のため		2					
3			×	[redacted]		3					
4			○			4					
5			○			5					有期雇用
6			×	[redacted]		6					
7			×	[redacted]		7					
8			○			8					
9			×	[redacted]		9					
10			×	夏季休暇のため		10					
11			×	家を不在にされないので		11					
12			○			12					
13			○			13					
14			○			14					
15			○			15					
16			×	[redacted]		16					
17			○			17					
18			○			18					
19			○			19					
20			○			20					
21			×	作業中の為		21					
22			○			22					
23			×	高専フォーラム参加のため		23					
24			×	作業中の為		24					
25			×	病休		25					
26			○			26		教員	49		
27			○			27		事務・技術	24	(内技術9名)	
28			×	休暇のため		28		計	73		
29			×	代休の為		29					
30			○			30					
31			×	代休の為		31					
32			○			32					
33			○			33					
34			○			34					
35			○	途中まで		35					
36			○			36					
37			○			37					
38			×	[redacted]		38					
39			○	[redacted]		39					
40			×	事務室管理のため		40					
41			○			41					
42			×	高専フォーラム参加のため		42					
43			×	[redacted]		43					
44						44					
45						45					

（出典　総務課資料）

資料４－３－①－（１）－１

「学生便覧目次」

目　　次

《教務関係》

1．高等専門学校制度とその特色 …… 1

2．苫小牧工業高等専門学校学則 …… 2

3．苫小牧工業高等専門学校学生準則 …… 33

4．苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価
並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程 …… 42

5．苫小牧工業高等専門学校における
文部科学大臣が定める学修に基づく単位認定に関する規程 …… 46

6．苫小牧工業高等専門学校学生交流に関する規則 …… 57

7．苫小牧工業高等専門学校学外実習の履修に関する内規 …… 59

《学生生活》

1．学生生活の心得 …… 63

2．学　生　証 …… 65

3．工場見学旅行等 …… 65

4．奨学金制度 …… 66

(1)（独）日本学生支援機構奨学生 …… 66

(2) その他の奨学生（地方公共団体等） …… 67

5．旅客運賃割引証（学割） …… 68

6．災害共済制度 …… 69

（独）日本スポーツ振興センター災害共済給付制度 …… 69

7．授業料・寄宿料の免除制度 …… 70

8．保健衛生・福利施設 …… 70

(1) 保　健　室 …… 70

(2) 学生相談室 …… 71

(3) 食堂・売店 …… 71

(4) 課外活動施設 …… 71

9．キャリア教育センター …… 73

10. 学生会の目的及びクラブ・同好会 …… 73
11. 諸納金一覧 …… 74
12. 諸手続き一覧 …… 75
13. 学生の要望に関する手続き …… 80

〈学術情報センター〉
学術情報センターの概要と案内 …… 81
１．図　書　館 …… 82
(1) 図書館の施設・設備 …… 82
(2) 図書館の利用について …… 82
２．視聴覚室 …… 86
３．情報処理施設 …… 87
(1) 情報処理施設の概要 …… 87
(2) 教育用電子計算機システム …… 87
(3) 情報処理施設の利用方法について …… 88
(4) ネットワーク利用マナーについて …… 91

〈学　生　寮〉
１．寮生心得 …… 93
２．蒼冥寮寮歌 …… 95
３．学生寮平面図 …… 97

《関係諸規則》
１．独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料等の
免除及び徴収猶予の取扱いに関する規則 …… 99
２．苫小牧工業高等専門学校施設・設備使用内規 …… 106
(1) 体育施設使用細則 …… 110
(2) 体育施設使用心得 …… 111
(3) 福利施設使用細則 …… 112
(4) 鵬翔会館使用心得 …… 114
(5) 合宿施設及び音楽系サークル施設使用細則 …… 115

(6) 合宿施設使用心得 …… 117
(7) 音楽系サークル施設使用心得 …… 119
３．苫小牧工業高等専門学校学生の自動車等運転免許取得に関する規程 …… 120
４．苫小牧工業高等専門学校学生の自動車等通学に関する規程 …… 121
５．苫小牧工業高等専門学校学生の表彰に関する内規 …… 124
６．苫小牧工業高等専門学校学生相談室規程 …… 128
７．苫小牧工業高等専門学校におけるハラスメントの
防止等に関する要項 …… 130
８．学生会行事等についての内規（暫定） …… 134
９．学生会規約 …… 135
10. クラブ・同好会細則 …… 144
11. 苫小牧工業高等専門学校寄宿舎規則 …… 147
12. 苫小牧工業高等専門学校寮生準則 …… 152
13. 寮生会会則 …… 160

〈本校の沿革及び施設等〉
１．沿革の概要 …… 169
２．学校運営組織 …… 172
３．施設の概況 …… 173
４．校舎平面図 …… 175
５．校内配置図 …… 179
６．位　置　図 …… 180

（出典　平成３１学生便覧）

「学生便覧奥付（学校の目的）」

教育理念・学習目標等

教育理念

豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

本科学生の学習目標

Ⅰ　**人間性：**正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。

Ⅱ　**実践性：**創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。

Ⅲ　**国際性：**世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。

本校の学習・教育目標

(A) **教養：**地球的視点で自然や環境を考え、歴史、文化、社会などについて広い視野を身につける。

(B) **倫理と責任：**技術者としての倫理観や責任感を身につける。

(C) **コミュニケーション：**日本語で記述、発表、討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。

(D) **工学基礎：**数学、自然科学、情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。

(E) **継続的学習：**技術者としての自覚を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。

(F) **専門の実践技術：**ものづくりに関係する工学分野のうち、得意とする専門領域を持ち、その技術を実践できる能力を身につける。

(G) **複合領域の実践技術：**他の専門領域も理解し、自身の専門領域と複合して考察し、境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける。

(H) **社会と時代が求める技術：**社会や時代が要求する技術を認識し、それらを応用してシステム化や製品化するデザイン能力、開発能力、とりまとめ能力を身につける。

(I) **チームワーク：**自身の専門領域の技術者とは勿論のこと、他領域の技術者ともチームを組み、計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。

（出典　平成３１学生便覧）

「学生便覧（専攻科）目次」

目　　次

１．本校の教育の目的・目標等と点検項目（専攻科） …… 1
２．各専攻の目的 …… 5
３．日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定 …… 5
４．教育課程と履修方法 …… 6
（１）教育課程
（２）単位数及び時間数
（３）履修計画
（４）学外研修
（５）再履修
（６）他専攻の授業科目の履修
（７）他の教育施設で修得した科目の単位認定
（８）大学との単位互換制度
５．試験 …… 7
６．単位の認定 …… 8
７．修了要件 …… 8
８．学位について …… 8
９．学生生活関係 …… 8
（１）学生生活における留意事項
（２）諸証明の発行及び手続き
（３）学生旅客運賃割引証の取扱い
（４）経済的援助
（５）災害共済制度
（６）教育補助業務等制度（ティーチング・アシスタント、クラブユース・アシスタント）
（７）学生の要望を取り入れるシステム
（８）学会発表旅費補助
（９）障害を理由とする差別の解消の推進に関する相談窓口について
10．施設利用関係 …… 10
（１）保健室・学生相談室
（２）福利厚生施設
（３）学術情報センター
11．資料
○ 苫小牧工業高等専門学校学則
○ 苫小牧工業高等専門学校学生準則
○ 苫小牧工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修に関する規程
○ 苫小牧工業高等専門学校専攻科学外研修の履修に関する規則
○ 独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料等の免除及び徴収猶予の取扱いに関する規則
○ 苫小牧工業高等専門学校学生相談室規程
○ 苫小牧工業高等専門学校におけるハラスメントの防止等に関する要項
○ 苫小牧工業高等専門学校専攻科学生の自動車等による通学に関する規則
○ 苫小牧工業高等専門学校「環境・生産システム工学」教育プログラムの履修及び修了に関する規程

（出典　平成３１学生便覧（専攻科））

資料４－３－①－（１）－４

「学校要覧目次」

01 本校の目的 …… 2
02 沿　　革 …… 3
03 組　　織 …… 4
　組織図、教職員現員、役職員、歴代校長、名誉教授
04 学 校 行 事 …… 6
05 創造工学科 …… 7
06 教 育 課 程 …… 9
07 専　攻　科 …… 15
08 教 員 一 覧 …… 17
09 実験・実習の設備 …… 20
10 施 設 案 内
　学術情報センター …… 22
　地域共同研究センター …… 23
　キャリア教育センター …… 24
　技術教育支援センター …… 24
　福利施設 …… 25
　学生寮 …… 25
11 学　　生 …… 26
　学生数、学生出身地分布、入学志願者数、奨学生数
12 就　　職 …… 27
　年度別求人数、進路選択、主な就職先
13 大学等進学 …… 28
　大学等進学者数、学科別進学者数、大学院進学者数、専攻別進学者数
14 地域社会との連携及び産業界との協力 …… 29
15 収入・支出 …… 29
16 施　　設 …… 30
　土地、建物
17 建物配置図 …… 31

（出典　平成３１学校要覧目次）

資料４－３－①－（１）－５

「学校要覧（教員一覧）」

職名学位	氏名	担当系	主な担当科目	主な研究テーマ
准教授 博士（工学）	赤塚　元紀	電気電子系	電気回路Ⅱ、エネルギー変換工学、電力システム工学	再生可能エネルギーの電力系統に対する影響
准教授 博士（工学）	浅見　真樹	機械系	工業力学Ⅰ、創造工学Ⅱ・Ⅲ、機械設計製図Ⅳ、材料システム工学	硬質セラミックス材料開発
教授 博士（工学）	阿部　司	情報科学・工学系	計算機システム、計算機システムⅡ、情報通信Ⅰ、情報通信Ⅱ、オペレーティングシステムⅡ	情報通信、組込みシステム
准教授 博士（工学）	有馬　隆司	総合自然科学系	数学、物理	非平衡熱力学、流体数理
准教授 博士（工学）	池田　慎一	機械系	加工学、機械設計製図Ⅰ、創造工学Ⅱ	チタン合金の切削加工
特命助教	石川　愛弓	総合人文科学系	英語、英会話、異文化コミュニケーション	アメリカ文学
准教授 博士（工学）	伊藤　芳浩	電気電子系	電子回路Ⅰ、電気電子計測、電気工学概論、電磁波工学、光エレクトロニクス	高速カメラに関する研究
教授 博士（工学）	稲川　清	情報科学・工学系	電子工学、電子工学Ⅱ、回路理論Ⅰ、創造工学Ⅱ、情報工学実験、情報科学・工学実験Ⅱ	ハードウェア設計、SAWデバイス設計
教授 博士（農学）	岩波　俊介	応用化学・生物系	微生物工学、発酵・醸造化学	生の機能の食品加工や環境浄化への応用研究
教授 博士（工学）	上田　茂太	電気電子系	電気回路Ⅰ、電気機器Ⅱ、システム工学	モータドライブ制御、風力発電、太陽光発電
准教授 博士（理工学）	宇津野国治	応用化学・生物系	生化学、分子生物学	DNA高次構造の研究
准教授	大島　和浩	応用化学・生物系	化学Ⅰ、創造工学Ⅰ、機器分析、化学物質安全学	クリックケミストリーを用いた新規多糖誘導体合成
准教授 博士（工学）	大西　孝臣	情報科学・工学系	論理回路Ⅰ、論理回路Ⅱ、信号処理Ⅰ、情報科学・工学実験Ⅰ、情報工学セミナー	統合型学習環境
准教授 博士（工学）	大橋　智志	情報科学・工学系	創造工学Ⅰ、システムソフトウェア、情報工学実験、情報科学・工学実験Ⅰ、情報科学・工学実験Ⅱ	医用画像処理、生体信号解析、福祉工学
嘱託教授	沖本　正憲	総合人文科学系	英語	身体性、身体役割、擬人化
准教授	奥田　幸生	応用化学・生物系	分析化学Ⅱ・Ⅲ	セメント・コンクリートの化学的キャラクタリゼーション
助教 博士（工学）	奥山　由	電気電子系	電気磁気学Ⅰ、先端技術特論、医療・福祉	放電プラズマに関する研究
准教授 博士（工学）	樫村　奈生	応用化学・生物系	分析化学、有機化学、物理化学	有機資源の改質プロセスの開発
准教授 博士（文学）	片山ふゆき	総合人文科学系	国語	古典文学研究
教授 博士（工学）	加藤　初儀	総合自然科学系	物理基礎、物理、科学史、熱統計力学	層状構造物中の波動現象
教授 博士（工学）	谷田　和雄	機械系	工業熱力学、伝熱工学、機械設計製図Ⅱ、機構運動、寒地環境工学特論	熱エネルギー変換
准教授 博士（工学）	工藤　彰洋	電気電子系	電子回路Ⅱ、ディジタル回路	高臨場感音響再生
教授 技術士	東山　昌樹	都市・環境系	水理学Ⅰ、環境工学Ⅰ・Ⅱ、環境衛生工学、建設マネジメント	上下水道汚泥のリサイクル、減量化について
教授 博士（理学）	甲野　裕之	応用化学・生物系	物理化学、生物資源化学	機能性多糖の合成と応用に関する研究

（出典　平成３１年度学校要覧抜粋）

資料４－３－①－（１）－６

「researchmap による教員業績の公表」



（以下略）

（出典　researchmap ホームページ）

資料４－３－①－（１）－７

「Web シラバスによる授業方法、授業計画の公表」



（以下略）

（出典　高専 Web シラバス）

資料４－３－①－（２）－１

「教員会議における目的・三つの方針の周知」

平成３１年度　第１回　教員会議記録

◆日　　時　　平成３１年４月１日（月）１５時３０分～１６時３０分
◆場　　所　　大講義室
◆出 席 者　　別紙のとおり（７５名）
◆欠 席 者　　別紙のとおり（　３名）

始めに校長から，４月１日付けで着任した事務職員４名の紹介があった。
続いて，各副校長から，新年度の開始にあたり挨拶があった。
その後，校長から，本日の記録確認者に赤塚教員，沖本教員を指名した。

議　　題１．その他
なし。

報告事項１．本校の目的について【報告事項１資料】
黒川校長より，資料に基づき，各目的・ポリシー等について，年度当初なので教職員は再度確認してほしい旨説明があった。

報告事項２．平成３１年度入学式について【報告事項２資料】
事務担当より，資料に基づき，入学式の概要について，次のとおり報告があった。
・式次第等については，昨年と同様である。
・教職員は９時25分までに着席すること。
・駐車場所について，来校する保護者のため，舗装してあるスペースを空けてＨ棟裏，アーチェリー場等に駐車すること。

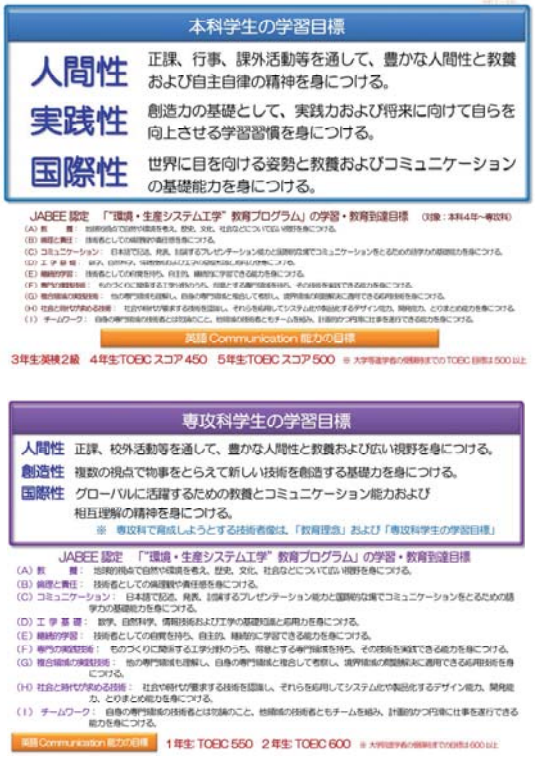
報告事項３．情報の持ち出しについて【資料無】
黒川校長より，情報の持ち出しについて，持ち出し例外についての正式な承認は今月開催の情報セキュリティ管理委員会で行うが，教職員は今一度関係規則等を確認し、個人情報について，十二分な管理をしてほしい旨報告があった。

（以下略）

（出典　平成３１年度第１回教員会議資料）

資料４－３－①－（２）－２

「ホームルーム掲示による学習目標の周知」



（出典　平成３１年度教務係作成資料）

資料５－１－①－（１）－１

「カリキュラム一覧表」

一般科目

区分		授業科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	国語	国語	I	3	3					
		国語	II	3		3				
		国語	III	2			2			
		修得単位計		8	3	3	2	0	0	
	社会	地理		2	2					
		歴史		2		2				
		倫理・社会		2		2				
		政治・経済		2			2			
		修得単位計		8	2	4	2	0	0	
	数学	数学	IA	4	4					
		数学	IB	3	3					
		数学	IIA	3		3				
		数学	IIB	3		3				
		数学	IIIA	4			4			
		数学	IIB	2			2			
		修得単位計		19	7	6	6	0	0	
	理科	化学	I	2	2					
		化学	II	2		2				
		物理基礎		2	2					
		物理	I	2		2				
		物理	II	2			2			
		地学・生物	I	1	1					
		修得単位計		11	5	4	2	0	0	
	保体	保健		1	1					
	健育	体育	I	2	2					
		体育	II	2		2				
		体育	III	2			2			
		修得単位計		7	3	2	2	0	0	
	外国語	英語	IA	3	3					
		英語	IB	2	2					
		英語	IIA	3		3				
		英語	IIB	2		2				
		英語	IIIA	3			3			
		英語	IIB	2			2			
		英語	IVC	4				4		
		英語	VC	4					4	
		修得単位計		23	5	5	5	4	4	
修得単位計				76	25	24	19	4	4	
選択科目	芸術	音楽		1	1					
		美術		1	1					1科目1単位修得
		書道		1	1					
		開設単位計		3	3	0	0	0	0	
		修得単位計		1	1	0	0	0	0	
	教養I	法学		2				2		
		哲学		2				2		
		経済学		2				2		
		日本史		2				2		1科目2単位以上修得
		社会学		2				2		
		第二外国語A		2				2		
		第二外国語B		2				2		
		特別学修I		2				2		
		開設単位計		16	0	0	0	(16)	(16)	
		修得単位計		2以上	0	0	0	2以上		
	教養II	日本事情		2				2		
		英会話		2				2		
		英語特論A		2				2		
		英語特論B		2				2		1科目2単位以上修得
		日本語コミュニケーション		2				2		
		数学特別講義		2				2		
		現代科学特論		2				2		
		特別学修II		2				2		
		開設単位計		16	0	0	0	(16)	(16)	
		修得単位計		2以上	0	0	0	2以上		
	開設単位計			35	3	0	0	(32)	(32)	
	修得単位計			5以上	1	0	0	4以上		
開設単位合計				111	28	24	19	(36)	(36)	
修得単位合計				81以上	26	24	19	12以上		

（次ページへ続く）

資料５－１－①－（１）－１（続き）

専門科目（機械系）

区分		授業科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	全学共通	創成工学I		1	1					
		創成工学II		2		2				
		創成工学III		2			2			
		情報技術基礎		2	2					
		応用数学I		2				2		
		応用数学II		2				2		
		応用物理		2				2		
		プレゼン基礎研究		1				1		
		修得単位計		17	6	2	2	7	0	
	機械応用	情報技術		1		1				
		プログラミング		2				2		
		応用力学I		1		1				
		応用力学II		2			2			
		材料力学I		2			2			
		材料力学II		2				2		
		機械材料学I		1			1			
		機械材料学II		2				2		
		機械システム論		2				2		
		熱工学I		2				2		
		熱工学II		2					2	
		流体工学I		2				2		
		流体工学II		2					2	
		制御工学I		2			2			
		制御工学II		2				2		
		機械力学I		2				2		
		機械設計製図I		3		3				
		機械設計製図II		3			3			
		機械設計製図III		3				3		
		機械設計製図IV		2					2	
		機械工学実験I		3				3		
		機械工学実験II		3					3	
		機械工学安全管理		1		1				
		機械工学インターンシップ		1				1		
		修得単位計		50	6	8	12	22	2	
	機械コース	創成工学		2					2	
		卒業研究		8					8	
		修得単位計		10	0	0	0	0	10	
	フロンティアコース	インターンシップ		2					2	
		プロジェクトI		2					2	
		プロジェクトII		2					2	
		国際コミュニケーション		4					4	
		フロンティア研究		4					4	
		修得単位計		12	0	0	0	2	10	
修得単位計				72	6	10	14	31	11	
機械コース修得単位計				60	6	10	14	29	1	
フロンティアコース修得単位計				84	6	10	14	31	19	
選択科目	全学共通	機械システム概論		1				1		
		地球環境科学概論		2				2		
		生体・農生物学概論		2				2		
		安全工学概論		2				2		機械コース履修者は、2科目4単位以上修得
		国際コミュニケーション		2				2		
		先端デザイン工学		2				2		フロンティアコース履修者は、医療・福祉、デザインとCAD、エネルギー概論、応用数学概、応用数学IV、応用物理Ⅱの中から2科目4単位以上修得
		デザインとCAD		2				2		
		エネルギー概論		2				2		
		応用数学III		2				2		
		応用数学IV		2				2		
		応用物理Ⅱ		2				2		
		開設単位計		24	0	0	0	(24)	(24)	
		修得単位計		6以上	0	0	0	6以上		
	機械コース	機械システム設計		2					2	
		計測工学		2					2	1科目2単位以上修得
		材料工学		2					2	
		機械工学概論（機械工学）		2				2(2)		
		開設単位計		10	0	0	0	(6)	(6)	
		修得単位計		2以上	0	0	0	2以上		
		開設単位計		33	0	0	0	(27)	(32)	
		修得単位計		6以上	0	0	0	6以上		
開設単位合計				105	6	10	14	(56)	(62)	
機械コース修得単位合計				86以上	6	10	14	36以上		
フロンティアコース修得単位合計				96以上	6	10	14	36以上		

（次ページへ続く）

資料５－１－①－（１）－１（続き）

専門科目（都市・環境系）

区分		授業科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	全学共通	創成工学I		1	1					
		創成工学II		2		2				
		創成工学III		2			2			
		情報技術基礎		2	2					
		応用数学I		2				2		
		応用数学II		2				2		
		応用物理		2				2		
		プレゼン基礎研究		1				1		
		修得単位計		17	4	2	2	7	0	
	都市・環境応用	情報処理		1		1				
		都市・環境プログラミング		2				2		
		構造設計計画		2			2			
		測量学I		2				2		
		構造力学I		2			2			
		構造力学II		2				2		
		構造力学III		2					2	
		水理学I		2			2			
		水理学II		2				2		
		地盤工学I		2			2			
		コンクリート構造学I		2				2		
		土質力学		2				2		
		都市計画		2				2		
		計測システム工学		2					2	
		地盤工学II		2					2	
		測量学実習I		1		1				
		測量学実習II		1			1			
		都市・環境設計製図I		2		2				
		都市・環境設計製図II		2			2			
		都市・環境設計製図III		1				1		
		都市・環境設計製図IV		1					1	
		都市・環境工学実験I		2			2			
		都市・環境工学実験II		3				3		
		卒業研究		8					8	
		修得単位計		51	0	5	12	20	9	
	都市・環境コース	フィールドセッション		1				1		
		環境デザイン		2					2	
		卒業研究		8					8	
		修得単位計		11	0	0	0	1	10	
	フロンティアコース	インターンシップ		2					2	
		プロジェクトI		2					2	
		プロジェクトII		2					2	
		国際コミュニケーション		2					2	
		フロンティア研究		4					4	
		修得単位計		12	0	0	0	0	12	
修得単位計				74	6	10	14	21	23	
都市・環境コース修得単位計				62	6	10	14	20	12	
フロンティアコース修得単位計				86	6	10	14	21	35	
選択科目	全学共通	機械システム概論		1				1		
		地球環境科学概論		2				2		
		生体・農生物学概論		2				2		
		安全工学概論		2				2		都市・環境コース履修者は、1科目4単位以上修得
		国際コミュニケーション		2				2		
		先端デザイン工学		2				2		フロンティアコース履修者は、医療・福祉、デザインとCAD、エネルギー概論、応用数学概、応用数学IV、応用物理Ⅱの中から2科目4単位以上修得
		デザインとCAD		2				2		
		エネルギー概論		2				2		
		応用数学III		2				2		
		応用数学IV		2				2		
		応用物理Ⅱ		2				2		
		開設単位計		24	0	0	0	(24)	(24)	
		修得単位計		6以上	0	0	0	6以上		
	都市・環境コース	水資源工学		2					2	
		環境・衛生工学		2					2	都市・環境コース履修者は、1科目4単位以上修得
		コンクリート構造学II		2					2	
		交通システム工学		2					2	フロンティアコース履修者は、全系共通選択と合わせて4科目12単位以上修得
		景観デザイン		2					2	
		地震工学		2					2	
		特別学修（都市・環境工学）		1				1		
		開設単位計		14	0	0	0	(3)	(13)	
		修得単位計		6以上	0	0	0	1以上		
		開設単位計		33	0	0	0	(27)	(32)	
		修得単位計		12以上	0	0	0	7以上		
開設単位合計				105	6	10	14	(56)	(62)	
都市・環境コース修得単位合計				86以上	6	10	14	36以上		
フロンティアコース修得単位合計				96以上	6	10	14	36以上		

（次ページへ続く）

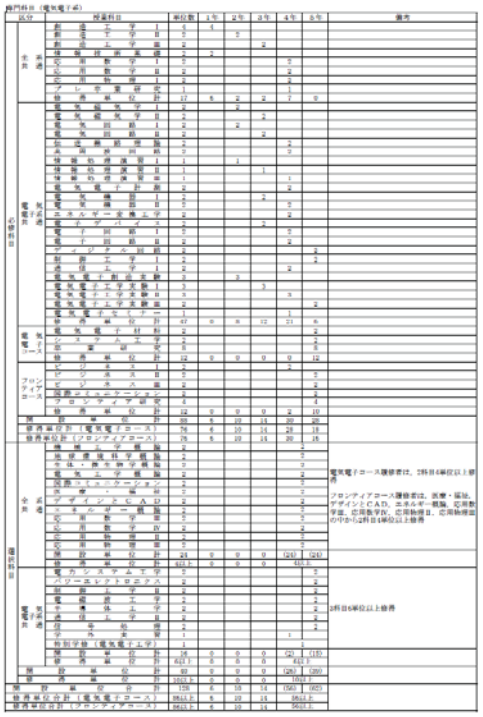
資料５－１－①－（１）－１（続き）

専門科目（応用化学・生物系）

区分		授業科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	全学共通	創成工学I		1	1					
		創成工学II		2		2				
		創成工学III		2			2			
		情報技術基礎		2	2					
		応用数学I		2				2		
		応用数学II		2				2		
		応用物理		2				2		
		プレゼン基礎研究		1				1		
		修得単位計		17	6	2	2	7	0	
	応用化学・生物共通	情報処理		1		1				
		応用化学プログラミング		2				2		
		物質化学I		1		1				
		物質化学II		2			1	1		
		物質化学III		2				2		
		物質化学IV		1			1			
		生物化学I		2				2		
		生物化学II		2				2		
		生物化学III		1			1			
		生物化学IV		1				1		
		応用化学実験I		3				3		
		応用化学実験II		4					4	
		物質化学実験		1			1			
		生物化学実験		1				1		
		物質生物化学実験		1					1	
		卒業研究		8					8	
		修得単位計		43	8	8	13	15	10	
	機能材料コース	機械材料		2				2		
		応用生物化学		2					2	
		機能材料実験		6					6	
		卒業研究		8					8	
		修得単位計		18	0	0	0	2	16	
	食品・バイオコース	食品・生物化学概論		2				2		
		食品・生物化学実験		6				6		
		卒業研究		8					8	
		修得単位計		16	0	0	0	8	14	
	フロンティアコース	インターンシップ		2					2	
		プロジェクトI		2					2	
		プロジェクトII		2					2	
		国際コミュニケーション		2					2	
		フロンティア研究		4					4	
		修得単位計		12	0	0	0	0	12	
修得単位計				89	8	8	13	25	35	
機能材料コース修得単位計				77	8	8	13	17	31	
食品・バイオコース修得単位計				75	8	8	13	23	23	
フロンティアコース修得単位計				101	8	8	13	25	39	
選択科目	全学共通	機械システム概論		1				1		
		地球環境科学概論		2				2		
		生体・農生物学概論		2				2		
		安全工学概論		2				2		機能材料コース及び食品・バイオコース履修者は、2科目4単位以上修得
		国際コミュニケーション		2				2		
		先端デザイン工学		2				2		フロンティアコース履修者は、医療・福祉、デザインとCAD、エネルギー概論、応用数学概、応用数学IV、応用物理Ⅱの中から2科目4単位以上修得
		デザインとCAD		2				2		
		エネルギー概論		2				2		
		応用数学III		2				2		
		応用数学IV		2				2		
		応用物理Ⅱ		2				2		
		開設単位計		24	0	0	0	(24)	(24)	
		修得単位計		6以上	0	0	0	6以上		
	応用化学・生物学科	物質生物化学概論		1					1	全系共通選択と合わせて2科目4単位以上修得
		応用化学・生物実験		2					2	
		開設単位計		3	0	0	0	(2)	(3)	
		修得単位計		2以上	0	0	0	2以上		
		開設単位計		33	0	0	0	(27)	(32)	
		修得単位計		12以上	0	0	0	7以上		
開設単位合計				105	6	10	14	(56)	(62)	
機能材料コース修得単位合計				86以上	6	10	14	36以上		
食品・バイオコース修得単位合計				84以上	6	10	14	36以上		
フロンティアコース修得単位合計				98以上	6	10	14	36以上		

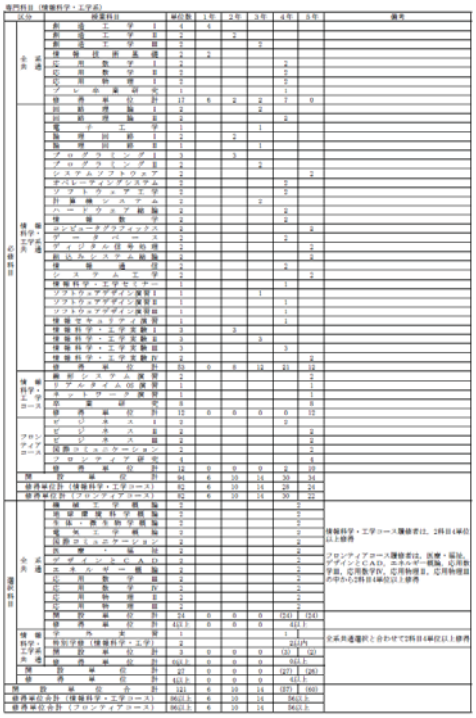
（次ページへ続く）

資料５－１－①－（１）－１（続き）



（次ページへ続く）

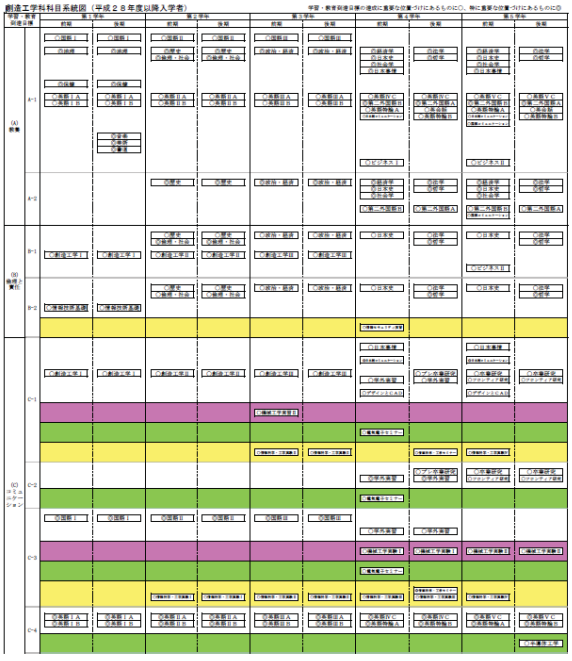
資料５－１－①－（１）－１（続き）



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

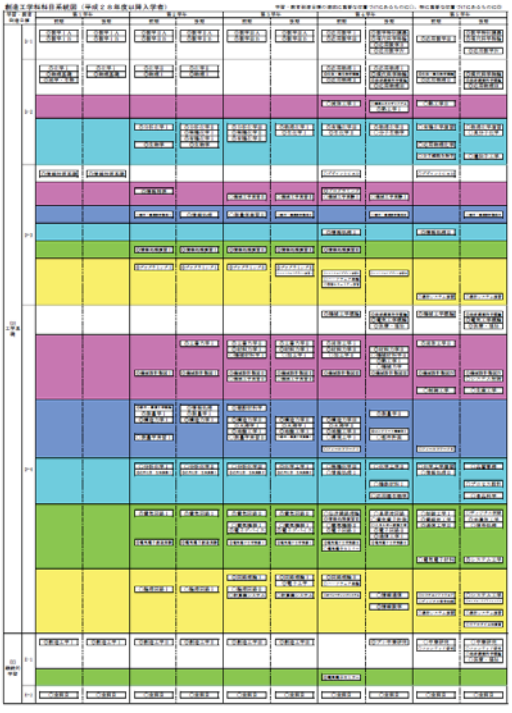
資料５－１－①－（１）－２

「科目系統図」



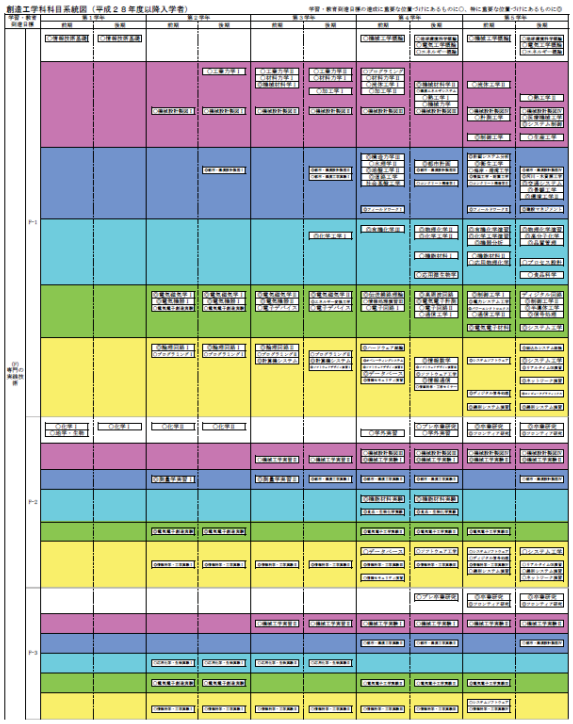
（次ページへ続く）

資料５－１－①－（１）－２（続き）



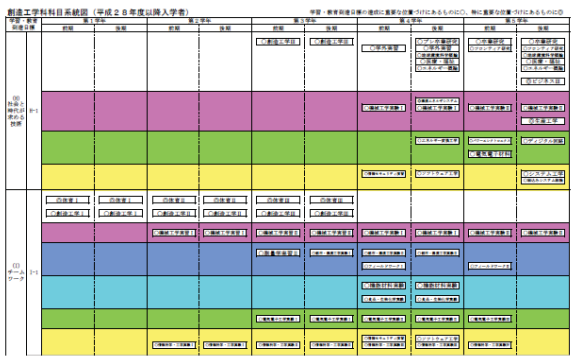
（次ページへ続く）

資料５－１－①－（１）－２（続き）



（次ページへ続く）

資料５－１－①－（１）－２（続き）



（出典　学生課資料）

資料５－１－①－（２）

「一般選択希望調査について」

一般選択希望調査について

総合人文科学系長　松田（C303室）
総合自然科学系長　中野（J421室）

１．教育課程表より抜粋

区分		授業科目	単位数	4年	5年	備考
選択科目	教養Ⅰ	倫理	2	2		1科目2単位以上修得
		哲学	2	2		
		経済学	2	2		
		日本史	2	2		
		社会学	2	2		
		第二外国語A	2	2		
		第二外国語B	2	2		
		特別学修Ⅰ	2	2		
		開設単位計	16	(16)	(16)	
		修得単位計	2以上	2以上		
	教養Ⅱ	日本事情	2	2		1科目2単位以上修得
		英会話	2	2		
		英語特論A	2	2		
		英語特論B	2	2		
		日本語コミュニケーション	2	2		
		数学特別講義	2	2		
		現代科学特論	2	2		
		特別学修Ⅱ	2	2		
		開設単位計	16	(16)	(16)	
		修得単位計	2以上	2以上		
開設単位計			35	(32)	(32)	
修得単位計			5以上	4以上		
開設単位合計			111	(36)	(36)	
修得単位合計			51以上	12以上		

２．開講科目と開講時期
各科目の開講時期は次の表の通りです。第４学年・第５学年との合同授業で実施します。

4･5年前期	教養Ⅰ	哲学 社会学 第二外国語A
	教養Ⅱ	日本事情 英会話 英語特論A 日本語コミュニケーション

4･5年後期	教養Ⅰ	法学 経済学 日本史 第二外国語B
	教養Ⅱ	英語特論B 数学特別講義 現代科学特論

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生課保存資料）

資料５－１－①－（３）

「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第４章　進級及び卒業の認定

（進級及び卒業の認定）
第13条　進級及び卒業の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

（進級認定）
第14条　次の各号のすべてに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認める。
一　学則別表第２及び第３に定める科目を履修していること。
二　所定の単位を修得していること。
三　特別活動が履修の認定の要件を満たしていること。
２　前項第二号に該当しない者で，次の各号のすべてに該当する場合は，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認めることができる。
一　実験・実習及び設計製図等の主として実技を伴うものについては，当該学年で単位を修得していること。
二　学則別表第２及び第３に定める科目のうち，未修得単位数の累積（学則別表第２に定める選択科目の未修得単位数を除く。）が次の表に定める単位数以下であり，かつ，第３学年及び第４学年にあっては，当該下位学年での所定の単位を修得していること。

学　年	１年	２年	３年	４年	５年
未修得単位数	8	8	6	4	0

三　未修得の科目の学業成績の評価が，第１学年及び第２学年にあっては40点以上，第３学年及び第４学年にあっては50点以上であること。
３　前２項の要件を満たさない者で，特別な理由があると認められた場合には，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認めることができる。

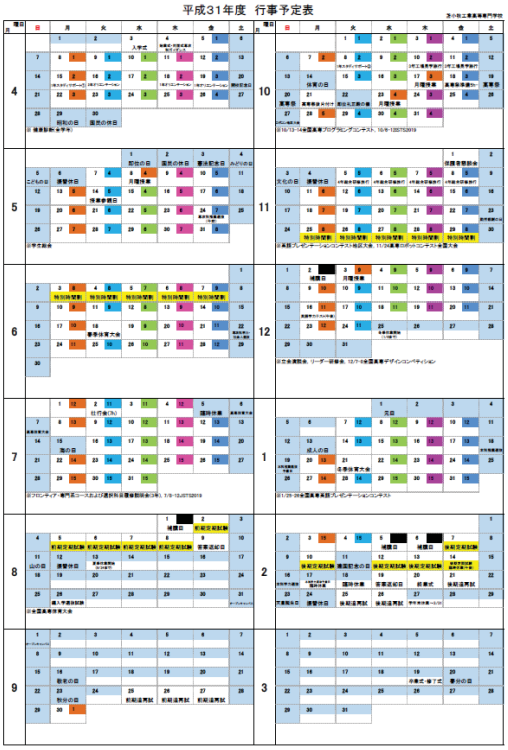
～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料５－１－①－（４）

「平成３１年度行事予定表」

平成31年度　行事予定表



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料５－１－①－（５）

「平成 31 年度前期授業時間割（抜粋）」



（出典　平成３０年度第２７回教務委員会資料）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

資料５－１－②－（１）－１

「インターンシップ（学外研修）シラバス」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	学外実習

科目基礎情報

科目番号	0034	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	創造工学科（機械系）	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材	特に指定しない。当該機関の担当者と相談すること。		
担当教員	高津 章洋		

到達目標

1 工学実験技術について適切な方法により実験や計測を行い、結果をまとめることができる。）
2 技術者倫理について関連する法令を理解し、技術者としての行動を説明できる。）
3 情報リテラシーについて状況リテラシーに配慮して情報技術を活用し、アルゴリズムを考え実装できる。）
4 汎用的技能について関連分野の専門書を理解し、それに対する自己の意見をまとめることで、課題を発見し計画的・論理的に課題を解決できる。）
5 勤怠・協調性について（時間をもち自律・協調した行動ができる。）
6 総合的な学習経験と創造的思考力について（課題を理解し、課題解決のための要素(システム・工程等)を創出できる。）

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
工学実験技術について	適切な方法により実験や計測を行い、結果を客観的にまとめることができる。	適切な方法により実験や計測を行い、結果をまとめることができる。	適切な方法により実験や計測を行うことができず、結果をまとめることができない。
技術者倫理について	関連する法令を理解し、技術者としての自律的責任を深く理解できる。	関連する法令を理解し、技術者としての自律的責任を理解できる。	関連する法令を理解せず、技術者としての自律的責任を理解できない。
情報リテラシーについて	状況リテラシーに配慮して情報技術を活用し、複数のアルゴリズムを考え実装できる。	状況リテラシーに配慮して情報技術を活用し、アルゴリズムを考え実装できる。	状況リテラシーに配慮して情報技術を活用できず、アルゴリズムを考え実装できない。
汎用的技能について	専門分野の書籍を深く理解し、それに対する自己の意見を正しくまとめることで、課題を発見し的確な論理的・論理的に課題を解決できる。	専門分野の書籍を理解し、それに対する自己の意見をまとめることで、課題を発見し計画的・論理的に課題を解決できる。	専門分野の書籍を理解できず、それに対する自己の意見をまとめることで、課題を発見し計画的・論理的に課題を解決できない。
勤怠・協調性について	時間をもち自律、自律・協調した行動ができる。	時間をもち自律・協調した行動ができる。	時間をもち自律・協調した行動ができない。
総合的な学習経験と創造的思考力について	課題を深く理解し、課題解決のための要素(システム・工程等)を創出できる。	課題を理解し、課題解決のための要素(システム・工程等)を創出できる。	課題を理解できず、課題解決のための要素(システム・工程等)を創出できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	企業、国または地方公共団体等の機関において、その機関が計画する研究開発に関する研修および技術講習を含む生産活動等の実習を行う。 実習を通じて、 1）社会が求めている技術や専門的実践技術に関する知識の把握 2）技術者が社会に対して負っている責任の理解 3）コミュニケーション能力の養成 4）報告書作成や報告会に関して計画的に推進する能力の習得 などを期待とする。
授業の進め方と授業内容・方法	実施方法は、春季休業中の期間における集中実習とし、担当教員が事前指導、事後指導および評価を行う。 成績は、報告書（70%）および報告会でのプレゼンテーション（30%）により評価する。合格点は60点以上とする。
注意点	・実習受入れ先は、原則として学校が斡旋することとし、申請者が斡旋する。 ・実習との関係経費は、原則自己負担であるが、また、実習受入れ先の状況によっては申し込み時に費用負担があることに注意すること。 ・受け入れ先決定後、実習先の担当指導者などを事前に調査しておくこと。 ・学外実習期間中は学生教育保険に加入すること。（事前手続き、報告書の提出など、全般について担当教員の指導を受け、最後まで責任を持って遂行すること。 ・実習には、実習受け入れ先の就業規則・規則・指導に従い、積極的に取り組み、コミュニケーションに努めるとともに、実習時間外であっても実習中は責任ある行動をとり続けること。 ・実習終了後に実習報告書の提出と報告会があることを念頭において実習に取り組むこと。

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	学外実習校訪会、特にその意義と目的	学外実習と自己の授業との関係について理解する。
	2週	学外実習先の選択	専門および周辺分野に関連する企業または大学のテーマについて検討し、選ばれる理由について学習できる。
	3週	学外実習先の選択	専門および周辺分野に関連する企業または大学のテーマについて検討し、選ばれる理由について学習できる。
	4週	学外実習先の選択	専門および周辺分野に関連する企業または大学のテーマについて検討し、選ばれる理由について学習できる。
	5週	事前学習	実習先において必要と思われる知識や技術について調査できる。
	6週	事前学習	実習先において必要と思われる知識や技術について調査できる。
	7週	事前学習	実習先において必要と思われる知識や技術について調査できる。
	8週	事前学習	実習先において必要と思われる知識や技術について調査できる。
	9週	ビジネスマナーについて(1)	実習先において必要と思われる適切な言葉遣いができる。

（次ページへ続く）

資料５－１－②－（１）－１（続き）

	10週	ビジネスマナーについて(2)	実習先において必要と思われる行動規範(情報の取り扱い等)が習得できる。
	11週	実習(1)	選択した実習先のテーマ毎に定められた課題を遂行できる
	12週	実習(2)	選択した実習先のテーマ毎に定められた課題を遂行できる
	13週	報告会の準備(1)	発表会に提出する意味やプレゼンテーション資料を作成できる。
	14週	報告会の準備(2)	発表会に提出する意味やプレゼンテーション資料を作成できる。
	15週	学外実習報告会	選択した実習先のテーマに関する現況と問題点を、報告書やプレゼンテーションを通して他者に説明できる。
	16週		
後期	1週		
	2週		
	3週		
	4週		
	5週		
	6週		
	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

評価割合

	報告書	発表	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

（出典　苫小牧工業高等専門学校 Web シラバス）

資料５－１－②－（１）－２

「数学補修について」

数学補習について（教職員向けお知らせ）

差出人 ： 上木政美(総合系) 2018/12/14(金) 11:58

お知らせ

以下の日程で１・２年生の数学補習を予定しております。
対象学生は成績不良の者で各学年２０数名程度です。

１年：１／１５（火），１／２１（月），１／２８日（月）
　　２／４（月）　いずれも7時間目

２年：１２／１８（火），１／８（火），１／２２日（火）
　　１／２９（火）　いずれも8時間目

補習内容等については添付ファイルをご参照ください。
なお、補習対象学生への連絡は数学教員が直接行います。
補習対象学生を知りたい場合は数学教員にお尋ね下さい。

Ｈ３０補講予定（後期後半）掲示.xls　詳細 28 KB

（出典　本校グループウェアサイト）

資料５－１－②－（１）－３

「英語特論Ａシラバス」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語特論Ａ

科目基礎情報			
科目番号	0060	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	創造工学科（一般科目）	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：第一学習社編集部「英語総合問題 raise 2 SECOND EDITION」（第一学習社） ／参考図書：石黒 昭博（監修）「総合英語 Forest 7th Edition」（桐原書店）、市販のTOEIC受験対策用の問題集、市販の英検受験対策用の問題集		
担当教員	佐藤 泉々恵		

到達目標
1．基本的な英文の読解や聴解ができる。 2．基本的な単語や文法を習得した上で、簡単な英文を正しく書くことができる。 3．基本的な英語表現を習得することで、簡単な英会話ができる。 4．継続的な学習によって、TOEICスコア400点または英検準２級取得のために必要な基礎力を確認できる。

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基本的な英文の読解や聴解がよくできる。	基本的な英文の読解や聴解ができる。	基本的な英文の読解や聴解ができない。
評価項目2	基本的な単語や文法を習得したうえで、簡単な英文を正しく書くことがよくできる。	基本的な単語や文法を習得したうえで、簡単な英文を正しく書くことができる。	基本的な単語や文法を習得したうえで、簡単な英文を正しく書くことができない。
評価項目3	基本的な英語表現を習得することで、簡単な英会話がよくできる。	基本的な英語表現を習得することで、簡単な英会話ができる。	基本的な英語表現を習得することで、簡単な英会話ができない。
評価項目4	継続的な学習によって、TOEICスコア400点または英検準２級の取得することが可能となる基礎力を確認できる。	継続的な学習によって、TOEICスコア400点または英検準２級の取得を目指すことができる基礎力を確認できる。	継続的な学習によって、TOEICスコア400点または英検準２級取得を目指すことができない。

学科の到達目標項目との関係
教育方法等

概要	英語特論Aでは、「文法力」「表現力」「聴解力」「読解力」を総合的に養成し、TOEICスコア400点または英検準２級を取得するために必要な基礎力の定着を目指す。対象者は、専攻科入試出願資格達成を目指す学生および英語の基礎学力の定着を目指す学生とする。
授業の進め方と授業内容・方法	授業はテキストとその問題演習を中心に進め、基礎的な語法や文法への理解を深めるとともに、聴解力や読解力、表現力（基礎的な英文の作成ができる）の向上を目指す。再試験については必要により前期末に1回実施する。授業への取り組み姿勢が著しく良くない者は対象から除くものとする。
注意点	1．英語力の維持・向上のため、主体的な学習を継続すること。 2．積極的な姿勢で問題演習に取り組むこと。 3．既習事項の理解を深めるために復習を徹底して行うこと。 4．授業時は、英和辞書を必ず持参すること。

授業計画			
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	Lesson 1. 文の種類 Lesson 2. 文型	Lesson 1,2 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。様々な文の種類や文型を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	2週	Lesson 3. 時制①	Lesson 3 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。現在形・過去形・進行形・未来形を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	3週	Lesson 4. 時制②	Lesson 4 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。現在完了形・現在完了進行形を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	4週	Lesson 5. 時制③	Lesson 5 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。過去完了形・時制の一致を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	5週	Lesson 6. 助動詞①	Lesson 6 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。基本的な助動詞と用法を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	6週	Lesson 7. 助動詞②	Lesson 7 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。助動詞を使った依頼・勧誘表現を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	7週	Lesson 8. 受動態	Lesson 8 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。受動態を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	8週	復習テスト	これまでの学習内容を理解し、それらを正しく活用・運用できる。
	9週	Lesson 9. 不定詞①	Lesson 9 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。不定詞の基本的な用法・ｎｏ構文を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	10週	Lesson 10. 不定詞②	Lesson 10 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。知覚／使役動詞を使った表現を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。

（次ページへ続く）

資料５－１－②－（１）－３（続き）

	11週	Lesson 11. 動名詞	Lesson 11 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。動名詞を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	12週	Lesson 12. 分詞	Lesson 12 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。分詞を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	13週	Lesson 13. 比較	Lesson 13 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。原級・比較級・最上級を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	14週	Lesson 14. 関係詞①	Lesson 14 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。関係代名詞を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	15週	Lesson 15. 関係詞②	Lesson 15 の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。関係副詞を理解し、正しく運用できる。実用的なリスニングができる。
	16週	前期定期試験	これまでの学習内容を理解し、それらを正しく活用・運用できる。

評価割合				
	定期試験	復習テスト	課題など（授業への取組姿勢を含む）	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100
専門的能力	0	0	0	0

（出典　苫小牧工業高等専門学校 Web シラバス）

資料５－１－②－（１）－４

「室蘭工業大学との単位互換に関する協定」

苫小牧工業高等専門学校と室蘭工業大学との間における単位互換に関する協定書

苫小牧工業高等専門学校及び室蘭工業大学（以下，「大学等」という。）は，相互の交流と協力を促進し，教育内容の充実を図ることを目的として，両大学等の学生が相手大学等の授業科目を履修し，単位を修得することについて合意したので，下記のとおり協定を締結する。

記

（受入学生の呼称）
1　この協定により受け入れる学生は，「特別聴講学生」と称する。
（履修期間）
2　特別聴講学生の履修期間は，履修を許可された授業科目の開講年度又は開講学期とする。
（受入学生数）
3　大学等が受け入れる特別聴講学生数は，授業に支障のない範囲で，受入大学等の定めるところによる。
（単位の授与）
4　特別聴講学生が履修した授業科目の成績評価及び単位の授与については，受入大学等の定めるところによる。
（単位の認定）
5　特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については，派遣大学等の定めるところによる。
（検定料，入学料及び授業料）
6　特別聴講学生の検定料，入学料及び授業料は相互に徴収しない。
（履修科目，単位数及び受入手続き等）
7　特別聴講学生が履修できる授業科目，単位数及び受入手続き等については，別に定める実施要項による。
（実施要項）
8　この協定による単位互換を円滑に実施するため，実施要項を別に定める。
（有効期間）
9　この協定の有効期間は，平成２０年４月１日から４年間とする。ただし，有効期間満了の３ヶ月前までにいずれかの大学等からも継続しない旨の意思表示がされないときは，更に４年間継続するものとし，以後も同様とする。
（協定の改廃）
10　この協定の改廃については，両大学等との協議によるものとする。
（その他）
11　この協定に定めるもののほか，単位互換について必要な事項は，両大学等でその都度協議するものとする。

平成20年3月 3日

苫小牧工業高等専門学校長　　伊 藤 精 彦

室 蘭 工 業 大 学 長　　松 岡 健 一

（出典　学生課保管資料）

資料５－１－②－（１）－５

「令和元年度第一回校内研究授業の実施結果について」

令和元年８月６日
第１０回教務委員会
報告事項１資料

令和元年度 第一回校内研究授業の実施結果について

2019年7月8～12日の期間にて令和元年度第一回校内研究授業を実施した．この研究授業について，見学者50名より105件の授業見学報告書が提出された．この集計結果については既にサイボウズにて公開済みであるが，今後，授業改善を進めていく上で重要と考えられる点について，以下にまとめた．

＜教員としての基礎スキル＞

以下の様に，板書，説明（声の抑揚や分かりやすさ），授業の雰囲気作りといった点についての評価が多く見られた．当たり前のことではあるが，授業改善においては，授業方法の工夫と同時に教員としての基礎スキルの向上が重要であると言える．

・声が聞き取りやすく，間も適切で非常に聞きやすかったです．（創造工学Ⅰ　プレゼン技法）
・板書において，内容がすっきりとまとめられ，非常にわかりやすかった．（工業力学Ⅰ）
・語り口が親しみやすかった．（応用物理Ⅱ）

＜プリント・PPT・ICT機器等の活用＞

今回の方向書の中では，プリント・PPT・ICT機器などを積極的に活用し，授業の効率化，双方向授業化，学生の理解度向上がなされている点について評価する意見が最も多くなされていた．こういった授業の準備には非常に時間が掛かる側面はあるが，より学習効果の高い授業の構築のために，様々なツール・手法の導入・活用について積極的に検討していくべきであると考える．

・プリントを活用し，教員の話をヒアリングさせて，文を書かせる手法が良い．（国語Ⅰ）
・教科書の問題の答えをスマホに入力させ，教員のタブレットで解答状況をその場で把握，表示するというITをフルに活用した授業が大変参考になりました．（英語Ⅱb）
・黒板の半分にスクリーンを貼り付け，手書きとプロジェクターを同時に活用しつつ，適宜学生から発言を引き出している．（水理学Ⅱ）
・黒板，スライド，プリント，機器の実物をうまく組み合わせて説明しており，わかりやすかったです．（電気機器Ⅱ）
・操作方法や課題について詳細な資料をBbに掲載しているため，自主的に取組みやすい．（創造工学Ⅱ 機械系）
・ブラックボード上の資料を参考に学生がパソコン，スマホを見ながら授業を受けていた．私にとっては，ちょっとしたカルチャーショックであった．問題の解説後，すぐに達成度試験を実施していたが，その場で学生の理解の定着を図るのには良いことかもしれない．（応用数学Ⅲ）

（次ページへ続く）

資料５－１－②－（１）－５（続き）

＜授業の導入に関して＞

導入は授業全体において非常に重要であることは良く知られているが，授業の導入について評価する意見も多く見られた．「前回の内容の復習」と「授業の達成目標の提示」という点を含めながら，授業への関心を引き起こすような導入について，各授業において考えていく必要があると思われる．

・配布プリントに，「先週の復習」のポイントや本日の内容の要点がまとめられており，何を学ぶのかが分かりやすく示されていた．（工業力学Ⅱ）
・授業の頭で前回の内容に関する小テストを実施することで，授業のイントロダクションとなっている点．
・PPTを使用した資料を提示しながら，前回の復習および今回の要領を説明していた点．（創造工学Ⅰ 情報系）

■ その他の御意見

・校内研究授業の実施期間が1週間では，自分自身の講義との重複などで思うように見学したい授業を選択できません．ダラダラと実施するのも問題ですが，もう1週間期間が長ければ良いと思います．
・全ての科目に関して，ここに記述させていただきます（他で，機会が無いため）．プロジェクター，黒板など，授業で使用する機器や道具が，受講者の目線で設置されていません．機能を最大限生かすのも良いですが，そのせいで，プロジェクターの下が全く見えなかったり，黒板の下の方が見えなかったりします．その諸々あります．

（出典　平成３１年度第１０回教務委員会資料）

資料５－１－②－（１）－６

「平成３１年度第４学年総合研修旅行予定一覧」

平成31年度　第4学年総合研修旅行予定一覧

	4年1組（機械系） 男子 35　女子 7　計 42 （担任）高澤　幸治　筧路　歩 奥山　博史		4年2組（都市・環境系） 男子 20　女子 3　計 40 （担任）清田　暢生　谷口　陽子		4年3組（応用化学・生物系） 男子 23　女子 14　計 37 （担任）神田　玲生　坪倉　篤志 長坂　啓介		4年4組（電気電子系） 男子 27　女子 3　計 30 （担任）尾　輝隆　奥山　岳		4年5組（情報科学・工学系） 男子 23　女子 8　計 31 （担任）原田　康広　土屋　佳幸	
日時	見学先	宿泊先	見学先	宿泊先	見学先	宿泊先	見学先	宿泊先	見学先	宿泊先
11/5（火） PM	集合（苫小牧ターミナル） センリードビジョン株式会社 大阪工場（大阪府大阪市）	リーガロイヤルホテル大阪	鹿島ホテル集合 中日本高速道路（株） コスユニケーション・プラザ横浜 （神奈川県川崎市）	鹿島ハウジングシステム	住友化学株式会社 千葉工場（千葉県市原市）	アパホテル＆リゾート横浜ベイタワー	東海ホテル集合 電源開発株式会社 若戸大力発電所 （福岡県北九州市）	花月クリスホテル	国際交流基金 アクセンチュア株式会社 ANAビジネスソリューション株式会社 （東京都港区）	ホテルマイステイズプレミア大森
11/6（水） AM	パナソニック株式会社 インストリアルソリューションズ社 （大阪府門真市）	リーガロイヤルホテル大阪	中日本高速道路（株） コスユニケーション・プラザ横浜 （神奈川県川崎市）	鹿島ハウジングシステム	住友化学株式会社 千葉工場（千葉県市原市）	アパホテル＆リゾート横浜ベイタワー	東海ホテル集合 電源開発株式会社 若戸大力発電所 （福岡県北九州市）	花月クリスホテル	国際交流基金 SCSK株式会社 東京事業所 （東京都江東区）	ホテルマイステイズプレミア大森
PM	ダイキン工業株式会社 堺製作所　臨海工場 （大阪府堺市）		鹿島ホテル集合 横浜シール工業所 （神奈川県横浜市） 関東自動車大学校		OIC株式会社 千葉工場（千葉県市原市）		三菱電機ビルテクノサービス株式会社 教育センター （東京都八王子市）		富士通株式会社 川崎工場（神奈川県川崎市）	
11/7（木） AM	東レ株式会社 滋賀事業場 （滋賀県大津市）	リーガロイヤルホテル大阪	鹿島ホテル集合 メトロ技術株式会社 （東京都文京区）	鹿島ハウジングシステム	第一三共プロファーマ株式会社 千葉工場 （神奈川県平塚市）	アパホテル＆リゾート横浜ベイタワー	鹿島ホテル集合 富士電機株式会社 川崎工場 （神奈川県川崎市）	花月クリスホテル	鹿島ホテル集合 情報通信研究機構（NICT） （東京都小金井市）	ホテルマイステイズプレミア大森
PM	自主研修（京都駅解散） オリンピック選手村整備 各種記念施設整備事業		自主研修（京都駅集合） 解散		第一三共プロファーマ株式会社 小田原工場 （神奈川県小田原市）		自主研修		NTT情報ネットワーク総合研究所 （東京都武蔵野市）	
11/8（金） AM	住友電気工業株式会社 伊丹製作所 （兵庫県伊丹市）		鹿島ホテル集合 帝国秀英堂 （東京都台東区）		昭和電工株式会社 川崎事業所 （神奈川県川崎市） 日本科学未来館前 （東京都江東区）		キヤノン株式会社 モバイルエクスペリア （東京都大田区）		鹿島ホテル集合 NHK放送技術研究所 （東京都世田谷区）	
PM	大阪国際空港で一部降機 JAL＆ANA関西機内見学		解散		自主研修後解散		解散		解散（二子玉川駅）	

宿泊先 （TEL 電話番号）	リーガロイヤルホテル大阪 大阪市北区中之島５－３－６８ TEL：06-6448-1121	鹿島ウッジントンホテル 東京都新宿区西新宿３－１－１ TEL：03-3343-3111	アパホテル＆リゾート （横浜ベイタワー） 神奈川県横浜市中区海岸通り１丁目５番１	品川プリンスホテル 東京都港区高輪４－１０－３０ TEL：03-3440-1111	ホテルマイステイズプレミア大森 東京都大田区西六郷３－１０－３ TEL：03-3742-7081

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－（１）－７

「創造工学Ⅰガイダンス資料」

創造工学Ⅰ　ガイダンス資料

１．授業の目標

a）キャリアプランニング能力を身につける
b）自己管理能力（提出物の期限厳守や報告・連絡・相談の習慣等）を身につける
c）グループワークを通して，チームワーク・コミュニケーション・プレゼン能力を身につける
d）専門系について理解を深める
e）実験やものづくりを通じて，創造力や課題解決能力を身につける
f）ＩＣＴ活用能力を身につける
g）数学活用能力，工学基礎能力を身につける

２．グループワーク

・毎回異なるグループ編成で実施　→　幅広い交友関係を！
・コミュニケーションとは，自分の意見を発言できる　＋　他人の意見をきちんと聞ける。
・プレゼンテーションでは，制限時間内でわかりやすく伝える。

３．受講ルール

・授業の連絡（集合場所や持ち物等）は，Blackboardに掲示するので授業前日までに確認すること。
・欠席するとき（したとき）は必ず各担当者に申し出て指示を受けること。
　特別欠席のときも欠席後１週間以内に必ず申し出ること。
・創造工学の授業中は名札をつけること。

４．評価

・定期試験は実施しない。
・授業への取り組み態度、発表の様子、提出物等で評価する。
　工学基礎30%、工学演習30%、専門系体験学習20%、キャリア教育20%
・欠席した日の評価は原則として０点となるので注意のこと。

５．講義担当者

・欠席時の連絡や質問は各担当者（裏面参照）、創造工学Ⅰ全般に対する問い合わせは村本へ。

６．専門系の体験学習

・グループ単位で各系の体験学習に取組む。
　グループ①④　機械→電電→化生→都環→情報
　グループ②⑤　電電→化生→都環→情報→機械
　グループ③⑥　化生→都環→情報→機械→電電

（出典　授業配付資料）

「創造工学Ⅱ前期ガイダンス資料」

創造工学Ⅱ ガイダンス資料

1. 前期日程について

授業日	内容	場所
4/10	ガイダンス＋キャリアデザインシート作成	教室
4/17	Arudino作製実験（IoT教育①）	機械製図室
4/24	Arudino作製実験（IoT教育②）	
5/15	Arudino作製実験（IoT教育③）	
5/22	Arudino作製実験（IoT教育④）	
5/29	Arudino作製実験（IoT教育⑤）	
6/5	3D-CAD基本演習1	
6/12	3D-CAD基本演習2	
6/19	3D-CAD基本演習3	
6/26	3D-CAD基本演習4	
7/3	3D-CAD機械部品作図1	
7/10	3D-CAD機械部品作図2	
7/17	3D-CAD組立て部品作図1	
7/24	3D-CAD組立て部品作図2	
7/31	情報セキュリティー教育	未定

※ 実施の時期については，変更になる場合もあります．

2. 科目の学習目的

1. 自身の専門系を中心とした基礎的な能力を身につける．
2. 工学を幅広く捉え，工学の幅広い知識を身につける．
3. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解する．
4. グループで議論して立案した課題の解決方法を聞き手にわかりやすく伝わる様に発表できる．
5. グループで合意形成した方法を実践できる．
6. 収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより，活用すべき情報を選択できる．
7. 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる．
8. 自らの現状を認識し，将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる．

3. 集合場所について

前期は，次週からは機械製図室に直接集合して下さい．後期は，未定な部分が多いので決まり次第で連絡します．

（次ページへ続く）

4. 評価に関して

前期の評価は，

課題・報告書：80％　　取組み 20％

という割合にて行います．欠席したままにすると，その日の点数が 0 点となってしまうので，欠席する（した）場合には，必ず担当教員に連絡して指示を仰いで下さい．

また，必ず期限内に提出物を出すことを心掛けて下さい．

5. 諸注意

1) 内容に応じて集合場所が異なるので，しっかりと連絡を確認すること．
⇒ office365 のメールを受け取れる様にしておいて下さい．
2) レポートや課題の提出期限を守ること．
3) 欠席の場合には，事前に各系の先生に連絡すること．
4) 筆記用具などは必ず持ってくること．
5) 教室移動の際には必ず貴重品を携帯すること．

（出典　授業配付資料）

「創造工学Ⅱ後期ガイダンス資料」

創造工学Ⅱ 後期ガイダンス資料

文責：機械系　浅見

1. 後期スケジュール

授業回数	日	機械	都市・環境	応用化学・生物	電気電子	情報科学・工学
1	10/2	ガイダンス＋キャリア教育				
2	10/9	電気系演習	化学系演習	環境系演習	情報系演習	機械系演習
3	10/16	電気系演習	化学系演習	環境系演習	情報系演習	機械系演習
4	10/30	電気系演習	化学系演習	環境系演習	情報系演習	機械系演習
5	11/6	電気系演習	化学系演習	環境系演習	情報系演習	機械系演習
6	11/13	技術者倫理（多田先生：大講義室）				
7	11/20	自習 or 休講				
8	11/27	キャリア教育（講演会：キャリアセンター主催）				
EX	12/2	補講日：午前中 4h，工場見学				
9	12/4	5 系混合グループワーク				
10	12/11	5 系混合グループワーク				
11	12/18	5 系混合グループワーク				
12	1/8	5 系混合グループワーク				
13	1/15	5 系混合グループワーク				
14	1/22	5 系混合グループワーク				
15	1/29	ポートフォリオ				

2. 科目の学習目的

1. 自身の専門系を中心とした基礎的な能力を身につける．
2. 工学を幅広く捉え，工学の幅広い知識を身につける．
3. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解する．
4. グループで議論して立案した課題の解決方法を聞き手にわかりやすく伝わる様に発表できる．
5. グループで合意形成した方法を実践できる．
6. 収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより，活用すべき情報を選択できる．
7. 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる．
8. 自らの現状を認識し，将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる．

3. 集合場所について

次週以降，事前の案内がない限りは教室で集合して下さい．始業前に移動が必要な場合は，メール等により事前に案内を出します．

（次ページへ続く）

4. 評価に関して

前期の評価は，

課題・レポート：40％　　発表：40％　　取組み 20％

という割合にて行います．欠席したままにすると，その日の点数が 0 点となってしまうので，欠席する（した）場合には，必ず担当教員に連絡して指示を仰いで下さい．

また，必ず期限内に提出物を出すことを心掛けて下さい．

5. 諸注意

1) 内容に応じて集合場所が異なるので，しっかりと連絡を確認すること．
⇒ office365 のメールを受け取れる様にしておいて下さい．
2) レポートや課題の提出期限を守ること．
3) 欠席の場合には，事前に各系の先生に連絡すること．
4) 筆記用具などは必ず持ってくること．
5) 教室移動の際には必ず貴重品を携帯すること．

（出典　授業配付資料）

資料５－１－②－（１）－１０

「創造工学Ⅲ前期ガイダンス資料」

創造工学Ⅲ ガイダンス資料

1. 前期日程について

日時	機械	都市・環境	応用化学・生物
4/9	ガイダンス＋キャリアデザインシート作成		
4/16	クラウド3D-CAD演習1	プログラミング・ドローン1	化学実験1
4/23	クラウド3D-CAD演習2	プログラミング・ドローン2	化学実験2
5/7	クラウド3D-CAD演習3	プログラミング・ドローン3	化学実験3
5/14	クラウド3D-CAD演習4	プログラミング・ドローン4	化学実験4
5/21	情報セキュリティー教育		
5/28	化学実験1	クラウド3D-CAD演習1	プログラミング・ドローン1
6/4	化学実験2	クラウド3D-CAD演習2	プログラミング・ドローン2
6/11	化学実験3	クラウド3D-CAD演習3	プログラミング・ドローン3
6/25	化学実験4	クラウド3D-CAD演習4	プログラミング・ドローン4
7/2	キャリア講演会		
7/9	プログラミング・ドローン1	化学実験1	クラウド3D-CAD演習1
7/16	プログラミング・ドローン2	化学実験2	クラウド3D-CAD演習2
7/23	プログラミング・ドローン3	化学実験3	クラウド3D-CAD演習3
7/30	プログラミング・ドローン4	化学実験4	クラウド3D-CAD演習4

※ 実施の時期については，変更になる場合もあります．

2. 科目の学習目的

1) キャリアプランニング能力を身に付ける．
2) グループワークを通して，チームワーク・コミュニケーション能力・プレゼン能力を身に付ける．
3) 新しい技術を体験し，自らの専門への導入を作る．
4) 自系および他系における実験やものづくりを通して，創造力や課題解決能力を身に付ける．
5) ICT 活用能力を身に付ける．

3. 集合場所について

各系の 1 回目の就業では各 HR に集合すること．2 回目以降の集合場所については，1 回目の授業内にて指示する．

4. 評価に関して

前期の評価は，

課題・報告書：80％　　取組み 20％

という割合にて行います．欠席したままにすると，その日の点数が 0 点となってしまうので，欠席する（した）場合には，必ず担当教員に連絡して指示を仰いで下さい．

また，必ず期限内に提出物を出すことを心掛けて下さい．

（次ページへ続く）

資料５－１－②－（１）－１０（続き）

5. 担当教員について

機械系：浅見　廣樹（3D-CAD），土谷　圭央（ドローン）
都市・環境：八田　茂（3D-CAD），中村　努（ドローン），長谷川　聡（3D-CAD）
応用化学・生物：樫村　奈生（化学実験），宇津野　国治（化学実験）

何か困った事があれば，担当の先生 or 機械の浅見に連絡して下さい．

6. 諸注意

1) 内容に応じて集合場所が異なるので，しっかりと連絡を確認すること．
⇒ office365 のメールを受け取れる様にしておいて下さい．
2) レポートや課題の提出期限を守ること．
3) 欠席の場合には，事前に各系の先生に連絡すること．
4) 筆記用具などは必ず持ってくること．
5) 教室移動の際には必ず貴重品を携帯すること．

（出典　授業配付資料）

資料５－１－②－（１）－１１

「創造工学Ⅲ後期ガイダンス」

創造工学Ⅲ 後期ガイダンス

1. 科目の学習目的

1) キャリアプランニング能力を身に付ける．
2) グループワークを通して，チームワーク・コミュニケーション能力・プレゼン能力を身に付ける．
3) 新しい技術を体験し，自らの専門への導入を作る．
4) 自系および他系における実験やものづくりを通して，創造力や課題解決能力を身に付ける．
5) ICT 活用能力を身に付ける．

2. 後期日程について

日時	内容
10/2	ガイダンス ＋ アイスブレイク
10/9	デザイン思考テスト ＋ 地域学講演会
10/16	デザイン思考テスト＋GW内容説明 ＋ グループディスカッション
10/30	グループディスカッション or フィールドワーク
11/6	グループディスカッション or フィールドワーク
11/13	グループディスカッション＋発表資料作成
11/20	中間発表
11/27	グループディスカッション
12/4	キャリア講演会（ジョブトークⅡ）
12/11	グループディスカッション
12/18	グループディスカッション
1/8	グループディスカッション＋発表資料作成
1/15	本発表
1/22	デザイン思考テスト ＋ グループワーク振り返り
1/29	デザイン思考カテスト ＋ ポートフォリオ

3. 集合場所について

指示が無い場合は，各 HR にて待機すること．大講義室や違う教室に集合場所については，授業時間内もしくは Office365 のメールにて指示する．

4. 評価に関して

前期の評価は，

課題・報告書：40％　　発表：40％　　取組み 20％

という割合にて行います．　必ず期限内に提出物を出すことを心掛けて下さい．

（次ページへ続く）

資料５－１－②－（１）－１１（続き）

5. 班分けに関して

資料 1 を参照してください．大きく分けて A~C の 3 つのグループに分けます．各グループごとに，テーマ 1 からテーマ 3 のどれかのテーマに取組んで貰い，発表会などもグループごとにコンペ形式で行う予定となっております．どのグループが，どのテーマに取組むかは，3 週目に発表します．

※ テーマについては，資料 2 を参照してください．

5. 担当教員について

機械系：浅見 廣樹，土谷 圭央
都市・環境系：中村 努，長谷川 聡
応用化学・生物系：樫村 奈生，宇津野 国治

何か困った事があれば，担当の先生 or 機械の浅見に連絡して下さい．
浅見に問合せの場合，下記メールにて連絡してくれると助かります（校務対応等で不在の場合も多い）．

メールアドレス：hasami@tomakomai-ct.ac.jp

6. 諸注意

1) 内容に応じて集合場所が異なるので，しっかりと連絡を確認すること．
⇒ office365 のメールを受け取れる様にしておいて下さい．
2) レポートや課題の提出期限を守ること．
3) 欠席の場合には，事前に各系の先生に連絡すること．
4) 筆記用具などは必ず持ってくること．
5) 教室移動の際には必ず貴重品を携帯すること．

7. デザイン思考テストに関して

創造性を評価する民間の会社が開発した試験です．今年度，試行的に実施できることとなり，授業時間等の都合より，創造工学Ⅲ（機械・環境・応化の 3 系）の学生だけ受験することとしました．成績には一切関係しません．ただ，純粋に皆さんの創造力が試験方法に沿って評価されます．

このトライアルでの受験に際して，全員が受講することが義務付けられているため，休んだ際には個別に受けて貰います（インフルエンザなどの長期は無理ですが）．お互い手間になると思いますので，できるだけ休まない様にお願いします．また，場合によってインタビュー等に応じて貰うことがあります．可能な限り御協力をお願います．

（次ページへ続く）

資料５－１－②－（１）－１１（続き）

資料２：グループワークの内容に関して

■ 内容

苫小牧高専に最も近い商店会である『ときわ澄川商店会（通商：西彩商店会）』の方々が抱える課題・問題点等について解決案や企画を構築する。

■ グループワークの目的

近年，グローバルな視点を有しながら地域の課題について考えられる，いわゆるグローカルな視点を有した技術者の育成が求められている．この授業では，自分達が暮らす地域の課題について考え，それらの解決案についてグループで議論し考えることにより，地域について考えられる能力の育成を目指すとともに，**学生の自主的に学ぶ／考える力の向上**を目指す．また，この中において協働能力やプレゼンテーション能力といった**ジェネリックスキルの向上**を図る．

■ 具体的な課題内容に関して

以下の大きなテーマに関して，それぞれの達成のために問題となっている点，問題解決のために商店会が持っている強み等についてディスカッションし，各テーマに対する企画案を考える．

・テーマ１：商店会の新たなイベントについて

ときわ澄川商店会は，７月末に商店会としてお祭りを開催しているが，より地域活性化に繋がるような新たなイベントを作りたいと考えている．また現在，スタンプラリーを企画・実施してみたが，余り盛況とは言えない．これの内容や告知方法，もしくは全く新たなイベント案を考える．

・テーマ２：商店会 Map と活かし方，地域の人がお店に足を運ぶ方策

現在，ときわ澄川商店会の Map があるが，周知度は非常に低く活かされているとも言い難い状況にある．また，商店会のお店に地域（ときわ・澄川町近郊）の人が来ていないという感じがある．新たな商店会 Map の案や活かし方，地域の人がもっとお店に足を運ぶ様な方策・システム作りについて考える．

・テーマ３：夏祭りの企画・運用に関して

ときわ澄川商店会は，７月末に商店会としてお祭りを開催しているが，余り盛況とは言えずより地域の人が足を運ぶようになって欲しい．また，人手が足りず四苦八苦している．より多くの人が足を運んでくれるような新たな企画案や，人材を確保するような運用方法・システム作りについて考える．

（出典　授業配付資料）

資料５－１－②－（２）

「室蘭工業大学との単位互換に関する協定実施要項」

苫小牧工業高等専門学校と室蘭工業大学との間における
単位互換に関する実施要項

苫小牧工業高等専門学校と室蘭工業大学との間における単位互換に関する協定書の８に基づき，本実施要項を定める。

（対象学生）

１　特別聴講学生として入学できる者は，次のとおりとする。

１）室蘭工業大学（以下「大学」という。）にあっては学部学生

２）苫小牧工業高等専門学校（以下「高専」という。）にあっては第４学年及び第５学年に在学する学生並びに専攻科に在学する学生

（対象授業科目及び単位数）

２　特別聴講学生が履修することができる授業科目は次のとおりとする。

１）大学の学部において開講される講義を中心とする授業科目で，当該授業科目担当教員が履修を承諾した授業科目

２）高専の本科及び専攻科において開講される講義を中心とする授業科目で，当該授業科目担当教員が履修を承諾した授業科目

３）特別聴講学生が修得できる単位数の上限に，高専又は大学において定めるところによる。

（特別聴講学生の受入手続き等）

３　１）特別聴講学生を希望する学生は，派遣高専又は大学（以下「派遣大学等」という。）の定める期間に手続きを行う。

２）派遣大学等は，希望学生を授業科目毎に取りまとめ，受入高専又は大学（以下「受入大学等」という。）の長に受け入れを依頼する。

３）受入大学等は，受け入れの可否を派遣大学等に通知する。

４）派遣大学等は，希望学生に速やかに受け入れの可否を通知する。

（ガイダンスの実施）

４　１）派遣大学等は，希望学生に対するガイダンスを行う。

２）受入大学等は，特別聴講学生に対するガイダンスを行う。

（試験の実施方法）

５　１）試験等の実施方法については，受入大学等の定めるところによる。

２）派遣大学等と受入大学等の試験実施日時が重複した場合は，受入大学等の授業科目の試験を優先するものとする。

（成績の通知，管理及び成績証明書の発行）

６　１）受入大学等は，特別聴講学生の成績を派遣大学等に通知する。

２）受入大学等は，特別聴講学生の成績原簿を保管する。

３）成績証明書は，原則として派遣大学等が発行する。なお，特別な場合は，受入大学等においても発行することができる。

（施設の利用等）

７　１）特別聴講学生が履修上必要な施設・設備の利用については，受入大学等の定めるところにより便宜を供与する。

２）特別聴講学生は，受入大学等の規則等を遵守するものとする。

（次ページへ続く）

資料５－１－②－（２）－１（続き）

（特別聴講学生に係る通知）

８　１）派遣大学等は，派遣学生が休学，退学等をした場合は，受入大学等に連絡する。

２）受入大学等は，特別聴講学生が履修している授業時間の変更及び試験日程等について，派遣大学等を通じて特別聴講学生に連絡する。

（連絡協議会）

９　１）本実施要項による単位互換を円滑に実施するため，連絡協議会を置く。

２）連絡協議会は，高専及び大学の代表者若干名をもって構成し，必要に応じて開催する。

３）連絡協議会に関する事務は，高専及び大学が１年ずつ交代で担当する。

（改正）

10　本実施要項の改正は，高専及び大学の協議により行う。

平成20年3月　3日

苫小牧工業高等専門学校長　　伊　藤　精　彦

室　蘭　工　業　大　学　長　　松　岡　健　一

（出典　出典　学生課保管資料）

資料５－１－③－（１）－１

「創造工学Ｉシラバス」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度（2019年度）	授業科目	創造工学Ｉ
科目基礎情報				
科目番号	0001		科目区分	専門／必修
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4
開設学科	創造工学科（専門共通科目）		対象学年	1
開設期	通年		週時間数	4
教科書/教材	なし／自作プリント			
担当教員	村本 充			
到達目標				
工学基礎（ICT活用，教学活用を含む）についての基礎を学び，工学に興味をもつことができる。 グループに協力して工学実習（PBLを含む）に取組むことができる。 実験の進め方を理解し，実験をしっかりと行うことができる。 キャリアについて意識し，自分が歩む人生「人生」，自分に問いている「みち」について考えることができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	「工学基礎（ICT活用，教学活用を含む）」についての基礎を学び，工学に関して自主的に学習できる。	「工学基礎（ICT活用，教学活用を含む）」についての基礎を学び，工学に興味をもつことができる。	「工学基礎（ICT活用，教学活用を含む）」についての基礎を学び，工学に興味をもつことができない。	
評価項目2	グループ内での自分の役割を理解し，工学実習（PBLを含む）に取組む。	グループで協力して工学実習（PBLを含む）に取組むことができる。	グループで協力して工学実習（PBLを含む）に取組むことができない。	
評価項目3	実験の進め方を理解し，実験を正しく行うことができる。	実験の進め方を理解し，実験を正しく行うことができる。	実験の進め方を理解できず，実験を正しく行うことができない。	
評価項目4	キャリアについて意識し，キャリアの将来について考えることができる。	キャリアについて意識し，自分の将来について考えることができる。	キャリアについて意識し，自分の将来について考えることができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	数学の活用能力，実験の進め方，ICT活用能力，チームワーク力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力，創造力などを幅広い能力に対する意識を高い水準，さらにそれらを応用する工学の基礎的な知識を習得する。また，グループ形成に必要な能力や態度を身に付ける。さらに，専門系の体験学習や調査研究により，専門系について理解を深める。			
授業の進め方と授業内容・方法	通常，実験等と実習等を毎週2時間ずつ行う。 グループ単位で実習や実験を行なので，積極的に自分のグループを確認して行くこと。			
注意点	・学習にあたっては，自己のキャリアについて常に意識し，年度初めに行う際の参考にすること。 ・ICT活用能力を高めるため，Blackboardで配布する関連ホームページやストラクアートを積極的に取り組むことができる。 ・授業時間以外でICT活用しグループで協力作業や課題に取り組むことが必要となる課題を出す。 ・グループ学習では，自分の役割を見つけ，グループ活動を積極的に参加すること。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	ガイダンス／ロケット製作と打上げ①	学習内容を把握する／グループで協力して課題に取り組むことができる	
	2週	コミュニケーション演習１／専門系の紹介	コミュニケーションの必要性について理解し，演習により基本的な技法を活用できる／専門系の概要を理解する	
	3週	ICTガイダンス／ロケットと打上げ②	PCへのログイン方法やアプリの立ち上げ方を覚える／グループで協力して課題に取り組むことができる	
	4週	数学活用（関数電卓の使い方）／ロケットと打上げ③	Wordで基本的な文章を作成できる／グループで協力して課題に取り組むことができる	
	5週	安全教育／ロケットと打上げ④	実験への取組み方を理解する／グループで協力して課題に取り組むことができる	
	6週	図学／専門系の体験学習１①	基本的な図面の書き方を覚える／専門系の実験に取り組むことができる	
	7週	ICT活用（Wordの基礎）／専門系の体験学習１②	Wordで基本的な文章を作成できる／専門系の実験に取り組むことができる	
	8週	創造性教育／専門系の体験学習２①	創造性とは何か理解する／専門系の実験に取り組むことができる	
	9週	キャリア教育（将来の夢）／専門系の体験学習２②	自分の将来について考えられるように，キャリア・デザインについて理解し，現時点での将来像・プランを描けるようにする／専門系の実験に取り組むことができる	
	10週	ICT活用（PowerPointの基礎）／専門系の体験学習３①	Powerpointで基本的な資料を作成できる／専門系の実験に取り組むことができる	
	11週	レポートの書き方／専門系の体験学習３②	基本的なレポートの書き方を理解する／専門系の実験に取り組むことができる	
	12週	ICT活用（Excel基礎）／専門系の体験学習４①	Excelで基本的な資料を作成できる／専門系の実験に取り組むことができる	
	13週	プレゼン技法／専門系の体験学習４②	基本的なプレゼン技法を理解する／専門系の実験に取り組むことができる	
	14週	キャリアパス／専門系の体験学習５①	ORの講演を聞き，職業に対するイメージを醸成する／専門系の実験に取り組むことができる	
	15週	情報セキュリティ／専門系の体験学習５②	情報セキュリティーについて考える／専門系の実験に取り組むことができる	
	16週			
後期	1週	製品のしくみ／工学実習（ドローン①）	製品の分解組立てを通して製品のしくみについて考える／グループで協力して工学実習に取り組むことができる	

（次ページへ続く）

資料５－１－③－（１）－１（続き）

	2週	アイデア創出／工学演習（ドローン②）	製品の分解組立てを通して製品のしくみについて考える／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	3週	専門系の調査研究①／工学演習（ドローン②）	グループで協力して専門系の調査を行うことができるOBの講演を聞き、職業に対するイメージを明確にする／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	4週	専門系の調査研究②／工学演習（図学２①）	グループで協力して専門系の調査を行うことができる／基本的な図面の書き方を覚える
	5週	専門系の調査研究③／工学演習（図学２②）	調査内容を発表したり、他の発表に質問することができる／基本的な図面の書き方を覚える
	6週	コミュニケーション演習２／工学演習（図学２③）	コミュニケーションの必要性について理解し、演習により基本的な技法が活用できる／基本的な図面の書き方を覚える
	7週	ICT活用（Word演習）／工学基礎演習（動画作成①）	Wordで基本的な資料を作成できる／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	8週	知的財産／工学基礎演習（動画作成②）	知的財産を理解し、特許検索ができる／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	9週	ジョブトーク／工学基礎演習（化学①）	OB等のエンジニアに対するインタビューを通して、種々の仕事内容について知る／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	10週	情報セキュリティ２／工学基礎演習（化学①）	情報セキュリティーについて考える／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	11週	ICT活用（Powerpoint演習）／工学基礎演習（エネルギー①）	Powerpointで基本的な資料を作成できる／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	12週	統計／工学基礎演習（エネルギー②）	統計処理の基礎を理解する／グループで協力して工学演習に取り組むことができる
	13週	ICT活用（Excel演習）／PBL①	Excelで基本的な資料を作成できる／グループで協力して課題に取り組むことができる
	14週	技術者倫理／PBL②	実際のケーススタディーを通して技術者および研究者としての倫理の基本事項について理解する／グループで協力して課題に取り組むことができる
	15週	キャリア教育（振り返り）／PBL③	これまでのキャリア教育の内容を整理し理解を深める／グループで協力して課題に取り組むことができる
	16週		

評価割合

	工学基礎	工学演習	専門系の体験学習	キャリア	合計
総合評価割合	30	30	20	20	100
基礎的能力	25	0	0	0	25
専門的能力	0	25	20	0	45
分野横断的能力	5	5	0	20	30

（出典　苫小牧工業高等専門学校 Web シラバス）

資料５－１－③－（１）－２

「創造工学Ⅱシラバス」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	創造工学Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0017	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	創造工学科（機械系）	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	各系作成のプリントなど		
担当教員	池田 慎一, 小原 栄太郎, 浅見 真樹		

到達目標

1)自身の専門系を中心とした基礎的な能力を身につける。
2)専門系を幅広く知り、工学の幅広い知識を得る。
3)自分の社会や自然に及ぼす影響や効果を理解する。
4)グループで課題に対して楽しく課題の解決方法を、聞き手にわかりやすく伝わる様に発表できる。
5)グループで作業を通して、力を発揮できる。
6)収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。
7)効果的意思をもってチームでの作業・研究を進めることができる。
8)自らの現状を認識し、将来のあり方に向かっていくために現状での必要な学習や活動を考えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	自身の専門系を中心とした基礎的な能力を身につけ、さらに発展できる。	自身の専門系を中心とした基礎的な能力を身につける。	自身の専門系を中心とした基礎的な能力を身につけられない。
評価項目2	工学を幅広く知り、工学の幅広い知識を得ることができる。	工学を幅広く知り、工学の幅広い知識を得ることができる。	工学を幅広く知られず、工学の幅広い知識を得ることができない。
評価項目3	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解できる。	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解できる。	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解できない。
評価項目4	グループで課題に対して楽しく課題が解決方法を、聞き手にわかりやすく伝わる様に発表できる。	グループで課題に対して楽しく課題が解決方法を、聞き手にわかりやすく伝わる様に発表できる。	グループで課題に対して楽しく課題が解決方法を、聞き手にわかりやすく伝わる様に発表できない。
評価項目5	グループで作業を通して力を発揮できる。	グループで作業を通して力を発揮できる。	グループで作業を通して力を発揮できない。
評価項目6	収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できない。
評価項目7	効果的意思をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	効果的意思をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	効果的意思をもてずチームでの作業・研究を進めることができない。
評価項目8	自らの現状を認識し、将来のあり方に向かっていくために現状での必要な学習や活動を考えることができる。	自らの現状を認識し、将来のあり方に向かっていくために現状での必要な学習や活動を考えることができる。	自らの現状を認識し、将来のあり方に向かっていくために現状での必要な学習や活動を考えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	自身の専門分野における演習や実験に加え、自身に関連する可能性のある他専門分野に関する演習や実験を通して、幅広い工学的知識と実践力を習得させる。 また、専門系の異なる学生とのグループワークを行い、様々な考え方を理解させ、幅広い視点において工学を捉えられるようになることを目的とする。 各専門系の特徴や将来を見据えた機械設計やグループワークを行う。 また、インターンシップ等、現場社会で必要な情報収集、自身のキャリア形成に必要な能力や態度を身に付けることを目的とする。
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、基本的に実験や演習などを中心に行う。 グループ単位での演習や実験を行わせる。 授業時間外学習として、Blackboard、Office365などが使用されることもある。 また、課題提出や遠隔などに関する連絡はOffice365のメールにより行われる。
注意点	- Blackboard・Office365のメールを、標準に利用できる様にしておくこと。 - 授業時間外学習として、課題や実験レポートなどの提出を求める場合もあります。 - グループ学習では、自分の役割を果たす、グループ活動に積極的に参加すること。 - 予習において、自己のキャリアについて常に意識し、将来の進路選択を行う際の参考にすること。

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	前期内容ガイダンス キャリア教育（ポジショニングシートの作成）	自らの現状を認識し、将来の目標に対して現状で必要な学習や活動を考えることができる。
	2週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT（1） -次世代社会におけるIoTとマイコンボードの役割-	次世代社会での工学におけるIoTの重要性および、通信技術やマイコンの役割を理解できる。
	3週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT（2） -Arduinoの仕組み-	Arduinoプログラムの基礎としてアナログ・ディジタル入力、変数、制御文、関数などについて理解できる。
	4週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT（3） -各種入力センサ制御-	超音波センサ、ジャイロセンサなどの入力センサの制御について理解できる。
	5週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT（4） -各種出力部品制御-	モーター、LEDなどの出力部品の制御について理解できる。
	6週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT（5） -各専門系における応用展開-	それぞれの専門系において良く用いられるセンサ・部品を使った回路例などより、自身の有効的な活用方法について考えることができる。
	7週	3D-CADの基本演習（1）	Solidworksの基本的な操作方法が理解できる。
	8週	3D-CADの基本演習（2）	Solidworksの基本的な操作方法が理解できる。
	9週	3D-CADの基本演習（3）	第３角法で書かれた2次元の図面より、3次元の形状を認識し、それを3D-CADにて描く事ができる。

（次ページへ続く）

資料５－１－③－（１）－２（続き）

	10週	3D-CADの基本演習（4）	第３角法で書かれた2次元の図面より、3次元の形状を認識し、それを3D-CADにて描く事ができる。
	11週	3D-CADによる機械部品作図（1）	Solidworksにより簡単な機械部品の作図ができる。
	12週	3D-CADによる機械部品作図（2）	Solidworksにより簡単な機械部品の作図ができる。
	13週	3D-CADによるアセンブリモデルの作成（1）	Solidworksにより簡単な組立部品の作図ができる。
	14週	3D-CADによるアセンブリモデルの作成（2）	Solidworksにより簡単な組立部品の作図ができ、アニメーションにて組み立て部品の動作を確認することができる。
	15週	情報セキュリティー教育	インターネットを利用する上での様々な脅威を認識できる
	16週		
後期	1週	後期内容ガイダンス。 キャリア教育？ （職業人インタビュー）	様々な職業人に対しインタビューし、その内容を簡潔にまとめ発表できる。
	2週	企業見学ツアー	地域に根差す企業を見学し、地域産業の特徴について理解する。
	3週	企業見学ツアー	地域に根差す企業を見学し、地域産業の特徴について理解する。
	4週	技術者倫理教育	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解できる。
	5週	電気電子系専門内容（1）	他系専門内容についての知識を身に付けることができる。
	6週	電気電子系専門内容（2）	他系専門内容についての知識を身に付けることができる。
	7週	電気電子系専門内容（3）	他系専門内容についての知識を身に付けることができる。
	8週	電気電子系専門内容（4）	他系専門内容についての知識を身に付けることができる。
	9週	キャリアシンポジウム	高専出身の企業人の話を聞き、企業・働き方の多様性について理解できる。
	10週	グループワーク演習 -自身のタイプ分け-	自己分析手法について理解できる。 グループ討議に積極的に参加できる。
	11週	グループワーク演習 -合意形成演習-	グループ討議における合意形成手法を理解し、実践できる。 課題に対するグループ討議に、自ら積極的に参加することができる。
	12週	グループワーク演習 -協働作業演習-	主体性をもってグループでの作業に参加できる。 作業の中において情報を収集・整理・分析し、活用していくことができる。
	13週	グループワーク演習 -協働作業演習-	主体性をもってグループでの作業に参加できる。 作業の中において情報を収集・整理・分析し、活用していくことができる。
	14週	グループワーク演習 -SCM演習-	主体性をもってグループでの作業に参加できる。 経営工学的な概念について理解できる。
	15週	グループワーク演習 -プレゼンテーション演習-	聞き手に理解してもらうことを意識して、発表や質疑応答ができる。 相手の発表内容を理解し、質問ができる。
	16週		

評価割合

	課題・レポート	発表	取組み	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	0	10	10	20
専門的能力	40	0	0	40
分野横断的能力	20	10	10	40

（出典　苫小牧工業高等専門学校 Web シラバス）

資料５－１－③－（１）－３

「創造工学Ⅲシラバス」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	創造工学Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0014	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	創造工学科（機械系）	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	なし/自作プリント		
担当教員	浅見 真樹, 土谷 圭史		

到達目標

工学基礎力（ICT活用、数学活用を含む）を高め、様々な工学分野の課題に対応するための基礎力を身につける。
自身の将来のライフプランや職業観・数学観を見直し、成長実現のための自己分析ができる。
グループワークを通じて、問題発見から問題解決までのプロセスを理解し実践することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	工学基礎力を高め、様々な工学分野の課題に対応するための基礎力を身につけることができる。	工学基礎力を高め、様々な工学分野の課題に挑戦することができる。	工学基礎力や様々な工学分野の課題に挑戦することができない。
評価項目2	自身の将来のライフプランや職業観・数学観を見直し、成長実現のための自己分析ができる。	自身の将来のライフプランや職業観・数学観を見直すことができる。	自身の将来のライフプランや職業観・数学観を見直すことができない。
評価項目3	問題発見から問題解決までのプロセスを理解し実践することができる。	問題発見から問題解決までのプロセスを理解している。	問題発見から問題解決までのプロセスを理解せず、実践することもできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	自身の専門分野にとどまらず、幅広い視点から問題解決のためのプロセスを立案し、チームワークによって実践する。 また、キャリアに関する様々な能力や態度を身に付ける。
授業の進め方と授業内容・方法	通常、実験など演習等を中心に行う。 授業は基本的にグループ単位での演習や実験を行う。
注意点	- 予習において、自己のキャリアについて常に意識し、将来の進路選択を行う際の参考にすること。 - ICT活用能力を高めるため、Blackboardなどを積極的に利用する様心がけること。 - 授業時間外学習として、グループで課題研究や製作活動に取り組む場合がある。 - グループ学習では、自分の役割を果たす、グループ活動に積極的に参加すること。

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	ガイダンス キャリア教育（キャリア・デンカー）	学習内容を把握できる 自分の将来について考えるきっかけとし、キャリア・デザインを組立てることを理解し、概略ながらもキャリア・デザインを組立てることができる。
	2週	ドローンを用いたプログラミング演習（1）	ドローンなど新領域の飛行原理について事例工学的な観点より理解できる。
	3週	ドローンを用いたプログラミング演習（2）	繰り返しを用いた基本的なプログラムのアルゴリズムについて理解できる。
	4週	ドローンを用いたプログラミング演習（3）	自系の専門知識・技術についての理解を深めることができる。
	5週	ドローンを用いたプログラミング演習（4）	自系の専門知識・技術についての理解を深めることができる。
	6週	3D-CADを用いた作図演習（1）	物体の形状を３平面から考えることができる。 3D-CADにおける作図手法について理解できる。
	7週	3D-CADを用いた作図演習（2）	物体の形状を３平面から考えることができる。 3D-CADにおける作図手法について理解できる。
	8週	3D-CADを用いた作図演習（3）	物体の形状を３平面から考えることができる。 3D-CADにおける作図手法について理解できる。
	9週	3D-CADを用いた作図演習（4）	物体の形状を３平面から考えることができる。 3D-CADにおける作図手法について理解できる。
	10週	キャリア教育（ポジショニング講義）	OBからの講演を聞き、職業に対するイメージを明確にする
	11週	環境分析演習（1）	環境分析手法に関する知識・手法について理解することができる。
	12週	環境分析演習（2）	環境分析手法に関する知識・手法について理解することができる。
	13週	環境分析演習（3）	環境分析手法に関する知識・手法について理解することができる。
	14週	環境分析演習（4）	環境分析手法に関する知識・手法について理解することができる。
	15週	情報セキュリティ教育	インターネットを利用する上での様々な脅威を認識できる
	16週		
後期	1週	ガイダンス 就職作文指導（1） アイスブレイク・チーム形成	後期の学習内容について把握できる 与えられた課題内容について理解できる。
	2週	就職作文指導（2） チームビルディング研修	協働的な作業において、自身の役割を見つけ行動できる。
	3週	就職作文指導（3） 情報収集・整理	事前に収集してきた情報を元に話し合うことができる。

（次ページへ続く）

資料５－１－③－（１）－３（続き）

	4週	領域性学習（4） グループディスカッション	与えられたテーマについて，解決するための道筋や方法を議論して，まとめることができる．
	5週	領域性学習（4） グループディスカッション	与えられたテーマについて，解決するための道筋や方法を議論して，まとめることができる．
	6週	領域性学習（5） 発表資料作成	グループの考えを適切なツールを用いてまとめることができる．
	7週	領域性学習 発表会	適切なツールや手法を用いて，論理的に自分達の考えを聞き手に伝えることができる．
	8週	ＰＢＬ学習（1） テーマ説明	課題内容に対して正しく理解できる．
	9週	キャリア教育（ジョブトーク）	OB等のエンジニアに対するインタビューを通して，種々の仕事内容や社会人としての役割について知る．
	10週	PBL学習（2） グループディスカッション	グループ討議に主体的に参加できる． アイデア創出手法・合意形成手法を理解し，実践できる．
	11週	PBL学習（3） グループディスカッション	グループ討議に主体的に参加できる． アイデア創出手法・合意形成手法を理解し，実践できる．
	12週	PBL学習（4） 課題解決案の創成	様々な情報を分析・整理し，活用すべき情報を選択して課題解決案につなげることができる．
	13週	PBL学習（5） 発表資料の作成	適切なツールや手法を用いて，聞き手に対して分かりやすい発表資料を作成することができる．
	14週	PBL学習（6） 発表会	聞き手の理解を促す発表ができ，適切な質疑応答をすることができる．
	15週	授業の振り返り	これまでの創造工学の内容について取りまとめ，整理し理解を深める
	16週		

評価割合				
	課題	発表	取組み	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	20	10	5	35
専門的能力	20	0	5	25
分野横断的能力	20	10	10	40

（出典　苫小牧工業高等専門学校 Web シラバス）

資料５－１－③－（１）－４

「創造工学Ⅰ教材作成 PBL 概要」

創造工学Ⅰ　教材作成 PBL 概要

1．授業の目標

c) グループワークを通して，チームワーク・コミュニケーション・プレゼン能力を身につける
e) 実験やものづくりを通して，創造力や課題解決能力を身につける
f) ICT 活用能力を身につける

2．授業概要

・来年度以降の創造工学１で実施可能な授業内容を立案し，企画書にまとめる。
・創造力を発揮し，来年度の１年生が興味をもち，かつ，授業の達成目標を満足する授業内容を考えること。
・班で役割分担を決めて，調査や企画書作成を期限内に終わらせること。
・優秀な作品は実際に来年度以降の授業に採用する場合がある。

3．作業方法

1) タイトル
授業内容がわかるタイトルとすること。（例：関数電卓の使い方、ロケットの製作と打ち上げ、Python プログラミング演習）

2) 調査
授業を実施するのに備品（機材）や消耗品（材料）が必要となる場合は，必要となる費用も見積もること。
参考にした書籍や Web ページは参考文献として企画書に記載すること。

3) 企画書
Blackboard に掲載の雛形をダウンロードして、Microsoft Word で作成すること。ページ数は問わない。
表紙（１ページ目）には、タイトル、メンバー（クラス、出席番号、氏名）を書くこと。
本文（２ページ目以降）には、授業の概要、学生への配布資料、必要な備品や消耗品のリスト、参考文献などを記載すること。

4) 進行予定
１週目【11 月 21 日(木)】：グループ内での自己紹介、授業内容のアイデア出し、作業分担決定
２週目【11 月 28 日(木)】：調査
３週目【12 月５日(木)】：企画書作成

4．提出先

班の代表者は 12/12（木）までに，作成した企画書（Word ファイル）を Blackboard にアップロードすること。なお，ファイル名は「班番号(2 桁)」(例：B02.docx）とすること。

5．自己評価と相互評価

提出された各班の企画書を 12/16 までに Office365 の下記にコピーする。
学生用 365 掲示板 ＞ ドキュメント ＞ クラス ＞ １年共通 ＞ 教材作成 PBL
指定された他グループの企画書を採点（相互評価）し，12/16（月）～1/6（月）の期間に Forms（下の QR コード，URL は Blackboard に掲載）に入力すること。

6．成績

活動状況および相互評価や自己評価により成績をつける。

（出典　授業配付資料）

資料５－１－③－（１）－５

「創造工学Ⅱ５系混合グループワークについて」

創造工学Ⅱ 5系混合グループワークについて

文責：機械系　浅見

1. 課題テーマに関して
この5系混合グループワークにおける課題は，
“SDGs達成に向けた苫小牧高専としての取組みプロジェクトの創案”
とします．SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）は，2016年から2030年までの間に達成を目指す世界共通の課題であり，17の目標と169のターゲットが掲げられています．これの達成に向けて，世界中の企業，各種団体などが活動を始めています．この達成のためのプロジェクトとしては，新たな技術開発といった研究開発から我々の普段の生活に密着した地道な活動まで含めて，様々なことが考えられます．自らの頭で世の中にあるSDGs達成のために解決する必要がある問題（課題）を探索し，苫小牧高専として問題の解決に貢献できる活動について企画して貰います．

2. 今回のグループワークにおける学習目標
・幅広い視点で社会や技術について考えられるようになる．
・主体的に「問題を見つける」「解決案を考える」といった点について取り組む．
・専門分野の異なる相手との協働能力を養う．
・収集した情報の中から，活用すべき情報を選択できるようになる．
・グループディスカッションや企画案の発表を通して，相手に対して論理的に物事を説明できるようになる．

3. スケジュール(予定)

授業回数	日	機械	都市・環境	応用化学・生物	電気電子	情報科学・工学
9	12/4	グループ分け，アイスブレイク，課題創出に関するプレスト				
10	12/11	課題創出に関するプレスト⇒取組み課題の決定				
11	12/18	課題解決策に関するプレスト				
12	1/8	課題解決策に関するプレスト，課題解決案の企画書作成				
13	1/1	課題解決案の企画書作成，発表会資料の作成				
14	1/22	発表会				

※　予定が変更される可能性もあります

4. 班分けに関して
別紙参照．

4. 来週以降の集合場所に関して
班の所属する各教室に，始業開始前に直接集まってください．

（出典　授業配付資料）

資料５－１－③－（１）－６

「創造工学Ⅲ後期ガイダンス」

創造工学Ⅲ　後期ガイダンス

1. 科目の学習目的

1) キャリアプランニング能力を身に付ける．
2) グループワークを通して，チームワーク・コミュニケーション能力・プレゼン能力を身に付ける．
3) 新しい技術を体験し，自らの専門への導入を作る．
4) 自系および他系における実験やものづくりを通して，創造力や課題解決能力を身に付ける．
5) ICT 活用能力を身に付ける．

2. 後期日程について

日時	内容
10/2	ガイダンス ＋ アイスブレイク
10/9	デザイン思考テスト ＋ 地域学講演会
10/16	デザイン思考テスト＋GW内容説明 ＋ グループディスカッション
10/30	グループディスカッション or フィールドワーク
11/6	グループディスカッション or フィールドワーク
11/13	グループディスカッション＋発表資料作成
11/20	中間発表
11/27	グループディスカッション
12/4	キャリア講演会（ジョブトークⅡ）
12/11	グループディスカッション
12/18	グループディスカッション
1/8	グループディスカッション＋発表資料作成
1/15	本発表
1/22	デザイン思考テスト ＋ グループワーク振り返り
1/29	デザイン思考カテスト ＋ ポートフォリオ

3. 集合場所について

指示が無い場合は，各 HR にて待機すること．大講義室や違う教室に集合場所については，授業時間内もしくは Office365 のメールにて指示する．

4. 評価に関して

前期の評価は，
課題・報告書：40 %　　発表：40 %　　取組み 20 %
という割合にて行います．必ず期限内に提出物を出すことを心掛けて下さい．

（次ページへ続く）

5. 班分けに関して

資料 1 を参照してください．大きく分けて A~C の 3 つのグループに分けます．各グループごとに，テーマ 1 からテーマ 3 のどれかのテーマに取組んで貰い，発表会などもグループごとにコンペ形式で行う予定となっております．どのグループが，どのテーマに取組むかは，3 週目に発表します．

※ テーマについては，資料 2 を参照してください．

5. 担当教員について

機械系：浅見 廣樹，土谷 圭央

都市・環境系：中村 努，長谷川 聡

応用化学・生物系：樫村 奈生，宇津野 国治

何か困った事があれば，担当の先生 or 機械の浅見に連絡して下さい．

浅見に問合せの場合，下記メールにて連絡してくれると助かります（校務対応等で不在の場合も多い）．

メールアドレス：hasami@tomakomai-ct.ac.jp

6. 諸注意

1) 内容に応じて集合場所が異なるので，しっかりと連絡を確認すること．
   ⇒ office365 のメールを受け取れる様にしておいて下さい．
2) レポートや課題の提出期限を守ること．
3) 欠席の場合には，事前に各系の先生に連絡すること．
4) 筆記用具などは必ず持ってくること．
5) 教室移動の際には必ず貴重品を携帯すること．

7. デザイン思考テストに関して

創造性を評価する民間の会社が開発した試験です．今年度，試行的に実施できることとなり，授業時間等の都合より，創造工学Ⅲ（機械・環境・応化の 3 系）の学生だけ受験することとしました．成績には一切関係しません．ただ，純粋に皆さんの創造力が試験方法に沿って評価されます．

このトライアルでの受験に際して，全員が受講することが義務付けられているため，休んだ際には個別に受けて貰います（インフルエンザなどの長期は無理ですが）．お互い手間になると思いますので，できるだけ休まない様にお願いします．また，場合によってインタビュー等に応じて貰うことがあります．可能な限り御協力をお願います．

（次ページへ続く）

資料 2：グループワークの内容に関して

■ 内容

苫小牧商専に最も近い商店会である『ときわ澄川商店会（通商：西彩商店会）』の方々が抱える課題・問題点等について解決案や企画を構築する．

■ グループワークの目的

近年，グローバルな視点を有しながら地域の課題について考えられる，いわゆるグローカルな視点を有した技術者の育成が求められている．この授業では，自分達が暮らす地域の課題について考え，それらの解決案についてグループで議論し考えることにより，地域について考えられる能力の育成を目指すとともに，**学生の自主的に学ぶ／考える力の向上**を目指す．また，この中において協働能力やプレゼンテーション能力といった**ジェネリックスキルの向上**を図る．

■ 具体的な課題内容に関して

以下の大きなテーマに関して，それぞれの達成のために問題となっている点，問題解決のために商店会が持っている強み等についてディスカッションし，各テーマに対する企画案を考える．

・テーマ 1：商店会の新たなイベントについて

ときわ澄川商店会は，7 月末に商店会としてお祭りを開催しているが，より地域活性化に繋がるような新たなイベントを作りたいと考えている．また現在，スタンプラリーを企画・実施してみたが，余り盛況とは言えない．これの内容や告知方法，もしくは全く新たなイベント案を考える．

・テーマ 2：商店会 Map と活かし方．地域の人がお店に足を運ぶ方策

現在，ときわ澄川商店会の Map があるが，周知度は非常に低く活かされているとも言い難い状況にある．また，商店会のお店に地域（ときわ・澄川町近郊）の人が来ていないという感じがある．新たな商店会 Map の案や活かし方，地域の人がもっとお店に足を運ぶ様な方策・システム作りについて考える．

・テーマ 3：夏祭りの企画・運用に関して

ときわ澄川商店会は，7 月末に商店会としてお祭りを開催しているが，余り盛況とは言えずより地域の人が足を運ぶようになって欲しい．また，人手が足りず四苦八苦している．より多くの人が足を運んでくれるような新たな企画案や，人材を確保するような運用方法・システム作りについて考える．

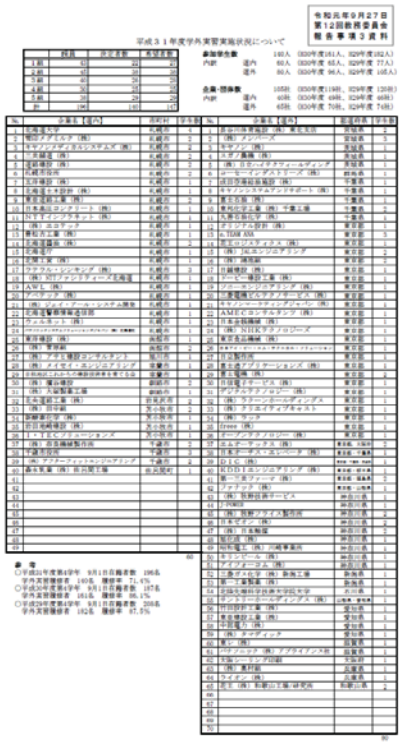
（出典　授業配付資料）

「2019 高専フォーラム OS 発表資料（抜粋）」



（出典　2019 高専フォーラム OS 発表資料）

「平成３１年度学外実習実施状況」



（出典　平成３１年度第１２回教務委員会資料）

資料５－１－③－（２）－２

「フロンティアコースの具現化に関する第２次答申（抜粋）」

１．フロンティアコースで養成する人材像と科目構成

FCWG で第１次答申した「フロンティアコースで養成する人材像」を確認すると以下のように定義されている。

１）次世代起業人材
　将来、高専発ベンチャー設立や企業の経営者になりえるような人材

２）地元の企業や行政機関等の中核となりえる人材
　地域社会のいろんな組織や人をまとめられるリーダーシップを持った人材

３）大企業等においてビジネス感覚に優れたプロジェクトリーダーとなりえる人材
　ヒト、モノ、カネ、情報、技術等の経営資源をマネジメントできる人材

４）国際競争能力を持った人材
　地域社会や大企業、ベンチャー企業のリーダーとして、高度なコミュニケーションやプレゼンテーション能力を持った人

２．フロンティア研究について

ビジネスⅠ～Ⅲおよび国際コミュニケーションはそれぞれの科目において１人の教員が担当するが，フロンティア研究は複数教員が通年で担当することになる。本項ではフロンティア研究の内容や実施体制について提案する。

３－１．フロンティア研究の定義

フロンティア研究の定義として，以下の３項目とした。

１）フロンティア研究は実学研究
・「社会課題解決型」で地域の課題，企業の課題に挑戦
・「現場」を見て，聞いて，課題を発見し，解決する「実学」研究

２）グループによる研究
・系が異なる５名程度の学生がグループを組んで１テーマを実施（最大５テーマ）

３）研究内容について指導する研究テーマ担当教員は複数
・研究テーマ担当教員は系横断的で複数
・大学や自治体、様前会、協力会企業と連携しながら実施

３－２．フロンティア研究の実施内容

専門系の「卒業研究」は８単位であるが「フロンティア研究」は４単位と少なく，かつ系横断的に実施することから，特定の系の実験設備等への依存度の高い研究や深掘するような研究は困難であることが想定される。また，フロンティア研究は，地域の課題や企業の課題をグループで研究するため，専門の違う学生がディスカッションしながら研究を深める調査研究等が想定できる。

フロンティア研究はグループで取り組むが，学生個々の担当範囲を中心に一人ひとりが卒業論文を作成する。ただし，緒言（背景や目的）はグループ内が同一であっても構わない。

（出典　平成３０年度第１１回運営委員会資料）

資料５－１－③－（２）－３

「機械設計製図Ⅲ　シラバス」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度（2019年度）	授業科目	機械設計製図Ⅲ

科目基礎情報			
科目番号	0044	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 3
開設学科	創造工学科（機械系共通科目）	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	教員作成資料を配布する。		
担当教員	浅見 真理		

到達目標
1) リンク機構，カム機構，歯車機構の各機構について理解し，これらの運動に関する計算を解くことができる。 2) 3D-CADによる部品作成とアセンブリができ，モーションシミュレーションによる運動解析手法を理解できる。 3) 与えられた課題に対してグループで製品考案ができる。

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	リンク機構，カム機構，歯車機構の各機構について理解し，これらの運動に関する計算を解くことができる。	リンク機構，カム機構，歯車機構の各機構について理解し，これらの運動に関する計算を解くことができる。	リンク機構，カム機構，歯車機構の各機構について理解できず，これらの運動に関する計算も解くことができない。
評価項目2	3D-CADによる部品作成とアセンブリができ，モーションによる運動解析手法を理解できる。	3D-CADによる部品作成とアセンブリができ，モーションによる運動解析手法を理解できる。	3D-CADによる部品作成とアセンブリができず，モーションによる運動解析手法も理解できない。
評価項目3	与えられた課題に対してグループで製品考案ができる。	与えられた課題に対してグループで製品考案ができる。	与えられた課題に対してグループで製品考案ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等	
概要	本講義では，歯車機構の基礎について学ぶ。 まずリンク機構や歯車伝達機構等を利用した平面クランクなどの組立機械を3D-CADにより作成してアニメーションにより運動を確認する手法を習得することで，組立機械の構造や機構運動に関する理解を深める。
授業の進め方と授業内容・方法	講義は，座学形式による知識を習得した後に，3D-CADによる製図を行う形式で進める。 評価は100点法により行い，合格点は60点とする。前期評価の内訳は，授業内における演習問題・関連などのレポート約40%，3D-CADによる製図50%，授業態度および出席10%とする。授業内における演習問題・関連などの小テストおよび，3D-CADによる製図作業内容が50%，基礎技術習得に対するインテグレーションを20%，学生間の教師内評価10%，教員側の評価を10%とする。
注意点	履修には，関連授業科目をすること。また，必要に応じて数学や力学の復習を行うこと。 JABEE教育到達目標：試験（D-4，20 %），課題（E-2，20 %　H-1，40 %　I-1，20 %）

授業計画			
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	機構運動の基礎（1）	機構に関する基本的な用語について理解できる。
	2週	機構運動の基礎（2）	瞬間中心の求め方について理解できる。
	3週	機構運動の基礎（3）	瞬間中心を用いたリンクの速度算出方法が理解できる。
	4週	機構運動の基礎（4）	瞬間中心を用いたリンクの加速度算出方法が理解できる。
	5週	リンク演習（1）	回転運動連鎖によって生じる各種機構について理解できる。 3D-CADを用いてでスクランク機構のアセンブリモデルを作成し，運動シミュレーションができる。
	6週	リンク演習（2）	スライダクランク連鎖によって生じる機構について理解できる。 往復スライダクランク機構のスライダ部の速度・加速度を計算できる。
	7週	リンク演習（3）	3D-CADを用いて往復スライダクランク機構のアセンブリモデルを作成し，運動シミュレーションができる。
	8週	リンク演習（4）	他スライダクランク連鎖によって生じる各種機構について理解できる。 3D-CADを用いて他スライダクランク機構のアセンブリモデルを作成し，運動シミュレーションができる。
	9週	リンク演習（5）	平行運動機構，直線運動機構，球面運動連鎖について理解できる。 3D-CADを用いて各種機構のアセンブリモデルを作成し運動シミュレーションができる。
	10週	カム機構（1）	カム機構とカム線図について理解できる。
	11週	カム機構（2）	3D-CADを用いて基本的な板カムの作図ができる。
	12週	カム機構（3）	3D-CADを用いて様々な場合の板カムの作図ができ，板カム機構の運動をシミュレーションができる。
	13週	巻掛け伝動機構	巻掛け伝動機構について理解し，運動関係を解くことができる。
	14週	3D-CAD演習（1）	応用的な3D-CADモデルを作図できる。
	15週	3D-CAD演習（2）	応用的な3D-CADモデルを作図できる。
	16週		
後期	1週	歯車機構（1）	歯車の種類と歯面の接条件について理解できる。 インボリュート歯形について理解できる。
	2週	歯車機構（2）	歯のかみ合い率や滑り率について理解できる。 歯の曲げ強さや歯面強さについて理解できる。

（次ページへ続く）

資料５－１－③－（２）－３（続き）

	3週	歯車装置（3）	3D-CADを用いて歯車装置の作成ができる。 3D-CADを用いて作製した歯車装置により，シミュレーションができる。
	4週	総合課題（1）	これまで学んだ機構に関する知識を用いて，課題を解決するロボットの考案ができる。
	5週	総合課題（2）	これまで学んだ機構に関する知識を用いて，課題を解決するロボットの考案ができる。
	6週	総合課題（3）	考案したロボットを作成するための部品を，3D-CADで作成できる。
	7週	総合課題（4）	考案したロボットを作成するための部品を，3D-CADで作成できる。
	8週	総合課題（5）	考案したロボットを作成するための部品を，3D-CADで作成できる。
	9週	総合課題（6）	3D-CADにより考案したロボットのアセンブリモデルを作成し，問題点について考案できる。
	10週	総合課題（7）	3D-CADにより考案したロボットのアセンブリモデルを作成し，問題点について考案できる。
	11週	総合課題（8）	3D-CADにより考案したロボットのアセンブリモデルを作成し，問題点について考案できる。
	12週	総合課題（9）	考案したロボットを，キット素材等を使い組み上げることができる。
	13週	総合課題（10）	考案したロボットを，キット素材等を使い組み上げることができる。
	14週	総合課題（11）	考案したロボットを，キット素材等を使い組み上げることができる。
	15週	総合課題（12）	考案したロボットについて，コンセプト等を含めて全体に分かりやすく発表できる。
	16週		

評価割合							
	試験	発表	取組み	相互評価			合計
総合評価割合	60	20	15	5	0	0	100
基礎的能力	0	10	10	5	0	0	25
専門的能力	60	10	5	0	0	0	75
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

（出典　苫小牧工業高等専門学校 Web シラバス）

資料５－２－①－（１）

「科目統括表」

教育課程	区分１	区分２	区分３	科目名	英訳科目名	科目ナンバー	必修・選択	学年別単位数 1年	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	5年 前期	5年 後期	単位数	単位方式	開講形態	授業形式 講義	演習	実験・実習
1	一般	全系	国語	国語Ⅰ	Japanese Ⅰ	101010	必修	3									3	履修	通年	3	○	
2	一般	全系	国語	国語Ⅱ	Japanese Ⅱ	101020	必修		3								3	履修	通年	3	○	
3	一般	全系	国語	国語Ⅲ	Japanese Ⅲ	101030	必修			2							2	履修	通年	2	○	
4	一般	全系	社会	地理	Geography	102010	必修	2									2	履修	通年	2	○	
5	一般	全系	社会	歴史	History	102020	必修		2								2	履修	通年	2	○	
6	一般	全系	社会	倫理・社会	Ethics	102030	必修	2									2	履修	通年	2	○	
7	一般	全系	社会	政治・経済	Politics・Economy	102040	必修		2								2	履修	通年	2	○	
8	一般	全系	数学	数学ⅠA	Mathematics ⅠA	103010	必修	4									4	履修	通年	4	○	
9	一般	全系	数学	数学ⅠB	Mathematics ⅠB	103020	必修	3									3	履修	通年	3	○	
10	一般	全系	数学	数学ⅡA	Mathematics ⅡA	103030	必修		3								3	履修	通年	3	○	
11	一般	全系	数学	数学ⅡB	Mathematics ⅡB	103040	必修		3								3	履修	通年	3	○	
12	一般	全系	数学	数学ⅢA	Mathematics ⅢA	103050	必修			4							4	履修	通年	4	○	
13	一般	全系	数学	数学ⅢB	Mathematics ⅢB	103060	必修			3							3	履修	通年	3	○	
14	一般	全系	理科	化学Ⅰ	Chemistry Ⅰ	104010	必修	2									2	履修	通年	2	○	
15	一般	全系	理科	化学Ⅱ	Chemistry Ⅱ	104020	必修		2								2	履修	通年	2	○	
16	一般	全系	理科	物理基礎	Introduction to Physics	104090	必修	2									2	履修	通年	2	○	
17	一般	全系	理科	物理Ⅰ	Physics Ⅰ	104040	必修		2								2	履修	通年	2	○	
18	一般	全系	理科	物理Ⅱ	Physics Ⅱ	104050	必修			2							2	履修	通年	2	○	
19	一般	全系	理科	地学・生物	Earth science and Biology	104060	必修	1									1	履修	通年	1	○	
20	一般	全系	保健体育	保健	Health	105010	必修	1									1	履修	通年	1	○	○
21	一般	全系	保健体育	体育Ⅰ	Physical Education Ⅰ	105020	必修	2									2	履修	通年	2		○
22	一般	全系	保健体育	体育Ⅱ	Physical Education Ⅱ	105030	必修		2								2	履修	通年	2		○
23	一般	全系	保健体育	体育Ⅲ	Physical Education Ⅲ	105040	必修			2							2	履修	通年	2		○
24	一般	全系	外国語	英語ⅠA	English ⅠA	106010	必修	3									3	履修	通年	3	○	
25	一般	全系	外国語	英語ⅠB	English ⅠB	106020	必修	2									2	履修	通年	2	○	
26	一般	全系	外国語	英語ⅡA	English ⅡA	106030	必修		3								3	履修	通年	3	○	
27	一般	全系	外国語	英語ⅡB	English ⅡB	106040	必修		2								2	履修	通年	2	○	
28	一般	全系	外国語	英語ⅢA	English ⅢA	106050	必修			3							3	履修	通年	3	○	
29	一般	全系	外国語	英語ⅢB	English ⅢB	106060	必修			2							2	履修	通年	2	○	
30	一般	全系	外国語	英語ⅣC	English ⅣC	106070	必修				4						4	学修	通年	2	○	
31	一般	全系	外国語	英語ⅤC	English ⅤC	106080	必修					4					4	学修	通年	2	○	
32	一般	全系	芸術	音楽	Music	107010	選択	1									1	履修	後期	2	○	
33	一般	全系	芸術	美術	Art	107020	選択	1									1	履修	後期	2	○	
34	一般	全系	芸術	書道	Calligraphy	107030	選択	1									1	履修	後期	2	○	
35	一般	全系	教養Ⅰ	法学	Introduction to Law	108010	選択				2						2	学修	後期	2	○	
36	一般	全系	教養Ⅰ	哲学	Philosophy	108020	選択				2						2	学修	後期	2	○	
37	一般	全系	教養Ⅰ	経済学	Economics	108030	選択				2						2	学修	前期	2	○	
38	一般	全系	教養Ⅰ	日本史	Japanese History	108040	選択				2						2	学修	前期	2	○	
39	一般	全系	教養Ⅰ	社会学	Sociology	108050	選択				2						2	学修	後期	2	○	
40	一般	全系	教養Ⅰ	第二外国語A	Second Foreign Language A	108060	選択				2						2	学修	前期	2	○	
41	一般	全系	教養Ⅰ	第二外国語B	Second Foreign Language B	108070	選択				2						2	学修	後期	2	○	
42	一般	全系	教養Ⅰ	特別学修Ⅰ		108900	選択				2						2		通年			
43	一般	全系	教養Ⅱ	日本事情	View of Japanese Society and Culture	109010	選択					2					2	学修	前期	2	○	
44	一般	全系	教養Ⅱ	英会話	English Conversation	109020	選択					2					2	学修	後期	2	○	
45	一般	全系	教養Ⅱ	英語特論A	Special Lecture Course of English Topic A	109050	選択					2					2	学修	前期	2	○	
46	一般	全系	教養Ⅱ	英語特論B	Special Lecture Course of English Topic B	109060	選択					2					2	学修	後期	2	○	
47	一般	全系	教養Ⅱ	日本語コミュニケーション	Japanese Communication	109030	選択					2					2	学修	前期	2	○	
48	一般	全系	教養Ⅱ	数学特別講義	Special Lecture on Mathematics	109060	選択					2					2	学修	後期	2	○	
49	一般	全系	教養Ⅱ	現代科学特論	Lecture Course in Modern Science	109070	選択					2					2	学修	後期	2	○	
50	一般	機械系	教養Ⅱ	特別学修Ⅱ		109900	選択					2					2		通年			
51	専門	機械系	全系共通	創造工学Ⅰ	Creative Engineering Ⅰ	110010	必修	4									4	履修	通年	4	○	○
52	専門	機械系	全系共通	創造工学Ⅱ	Creative Engineering Ⅱ	110020	必修		2								2	履修	通年	2	○	○
53	専門	機械系	全系共通	創造工学Ⅲ	Creative Engineering Ⅲ	110030	必修			2							2	履修	通年	2	○	○

（次ページへ続く）

資料５－２－①－（１）－１（続き）

整理番号	区分1	区分2	区分3	科目名	英語科目名	科目コード	必修・選択	学年別単位数 1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	単位数	単位方式	開講時期	コマ数	実施形式 講義	演習	実験・実習
54	専門	機械系	全系共通	情報技術基礎	Introduction to Information Technology	110040	必修	2					2	履修	通年	2	○		
55	専門	機械系	全系共通	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	110050	必修				2		2	学修	前期	2	○		
56	専門	機械系	全系共通	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	110060	必修				2		2	学修	後期	2	○		
57	専門	機械系	全系共通	応用物理Ⅰ	Applied Physics Ⅰ	110070	必修				2		2	学修	前/後	2	○		
58	専門	機械系	全系共通	プレ卒業研究	Pre-Research Project	110500	必修				1		1	履修	後期	2			○
59	専門	機械系	機械系共通	情報技術	Information Technology	111010	必修		1				1	履修	前期	2	○		
60	専門	機械系	機械系共通	プログラミング	Programming	111020	必修				2		2	学修	前期	2	○		
61	専門	機械系	機械系共通	工業力学Ⅰ	Engineering Mechanics Ⅰ	111030	必修		1				1	履修	後期	2	○		
62	専門	機械系	機械系共通	工業力学Ⅱ	Engineering Mechanics Ⅱ	111040	必修			2			2	履修	通年	2	○		
63	専門	機械系	機械系共通	材料力学Ⅰ	Strength of Materials Ⅰ	111050	必修			2			2	履修	通年	2	○		
64	専門	機械系	機械系共通	材料力学Ⅱ	Strength of Materials Ⅱ	111060	必修				2		2	学修	前期	2	○		
65	専門	機械系	機械系共通	機械材料学Ⅰ	Engineering Materials Ⅰ	111070	必修			1			1	履修	前期	2	○		
66	専門	機械系	機械系共通	機械材料学Ⅱ	Engineering Materials Ⅱ	111080	必修				2		2	学修	後期	2	○		
67	専門	機械系	機械系共通	環境エネルギシステム	Environmental Energy System	111090	必修				2		2	学修	後期	2	○		
68	専門	機械系	機械系共通	熱工学Ⅰ	Thermal Engineering Ⅰ	111100	必修				2		2	学修	後期	2	○		
69	専門	機械系	機械系共通	熱工学Ⅱ	Thermal Engineering Ⅱ	111110	必修					2	2	学修	後期	2	○		
70	専門	機械系	機械系共通	流体工学Ⅰ	Fluid Mechanics Ⅰ	111120	必修				2		2	学修	前期	2	○		
71	専門	機械系	機械系共通	流体工学Ⅱ	Fluid Mechanics Ⅱ	111130	必修					2	2	学修	前期	2	○		
72	専門	機械系	機械系共通	加工学Ⅰ	Manufacturing Technology Ⅰ	111140	必修			1			1	履修	後期	2	○		
73	専門	機械系	機械系共通	加工学Ⅱ	Manufacturing Technology Ⅱ	111150	必修				2		2	学修	前期	2	○		
74	専門	機械系	機械系共通	機械力学	Dynamics of Machinery	111160	必修				2		2	学修	後期	2	○		
75	専門	機械系	機械系共通	機械設計製図Ⅰ	Machine Design and Drawing Ⅰ	113010	必修		3				3	履修	通年	3		○	
76	専門	機械系	機械系共通	機械設計製図Ⅱ	Machine Design and Drawing Ⅱ	113020	必修			3			3	履修	通年	3		○	
77	専門	機械系	機械系共通	機械設計製図Ⅲ	Machine Design and Drawing Ⅲ	113030	必修				3		3	履修	通年	3		○	
78	専門	機械系	機械系共通	機械設計製図Ⅳ	Machine Design and Drawing Ⅳ	113040	必修					2	2	履修	通年	2		○	
79	専門	機械系	機械系共通	機械工学実験Ⅰ	Mechanical Engineering Laboratory Ⅰ	113050	必修				3		3	履修	通年	3			○
80	専門	機械系	機械系共通	機械工学実験Ⅱ	Mechanical Engineering Laboratory Ⅱ	113060	必修					3	3	履修	通年	3			○
81	専門	機械系	機械系共通	機械工学実習Ⅰ	Mechanical Engineering Practice Ⅰ	113070	必修		3				3	履修	通年	3			○
82	専門	機械系	機械系共通	機械工学実習Ⅱ	Mechanical Engineering Practice Ⅱ	113080	必修			3			3	履修	通年	3			○
83	専門	機械系	機械コース	制御工学	Control Engineering	115010	必修					2	2	学修	前期	2	○		
84	専門	機械系	機械コース	生産工学	Production Engineering	115020	必修					2	2	学修	後期	2	○		
85	専門	機械系	機械コース	卒業研究	Graduation Research	116510	必修					8	8	履修	通年	8			○
86	専門	機械系	フロンティアコース	ビジネスⅠ	Business Ⅰ	117040	必修				2		2	学修	前期	2	○		
87	専門	機械系	フロンティアコース	ビジネスⅡ	Business Ⅱ	117050	必修					2	2	学修	前期	2	○		
88	専門	機械系	フロンティアコース	ビジネスⅢ	Business Ⅲ	117060	必修					2	2	学修	後期	2	○		
89	専門	機械系	フロンティアコース	国際コミュニケーション	International Communication	117070	必修					2	2	学修	前期	2	○		
90	専門	機械系	フロンティアコース	フロンティア研究	Graduation Research in Frontier Course	117500	必修					4	4	履修	通年	4			○
91	専門	機械系	全系共通	機械工学概論	Introduction to Mechanical Engineering	118010	選択				2		2	学修	前期	2	○		
92	専門	機械系	全系共通	地球環境科学概論	Introduction to Earth and Environmental Sciences	118020	選択				2		2	学修	後期	2	○		
93	専門	機械系	全系共通	生体・微生物学概論	Introduction to Biology & Microbiology	118030	選択				2		2	学修	前期	2	○		
94	専門	機械系	全系共通	電気工学概論	Introduction to Electrical Engineering	118040	選択				2		2	学修	後期	2	○		
95	専門	機械系	全系共通	国際コミュニケーション	International Communication	118050	選択				2		2	学修	前期	2	○		
96	専門	機械系	全系共通	医療・福祉	Outline of Medical Engineering	118060	選択				2		2	学修	後期	2	○		
97	専門	機械系	全系共通	デザインとＣＡＤ	Design and CAD	118070	選択				2		2	学修	前期	2	○		
98	専門	機械系	全系共通	エネルギー概論	Introduction to Energy	118080	選択				2		2	学修	後期	2	○		
99	専門	機械系	全系共通	応用数学Ⅲ	Applied Mathematics Ⅲ	118090	選択				2		2	学修	前期	2	○		
100	専門	機械系	全系共通	応用数学Ⅳ	Applied Mathematics Ⅳ	118100	選択				2		2	学修	後期	2	○		
101	専門	機械系	全系共通	応用物理Ⅱ	Applied Physics Ⅱ	118110	選択				2		2	学修	前期	2	○		
102	専門	機械系	全系共通	応用物理Ⅲ	Applied Physics Ⅲ	118120	選択				2		2	学修	後期	2	○		
103	専門	機械系	機械系共通	医療機械工学	Biomedical Engineering	119010	選択					2	2	学修	後期	2	○		
104	専門	機械系	機械系共通	システム制御	Control Engineering	119020	選択					2	2	学修	後期	2	○		
105	専門	機械系	機械系共通	計測工学	Instrumentation Engineering	119030	選択					2	2	学修	前期	2	○		
106	専門	機械系	機械系共通	学外実習	Internship	119900	選択				1		1	履修	通年				○

（次ページへ続く）

資料５－２－①－（１）－１（続き）

整理番号	区分1	区分2	区分3	科目名	英語科目名	科目コード	必修・選択	学年別単位数 1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	単位数	単位方式	開講時期	コマ数	実施形式 講義	演習	実験・実習
107	専門	機械系	機械系共通	特別学修（機械工学）		119950	選択				2		2		通年				
108	専門	都市・環境系	全系共通	創造工学Ⅰ	Creative Engineering Ⅰ	120010	必修	4					4	履修	通年	4		○	○
109	専門	都市・環境系	全系共通	創造工学Ⅱ	Creative Engineering Ⅱ	120020	必修		2				2	履修	通年	2		○	○
110	専門	都市・環境系	全系共通	創造工学Ⅲ	Creative Engineering Ⅲ	120030	必修			2			2	履修	通年	2		○	○
111	専門	都市・環境系	全系共通	情報技術基礎	Introduction to Information Technology	120040	必修	2					2	履修	通年	2	○		
112	専門	都市・環境系	全系共通	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	120050	必修				2		2	学修	前期	2	○		
113	専門	都市・環境系	全系共通	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	120060	必修				2		2	学修	後期	2	○		
114	専門	都市・環境系	全系共通	応用物理Ⅰ	Applied Physics Ⅰ	120070	必修				2		2	学修	前/後	2	○		
115	専門	都市・環境系	全系共通	プレ卒業研究	Pre-Research Project	120500	必修				1		1	履修	後期	2			○
116	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	情報処理	Information Processing	121010	必修		1				1	履修	後期	2		○	○
117	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市・環境工学概論	Introduction to Civil Engineering	121020	必修		1				1	履修	前期	2		○	○
118	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	建設材料学	Civil Engineering Materials	121030	必修			1			1	履修	前期	2	○		
119	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	測量学Ⅰ	Surveying Ⅰ	121040	必修		2	[illegible]			2	履修	通年	2	○		
120	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	測量学Ⅱ	Surveying Ⅱ	121050	必修				2		2	学修	後期	2	○		
121	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	構造力学Ⅰ	Structural Mechanics Ⅰ	121060	必修		2				2	履修	通年	2	○		
122	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	構造力学Ⅱ	Structural Mechanics Ⅱ	121070	必修			2			2	履修	通年	2	○		
123	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	構造力学Ⅲ	Structural Mechanics Ⅲ	121080	必修				2		2	学修	前期	2	○		
124	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	水理学Ⅰ	Hydraulics Ⅰ	121090	必修			2			2	履修	通年	2	○		
125	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	水理学Ⅱ	Hydraulics Ⅱ	121100	必修				2		2	学修	前期	2	○		
126	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	地盤工学Ⅰ	Geotechnical Engineering Ⅰ	121110	必修			2			2	履修	通年	2	○		
127	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	地盤工学Ⅱ	Geotechnical Engineering Ⅱ	121120	必修				2		2	学修	前期	2	○		
128	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	コンクリート構造学Ⅰ	Reinforced Concrete Engineering Ⅰ	121130	必修				2		2	学修	後期	2	○		
129	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	道路工学	Highway Engineering	121140	必修				2		2	学修	前期	2	○		
130	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市計画	Urban Planning	121150	必修				2		2	学修	後期	2	○		
131	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	計画システム分析	Infrastructure Planning	121160	必修					2	2	学修	前期	2	○		
132	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	衛生工学	Sanitary Engineering	121170	必修					2	2	学修	前期	2	○		
133	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	測量学実習Ⅰ	Practice on Surveying Ⅰ	123010	必修		1				1	履修	前期	2		○	○
134	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	測量学実習Ⅱ	Practice on Surveying Ⅱ	123020	必修			2			2	履修	前期	4		○	○
135	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市・環境設計製図Ⅰ	Civil Engineering Design & Drawing Ⅰ	123030	必修		1				1	履修	後期	2		○	○
136	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市・環境設計製図Ⅱ	Civil Engineering Design & Drawing Ⅱ	123040	必修			1			1	履修	後期	2		○	○
137	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市・環境設計製図Ⅲ	Civil Engineering Design & Drawing Ⅲ	123050	必修				1		1	履修	後期	2		○	○
138	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市・環境設計製図Ⅳ	Civil Engineering Design & Drawing Ⅳ	123060	必修					1	1	履修	後期	2		○	○
139	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市・環境工学実験Ⅰ	Civil Engineering Laboratory Ⅰ	123070	必修			2			2	履修	後期	4		○	○
140	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	都市・環境工学実験Ⅱ	Civil Engineering Laboratory Ⅱ	123080	必修				3		3	履修	通年	3		○	○
141	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	社会基盤工学	Infrastructure Engineering	121180	必修				1		1	履修	前期	2		○	○
142	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	環境工学Ⅰ	Environmental Engineering Ⅰ	121190	必修				1		1	履修	前期	2	○	○	○
143	専門	都市・環境系	都市・環境コース	フィールドワークⅠ	Field Work Ⅰ	125010	必修				1		1	履修	前期	2		○	○
144	専門	都市・環境系	都市・環境コース	フィールドワークⅡ	Field Work Ⅱ	125020	必修					1	1	履修	前期	2		○	○
145	専門	都市・環境系	都市・環境コース	建設マネジメント	Construction Management	125030	必修					2	2	学修	後期	2	○		
146	専門	都市・環境系	都市・環境コース	卒業研究	Graduation Research	126510	必修					8	8	履修	通年	8			○
147	専門	都市・環境系	フロンティアコース	ビジネスⅠ	Business Ⅰ	127040	必修				2		2	学修	前期	2	○		
148	専門	都市・環境系	フロンティアコース	ビジネスⅡ	Business Ⅱ	127050	必修					2	2	学修	前期	2	○		
149	専門	都市・環境系	フロンティアコース	ビジネスⅢ	Business Ⅲ	127060	必修					2	2	学修	後期	2	○		
150	専門	都市・環境系	フロンティアコース	国際コミュニケーション	International Communication	127070	必修					2	2	学修	前期	2	○		
151	専門	都市・環境系	フロンティアコース	フロンティア研究	Graduation Research in Frontier Course	127500	必修					4	4	履修	通年	4			○
152	専門	都市・環境系	全系共通	機械工学概論	Introduction to Mechanical Engineering	128010	選択				2		2	学修	前期	2	○		
153	専門	都市・環境系	全系共通	地球環境科学概論	Introduction to Earth and Environmental Sciences	128020	選択				2		2	学修	後期	2	○		
154	専門	都市・環境系	全系共通	生体・微生物学概論	Introduction to Biology & Microbiology	128030	選択				2		2	学修	前期	2	○		
155	専門	都市・環境系	全系共通	電気工学概論	Introduction to Electrical Engineering	128040	選択				2		2	学修	後期	2	○		
156	専門	都市・環境系	全系共通	国際コミュニケーション	International Communication	128050	選択				2		2	学修	前期	2	○		
157	専門	都市・環境系	全系共通	医療・福祉	Outline of Medical Engineering	128060	選択				2		2	学修	後期	2	○		
158	専門	都市・環境系	全系共通	デザインとＣＡＤ	Design and CAD	128070	選択				2		2	学修	前期	2	○		
159	専門	都市・環境系	全系共通	エネルギー概論	Introduction to Energy	128080	選択				2		2	学修	後期	2	○		

（次ページへ続く）

資料５－２－①－（１）－１（続き）

整理番号	区分1	区分2	区分3	科目名	英語科目名	科目コード	必修・選択	学年別単位数 1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	単位数	単位方式	開講時期	コマ数	実施形式 講義	演習	実験・実習
160	専門	都市・環境系	全系共通	応用数学Ⅲ	Applied Mathematics Ⅲ	128090	選択				2		2	学修	前期	2	○		
161	専門	都市・環境系	全系共通	応用数学Ⅳ	Applied Mathematics Ⅳ	128100	選択				2		2	学修	後期	2	○		
162	専門	都市・環境系	全系共通	応用物理Ⅱ	Applied Physics Ⅱ	128110	選択				2		2	学修	前期	2	○		
163	専門	都市・環境系	全系共通	応用物理Ⅲ	Applied Physics Ⅲ	128120	選択				2		2	学修	後期	2	○		
164	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	河川・水資源工学	River & Water Resource Engineering	129010	選択					2	2	学修	後期	2	○		
165	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	海岸・港湾工学	Coastal and Port Engineering	129020	選択					2	2	学修	前期	2	○		
166	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	橋梁・耐震工学	Bridge Engineering & Seismic Engineering	129030	選択					2	2	学修	前期	2	○		
167	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	コンクリート構造学Ⅱ	Concrete Engineering Ⅱ	129040	選択					2	2	学修	前期	2	○		
168	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	交通システム	Transportation and Traffic Engineering	129050	選択					2	2	学修	後期	2	○		
169	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	景観工学	Landscape Engineering	129060	選択					2	2	学修	後期	2	○		
170	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	環境工学Ⅱ	Environmental Engineering Ⅱ	129070	選択					2	2	学修	後期	2	○		
171	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	学外実習	Internship	129900	選択				1		1	履修	通年				○
172	専門	都市・環境系	都市・環境系共通	特別学修（都市・環境工学）		129950	選択				1		1	履修	通年				
173	専門	応用化学・生物系	全系共通	創造工学Ⅰ	Creative Engineering Ⅰ	130010	必修	4					4	履修	通年	4		○	○
174	専門	応用化学・生物系	全系共通	創造工学Ⅱ	Creative Engineering Ⅱ	130020	必修		2				2	履修	通年	2		○	○
175	専門	応用化学・生物系	全系共通	創造工学Ⅲ	Creative Engineering Ⅲ	130030	必修			2			2	履修	通年	2		○	○
176	専門	応用化学・生物系	全系共通	情報技術基礎	Introduction to Information Technology	130040	必修	2					2	履修	通年	2	○		
177	専門	応用化学・生物系	全系共通	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	130050	必修				2		2	学修	前期	2	○		
178	専門	応用化学・生物系	全系共通	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	130060	必修				2		2	学修	後期	2	○		
179	専門	応用化学・生物系	全系共通	応用物理Ⅰ	Applied Physics Ⅰ	130070	必修				2		2	学修	前/後	2	○		
180	専門	応用化学・生物系	全系共通	プレ卒業研究	Pre-Research Project	130500	必修				1		1	履修	後期	2			○
181	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	分析化学Ⅰ	Analytical Chemistry Ⅰ	131010	必修		1				1	履修	前期	2	○		
182	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	分析化学Ⅱ	Analytical Chemistry Ⅱ	131020	必修		1				1	履修	後期	2	○		
183	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	分析化学Ⅲ	Analytical Chemistry Ⅲ	131030	必修			1			1	履修	前期	2	○		
184	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	無機化学Ⅰ	Inorganic Chemistry Ⅰ	131040	必修		1				1	履修	後期	2	○		
185	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	無機化学Ⅱ	Inorganic Chemistry Ⅱ	131050	必修			1			1	履修	前期	2	○		
186	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	無機化学Ⅲ	Inorganic Chemistry Ⅲ	131060	必修				2		2	学修	前期	2	○		
187	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	有機化学Ⅰ	Organic Chemistry Ⅰ	131070	必修		1				1	履修	後期	2	○		
188	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	有機化学Ⅱ	Organic Chemistry Ⅱ	131080	必修			1			1	履修	前期	2	○		
189	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	有機化学Ⅲ	Organic Chemistry Ⅲ	131090	必修				2		2	学修	前期	2	○		
190	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	有機化学演習	Organic Chemistry Exercise	133010	必修					1	1	履修	前期	2		○	
191	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	物理化学Ⅰ	Physical Chemistry Ⅰ	131110	必修			1			1	履修	後期	2	○		
192	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	物理化学Ⅱ	Physical Chemistry Ⅱ	131120	必修				2		2	学修	後期	2	○		
193	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	物理化学演習	Physical Chemistry Exercise	133020	必修					1	1	履修	後期	2		○	
194	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	生物学	Biology	131140	必修		1				1	履修	通年	1	○		
195	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	生化学Ⅰ	Biochemistry Ⅰ	131150	必修			1			1	履修	後期	2	○		
196	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	生化学Ⅱ	Biochemistry Ⅱ	131160	必修				2		2	学修	前期	2	○		
197	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	分子生物学	Molecular Biology	131170	必修				2		2	学修	後期	2	○		
198	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	化学工学Ⅰ	Chemical Engineering Ⅰ	131180	必修			1			1	履修	後期	2	○		
199	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	化学工学Ⅱ	Chemical Engineering Ⅱ	131190	必修				2		2	学修	後期	2	○		
200	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	化学工学演習	Chemical Engineering Exercise	133030	必修					1	1	履修	後期	2		○	
201	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	情報処理Ⅰ	Computer Science Ⅰ	131210	必修				1		1	履修	前期	2	○	○	
202	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	情報処理Ⅱ	Computer Science Ⅱ	131220	必修					1	1	履修	前期	2	○	○	
203	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	機器分析	Instrumental Analysis	131230	必修					2	2	学修	前期	2	○		
204	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	高分子化学	Polymer Chemistry	131240	必修					2	2	学修	前期	2	○		
205	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	品質管理	Quality Control	131250	必修					2	2	学修	後期	2	○		
206	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	応用化学・生物実験Ⅰ	Chemistry Laboratory Ⅰ	133040	必修		3				3	履修	通年	3			○
207	専門	応用化学・生物系	応用化学・生物系共通	応用化学・生物実験Ⅱ	Chemistry Laboratory Ⅱ	133050	必修			6			6	履修	通年	6			○
208	専門	応用化学・生物系	機能材料コース	機能材料Ⅰ	Science of Functional Materials Ⅰ	135010	必修				2		2	学修	後期	2	○		
209	専門	応用化学・生物系	機能材料コース	機能材料Ⅱ	Science of Functional Materials	135020	必修					2	2	学修	前期	2	○		
210	専門	応用化学・生物系	機能材料コース	応用物理化学	Applied Physical Chemistry	135030	必修					2	2	学修	後期	2	○		
211	専門	応用化学・生物系	機能材料コース	プロセス設計	Process Design	135040	必修					2	2	学修	後期	2	○	○	
212	専門	応用化学・生物系	機能材料コース	機能材料実験	Advanced Chemistry Laboratory	135050	必修				6		6	履修	通年	6			○

（次ページへ続く）

資料５－２－①－（１）－１（続き）

整理番号	区分1	区分2	区分3	科目名	英語科目名	科目コード	必修・選択	学年別単位数 1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	単位数	単位方式	開講時期	コマ数	実施形式 講義	演習	実験・実習
266	専門	電気電子系	電気電子系共通	ディジタル回路	Digital Circuits	141170	必修					2	2	学修	後期	2	○		
267	専門	電気電子系	電気電子系共通	制御工学Ⅰ	Control Engineering Ⅰ	141180	必修					2	2	学修	前期	2	○		
268	専門	電気電子系	電気電子系共通	通信工学Ⅰ	Electrical Communication Ⅰ	141190	必修				2		2	学修	後期	2	○		
269	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子創造実験	Electrical and Electronic Creative Laboratory	143040	必修		3				3	履修	通年	3			○
270	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子工学実験Ⅰ	Electrical and Electronic Engineering Laboratory Ⅰ	143050	必修			3			3	履修	通年	3			○
271	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子工学実験Ⅱ	Electrical and Electronic Engineering Laboratory Ⅱ	143060	必修				3		3	履修	通年	3			○
272	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子工学実験Ⅲ	Electrical and Electronic Engineering Laboratory Ⅲ	143070	必修					2	2	履修	前期	2			○
273	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子セミナー	Seminars on Electrical and Electronic Engineering	143080	必修				1		1	履修	前期	2		○	○
274	専門	電気電子系	電気電子コース	電気電子材料	Electrical and Electronic Engineering Materials	145010	必修					2	2	学修	前期	2	○		
275	専門	電気電子系	電気電子コース	システム工学	System Engineering	145020	必修					2	2	学修	後期	2	○		
276	専門	電気電子系	電気電子コース	卒業研究	Graduation Research	146510	必修					8	8	履修	通年	8			○
277	専門	電気電子系	フロンティアコース	ビジネスⅠ	Business Ⅰ	147040	必修				2		2	学修	前期	2	○		
278	専門	電気電子系	フロンティアコース	ビジネスⅡ	Business Ⅱ	147050	必修					2	2	学修	前期	2	○		
279	専門	電気電子系	フロンティアコース	ビジネスⅢ	Business Ⅲ	147060	必修					2	2	学修	後期	2	○		
280	専門	電気電子系	フロンティアコース	国際コミュニケーション	International Communication	147070	必修					2	2	学修	前期	2	○		
281	専門	電気電子系	フロンティアコース	フロンティア研究	Graduation Research in Frontier Course	147500	必修					4	4	履修	通年	4			○
282	専門	電気電子系	全系共通	機械工学概論	Introduction to Mechanical Engineering	148010	選択				2		2	学修	前期	2	○		
283	専門	電気電子系	全系共通	地球環境科学概論	Introduction to Earth and Environmental Sciences	148020	選択				2		2	学修	後期	2	○		
284	専門	電気電子系	全系共通	生体・微生物学概論	Introduction to Biology & Microbiology	148030	選択				2		2	学修	前期	2	○		
285	専門	電気電子系	全系共通	電気工学概論	Introduction to Electrical Engineering	148040	選択				2		2	学修	後期	2	○		
286	専門	電気電子系	全系共通	国際コミュニケーション	International Communication	148050	選択				2		2	学修	前期	2	○		
287	専門	電気電子系	全系共通	医療・福祉	Outline of Medical Engineering	148060	選択				2		2	学修	後期	2	○		
288	専門	電気電子系	全系共通	デザインとＣＡＤ	Design and CAD	148070	選択				2		2	学修	前期	2	○		
289	専門	電気電子系	全系共通	エネルギー概論	Introduction to Energy	148080	選択				2		2	学修	後期	2	○		
290	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅲ	Applied Mathematics Ⅲ	148090	選択				2		2	学修	前期	2	○		
291	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅳ	Applied Mathematics Ⅳ	148100	選択				2		2	学修	後期	2	○		
292	専門	電気電子系	全系共通	応用物理Ⅱ	Applied Physics Ⅱ	148110	選択				2		2	学修	前期	2	○		
293	専門	電気電子系	全系共通	応用物理Ⅲ	Applied Physics Ⅲ	148120	選択				2		2	学修	後期	2	○		
294	専門	電気電子系	電気電子系共通	電力システム工学	Electric Power System Engineering	149010	選択					2	2	学修	前期	2	○		
295	専門	電気電子系	電気電子系共通	パワーエレクトロニクス	Power Electronics	149020	選択					2	2	学修	前期	2	○		
296	専門	電気電子系	電気電子系共通	制御工学Ⅱ	Control Engineering Ⅱ	149030	選択					2	2	学修	後期	2	○		
297	専門	電気電子系	電気電子系共通	電磁波工学	Electromagnetic Wave Engineering	149040	選択					2	2	学修	前期	2	○		
298	専門	電気電子系	電気電子系共通	半導体工学	Semiconductor Engineering	149050	選択					2	2	学修	後期	2	○		
299	専門	電気電子系	電気電子系共通	通信工学Ⅱ	Electrical Communication Ⅱ	149060	選択					2	2	学修	前期	2	○		
300	専門	電気電子系	電気電子系共通	信号処理	Signal Processing	149070	選択					2	2	学修	後期	2	○		
301	専門	電気電子系	電気電子系共通	学外実習	Internship	149900	選択				1		1	履修	通年				○
302	専門	電気電子系	電気電子系共通	特別学修（電気電子工学）		149950	選択				1		1		通年				
303	専門	電気電子系	全系共通	創造工学Ⅰ	Creative Engineering Ⅰ	150010	必修	4					4	履修	通年	4		○	○
304	専門	電気電子系	全系共通	創造工学Ⅱ	Creative Engineering Ⅱ	150020	必修		2				2	履修	通年	2		○	○
305	専門	電気電子系	全系共通	創造工学Ⅲ	Creative Engineering Ⅲ	150030	必修			2			2	履修	通年	2		○	○
306	専門	電気電子系	全系共通	情報技術基礎	Introduction to Information Technology	150040	必修	2					2	履修	通年	2	○		
307	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	150050	必修				2		2	学修	前期	2	○		
308	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	150060	必修				2		2	学修	後期	2	○		
309	専門	電気電子系	全系共通	応用物理Ⅰ	Applied Physics Ⅰ	150070	必修				2		2	学修	前/後	2	○		
310	専門	電気電子系	全系共通	プレ卒業研究	Pre-Research Project	150500	必修				1		1	履修	後期	2			○
311	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	回路理論Ⅰ	Circuit Theory Ⅰ	151010	必修			2			2	履修	通年	2	○		
312	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	回路理論Ⅱ	Circuit Theory Ⅱ	151020	必修				2		2	学修	前期	2	○		
313	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	電子工学	Electronic Engineering	151030	必修			1			1	履修	後期	2	○		
314	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	論理回路Ⅰ	Logic Circuit Ⅰ	151040	必修		2				2	履修	通年	2	○		
315	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	論理回路Ⅱ	Logic Circuit Ⅱ	151050	必修			1			1	履修	前期	2	○		
316	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	プログラミングⅠ	Programming Ⅰ	151060	必修		3				3	履修	通年	3	○		
317	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	プログラミングⅡ	Programming Ⅱ	151070	必修			2			2	履修	通年	2	○		
318	専門	情報科学・工学系	情報科学・工学系共通	システムソフトウェア	System Software	151080	必修					2	2	学修	前期	2	○		

（次ページへ続く）

資料５－２－①－（１）－１（続き）

整理番号	区分1	区分2	区分3	科目名	英訳科目名	科目ナンバー	必修・選択	学年別単位数 1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	単位数	単位方式	開講時期	週数	実施形式 講義	実習	演習・その他
266	専門	電気電子系	電気電子系共通	ディジタル回路	Digital Circuits	141170	必修					2	2	学修	後期	2	○		
267	専門	電気電子系	電気電子系共通	制御工学Ⅰ	Control Engineering Ⅰ	141180	必修					2	2	学修	前期	2	○		
268	専門	電気電子系	電気電子系共通	通信工学Ⅰ	Electrical Communication Ⅰ	141190	必修				2		2	学修	後期	2	○		
269	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子創造実験	Electrical and Electronic Creative Laboratory	143040	必修			3			3	履修	通年	3			○
270	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子工学実験Ⅰ	Electrical and Electronic Engineering Laboratory Ⅰ	143050	必修				3		3	履修	通年	3			○
271	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子工学実験Ⅱ	Electrical and Electronic Engineering Laboratory Ⅱ	143060	必修					3	3	履修	通年	3			○
272	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子工学実験Ⅲ	Electrical and Electronic Engineering Laboratory Ⅲ	143070	必修					2	2	履修	前期	2			○
273	専門	電気電子系	電気電子系共通	電気電子セミナー	Seminar in Electrical and Electronic Engineering	143080	必修					1	1	履修	前期	1	○	○	
274	専門	電気電子系	電気電子コース	電気電子材料	Electrical and Electronic Engineering Materials	145010	必修					2	2	学修	前期	2	○		
275	専門	電気電子系	電気電子コース	システム工学	System Engineering	145020	必修					2	2	学修	後期	2	○		
276	専門	電気電子系	電気電子コース	卒業研究	Graduation Research	146510	必修					8	8	履修	通年	8			○
277	専門	電気電子系	フロンティアコース	ビジネスⅠ	Business Ⅰ	147040	必修				2		2	学修	前期	2	○		
278	専門	電気電子系	フロンティアコース	ビジネスⅡ	Business Ⅱ	147050	必修					2	2	学修	前期	2	○		
279	専門	電気電子系	フロンティアコース	ビジネスⅢ	Business Ⅲ	147060	必修					2	2	学修	後期	2	○		
280	専門	電気電子系	フロンティアコース	国際コミュニケーション	International Communication	147070	必修					2	2	学修	前期	2	○		
281	専門	電気電子系	フロンティアコース	フロンティア研究	Graduate Research in Frontier Course	147500	必修					4	4	履修	通年	4			○
282	専門	電気電子系	全系共通	機械工学概論	Introduction to Mechanical Engineering	148010	選択					2	2	学修	前期	2	○		
283	専門	電気電子系	全系共通	地球環境科学概論	Introduction to Earth and Environmental Sciences	148020	選択					2	2	学修	後期	2	○		
284	専門	電気電子系	全系共通	生医・農生物学概論	Introduction to Biology & Microbiology	148030	選択					2	2	学修	前期	2	○		
285	専門	電気電子系	全系共通	電気工学概論	Introduction to Electrical Engineering	148040	選択					2	2	学修	後期	2	○		
286	専門	電気電子系	全系共通	国際コミュニケーション	International Communication	148050	選択					2	2	学修	前期	2	○		
287	専門	電気電子系	全系共通	医療・福祉	Outline of Medical Engineering	148060	選択					2	2	学修	後期	2	○		
288	専門	電気電子系	全系共通	デザインとCAD	Design and CAD	148070	選択					2	2	学修	後期	2	○		
289	専門	電気電子系	全系共通	エネルギー概論	Introduction to Energy	148080	選択					2	2	学修	後期	2	○		
290	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅲ	Applied Mathematics Ⅲ	148090	選択					2	2	学修	前期	2	○		
291	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅳ	Applied Mathematics Ⅳ	148100	選択					2	2	学修	後期	2	○		
292	専門	電気電子系	全系共通	応用物理Ⅱ	Applied Physics Ⅱ	148110	選択					2	2	学修	前期	2	○		
293	専門	電気電子系	全系共通	応用物理Ⅲ	Applied Physics Ⅲ	148120	選択					2	2	学修	後期	2	○		
294	専門	電気電子系	電気電子系共通	電力システム工学	Electric Power System Engineering	149010	選択					2	2	学修	前期	2	○		
295	専門	電気電子系	電気電子系共通	パワーエレクトロニクス	Power Electronics	149020	選択					2	2	学修	後期	2	○		
296	専門	電気電子系	電気電子系共通	制御工学Ⅱ	Control Engineering Ⅱ	149030	選択					2	2	学修	後期	2	○		
297	専門	電気電子系	電気電子系共通	電磁波工学	Electromagnetic Wave Engineering	149040	選択					2	2	学修	後期	2	○		
298	専門	電気電子系	電気電子系共通	半導体工学	Semiconductor Engineering	149050	選択					2	2	学修	後期	2	○		
299	専門	電気電子系	電気電子系共通	通信工学Ⅱ	Electrical Communication Ⅱ	149060	選択					2	2	学修	後期	2	○		
300	専門	電気電子系	電気電子系共通	信号処理	Signal Processing	149070	選択					2	2	学修	後期	2	○		
301	専門	電気電子系	電気電子系共通	学外実習	Internship	149900	選択				1		1	履修	通年				○
302	専門	電気電子系	電気電子系共通	特別学修（電気電子工学）		149950	選択					1	1		通年				
303	専門	電気電子系	全系共通	創造工学Ⅰ	Creative Engineering Ⅰ	150010	必修	4					4	履修	通年	4	○	○	
304	専門	電気電子系	全系共通	創造工学Ⅱ	Creative Engineering Ⅱ	150020	必修		3				3	履修	通年	3	○	○	
305	専門	電気電子系	全系共通	創造工学Ⅲ	Creative Engineering Ⅲ	150030	必修			2			2	履修	通年	2	○	○	
306	専門	電気電子系	全系共通	情報技術基礎	Introduction to Information Technology	150040	必修	2					2	履修	通年	2	○		
307	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	150050	必修				2		2	学修	前期	2	○		
308	専門	電気電子系	全系共通	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	150060	必修				2		2	学修	後期	2	○		
309	専門	電気電子系	全系共通	応用物理Ⅰ	Applied Physics Ⅰ	150070	必修				2		2	学修	前期	2	○		
310	専門	電気電子系	全系共通	プレ卒研究	Pre-Research Project	150500	必修				1		1	履修	後期	2			○
311	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	回路理論Ⅰ	Circuit Theory Ⅰ	151010	必修			2			2	履修	前期	2	○		
312	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	回路理論Ⅱ	Circuit Theory Ⅱ	151020	必修				2		2	学修	前期	2	○		
313	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	電子工学	Electronic Engineering	151030	必修			1			1	履修	後期	2	○		
314	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	論理回路Ⅰ	Logic Circuit Ⅰ	151040	必修		2				2	履修	通年	2	○		
315	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	論理回路Ⅱ	Logic Circuit Ⅱ	151050	必修			1			1	履修	前期	1	○		
316	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	プログラミングⅠ	Programming Ⅰ	151060	必修		3				3	履修	通年	3	○		
317	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	プログラミングⅡ	Programming Ⅱ	151070	必修			2			2	履修	後期	2	○		
318	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	システムソフトウェア	System Software	151080	必修					2	2	学修	前期	2	○		

（次ページへ続く）

資料５－２－①－（１）－１（続き）

整理番号	区分1	区分2	区分3	科目名	英訳科目名	科目ナンバー	必修・選択	学年別単位数 1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	単位数	単位方式	開講時期	週数	実施形式 講義	実習	演習・その他
319	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	オペレーティングシステム	Operating System	151090	必修					2	2	学修	前期	2	○		
320	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	ソフトウェア工学	Software Engineering	151100	必修					2	2	学修	後期	2	○		
321	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	計算機システム	Computer Architecture and Organization	151110	必修			2			2	履修	通年	2	○		
322	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	ハードウェア基礎	Fundamentals of Hardware	151120	必修					2	2	学修	前期	2	○		
323	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報数学	Mathematical Foundations for Computer Science	151130	必修					2	2	学修	後期	2	○		
324	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	コンピュータグラフィックス	Computer Graphics	151140	必修					2	2	学修	後期	2	○		
325	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	データベース	Database	151150	必修					2	2	学修	前期	2	○		
326	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	ディジタル信号処理	Digital Signal Processing	151160	必修					2	2	学修	前期	2	○		
327	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	組込みシステム基礎	Fundamentals of Embedded System	151170	必修					2	2	学修	後期	2	○		
328	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報通信	Computer Communication	151180	必修					2	2	学修	後期	2	○		
329	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	システム工学	Systems Engineering	151190	必修					2	2	学修	後期	2	○		
330	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報科学・工学セミナー	Seminar in Computer Science and Engineering	153010	必修			1			1	履修	後期	2			○
331	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	ソフトウェアデザイン演習Ⅰ	Exercises of Software Design Ⅰ	153020	必修			1			1	履修	後期	2			○
332	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	ソフトウェアデザイン演習Ⅱ	Exercises of Software Design Ⅱ	153030	必修				1		1	履修	前期	2			○
333	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	ソフトウェアデザイン演習Ⅲ	Exercises of Software Design Ⅲ	153040	必修				1		1	履修	後期	2			○
334	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報セキュリティ演習	Exercise of Information Security	153050	必修				1		1	履修	前期	2			○
335	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報科学・工学実験Ⅰ	Computer Science and Engineering Laboratory Ⅰ	153060	必修	3					3	履修	通年	3			○
336	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報科学・工学実験Ⅱ	Computer Science and Engineering Laboratory Ⅱ	153070	必修		3				3	履修	通年	3			○
337	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報科学・工学実験Ⅲ	Computer Science and Engineering Laboratory Ⅲ	153080	必修			3			3	履修	通年	3			○
338	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	情報科学・工学実験Ⅳ	Computer Science and Engineering Laboratory Ⅳ	153090	必修				2	2	4	履修	前期	4			○
339	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	線形システム演習	Exercise of Linear System	153010	必修				2	2	4	履修	通年	2	○		
340	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	リアルタイムOS演習	Exercise of Real Time Operating System	153020	必修				1	1	2	履修	後期	2	○		
341	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	ネットワーク演習	Exercise of Network Programming	153030	必修				1	1	2	履修	後期	2	○		
342	専門	情報科学・工学系	フロンティアコース	卒業研究	Graduation Research	156510	必修					8	8	履修	通年	8			○
343	専門	情報科学・工学系	フロンティアコース	ビジネスⅠ	Business Ⅰ	157040	必修				2		2	学修	前期	2	○		
344	専門	情報科学・工学系	フロンティアコース	ビジネスⅡ	Business Ⅱ	157050	必修					2	2	学修	前期	2	○		
345	専門	情報科学・工学系	フロンティアコース	ビジネスⅢ	Business Ⅲ	157060	必修					2	2	学修	後期	2	○		
346	専門	情報科学・工学系	フロンティアコース	国際コミュニケーション	International Communication	157070	必修					2	2	学修	前期	2	○		
347	専門	情報科学・工学系	フロンティアコース	フロンティア研究	Graduate Research in Frontier Course	157500	必修					4	4	履修	通年	4			○
348	専門	情報科学・工学系	全系共通	機械工学概論	Introduction to Mechanical Engineering	158010	選択					2	2	学修	前期	2	○		
349	専門	情報科学・工学系	全系共通	地球環境科学概論	Introduction to Earth and Environmental Sciences	158020	選択					2	2	学修	後期	2	○		
350	専門	情報科学・工学系	全系共通	生医・農生物学概論	Introduction to Biology & Microbiology	158030	選択					2	2	学修	前期	2	○		
351	専門	情報科学・工学系	全系共通	電気工学概論	Introduction to Electrical Engineering	158040	選択					2	2	学修	後期	2	○		
352	専門	情報科学・工学系	全系共通	国際コミュニケーション	International Communication	158050	選択					2	2	学修	前期	2	○		
353	専門	情報科学・工学系	全系共通	医療・福祉	Outline of Medical Engineering	158060	選択					2	2	学修	後期	2	○		
354	専門	情報科学・工学系	全系共通	デザインとCAD	Design and CAD	158070	選択					2	2	学修	後期	2	○		
355	専門	情報科学・工学系	全系共通	エネルギー概論	Introduction to Energy	158080	選択					2	2	学修	後期	2	○		
356	専門	情報科学・工学系	全系共通	応用数学Ⅲ	Applied Mathematics Ⅲ	158090	選択					2	2	学修	前期	2	○		
357	専門	情報科学・工学系	全系共通	応用数学Ⅳ	Applied Mathematics Ⅳ	158100	選択					2	2	学修	後期	2	○		
358	専門	情報科学・工学系	全系共通	応用物理Ⅱ	Applied Physics Ⅱ	158110	選択					2	2	学修	前期	2	○		
359	専門	情報科学・工学系	全系共通	応用物理Ⅲ	Applied Physics Ⅲ	158120	選択					2	2	学修	後期	2	○		
360	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	学外実習	Internship	159900	選択				1		1	履修	通年				○
361	専門	情報科学・工学系	機械制・工学系	特別学修（情報科学・工学）		159950	選択					1	1	履修	通年				
362	他	全系	全系共通	特別活動	Special Activities	160001													
363	他	全系	全系共通	行事		160999													
363	363	363	363	363	355	363	361	189	74	91	108	287	749	356	361	356	199	51	75

（出典　学生課保存資料）

資料５－２－①－（２）－１

「フィールドワーク□　シラバス」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	フィールドワークⅠ
科目基礎情報				
科目番号	0047	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	創造工学科（都市・環境系）	対象学年	4	
開設期	通年	週時間数	1	
教科書/教材	金子研一 - 建設施工、森北出版、日本建設機械施工協会 - ICTを活用した建設技術			
担当教員	下沖利 英弘			

到達目標
MCCの割り5 V-F-3 施工・法規 VI-F 建設系分野（実験・実習能力）
・土工、基礎工、出来工の概要を理解する。 ・ICT測量機器を使用して実習できる。 ・従来施工とICT施工の相違について理解する。

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
V-F-3 施工・法規	土工、基礎工、出来工の概要を説明することができる。	土工、基礎工、出来工の各種工法の概略を答えることができる。	左記項目に関することができない
VI-F 建設系分野（実験・実習能力）	ICT測量機器を使用して測量を行い、結果の整理ができる。	ICT測量機器を使用した測量ができる。	左記項目に関することができない
情報化施工	従来施工とICT施工の違いを説明することができる。	ICT施工の概要を理解することができる。	左記項目に関することができない

学科の到達目標項目との関係
教育方法等

概要	土工事における機械および工事の施工方法に関する基礎的な知識について講義する。 ICT測量機材を使用した測量を行い、データの整理を行う。 従来施工と比較したICT施工について講義する。 この科目は主に測量・施工管理を対象としている教育が、従来施工と最新の施工について講義・実習形式で授業を行うものであり、また、当該授業では企業の技術者を招聘し、最新のICT施工に関する講義・実習を実施する。
授業の進め方と授業内容・方法	前半は土工に関する基礎的な講義を実施する。後半は特別時間割を編成して、ICT施工の基本となるICT測量機材を使用した実習および施工に関する当該授業を実施する。
注意点	前半の講義では、演習を踏まえての課題提出をすること　実習では高価な機材を扱うため、私語等を慎み実習に集中すること。また、関連する分野の専門書等を積極し授業の理解を促進するために、45時間の自学自習時間を要する。

授業計画			
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	土工1	測量の成果に基づく土工の概要を理解することができる。
	2週	土工2	測量の成果に基づく土工の概要を理解することができる。
	3週	地盤改良工	土工を行う前段階としての地盤改良工の概要を理解することができる。
	4週	基礎工1	構造物構築のために必要な基礎工の概要について理解することができる。
	5週	基礎工2	構造物構築のために必要な基礎工の概要について理解することができる。
	6週	出来工	構造物を構築するために一時的に施工する手法の概要について理解することができる。
	7週	ICT施工実習	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	8週	ICT施工出前授業1	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	9週	ICT施工出前授業2	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	10週	ICT施工出前授業3	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	11週	ICT施工出前授業4	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	12週	自動追尾トータルステーションによる出来形管理実習	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	13週	GNSS測量実習	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	14週	3次元測量実習	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	15週	ICT施工実習	最新のICT施工の概要について理解することができる。
	16週		
後期	1週		
	2週		
	3週		
	4週		
	5週		
	6週		
	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		

（次ページへ続く）

資料５－２－①－（２）－１（続き）

12週		
13週		
14週		
15週		
16週		

評価割合				
	試験	実習	課題	合計
総合評価割合	30	40	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	30	40	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0

（出典　苫小牧工業高等専門学校 Web シラバス）

資料５－２－①－（２）－２

「iPad と Chromebook の利用について」

iPadとChromebookの利用について（教職員向けお知らせ）

差出人 ： 村本充(教務主事団) 2019/10/3(木) 16:48

教員各位

サイボウズの施設予約に「ICT機器」があります。
iPadまたはChromebookを利用する場合は必ず事前に予約してください。

iPadは教務係にあります。
Chromebookは倉庫にあります。教務係で鍵を借りてください。

（出典　本校グループウェアサイト）

資料５－２－①－（２）－３

「数学補習について」

平成30年10月

1学年数学補習予定

※ 補習該当者には事前に連絡します

※場所　環境棟2階講義室 G221

日付		時間	担当教員	内容(予定)	備考
10月9日	火	7時間目	金野	集合・命題	月曜授業
10月15日	月	7時間目	藤島	累乗根・指数関数(1)	
10月29日	月	7時間目	村本	三角比	
11月5日	月	7時間目	藤島	指数関数(2)・対数関数	
11月12日	月	7時間目	村本	三角比の応用	

平成30年10月

2学年数学補習予定

※ 補習該当者には事前に連絡します

※場所　環境棟2階講義室 G221

日付		時間	担当教員	内容(予定)	備考
10月16日	火	8時間目	上木	関数の最大・最小	
10月30日	火	8時間目	有馬	平面ベクトル(1)	
11月6日	火	8時間目	金野	不定形の極限、高次導関数	
11月13日	火	8時間目	有馬	平面ベクトル(2)、空間ベクトル	
11月20日	火	8時間目	上木	曲線の凹凸、媒介変数表示	

（出典　数学担当教員作成資料）

資料５－２－①－（２）－４

「令和元年度第１回教員連絡ネットワーク」

令和元年８月２８日
第 ３ 回 ＦＤ 部 会
議 題 １ 資 料

第３回　FD 部会

今年度は，本校の教育内容・手法の理解や向上につながる情報共有と意見交換を行う場として，下記の様に教員間連絡ネットワークを実施したいと考える．

令和元年度　第１回教員間連絡 ネットワーク（案）

日時：2019 年 9 月 24 日（火） 13:30～15:15
場所：中講義室

■ FD 部会長挨拶（5 分）

■ 苫小牧高専における分野横断 PBL と共同教育の実施状況と課題（仮）
時間：13:35～14:15（質疑応答込みで 40 分）
発表者：浅見
概要：高専フォーラムで開催した OS の内容をもとに，本校における分野横断 PBL と共同教育の実施状況と課題，また他高専における分野横断 PBL 等の実施例について報告を行う事で情報共有を行うとともに，質疑応答などを通して今後の展開について意見交換を行う．

■ 休憩（10 分）

■ CBT 活用授業の教育効果とカリキュラム改善（仮）
時間：14:25～15:05（質疑応答込みで 40 分）
発表者：高橋先生
概要：2，3 年生の数学や応用数学Ⅰ等の授業において合同授業や CBT を積極的に活用した授業を展開されている高橋先生に，合同授業および CBT 活用授業の実施状況や課題，今後の展開等についてお話いただき，双方に関する情報共有や意見交換を行う．

■ 全体質問・まとめ
時間：15:05～15:15
概要：上記に関連した内容，もしくはそれ以外の本校教育に関する意見交換を行う．

（出典　平成３１年度第３回 FD 部会　資料）

資料５－２－②－（１）－１

「シラバス作成手順」



（出典　平成２８年度第２１回教務委員会資料）

資料５－２－②－（４）

「授業時間の変更について」

令和元年９月２７日
第１２回教務委員会
議　題　２　資　料　②

教務事項の改善について（その４）

45分授業を廃止し、原則として２コマ連続とする。

現状

9:00 - 9:45	9:50 - 10:35	10:45 - 11:30	11:35 - 12:20	13:10 - 13:55	14:00 - 14:45	14:50 - 15:35	15:40 - 16:25
１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限	７時限	８時限

提案　２コマ連続 90 分とする

9:00 - 10:30	10:40 - 12:10	13:00 - 14:30	14:40 - 16:10
１－２時限	３－４時限	５－６時限	７－８時限

備考
・やむを得ない理由で１コマを維持する科目（ＨＲ等）は原則として７時限目の 50 分間（14:40～15:30）とする。
・３履修単位の実験・演習は１－３時限または５－７時限を原則とする。
・３履修単位の座学科目は次のいずれかを原則とする。
　ａ）前期４コマ＋後期２コマ
　ｂ）前期２コマ＋後期４コマ
　ｃ）通年２コマ＋前後期２コマ×８週
・１履修単位の座学科目は半期２コマを原則とする。
・１学修単位の座学科目は半期２コマ×８週を原則とする。

（出典　平成３１年度第１２回教務委員会資料）

資料５－２－②－（５）

「苦小牧工業高等専門学校学則」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第４章　教育課程等

（授業期間）
第13条　１年間の授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，35週にわたることを原則とする。

（教育課程）
第14条　教育課程は，授業科目及び特別活動により編成するものとする。
２　授業科目並びにその開設単位数及び修得単位数は，一般科目にあっては別表第２，専門科目にあっては別表第３のとおりとする。
３　特別活動は，第１学年から第３学年までの各学年30単位時間計90単位時間実施する。

（単位数の計算）
第15条　各授業科目の単位数は，30単位時間の履修を１単位として計算するものとする。
２　前項の規定にかかわらず，第４学年及び第５学年の授業科目については，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算することができる。
一　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。
二　実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。
３　前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は，60単位を超えないものとする。
４　第１項の規定にかかわらず，学外実習及び卒業研究については，その学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には，それに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることがある。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料５－２－②－（６）

「生産工学　シラバス」

生産工学　M5-2300 Production Engineering		教員名：浅見廣樹　E-mail：hasami@ne.tomakomai-ct.ac.jp 教員室：機械工学科棟３階 321 号室（0144-67-8009）
機械工学科５年	単位数・必修/選択・授業時間	２学修単位Ａ・必修・後期週３時間
授業の進め方 本講義では，工業生産活動において必要な知識の習得と生産管理・工程管理・品質管理といった管理技法の理解に重点を置き，生産活動に必要な問題解決能力を養う．また，エンジニアに近年求められている経営的視点の持ち方についても授業を行う。		
履修上の注意 配布プリントを中心に授業を進めるため，プリントを綴じるファイルを用意すること。 一定項目ごとに課題を課すので，これにより自学自習を行うこと。 また自学自習として，講義内容の復習のみならず，実社会の生産活動に関する動向にも関心を配り，授業内容と照らし合わせながら幅広い視野で理解を深める様に心掛けてください。		
授業の内容		
授業項目	授業時間	授業項目に対する達成目標
1.　生産工学序論：生産の目的と問題	1	・科目の学習目的が理解出来ている。
2.　経営工学 2-1　産業の分類、工業の経営形態、生産の形態 2-2　工場計画、工場立地要因、工場配置計画	6	・産業の分類、工業の経営形態の基礎知識を持っている。 ・工場立地についての評価方法を知っており、具体的事例においての考察に使える。
3.　生産管理 3-1　生産管理の目的 3-2　様々な生産形態と生産システム 3-3　生産計画、需要予測、資源所要量計画(MRP) 3-4　ERP、SCM について	11	・生産管理技術手法・生産システムの基礎知識を持っており，それを利用することができる。 ・需要予測、在庫管理、物流管理についての基礎知識を持っている。
4.　工程管理 4-1　ジョンソン法、ジャクソン法 4-2　PERT(読み方、作成法、クリティカルパスの算出)	8	・工程管理の意味を理解し、最適工程を導き出す事が出来る。 ・ＰＥＲＴ手法によりＡＯＡ計画表を作成し，クリティカルパスを求めることが出来る。
－－－後期中間試験－－－	2	
5.　作業研究 5-1 工程分析記号 5-2 動作研究、作業測定	2	・工程分析の方法を知っている。
6.　統計的品質管理（QC） 6-1　品質管理とは 6-2　統計的品質管理手法	9	・品質管理という考え方を理解出来ている。 ・現場的 QC 手法を理解し，身の回りの問題解決に利用することが出来る。
7.　アカウンティングとファイナンス 7-1　企業価値の評価、会計システム 7-2　原価計算、ファイナンス	3	・統計的品質管理手法を使うことができる。 ・ＢＳ，ＰＬから企業情勢の簡単な判断が出来る。 ・会計，原価計算，金融の基礎知識を持っている。
8.　マーケティング 8-1　市場環境分析 8-2　市場調査と販売戦略展開	3	・マーケティングの意義について理解している。 ・市場環境の分析方法についての基礎知識を持っており，それを利用することが出来る。
－－－後期定期試験－－－		
自学自習時間	60	毎回の授業内において，プリントに記入した要点内容の復習を行うこと。 また技術的内容においては，理解を深めるために演習課題を課すので，これにより自学自習すること。

（次ページへ続く）

資料５－２－②－（６）（続き）

達成目標	1) 経営工学，生産管理の知識を持ちその手法を使うことが出来る。 2) 工程管理の手法を理解し，その中の技術を使って日程計画を立てられる。 3) 品質管理の基礎知識と手法を理解し，その技術を使い結果を説明することが出来る。 4) 統計的品質管理の知識と手法を理解し，データを解析し結果を説明することが出来る。	
	学習目標	II
	本科の点検項目（「環境・生産システム工学」教育プログラム学習・教育到達目標）	D-iv，E-ii，F-i，H-i
	JABEE 基準１学習・教育到達目標	(d-1)，(d-2a)，(d-2d)，(e)
評価の観点	以下の観点で達成度の評価を行う。 1) 達成目標の各項目に関する基礎的知識を持ち述べられるか。 2) 達成目標の各項目に関する技術を持ち使用し結果を説明できるか。 3) 生産に関係する問題について，修得した知識，技術使って対応できるか。	
関連科目	加工学Ⅲ，機械設計製図，応用数学，エンジニアリングデザイン(専攻科)， 品質システム工学(専攻科)	
教科書	都崎雅之助著「経営工学概論」森北出版 自作プリント	
参考図書	古川光著「生産工学」森北出版，奥城重道著「生産工学概論」パワー社 中沢，岩出共著「生産工学」コロナ社，熊坂他著「生産工学概論」コロナ社 外島忍著「品質管理」日本規格協会，佐々木著「品質管理の実際」工業調査会 日本機械学会編「機械工学便覧」日本機械学会，その他ＪＩＳハンドブック等 Fundamentals of Engineering Examination, Professional Publications INC	
講義及び試験の内容水準確認のための参考資料	Fundamentals of Engineering Examination, Professional Publications INC Engineering-Training Reference Manual 8-edition, Michael R. Lindberg Industrial Discipline Special Review for the PE/EIT Examination, Professional Publications INC 技術士第一次試験の解答例，技術士研究会編，近代図書 ＪＳＭＥテキストブック，日本機械学会編 品質管理検定試験	
評価法及び基準	試験８割，レポート２割の比率で成績を評価する。 評価は中間試験４割，定期試験４割，レポート等を２割の割合で成績を評価する。 レポート等の評価の観点は，(1) 期限内提出，(2) レポートの書き方，(3)課題の理解度，(4) 継続的学習が伺われるか，である。レポート評価は大変良い：A (90 点以上)，良好：B (80 点)，大体良い：C (70 点)，普通（合格）：D (60 点)，不足である：不合格 E (59 点以下) としA～Eで評価する。 合格点は 60 点以上である。なお，評価が 60 点に満たない場合，試験評価点が４割以上のものに限り，学年末に再試験を行う。	
備考		

（出典　苦小牧工業高等専門学校シラバス）

資料５－３－①－（１）

「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第３章　学業成績の評価及び単位の認定

（履修の認定）

第９条　出席時間数が，年間総授業時間数の３分の２以上の科目については，当該科目を履修したものと認定する。

（学業成績の評価）

第10条　学期及び学年における学業成績は，授業科目ごとに定期試験の成績その他を総合して100点法によって評価する。

２　特別欠席・忌引を除く欠席時間数が年間総授業時間数の５分の１を超える者の評価は，60点を超えないものとする。

３　再試験の成績により学業成績を再評価する場合は，60点を超えないものとする。

４　追認試験の成績により学業成績を再評価する場合は，60点を超えないものとする。

（学業成績の評語）

第11条　学業成績の評語は，次の区分により優，良，可及び不可で表すものとする。

評　語	学業成績の評価
優	80点～100点
良	70点～ 79点
可	60点～ 69点
不可	０点～ 59点

（単位修得の認定）

第12条　第９条の規定により履修を認定した科目の学業成績の評価が60点以上の場合には，単位を修得したものと認定する。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料５－３－①－（２）

「第１～４学年の進級認定について」

平成３０年度　第５回　教員会議記録

◆日　　時　　平成３１年３月１４日（木）１１時００分～１１時３５分
◆場　　所　　大講義室
◆出 席 者　　別紙のとおり（７０名）
◆欠 席 者　　別紙のとおり（１２名）

始めに校長より，本日の記録確認者に佐々木（幸）教員，石川教員を指名した。

議　　題１．第１～４学年の進級認定について【資料有】

八田教務主事から，議題１資料に基づき，第１学年から第４学年の単位修得状況及び進級要件の充足状況等について説明があり，第１学年は在籍199名のうち休学者１名と進級要件を満たせなかった３名を除く195名，第２学年は在籍199名のうち進級要件を満たせなかった６名を除く193名，第３学年は在籍203名のうち進級要件を満たせなかった９名を除く194名，第４学年は在籍187名のうち進級要件を満たせなかった８名を除く179名の進級を認定したい旨提案があり，審議の結果，原案のとおり承認された。

また，進級率について，ほぼ例年同様の数値であった旨報告があった。

進級率
平成30年度　96.2%
平成29年度　96.9%
平成28年度　98.3%
平成27年度　96.0%
平成26年度　94.2%

最後に，校長より，高等教育機関の進級率・退学率を公表する動きもあり，今後も尽力していく必要がある（進級を容易にするという意味ではない）旨発言があった。

（出典　　平成３０年度 第５回 教員会議記録）

資料５－３－①－（３）－１

「生産工学課題採点一覧」

出席番号	名前	No.1+No.2	No.3	No.4	
1	[redacted]	100.0	75.0	100.0	
2		100.0	75.0	100.0	
3		90.0	75.0	75.0	
4		100.0	75.0	75.0	
5		100.0	100.0	100.0	
6		90.0	75.0	100.0	
7		未提出	未提出	未提出	未
8		65.0	75.0	90.0	
9		100.0	75.0	100.0	
10		90.0	59.0	未提出	
11		0.0	未提出	未提出	未
12		100.0	未提出	未提出	未
13		100.0	75.0	100.0	
14		90.0	50.0	100.0	
15		100.0	75.0	100.0	
16		100.0	75.0	100.0	
17		75.0	75.0	100.0	
18		100.0	75.0	100.0	
19		100.0	75.0	100.0	
20		100.0	75.0	100.0	
21		90.0	75.0	100.0	
22		100.0	57.0	75.0	
23		90.0	未提出	100.0	
24		90.0	100.0	100.0	
25		100.0	75.0	100.0	
26		100.0	75.0	100.0	
27		75.0	25.0	75.0	
28		90.0	75.0	100.0	
29		90.0	75.0	100.0	
30		100.0	75.0	100.0	
31		100.0	75.0	75.0	
32		90.0	75.0	100.0	
33		100.0	75.0	100.0	
34		100.0	50.0	75.0	
35		100.0	75.0	100.0	
36		100.0	100.0	100.0	
37		90.0	75.0	100.0	
38		100.0	未提出	100.0	
39		100.0	未提出	未提出	未
40		90.0	75.0	100.0	
41		100.0	75.0	100.0	
42		100.0	75.0	100.0	
43		90.0	75.0	100.0	
44		75.0	75.0	100.0	

（出典　教員保存資料）

資料５－３－①－（３）－２

「生産工学成績採点表」

H28年度　M5生産工学　成績算定表

出席番号	氏名	履修者一覧 最終成績	中間試験（40%）	課題点（10%）	定期試験（40%）	課題点（10%）	総合成績	学年末再試験 点数	学年末再試験 備考
1	[redacted]	80	68	95	82	100	80		
2		79	64	95	94	100	79		
3		85	80	88	88	100	85		
4		64	49	85	84	100	64		
5		79	74	100	73	100	79		
6		75	54	90	88	100	75		
7									
8		73	58	75	88	100	73		
9		81	76	95	77	100	81		
10		77	77	45	77	100	77		
11		60	64	45	52	100	60		
12		60	48	45	65	100	60		
13		88	76	95	96	100	88		
14		79	62	85	96	100	79		
15		89	96	95	96	100	89		
16		80	84	95	84	100	80		
17		73	62	85	74	100	73		
18		72	49	95	81	100	72		
19		92	82	95	97	100	92		
20		66	56	95	64	100	66		
21		76	78	90	62	100	76		
22		61	46	85	58	100	61		
23		78	67	73	84	100	78		
24		82	73	105	88	100	82		
25		86	80	95	84	100	86		
26		88	87	90	82	100	88		
27		60	45	85	84	100	60		
28		83	83	90	90	100	83		
29		75	57	90	82	100	75		
30		82	71	95	88	100	82		
31		66	48	85	77	100	66		
32		82	73	90	84	100	82		
33		88	71	95	90	100	88		
34		79	64	85	88	100	79		
35		73	58	95	92	100	73		
36		90	75	100	92	100	90		
37		83	85	90	74	100	83		
38		69	53	85	84	100	69		
39		60	32	40	62	100	60	70	合格
40		70	54	90	82	100	70		
41		81	84	95	68	100	81		
42		65	36	95	74	100	65		
43		71	42	90	82	100	71		
44		63	31	85	79	100	63		
合計		3263	2685		3401	4300	3251		
平均点		75.9	62.4		79.1	100.0	75.6		

（出典　教員保存資料）

資料５－３－①－（４）

「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第３章　学業成績の評価及び単位の認定

（履修の認定）

第９条　出席時間数が，年間総授業時間数の３分の２以上の科目については，当該科目を履修したものと認定する。

（学業成績の評価）

第10条　学期及び学年における学業成績は，授業科目ごとに定期試験の成績その他を総合して100点法によって評価する。

２　特別欠席・忌引を除く欠席時間数が年間総授業時間数の５分の１を超える者の評価は，60点を超えないものとする。

３　再試験の成績により学業成績を再評価する場合は，60点を超えないものとする。

４　追認試験の成績により学業成績を再評価する場合は，60点を超えないものとする。

（学業成績の評語）

第11条　学業成績の評語は，次の区分により優，良，可及び不可で表すものとする。

評　語	学業成績の評価
優	80点～100点
良	70点～ 79点
可	60点～ 69点
不可	０点～ 59点

（単位修得の認定）

第12条　第９条の規定により履修を認定した科目の学業成績の評価が60点以上の場合には，単位を修得したものと認定する。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料５－３－①－（５）

「2019 年度　後期授業アンケートの実施に関して」

令和２年１月１４日
第１８回教務委員会
議　題　１　１　資　料

2019 年度 後期授業アンケートの実施に関して

平成 31 年度第７回教務委員会で議決された内容に則り，以下の実施方法にて通年科目および後期科目について授業アンケートを実施する．ただし，今年度後期より，各科目の授業アンケートにおいて「自学自習状況」に関する項目を追加する．また，①シラバスの活用状況と②成績評価・単位認定に関する基準の把握状況を調査するために，別途，状況調査アンケートを実施する．

※　状況調査アンケートについては，学生が回答するのは１回のみです．

■ 実施方法

授業アンケートは，Office365 の Forms を用いて行う．また，アンケートはテスト結果等の影響が出ない様に，定期試験前の授業時間内にて行う．

なお，学外実習，プレ卒業研究，卒業研究，フロンティア研究はアンケート実施科目とはしない．

■ 各科目の授業アンケート項目

アンケート項目は，新規項目の Q5 を含めた６項目とし，各項目について５段階評価にて回答させる．

Q1. 教員の説明・指示は分かりやすかった．

※板書・スライド，配付資料などを含め総合的に評価して下さい．

Q2. 学生の理解度を高めるための工夫がなされていた．

※ 授業スピードや難易度の調整，質問対応，課題や演習の量を含め総合的に評価して下さい．

Q3. 授業の目的・意義が理解でき，新しい知識・技能を習得できた．

Q4. この科目において自分は学習に主体的・能動的に取組めた．

※ 授業・課題・自宅学習において，単なる作業としてでなく，自ら考えや知識を整理しながら学習を進めることができたか評価してください．

Q5. シラバスに記載されているレポートなどの自学自習に取り組んだ．

Q6. この科目において良かった点，良くなかった点（改善を希望する点）などの感想を自由に記述してください．

■ 状況調査アンケート項目

アンケート項目は２項目とし，各項目について５段階評価にて回答させる．

Q1. シラバスを活用していますか？

Q2. 成績評価や単位認定に関する基準を把握していますか？

※　科目の合格点が 60 点であることや，仮進級のための条件などに関して

（出典　平成３１年度第１８回教務委員会資料）

資料５－３－①－（７）－１

「平成３０年度後期答案返却日スケジュール」



（出典　学生課作成資料）

資料５－３－①－（７）－２

「前期成績の訂正について」

平成２８年１１月２日

平成２８年度前期成績の訂正について

◎　科目名　電子回路Ⅰ

[redacted]

訂正前	訂正後
６０	９６

１１月１日、電気電子工学科４年　松田将佳より成績通知書に記載されている電子回路Ⅰの評価が間違っているのではないか、との申し出がありました。

学生からの申し出に基づき、確認したところ，成績集計の際に評点に加える定期試験の点数を誤ったことによる私の成績入力ミスであることがわかりました。

学業成績の評価でこうしたミスを犯してしまいましたことを深くお詫びするとともに、対象学生１名の評価を訂正頂きますよう、よろしくお願いいたします。

創造工学科　電気電子系 [redacted]

（出典　平成 28 年度　第 18 回教務委員会）

資料５－３－①－（８）

「模範解答例について」

平成３０年度　数学ⅢＡ　前期定期試験

クラス（　　）　No（　　）　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿　　得点＿＿＿＿＿

※　7.以降の解答には計算過程を示してください。答えのみの場合は採点しません。

1. 次の不定積分を求めよ。(5点)

$\int \cos 3x \cos x \, dx$　〈公式〉 $\cos\alpha\cos\beta = \frac{1}{2}\{\cos(\alpha+\beta)+\cos(\alpha-\beta)\}$

$= \frac{1}{2}\int(\cos 4x + \cos 2x)\,dx = \frac{1}{2}\left(\frac{1}{4}\sin 4x + \frac{1}{2}\sin 2x\right)$

2. 次の不定積分を求めよ。(5点)

$\int \frac{4}{x^2-4}\,dx$

$= \int\left(-\frac{1}{x+2} + \frac{1}{x-2}\right)dx = -\log|x+2| + \log|x-2|$

3. 極座標が $\left(2, \frac{2}{3}\pi\right)$ である点の直交座標を求めよ。(5点)

$\frac{2}{3}\pi$

4. 次の等比数列の収束・発散を調べ、収束するときはその値を求めよ。(5点)

$\frac{1}{3}, \frac{2}{9}, \frac{4}{27}, \cdots$

$r = \frac{2}{3}$ で $|r|<1$ より 0に収束

5. 次の等比級数の収束・発散を調べ、収束するときは和を求めよ。(5点)

$\frac{1}{3} + \frac{2}{9} + \frac{4}{27} + \cdots$

$|r|<1$ より収束　$S = \frac{\frac{1}{9}}{1-\frac{2}{3}} = 1$

6. 次の関数について、$f_x(2,3)$ を求めよ。(5点)

$f(x,y) = \frac{x^2}{x+y}$

$f_x(x,y) = \frac{2x(x+y) - x^2}{(x+y)^2} = \frac{x^2+2xy}{(x+y)^2}$

$f_x(2,3) = \frac{16}{25}$

解答欄

1.	$\frac{1}{8}\sin 4x + \frac{1}{4}\sin 2x + (c)$
2.	$\log\left\|\frac{x-2}{x+2}\right\| + (c)$
3.	$(-1, \sqrt{3})$
4.	0
5.	1
6.	$\frac{16}{25}$

7. 2つの放物線 $y = x^2 + 2x$, $y = -x^2 + 2x + 8$ で囲まれた図形の面積を求めよ。(10点)

交点の x 座標は

$x^2 + 2x = -x^2 + 2x + 8$

$2x^2 = 8$

$x^2 = 4$

$x = \pm 2$

囲まれた図形の面積は

$S = \int_{-2}^{2}\{(-x^2+2x+8) - (x^2+2x)\}\,dx$

$= \int_{-2}^{2}(-2x^2+8)\,dx$

$= 4\int_0^2(-x^2+4)\,dx$

$= 4\left[-\frac{1}{3}x^3+4x\right]_0^2$

$= 4\left(-\frac{8}{3}+8\right)$

$= \frac{64}{3}$

8. 曲線 $y = \sin x \cos x \ \left(0 \le x \le \frac{\pi}{2}\right)$ を x 軸のまわりに回転してできる回転体の体積を求めよ。(10点)

$V = \pi\int_0^{\frac{\pi}{2}}\sin^2x\cos^2x\,dx$

$= \pi\int_0^{\frac{\pi}{2}}\sin^2x(1-\sin^2x)\,dx$

$= \pi\int_0^{\frac{\pi}{2}}(\sin^2x - \sin^4x)\,dx$

$= \pi\left(\frac{1}{2}\cdot\frac{\pi}{2} - \frac{3}{4}\cdot\frac{1}{2}\cdot\frac{\pi}{2}\right)$

$= \frac{\pi^2}{16}$

（次ページへ続く）

資料５－３－①－（８）（続き）

9. 曲線 $x = t^2$, $y = t - \frac{1}{3}t^3 \ (0 \le t \le \sqrt{3})$ の長さを求めよ。(10点)

$(x')^2 + (y')^2 = (2t)^2 + (1-t^2)^2$

$= 4t^2 + 1 - 2t^2 + t^4$

$= 1 + 2t^2 + t^4$

$= (1+t^2)^2$

$L = \int_0^{\sqrt{3}}\sqrt{(1+t^2)^2}\,dt$

$= \int_0^{\sqrt{3}}(1+t^2)\,dt$

$= \left[t + \frac{1}{3}t^3\right]_0^{\sqrt{3}}$

$= \sqrt{3} + \sqrt{3}$

$= 2\sqrt{3}$

10. 曲線 $r = \theta + 1 \ (0 \le \theta \le \pi)$ と x 軸で囲まれた図形の面積を求めよ。(10点)

$S = \frac{1}{2}\int_0^{\pi}(\theta+1)^2\,d\theta$

$= \frac{1}{2}\int_0^{\pi}(\theta^2+2\theta+1)\,d\theta$

$= \frac{1}{2}\left[\frac{1}{3}\theta^3 + \theta^2 + \theta\right]_0^{\pi}$

$= \frac{1}{6}\pi^3 + \frac{1}{2}\pi^2 + \frac{1}{2}\pi$

11. 原点を速度0で出発し、x 軸上を運動する点Pがあり、t 秒後の加速度が $\alpha = 1 - t$ であるという。出発から2秒間で点Pが実際に動いた道のりを求めよ。(10点)

$\alpha = 1 - t$

$v = \int(1-t)\,dt = t - \frac{1}{2}t^2 + C$

$t = 0$ のとき $v = 0$ より $C = 0$

$x = \int_0^2\left(t - \frac{1}{2}t^2\right)dt$

$= \left[\frac{1}{2}t^2 - \frac{1}{6}t^3\right]_0^2$

$= 2 - \frac{4}{3}$

$= \frac{2}{3}$

12. $y = \sqrt{x}$ の $x = 1$ における2次近似式を求めよ。(10点)

$y = x^{\frac{1}{2}}$　$x = 1$ のとき $y = 1$

$y' = \frac{1}{2}x^{-\frac{1}{2}}$　$y' = \frac{1}{2}$

$y'' = -\frac{1}{4}x^{-\frac{3}{2}}$　$y'' = -\frac{1}{4}$

$y \fallingdotseq 1 + \frac{1}{2}(x-1) - \frac{1}{8}(x-1)^2$

13. $\cos x$ のマクローリン展開を求めよ。(10点)

$y = \cos x$　$x = 0$ のとき

$y' = -\sin x$　$y = 1$

$y'' = -\cos x$　$y' = 0$

$y''' = \sin x$　$y'' = -1$

$y^{(4)} = \sin x$　$y''' = 0$

$\cos x = 1 + 0x - \frac{1}{2!}x^2 + \frac{0}{3!}x^3 + \frac{1}{4!}x^4 + \cdots (\cdots)$

$= 1 - \frac{1}{2!}x^2 + \frac{1}{4!}x^4 + \cdots + \frac{(-1)^n}{(2n)!}x^{2n} + \cdots$

（出典　数学担当教員作成資料）

資料５－３－②－（１）

「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第２章　修業年限，学年，学期，休業日及び授業終始の時刻

（修業年限）

第２条　修業年限は，５年とする。

（学年）

第３条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

（学期）

第４条　学年を分けて，次の２期とする。

前期　４月１日から９月30日まで

後期　10月１日から翌年３月31日まで

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料５－３－②－（２）

「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第４章　進級及び卒業の認定

（進級及び卒業の認定）

第13条　進級及び卒業の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

（進級認定）

第14条　次の各号のすべてに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認める。

一　学則別表第２及び第３に定める科目を履修していること。

二　所定の単位を修得していること。

三　特別活動が履修の認定の要件を満たしていること。

２　前項第二号に該当しない者で，次の各号のすべてに該当する場合は，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認めることができる。

一　実験・実習及び設計製図等の主として実技を伴うものについては，当該学年で単位を修得していること。

二　学則別表第２及び第３に定める科目のうち，未修得単位数の累積（学則別表第２に定める選択科目の未修得単位数を除く。）が次の表に定める単位数以下であり，かつ，第３学年及び第４学年にあっては，当該下位学年での所定の単位を修得していること。

学　年	１年	２年	３年	４年	５年
未修得単位数	8	8	6	4	0

三　未修得の科目の学業成績の評価が，第１学年及び第２学年にあっては40点以上，第３学年及び第４学年にあっては50点以上であること。

３　前２項の要件を満たさない者で，特別な理由があると認められた場合には，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認めることができる。

（通学）

第15条　年度の途中で通学する第２学年以上の者には，１学年下位の修了とする。

２　通学する時期が学年末の場合で，進級が認められる者には，当該学年の修了とする。

（留年）

第16条　学年の課程の修了を認定されない者は，原学年に留まるものとする。この場合において，原学年で修得した単位はすべて無効となり，原学年の課程の再履修を必要とする。ただし，苫小牧工業高等専門学校学外実習の履修に関する内規，苫小牧工業高等専門学校における文部科学大臣が定める学修に基づく単位認定に関する規程及び他大学等との単位互換協定により単位の修得を認定された科目の単位は有効とする。

（卒業認定）

第17条　授業科目を167単位以上（一般科目は81単位以上，専門科目は86単位以上とする。）修得した者は，本校の全学年の課程を修了したものとし，卒業を認める。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料５－３－②－（３）

「卒業認定について」

平成３０年度　第４回　教員会議

日時：平成３１年３月７日（木）１５時００分
場所：大講義室

議　　題	１．卒業認定について	（教務主事）【資料有】
	２．その他	
報告事項	１．卒業式について	（校　　長）【資料有】
	２．学生の懲戒処分について	（寮務主事）【資料有】
	３．その他	

（出典　平成３０年度第４回教員会議）

資料６－１－①－（１）－１

「入学者選抜方法について」

平成２９年度第１４回入学試験委員会議事録

日　時　　平成３０年２月２６日（月）　９時３０分～１０時１５分
場　所　　中講義室
出席者　　別紙のとおり

議　　題２．その他　　**【資料なし】**

①　平成３０年度入学者選抜に係る合格者選考基準について

教務主事から，第１０回入学試験委員会にて了承された，合格者選考基準について，下記の理由から再度提案したい旨説明があった。

・今年度の学力選抜志願者が昨年度に比べ１００名増となった旨
・市内の公立高校の志願倍率が高い旨
・専願志願者が昨年度より３５名程度増加した旨

以上のことから今年度の入学者が２００名を大幅に超える可能性があるため，今年度は，「２選考方法（１）選考手順⑦」を見送りたい旨説明があり，審議の結果，これが了承された。

議　　題１．平成３０年度本科入学者選抜（学力）の合格者の選考について

【議題１資料】

教務主事から，選考に先立ち，２月１８日に実施した平成３０年度本科入学者選抜（学力）の実施概要について報告があった。

続いて，資料に基づき欠格事項の確認を行い，総受検者の各教科の平均点の３０％に満たない者１名を欠格としたほか，今年度は，内申評価点に特記事項がある者については，中学校から提出のあった，欠席理由を考慮して，欠格としない旨確認があった。

また，２月２２日に行われた道内高専入試複数校調整会議において，本校を第２志望以下で志願した受検生は，本校の選考前に他高専への合格が決まった旨報告があった。

引き続き，選考基準に沿って合格者選考を行い，委員長から選考結果に基づき創造工学科２０２名を学力選抜合格者とし，推薦選抜による合格内定者１０１名を合わせた計３０３名を合格者としたい旨提案があった。

審議の結果，これが了承された。

なお，合格者の追加が必要となった場合は，選考基準に沿って進めるが，時間的な制約もあるため，委員長及び教務主事団に一任することとした。

報告事項１．その他　　**【資料なし】**

なし。

（出典　平成２９年度第１４回入学試験委員会資料）

資料６－１－①－（１）－２

「令和２年度学生募集要項（抜粋）」

令和2年度

学 生 募 集 要 項

―(略)―

推 薦 選 抜

―(略)―

3　選抜方法

「推薦選抜」は、面接、推薦書、自己アピール文及び個人調査書の総合判定により行います。

―(略)―

学 力 選 抜

―(略)―

3　選抜方法

「学力選抜」は、学力検査、個人調査書、志願種別の総合判定により行います。学力検査及び個人調査書の評定の配点は次のとおりです。

学力検査		個人調査書	
国語	100 点	国語・社会・数学・理科・外国語	各教科５点×３か年×２
社会	100 点		
数学	100 点×2	音楽・美術・保健体育・技術家庭	各教科5点×3か年
理科	100 点×2		
英語	100 点×2		
合計	800点満点	合計	210点満点

―(略)―

（出典　令和２年度学生募集要項）

資料６－１－②－（１）

「入学試験委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程

規則第10号
制　　定　昭和43年４月１日
一部改正　昭和52年４月１日
一部改正　平成12年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校に，入学試験の実施及び入学者の選考等に関する事項を審議するため，入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本科及び専攻科学生の募集に関する事項
二　本科及び専攻科入学者選抜試験の実施に関する事項
三　本科及び専攻科入学者の選考に関する事項
四　その他本科及び専攻科入学者選抜に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　校長
二　副校長（教務主事）
三　教務主事補
四　各系長
五　事務部長
六　学生課長
七　その他校長が指名した者
２　専攻科に関する事項について審議する場合は，副校長（専攻科長）を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第七号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

（次ページへ続く）

資料６－１－②－（１）（続き）

２　委員長は委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長が不在のときは，副校長（教務主事）がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。

（委員会の事務）
第７条　委員会の事務は，学生課において処理する。

（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
この内規は，昭和43年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，昭和52年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成12年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成15年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成19年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成27年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成28年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校規程集）

資料６－１－②－（２）

「入学動機に関するアンケート調査」

平成31年度　入学動機に関するアンケート調査（機構様式）

質　問　項　目　（今　年　度）	平成31年度		平成30年度							
	数	比率	数	比率						
1. 本校を一番初めに知った時期に○を付けてください。（1つのみ）										
小学校入学前	6	3.0%	5	2.5%						
小学生1～3年頃	8	4.0%	6	3.0%						
小学生4～6年頃	48	24.1%	61	30.5%						
中学1年生頃	63	31.7%	63	31.5%						
中学2年生頃	49	24.6%	53	26.0%						
中学3年生頃	25	12.6%	33	16.5%						
その他	0	0.0%	0	0.0%						
2. 本校の受験を検討し始めた時期に○を付けてください。（1つのみ）										
小学生1～3年頃	1	0.5%	1	0.5%						
小学生4～6年頃	13	6.5%	5	2.5%						
中学1年生頃	36	18.1%	38	19.0%						
中学2年生の前半頃（4月～夏休み終了まで）	24	12.1%	21	10.5%						
中学2年生の後半頃（夏休み終了後～3月末まで）	40	20.1%	49	24.5%						
中学3年生の第1学期頃	31	15.6%	36	18.0%						
中学3年生の第2学期頃	44	22.1%	43	21.5%						
中学3年生の第3学期頃	8	4.0%	5	2.5%						
その他	2	0.0%	1	0.5%						
3. 本校の受験を最終的に決定した時期に○を付けてください。（1つのみ）										
小学生1～3年頃	1	0.5%	2	0.0%						
小学生4～6年頃	5	2.5%	1	0.5%						
中学1年生頃	12	6.0%	12	6.0%						
中学2年生の前半頃（4月～夏休み終了まで）	5	2.5%	9	4.5%						
中学2年生の後半頃（夏休み終了後～3月末まで）	15	7.5%	23	11.4%						
中学3年生の第1学期頃	40	20.1%	41	20.4%						
中学3年生の第2学期頃	96	48.2%	92	45.8%						
中学3年生の第3学期頃	22	11.1%	22	10.9%						
その他	0	0.0%	0	0.0%						
4. 本校への関心を持つきっかけに○を付けてください。（5つまで回答可）										
入学説明会（本校主催）	42	21.1%	54	27.0%						
体験入学	29	14.6%	21	10.5%						
オープンキャンパス、見学会	127	63.8%	117	58.5%						
学校行事（体育祭、高専祭など）	64	32.2%	62	31.0%						
高専体育大会	1	0.5%	2	1.0%						
ロボコン、デザコン、プロコン、プレコン	34	17.1%	38	19.0%						
公開講座	8	4.0%	7	3.5%						
出前授業・訪問実験	4	2.0%	5	2.5%						
地域イベントなどでの科学体験教室	4	2.0%	5	2.5%						
学校のパンフレット	57	28.6%	52	26.0%						
学校のホームページ	26	13.1%	30	15.0%						
中学校における説明会	12	6.0%	8	4.0%						
家族、親戚からの情報	87	43.7%	105	52.5%						
中学校の教師からの情報	27	13.6%	38	19.0%						
先輩、友人からの情報	49	24.6%	43	21.5%						
塾からの情報	17	8.5%	25	12.5%						
新聞、雑誌、書等に関する資料などの情報紙（誌）	3	1.5%	6	3.0%						
TV、ラジオ	0	0.0%	1	0.5%						
動画公開サイト、SNSなどのインターネット情報	13	6.5%	3	1.5%						
その他	0	0.0%	0	0.0%						
5. 本校への入学を志望した動機に○を付けてください。（5つまで回答可）										
特色のある授業、カリキュラムがある	65	32.7%	63	31.5%						
理工系の大学・専門学校に関心がある	48	24.1%	50	25.0%						
早い時期から専門教育を受けることができる	83	41.7%	99	49.5%						
就職の実績がよい	113	56.8%	106	53.0%						
大学への進学実績がよい	29	14.6%	38	19.0%						
専攻科に進学し、学士の学位を取得することができる	5	2.5%	4	2.0%						
日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定教育プログラムである	1	0.5%	2	1.0%						
とりたい資格がとれる	13	6.5%	9	4.5%						
このように学びたいと思う教員がいる	1	0.5%	2	1.0%						
寮がある	18	9.0%	13	6.5%						
立地、通学環境がよい	6	3.0%	11	5.5%						
施設や設備が充実している	63	31.7%	59	29.5%						
校風が自分に合っている	37	18.6%	23	11.5%						
学費が安価だから	23	11.6%	10	5.0%						
「ロボコン」「デザコン」「プロコン」「プレコン」に興味がある	20	10.1%	22	11.0%						
入りたい部活動があるなど、課外活動に興味がある	13	6.5%	18	9.0%						
学校行事（体育祭、高専祭など）に興味がある	19	9.5%	21	10.5%						
将来の夢を実現できると思った	73	36.7%	76	38.0%						
自分の学びたいことを学べる	89	44.7%	84	42.0%						
海外留学、国際交流の機会がある	8	4.0%	12	6.0%						
家族、親戚からのすすめがあった	48	24.1%	43	21.5%						
中学校の教師からのすすめがあった	8	4.0%	14	7.0%						
先輩、友人からのすすめがあった	11	5.5%	13	6.5%						
塾からのすすめがあった	4	2.0%	9	4.5%						
その他	4	2.0%	2	1.0%						
6.「キラキラ高専ガールになろう！」[女子中学生向けパンフレット]を読んだことがありますか。										
読んだ	35	17.6%	17	8.5%						
読んでいない	163	81.4%	181	90.5%						
7.「[高専]という選択」[高専ガイド]「高専紹介パンフレット」を読んだことがありますか。										
読んだ	68	34.2%	50	25.0%						
読んでいない	129	64.8%	150	75.0%						
8. 入学後に高専門を選ぶことについてどう思いますか？										
とてもよい	135	67.8%	138	69.0%						
よい	62	31.2%	60	30.0%						
悪い	2	1.0%	2	1.0%						
とても悪い	0	0.0%	0	0.0%						

（出典　平成３１年度第１回入学試験委員会）

資料６－１－③－（１）

「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第３章　学科，学級数，入学定員及び職員組織

（学科，学級数及び入学定員）

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	学　級　数	入　学　定　員
創造工学科	5	200　人

２　前項に規定する学科に，第２学年から次の系を設ける。

機械系

都市・環境系

応用化学・生物系

電気電子系

情報科学・工学系

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料７－１－①－（１）－１

「苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第３章　学業成績の評価及び単位の認定

（履修の認定）

第９条　出席時間数が，年間総授業時間数の３分の２以上の科目については，当該科目を履修したものと認定する。

（学業成績の評価）

第10条　学期及び学年における学業成績は，授業科目ごとに定期試験の成績その他を総合して100点法によって評価する。

２　特別欠席・忌引を除く欠席時間数が年間総授業時間数の５分の１を超える者の評価は，60点を超えないものとする。

３　再試験の成績により学業成績を再評価する場合は，60点を超えないものとする。

４　追認試験の成績により学業成績を再評価する場合は，60点を超えないものとする。

（学業成績の評語）

第11条　学業成績の評語は，次の区分により優，良，可及び不可で表すものとする。

評　語	学業成績の評価
優	80点～100点
良	70点～ 79点
可	60点～ 69点
不可	０点～ 59点

（単位修得の認定）

第12条　第９条の規定により履修を認定した科目の学業成績の評価が60点以上の場合には，単位を修得したものと認定する。

（次ページへ続く）

資料７－１－①－（１）－１（続き）

第４章　進級及び卒業の認定

（進級及び卒業の認定）

第13条　進級及び卒業の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

（進級認定）

第14条　次の各号のすべてに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認める。

一　学則別表第２及び第３に定める科目を履修していること。

二　所定の単位を修得していること。

三　特別活動が履修の認定の要件を満たしていること。

２　前項第二号に該当しない者で，次の各号のすべてに該当する場合は，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認めることができる。

一　実験・実習及び設計製図等の主として実技を伴うものについては，当該学年で単位を修得していること。

二　学則別表第２及び第３に定める科目のうち，未修得単位数の累積（学則別表第２に定める選択科目の未修得単位数を除く。）が次の表に定める単位数以下であり，かつ，第３学年及び第４学年にあっては，当該下位学年での所定の単位を修得していること。

学　年	１年	２年	３年	４年	５年
未修得単位数	8	8	6	4	0

三　未修得の科目の学業成績の評価が，第１学年及び第２学年にあっては40点以上，第３学年及び第４学年にあっては50点以上であること。

３　前２項の要件を満たさない者で，特別な理由があると認められた場合には，当該学年の課程を修了したものとし，進級を認めることができる。

（退学）

第15条　年度の途中で退学する第２学年以上の者には，１学年下位の修了とする。

２　退学する時期が学年末の場合で，進級が認められる者には，当該学年の修了とする。

（留年）

第16条　学年の課程の修了を認定されない者は，原学年に留まるものとする。この場合において，原学年で修得した単位はすべて無効となり，原学年の課程の再履修を必要とする。ただし，苫小牧工業高等専門学校学外実習の履修に関する内規，苫小牧工業高等専門学校における文部科学大臣が定める学修に基づく単位認定に関する規程及び他大学等との単位互換協定により単位の修得を認定された科目の単位は有効とする。

（卒業認定）

第17条　授業科目を167単位以上（一般科目は81単位以上，専門科目は86単位以上とする。）修得した者は，本校の全学年の課程を修了したものとし，卒業を認める。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料７－１－①－（２）－１

「教員会議卒業認定について」

平成３０年度　第４回　教員会議記録

◆日　　時　　平成３１年３月７日（木）１５時００分～１５時３５分
◆場　　所　　大講義室
◆出 席 者　　別紙のとおり（６１名）
◆欠 席 者　　別紙のとおり（２１名）

始めに校長より，本日の記録確認者に上田教員，蓼沼教員を指名した。

議　　題１．卒業認定について【資料有】

八田教務主事より，議題１資料に基づき，次のとおり説明及び提案があり，審議の結果，原案のとおり承認された。

・休学者２名と情報工学科１名以外の学生は，第５学年分の単位を修得できている。
・同じく休学者２名と情報工学科１名以外の学生は，卒業に必要な要件を満たしている。
・以上のことから，機械工学科は在籍40名全員，電気電子工学科は在籍40名のうち休学者１名を除く39名，情報工学科は在籍36名のうち卒業要件を満たせなかった１名を除く35名，物質工学科は在籍41名全員，環境都市工学科は在籍44名のうち休学者１名を除く43名の計198名の卒業を認定したい。

なお，教務主事の説明後，情報工学科５年担任より卒業要件を満たせなかった１名に対する対応について，科目担当及び担任等により最大限のフォローを行った結果である旨補足説明があった。

また，教務主事より，純卒業率等について教員各位の努力により，改善してきている旨報告があった。

	卒業者数	純卒業率
平成30年度	198名	91.0%
平成29年度	197名	86.3%
平成28年度	186名	78.8%
平成27年度	162名	71.2%
平成26年度	188名	84.1%
平成17年度以降の平均		76.4%

最後に，校長より，多様な学生が入学し，学生指導・支援は大変だと思うが，全員を卒業させることが出来るよう尽力いただきたい旨発言があった。

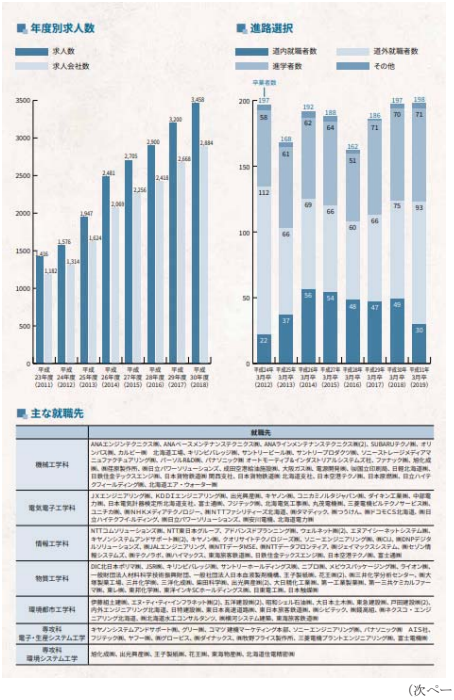
議　　題２．その他

なし。

（出典　平成３０年度第４回教員会議資料）

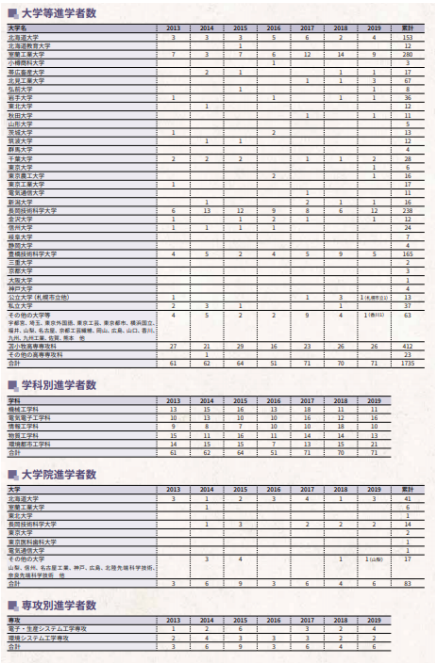
資料７－１－③－（１）

「卒業者進路実績表」



（次ページへ続く）

資料７－１－３－（１）（続き）



■ 大学等進学者数

大学名	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	累計
北海道大学	3	3	3	5	6	2	4	133
北海道教育大学			1					12
室蘭工業大学	7	3	7	6	12	14	9	280
小樽商科大学				1				3
帯広畜産大学		2	1			1	1	17
北見工業大学					1	1	3	67
弘前大学			1				1	8
岩手大学	1			1		1	1	36
東北大学		1						12
秋田大学					1		1	11
山形大学								5
宇都大学	1			2				13
筑波大学		1	1					12
群馬大学								4
千葉大学	2	2	2		1	1	2	28
東京大学							1	6
東京農工大学				2			1	16
東京工業大学	1							17
電気通信大学					1			11
新潟大学		1			2	1	1	16
長岡技術科学大学	6	13	12	9	8	6	12	238
金沢大学	1		1	2	1		1	12
信州大学	1	1	1	1				24
福井大学								7
静岡大学								4
豊橋技術科学大学	4	5	2	4	5	9	5	165
三重大学								2
京都大学								3
大阪大学								1
神戸大学								4
公立大学（札幌市立他）	1				1	3	1（札幌市立）	13
私立大学	2	3	1			1		37
その他の大学等 宇都宮、埼玉、東京外国語、東京工芸、東京都市、横浜国立、福井、山梨、名古屋、京都工芸繊維、岡山、広島、山口、香川、九州、九州工業、佐賀、熊本、他	4	5	2	2	9	4	1（香川0）	63
苫小牧高専専攻科	27	21	29	16	23	26	26	412
その他の高専等在科		1						23
合計	61	62	64	51	71	70	71	1735

■ 学科別進学者数

学科	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
機械工学科	13	15	16	13	18	11	13
電気電子工学科	10	13	10	10	16	12	16
情報工学科	9	8	7	10	10	18	10
物質工学科	15	11	16	11	14	14	13
環境都市工学科	14	15	15	7	13	15	21
合計	61	62	64	51	71	70	71

■ 大学院進学者数

大学	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	累計
北海道大学	3	1	2	3	4	1	3	41
室蘭工業大学		1						6
東北大学								1
長岡技術科学大学		1	3		2	2	2	14
東京大学								2
東京医科歯科大学								1
電気通信大学								1
その他の大学 山梨、信州、名古屋工業、神戸、広島、北陸先端科学技術、奈良先端科学技術、他		3	4			1	1（山梨）	17
合計	3	6	9	3	6	4	6	83

■ 専攻別進学者数

専攻	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
電子・生産システム工学専攻	1	2	6		3	2	4
環境システム工学専攻	2	4	3	3	3	2	2
合計	3	6	9	3	6	4	6

（出典　学校要覧 2019）

資料８－２－①－（１）

「専攻科入学者選抜について」

平成３０年度第５回入学試験委員会議事録

日　時　　平成３０年６月２６日（火）　１５時４５分～１５時５５分
場　所　　中会議室
出席者　　別紙のとおり

議　　題１．平成３１年度専攻科入学者選抜（学力）合格者の選考について　**【議題１資料】**

教務主事から資料に基づき，欠格者を除く電子・生産システム工学専攻４名，環境システム工学専攻９名を合格者としたい旨の提案があり，審議の結果原案のとおり承認された。

議　　題２．その他　**【資料なし】**

特になし。

報告事項１．その他　**【資料なし】**

特になし。

以　上

（出典　平成３０年度第５回入学試験委員会）

資料８－２－②－（１）－１

「苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程

規則第10号
制　　定　昭和43年４月１日
一部改正　昭和52年４月１日
一部改正　平成12年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校に，入学試験の実施及び入学者の選考等に関する事項を審議するため，入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本科及び専攻科学生の募集に関する事項
二　本科及び専攻科入学者選抜試験の実施に関する事項
三　本科及び専攻科入学者の選考に関する事項
四　その他本科及び専攻科入学者選抜に関する事項

（出典　本校ウェブサイト）

資料８－２－②－（１）－２

「専攻科のアドミッション・ポリシーの改正について」

専攻科のアドミッションポリシー改正について

専攻科における外国人留学生特別選抜の合同実施に伴う
アドミッションポリシー改正について

実施要項に記載されているアドミッションポリシーを変更する必要がある。

--- 現在 ---
苫小牧高専専攻科は，すでに工学の基礎を習得した高専卒業生等で，次のような人の入学を歓迎します。

- より高度でより幅広い「ものづくり」に意欲のある人
- 専門分野のより高度な技術を学びたい人
- 科学技術を通して国際社会に貢献したい人
- 人間と自然との共生に取り組む意欲のある人

入学者選抜の基本方針は，苫小牧高専の教育理念に示された人材を育てるため，専攻科における入学者選抜では，工学の基礎を習得していることを重視します。また，学力と勉学意欲が高い多様な資質を持った入学者を選抜するため，学力選抜，推薦選抜及び社会人特別選抜を実施します。

--- 変更後 ---
入学者選抜の基本方針は，苫小牧高専の教育理念に示された人材を育てるため，専攻科における入学者選抜では，工学の基礎を習得していることを重視します。また，学力と勉学意欲が高い多様な資質を持った入学者を選抜するため，学力選抜，推薦選抜，社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を実施します。

（出典　令和元年度　第 12 回入試委員会）

資料８－２－③－（１）

「苫小牧工業高等専門学校学則」（抜粋）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第13章　専攻科

第55条　本校に，専攻科を置く。

（目的）
第56条　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）
第57条　専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
電子・生産システム工学専攻	12人
環境システム工学専攻	８人

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学生便覧）

資料８－２－③－（２）

「入学試験委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校入学試験委員会規程

規則第10号

制　　定　昭和43年４月１日
一部改正　昭和52年４月１日
一部改正　平成12年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校に，入学試験の実施及び入学者の選考等に関する事項を審議するため，入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本科及び専攻科学生の募集に関する事項
二　本科及び専攻科入学者選抜試験の実施に関する事項
三　本科及び専攻科入学者の選考に関する事項
四　その他本科及び専攻科入学者選抜に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　校長
二　副校長（教務主事）
三　教務主事補
四　各系長
五　事務部長
六　学生課長
七　その他校長が指名した者
２　専攻科に関する事項について審議する場合は，副校長（専攻科長）を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第七号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

（次ページへ続く）

資料８－２－③－（２）（続き）

２　委員長は委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長が不在のときは，副校長（教務主事）がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。

（委員会の事務）
第７条　委員会の事務は，学生課において処理する。

（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関する必要な事項は，別に定める。

附　則
この内規は，昭和43年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，昭和52年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成12年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成15年４月１日から施行する。
附　則
この内規は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成19年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成27年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成28年４月１日から施行する。

（出典　苫小牧工業高等専門学校規程集）

資料８－３－①－１

「教育プログラム履修のてびき」

【資料5】JABEE表2 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(全体)

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目（小項目が無い場合は空欄とする）	関連する基準1(1)(a)～(i)の項目	関連する基準1(1)(a)～(i)の対応	評価方法および評価基準
(A)数量・地球的視点で自然や環境を考え，歴史，文化，社会などについて広い視野を身につける。		(a) (c) (g)	◎ ○ ○	A-1 社会，経済，法学，哲学，歴史，文化，言語など社会科学および人文科学に関する基本的な事項について説明できる。 数量・倫理(特別学修(数量・倫理)まで) 「法学」において，法学一般の基本的な知識について，正確に，論理的に説明できるか，2回の試験およびレポートで問い，その正確さ，論理性の水準をもって評価する。 「哲学」において，哲学の基本的な事項について正確に説明できるかどうかを，各試験とレポートによって評価する。 「経済学」において，経済学の基本的な用語や概念，事項を的確かつ正確に説明出来るかを，レポートと各試験で評価する。 「日本史」において，戦国社会理解に必要な基本的用語・制度などの知識に関して正確に，論理的に説明できるか，2回の試験で問い，その正確さ，論理性の水準をもって評価する。 「国際文化論」において，世界の社会，歴史，文化，言語等について基本的な事項を理解させ，それを試験やレポートを用いて評価する。 「日本文化論」において，日本の文化に関する基本的な事項について理解させ，その理解度を各試験と課題・レポートによって評価する。 「社会学」において，社会理論について，その非特性を理解しているか，2回の試験で問い，評価する。 「日本事情」において，日本の社会と文化について基本的なことがらを理解し，母国の社会・文化を比較・分析することができるか，また，現代日本の抱える諸問題を認識することができるか，課題，口頭発表，討論で問い，その正確さ，論理性の水準をもって評価する。 「特別学修(数量・倫理)」については，取得した資格により評価する。 コミュニケーション(特別学修(コミュニケーション)まで) 「英会話」において，基礎的なコミュニケーション・スキルを習得させながら，英語及び英語圏の文化について基本的な事項を理解させ，それを試験やレポートを用いて評価する。 「第二外国語A」「第二外国語B」において，日本以外の国の文化，言語の基本的な事項について理解させ，それを試験で評価する。 「特別学修(コミュニケーション)」については，取得した資格により評価する。 ＊備考 数量・倫理，コミュニケーション科目より，それぞれ1科目2単位以上選択すること。ただし，日本事情は留学生を対象とする科目のため除外する。また，コミュニケーション科目には，左欄に示すほかの科目がある。） 特別学修については，科目担当者に問い合わせること。 社会学について，平成29年度以前に修得した者については，2回の試験および課題で問い評価している。

（以下略）

（出典　平成３１年度教育プログラム履修のてびき）

資料８－３－①－２

「専攻科の審議事項」

苫小牧工業高等専門学校専攻科委員会規程

規則第42号

制　　定　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成19年５月８日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）
第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，専攻科に関する事項を審議するため，専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教育課程に関する事項
二　教育計画及び授業時間の編成に関する事項
三　学生の進学，転学，休学，復学及び修了に関する事項
四　試験及び学業成績に関する事項
五　学生の進学及び就職に関する事項
六　学生の厚生補導に関する事項
七　その他専攻科の教務及び学生指導に関する事項

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　副校長（専攻科長）
二　各専攻主任
三　学生課長
四　その他校長が指名した者
２　前条第一号及び第二号に関する事項について審議する場合は，副校長（教務主事）を，前条第六号に関する事項について審議する場合は，副校長（学生主事）を委員として加える。

（任期）
第４条　前条第１項第四号の委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，副校長（専攻科長）をもって充てる。

（以下略）

（出典　苫小牧高等専門学校専攻科委員会規定）

資料８－３－①－３

「専攻科特別研究の評価法及び基準」

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成30年度（2018年度）	授業科目	電子・生産システム工学特別研究Ⅰ
科目基礎情報				
科目番号	0018		科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 6
開設学科	電子・生産システム工学専攻		対象学年	専1
開設期	通年		週時間数	3
教科書/教材	担当教員が提示する。			
担当教員	二橋 創平			
到達目標				
1. 自分の考えを論理的，客観的にまとめ，プレゼンテーションできる。 2. 相手の意見や主張を理解し，自分の考えをまとめて討論できる。 3. 適切な情報収集（文献調査など）をし，課題の背景と目的を認識し，仮説を開発できる。 4. 仮説を立証するために適切な測定技術等の方法を選択し，継続的に研究を行い，データを収集することができる。 5. 調査や実験など，研究の方法が適切に設計されている。それを適切に沿って説明できる。 6. 研究成果を工学的に考察し，今後の展望も含め，その概要を期限内にまとめることができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	自分の考えを論理的，客観的にまとめ，十分にプレゼンテーションできる。	自分の考えを論理的，客観的にまとめ，プレゼンテーションできる。	自分の考えを論理的，客観的にまとめることが困難で，プレゼンテーションできない。	
評価項目2	相手の意見や主張を理解し，自分の考えをまとめて十分に討論できる。	相手の意見や主張を理解し，自分の考えをまとめて討論できる。	相手の意見や主張を理解することが困難で，自分の考えをまとめて討論できない。	
評価項目3	十分な適切な情報収集（文献調査など）をし，課題の背景と目的を十分に認識し，仮説を開発できる。	適切な情報収集（文献調査など）をし，課題の背景と目的を認識し，仮説を開発できる。	情報収集（文献調査など）や，課題の背景と目的を認識することが困難で，仮説を開発できない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	専攻分野における問題の発見，技術の開発・適用，プレゼンテーションなど一連の研究能力を養成することを目的とする。実践的な技術開発の実際を体得する。			
授業の進め方と授業内容・方法	評価法については以下の通りである。 主査は２名の副査と合議の上，特別研究への取組みや発表会での発表等を総合的に評価し，評価総評を作成して100点法で評価点を出す。 以下の示すテーマ例により，指導教員及び補助指導教員と相談し研究を行う。（）は指導教員名。 電力エネルギーシステムのフロー解析（永塚元航） 新規硬質工具用材料の開発に関する研究（浅見康樹） 組込みシステム用リアルタイムオペレーティングシステムとネットワークシステムに関する研究（阿部司） 大気プラズマを照射したチタン合金およびアルミニウム合金の切削に関する研究（池田慎一） 数値電磁界解析の応用に関する研究（伊藤芳浩） ハードウエアの設計，開発およびシミュレーションに関する研究（稲川清） パワーエレクトロニクスに関する研究（上田茂夫） 計算機利用教育システムの開発に関する研究（大西孝臣） 弾性波の金属構造物から液体への透過過程に関する基礎的研究（加藤初偏） EEGデータ解析に関する研究（木橋智広） 頭外音像定位に関する研究（工藤彰洋） 熱流体解析による未利用エネルギー活用に関する研究（小義栄太郎） 有限要素法による音声生成過程の波れ解析（佐々木幸司） サーボモータによる高速高精度位置決め制御に関する研究（佐沢政樹） 金属・セラミックスの放電プラズマ焼結に関する研究（高澤幸治） 医療情報システムの研究開発・確率的最適化に基づくアルゴリズムの設計（土居茂雄） 情報メディアの処理／生成／蓄積・検索／提示等に関する調査・研究（中村康郎） 医用画像処理に関する研究（中村嘉彦） TCPの輻輳制御に関する研究（宗洋野裕） 地球環境システムに関する研究・再生可能エネルギーに関する研究（二橋創平） 超速ネットワークの解析と利用に関する研究（原田恵雨） ロボットシステムの構築に関する研究（堀勝博） 生体の信号解析とパターン認識（三上剛） ソフトウエアパターンに関する研究（三河佳紀） 最適化アルゴリズムを用いた自動設計手法に関する研究（村本亮） 各種薄膜作製技術を利用したセンサ材料開発に関する研究（山田昭弥） 組込みシステムとロボティクスに関する研究（吉村亮）			

（出典　苫小牧高等専門学校専攻科委員会規程）

資料８－３－①－３（続き）

学修総まとめ科目の成績評価基準等について

苫小牧工業高等専門学校

本校専攻科電子・生産システム工学専攻（専攻の区分：機械工学）における学修総まとめ科目の成績評価法及び基準については，次のとおり定めている。

論文提出および発表会を行い，指導教員と指導補助教員及び発表会に参加した教員が評価し，評価項目に基づき，特別研究Ⅱ評価表（個別）を作成する。指導教員は，特別研究Ⅱ評価表（個別）を基に指導補助教員と合議の上，特別研究Ⅱ評価表（最終）を作成する。各評価項目の評価点の合格基準は２以上とする。特別研究Ⅱ評価表の総合評価は 100 点法で行い，取組状況 30%，発表会 20%，論文 50%として総合的に評価し，60 点以上を合格とする。

この評価法及び基準に基づき，次の手順で成績評価を行う。

① 論文発表会の実施及び論文の提出
② 指導教員，指導補助教員及び発表会に参加した教員による個別評価【特別研究Ⅱ評価表（個別）の作成（Ｐ３参照）】
③ 指導教員，指導補助教員による合議後，最終評価【特別研究Ⅱ評価表（最終）の作成（Ｐ５参照）】

なお，学生に対する評価法及び基準の説明は，年度当初に開催する全学生を対象とするガイダンスにおいて，シラバス（Ｐ７～８参照）を用いて履修上の注意，評価の観点等を含めて説明する。

（出典　専攻科資料）

資料８－３－①－４

「平成 29 年度専攻科入学者 環境・生産システム工学教育プログラム成績評価表」



（以下略）

（出典　平成 31 年度第 10 回専攻科委員会資料）

資料８－３－①－５

「専攻科課程修了時の目標達成状況の把握・評価」

平成３０年度　第１０回専攻科委員会議事概要

日　時：平成３１年２月１３日（水）　１３時１０分～１３時３５分
場　所：中会議室
出席者：別紙のとおり

（略）

議　　題２．専攻科及び教育プログラムの修了認定について【議題２資料①～③】
※了承されました。

（出典　平成 30 年度第 10 回専攻科委員会議事概要）

資料８－３－①－６

「教員会議での修了認定」

平成３０年度　第３回　教員会議記録

◆日　　時　　平成３１年２月１４日（木）１５時００分～１６時１５分
◆場　　所　　大講義室
◆出 席 者　　別紙のとおり（７５名）
◆欠 席 者　　別紙のとおり（　７名）

（略）

議　　題１．修了認定について【資料有】

村本専攻科長から，議題１資料に基づき，専攻科修了要件及び要件の充足状況等について説明があった。

引き続き村本専攻科長から，電子・生産システム工学専攻１６名，環境システム工学専攻８名の計２４名が要件を満たしていることから，修了を認めたい旨提案があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

（以下略）

（出典　平成 30 年度第３回教員会議議事録）

資料８－３－①－７

「地域連携シンポジウムにて行われた専攻科特別研究発表の関連資料」

【専攻科研究発表】
専攻科１年生２６名による発表（ポスターセッション形式）

◇ 電子・生産システム工学専攻

No	学生氏名	発表テーマ及び概要
1	[redacted]	**負イオン移動度測定を応用した小型ガス分析装置の開発** 現在，ガス分析に用いられている代表的な手法には質量分析法があるが，この手法を大気圧で用いる場合，真空装置を要するため，装置サイズ，コストの面で課題がある。故に本研究ではガス分析法として，負イオン移動度測定技術を応用し，真空装置を必要としない，低コストかつ小型のガス分析装置の開発について検討する。
2	[redacted]	**系統用蓄電池による周波数制御時の SOC 調整方式に関する検討** 再生可能エネルギーの普及拡大により，周波数変動増加や調整力不足といった問題が懸念される。従来は火力等の発電機による調整力確保がなされてきたが，この制御に蓄電池を活用する技術が期待されている。そこで需給・周波数制御システムモデルでの蓄電池モデルをベースに，より効果的な周波数制御時の残量調整方式を検討した。
3	[redacted]	**高専における時間割編成問題に対する近似解法の研究** 高専は学科ごとに授業を受ける形式を取り，大学より制限が強いため時間割編成には多大な時間を要する。本研究では，高専を対象とした時間割編成問題に対する近似解法の提案，実装を行う。編成にはタブー探索法を用いる。まずは大学を対象に提案されたアルゴリズムを実装し，そこから高専を対象とする形に修正していく事で解決を図る。
4	[redacted]	**電動車いすを安全に誘導する先導ロボットの開発** 当研究室では，介護者に代わって車いすを安全に誘導する先導ロボットというユーザサポートロボットを開発している。これまでの研究では，交差点で歩行者に遭遇した際，ロボットが停止して衝突を回避することができた。本研究では，停止後に動作を再開し，交差点を安全に通過するためのアルゴリズムについて検討する。
5	[redacted]	**CT 画像を用いた没入型 VR 技術による人体の解剖学的3次元構造学習支援アプリケーションの改良** 医学・看護学における初学者利用の観点から，人体の解剖学的３次元構造を学ぶ方法として，人体構造の個人差を理解すること，直感的に把握できること，という２つの課題を解決する没入型 VR 技術による学習支援アプリケーションの開発を行う。また，人体構造の把握をより直感的かつ手軽に行うために，UI の改良を行う。

（以下略）

資料８－３－①－７（続き）

苫小牧高専地域連携シンポジウム
２０１８

日　時　　平成３０年１１月３０日（金）１７：００～１９：００
場　所　　グランドホテルニュー王子　３階「グランドホール」（苫小牧市表町 4-3-1）

次　第

１．主催者挨拶　　苫小牧工業高等専門学校長　黒川　一哉　氏

２．パネルディスカッション（45 分）

（略）

４．専攻科研究発表（専攻科１年生２６名，ポスターセッション形式）（45 分）

（以下略）

（出典　地域連携シンポジウム配布資料）

資料８－３－②－１

「卒業生、企業へのアンケートの実施要領」

各種アンケート調査について（案）

●実施目的

□学生・教職員・企業・卒業生からの意見集約及び各種目的等の周知状況調査によって今後の教育改善を図るために，以下の各種アンケートを実施する．

●実施項目（対象）

1.学生

□1)実施内容：平成 25 年度に実施したものと同様
□□□＋□成績評価，単位認定規定，進級・卒業・修了認定規定の学生の周知状況
　2)実施方法：blackboard
□□□→□5/13 から開始（5/29 まで）

2.教職員（常勤以外も含む）

□1)実施内容：機関別認証評価で，「改善を要する点」として指摘された内容
□□①「入学者受入方針（アドミッションポリシー）」の周知状況
□□②教員のシラバスの活用状況
□□③学修単位の授業での自学自習が，シラバスの記載通りに実施されているかなど
　2)実施方法：
　　2-1)常勤□□：blackboard（学術情報センターと連携，コースの作製の必要）
　　2-2)常勤以外：紙媒体（教務主事団，教務係に依頼）
□□□→□実施：決定（運営委員会），実施内容：総務主事団・関係事務，実施時期：要検討

3.企業（ただし，採用実績のある企業）

　1)実施内容：機構が卒業生向けに実施したアンケートを修正して使用する
　2)実施方法：紙媒体，電子ファイル（本校ホームページからファイルをダウンロード，提出先方法：総務課 FAX(0144-67-0814)，メール（pub_info@office.tomakomai-ct.ac.jp）

　①キャリア教育センター：センターに寄った際に依頼する
　　（キャリア教育センターに協力依頼し，内諾を得ている）
　　・帰りに提出して貰う（直接受取，どこかにポストを設置して投函など）
　　・ホームページから，ファイルをダウンロードできる旨の案内（提出は，FAX，メール）
　②第 5 学年担任：話が終わったら，用紙を渡して記入のお願い
　　・帰りに提出して貰う（直接受取，どこかにポストを設置して投函など）
　　・ホームページから，ファイルをダウンロードできる旨の案内（提出は，FAX，メール）
□③全教職員：共同研究など関わりのある企業に依頼ができるようであればお願いする
□□・打合せ時などに依頼する
　　・ホームページから，ファイルをダウンロードできる旨の案内（提出は，FAX，メール）
　④同窓会，協力会：協力依頼
　⑤ホームページにファイルの掲載（掲載方法などは，これから打ち合わせる）

（以下略）

（出典　平成 27 年度第２回総務委員会資料）

資料８－３－②－２

「卒業生、企業へのアンケート依頼文」

苫小牧高専「教育に関する卒業生・修了生，企業アンケート（平成 27 年度）」の協力依頼について（案）

本校では，これまでにも学生，卒業生，進路先を対象にしたアンケートを実施し，教育の改善に生かしてきました．このアンケートも，今後の学校改善のために行うものです．ご協力いただきますようお願いいたします．

□本校ホームページに，アンケート用紙のファイル（MS-Word 形式）を掲載しております．

●卒業生・修了生用は，「http://www2.tomakomai-ct.ac.jp/forsotsugyousei.docx」

●進路先（企業）用は，「http://www2.tomakomai-ct.ac.jp/forcampany.docx」

ファイルをダウンロード後，ご回答いただき FAX または，メールにて送信していただきますようお願いいたします．

回答は，以下の様にお願いします．

1) 紙媒体の場合は，各質問の該当項目の□にチェック（☑）を入れて下さい．

2) 電子ファイルの場合は，各質問の該当項目の□をクリックして下さい．（☑）に変わります．

提出方法について

FAX の場合は，総務課（送り状は不要です）0144-67-0814 までお願いします．

メールの場合は，pub_info@office.tomakomai-ct.ac.jp までお願いします．

※本アンケートは，9 月 30 日（水）を期限とさせていただきます．

※本アンケートにご入力・ご記入いただきました内容は，アンケートの集計のみに使用し，集計後の統計資料はアンケートの趣旨・目的以外の目的には使用いたしません．

以上，よろしくお願いいたします．

（以下略）

（出典　平成 27 年度第 2 回総務委員会資料）

資料８－３－②－３

「達成度自己評価の実施についての委員会資料」

平成３０年度□第１０回専攻科委員会議事概要

日□時：平成３１年２月１３日（水）・１３時１０分～１３時３５分

場□所：中会議室

出席者：別紙のとおり

議□□題１．専攻科２年次の単位認定について【議題１資料】

※了承されました。

議□□題２．専攻科及び教育プログラムの修了認定について【議題２資料①～③】

※了承されました。

議□□題３．専攻科学生の学会等旅費の補助について【議題３資料】

※了承されました。

議□□題４．その他

□□□□□□特になし。

報告事項１．第１５回修了証書授与式及び祝賀会について【資料なし】

報告事項２．学習・教育到達目標達成度自己点検の実施について【資料なし】

報告事項３．特例による学位の申請について【資料なし】

報告事項４．その他

□□□□

以上

（以下略）

（出典　平成 30 年度第 10 回専攻科委員会資料）

資料８－３－②－４

「専攻科生への達成度自己評価の集計結果」

令和元年６月２８日
第３回専攻科委員会
報告事項　２　資料

平成３０年度専攻科 学習・教育目標自己達成度点検書 結果一覧

○1年

	A_教養	B_倫理	C_コミ	D_基礎	E_継続	F_専門	G_複合	H_社会	I_チーム
1	0	0	0	0	0	0		0	0
2	0	0	2	2	1	2		1	1
3	11	12	10	12	16	14		14	8
4	14	13	13	11	8	9		10	16
全平均	3.6	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3		3.4	3.6

○2年

	A_教養	B_倫理	C_コミ	D_基礎	E_継続	F_専門	G_複合	H_社会	I_チーム
1	0	0	0	0	0	0		0	0
2	2	1	1	1	1	1		2	2
3	11	14	9	17	13	12		12	11
4	11	9	14	6	10	11		10	11
全平均	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4	3.4		3.3	3.4

（出典　令和元年度第３回専攻科委員会）

資料８－３－②－５

「学修教育目標達成度点検記録簿」

学習・教育到達目標の到達度自己評価点検記録簿

専攻

氏　名

○学習・教育到達目標達成度の自己点検

学習・教育到達目標（点検項目）	【評価点】4：充分に達成できていると自己判定する。 3：概ね（80%）は達成できていると自己判定する。 2：評価基準の合格点には達しているが自己判定する。 1：達成できているとは自己判定できない。				
	(平成29年) 第1学年	(平成　年) 第　学年	(平成　年) 第　学年	(平成　年) 第　学年	(平成　年) 第　学年
(A)教養：地球的視点で自然・環境を考え，歴史，文化，社会などについて広い視野を身につける。					
(B)倫理と責任：技術者としての倫理感や責任感を身につける。					
(C)コミュニケーション：日本語で記述，発表，討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。					
(D)工学基礎：数学，自然科学，情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。					
(E)継続的学習：技術者としての自覚を持ち，自主的，継続的に学習できる能力を身につける。					
(F)専門の実践技術：ものづくりに関係する工学分野のうち，得意とする専門領域を持ち，その技術を実践できる能力を身につける。					
(G)複合領域の実践技術：他の専門領域も理解し，自身の専門領域と複合して考察し，境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける					
(H)社会と時代が求める技術：社会や時代が要求する技術を工夫，開発，システム化できる創造力，デザイン能力，総合力を持った技術を身につける。					
(I)チームワーク：自身の専門領域の技術者とは勿論のこと，他領域の技術者ともチームを組み，計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。					

（出典　学生課資料）

資料８－３－②－６

「学修教育目標達成度点検記録簿」

（平成３０年度版）
【参考資料】

専攻：　AP，AE　　学年：1，2年　（該当する専攻・学年に○を付けてください。）

以下が学習・教育到達目標の到達度自己評価点検項目となっておりますので参考にしてください。
また，一番下の□欄に学習・教育到達目標及び点検項目についてご意見をお聞かせください。

【評価点】　1：達成できているとは自己判定できない。　2：評価基準の合格点には達していると自己判定する。
3：概ね(80%)は達成できていると自己判定する。　4：充分に達成できていると自己判定する。

(A) 教養：地球的視点で自然・環境を考え，歴史，文化，社会などについて広い視野を身につける。
A-3　地球環境や社会における問題点を整理し，社会科学および人文科学の知識，概念，方法論に基づいて多様な観点から考えることができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(a)，(e)，(g)

(B) 倫理と責任：技術者としての倫理感や責任感を身につける。
B-1　技術者倫理，技術史，関係法規，安全工学，リスクマネジメントなどに関する基本的な事項について説明できる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(b)
B-2　環境問題の論点を整理し，技術者倫理と工学の知識に基づいて問題を分析できる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(b)
B-3　技術が自然や社会に与える影響を理解し，現代社会における技術の問題を認識したうえで，技術者の社会的責任を考えることができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(b)，(e)

(C) コミュニケーション：日本語で記述，発表，討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。
C-1　自分の考えを論理的，客観的にまとめてプレゼンテーションができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(e)，(f)
C-2　相手の意見や主張を理解し，自分の考えをまとめて討論できる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(e)，(f)
C-3　日本語による実践的文書作成を，効果的，効率的に行うことができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(e)，(f)
C-4　英語で書かれた論文などを正しく読解し，その内容を日本語で説明できる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(e)，(f)
C-5　英語で簡単なコミュニケーションをとることができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(e)，(f)

(D) 工学基礎：数学，自然科学，情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。
D-1　工学に関連する数学の基礎的な問題を解くことができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(c)
D-2　工学に関連する自然科学の基礎的な問題を解くことができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(c)
D-3　情報技術に関する知識を活用できる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(d) (1)
D-4　数学，自然科学，情報技術および工学の基礎知識を応用し，設計・システム系，情報・論理系，材料・バイオ系，力学系，社会技術系の工学的問題を解決できる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(d) (1)，(e)

(E) 継続的学習：技術者としての自覚を持ち，自主的，継続的に学習できる能力を身につける。
E-1　技術の変化に関心を持ち，自主的に新たな知識や適切な情報を獲得できる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(e)，(g)
E-2　工学知識，技術の修得を通して，自主的・継続的に学習することができる。
JABEE 基準 1 (1) (a)～(h) の項目　→　(e)，(g)

（出典　平成 30 年度第 10 回専攻科委員会資料）

資料８－３－②－７

「修了生のアンケート集計結果」

平成28年10月4日
第３回総務委員会
資　料　4

苫小牧工業高等専門学校

平成 27・28 年度実施「卒業生・修了生アンケート調査結果」

1. 実施目的

今後の教育改善を図るため，卒業生・修了生からの意見集約及び各種目的等の周知状況を調査する。

2. 実施項目

1)実施内容：高専機構平成 23 年度卒業生向けアンケートに準拠
2)実施方法：　①調査期間：平成 27 年 5 月 29 日～平成 28 年 5 月 31 日
②調査方法：配付依頼（紙媒体），本校 HP よりダウンロード（電子ファイル）

3. 実施結果

1)回答数（添付資料参照）
回答数は，33 名（内，専攻科修了生（本校本科卒業後，専攻科に進学）4 名）であった。
※専攻科修了生からの回答が，ほとんど得られていないため，今後も継続した活動が必要
2)結果のまとめ（詳細は，添付資料参照）
全部で 17 の設問について各設問に対しての全体の傾向などを記述する。

A　回答者について

Q1：本社（官公庁その他の機関を含む全て）の所在地域をお答え下さい。
Q2：業種をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）。
Q3：従業員数をお答え下さい（既に退職されている方は，在職中の業種をお答え下さい）。
Q4：年齢をお答え下さい。
Q5：出身学科をお答え下さい（本科）。
Q6：出身学科をお答え下さい（専攻科）。

・(Q1~6：添付資料参照)

B　本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q7：本校では，平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています。以下の事項について，質問にお答え下さい。

（以下略）

（出典　平成 28 年度第３回総務委員会資料）

資料８－３－②－８

「企業のアンケート集計結果」

平成28年10月4日
第３回総務委員会
資　料　5

苫小牧工業高等専門学校

平成 27・28 年度実施「企業アンケート調査結果」

1. 実施目的

今後の教育改善を図るため，企業からの意見集約及び各種目的等の周知状況を調査する。

2. 実施項目

1)実施内容：　高専機構平成 23 年度卒業生向けアンケートに準拠し，一部を企業用に修正
2)実施方法：　①調査期間：平成 27 年 5 月 29 日～平成 28 年 5 月 31 日
②調査方法：配付依頼（紙媒体），本校 HP よりダウンロード（電子ファイル）

3. 実施結果

1)回答数（添付資料参照）
回答数は，20 社であった。
2)結果のまとめ（詳細は，添付資料参照）
全部で 16 の設問について各設問に対しての全体の傾向などを記述する。

A　回答者について

Q1：御社（官公庁その他の機関を含む全て）の本社の所在地域をお選び下さい。
Q2：業種をお選び下さい。
Q3：従業員数をお選び下さい。

・(Q1~3：添付資料参照)

B　本校の「教育理念」と「学習目標」について

Q4：本校では，平成 26 年度から「教育理念」と「学習目標」を掲げています。以下の事項について，お答え下さい。

Q4-1：本校の教育理念に関して，どのように思われますか。

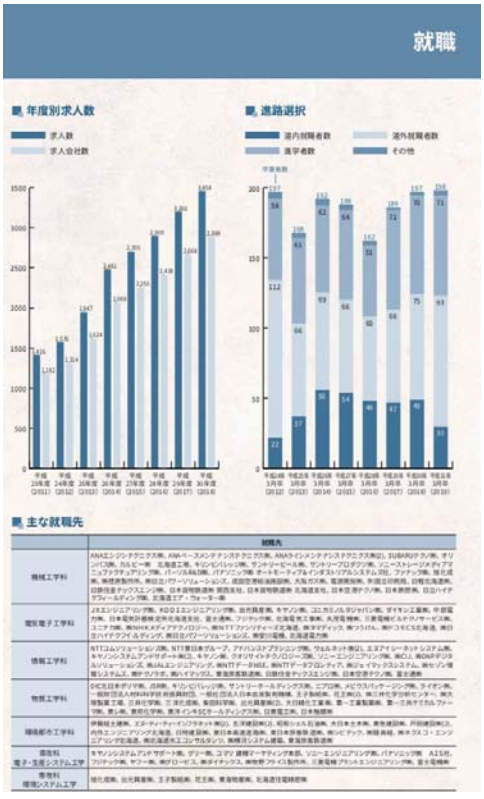
・　「適切である」との回答が，ほぼ 100%となっており，認められている。

（以下略）

（出典　平成 28 年度第３回総務委員会資料）

資料８－３－③－１

「卒業生・修了生の就職状況」



（出典　平成 30 年度学校要覧）

資料８－３－③－２

「修了生の進路状況」

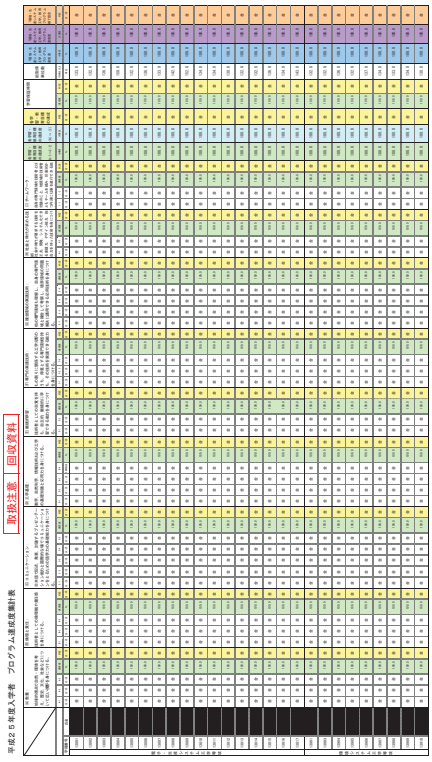
平成30年度修了者進路状況

専攻		電子生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	合計
求人会社数		573	395	968
修了者数	男	16	3	19
	女	0	5	5
進学者数	男	4	1	5
	女	0	1	1
企業等	男	12	2	14
	女	2	4	6
公務員	男	0	0	0
	女	0	0	0
進学先		北海道大学大学院(2) 長岡技術科学大学大学院(2)	北海道大学大学院 山梨大学大学院	
就職先		キヤノンシステムアンドサポート㈱ グリー㈱ コマツ 建機マーケティング本部 ソニーエンジニアリング㈱ パナソニック㈱ AIS社 フジテック㈱ ヤフー㈱ ㈱グローピス ㈱ダイナックス ㈱牧野フライス製作所 三菱電機プラントエンジニアリング㈱ 富士電機㈱	旭化成㈱ 出光興産㈱ 王子製紙㈱ 花王㈱ 東海物産㈱ 北海道住電精密㈱	

（出典　学生課資料）

資料８－３－④－１

「平成２５年度入学者　環境・生産システム工学教育プログラム達成度集計表」

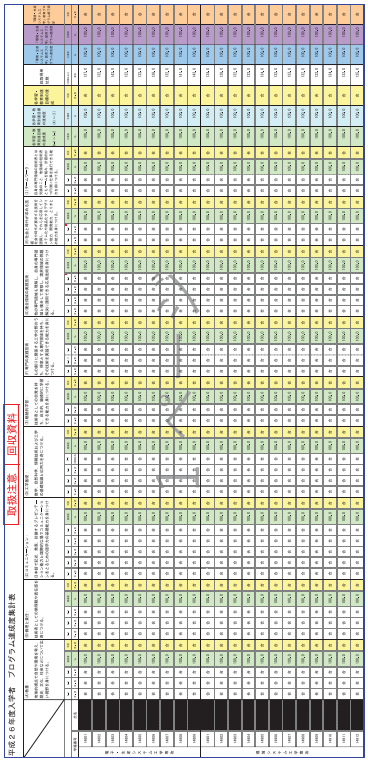


（以下略）

（出典　平成 27 年度第 10 回専攻科委員会資料）

資料８－３－④－２

「平成２６年度入学者　環境・生産システム工学教育プログラム達成度集計表」



（以下略）

（出典　平成２６年度入学者　環境・生産システム工学教育プログラム達成度集計表）

資料８－３－④－３

「平成２７年度入学者　環境・生産システム工学教育プログラム達成度集計表」



（以下略）

（出典　平成 29 年度第 10 回専攻科委員会資料）

資料８－３－④－４

「平成２８年度入学者　「環境・生産システム工学」教育プログラム達成度集計表」

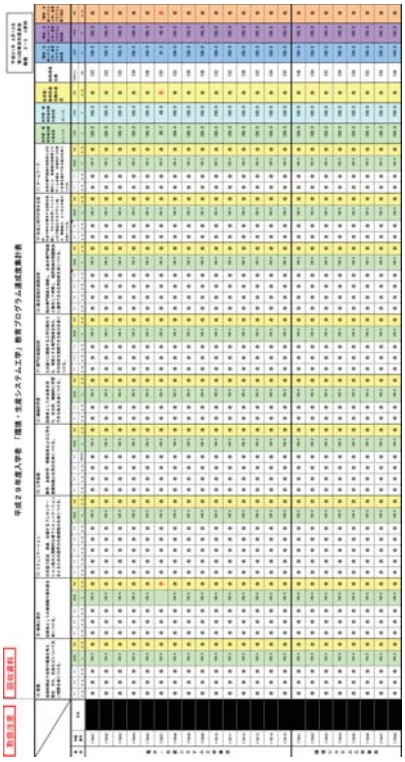


（以下略）

（出典　平成 30 年度第 10 回専攻科委員会資料）

資料８－３－④－５

「平成２９年度入学者　「環境・生産システム工学」教育プログラム達成度集計表」



（以下略）

（出典　平成 31 年度第 10 回専攻科委員会資料）

資料９－１－①－（１）－１

「国際交流活動の目的」

国際交流活動について

【国際交流の目的】

国際交流（語学研修，インターンシップ，異文化交流，共同研究等）を通して，国際的に活躍できる能力を持つ実践的な技術者を養成する。また，教職員の国際感覚を磨き，教育・研究の活性化を図る。

【平成29年度の活動結果】

(1)アジア諸国から招聘された高校生の高専訪問への協力
(2)海外派遣（ニュージーランドEIT，香港THEi）
(3)グローバル高専事業への協力
(4)高専の海外展開事業への協力（協力支援校）
(5)タイカセサート大学との学術交流協定の締結

（出典　平成 29 年度運営諮問会議資料）

資料９－１－①－（１）－２

「平成 30 年度活動計画表」

平成30年５月２日
第１回総務委員会
資　　料　　1

総務委員会
活動計画および活動結果点検表（平成30年度）

	平成30年度		
	活動計画	活動結果	申し送り事項等
Ⅰ　中期目標・中期計画に係る計画			
広報に関する施策について検討，実施する。	・ウェブサイトのリニューアルを継続して実施する。 ・ホームページに掲載する「お知らせ」について広報依頼の年間計画を適宜改善する。		
海外協定校との交流に関する施策について検討，実施する。	・EIT，香港ITEi，及びタイカセサート大との学生相互派遣に関して必要な審議を行なう。		

（略）

外国の機関との学術交流及び学生交流に関する事項	・国際化教育推進部会と連携し，国際交流に関して必要な措置をとる。		

（以下略）

（出典　平成 30 年度第１回総務委員会資料）

資料９－１－①－（１）－３

「国際交流を主導する委員会」

苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程

規則第108号
制　　定　平成27年３月10日
一部改正　平成28年１月26日

（設置）

第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の総務に関する事項を審議するため，総務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　将来計画に関する事項
二　広報活動に関する事項
三　ホームページの管理に関する事項
四　外国の機関との学術交流及び学生交流に関する事項

（以下略）

（出典　苫小牧工業高等専門学校総務委員会規程）

資料９－１－①－（１）－４

「総務委員会設置の国際交流の実施母体」

平成 31 年度校務分担

役職名，委員会名	委員会委員役職指定	担当教員
国際化教育推進部会	総務主事（長），総務主事補，総務主事の推薦に基づき校長が指名する教員　若干名，学生指導主事補，学生部教務係及び学生係各１名	山下　健，松田　泰保，中村　努，高橋　芳太，松尾　優子，佐藤　泰々恵，石川　愛弓

（以下略）

（出典　令和元年度教職員配布資料）

資料９－１－①－（１）－５

「学術交流協定一覧」

学術交流協定一覧

		名称(日本語)	名称（英語）	国　名	締結年度	締結年月日	更新年月日	有効期限	備　考
1	国立	EITホークスベイ	EASTERN INSTITUTE OF TECHNOLOGY,HAWKE'SBAY	ニュージーランド	2006年度	2006/8/18	2011/7/15	2016/7/14	
2	国立	EITホークスベイ	EASTERN INSTITUTE OF TECHNOLOGY,HAWKE'SBAY	ニュージーランド	2013年度	2013/4/16	2018/5/18	期限なし	提内4高専包括協定
3	国立	モンゴル科学技術大学	MONGOLIAN UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY	モンゴル	2007年度	2007/4/20	更新していない	2012/4/19	
4	国立	THEi	Technological and Higher Education Institute of HongKong	香港	2013年度	2013/12/18	－	期限なし	
5	私立	モンゴル工業技術大学	Institute of Engineering and Technology	モンゴル	2015年度	2015/8/31	－	期限なし	
6	国立	カセサート大学	KASETSART UNIVERSITY	タイ	2017年度	2017/12/14		期限なし	連携協定書（国内・学術）包括協定

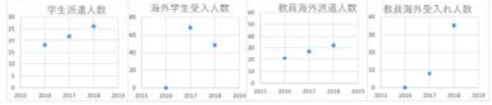
（出典　総務課作成資料）

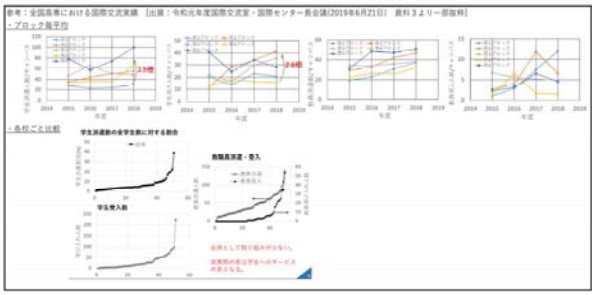
資料９－１－②－（１）－１

「国際交流事業の活動参加者数がわかる資料」

国際交流実績

派遣年度	学生派遣人数	海外学生受入人数	教員海外派遣人数	教員海外受入れ人数
2016	18	0	21	0
2017	22	68	27	8
2018	26	48	32	35





（出典　総務課作成資料）

資料９－１－②－（１）－２

「平成 30 年度国際交流事業の詳細がわかる資料」

平成３０年度の国際交流事業について

● **モンゴル高専教員派遣**
日程：４月 27 日（金）～５月６日（日）［10 日間］
派遣人数：１名（都市・環境系教員１名）

● **タイ・カセサート大学学生インターンシップ受入**
日程：６月１日（金）～７月 31 日（火）［約２ヶ月］
受入人数：１名（機械専攻）

● **専攻科香港 Thei 受入**
日程：６月 18 日（月）～６月 22 日（金）［５日間］
受入人数：22 名（建築専攻の学生 20 名，教員２名）

● **モンゴル高専教員研修受入**
日程：６月 25 日（月）～７月 19 日（木）［25 日間］
受入人数：２名（モンゴル IET 高専，新モンゴル高専各１名）

● **モンゴル高専学生他受入**
日程：８月 22 日（水）～８月 31 日（金）［10 日間］
受入人数：11 名（モンゴル IET 高専，科技大付属高専，新モンゴル高専学生９名，教員２名）
※日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」採択

● **本科ニュージーランド EIT 派遣**
日程：８月 31 日（金）～９月 17 日（月）［18 日間］
派遣人数：17 名（本科４年１名，３年 16 名）

● **モンゴル高専教員派遣**
日程：８月 31 日（金）～９月 25 日（火）［26 日間］
派遣人数：１名（都市・環境系教員１名）

● **本科・専攻科香港 Thei 派遣**
日程：９月２日（日）～９月 11 日（火）［10 日間］
派遣人数：５名（本科５年３名，専攻科１年２名）

● **モンゴル高専教員派遣**
日程：９月 15 日（土）～９月 19 日（水）［５日間］
派遣人数：２名（校長，都市・環境系１名）

資料９－１－②－（１）－２（続き）

● **モンゴル高専教員派遣**
日程：９月 16 日（日）～９月 23 日（日）［８日間］
派遣人数：２名（都市・環境系教員１名，応用化学・生物系１名）

● **ISATE2018 派遣**
日程：９月 18 日（火）～９月 21 日（金）［４日間］
派遣人数：１名（情報科学・工学系教員１名）
場所：香港，IVE Engineering Discipline

● **ISTS2018 派遣**
日程：10 月６日（土）～14 日（日）［９日間］
派遣人数：１名（専攻科２年１名）
場所：キングモンクット工科大学ラカバン校

● **JENESYS2018 受入**
日程：12 月 14 日（金）
受入人数：20 名（タイからの高校生 19 名，教員１名）
※外務省から委託を受けた一般財団法人日本国際協力センター（JICE）が実施する「対日理解促進交流プログラム　JENESYS2018」の招へいプログラム

● **モンゴル高専教員研修受入**
日程：１月８日（火）～１月 22 日（火）［15 日間］
受入人数：２名（モンゴル IET 高専，科技大付属高専各１名）

● **マレーシア・マラエ科大学講義派遣**
日程：１月 12 日（土）～１月 20 日（日）［９日間］
派遣人数：１名（情報科学・工学系教員１名）

● **タイ・ラジャマンガラエ科大学イサン校受入**
日程：１月 30 日（水）
受入人数：25 名（学長，副学長，学長補佐，学部長等教職員）

● **タイ・カセサート大学学生受入**
日程：２月４日（月）～２月５日（火）［２日間］
受入人数：11 名（学生 10 名，教員１名）

● **タイ・カセサート大学学生インターンシップ派遣**
日程：２月～３月
派遣人数：４名（本科５年２名，専攻科１年２名）
※本科生　２月 23 日（土）～３月 12 日（火）［18 日間］
　専攻科生　２月 23 日（土）～３月 19 日（火）［25 日間］

資料９－１－②－（１）－２（続き）

● モンゴル高専教員派遣
日程：２月 24 日（日）～３月２日（土）［７日間］
２月 27 日（水）～３月 13 日（水）［15 日間］
派遣人数：２名（都市・環境系教員２名）

● モンゴル高専教員派遣
日程：３月２日（土）～３月 13 日（水）［12 日間］
派遣人数：２名（応用化学・生物系教員２名）

（出典　平成 30 年度運営諮問会議資料）

資料９－１－②－（１）－３

「海外インターンシップ派遣事前・事後における学生の自己評価の比較」

平成30年度　苫小牧工業高等専門学校・カセサート大学インターンシップ派遣

自己点検評価(研修後)

記入日	年　月　日
学年・学科	
氏名	

以下の29項目の自己評価を記入して下さい。
評価の基準は以下の通りです：５（そう思う） ４（ややそう思う） ３（どちらとも言えない） ２（ややそう思わない） １（そう思わない）

学習項目	No.	自己評価項目	評価
主体性	1	自分の文化背景と異なる環境の中でも、自らやるべきものごとを考え、率先して行動をとることができる	1 2 3 4 5
主体性	2	自分の文化背景と異なる場において、不十分な外国語力であっても、何とか意思を伝えようと、積極的に発信することができる	1 2 3 4 5
自己管理力	3	自分の文化背景と異なる環境の中でも、目標の実現に向けて計画し、自らを律して行動することができる	1 2 3 4 5
リーダーシップ	4	外国人も含む仲間に働きかけ、問題点を一緒に改善するために行動することができる	1 2 3 4 5
コミュニケーション	5	自分の意見をわかりやすく整理した上で、自分と文化背景の異なる相手にに理解して貰えるように的確に伝えることができる	1 2 3 4 5
チームワーク力	6	チームで協調、共同するために、自分と文化背景の異なる相手の話しやすい環境を作り、適切な意見を引き出すことができる	1 2 3 4 5
チームワーク力	7	チームで協調、共同するために、自分の意見や方法に固執せず、文文化背景と異なる相手の意見や立立場を尊重して柔軟に対処できる	1 2 3 4 5
チームワーク力	8	自分と文化背景の異なるメンバーとチームで活動する時、当事者意識を持ってチームの作業を進めることができる	1 2 3 4 5
合意形成	9	自分の文化背景と異なる場において、グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる	1 2 3 4 5
倫理観	10	自分とは異なる信仰や文文化的背景を持っている人を尊重し、受け入れることができる	1 2 3 4 5
倫理観	11	自分と文化背景の異なる場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切にすることができる	1 2 3 4 5
倫理観	12	日本の文化を理解し、自分の行動や発言の特徴を認識することができる	1 2 3 4 5
倫理観	13	文化背景の異なる相手に、日本の文化の違いやその背景を表現し、伝えることができる	1 2 3 4 5

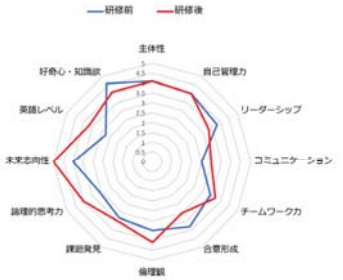
学習項目	No.	自己評価項目	評価
課題発見	14	自分の文化背景と異なる環境の中でも、あるべき姿と現状の差異問題を認識するための情報収集ができ、課題点を具体的に提示することができる	1 2 3 4 5
論理的思考力	15	課題に向けた解決プロセスを考え、自分の文化背景と異なる環境においても、計画的に実行することができる	1 2 3 4 5
論理的思考力	16	自分の文文化背景と異なる場においても既存の発想にとらわれず、課題に対して柔軟な考え方で、意見やアイディアを工夫して提案できる	1 2 3 4 5
未来志向性	17	異文化などのストレス状況に置かれても、自分の成長機会だとポジティブに捉え、前向きに対処することができる	1 2 3 4 5
未来志向性	18	自分の文化背景と異なる環境の中でも、挑戦してみることが大切だと考え、リスクがあっても、臆せずに行行動することができる	1 2 3 4 5
英語レベル	19	ごく基本的な個人人情報や家族情報、買い物、地元の地理など、直接関係のある領域なら文文章や よく使われる表現が理解できる（準2級）	1 2 3 4 5
英語レベル	20	簡単で日常的な範囲なら、身近な日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる（準2級）	1 2 3 4 5
英語レベル	21	仕事、学校などで普段出会うような身身近な話題について標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる（2級）	1 2 3 4 5
英語レベル	22	身近な話題や個人的に関心心のある話題について、前の通った簡単な文文章を作ることができる（2級）	1 2 3 4 5
英語レベル	23	自分の専門分野の技術的な論議も含めて、抽象的な話題でも、具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる（準1級）	1 2 3 4 5
英語レベル	24	幅広い話題について、明確で詳細な文章をつくることができる（準1級）	1 2 3 4 5
好奇心・知識欲	25	専門分野の勉強へのモチベーションがある	1 2 3 4 5
好奇心・知識欲	26	語学の勉強へのモチベーションがある	1 2 3 4 5
好奇心・知識欲	27	留学先(研修先)の社会・習慣・文化について関心・知識がある	1 2 3 4 5
好奇心・知識欲	28	日本の社会・慣習・文化について関心・知識がある	1 2 3 4 5
好奇心・知識欲	29	政治・社会問題・国際関係について、関心・知識がある	1 2 3 4 5

資料５－１－①－（１）－３（続き）

平成30年度力セサート大学インターンシップ自己点検評価

・「未来志向性」「論理的思考力」「英語レベル」の評価が大きく延びた
・「倫理観」「課題発見」「チームワーク力」の評価がやや延びた
・「リーダーシップ」「合意形成」「好奇心・知識欲」の評価が下がった

	研修前	研修後
主体性	4.1	4.1
自己管理力	4	4
リーダーシップ	3.8	3.3
コミュニケーション	2.5	3
チームワーク力	3.4	3.7
合意形成	3.8	3
倫理観	3.5	4.1
課題発見	3.3	3.5
論理的思考力	3.1	4
未来志向性	4	5
英語レベル	2.7	3.7
好奇心・知識欲	4.6	4.1



（出典　平成 30 年度カセサート大学インターンシップ派遣事前・事後アンケート（平成 31 年４月実施）および集計結果）

資料５－１－①－（１）－４

「ニュージーランド・EIT 派遣後の学生アンケート」

Q1.
1) Pre-meeting
*(1) Positive 16
Negative 1

(2) to be improved
N/A 7
we should have sent the package earlier　kandarna should be made of plastic
need more local information　4 avoid test week
want more group session time　wanted to practice demonstrations more　2

2) English course at EIT
*(1) Positive 17 The teachers were so helpful that I was able to understand the lessons well.
Negative

(2) to be improved
want to learn in a class with less Japanese students　4
students should bring their notebooks
N/A 10

3) Science demonstration
*(1) Positive 17 good to know what local schools are like

Negative

(2) to be improved
N/A 9
The schedule was a little too tight　2　read more information about the classrooms
I hope there's more time to talk with the kids after the demostrations.
I wish we could have used a room or a space to prepare right before the demonstration
I wanted more time to prepare at EIT to have my pronunciation checked.　2
Package should arrive much earlier

4) Meeting with local students
*(1) Positive 17 good to know what's in fashion among the students
good to have conversation with the students of the same generation.
Negative

(2) to be improved
N/A 10
I wanted to talk with boys, too　5
I wanted to know more about the students beforehand, such as their Japanese skills.　2

5) Other activities (Hawke's Bay tour, Farm visit, etc)
*(1) Positive 17
Negative

(2) tobe improved
N/A 16
I wanted a tour map of Hastings

6) Homestay
*(1) Positive 17 good to have roommates from different countries　2
Negative

(2) to be improved
N/A 13
I had to take bus to go to school
I wanted to contact my hostfamily beforehand (She had no e-mail address)
I wanted my host family to check e-mails frequently. Couldn't contact them from EIT
I wish I could have had breakfast

（出典　総務課保管資料）

資料５－１－①－（１）－５

「海外学生の本校におけるインターンシップに関するアンケート」



（出典　令和元年度　タイ・カセサート大学および香港・THEi インターンシップ学生に対するアンケート（平成 31 年 7 月実施）結果）

資料９－１－①－（１）－６

「国立高等専門学校機構の国際交流プログラムへの参加実績が分かる資料」

海外インターンシップ

平成20年度から、国際的に活躍できる能力を持つ実践的な技術者の養成を行うこと及びそのための共同教育の促進を図ることを目的として、全国高専の学生及び機構教職員が企業の海外事業所等において就業体験等を行う「海外インターンシッププログラム」が開始されました。

平成26年度海外インターンシッププログラムに参加して（環境都市工学科5年　梶原碧）



私は高専機構主催の平成26年度海外インターンシッププログラムに参加しました。このプログラムは専攻科に進学予定の5年生と専攻科生が対象となっており、今年度は全国から9名の学生が参加しました。…..

平成25年度海外インターンシッププログラムに参加して（環境システム工学専攻　小久保亘）



2014年3月2日から3月23日までの3週間、高専機構が主催する海外インターンシップに参加し、前田建設工業株式会社（以下前田建設）の香港支店において研修を受けてきました。…..

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料９－１－①－（１）－７

「タイ・カセサート大学との学生国際会議の開催実績が分かる資料」

学生国際会議Kasetsart University-Tomakomai KOSEN Student Conference 2019を開催いたしました

2019年02月13日（水）

２月４日（月），苫小牧高専において学生国際会議Kasetsart University-Tomakomai KOSEN Student Conference ２０１９を開催いたしました。カセサート大学（Kasetsart University）はタイの国立大学で，本校と学術交流協定を結んでいます。今回の会議では，カセサート大学学生による研究発表（５件）と本校の専攻科生と本科生による研究発表（６件）が行われ，各自の専門分野（電気電子工学，機械工学，物質工学など）の研究成果が発表されました。部分的な参加者も含めると，総勢５４名以上の方に参加していただきました。今回のカセサート大学との学生国際会議は初めての開催でしたが，次年度以降も継続的に開催していくことを予定しています。



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料９－１－②－（１）－８

「モンゴルへの海外展開事業における協力支援を示す資料」

高機国第２６号
平成３１年４月１日

苫小牧工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事（国際担当）　東田　賢二

海外展開事業（モンゴル国）における協力支援について（依頼）

標記のことについて，以下のとおり依頼します。

記

（１）依頼業務内容　　海外展開事業における協力支援校としての業務
（２）依頼期間　　令和２年３月末まで
（３）その他　　概要は別紙を参照のこと

（担当）
独立行政法人国立高等専門学校機構
国際企画課　海外展開係　澤邉，福永，伊豆野，北
〒193-0834　東京都八王子市東浅川町701-2
電　話　042-662-3176　FAX　042-662-3175
E-mail　gnp@kosen-k.go.jp

資料９－１－②－（１）－８（続き）

別紙

海外展開事業における協力支援校について

国際企画課

１．目的

日本型高専教育モデルの海外展開事業（以下、事業）では、モンゴル・タイ・ベトナムの３国（以下、重点協力国）の支援対象となる工学教育機関の高度化のため、必要な事業を実施する。

事業実施に際し、日本の高専教職員の協力が不可欠となるため、「協力支援校」を指定し、各校と本部事務局が密に連携の上、高専機構全体で事業を推進する体制を整備する。

２．体制

・「協力支援校」とは、事業を推進するにあたり、本部事務局及び各リエゾンオフィスと連携し、事業にかかる各種活動に対し協力支援する高専である。

・「協力支援校」は以下の分類で依頼する。

（１）協力支援幹事校（３校）

重点協力国のいずれかの事業を主に担当し、事業の中心的役割を果たす。担当国のリエゾンオフィス所長・本部事務局国際企画課と連携して事業を行う。事業実施にあたっては、協力支援校（後述）と連絡調整・連携して行う。

（２）協力支援校（１０校程度）

協力支援幹事校と連携し、主に担当する重点協力国の事業に従事する。

（３）特別協力校（２校程度）

主に担当する重点協力国を定めず、海外からの来訪団対応・本事業での海外学生インターンシップ活動等、重点協力国を跨ぐ活動を支援する。

・「協力支援校」は、担当する重点協力国の事業に係る業務に従事する。

想定される業務内容（例）
- カリキュラム開発支援
- 教材紹介・開発支援
- 現地教員に対する、講義等（講義・実験実習（Project Based Learning(PBL)やActive Learning(AL)手法も含む）・研究）の教授法指導
- 当該国対象校の学生のインターンシップ受入（協力支援校が有する地元企業等による高専支援組織との連携）
- 上記活動に関する研修（受入れ・派遣双方向）の実施協力
- 上記活動を実施するための協力支援校所属教職員の出張（海外含む）
- その他、当該国の海外展開事業に関して機構本部より依頼する事業

・「協力支援校」に対して、事業実施に必要な経費を配分する。協力支援幹事校に対しては、事業の企画・実施から、他の協力支援校との調整に係る必要な経費を配分する。

３．依頼期間

原則１年間（※）

※毎年度末に意向を確認の上、最大５年間の延長を想定する。（第４期中期目標期間中）。

※事業の見直し等により期間途中でも終了する場合がある。

資料９－１－②－（１）－８（続き）

海外展開事業協力支援校（令和元年１０月現在）

モンゴル

協力支援幹事校　都城

協力支援校　　苫小牧・八戸・長岡・木更津・佐世保・福島・石川・明石・徳山

タイ

協力支援幹事校　長野

協力支援校　　長岡・木更津・熊本・沖縄・八戸・小山・石川

ベトナム

協力支援幹事校　宇部

協力支援校　　函館・鶴岡・岐阜・有明

特別協力校　　東京・仙台

下線：新たに参画する高専

（出典　国立高等専門学校機構「海外展開事業協力支援校の依頼について」）

資料９－１－②－（１）－９

「モンゴル高専連盟と日本第１ブロック高専の包括協定書」

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
FOR THE STUDENT EXCHANGE
BETWEEN
MONGOLIAN NATIONAL ASSOCIATION OF COLLEGES OF TECHNOLOGY
AND
JAPANESE HOKKAIDO - TOHOKU KOSEN CONSORTIUM
National Institute of Technology, Hakodate College
National Institute of Technology, Tomakomai College
National Institute of Technology, Kushiro College
National Institute of Technology, Asahikawa College
National Institute of Technology, Hachinohe College
National Institute of Technology, Ichinoseki College
National Institute of Technology, Sendai College
National Institute of Technology, Akita College
National Institute of Technology, Tsuruoka College

This memorandum of understanding is to stipulate the conditions of enrollments and all administrative matters for the student exchange programme between Mongolian National Association of Colleges of Technology (hereinafter referred to as "M_NGO") and Japanese Hokkaido - Tohoku KOSEN Consortium (hereinafter referred to as "JHTKC").

1. Enrollments
Exchange students shall be admitted to each institution according to its rules on admission. All institutions recommend suitable candidates for exchange, and each receiving institution has the right to make a final decision regarding their admission policy after the necessary screening.

2. Use of facilities
Exchange students shall follow all the established rules and/or policies of each receiving institution, while they are entitled to use its all facilities.

3. Number of exchange students
M_NGO and JHTKC shall accept up to ten students in an exchange from each other. The annual number of exchanges can be somewhat flexible based on the mutual agreement between M_NGO and JHTKC.

資料９－１－②－（１）－９（続き）

4. Period and timing of exchange
Exchange can be scheduled from June to March of the next year or part of it. The exchange period can be varied up to twelve weeks in accordance with the academic schedule of the receiving institution. Exceptions of the period may be negotiated between the receiving and sending institutions.

5. Study plan
The sending institution will provide necessary background information of each exchange student prior to the exchange. The study plan of each exchange student will be mutually agreed between the receiving and sending institutions. The receiving institution will provide a transcript of records after the exchange period. Academic fields for exchange are those of information and communication technology, electronics, electrical engineering, mechanical engineering, chemical engineering, biological engineering, materials and environmental science, civil engineering, or architecture.

6. Language
English as well as Japanese will be used to communicate in both institutions. The student's minimum language skills recommendation is equivalent to TOEIC score 450, in order to assure that the student has the minimum requirements to carry out his/her studies successfully. M_NGO will require its outgoing students to have language skills equivalent to Japanese-Language Proficiency Test score N3 instead of the English skills mentioned above.

7. Tuition fee and financial arrangement
The exchange programme is based on the principles of reciprocity. The receiving institution will exempt the tuition fee for the participating students and will not pay salary for them.

8. The cost of travel, insurance and other expenses
Exchange students shall be responsible for the payment of traveling cost, basic living cost and other incidentals. Each participating student shall have health and accident insurance. The receiving and sending institutions may introduce suitable insurance companies.

資料９－１－②－（１）－９（続き）

9. Accommodation
The receiving institution will be responsible for helping students to find adequate accommodation or to prepare the school dormitory for the duration of the programme.

10. Scholarship
The receiving institution will make an effort for exchange students to receive a scholarship for facilitating the student exchange.

11. Termination
Each receiving institution has the right to terminate exchange programme of the student who, in the opinion of that institution, does not follow its established rules and/or policies.

12. Validity
This agreement shall become effective from the date of signature by the representatives of all institutions and shall be valid for an initial period of five years. This agreement will be extended automatically every five years unless one of the all institutions propose changes or the repeal of the agreement. This agreement may be terminated at any time by either institution with a six-month notice.

The parties hereto have executed this memorandum in duplicate in English by placing their signatures thereon, and each party shall keep one copy of the originals.

（以下略）

（出典　モンゴル高専連盟・日本第１ブロック高専の包括協定書）

資料９－１－①－（１）－１０

「モンゴル・高等専門学校３校への貢献実績が分かる資料」

本校教員がモンゴル工業技術大学より称号授与されました

2019年07月05日（金）

６月１７日（月）、モンゴル科学技術大学付属高専、モンゴル工業技術大学付属高専並びに新モンゴル高専の合同卒業式挙行後に、本校澤田知之名誉教授にモンゴル工業技術大学名誉教授の称号が授与されました。澤田名誉教授は、長年モンゴルの教育・技術水準の向上や日蒙協力の推進に貢献したとして、平成２９年度にモンゴル国政府から「ナイラムダル（友好）勲章」も受章しております。

併せて、本校創造工学科都市・環境系　栗山昌樹教授及び渡辺暁央准教授にもモンゴル工業技術大学客員教授の称号が授与されました。



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料１０－１－①－（１）

「研究の目的・社会貢献の目的」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料１０－１－②－（１）－１

「各教員のテーマ一覧」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　学校要覧 2019 年度版）

資料１０－１－②－（１）－２

「地域共同研究センター規程」

苫小牧工業高等専門学校地域共同研究センター規程

規則第38号

制　　定　平成12年４月１日
一部改正　平成12年９月11日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成18年３月19日
一部改正　平成28年２月23日
一部改正　平成31年３月27日

（目的）

第１条　この規程は，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第12条の規定に基づき，本校地域共同研究センター（以下「センター」という。）を置き，地元産業界を初めとする地域社会との交流・協力関係を通じて，研究活動及び生涯学習機能の充実を図るとともに，その成果等を活かし技術者教育への支援を行なうことを目的とする。

（業務）

第２条　センターは，前条の目的を達成するため，次に掲げる業務を行う。

一　センターの管理運営に関すること。
二　民間企業等との共同研究の促進に関すること。
三　民間企業等に対する技術開発相談及び学術情報の提供に関すること。
四　その他民間企業等との技術協力に関すること。
五　公開講座に関すること。
六　その他生涯学習等に関すること。

（委員会）

第３条　センターに関する事項を審議するため，地域共同研究センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会に関する事項は，別に定める。

（事務）

第４条　センターに関する事務処理については，事務組織及び事務分掌規程の定めるところによる。

（雑則）

第５条　この規程に定めるもののほか，センターに関する必要な事項は，別に定める。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校地域共同研究センター規程）

資料１０－１－②－（１）－３

「地域共同研究センター委員会規程」

苫小牧工業高等専門学校地域共同研究センター委員会規程

規則第37号

制　　定　平成12年４月１日
一部改正　平成12年９月11日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成22年４月１日
一部改正　平成28年１月26日
一部改正　平成31年３月27日

（趣旨）

第１条　苫小牧工業高等専門学校地域共同研究センター（以下「センター」という。）規程第３条第２項の規定に基づき，地域共同研究センター委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　センターの運営管理に関する事項
二　民間企業等との技術開発相談，技術協力及び学術情報の提供等に関する事項
三　公開講座の実施及び計画に関する事項
四　その他生涯学習に関する事項
五　知的財産権に関する事項
六　遺伝子組換え生物等の使用等に関する事項

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　センター長
二　副センター長
三　総務課長
四　技術長
五　その他校長が指名した者

（任期）

第４条　前条第五号に掲げる委員は，校長が委嘱し，任期は１年とする。ただし，再任は妨げない。

２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校地域共同研究センター委員会規程）

資料１０－１－②－（１）－４

「研究の目的・社会貢献の業務内容等」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

5

資料１０－１－②－（２）－１

「研究シーズ集」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

6

資料１０－１－②－（２）－２

「地域共同研究センター施設設備」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

7

資料１０－１－②－（２）－３

「苫小牧高専サテライト C-base」

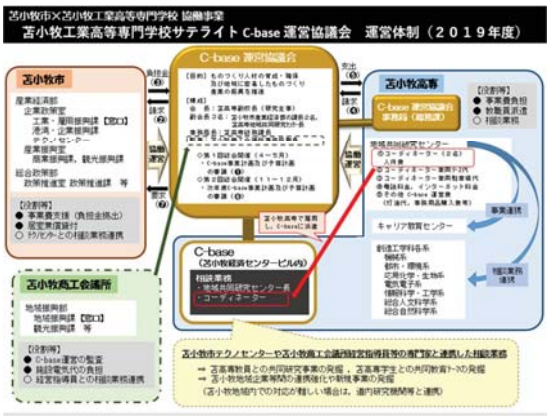


（出典　苫小牧工業高等専門学校サテライト C-base チラシ）

8

資料１０－１－②－（２）－４

「協議会運営体制」



（出典　総務課資料）

資料１０－１－②－（３）－１

「2019 年度予算配分方針」

2019 年度予算配分方針

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

Ⅴ．教育研究経費

（１）研究経費

教員一人当たりの積算単価を 100 千円（前年度と同額）とする。ただし，再雇用（短時間）教員については勤務時間割合を考慮し，75 千円とする。

また，外部資金間接経費については，金額校長の一括管理とし，教員配当相当分（間接経費の 50%相当）を別途研究経費として追加配分を行う。

（２）教育経費

予算措置検討 WG での報告結果を踏まえ，予算総額を**「2019 年度当初予算配分について（発展通知）」で示されている本科・専攻科の「教育研究に必要な経費」の額（在籍見込者数×学生積算単価）**とする。配分方法については，予算総額から先に優先充当経費を確保したうえで，残額を学生数に応じて各系に振り分ける方法とする。

（３）特殊装置維持費

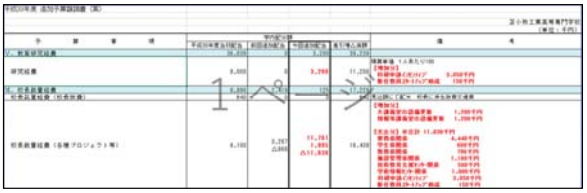
特殊装置維持費については，経過年数が 15 年未満かつ，単体での購入金額が 500 万円以上のものを対象とする。配分に当たっては，前年度に実施したヒアリング調査等を基に，真に必要な経費のみの配分とする。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2019 年度第３回運営委員会資料）

資料１０－１－②－（３）－２

「2018 年度追加予算配当」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2018 年度第９回運営委員会資料）

資料１０－１－②－（３）－３

「科学研究費助成事業に関する説明会」

平成31年度科学研究費助成事業
に関する説明会　　平成30年10月2日(火)16:30～

【次　第】

1. 公募内容の変更点等や申請書提出等のスケジュールについて(企画調査係)
2. 科研費の申請にあたって(地域共同研究センター長)
3. 昨年度科研費採択者からの申請書作成のポイント(二橋先生)

【配布資料】

資料1:平成31年度公募における主な変更点等
資料2:平成31年度科研費応募書類・事務用チェックポイント

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１０－１－②－（３）－４

「地域共同研究センター研究助成制度」

平成３０年６月２９日
第２回地域共同研究センター委員会
議　題　１　　資　料　１

平成３０年度　苫小牧工業高等専門学校
地域共同研究センター研究助成応募要領（案）

１．目的

地域や企業のニーズに配慮した研究を推進し，民間企業等との共同研究に結び付けることを目的とする。

なお，本助成は苫小牧高専協力会からの寄附を受けて実施しているため，民間企業等の相手先については，苫小牧高専協力会会員企業となるよう配慮する。

２．概要

（１）応募条件

①共同研究契約の締結に至るような計画となっている申請に対して助成を行う。
②個人／グループの別は問わない。
③すでに共同研究契約を締結している研究については応募対象としない。

（２）採択件数　２件（予定）

（３）申請限度額　５０万円（予算額：７０万円）

（４）対象経費

研究助成の対象となる経費は，当該研究に直接関係するものとする。また，経費の使用にあたっては，本校及び機構本部の規定等によるものとする。

（５）研究期間　採択決定日～平成３１年３月３１日

３．応募方法

（１）応募受付期間：平成３０年７月２日（月）～　７月３１日（火）
（２）提出書類：計画調書
（３）提出方法：電子データ（ワードファイル）
（４）提出先：総務課企画調査係（kikaku@tomakomai-ct.ac.jp）

４．審査

審査は，提出された計画調書により，次の①から③の審査項目における観点に係る状況等を地域共同研究センター長が総合的に判断し，地域共同研究センター委員会での審議を踏まえ，採択の可否を決定する。

なお，計画調書の内容に不明確な点がある場合は，地域共同研究センター長によるヒアリングを行う。

①研究課題の学術的・社会的妥当性
・学術的に見て，推進すべき研究課題であるか。
・社会的に見て，推進すべき研究課題であるか。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2018 年度第２回地域共同研究センター委員会資料）

資料１０－１－②－（４）－１

「産学連携関連件数」

共同研究等一覧（平成31年4月1日現在）

平成31年4月24日
第1回地域共同研究センター委員会
報告２　資料６

表１　共同研究件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	12	5,280,000
平成２５年度	11	7,884,500
平成２６年度	9	7,941,400
平成２７年度	10	2,765,000
平成２８年度	12	4,075,000
平成２９年度	20	6,553,316
平成３０年度	17	8,707,885

表２　受託研究件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	6	8,191,000
平成２５年度	9	13,739,899
平成２６年度	4	4,107,670
平成２７年度	2	522,937
平成２８年度	3	1,982,000
平成２９年度	4	2,733,263
平成３０年度	4	1,878,995

表３　受託試験件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	49	6,177,600
平成２５年度	51	7,497,600
平成２６年度	34	4,769,400
平成２７年度	0	0
平成２８年度	0	0
平成２９年度	0	0
平成３０年度	0	0

表４　寄附金受入件数及び受入額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	15	10,239,981
平成２５年度	20	15,084,814
平成２６年度	18	14,552,004
平成２７年度	18	15,864,367
平成２８年度	21	14,743,986
平成２９年度	20	14,512,829
平成３０年度	20	12,668,457

表５　特許件数等

年度	出願	権利化	実施許諾	譲渡	収入額（円）
平成２４年度	1	0	0	0	0
平成２５年度	1	0	0	0	0
平成２６年度	2	0	0	0	0
平成２７年度	0	0	0	0	0
平成２８年度	0	0	0	0	0
平成２９年度	0	0	0	0	0
平成３０年度	0	1	0	0	0

表６　技術相談件数

年度	件数
平成２４年度	9
平成２５年度	10
平成２６年度	9
平成２７年度	25
平成２８年度	28
平成２９年度	32
平成３０年度	51

表７　大学改革等補助金

年度	件数	受入額（円）	備考
平成２４年度	0	0	
平成２５年度	0	0	
平成２６年度	0	0	
平成２７年度	1	5,000,000	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）主幹校：苫小牧工業大学
平成２８年度	1	1,032,000	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）主幹校：苫小牧工業大学
平成２９年度	1	696,000	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）主幹校：苫小牧工業大学
平成３０年度	1	450,270	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）主幹校：苫小牧工業大学

表１～４　合計額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	82	29,888,581
平成２５年度	91	44,206,813
平成２６年度	65	31,370,474
平成２７年度	30	19,152,304
平成２８年度	36	20,801,786
平成２９年度	44	23,799,408
平成３０年度	41	23,255,337

表１～７（６除く）　合計額

年度	件数	受入額（円）
平成２４年度	82	29,888,581
平成２５年度	91	44,206,813
平成２６年度	65	31,370,474
平成２７年度	31	24,152,304
平成２８年度	37	21,833,786
平成２９年度	45	24,495,408
平成３０年度	42	23,705,607

（出典　2019 年度第 1 回地域共同研究センター委員会資料）

資料１０－１－②－（４）－２

「科学研究費補助金一覧」

科学研究費補助金の明細（平成31年4月1日現在）

受入件数及び受入額　（単位：円）

年度	研究代表者（件数）	研究分担者（件数）	直接経費受入額（研究代表者分）	直接経費受入額（研究分担者分）	直接経費受入額（合計）	間接経費	合計
平成２６年度	14	4	14,248,000	1,940,000	16,188,000	4,816,472	21,004,472
平成２７年度	15	9	16,925,000	2,880,000	19,705,000	5,248,344	25,053,344
平成２８年度	17	13	15,368,380	5,280,000	20,648,380	6,297,145	26,945,525
平成２９年度	13	13	12,210,000	3,865,000	16,075,000	5,822,500	21,897,500
平成３０年度	15	9	13,183,680	2,905,000	16,088,680	5,277,604	21,366,284

（出典　総務課資料）

資料１０－１－③－（１）－１

「研究業績一覧」

『論文・報告』

氏名	論文名	発表誌名（巻号、掲載ページ）	発行年月日	備考（査読の有無）
浅野 政之、池田 慎一、高澤 幸治	物体力場の連続的に関する研究（せん断型物体力場の導入による残留応力発現の基礎定）	日本機械学会論文集、第82巻、No.841、15-00099 [pp.1299/transjsme.15-00099]	2016/6/	有
松村 一弘A、小林 弘幸A、澤田 雅弘A、池田 孝雄	太陽発電合金を利用する太陽追尾システムの基礎技術開発	北海道立工業技術センター研究報告第14号平成29年度（PP.19-24	2016/12/1	無
Shohinaw, K. I. e, S. Nihashi, and K. Iwatsuki	Global view of ore-ion production in polymus and its linkage to deep-bottom water formation	Geoscience Letters, 3:13, DOI 10.1186/s40562-016-0045-4	2016/5/12	有
上田 茂太、赤塚 元軌、内藤 孝典A	可動反射を考慮した太陽光パネルの設置角度に関する研究	電気設備学会誌Vol.36, No.6, pp.388-393	2016/6/	有
古谷 茂輝	警報信号間隔のファジィセントミュニケーションに基づく報酬のグリッドとでの評価	平成27年度 電気関係開発学会北海道支部連合大会、C5-04等	2015/11/6	無
Shigeo NII	An Experimental Analysis of a Robust Piecewise-Based Algorithm for the Patrolling Problem	In proc. of the 19th Asia Pacific Symposium on Intelligent and Evolutionary Systems(IES2015), pp.3-14, ISBN 978-3-319-26980-3	2015/11/22	有
大場 崇史、松尾 優子、小野 真由A	おりを活用した北海道産丸のパラアフラーボ状酒造に関する研究～高いすを利用する場合・外国人観光客を考慮した生活情報の検討～	一財）北海道開発協会開発調査総合研究所 平成27年度助成研究論文集、pp.15-45	2016/6/1	無
大場 崇史、浜 克己A、大塚 松文A、塩野谷 明A	パラリンピック競技支援事例1	日本機械学会2016年度年次大会講演論文集、#2016JC, pp.1-5(2016)	2016/9/11	無
Satoshi Ohashi, Akito Shiga*, Kenta Kaito*, Akira Shimura*	Relationship Between Variations of the Road Surface and the Seating Pressure Distribution	The Fifth Asian Conference on Information System(ACIS2016), pp.227-229(2016).	2016/10/27	有
大場 崇史、安達 弘A、戸谷 聡人A、松尾 優子、小野 真由A	乗りすぎ時の勾配変化による相反分布の影響	2016年度千歳機械学会総合大会（基礎・境界講演文集）、協協賛第上学年4-22、p.133(2016)	2016/3/16	無
大場 崇史、戸谷 聡人A、安達 弘A、松尾 優子、小野 真由A、塩野谷 明A	乗りすぎによる横断面との間の傾斜分布と危険予測の関連性	日本福祉工学会第19回講演会論文集、pp.-5-8(2016)	2015/11/28	無
Kono H, Oshima K, Hashimoto R, Shimizu Y, Tajima K*	NMR characterization of sodium carboxymethyl cellulose: Substituent distribution and mole fraction of monomers in the polymer chains	Carbohydrate polymers, 146, 1-9 (2016)	2016/8/1	有
Kono H, Oshima K, Hashimoto R, Shimizu Y, Tajima K*	NMR characterization of sodium carboxymethyl cellulose 2: Chemical shift assignment and conformation analysis of substituent groups	Carbohydrate polymers, 150, 241-249 (2016)	2016/10/1	有
Tsuno K, Kono H, Tanaka D*, Jono M*, Kojima D*, Utsuki S*	Low Molecular Weight Branched PEI Binding to Linear DNA	Chemical & pharmaceutical bulletin, 64(10), 1494-1501 (2016)	2016/10/1	有
Yuko MATSUO, Kanako MATSUDA	Report on Workshops of Career Plan in International Exchange Program	The 10th International Symposium on Advances in Technology Education, ISATE 2015(ISBN978-4-9909040-4-9), P208-P212	2016/8/11	有
松尾 優子、金田 祐樹*、松田 雅弘	グローバル技術者育成のための国際交流による キャリア教育の事例報告	土木学会第71回年次学術講演会講演概要集、CS1-029	2016/8/7	無
松尾 優子、金田 祐樹*、小幡 圭司*	地方支援団の構築維持管理と作品提案に基づいた人気提案に対する検討	土木学会第71回年次学術講演会講演概要集、I-082、2016	2016/8/7	無

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　平成 28 年度苦小牧工業高等専門学校紀要第 52 号 P. 40）

資料１０－１－③－（１）－２

「researchmap による研究業績の公開」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　researchmap より苦小牧工業高等専門学校所属分）

資料１０－１－③－（１）－３

「2018 年度活動報告表」

地域共同研究センター委員会
活動計画および活動結果点検表（平成30年度）

平成３１年３月１４日
第６回地域共同研究センター委員会
議 題 １　資 料 １

平成30年度

	活動計画	活動結果	申し送り事項等
1 中期目標・中期計画に係る計画			
1.（4）教育の質の向上			
教育面での学外・地域社会との連携に関する施策について検討、実施する。	・多くの学生に地元企業への理解を深めてもらうべく、授業の中の地域教育の一環として、自治体と連携した企業見学会を実施する。 ・専攻科及びキャリア教育センターと連携し、教育の質の向上を図るための施策について検討する。	・創造工学Ⅱの中で、苫小牧市と連携した企業見学会を実施した(11/20 機械系、応用化学・生物系、都市・環境系の3つの系に分かれて3社を見学、参加学生数172名)。 ・専攻科1年生による、苫小牧高専地域連携シンポジウム(11/30 グランドホテルニュー王子)における研究発表及び苫小牧高専・苫小牧市・苫小牧商工会議所 連携協定締結記念シンポジウム(地域で助成と課題解決型共同教育)(12/5 苫小牧高専)における成果発表を行った。	
2. 研究および社会連携に関する目標			
教職員の研究促進、外部資金獲得に関する施策について検討、実施する。	科研費等外部資金の獲得、共同研究、受託研究等に基づく研究活動を支援する。	・10/2に本校内で開催した科学研究費助成事業に関する説明会において、地域共同研究センター長から申請にあたっての心構えや申請書作成方法等に係る説明を行ったほか、科研費に採択されている若手教員から申請書作成に係るポイントについての説明を行った。	
地域企業等との連携に関する施策について検討、実施する。	苫小牧高専協力会と連携し、本校教員が地元企業への理解を深めるための事業を実施する。	・苫小牧高専協力会からの寄付金を原資とし、地元企業との共同研究に結びつけることを目的とした研究助成を行った(寄付金額:70万円、採択テーマ:3件)。 ・10/12に苫小牧高専サテライト[O-base]を開設し、苫小牧市や苫小牧商工会議所等の専門家とチームを組み、技術経営相談窓口の運用を行った。	
公開講座、出前授業等の地域連携事業を実施する。	公開講座や出前授業等の地域連携事業を引き続き実施する。	・7～8月及び1月に計12回の公開講座を開催し、延べ90名の参加があった。 ・5～7月に計45回(延べ1,200名)の出前授業を実施した。 ・このほか、イブニングセミナー(7/23・27・ココワ)や科学のとびら(10/8・イオン苫小牧)等の地域連携事業を実施した。	

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2018 年度第６回地域共同研究センター委員会資料）

資料１０－１－④－（１）－１

「組織図」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料１０－１－④－（１）－２

「教員組織等規程」

苫小牧工業高等専門学校教員組織等規程

規則第36号

制　　定　平成12年４月１日
一部改正　平成12年９月11日
一部改正　平成14年４月１日
一部改正　平成14年９月30日
一部改正　平成15年４月１日
一部改正　平成16年４月１日
一部改正　平成17年４月１日
一部改正　平成18年４月１日
一部改正　平成19年４月１日
一部改正　平成21年２月１日
一部改正　平成25年３月７日
一部改正　平成25年11月19日
一部改正　平成27年３月10日
一部改正　平成27年４月14日
一部改正　平成28年２月23日

第１章　総則

第１条　この規程は，苫小牧工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第12条の規定に基づき，苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の組織及び運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。
第２条　この規程で教員とは，学則第８条第１項のうち教授，准教授，講師，助教及び助手をいう。

第２章　教員組織

第３条　教員は学則第７条第１項の規定に定める創造工学科に属する。

第３章　副校長

第４条　本校に副校長を置く。
２　副校長は，本規程第５条第１項に掲げる総務主事，第６条第１項に掲げる研究主事，学則第９条第１項に掲げる教務主事，学生主事及び寮務主事並びに本規程第24条第１項に掲げる専攻科長をもって充てる。
３　副校長は，本規程第５条第３項各号，第６条第３号各号，学則第９条第３項から第５項まで及び本規程第24条第２項各号に掲げる職務のほか，校長の命により校長の職務を補佐するとともにその一部を処理する。
４　副校長（総務主事）は，校長が不在のときはその職務を代行する。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　苫小牧工業高等専門学校教員組織等規程）

資料１０－１－④－（１）－３

「役職員」



（出典　苫小牧工業高等専門学校ホームページ）

資料１０－１－④－（１）－４

「研究経費の追加配分について」

令和元年度における研究経費の追加配分について

校 長

ここ数年は，機構本部からの追加配分以外に，科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）申請者に対して一律で追加配分を実施しているところであるが，今年度より，以下のとおり追加配分方法を変更したい。

1．目的

前年度に科研費へ応募し不採択となった研究代表者で，所定の要件を充たす者に対し，重点的に研究資金を支援することにより，優れた成果を上げつつある研究の研究費途絶による中断・停滞リスクを緩和し，本校の外部資金獲得増を促進することを目的とする。

2．支援対象者の要件

本校教員のうち，以下のすべての項目に該当する者

①今年度，又は前年度から続けて基盤研究（A・B・C），挑戦的研究及び若手研究（以下「基盤研究等」という。）が不採択であったこと

②今年度の基盤研究等の審査結果のおおよその順位が「A」評価又は「B」評価であったこと

③今年度，研究代表者として実施する基盤研究等がないこと

④令和２年度科研公募費申請を行うこと

3．支援額

①今年度の基盤研究等の審査結果のおおよその順位が「A」評価

申請額（直接経費）の「0%～30%」範囲内

②今年度の基盤研究等の審査結果のおおよその順位が「B」評価

申請額（直接経費）の「0～10%」の範囲内

※１件あたりの上限は 50 万円とする。

※②については申請が 500 万円以上の基盤研究等に限る。

※支援割合は対象者人数や予算状況により流動的となるが，①を優先的に支援するため，②については支援対象外となる場合がある。（最終的な支援額は運営委員会で決定）

4．申請方法

研究経費の支援を希望する場合は，今年度の基盤研究等の審査結果を総務課財務係に報告するものとする。（報告期日等は別途通知）

5．その他の支援条件

①支援を受けた者は，令和２年度科研公募において，不採択となった場合には，当該研究種目に係る審査結果を総務課財務係に提出すること。

②支援を受けた者は，本支援の効果検証のため，校長又は研究主事が実施するヒアリング等に協力すること。

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（１）

「2018 年度活動計画表」

地域共同研究センター委員会

平成３０年４月２５日
第１回地域共同研究センター委員会
議 題 1　　資 料 1－1

活動計画および活動結果点検表（平成30年度）

	平成30年度		
	活動計画	活動結果	申し送り事項等
1 中期目標・中期計画に係る計画			
1.(4)教育の質の向上			
教育面での学外・地域社会との連携に関する施策について検討，実施する。	・多くの学生に地元企業への理解を深めてもらうべく，授業の中の地域教育の一環として，自治体と連携した企業見学会を実施する。 ・専攻科及びキャリア教育センターと連携し，教育の質の向上を図るための施策について検討する。		
2. 研究および社会連携に関する目標			
教職員の研究促進，外部資金獲得に関する施策について検討，実施する。	科研費等外部資金の獲得，共同研究，受託研究等に繋がる研究活動を支援する。		
地域企業等との連携に関する施策について検討，実施する。	苫小牧高専協力会と連携し，本校教員が地元企業への理解を深めるための事業を実施する。		
公開講座，出前授業等の地域連携事業を実施する。	公開講座や出前授業等の地域連携事業を引き続き実施する。		

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2018 年度第 1 回地域共同研究センター委員会資料）

資料１１－１－②－（２）－１

「苫小牧市との企業見学会」

苫小牧市との連携事業の実施について

実施形態：本科２年生を対象とした授業「創造工学Ⅱ」の中で実施
（地域教育の一環として実施し，地域企業への理解を深める。）

実施時期：平成３０年１０月～１１月の期間を予定

参加学生数：１２０名程度

実施内容：
機械系，応用化学・生物系，都市・環境系の３グループ（４０名×３台）にわかれて半日で地域企業見学を実施（１グループ１企業を見学）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－２

「苫小牧高専地域連携シンポジウム」

平成３０年９月１９日
第４回地域共同研究センター委員会
（臨時：メール審議）
議 題 1　　資 料 1

苫小牧高専地域連携シンポジウム２０１８の開催について（案）

1．目的
地域・社会に向けて本校が取り組む諸活動の発表や報告等を行い，今後の教育研究活動及び産学連携活動の発展につなげるとともに，本校と地域企業の連携強化を図ることを目的とする。

2．日程
日時：平成３０年１１月３０日（金）
場所：グランドホテルニュー王子　３階「グランドホール」（苫小牧市表町４－３－１）

16：40　受付
17：00　開会
（10分）　挨拶　苫小牧高専　黒川　一哉　校長
※KOSEN4.0 イニシアティブ事業 “とまなか” の近況報告含む

17：10　パネルディスカッション
（45分）　テーマ『地域の活性化と苫小牧高専が果たす役割』
【パネリスト】
苫小牧高専協力会会員企業　１名
苫小牧市で活躍する著名人　１名
苫小牧高専　教員　２名（男女各１名）
苫小牧高専　専攻科２年生　２名（男女各１名）
【コーディネーター】
菊田　和重（苫小牧高専地域共同研究センター長）
※パネリスト及びコーディネーターは，今後の調整次第で若干変更となる可能性有。

17：55　本校教員による研究成果発表
（15分）　※昨年度「地域共同研究センター研究助成」を受けた教員のうち，１名に発表を依頼する。

18：10　専攻科研究発表
（45分）　※昨年度と同様，専攻科１年生全員（２６名）によるポスター発表

18：55　閉会
（5分）　挨拶　苫小牧高専　吉崎　毅　副校長・総務主事

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2018 年度第 4 回地域共同研究センター委員会資料）

資料１１－１－②－（２）－３

「地域共同研究センター研究助成制度」

令和元年７月９日
第３回地域共同研究センター委員会
議 題 1　　資 料 1－1

令和元年度　苫小牧工業高等専門学校
地域共同研究センター研究助成募集要領（案）

1．目的
新技術の創出や地域産業の振興につながる可能性が高い研究開発を推進する。特に，苫小牧高専協力会からの寄附が本助成金の原資であることから，苫小牧高専協力会の企業や自治体等との共同研究を志向する研究を推進する。

2．概要
（1）応募条件
①共同研究契約の締結に至るような計画に対して助成を行う。
②個人／グループの別は問わない。
③すでに共同研究契約を締結している研究については応募対象としない。

（2）採択件数　３件程度

（3）申請限度額４０万円（研究助成総額　７０万円）

（4）対象経費
研究助成の対象となる経費は，当該研究に直接関係するものとする。また，経費の使用にあたっては，本校及び機構本部の規定等によるものとする。

（5）研究期間　採択決定日～令和２年３月３１日

3．応募方法
（1）応募受付期間：令和元年７月１１日（水）～　８月７日（水）
（2）提出書類：計画調書（「4．研究内容・実施計画」は２頁以内で作成のこと）
（3）提出方法：電子データ（ワードファイル）
（4）提出先：務局企画調査係（kikaku@tomakomai-ct.ac.jp）

4．審査
審査は，提出された計画調書により，次の①から③の審査項目における観点に係る状況等を「審査委員会」において，次の「評価の観点」について，書面による審査を行ったうえで決定する。

①研究課題の学術的・社会的妥当性
・学術的に見て，推進すべき研究課題であるか。
・社会的に見て，推進すべき研究課題であるか。

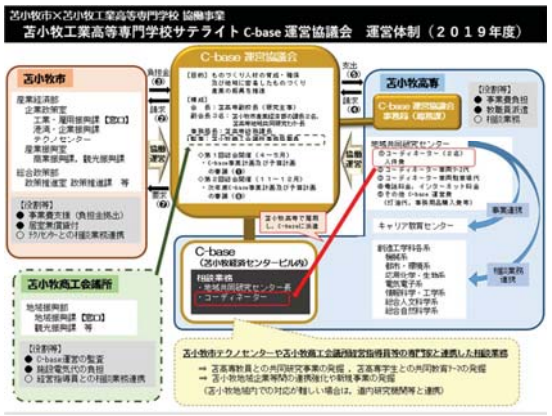
②計画の妥当性と実施体制
・目的を達成するため，計画は十分練られているか。
※）相手先（候補）協力会企業等が記載されているか。
※）相手先（候補）協力会企業等が決まっていない場合，企業選定にあたっての条件等が記載されているか。
・実施にあたって，安全性や予想される問題点への配慮がされているか。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2019 年度第 3 回地域共同研究センター委員会資料）

資料１１－１－②－（２）－４

「協議会運営体制」



（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－５

「公開講座の実施概要」

平成３１年４月２４日
第１回地域共同研究センター委員会
議題１　資料１－１

平成３１年度公開講座実施概要

目　的：地域社会等との連携・協力、社会サービスの一環として、本校が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を社会に開放することにより、生涯上・職業上の知識、技術及び一般的教養を身に付けるための学習の機会を広く社会人等に対して提供する。
また、小中学生に対し、織塩を通して「ものづくり」等の楽しさを伝えることで、理科をはじめとした学問への興味を抱かせ、科学技術に関心を持たせる動機づけを図る。

受講対象：苫小牧市内及び近郊の小・中学生　他

定　員：各織塩による

開催時期：令和元年７月～令和２年２月の期間のいずれかの日。時間帯は自由

場　所：苫小牧工業高等専門学校　織塩室

受付期間：織塩ごとに設定（載せ織塩の実施日の３週間前に受付締め切りを設けること）

受付方法：Eメール(公開織塩申込専用アドレス koza@kosenkomi-ct.ac.jp)のみの受付
１通につき１織塩１名のみ（申込多数の場合は抽選する）

開設形態：教員単独または複数により開設される。開設する織塩数に上限は設けない。一人で複数の織塩を開設してもよい。内容は「ものづくり」分野に限らず、理系分野・文系分野の別を問わない。

織塩募集方法：委員会了承後、系長へのメール及びサイボウズ掲示により周知。
希望者に実施計画書（別紙）を提出してもらう。提出締切：５月３０日（火）

予　算：地域共同研究センター経費（公開織塩実施経費）
１織塩２０，０００円まで（※調整させていただく場合があります）
物品等の購入を希望する場合は、企画調査係まで

（出典　2019 年度第１回地域共同研究センター委員会資料）

資料１１－１－②－（２）－６

「出前授業の実施概要」

平成３１年４月２４日
第１回地域共同研究センター委員会
議題２　資料２－１

平成３１年度出前授業実施概要

目　的：地域貢献の一環として、苫小牧市近郊の小・中学校及び各種団体等に対し、
地域の生涯学習環境の充実に貢献することを目的としたもの。

対　象：小学校高学年、中学校、高等学校、社会人（教員）など

定　員：原則１クラス４０名を想定

実施地域：苫小牧市とその近郊地域（白老町、千歳市、厚真町、安平町など）

実施期間：令和元年６月～令和２年２月末日までの平日のみの１時限
（１時限４５分と想定）
ただし、講師のスケジュールの都合上、対応不可の場合あり

申込方法：企画調査係へ「出前授業申込書」（テーマ設定型・自由設定型）
を提出していただく。
担当講師の日程等の調整を行った後、実施の可否について先方に連絡する。

（テーマ設定型）
「平成３１年度出前授業テーマ一覧」よりテーマを選択し、
「出前授業（テーマ設定型）申込書」を提出していただく。

（自由設定型）※設定テーマ以外の内容での出前授業を希望する場合
「出前授業（自由設定型）申込書」を提出後、授業・実験内容を考慮し、
対応を検討する。事前の相談も受け付け可能。

実施形態：教員単独または複数により開設される。一人で複数の織塩を開設してもよい。
内容は「ものづくり」分野に限らず、理系分野・文系分野の別を問わない。
実施回数は、**１テーマ年４回程度**

テーマ募集方法：委員会了承後、系長へのメール及びサイボウズ掲示により周知。
各系またはセンター等から、別紙「平成３１年度出前授業
（テーマ設定型）」を企画調査係へ提出してもらう。
提出締め切りを**５月３０日（火）**とする。

予　算：地域共同研究センター経費（出前授業開催費）
１テーマ７，０００円程度（※調整させていただく場合があります）
物品等の購入を希望する場合は、企画調査係まで

（出典　2019 年度第１回地域共同研究センター委員会資料）

資料１１－１－②－（２）－７

「科学のとびらの実施」

令和元年７月９日
第３回地域共同研究センター委員会
議題３　資料３－

令和元年度『科学のとびら－苫小牧高専実験教室－』実施要項

1．目的
地域の小・中学生をはじめとする地域住民に対して、科学に触れる機会を提供し、その楽しさ、面白さを知ってもらう。また、理科離れが叫ばれる小・中学生に、科学への興味を持ってもらう「きっかけ作り」の一助とすることを目的とする。また、本地域貢献を通して、地域社会での苫小牧高専のプレゼンスを高め、将来的な入学者の安定的確保への布石とすることも併せて目的とする。

2．主催団体等
主催：苫小牧工業高等専門学校
後援：苫小牧工業高等専門学校協力会（予定）
苫小牧地域産学官金連携実行委員会（予定）

3．実施日時等
日　時：令和元年１０月１２日（土）
場　所：イオン苫小牧ショッピングセンター　１階セントラルコート
（苫小牧市錦町 3-1-20　℡51-3300）

（予定スケジュール）
9:45-9:50　センター長挨拶（教職員へ）
9:50-10:50　入店手続き等、ブースへ荷物搬入、設営
10:30　１回目整理券配布
11:00-12:00　１回目「科学のとびら」実施（定員 100 名）
12:00-13:30　休憩、準備
13:00　２回目整理券配布
13:30-14:30　２回目「科学のとびら」実施（定員 100 名）
14:30-15:30　休憩、準備
15:00　３回目整理券配布
15:30-16:30　３回目「科学のとびら」実施（定員 100 名）
16:30-17:00　後片付け、荷物搬入
17:00　センター長挨拶（教職員へ）、解散

4．スタッフ
センター：原田（※統括）、長澤、鎗水、今野
各系等：各系より１～２名程度　　技術教育支援センター：数名
学生：必要に応じて（各テーマ２～３名程度）
※スペースの都合上、各テーマ４名上限。
※補助学生については、各系より依頼する。

5．スケジュール
7月中旬　各系にテーマ依頼
8月中旬　テーマ決定、物品手配、実施要項及びポスター作成
9月上旬　参加者決定
9月下旬　イオンにて打ち合わせ

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　2019 年度第３回地域共同研究センター委員会資料）

資料１１－１－②－（２）－８

「協力会定期総会開催」

２０１９年５月２４日

苫小牧工業高等専門学校
教 員 各 位

苫小牧工業高等専門学校協力会
会 長　松 本　純 昌

苫小牧工業高等専門学校協力会 ２０１９年度定期総会の開催について

謹啓　時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素より、当協力会の事業に関しましては、特段なるご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
当協力会は平成５年に設立され、２６年目を迎えることができ、これもひとえに関係各位のご指導、ご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。
早速ではございますが、標記定期総会を下記日程により開催いたしたく存じます。
時節柄業務ご多忙の折とは存じますが、是非ご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹 白

記

１．日　時　　２０１９年　６月２５日（火）　・定期総会　：１６：３０～
・記念講演会　：１７：００～
・懇 親 会　：１８：１０～

２．場　所　　グランドホテルニュー王子　３階　『グランドホール』

３．議　題　　１）平成３０年度事業報告並びに収支決算について
２）２０１９年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について
３）役員改選について

４．講演会
１）苫小牧工業高等専門学校協力会会員企業による講演（３０分）
講　師：株タナカコンサルタント　代表取締役社長　田中　雄太　氏
テーマ：「北海道胆振東部地震の現場から」

２）苫小牧工業高等専門学校教員による講演（３０分）
講　師：苫小牧高専　創造工学科　都市・環境系　教授　八田　茂実　氏
テーマ：「苫小牧地域の河川と水災害の特徴」

５．懇親会費　　６，０００円（当日会場にて申し受けます）
※お釣りの無いようご協力お願い致します

尚、ご出席の有無につきましては、同封のＦＡＸ送信書により、６月１８日（火）迄にご回答下さいますようお願い致します。

［連絡先］苫小牧商工会議所　事業振興課　中村
（電話：０１４４－３３－５４５４　FAX：０１４４－３２－６０５８）

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－９

「苫小牧高専サテライト開設記念講演会」

苫小牧高専サテライト開設
記念講演会

苫小牧地域活性化に向けて，自治体・教育機関・企業等が果たすべき役割を考えてみませんか？

苫小牧高専と苫小牧市は、地域活性化を図るための連携協定を締結し、10 月 12 日に協働で運用する苫小牧高専サテライトを開設しました。

日本は大変な激変期を迎えています。この時代でもそれぞれが果たすべき役割とはなんでしょうか？企業、支援機関や個人は、当然、時々な事柄に対し当事者意識を持たなくてはならないでしょう。
また、従来の仕事の枠も壊れてきており、課題解決を図るには、異なる手法がそれぞれうことにになるでしょう。他の中の発生が早く、正解を探しながら仕事をすることになっていくと思います。
この激変期では、激変期を迎えている今こそ、やらなくてはならないことや心構えなどについてヒントを示していただくため、国のサービス業に関する諸政策の企画・立案等に携わっておられる当時担当を講師としてお招きすることとしました。

苫小牧地域の活性化に貢献したいと考えている方であれば、どなたでも参加可能です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日程：平成30年11月1日（木）
場所：苫小牧経済センタービル 6階 大ホール(苫小牧市表町 1-1-15)

15：00～ 主催者挨拶・事業概要説明
15：30～ 講 演
演題：「未来の教室」としての高専
講師：経済産業省 商務・サービスグループ
サービス政策課長 浅野 大介 氏

交流会
17：00～18：00 ※ 同じ会場で立食形式により行います。
会費：お一人様1，000円（当日受付にて申し受けます。）

講演会参加費：無料
定員：１００名（先着順）

【申込先】
苫小牧工業高等専門学校経営課企画調査係
E-mail：kikaku@tomakomai-ct.ac.jp
TEL：0144-67-8901/ FAX：0144-67-8914
※【参加者氏名】【連絡先】【交流会参加の可否】を１０月２５日（木）までにメール又はＦＡＸでご連絡ください。

主催　苫小牧工業高等専門学校/苫小牧市
後援　苫小牧商工会議所/苫小牧工業高等専門学校協力会/苫小牧工業高等専門学校同窓会（「地域連」）/苫小牧地域産官学企画調査行政連合

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－１０

「連携協定締結記念シンポジウム」

苫小牧工業高等専門学校・苫小牧市・苫小牧商工会議所　連携協定締結記念シンポジウム
「地域で取組む課題解決型共同教育」

参加無料
入退場自由
（定員 150 名）

■日　時　令和元年2月5日(火)13:10～16:20(二部構成)
■会　場　苫小牧工業高等専門学校　大講義室(苫小牧市字錦岡443番地)
■対　象　企業関係者、支援機関関係者、COC＋参加大学等の教職員・学生等

苫小牧高専と苫小牧市は、人材育成やまちづくり等を協働して行うことを目的として 2018 年 10 月 11 日に連携協定を締結し、翌日より苫小牧高専サテライト「C-base」を開設しました。また、苫小牧高専と苫小牧商工会議所も地域活性化に寄与する目的で、同年 11 月 28 日に連携協定を締結しました。本シンポジウムはこれらの連携協定締結を記念して企画したもので、統一テーマを「地域で取組む課題解決型共同教育」とし、大学・高専の学生が地域の企業や自治体と共に課題を解決することの有効性について検討するものです。

■プログラム
第一部　13：15－15：00
○13:15－14:45　学生発表（専攻科１年生による「課題解決型共同教育」成果発表）
【発表テーマ】
1）「地理空間情報の利活用とその普及」（協力企業：(株) タナカコンサルタント）
2）「この街をProduce」（協力企業：(株) トートー事務機）
3）「レーザーパンチ連合検監視システムの構築」（協力企業：日鉱北海道 (株)）
4）「分譲マンションにおける外断熱工法の普及検討」（協力企業：上塚手塗装工業 (株)）
5）「模合金を用いたＢｔｏＣ商品の開発」（協力企業：(株) 光合金製作所）
6）「苫小牧高専生が思う、苫小牧の街づくりビジョン」（協力企業：苫小牧商工会議所）
○14:45-15:00　講　評
苫小牧商工会議所副会頭　石森 秀 氏、苫小牧工業高等専門学校協力会会長 松本 純昌 氏
苫小牧市産業経済部長　木村 準 氏、苫小牧工業高等専門学校同窓会 理事会会長 吉田 誠一 氏
第二部　15：10－16：20
○パネルディスカッション　テーマ「地域で取組む課題解決型共同教育」～教育の有効性と課題～
【モデレーター】　苫小牧工業高等専門学校　副校長・専攻科長　村本 充
【パネラー】
北海道大学産学・地域協働推進機構　産学推進本部産学協働マネージャー　杉村 進郎 氏
小樽商科大学グロ-カル戦略推進センター グロ-カル教育部門地域連携教育担当コーディネーター 小山田 健 氏
室蘭工業大学　副学長　COC+教育改革チームリーダー　永野 宏治 氏
苫小牧市産業経済部産業振興室　商業振興課長　武田 浩一 氏

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－１１

「とましん子供ものづくり教室」

第２６回とましん子供ものづくり教室

日　時：　平成３１年１月１２日（土）１３：００～１５：００
場　所：　苫小牧信用金庫　６階大会議室
＊ 駐車場　　南側第２駐車場利用（送迎向かい）
主　催：苫小牧信用金庫　　共　催：苫小牧工業高等専門学校

タイムスケジュール
９：００　苫小牧高専にてロボット積み込み
９：３０　ロボット高専出発
１０：００　苫小牧信金・苫小牧高専担当者集合、ロボット到着・搬入（～１３：００）
１１：３０　昼食
１２：００　ロボット展示（本店ロビー）、教室（６階）の準備
１２：３０　教室受付開始、苫小牧信金関係者集合
１３：００　ものづくり教室開講
指導教員：下久村先生、馬山先生
補助教員・職員：新田センター長、岩波副センター長、畜塚、今野
ロボット展示：大西先生、学生１２名

（次　第）　司　　会：業務推進部　鈴木部長
１３：００～
１３：３０　ロボット動作展示見学
（６階から１階ロビーへ移動　２階からエスカレータ経由）
１３：４０～
１５：００　授業開始
（１）講師挨拶（自己紹介、注意事項等）
（２）実　習　（立体地図作成）

１５：００　授業終了　参加者解散、後片付け、清掃等
１５：３０　ものづくり教室終了、解散（予定）

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－１２

「産学官金セミナー」

公開講座　受講者募集中！

苫小牧地域産学官金連携セミナー

暮らしに生きる研究と技術

苫小牧地域産学官金連携実行委員では、ものづくりの素晴らしさを伝え、ものづくりのヒントとしていただく為に、例年各種セミナーを開催しております。今回、当連携の構成メンバーである苫小牧工業高等専門学校、室蘭工業大学の協力のもと「暮らしを支える研究と技術」をテーマにセミナーを開催します。地域で研究・開発されている技術開発を広く知っていただき、明日のものづくりを考える契機となればと考えます。是非ご参加下さい。

第1部　「家畜伝染病の継続的予防を目指して
～ものづくりの町「室蘭」からの挑戦～」

講師　室蘭工業大学　くらし環境系領域・物質科学コース
准教授　山中　真也　氏

第2部　「生活基盤を支える土の研究」

講師　苫小牧工業高等専門学校　創造工学科都市・環境系
准教授　所　哲也　氏

開催要領

■日　時　平成３０年３月２２日（木）15：00～17：00

■場　所　ホテル ウイングインターナショナル　2階「中ホール」
（苫小牧市表町５－７－１）

■定　員　８０名　■受講料　無　料

■主　催　苫小牧地域産学官金連携実行委員会

■お申込み　平成３０年３月２０日(火)までに裏面申込書に必要事項をご記入のＦＡＸ（32－6058）
でお申込みいただくか、または電話にてお申し込み下さい。
＊一般個人のお申込みの場合は住所、氏名、電話番号のみをご記入下さい。

お問い合わせ：苫小牧商工会議所　地域振興部　℡0144-33-5454　Fax0144-32-6058

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－１３

「みんなの消費生活展」

第４５回「みんなの消費生活展」開催要領

（目　的）
消費者自らが、その時代に即応した豊かな暮らしを創造していく機会として、暮らしに役立つ知識や情報を提供し、消費者意識の高揚を図ることを目的に開催する。

（内　容）
消費者に密着したテーマを設定し情報提供する。
食品と食生活の安定と見直し、資源の再利用と省エネ、健康管理や防災知識の普及、産地特産品の活用など地域情報の紹介、消費者被害防止の啓発など暮らしを豊かにする情報の資料の配布や展示のほか、来場者参加型を取り入れ、消費者からの意見・情報の交流を図る。

（参加団体）
苫小牧消費者協会等とその賛助団体など

（参加資格）
消費者活動を行う団体及び消費者活動に関心を持ち、消費生活展の目的とテーマに沿った活動をする団体など

（開催期間）
平成３０年１１月１０日（土）　１０時００分から１５時００分まで
１１日（日）　１０時００分から１５時００分まで

（会　場）
苫小牧市民活動センター　多目的ホール及び市民ギャラリー

（テ ー マ）
「ともに築こう　豊かな消費社会　～誰一人取り残さない～」
（平成３０年度消費者庁の消費者月間統一テーマ）

（企画団体）
苫小牧消費者協会

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１１－１－②－（２）－１４

「胆振管内アウトメディアフォーラム」

教振第４４５３号
平成３０年１０月１６日

体験ブース出展団体　様

北海道教育庁胆振教育局長

胆振管内アウトメディアフォーラムについて（依頼）

日ごろから管内の教育振興につきまして、格別の御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、標記フォーラムを別添開催要項のとおり開催することとしました。

つきましては、時節柄何かと御多忙とは存じますが、体験ブースの運営に御協力いただくようお願いいたします。

記

１　日時
平成３０年１１月２３日（金・祝）１０：３０～１４：３０
【当日の日程】　９：３０～　９：４０　事前説明
９：４０～１０：２０　会場設営
１０：３０～１４：３０　体験ブース運営
１４：３０～　会場整収

２　場所
白老町中央公民館（白老町本町１丁目１番１号　電話番号0144－85－2020）

３　依頼内容
体験ブース運営

４　準備物品
ブース運営に必要な物品

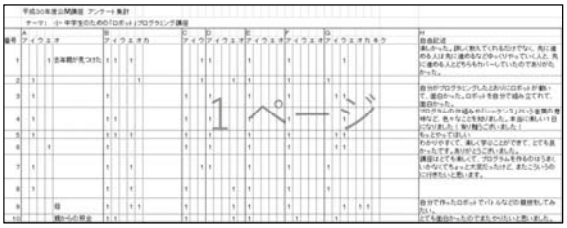
５　その他
・９：３０より、事前説明を行います。担当者１名が出席ください。
・体験ブースの広さは、４メートル×４メートルの予定です。これ以上の広さが必要な場合、事前にご連絡ください。
・昼食は各自で準備願います。ご了承ください。
（昼食時間の設定はありません。各団体の運営者で交替しながら、運営者専用の休憩室などで食事をとってください。）
・別添用紙に、必要事項を記入の上、１１月２日（金）までにFAXか郵送で御提出ください。

担　当：教育支援課主査（社会教育）井上
電　話：0143-24-9800（直通）　ＦＡＸ：0143-22-6950
E-mail：inoue.naoyo@pref.hokkaido.lg.jp

（出典　総務課資料）

資料１１－１－③－（１）－１

「公開講座アンケート集計」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１１－１－③－（１）－２

「出前授業アンケート集計」

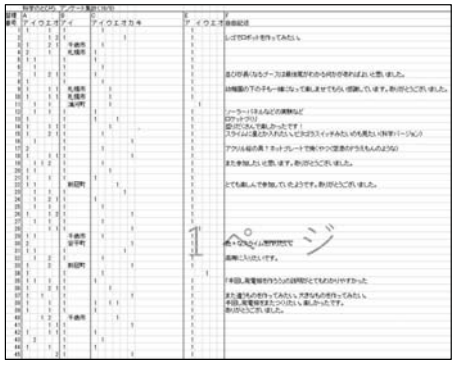


～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１１－１－③－（１）－３

「科学のとびらアンケート集計」



～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～（略）～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（出典　総務課資料）

資料１１－１－④－（１）－１

「イブニングセミナー開催結果」

平成３０年８月２９日
第３回地域共同研究センター委員会
報告　２　　資料　４

イブニングセミナー開催結果

１．日　時：７月２３日（月）～７月２７日（金）１９時～２０時３０分（実施期間：５日間）

２．場　所：ココトマ（苫小牧市表町５丁目１１番５号 ふれんどビル１階）

３．目　的：地域の人に本校の教員を知ってもらい，本校のプレゼンスを高める。

４．内　容：本校教員による講演

		参加者数
２３日（月）：山岡先生	「日本語の明日はどっちだ」	１２名（３名）
２４日（火）：林並先生	「衛星の自然と衛星観測」	１４名（－）
２５日（水）：佐々木先生	「現代の家族をめぐる法」	９名（－）
２６日（木）：長澤先生	「宇宙は何でできているか？」	１４名（－）
２７日（金）：多賀先生	「頭と身体を使って，Let’s脳トレ！」	１２名（－）

※　参加者数は本校職員を含む人数で，（　）は講演後の懇談会参加者数

※　参加費無料，定員制限なし

５．実施結果

・今回は中高生から一般の方まで参加可能とし，ココトマ側で学校前でのフライヤーの配布等をしてもらったが，中高生の参加者は１名のみであり，年配の方の参加がほとんどであった。

・カフェ及びラウンジ内では会場の案内等がなかったため，どこで講演が行われるのかがわからず，開始前に中高生が座って自習などをしており，席を代わってもらわなければならなかった。また，セミナー会場のすぐ近くに通常の自習スペース用の机が配置されており，部屋の物音が少し気になる時があったため，来年度もココトマで開催をするのであれば，開催期間中のラウンジ内での案内や開催場所についても事前に打ち合わせをした方が良いと感じた。

・今回は事前申込不要としていたが，参加状況が直前まで全くわからない（０かもしれない）という中で講演をしてもらうのは講師の先生に申し訳なく，また講演の内容も大人向けとするか中高生向けとするかの判断が出来ないため，来年度は事前申込制に戻した方が良いかもしれないと感じた。

（出典　2018 年度第３回地域共同研究センター委員会資料）

資料１１－１－④－（１）－２

「科学のとびら開催結果」

平成３０年１２月２５日
第５回地域共同研究センター委員会
報告　２　　資料　３

科学のとびら開催結果

１．日　時：平成３０年１０月８日（月・体育の日）１１時～１６時３０分

２．場　所：イオン苫小牧ショッピングセンター　１階セントラルコート
（苫小牧市柳町 3-1-23）

３．目　的：地域の小・中学生をはじめとする地域住民に対して，科学に触れる機会を提供し，その楽しさ，面白さを知ってもらう。理科離れが叫ばれる小・中学生の科学への興味を引き出すことを目的とする。また，本地域貢献を通して，地域社会での苫小牧高専のプレゼンスを高め，将来的な入学者の安定的確保への布石とすることも併せて目的とする。

４．内　容：
・各系等毎にブースを設け，３回（11:00-12:00，13:30-14:30，15:30-16:30）に分けて実施
・対応教職員１６名，学生１０名
（実施テーマ）
・レーザー加工でネームタグをつくろう（機械系）
・CD ホバークラフトを作ろう（都市・環境系）
・光るスライムを作ろう（応用化学・生物系）
・手回し発電機を作ろう（電気電子系）
・秘密の手紙をかいてみよう（情報科学・工学系）
・流れと遊ぶ（総合人文科学系・総合自然科学系）
・LED ペンライトを作ってみよう（技術教育支援センター）

５．実施結果
約３００名の来場があった。来場者は小学生（特に低学年で保護者同伴）が多かった。
来場者からのアンケートでは「楽しかった」「また来たい」と，大変好評をいただき，科学への興味を引き出す一助になったものと思われる。
一方で，並ばせ方に不満を持った方もいたため，次年度開催するにあたって考慮する必要がある。（人数に制限があると聞いていなかったのに並んでいたらできないと言われた。スズランテープ等で仕切るべき　等）

（出典　2018 年度第５回地域共同研究センター委員会資料）

第２部『外部評価』

令和元年度運営諮問会議資料等

令和元年度苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議日程等

Ⅰ．日　時

令和２年５月２６日（火）　～　６月３０日（火）

Ⅱ．議　題

(1) 苫小牧高専の近況について　・・・・・・・・・・・・・　資料１

(2) 昨年度の提言に関しての改善状況について　・・・・・・・・・・・・・　資料２

(3) 自己点検・評価の結果について　・・・・・・・・・・・・・　資料３

(4) その他

１．苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

稲　村　幸　男	苫小牧信用金庫業務推進部理事付主席営業推進役
金　谷　幸　弘	苫小牧市産業経済部長
北　　裕　幸	国立大学法人北海道大学大学院情報科学研究院長・教授
小　山　征　三	苫小牧市議会議員
佐　藤　郁　子	苫小牧駒澤大学 国際文化学部 キャリア創造学科 教授
前　田　勝　也	苫小牧市中学校長会副会長・苫小牧市立啓北中学校長
溝　口　光　男	国立大学法人室蘭工業大学理事・副学長

（五十音順）

議事(1) 苫小牧高専の近況について

【資料１】 苫小牧高専の近況について

苫小牧高専の近況について

高専機構の第４期中期計画（2019～2024 年度）

教育の高度化：モデルコアカリキュラム（MCC）/コンピューターを用いた教育評価（CBT）
海 外 展 開：モンゴル、タイ、ベトナムを中心に KOSEN モデルの展開
研　　究：高専連携による研究展開「Society5.0 型未来技術人財育成事業」－外部資金の獲得
そ　の　他：教育体制整備、情報セキュリティ人材育成、地域貢献、老朽化施設設備の改修

１．本校の動向

本校では現在、「協働」をキーワードとして運営を行っています。一学科制（創造工学科）への移行、苫小牧市役所・苫小牧商工会議所との連携協定、企業との協働教育などがその流れに沿っています。専門教育を大事にしながらも、専門の枠を超えた分野ともコミュニケーションが取れる幅広い視野を持った人財を育成することを目指しています。専攻科も、2021 年度より一専攻（創造工学専攻）への改組を予定しています。

２．協働教育に関する取組みの現状

２．１ 学内協働教育

専門の枠を超えた教員グループで創造工学（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）教育を行い、幅広い視野が工学には必要であることを体感できるようにしています。

２．２ 学外との協働教育

地域の方々（同窓会、協力会等）との協働の下、創造工学、ジョブトーク、企業人訪問、企業研究会などを通して、学生が地域・企業の現状や課題を見る目を養うようにしています。

さらに、苫小牧市役所および苫小牧商工会議所との連携協定を締結し人財育成をさらに深化させることを進めています。これらの連携がサテライトオフィス（C-base）の設置に繋がり、企業－行政－同窓会－学校が一体となって若い人財の育成を行う（協働教育）基盤ができ上りつつあります。今後これらのひとネットワークを進化させ、さらに深化した人財育成システムが構築できるよう教職員一同取り組んでいます。

また、北海道警察との連携協定を締結し、これからの情報化（IoT/AI）時代を見据えた情報セキュリティ人材育成にも取り組んでいます。

３．海外展開

特にモンゴル高専への支援に重点を置いています。タイ・カセサート大との MOU も締結しました。

今後の課題

☆教員削減対策：教育・習熟度別教育の在り方、相互乗り入れ教育及び共通科目の増大
☆運営費削減対策：WG で運営費配分構成の見直し、外部資金の獲得、非常勤講師経費の削減
☆働 き 方 改 革：授業負担、部活負担、校務負担、寮宿直負担の軽減
☆老朽化施設設備：図書館等改修（R1 年度補正）、ライフラインの大規模修繕、学生寮の改修

議事(2) 昨年度の提言に関しての改善状況について

【資料２】平成30年度運営諮問会議における各委員からの提言及び改善結果一覧

平成30年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧

	議題	提言者	内容	改善結果と今後の対応
1		佐藤	第４期に向けて高専としての教育の高度化、海外展開、研究、その他についての事例説明や報告により、重点を置き、強化する内容が具体的にわかりました。コミュニーケーション能力が求められる「協働教育」が情報化時代（IoT/AT）にあっても円滑な対人関係を構築する機会となるように期待します。苫高専生の個性を引き出す特色ある教育は、地域の企業との連携によりさらに育成され学生の目標達成につながると思います。	本校は高専機構が推進するサイバーセキュリティ人材育成事業の実践校となっており、北海道警察と包括連携協定を締結し、情報教育の高度化に取り組んでいます。また、ジェネリックスキル（コミュニケーション能力を含む）を身につけることができるよう、創造工学Ⅰ～Ⅲにおいて、PBL（課題解決型グループ学習）や協力会企業の協力を得ながら実施するキャリア教育を体系化して効果的に取り入れています。今後も時代の変化や社会の要請等に合わせたカリキュラムとなるよう検証・改善に取り組みます。 海外展開事業では、モンゴルの高専への支援を土木系及び化学系の教職員が、タイの高専への支援を情報系の教員がしております。今後も、出来る範囲ではありますが、継続して事業に取り組んでいきます。 研究活動を行っていく上で、外部資金の獲得は喫緊の課題となっております。2018年10月に開設した本校サテライト「C-base」や専攻科における共同教育等を通して地域企業等との連携を図りつつあります。また科研費等の外部資金の獲得の増加を目指した取り組みを行っていきます。 地域企業と実施しているPBL型協働教育は、今年度までは本科の授業科目「創造工学Ⅲ」の一部と専攻科1年生の授業科目「学外研修」で実施してきました。来年度は上記に加え、フロンティアコース５年生の「ビジネスⅢ」においても実施予定であり、地域企業連携型の特色ある教育を目指します。
2	苫小牧高専の近況について	勝	苫高専が、一昨年度から実施している「１学科５系」について、２年進級時に、学生が自分の希望する専門系に進めるかどうか、初年度は「８名が第２希望であとは希望どおり」、２年目は「10名強が第２希望」ということでした。このことから、基本的には高専が行っている仕組みを継続しながら、少し長い期間を経て状況を見ていくことが必要なんだろうと感じています。私事ではありますが、知り合いのお子さんが高専か普通科かで悩んでいたが、２年生になったときに希望の専門系にいけるか不安で普通科を受験した、と聞きました。子供の性格に左右される部分も大きいとは思いますが、中学生を預かる者としては、気になる話でした。	希望する専門系に行けるか不安で普通科を受験したということですが、工学系においては多くの大学でもコース制を取り入れています。例えば、室蘭工業大学の創造工学科は建築土木工学、機械ロボット工学、航空宇宙工学、電気電子工学の４つのコースに２年後期に分属します。つまり、高校に進学しても、今度は大学進学時に同じ不安を抱えることになります。今回頂戴しました事例は、入試説明会等でコース配属について説明する際の参考にさせていただきます。
3		稲村	協働をキーワードとして、一学科制への移行、苫小牧市・苫小牧商工会議所との連携協定、企業との協働教育など、時代の著しい流れの中、専門教育のほか、専門の枠を超えた、コミュニケーションが取れる幅広い視野を持った人財の育成を目指した教育を行っておりますが、学内・学外とも昨年以上に推し進めている状況であることがご説明の中でわかりました。先生方のご負担も多いかと思いますが、より良い方向に進むことをご期待いたします。	１学科に改組した創造工学科が完成年度を迎えました。一方、小中高の学習指導要領改定や大学入試制度改革等も踏まえて、来年度からカリキュラムの修正について検討を始めます。 来年度、フロンティアコースが始動して２年目となりコースの卒業生を輩出することになります。フロンティアコースでは「目指す人材像」を示しておりますがそれが達成できるように取り組みます。
4		小山	・研究において外部資金獲得は難しい課題です。研究が採択される可能性があるとすれば、地域課題とマッチングした研究ではないでしょうか。例えば、都市計画では駅前再整備計画や中央IC開通に伴うまちづくり等々。防災対策では津波浸水予測による避難行動や地震減災対策など関心が高く現実的な研究です。もっとマスコミを使い、研究テーマを自治体や企業、市民に関心を持たせていくことが必要です。今後の取組みに期待します。 ・各種行事の中で出前授業が上げられていました。対象者や具体的なメニューが分かりませんので、市民向けの授業や講座であれば公表していくべきと思います。	外部資金獲得に関するコメント、ありがとうございます。2018年10月に開設した本校サテライト「C-base」や専攻科における共同教育等を通して地域との連携を図りつつあります。本校には土木系以外にも機械，化学，電気，情報系に加え、様々な文系・理系分野の教員がおります。これら多分野の教員を活かした取り組みも行っていきます。アウトリーチ活動に関しましては、より地域の方々に研究テーマが伝わるように、マスコミの有効活用を検討していきます。 本校ホームページや新聞等を介して、市民向けの授業や公開講座等の情報発信を積極的に行っていきます。

平成30年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧

	議題	提言者	内容	改善結果と今後の対応
5	昨年度の提言に関しての改善状況について	佐藤	「フロンティアコース」の特徴となる「専門とビジネスの複合融合」を実践する科目の検討・配置はわかりましたが、「協働教育」によって具体的に研究がなされ、高専ベンチャーの育成につながるカリキュラムを設計されることも必要かと考えました。国際交流活動はグローバルな視点を持つ学生の育成に効果が期待される海外展開の重要項目であり、現在はアジア諸国間の教員・学生交流が中心ですが、将来的には学生の声を聞きながら他の国・地域にも発展することに期待します。	フロンティアコースの「目指す人材像」の一つに「次世代起業人財の育成」を掲げております。その目標を達成できるように授業内容を工夫していきます。 本校学生の海外派遣の機会を増すために、本年度から室蘭工業大学とそれぞれが展開している海外派遣事業の相互乗り入れが出来るようにしました。また、次年度から本校の1・2年生を対象とした海外派遣事業を開始して、低学年からグローバルな視点を持つ学生の育成に取り組みます。これまで実施してきているニュージーランドEITへの派遣事業および香港Thei・タイカセサート大学との学生派遣および学生受入の事業は継続して実施していきます。
6		勝	苫高専が５年後10年後、社会に貢献する人材育成を目指して学校づくりをしていこうという意思を感じ取ることができました。ただ、やろうとしている内容が盛りだくさんすぎて、限られた教職員数でこれだけの量をこなしていけるのだろうかと心配になりました。人員が削減される中、当然のことながら先生方の負担は増えていくことが想像できますし、健康面は大丈夫だろうか、と正直思っています。その点、十分にご留意されながら進めていただければと考えます。	教員削減をしつつ、種々の事業を展開するために、ICT活用や他の教育機関との連携等を促進すべきと考えております。海外交流は「学生の派遣と受入」が対になりますので、安易に提携校を増やすと学生受入で負担増となります。そこで、本校と室蘭工業大学がそれぞれ展開している海外派遣事業の相互乗り入れが出来るようにし、派遣先の拡大を図りつつ、受入の負担増を避けるようなシステムを構築しました。
7		稲村	特にございません。	
8		小山	特にありません。	
9		佐藤	平成30年度採択された「”とまなか”で実施するハイブリット型イノベーション人材の育成」は、人材育成が地域への貢献に密着すること、UIターン者の増加などの現状に対して、産業・経済界が苫高専に求める「新産業を牽引する人材育成」への教育力だと思います。サテライト「C-base」の開設と共同教育（PBL）で苫高専力を迅速に周知することを期待します。	2018年10月に開設した本校サテライト「C-base」は、苫小牧市、苫小牧商工会議所やその他の中小企業支援機関の協力をいただきながら運営しております。C-baseが中小企業の相談窓口だけではなく、協働教育や共同研究へ繋がるように努力するとともに、同窓会「樽前会」や苫小牧市と連携しながらUIターン者の増加を目指します。
10	″KOSEN（高専）4.0″イニシアティブ事業について（フロンティア研究、C-baseの取り組み等）	勝	「地域への貢献」を主として「地域の新産業を牽引する人材育成」という明確な目的を持ち、事業を進めていこうという熱意に敬意を表します。特に、「共同研究」「共同教育」を通しての地域貢献ということで、地域企業のニーズ（何を求めているのか）や苫高専（学生）は何ができるのか、どんな研究をしているのかなど、表面的な繋がりではなく、お互いに本音の語り合いをしていく中で、「貢献」の具体的内容が見えてくるのではないかと思います。	地域企業のニーズの把握はとても難しいと感じております。経営者自身が現状の業務で精一杯であったり、ある程度満足しているような場合、ニーズ自体が潜在化してしまいます。当然、本校だけではこれに対処できものではありませんので、地域の中小企業支援機関とともに「貢献」できるようにしていきます。なおこの一環として、苫小牧市や金融機関等で構成する「ものづくり企業活性化チーム　学･官･金　-　道央圏（略称；ＧＫＫ）」の活動に参加していますが、今後も継続していくとともに、企業からの課題があれば「協働教育」や「共同研究」につなげていきます。
11		稲村	地域への貢献・地域の新産業を牽引する人材育成を目的として、高専サテライトの設置（経済センター）・各機関や企業と共に共同研究の推進と教育プログラムの開発を昨年スタートしましたが、これからの時代、より複雑・困難な時代を切り開き、地域の活性化に貢献し、そして、新起業家が生まれるよう期待いたします。	地域の中小企業支援機関との連携を深めながら「C-base」の運営を継続的に実施し、フロンティアコースの「目指す人材像」の一つである「次世代起業人財の育成」を進めていきます。
12		小山	「C-base」を市中心部に開設したことで苫高専の認知度は高くなります。苫小牧市は工業都市なので、今後、積極的に企業の要望に応える共同研究等になることを期待します。	「C-base」の機能を発揮しながら、地域の中小企業支援機関との連携を深め、地域企業ニーズに合致するような共同研究等になるように取り組みます。

平成30年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧

	議題	提言者	内容	改善結果と今後の対応
13	教育の高度化・質保証について（モデルコアカリキュラムによる質保証を中心に）	佐藤	高度化・質保証される教育が、平成30年4月から全国高専に導入されたモデルコアカリキュラム(MCC)だと理解しました。カリキュラム構成、到達レベルの設定・目標、Webシラバス管理など平成22年からの議論を経てのプログラムですが、画一的な教育だけではなく特徴ある教育を取り入れることも大事だと感じました。「苫小牧高専の現状と課題」にも提示されているように各環境に適した教育の実践を望みます。ルーブリックによる評価の増加に伴い教育環境も変わるかもしれませんが、KOREDAを核とした支援に期待します。	MCCは全体の6～7割で、残りの3～4割は各高専の特色を活かす内容になります。本校の場合、低学年では創造工学Ⅰ～Ⅲ、高学年ではプレ卒研の他、専門選択科目（ビジネス科目を含む）等を設置しています。今後は、ルーブリックを用いた実験スキル評価を取り入れる等の教育改善を図っていきます。
14		勝	何をやるにしても、子どもの姿が見える取組であってほしいと思います。MCCにより、教育の質の保証をしていきながら、子どもたち自身がこんな力をつけたい、こんな人になりたいという明確な目的を持っているかどうかも重要なことのように感じています。どの世代であれ、学ぶことが楽しければそこには喜びがあり、笑顔があります。全国どの高専を卒業しても教育の質が保証されてはいるがみんな同じ、には決してなりませんように。苫高専にはこんないいところすごいところがあり、苫高専卒は一目でわかる、苫高専の卒業生であることを誇りに思う子どもたちを育てていただきたいと願っています。そのことが地域への貢献につながると確信しています。	高専教育の質保証においては、教員が何を教えたかではなく、学生が何を学んだかという観点を重要視しています。学びの実質化を意識し、学生の自己評価が高くなるよう、引き続き教育改善に取り組んで参ります。
15		稲村	新しい時代の技術を担う人材育成について、質保証し評価していく面は、非常に評価できるものであると思います。ただ、一方で画一的に高専の学生さんが出る可能性もある。特徴・特技等多彩な才能等、多様性の人材を育てる必要もある。一般社会との連携等も強化し、外部講師等も招聘し、教育態勢も一部考えて頂ければと思います。今後により一層ご期待申し上げます。	協力会等と連携し、企業のエンジニア等を招聘したキャリア教育やPBL（課題解決型授業）を実施しています。専攻科で実施していた企業技術者との共同教育については、フロンティアコースの第5学年にも取り入れることとしています。
16	教育の高度化・質保証について（モデルコアカリキュラムによる質保証を中心に）	小山	質保証の取り組みは、高く評価します。今後、社会に出てからより、ある程度のコミュニケーション能力や課題発見能力を身につけることで即戦力となります。しかし、教員の働き方改革に反し、過重な負担とならないか心配です。コミュニケーション能力を向上させるためには、相手に対して聞き上手になることです。実際の会話の中で、質問力を身につけることが課題発見能力も身につき、会話や雑談だけでなく、相手と心の通じた形で信頼関係を構築していくことができます。外部講師などを招いて、より実践的な取組としなければ教員の負担が大きくなります。今後の取組みに期待します。	教員の働き方改革についてご配慮いただきありがとうございます。外部講師招聘については、調整等の業務が通常授業以上に教員の負担となる場合もありますが、今後も教育効果を確認しながら導入していきます。
17	その他	佐藤	「（1）苫小牧高専の近況について」の今後の課題でも検討中のように、教育と研究の展開としての「教育の充実と外部資金獲得（科研費など）」が働き方改革を考慮しながら実現されることに期待します。	働き方改革にも配慮していただき、どうもありがとうございます。外部資金の獲得は、高専においても学校の運営を行っていく上で重要な課題となっております。また、科研費を獲得し最新の研究を行っていくことは、本校のような技術・科学系の学校において授業を行っていく上で非常に有益です。申請率増加を目指した学内での取り組みより、ここ５年間で増減はあるものの、申請率，採択率，交付決定額とも増加傾向にあります。今後は採択率ならびに交付額増加を目指した取り組みを行っていきます。併せて、若手教員向けのサポートも取り組んでいきます。
18		勝	特にございませんが、ご自愛くださいますよう。	
19		稲村	・海外との連携等を進めて、多数の交換留学を行われていますが、学生さんの「声」「希望」等をより一層取り入れていただければと思います。 ・教員削減対策、運営費削減、働き方改革等先生方一人一人の負担が増加傾向にあります。良い仕事（教育）をするのも「健康＝身体・精神」が必要です。健康面に十分に配慮してください。	現時点では、ニュージーランド・香港・タイの大学等と交流提携しています。安易に提携校を拡大すると「学生の受入」数も増えて負担増となる可能性もあります。そこで、本年度、室蘭工業大学と互いに展開している海外派遣事業の相互乗り入れを出来るようにしました。これにより、受入の負担増を避け、欧米等への派遣機会も増やしました。 種々の事業を展開するためには、教職員が健康でいてこそ出来るものです。特定の教職員に仕事が集中しないように気を配るとともに、ICT活用や合同授業・能力別授業などを展開するなど、働き方改革を進めていくように学校全体で努力致します。
20		小山	特にありません。	

議事(3)自己点検・評価の結果について

【資料３】自己点検・評価の結果・・・・・第１部と資料重複のため添付省略

令和元年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧

	議題	提言者	内容	改善結果と今後の対応
1	苫小牧高専の近況について	稲村	高専機構の第４期中期計画に沿って、教育の高度化・海外展開・研究等活動を積極的に行っていることが、書面を拝察いたしまして理解いたしました。 「協働」をキーワードとして一学科制への移行、苫小牧市役所・苫小牧商工会議所との連携協定等、幅広い視野を持った人材育成を行っていることが、貴高専の活動状況からも理解できました。	
2		前田	苫高専が取り入れている1学科5系について、実施して4年が経過し、受験する子どもたちも保護者も、ある程度このシステムを理解していると思います。子どもたちが入学してからの1年間、高専の授業を受ける中で自分の適性を知り、自分のやりたいことを見つけ決めていくスタイルは、浸透しつつあるという印象を受けています。 変化の激しい時代に、やりたいこと目指したいことをひとつに絞り込んでしまうのではなく、幅広い知識や技能、様々な対応力を身につけることが必要になると中学生を預かる者として改めて感じています。過去の提言一覧にも今後の対応として載っていましたが、今年度も苫小牧高専の教育について、入試説明会等での丁寧な説明を是非お願いいたします。	
3		溝口	まず始めに、貴高専が、教育の高度化、海外展開、研究、その他に真摯に取り組まれていることに敬意を表します。 資料１の「高専機構の第４期中期計画」は、高専機構の計画で貴高専の中期計画も同じと考えて良いでしょうか。 この中期計画と「本校の動向」「協働教育に関する取り組みの現状」を比べてみると、「教育の高度化」のところでは「CBT」について、「海外展開」では「ベトナム」について、「研究」では「高専連携による」について、触れられておらず、今後の課題のところにもないように思います。貴高専は、「学内協働教育」と「学外との協働教育」に取り組んでおり、実績を積んでおられますので、中期計画については順調であるという理解でよろしいですか。	
4		小山	協働教育に関する取組みの現状は、十分に理解できましたが、５年間実践的な技術教育を受けてきた卒業者の進路状況を知りたいところです。専攻科進学や大学編入なども増えているなか「即戦力」として就職している学生がどれだけいるのか、その割合を具体的に教えて下さい。 苫小牧市の総合戦略では「地元企業と学生との〝つながり”を強化し、地元雇用の確保・拡大を実現」を掲げています。しかし、現実には人口減少、少子・高齢化とともに若年層が減少しているなか、ものづくり産業である市内の企業では、技術者の確保が厳しくなっています。何とか地元企業を知り、興味を持つ機会を設け、地元雇用につなげていただきたいと思います。	
5		佐藤	高専機構の第４期中期計画として「教育の高度化」「海外展開」「研究」「その他」の内容がわかりました。学内外との「協働」運営に重点を置き、連携協定などに沿った教育による人材教育強化の機会となるように期待します。 2021年度予定の専攻科改組によりさらに特色ある苫高専教育が充実し、地域の行政・企業などとの多様な「協働」の提供も期待します。	
6		北	新学科の学年進行に合わせて、モデルコアカリキュラム（MCC）に準拠したカリキュラムの設計及び到達目標の設定等が適切に実施されています。一方でMCCを内包しつつも、苫小牧高専の特色や独自性が見えるようなカリキュラムを構築していくことも重要と考えられます。その意味からも、「協働教育」を一つの重要なキーワードとした新しい教育カリキュラムを展開しようとしている点は大いに評価できます。この取り組みをベースとして、地域の産業・行政等と強固な連携を図り、産官学の共同研究等へ展開できれば、教育研究システムの自立化につながっていくものと期待できます。 また、海外展開についても、モンゴル、タイ、ベトナムを中心として精力的に実施されており、この点は苫小牧高専の特色として大いに評価できます。今後は、こうした国際交流の実績を、学生に対する国際性の涵養にどのようにつなげていくかが求められ、さらなる工夫を期待したい。	
7		金谷	本市と締結した「連携及び協力に関する協定」をもとに、サテライトオフィス「Ｃ－ｂａｓｅ」では、コーディネータの方々が、積極的に市内企業の支援に当たり、多様な課題に対応していただいています。今後についても市内企業との共同研究などを更に発展させ、優秀な人材の育成、更には、市内就職や将来のＵＩターンに繋げていただけるような取組についても期待しております。	

令和元年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧

	議題	提言者	内容	改善結果と今後の対応
8	昨年度の提言に関しての改善状況について	稲村	特にございません。	
9		前田	「コロナの時代」に生き抜く子どもたちを育てる学校として、ICTの活用により多様な関係機関とも瞬時につながることが出来るシステム作りをさらに強化していく必要があると思います。苫高専はこういったネットワークを考え、進化させていく方向性を打ち出しており、幅広い視野を持ち社会に貢献する人材を育成していくことに期待しております。	
10		溝口	昨年度、運営諮問会議を欠席させていただいており、私の提言はないのですが、皆さまのご提言に対する、「改善結果と今後の対応」のところの記載通り、取り組んでいただければよいと思います。	
11		小山	２０１８年１０月から開設した本校サテライト「C-base」が積極的に企業の要望に応える共同研究等となっているか、毎年の活動状況を分析していく必要があります。	
12		佐藤	サイバーセキュリティー人材育成事業の実践校として、北海道警察との包括連携協定の締結、ジェネックスキル習得のためのPBL学習や協力会企業でのキャリア教育などの円滑な対人関係による情報教育の高度化などへの具体的な取り組み内容がよくわかりました。また、ルーブリックを用いた実験スキル評価への教育改善など変化への積極的対応が感じられました。 「働き方改革」と「教育と研究」とのバランスが整い、質保証のある苫高専教育が実践されることを願います。	
13		北	昨年度の提言では、学外との協働教育に基づく共同研究等を通して、外部資金を獲得することが重要であるという提言が多かったかと思います。その意味で、今年度、高専連携による研究展開「Society 5.0型未来技術人材育成事業」により、外部資金を獲得された点は評価できます。 また、苫小牧高専の様々な取り組みが、決して一方的なものではなく、「学生の声を聞きながら」、「子どもの姿が見える取り組み」、「地域企業が何を求めているのか」といった、常に学生や社会のニーズに組み入れた双方向の取り組みであってほしいという声も多かったかと思います。今後は、学生や企業等へのアンケート調査等に基づき、具体的な検討を行うことも重要であると考えます。	
14		金谷	「Ｃ－ｂａｓｅ」の取組について、地域の中小企業支援機関との連携を深めながら、地域企業の支援を実施していただいております。「Ｃ－ｂａｓｅ」の実績も出ていますので、そのＰＲを行うとともに、引き続き、技術経営相談を起点として、課題把握やニーズに応じた各種企業支援を取り組んで地域との連携に努めていただきたいと思います。	
15		稲村	自己点検および評価項目基準１１に対して、各項目基準とも、よく行われていると思います。改善を要する点についても掲げられており、今後に期待いたします。 但し、教職員の皆様自身多忙を窮め、自身の研究の時間等が不足しているのではないかと危惧する面が見受けられます。働き改革を考えるならば、効率的な業務・事務を、行っていく必要があるように感じております。 また、公開講座・出前授業など生涯学習関連業務は、教職員の多大な業務負担になっているようであり、地域貢献活動としてのあり方も、見直しすることが必要であります。今後の改善を期待いたします。	
16		前田	苫高専が取り組まれてきた実践が、その成果とともに多岐にわたり細やかに検証されているのを知ることが出来ました。また、評価の視点、観点も明確で、大変わかりやすい様式、構成となっています。検証の体制がしっかり整っているのを感じました。 評価及び検証結果が次年度計画に反映されて、苫小牧高専における教育の質の向上等が図られるよう期待いたします。	
17		溝口	自己点検・評価、お疲れ様でございました。 基準1～11まで、自己点検・評価の結果について問題ないと思います。	
18		小山	自己点検・評価の結果において、「基準１　教育内部質保証システム」から「基準１１　地域貢献活動等の状況」が示され、その	
19		佐藤	「基準１」～「基準11」に対して、各基準についての「基準に対する統括と評価」「優れた点」「改善を要する点」への詳細な記	

令和元年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧

	議題	提言者	内容	改善結果と今後の対応
20	自己点検・評価の結果について	北	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構における高等専門学校機関別認証評価自己 評価実施要項に基づいて適切に自己点検・評価が行われているものと拝察します。このうち、「改善を要する点」として、自らが挙げている項目については、至急、対応していただくよう要望します。特に、学生、保護者等に対するアンケートについては、平成28年度から1学科5系制に改組されたことを鑑みると、新組織の点検・評価を定期的に実施することが望ましいと考えます。また、前回の期間別認証評価やJABEEから指摘された改善を要する点については非常に重要な指摘であり、毎年、それらの改善状況をチェックする仕組みが必要ではないかと思います。 また、モデルカリキュラムに準拠したカリキュラム設定、Webシラバスによる管理、達成度評価の統一化等により、高専機構共通の教育の質保証が実現されている点について、あまり言及されていないように見受けられます。せっかくの良い取り組みですので積極的にPRしてはいかがでしょうか。併せて、KOSEN（高専）4.0イニシアティブ事業のような、苫小牧高専としての特徴、独自性を考慮した人材育成に対する取り組みにも言及してはどうでしょうか。 今後、ポストコロナ、ウィズコロナの社会を考えるとICTによる教育環境をさらに充実させることが不可欠となります。学生や教職員へのアンケート等を通して、オンライン教育等への対応や満足度を至急チェックする必要があると考えます。 準学士課程の学習・教育の成果について、就職先である企業に対してアンケートを取り意見聴取を行っていますが、大学等への編入学先にもアンケートを取っていただくとよいかと思います。大学における高専編入生の評価は非常に高いものがあります。	
21		金谷	（観点4-2-④　外部の教育資源の積極的な活用について）「苫小牧高専地域連携シンポジウム」において、教育研究活動及び産学連携活動の発展に繋げるため、地域・社会に向けて高専さんが取り組む活動の発表や報告を行うなど、外部の教育資源をうまく活用されていると感じています。今後も地域企業との連携強化のため継続して行って欲しいと思います。	
22		稲村	提言ではありませんが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教育現場においても、色々な面においてご苦労があろうかと思いますが、この状況を乗り越えましょう。	
23		前田	人、もの、金、情報等を有機的に機能させ、「協働」をキーワードに専門分野の枠を超えて活躍する人材を育成され、かつ苫小牧高専が全国高専の先頭を走る存在であり続けることをご期待申し上げます。	
24		溝口	特にございません。	
25		小山	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、休校、その後の札幌圏との往来自粛等が求められたことから様々な対応に苦慮されたことと思います。現状では、感染防止対策のため緊急対応、今後の備えなど厳しい状況にあるなかで、授業の遅れなどを取り戻すための対策としてオンラインによる遠隔授業などをどのように進められるのか教えて下さい。また、学校再開によって増加する教職員の負担と感染リスクを軽減できるような対応を期待いたします。	
26	その他	佐藤	変化する教育の質への対応と理解できますが、教育と研究の展開としての「教育の充実と外部資金獲得（科研費など）」、「教員の人材教育」などが求められますが、働き方改革を考慮しながら実現されることに期待します。	

令和元年度運営諮問会議における各委員からの提言一覧

	議題	提言者	内容	改善結果と今後の対応
27		北	いま我が国では、ありとあらゆる分野・産業が、超スマート化の方向へと進化しつつあります。すなわち、現実の世界（フィジカル空間）にある情報がディジタル化・ネットワークを通じて自由にやり取りされる「IoT」の時代となり、その膨大な情報（ビッグデータ）を分析して様々な知識を抽出し、それをフィジカル空間にフィードバックすることによって、新たな価値を産業や社会にもたらそうとする試みが現実のものとなってきています。従って、これまで実現不可能と言われていた社会が実現可能になり、技術の進展を踏まえて産業構造あるいは就業構造が大きく変わっていく時代を迎えつつあります。こうした、いわゆるSociety 5.0、第4次産業革命の動向を見据え、カリキュラムの改善を図っていくことも重要と考えています。北海道大学の数理・データサイエンス教育センターなどの活用も視野に入れていただければと思います。	
28		金谷	新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業や分散登校など行っている状況で教員の皆さんも大変な御苦労があると思いますが、学生のために御尽力いただきましてありがとうございます。	

苫小牧工業高等専門学校の点検・評価等に関する規則

規則第75号
制　　定　平成21年４月１日
一部改正　平成28年３月16日

（趣旨）

第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究水準の向上を図り，かつ，本校の目的及び社会的使命を達成するため，本校における教育研究活動等の状況について行う点検・評価等について必要な事項を定める。

（定義）

第２条　この規定において「点検・評価等」とは，次の各号に掲げる事項をいう。

一　学校教育法第123条により準用される第109条第１項に定める自己点検及び評価

二　学校教育法第123条により準用される第109条第２項に定める機関別認証評価受審のための点検及び評価

三　本校が教育研究水準の向上のため自ら受審する認定審査等受審のための点検及び評価

四　本校運営諮問会議の開催のための点検及び評価

五　その他校長が必要と認めた事項に関する点検及び評価

（実施組織）

第３条　点検・評価等の総括は運営委員会が行う。

２　点検・評価等を行う組織は，次のとおりとする。

一　創造工学科及び専攻科

二　事務部及び技術教育支援センター

三　委員会等

四　その他運営委員会が指定する組織等

（実施事項等）

第４条　第２条第一号，第四号及び第五号における点検・評価等は，運営委員会が別に定める事項について実施する。

２　第２条第二号及び第三号における点検・評価等は，認証評価機関及び審査機関の定める事項について実施する。

３　点検・評価等の実施に必要な手順及び方法等は運営委員会が別に定める。

附　則

１　自己点検・評価等実施に関する運営委員会申合せ（平成19年４月１日実施）は廃止する。

２　この規則は，平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成28年４月１日から施行する。

苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議規則

規則第57号
制　　定　平成17年10月13日
一部改正　平成17年10月13日
一部改正　平成19年４月１日

（趣旨）

第１条　苫小牧工業高等専門学校（以下「本校」という。）の運営体制及び教育研究活動の充実・発展を図るために，広く学外者の意見を聴くための組織として，苫小牧工業高等専門学校運営諮問会議（以下「運営諮問会議」という。）を置く。

（任務）

第２条　運営諮問会議は，次に掲げる事項について，校長の諮問に応じて審議し，及び校長に対して助言又は勧告を行うものとする。

一　本校の運営に関する重要事項
二　本校の教育研究活動に関すること
三　本校の学生生活に関すること
四　本校と地域社会及び産業界との連携に関すること
五　その他校長が必要と認めた事項

（組織）

第３条　運営諮問会議は，次の各号に掲げる者のうちから，校長が委嘱した委員をもって組織する。

一　大学等高等教育機関の関係者
二　本校の所在する地域の教育関係者
三　本校の所在する地方自治体の関係者
四　本校の所在する地域社会及び産業界の関係者
五　本校の卒業者又は修了者
六　その他校長が必要と認めた者

（議長）

第４条　運営諮問会議の議長は，委員の互選により選出する。

２　議長は，運営諮問会議の会務を総理する。

３　議長に事故あるときは，あらかじめ議長の指名した委員がその職務を代行する。

（任期）

第５条　委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。

２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（運営）

第６条　運営諮問会議は，校長が招集する。
２　運営諮問会議は,必要に応じて関係者の出席を求め,その意見を聴くことができる。

（庶務）
第７条　運営諮問会議の事務は，総務課において処理する。

（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか，運営諮問会議の運営に関し必要な事項は，運営諮問会議が別に定める。

附　則
１　この規則は，平成 17 年 10 月 13 日から施行する。
２　この規則の施行後，最初に委嘱される委員の任期は，第５条第１項の規定にかかわらず，平成 19 年３月 31 日までとする。
３　苫小牧工業高等専門学校外部評価実施要項（平成 16 年 12 月８日施行）は，廃止する。

附　則
この規則は，平成 17 年 10 月 13 日から施行する。

附　則
この規則は，平成 19 年４月１日から施行する。

自己点検・評価報告書

令和２年１０月
苫小牧工業高等専門学校
〒０５９－１２７５
苫小牧市字錦岡４４３番地

TEL　０１４４－６７－８９０１
FAX　０１４４－６７－０８１４
MAIL　kikaku@tomakomai-ct.ac.jp